

ことネットの軌跡
社会科学としてことわざ研究



撮影背景：中里隆氏／御顔撮影：柴田耕一郎氏

NPO 法人郷土のことわざネットワーク・ことネット

2023年9月10日

2022年7月20日に旅立たれた
穴田義孝先生に捧ぐ



【穴田義孝理事長の略歴】

1946年7月東京都文京区生まれ
明治大学政治経済学部卒業
明治大学大学院政治経済学研究科修士課程修了
東洋大学大学院社会学研究科博士課程単位修得満期退学
札幌大学教養部専任講師、助教授を経て、
1983年から明治大学政治経済学部助教授を経て教授
2017年3月退職、政治学博士
「ことわざ社会心理学」提唱

はじめに

中尾 暢見

穴田義孝理事長は、2022年7月20日に旅立たれた。7月16日に76歳のお誕生日を迎えたばかりであった。若くして明治大学の教授職に就任され、社会で活躍する多くの優秀な社会人を輩出してきた。受け売り指示待ち型タイプの人間を嫌い、自ら情報収集をして分析のうえ判断を下し、能動的に行動をして切り拓いていくタイプの人材育成に力を注いでおられたようにお見受けする。穴田ゼミ出身者と関係者は独創的で他者への配慮気遣いに富み輝いている方々ばかりである。

穴田理事長の訃報は衝撃波のごとく波及した。コロナ禍のためご葬儀は近親者のみで執り行われたが、御家族様のご厚意で個別に面会してお別れの機会を頂くことができた。生前と変わらぬ穏やかでお優しい表情をされていた。「私も穴田先生にお目にかかることができました」と遠方から駆けつけて下さった方々からもお伺いすることができた。皆さまは異口同音に、追悼集会、忍ぶ会、追悼文集、追悼論文集なりで気持ちを形にして残そうという提案が寄せられた。そこで、僭越ながらNPOことネットにて穴田理事長の連絡調整担当をさせて頂いてきた私が窓口となり追悼文集をとりまとめさせて頂くことにした。

パイオニアが集まる集団にあっては「前例がない」は耳慣れたことばである。「だから何だ、私が前例第1号だ」と何度も笑って話したことは楽しい記憶である。馬鹿と天才紙一重と言うが、先駆的な行動をする人に対して「あの人は変な人だ」と決めつけ排除して封殺するのか、あるいは協力やサポートをして共に未来を開拓していくのかは、周囲の人次第である。G.H.ミード、R.K.マートンが力説した研究成果はそのことを伝えている。

社会心理学者である穴田理事長は、これまで誰もやってこなかったこと、無理だと一蹴されてきた社会科学としてのことわざ研究という研究領域の樹立に傾注してこられた。ことば／ことわざを分析データとして量的分析と質的分析とを行い可視化することで科学的な分析が可能であると考えてこられた。この研究は、すでに山梨県北都留郡小菅村調査において実証研究済である。

次なる段階で穴田理事長は、科学的な研究手法をふまえたかつてない「ことわざ教科書」を作成するための準備に入っておられた。その計画は、NPOことネットの会合でも折に触れて紹介されており、メンバー間で共有されたきた。しかし、2019年度後半からのコロナ騒動により、フィールドワークに出られな

くなったこと、穴田理事長の体調が優れなくなったことなどが相まって、調査も研究成果も留保状態が続いていたまま、ことわざ教科書は未完のままとなった。穴田理事長は常々80歳までの研究計画を立てておられた。退職後はことわざ研究、NPO ことネット活動に専念したいと仰っていた。76歳での旅立ちは心残りが多かったであろうことが拝察できる。

そこでことわざ教科書については、穴田理事長の愛弟子であり穴田理事長が最も信頼を寄せている同じ社会心理学者である川島洋理事に作成して頂くようお願いをした。川島理事以外に書ける方は存在しないため、全身全霊を込めての相談であったがご快諾を頂けた。第4章部分である。章タイトル部分は穴田理事長との連名としてご寄稿頂いた。内容を拝読させて頂くと分かるように川島理事が穴田理事長の御意向に耳を傾けながら協働で完成されたことがわかる。もちろん川島理事が執筆されたことは事実であるが、穴田理事長の伝えようとしていた内容が見事に伝えられている。

もう1つ穴田理事長が次企画で実施しようとしていた計画は、穴田ゼミとNPO ことネット関係者の方々にコラムを御起筆頂くことであった。今を生きる世代のことばを記録として残そうとされたいたのだ。生きて居る時代、生活環境によって見える世界観が異なる、当然、使うことばも異なってくる。そのため過去の記録収集だけではなく、生きている人々のことば／ことわざも記録に残したかったのである。穴田理事長がお元気でおられたら、明治大学で創作ことわざ講座をレクチャーしたうえで、皆さまに創作ことわざを作成して頂き、それを時代の記録として蓄積されて歴史遺産にされたことであろう。穴田理事長によるレクチャーは叶わなかったが、穴田理事長への追悼コラムにかえて気持ちを書き残すことが、ご寄稿頂いた方々のご厚意により叶っている。

追悼文集を作成するにあたり、NPO ことネットの軌跡をまとめてみると、穴田理事長が取り組んでこられた軌跡を調査活動、講演活動、出版活動を通して確認をすることができている。

何よりの遺産としての宝物は、築き上げてきた信頼関係と心のこもった交流であろう。形として確認できるようにした遺産として巻末に穴田理事長が長い年月をかけて日本全国から収集したことわざリストを皆さまへ贈る。

ガチガチの論文集ではなく、ユルユルな感想文でもなく、絶妙なバランスで繰り広げられる穴田理事長世界観をオーケストラのごとく醸し出すこの文集のスタイルは前例がないことであり、そう言われることに穴田理事長は目を細めて微笑んでおられることであろう。穴田理事長のテイストを楽しんで頂けることが何よりの供養になるを確信している（合掌）。

目 次

はじめに	中尾暢見	2
目次	中尾暢見	4
第1章 ことネットのあゆみ	中尾暢見	7
1. ことネットの発足と理事長の価値観		7
2. ことネット関連の図書		8
3. リバティアカデミー講座		10
4. ことわざ講座		22
5. 研究報告と講演会		26
6. パーティ		28
第2章 リバティアカデミー講座	31	
1. 2018年度春期「ことわざ民俗学の構想—ことわざが明らかにする 様々な民俗の本質と社会の特色—」〔立柳聡〕		32
2. 2018年度秋期「しまでうまれることわざには生き抜く知恵がある —伝承される知恵、創造されることわざ—」〔山田千香子〕		40
3. 2019年度春期「‘商い’におけることわざ」〔中畑充弘〕		52
4. 2019年度秋期「商いにおける「信用」をめぐることわざ」〔中畑充弘〕		58
5. 2022年度春期「ドイツの食文化とことわざ」〔藤村美織〕		61
6. 2022年度春期「今に生きる病とことわざ」〔大田朋子〕		75
第3章 ことわざ市民講座—千葉県市原市の紹介	川島洋	78
—ことわざ社会心理学第4回ことわざ創りの実践とその可能—		
1. はじめに		79
2. 郷土カルタ		79
3. ことわざ創り、意見・態度調査法		80
4. 「もじりことわざ」による意識調査		80
5. ことわざを用いた調査の長所について		81
6. 数値データとことわざ(川柳)データの違い		81
7. ピックアップ効果		82
8. 血液型性格診断や占いを信じてしまう心理的作用		82
9. ことわざを創ってみませんか?		83

第4章 ことわざ教科書	穴田義孝、川島洋	85
1. ことわざ概念の再検討		86
2. 「ことわざ社会心理学」とは		89
3. 既成の(伝承・古典的)ことわざ		92
4. 創作(現代の)ことわざ		113
5. 「創作ことわざ」を用いた研究事例		121
6. 郷土(地方・故郷)のことわざ		146
7. 暮らしの中に息づく「郷土のことわざ」 —「想いでのことわざ・エピソード」記述のすゝめ☆—		160
8. 「郷土のことわざ」テキストとコンテキストの問題		167
第5章 理論と実証との融合	中尾暢見	169
—社会科学としてのことわざ研究の学際的な位置づけと手法について—		
1. ことわざを科学的に検証することの難しさ		169
2. 社会科学としてのことわざ研究に着手した時期		170
3. ことわざデータベースの作成		171
4. 社会科学としてのことわざ研究成果		172
5. 創作ことわざとことわざ教科書		173
第6章 郷土のことわざ調査	穴田義孝、中尾暢見	174
1. 山梨県北都留郡小菅村のことわざ調査		174
2. 八丈島のことわざ調査		178
3. 長野県のことわざ調査		179
第7章 長野県三福寺とのご縁	櫻井勲山、櫻井幸子	189
1. 先生との私らしい出会いと別れ〔櫻井勲山〕		189
2. ゼミ合宿の思い出〔櫻井幸子〕		192
3. 合宿の献立〔櫻井勲山、櫻井幸子〕		197



第8章 穴田理事長とのご縁ーコラム	217
1. 先生ありがとうございます。〔大田朋子〕	217
2. 有用な無駄〔増田克己〕	218
3. 40年越しの卒論〔衣山英俊〕	219
4. 穴田先生とのロンドン徘徊記〔山下信也〕	221
5. 穴田先生からのメッセージ〔藤里郁夫〕	224
6. 穴田ゼミの思い出〔高田誠一〕	226
7. 穴田先生のことばのわざ（業）〔塩谷尚正〕	231
8. 追悼文〔竹本純一郎〕	234
9. 明治大学政経学部穴田社会心理学ゼミナールの思い出〔遠井雄史〕	235
10. 出会いの糸に引かれて〔藤村美織〕	238
11. 「馬鹿は、要らん。」Tシャツ〔川島洋〕	240
12. 穴田先生に学んだご薫陶 一学問は厳しくあるべき！〔中畑充弘〕	242
13. 邂逅 一穴田先生との34年―〔立柳聡〕	245
14. 今も研究室のドアは開いている〔柴田耕一郎〕	249
15. 穴田先生への追悼文〔近藤美保〕	254
第9章 穴田義孝理事長を偲んでー虫の知らせ	256
1. 孝行のしたい時分に恩師（親）はなし〔山下信也〕	257
2. 恩師との御魂交流〔中尾暢見〕	258
第10章 日本全国のことわざ資料集	穴田義孝、中尾暢見 260
1. 穴田理事長作成「郷土のことわざ全国一覧表」の4分類	261
2. 都道府県コード	262
3. 穴田理事長が収集したことわざ文献リスト	263
4. ことわざリスト	267
おわりにー恩師の背中ー	山田千香子 300
編集後記	中尾暢見 302

All seasons we with you

第1章 ことネットのあゆみ

中尾 暢見

1. ことネットの発足と理事長の価値観

NPO ことネットは、2014年11月末に承認を受けて正式に発足した。正式な名称は、NPO 法人 郷土のことわざネットワーク・ことネットである。名称が長いと通常は NPO ことネットまたはことネットと称してきた。本部の所在地は、以下の通りである。穴田理事長の退職に伴い井田正道先生に永くお世話になり深く感謝している。

【発足から穴田理事長が明治大学を退職する 2017年3月末まで】

〒101-8301

東京都千代田区神田駿河台 1-1

明治大学・研究棟 204 (穴田) 研究室

【2017年4月から解散手続き前まで】

〒101-8301

東京都千代田区神田駿河台 1-1

明治大学・研究棟 (井田) 研究室

穴田理事長は70歳を迎えられた年度での定年に伴い明治大学を退職された。退職直前の3月に穴田ゼミの学生2名、佐々木悠亮助手(当時)、中尾暢見の4名で穴田研究室の図書整理をお手伝いさせて頂いた。穴田理事長ご自身で整理を進めていたが、3月になりこのペースでは間に合わないとのこととお声かけを頂いた。その作業は和気あいあいとしており楽しい思い出の1つである。

シュレッターにかける資料、ご自宅に持ち帰る図書と資料、捨てる物、その他に分類をした。1つ1つ穴田理事長に確認をして丁寧に仕分けをした。図書の中には心理学等の古典的名著が多数あり「これはご自宅用ではないですか」と確認をすると「違う、もう定年後には不要だ」と仰った。ならばこのことわざ本も不要か、不要なら頂いて帰ろうと思ひ確認すると「それは要るよ、自宅用箱へ入れて」とのことであった。明快な判断基準をお伺いすることができた。穴田理事長は、御定年後には信頼関係を築ける人々を中心にして好きな研究探究活動を楽しみ行う方針であるため、それ以外の図書は不要であり、既に残すべき図書類はご自宅へ運んであるとのことで、あの大量な図書の殆どが整理されることになった。

穴田理事長は、末永くお付き合いしたいご縁のある方をことネットへご入会

頂くよう熱心にお誘いされておられた。ことネットの活動を通して親交を深めつつ社会貢献活動を遂行していくことを願っておられました。

毎年、夏と年末に「ことネット会合」と称しての交流会を楽しみにされておられたが、2019年夏会合を最後にコロナウイルスの蔓延と穴田理事長のご体調のために延期続きであった。

ことネットの事業内容は、郷土のことわざ調査を基軸にして、成果を出版したり、ことわざ講座にて社会還元活動を継続してきた。以下に出版物、明治大学の市民講座であるリバティアカデミー講座、ことわざ講座、研究発表、講演会、交流パーティでの活動、事業の概要を示す。

2. ことネット関連の図書

ことネットでは2冊の刊行本と1冊はPDF形式でことネットホームページからPDFをダウンロードする形式での1冊の調査報告書を作成した。

- ①日本ことわざ文化学会編 2014年11月25日『シリーズ【ことわざに聞く】5 郷土とことわざ』人間の科学新社
- ②NPO法人 郷土のことわざネットワーク・ことネット 2016年8月20日『ことわざを楽しく学ぼう、社会・文化・人生』人間の科学新社
- ③NPO法人 郷土のことわざネットワーク・ことネット 2017年5月30日『山梨県北都留郡小菅村のことわざ風土記(民俗誌)』NPO法人 郷土のことわざネットワーク・ことネット (<http://koto-net.com/> よりダウンロード)

(1) 『郷土とことわざ』

穴田理事長は、2009年に設立された日本ことわざ文化学会の創設メンバーであり、会長も務めてきた。会長時代に編集委員会を立ち上げ学会誌として編纂したのが『郷土とことわざ』である。同書には、現在のことネットのメンバーが複数、名を連ねている。同書には穴田理事長の郷土のことわざに対する想いが込められている。リバティアカデミー講座では、同書をテキストとして無料配付した時期もある。

『郷土とことわざ』において穴田理事長は、日本全国の郷土(地域)には独自の文化があり、それはことば/ことわざを分析データとして扱い比較検証することが可能であることを明示している。



(2) 『ことわざを楽しく学ぼう、社会・文化・人生』

ことわざは学問にはならないと言われ続けてきた。ことわざに精通した専門家の中にも根強くそういう価値規範が浸透しているように見受けられてきた。ことわざは生活の中に根ざした生きる知恵、教訓、戒めを端的なことばで示したものであり文化教養の一環ではあるが、学問としてのことわざ学はあり得ないであろうというのが多数派意見である。

穴田理事長は社会科学としてのことわざ研究の樹立を目指し、ことわざ心理学を提唱してきた。ことば／ことわざは分析データとなり得る。それを実演して見せたのが同書である。穴田理事長の野心的な試みの書である。

- 序論 プロローグ・ことわざの魅力と威力
- I部 ことわざ観を見直す
- II部 〈郷土（地域）のことわざ〉と「小さな地域のことわざ風土記（民俗誌）」
- III部 「山梨県北都留郡小菅村のことわざ風土記（民俗誌）」中間報告
- IV部 社会科学としてのことわざ研究の可能性

同書の巻末には穴田理事長が収集した全国のことわざ文献のデータベースを提示してある。これは穴田理事長より中尾暢見が依頼を受けて、データベースを作成したものである。それぞれの文献には具体的なことわざが示されており、それも一覧にしてある。2022年1月には中尾が穴田理事長からそのデータベースを活用していく許可を得ていたため巻末にそれを提示する。



資料：朝日新聞 2016「ことわざを楽しく学ぼう、社会、文化、人生」切り抜き朝日新聞社備考：故小幡氏は NPO ことネット理事、人間の科学新社の社長、穴田理事長の旧友でもあり長年、支援をして下さってきた。

(3) 『山梨県北都留郡小菅村のことわざ風土記（民俗誌）』

同書は、ことネットのホームページからダウンロードできる。近年の出版業界は、出版するには執筆者が数十万円から数百万円の経費負担を求められる傾向がある。そのため執筆者は執筆負担のみならず経済的な負担も負うことになる。読者／消費者は1冊2,000円前後のお金を払わないと読めないのである。そこでことネットでは図書を書店に並べる形式ではなく、ホームページからPDFで直接ダウンロードして頂き、誰でも無料で読めるようにすることを試みた。それが右写真の同書である。



公表形式のみならず内容も穴田理事長の先駆的試みに満ちている。同書では、実際に山梨県北都留郡小菅村を何度も訪ねてフィールドワークを実践している。このフィールドワークでは、先行研究に基づいて丹念に下調べをしたうえで、郷土に埋蔵されていることば／ことわざを発掘するところから開始している。それを質的データとして分析を行うと共に行政から公開されている人口や経済等のマクロデータとを組み合わせる科学的な分析手法を実践している。つまり、社会科学としてのことわざ研究の実践編の成果物である。

3冊には共通して「ことわざコラム」が掲載されている。これも穴田理事長の試みの一環である。既存のことわざを今日の人々が生活の中でどのように活用されているのか、そこから今日社会の諸相を浮き彫りにできるであろうという試みと、今日のライフスタイルに即して新たなことば／ことわざが創作できている可能性もあるというお考えからの試みであったと伺っている。

この後、八丈島調査、長野県調査に着手しているが、コロナ禍に伴い現地での聞き取り調査が中断されている段階であったが立柳聡理事が引継ぎ、調査を継続中である。

3. リバティアカデミー講座

NPO ことネット事業として 2015 年秋期から 2022 年春期まで 12 回にわたる明治大学の市民講座であるリバティアカデミー講座にて講座開催をしてきた。中には応募者人数が開講要件を満たさずに未開講であった回もあれば、コロナ禍のために中止となった回もあった。最後の 2022 年春期は穴田理事長がご体

調を崩されたために川島理事が代講を担当のうえ開講された。講座趣旨を読むと穴田理事長がことわざ講座を通して伝授したかった内容が伝わると思います。最後の数回は川島理事が講座趣旨を執筆作成して下さっています。

(1) 2015年秋期：2015年10月2日～2015年11月6日

題 目：ことわざの魅力と威力—社会・文化、そして人生に係わる「社会科学」としてのことわざを見直そう—

テキスト：日本ことわざ文化学会編 2014『郷土とことわざ』人間の科学新社

講座趣旨：〈ことわざ〉というと『ことわざ辞典』類にある①既成の(伝承・古典的)ことわざを思い浮かべ、その意味や出典・作者、類句・反句、伝播、用例などを調べる、学ぶ、覚えるものと思いついでいるのではなかろうか。思いきって発想の転換をすると、②ことわざは何時でも何処でも誰もが創ることができる。全国区の①に対して、皆さんの故郷で常用されている地域独特の③郷土(故郷・地方)のことわざが存在する。ことわざは人生のターニングポイント(人生の転換期)に深く係わることがあるし、個々の成句は人間の心理の機微に触れ、森羅万象を叙述する。ことわざ一句一句を味わうばかりではなく複数句集合してみると、それらに一貫する社会意識や身近な習俗規範・規制などを見出すことができる。「生活の知恵の宝庫」「隠れた生活文化遺産」なのである。

No	日付	内容	担当講師
1	2015/10/02(金)	郷土のことわざ・「小さな地域のことわざ風土記(民俗誌)」	穴田 義孝
2	2015/10/09(金)	講談の中のことわざ	宝井 一凜
3	2015/10/16(金)	ことわざで学ぶ・知る地域学「新潟の男・女・お酒・ことば」	大田 朋子
4	2015/10/23(金)	創作ことわざで社会心理	川島 洋
5	2015/10/30(金)	ことわざにみる都会の3活(就活・婚活・終活)事情	中尾 暢見
6	2015/11/06(金)	人生を豊かにする、愛すべきことわざたち 一心と暮らしを輝かせる「ことわざ」のパワー	新郷 由起



(2) 2016年春期：2016年4月15日～2016年6月17日

題 目：ことわざで楽しく学ぼう、生活・文化・生き方 — “ことわざ力” の

再発見一

講座趣旨：戦後 70 年、現在のわれわれは原爆や東日本大震災など、悲惨な暗い思い出を二度と繰り返すまい、忘れまいという思いを込めて記録・伝承していこうとしています。それも大事ですが、本講座では日常何気なく使用している「ことば・ことわざ」をデータとして、楽しかった、厳しかった、感動したなどというごく日常の思い出や生活、文化、さらに人々の生き方などをさまざまな視点から紹介したり、思い出していただいたり、新たに創ることさえしてみたいと思います。

こうした「ことば・ことわざ」は必ずしも『ことわざ辞典』類に掲載されているものばかりではなく、日常の会話の中で生活の知恵、生活文化として生きています。生活の糧として次世代にも役に立つ“ことわざ力”を再発見し、共有・伝承し、時に感動してみようではありませんか。

No	日付	内容	担当講師
1	2016/04/15(金)	プロローグ「生活の知恵・生活文化としてのことば・ことわざ」	穴田 義孝
2	2016/04/22(金)	ことわざで心理学の基礎を学ぶ	☒島 洋
3	2016/05/13(金)	雪国の民話にみることわざ	大田 朋子
4	2016/05/20(金)	講談のなかのことわざーことわざの威力ー	宝井 一凜
5	2016/05/27(金)	「ことば・ことわざ」に含まれる時代背景と温かい気持ち	☒尾 暢見
6	2016/06/03(金)	『ことば・ことわざは身を助くる』？	畑野 一恵
7	2016/06/10(金)	長崎の島にみる知恵の継承ー語り継がれることわざ	山田 千香子
8	2016/06/17(金)	創作ことわざから見える若者気質	☒柳 聡



(3) 2017 年春期：2017 年 4 月 24 日 ～ 2017 年 6 月 26 日

題 目：ことわざ社会心理学のすゝめー日常生活、生活の知恵、人生さえも「言い得て妙」「要にして簡」に包み込む短句、ことわざー

講座趣旨：私達は何気なく日常生活を過ごしていますが、往々にして無意識なく常識に囚われています。常識は一面では社会生活に必須の良識であり、大人の条件ともされます。しかしまた、伝統と因習の狭間でややもすると思ひ込みや固定観念となって、発想の転換や新たなアイデアの創造・想像の妨げになることもあります。

「言い得て妙」「要にして簡」な珠玉のことばとして、生活の知恵となり、人情の機微に触れ、森羅万象を叙述・形容し、人生のター

ニングポイント（重大な転換期）に深く係わる、しかも誰もが「常識・当たり前・分かりきったこと」と思っている〈ことわざ〉にも、案外「意外だ、知らなかった」などと思うような魅力や威力が結構たくさんあります。ことわざを楽しく学び、隠れた“ことわざ力”を柔軟な思考で再発見してみましよう。

No	日付	内容	各回の詳細	担当講師
1	2017/04/24(月)	ことわざとは何か、そしてことわざ社会心理学とは…	特定のテーマに類句や反句を複数集合させると社会的規範・規制、社会的性格が見えてきます。例えば「嘘」をテーマにして。	穴田 義孝
2	2017/05/08(月)	1.既成の(伝承・古典的)ことわざ、2.創作(現代)ことわざ、3.郷土(地方・故郷)のことわざ	ことわざには種類があります。それぞれにはどのような魅力と威力があるでしょうか。	穴田 義孝
3	2017/05/15(月)	ことわざで心理学の基礎を学ぶ	ことわざを用いて「心理学」の基礎を解説します。「目から鱗…」があると思います。	川島 洋
4	2017/05/29(月)	「ことわざエピソード」、「いろはことわざ創り」などで、ことわざを創ってみましよう	ことわざは「何時か何処かで誰かが創った成句」です。それならば「何時でも誰でも何処でもことわざは創れる」はずです。	穴田 義孝
5	2017/06/12(月)	講談のなかのことわざ	女性講師の講談をお楽しみください。	宝井一凛
6	2017/06/26(月)	ことわざの創始は[郷土のことわざ]ではないでしょうか	「ことわざ風土記(民俗誌)」は各地の生活文化、育まれてきた生活の知恵が詰まっています。まずは実例をご覧ください。	穴田、川島

(4) 2018年春期：2018年5月7日～2018年7月9日

題 目：ことわざ社会心理学のすゝめ II—ことわざをデータとして社会・文化・人間関係、そしてこころについて楽しく学ぼう—

講座趣旨：民俗学の創始者/柳田國男は「本来ことわざは日常会話の中で交わされたことば・短句である」としています。ことわざは人間関係(コミュニケーション・社会関係・相互作用)において初めて存在するものであり、社会学や社会心理学、文化人類学など社会科学分野で探究する課題なのです。

しかもことわざは「言い得て妙」「要にして簡」な短句として、森羅万象、あらゆることに言及しています。本講座ではことわざそのものを探究するだけでなく、ことわざを社会・文化・人間関係、そして人のこころを知る手がかり(データ)として共に楽しく学んでいきたいと思ひます。また、すべてのことわざは何時か何処かで誰かに創られた短句です。視点を換えると、何時でも何処でも誰でもことわざは創れます。ご一緒に創作ことわざを創ってみませんか。

No	日付	内容	各回の詳細	担当講師
1	2018/05/07(月)	ことわざDE日本人の人間関係を見直そう	ことわざをデータとして、心理学・社会心理学の見方・考え方を見直してみませんか。	穴田
2	2018/05/14(月)	ことわざで心理学の基礎を学ぼう	ことわざを用いて心理学の基礎を解説します。「目から鱗…」があると思います。	川島
3	2018/05/28(月)	講談の中のことわざ	これぞ言葉の技!講談の中で心地よく響くことわざを実演でお楽しみ下さい。	宝井
4	2018/06/04(月)	ことわざDE食と健康を考える	ことわざには食のタブーや嗜好・食行動など健康につながるヒントが多く含まれています。食と健康について再考していきましょう。	山田
5	2018/06/11(月)	ことわざが生きているムラに密着して	ことわざが社会にあわせて変化する様子について調査地での実体験を中心にお話します。	西川
6	2018/07/02(月)	ことわざ民俗学の構想	ことわざを用いて明らかにする文化と社会の特色。	立柳
7	2018/07/09(月)	「いろはことわざ創り、意見・態度調査法」、「ことわざエピソード」DE自分探し	ことわざは自ら創ることが出来ます。しかも心理テストや社会・文化観などを見直すデータにもなるのです。	穴田



(5) 2018年秋期：2018年10月1日～2018年12月10日

題 目：ことわざ社会心理学のすゝめ III—ことわざをデータとして社会・文化・人間関係、そしてここらについて楽しく学ぼう—

テキスト：日本ことわざ文化学会編 2014『郷土とことわざ』人間の科学新社 (無料配付)

講座趣旨：本講座は3回目となります。「3」にちなんだ「ことば・ことわざ」には、例えば「早(朝)起きは三文の得、石の上にも三年、三度目の正直」などの「吉・好いこと・得」というニュアンスに対して、「仏の顔も三度まで、三日天下、三日坊主、三日見ぬ間の桜かな」などは「不吉・悪いこと・損」と感じられます。国語的な意味では「3」は「少ない、短い」、ある時は「多い、長い」というように二面性があるとされています。ところが社会科学として3に関する句の集合を見直すと「吉・好いこと・得」、しかしまた「不吉・悪いこと・損」というように矛盾両極的な社会的価値観を読み取ることが出来ます。本講座は「三号雑誌」の「3」のような尻つぼみではなく、「三人寄れば文殊の知恵」のように講師皆でことわざの可能性について紹介し、ご一緒に楽しんでいきたいと思ひます。

No	日付	内容	各回の詳細	担当講師
1	2018/10/01(月)	言い伝え・俗信DE日常生活を見直そう	「食べてすぐに横になると牛になる、夜爪を切ると親の死に目に会えない」などの俗信はどのような役割があるのでしょうか。	穴田 義孝
2	2018/10/15(月)	ことわざは暮らしの中の心理学	ことわざを通して人のこころや行動の不思議を考えていきます。	川島 洋
3	2018/10/29(月)	講談の中のことわざPart.2	これぞ言葉の技!講談の中で心地よく響くことわざを実演でお楽しみ下さい。	宝井一凛
4	2018/11/05(月)	しまで生まれることわざには生き抜く知恵がある	「島」という地理的条件下で生きる人間の知恵。長崎の島を事例に、島独自のことわざを考えます。	山田 千香子
5	2018/11/19(月)	共感がことわざをつくる	「渡る世間に鬼はなし」「渡る世間は鬼ばかり」、あなたはどちらに共感しますか。	関川 桂史
6	2018/12/03(月)	創作ことわざから捉える学生気質	今時の学生らしさってどんなものでしょうか?ことわざから考察を試みると…	立柳 聡
7	2018/12/10(月)	「ことわざエピソード」と「いろはことわざ創り」DE日本社会・文化を見直そう	ことわざ(らしき成句)を創って、その社会・文化的背景を見直してみましよう。	穴田 義孝



(6) 2019年春期：2019年5月13日(月)～2019年7月22日

題 目：ことわざ社会心理学のすゝめ IV —ことわざをデータとして社会・文化・人間関係、そしてこころについて楽しく学ぼうことわざをデータとして社会・文化・人間関係、そしてこころについて愉しく学ぼう—

テキスト：日本ことわざ文化学会編 2014『郷土とことわざ』人間の科学新社 (無料配付)

講座趣旨：本講座はお陰様で「4」回目となります。「4」にちなんだ「ことば・ことわざ」には「四海兄弟」(真心と礼儀を尽くして相手に接すれば世界中が皆兄弟のように仲良くなれる)がありますが、他は「四苦八苦、四面楚歌、朝三暮四(目先の違いに捉われて本質を見失う、またうまい言葉で人をだます)」、あるいは俗にいう「四は死に通ず」など概してマイナスイメージを伴う句が多いといえます。ところで、俗にとは自己と相手があってこそ成り立つ正に社会科学の視点です。相互作用は正当な、正面切ったものの見方はむしろ一方的な視点に過ぎません。裏表、表面と裏面(内情)、陰ひなた、裏返し、正反対など社会科学的ものの見方は「一筋縄ではいきません」。「四知」(天知

る、地知る、子知る、我知る)のごとく、多面的に真理・心理を探究していききたいと思います。

No	日付	内容	各回の詳細	担当講師
1	2019/05/13(月)	「郷土(暮らしの中)のことわざ」と「ことわざエピソード」	消えゆくことわざを平面的記録に留まらず、3次元の記憶に残るデータとする可能性を探究。	穴田 義孝
2	2019/05/20(月)	ことわざDE食と健康を考える-Part 2	ことわざには食のタブーや嗜好・食行動など健康につながるヒントが多く含まれています。食と健康について再考していきましょう。	山田 千香子
3	2019/06/03(月)	講談の中のことわざ-Part 3	これぞ言葉の技!講談の中で心地よく響くことわざを実演でお楽しみ下さい。	☒井 一凜
4	2019/06/17(月)	‘商い’におけることわざ	「損して得とれ」の会社神話を中心に、ビジネス上の格言・金言などについて考察を深めます。	中畑 充弘
5	2019/07/01(月)	ことわざと格言の違い	ことわざと格言の違いとは。たとえば、「時は金なり」、はどちらになるのでしょうか	☒川 桂史
6	2019/07/08(月)	「いろはことわざ創り、意見・態度調査法」DE自己発見と常識を見直そう	「い・ろ・は・に…」をそれぞれ頭文字として、テーマに沿ってことわざらしき句を創ってみましょう。そして新たな発見を…。	穴田 義孝
7	2019/07/22(月)	ことわざから考える人のこころや行動の不思議	ことわざは暮らしの中の心理学。ことわざを通して自分自身を見つめなおしてみましょう。	川島 洋



(7) 2019年秋期：2019年10月07日～2019年12月09日

題 目：ことわざ社会心理学のすゝめV

講座趣旨：シリーズの「5」回目です。「5」にちなんで「五十歩百歩」をことわざ社会心理学の視点で見直してみましょう。この句の辞書的意味は「五十歩を以って百歩を笑う」「大同小異」「目糞鼻糞を笑う」などの類句が明確にその意を表しています。五十歩の倍が百歩であり、似たり寄ったりとは言い切れないという視点でこの句を用いると国語学としては誤用とされます。しかし、社会心理学的意味では「明日の百より今日の五十」「明日の親鳥より今日の卵」というように将来の不確実なものよりわずかでも現実の確実な方がよいという判断もあり得ます。「善悪、利害、快不快、好き嫌い、賛否、美醜」などの二項対立を二者択一するばかりではなく、多様な視点を許容し、時と場合、臨機応変に「分別、けじめ」をもって瞬時の判断をする度量が日本人の大人としての条件であるという視点もあり得ます。

No	日付	内容	各回の詳細	担当講師
1	2019/10/07(月)	ことわざ社会心理学の再点検	ことわざをデータとして、日本の社会・文化、そして人々の行動傾向を再点検してみましょう。	穴田 義孝
2	2019/10/21(月)	生活に密着していた鯉、それを伝えるコトバ	たとえば「鯉背」、ボラを題材に、生活の変化とことわざの関係について考えます。	関川 桂史
3	2019/10/28(月)	商いにおける「信用」をめぐることわざ	ウソも方便・あとの祭り・焦眉の急などのことわざや噂、流言飛語、吹聴のリアリズムを探る。	中畑 充弘
4	2019/11/11(月)	人間関係に指針を与えてくれることわざ	「一期一会」をはじめとして、人との出会いや人間関係をことわざから考えてみましょう。	山田 千香子
5	2019/11/25(月)	講談の中のことわざ-Part 4	これぞ言葉の技!講談の中で心地よく響くことわざを実演でお楽しみ下さい。	宝井一凛
6	2019/12/09(月)	創作ことわざからこころの問題や社会を考える	創作ことわざを通して、こころの問題を抱えている人たちの思いや若者たちの価値観を考察します。	川島 洋



(8) 2020年春期：2020年5月11日～2020年7月13日

題 目：学際的事ことわざ学—ことわざを通して、社会・文化・人間関係、そして心について楽しく学ぼう—

講座趣旨：本講座での<ことわざ>とは…、例えば「蓼食う虫も好き好き」などの狭義のことわざは勿論、その類義語の「各人各様・三者三様」などの四字熟語も「食べてすぐ寝ると牛になる」のような俗信・口頭伝承、さらに俳句や川柳、流行語などを包括的にまとめて「言い得て妙、要にして簡な(気の利いた)ことば・成句」という広義のことわざとします。ことわざ学というと「成句の意味・解説、語源、用例、作者・出典、伝播・伝承、変遷、異説、類句・反句、図象などことわざ自体を探究する」人文科学的研究とされています。言語学や文学、民俗学、図象学、哲学など学際的事ことわざ学の兆しは見えています。こうした視点を認めながら「社会科学の視点でことわざを通して社会・文化・人間関係、こころについて探究する」可能性をより具体的に報告します。

No	日付	内容	各回の詳細	担当講師
1	2020/05/11(月)	ことわざとは何か	ことわざは「言(葉)の技」であると共に「事(柄)の技」でもあり、ことわざは森羅万象に言及している。さて…。	穴田 義孝
2	2020/05/25(月)	ことわざ社会心理学	「嘘つきは泥棒の始まり」と「嘘は日本の宝」といった矛盾対立する句は日本人の社会的行動原理を内包する。	穴田 義孝
3	2020/06/15(月)	ドイツ語のことわざと食文化	食べることをめぐって、今日のドイツ語のことわざを取り上げ、生活習慣、文化との関連を探る。	藤村 美織
4	2020/06/22(月)	郷土のことわざ(新潟)、ウチとソト	新潟美人の謎を郷土のユニークなことわざを、ウチ(越後)とソト(江戸)からみてみると!?	大田 朋子
5	2020/06/29(月)	講談の中のことわざ - Part5	講談は言葉の技!講談の中で心地よく響くことわざを実演でお楽しみください。	宝井一凛
6	2020/07/06(月)	創作ことわざで知るところの問題	創作ことわざを通して、こころの問題を考え、理解しましょう。	川島 洋
7	2020/07/13(月)	郷土のことわざで地域の文化を見直す	郷土のことわざは自分の地元や地域の文化を見直すヒントとなります。郷土のことわざの楽しみ方を教示します。	川島 洋



(9) 2020年秋期：2020年12月7日～2021年2月8日

題 目：学際的事ことわざ学Ⅱ—ことわざを通して、社会・文化・人間関係、そして心について楽しく学ぼう—

講座趣旨：「ことわざ学」とは、ことわざを分析データ・資料とし、様々な学問分野の理論や視点を駆使し、社会・文化、人間関係や心の問題などについて、統合的に探究する研究分野です。

一般的にことわざを学ぶというと、ことわざの意味や出典を調べたり考えたりする、言語学・文学的なことを学ぶと思う方が多いかと思えます。しかしながら、それはことわざのほんの一面を学んでいるにすぎません。本講座では、ことわざの意味や出典など、ことわざ「そのもの」についての学ぶことはもちろん、ことわざをデータや資料として、幅広く社会や人間について、様々な学問分野の視点や考え方をお伝えいたします。ことわざが持つ可能性や魅力をより一層感じていただけるかと思えます。

No	日付	内容	各回の詳細	担当講師
1	2020/12/7(月)	ことわざとは何か？ことわざの概念を再検討しましょう。	伝承・古典的のことわざ、創作(現代)ことわざ、郷土(地方・故郷)のことわざについて。	川島 洋
2	2020/12/14(月)	病とことわざ	先人たちは病とどう向き合ってきたか？地域に伝わることわざから考えます。	大田 朋子
3	2020/12/21(月)	日本のことわざにみるジェンダー、特に女性差別的であるといわれるが…。	どのような文化・社会にもジェンダー（特定文化・社会における男性観・女性観）は存在する。果たして、女性蔑視のとは。	穴田 義孝
4	2021/1/18(月)	講談のなかのことわざ	女性講師の講談をお楽しみください。	宝井 一凜
5	2021/1/25(月)	差別とことわざ	差別をめぐってドイツ語のことわざから、社会の問題や個人の意識を考えます。	藤村 美織
6	2021/2/1(月)	「商い」をめぐることわざ	—「嬉しい悲鳴」「禍福は糾える縄の如し」「人間万事塞翁が馬」の商況。	中畑 充弘
7	2021/2/8(月)	ことわざ社会心理学	創作ことわざを通して人のこころや行動の不思議を考えます。	川島 洋



(10) 2021年春期：2021年6月21日～2021年8月2日

題 目：学際的事ことわざ学—ことわざを通じて、社会・文化・人間関係、そして心について楽しく学ぼう—

講座趣旨：本講座での<ことわざ>とは…、例えば「蓼食う虫も好き好き」などの狭義のことわざは勿論、その類義語の「各人各様・三者三様」などの四字熟語も「食べてすぐ寝ると牛になる」のような俗信・口頭伝承、さらに俳句や川柳、流行語などを包括的にまとめて「言い得て妙、要にして簡な(気の利いた)ことば・成句」という広義のことわざとします。

ことわざ学というと「成句の意味・解説、語源、用例、作者・出典、伝播・伝承、変遷、異説、類句・反句、図象などことわざ自体を探究する」人文科学的研究とされています。言語学や文学、民俗学、図象学、哲学など学際的事ことわざ学の兆しは見えています。こうした視点を認めながら「社会科学の視点でことわざを通して社会・文化・人間関係、こころについて探究する」可能性をより具体的に報告します。

No	日付	内容	各回の詳細	担当講師
1	2021/06/21(月)	ことわざとは何か	ことわざは「言(葉)の技」であるとともに「事(柄)の技」でもあります。森羅万象、ことわざはあらゆることに言及しています。	穴田
2	2021/06/28(月)	ことわざ社会心理学	ことわざを通して心理学・社会心理学の基礎を学びましょう。	川島
3	2021/07/05(月)	講談の中のことわざ - Part5	講談は言葉の技!講談の中で心地よく響くことわざを実演でお楽しみください。	宝井
4	2021/07/12(月)	ドイツ語のことわざと食文化	ドイツ料理といえばシンプルですが、食をめぐる豊かなことわざの世界にご案内します。	藤村
5	2021/07/26(月)	病とことわざ	先人たちは病とどう向き合ってきたか?地域に伝わることわざから考えます。	大田
6	2021/08/02(月)	創作ことわざで知るところの問題	創作ことわざを通して、こころの問題を考え、理解しましょう。	川島



(11) 2021年秋期：2021年11月15日～2021年12月13日

題 目：学際的事ことわざ学—ことわざを通して、社会・文化・人間関係、そして心について楽しく学ぼう—

講座趣旨：「ことわざ学」とは、ことわざを分析データ・資料とし、様々な学問分野の理論や視点を駆使し、社会・文化、人間関係や心の問題などについて、統合的に探究する研究分野です。

一般的にことわざを学ぶというと、ことわざの意味や出典を調べたり考えたりする、言語学・文学的なことを学ぶと思う方が多いかと思います。しかしながら、それはことわざのほんの一面を学んでいるにすぎません。本講座では、ことわざの意味や出典など、ことわざ「そのもの」についての学ぶことはもちろん、ことわざをデータや資料として、幅広く社会や人間について、様々な学問分野の視点や考え方をお伝えいたします。ことわざが持つ可能性や魅力をより一層感じていただけるかと思います。

No	日付	内容	各回の詳細	担当講師
1	2021/11/15 (月)	ことわざとは何か	ことわざは「言(葉)の技」であるとともに「事(柄)の技」でもあります。森羅万象、ことわざはあらゆることに言及しています。	穴田 義孝
2	2021/11/22 (月)	ことわざ社会心理学	ことわざを通して心理学・社会心理学の基礎を学びましょう。	川島 洋
3	2021/11/29 (月)	講談の中のことわざ - Part5	講談は言葉の技! 講談の中で心地よく響くことわざを実演でお楽しみください。	宝井 一凜
4	2021/12/6 (月)	ドイツ語のことわざと食文化	ドイツ料理といえばシンプルなイメージですが、食をめぐって豊かなことわざの世界にご案内します。	藤村 美織
5	2021/12/13 (月)	病とことわざ	先人たちは病とどう向き合ってきたか? 地域に伝わることわざから考えます。	大田 朋子

(12) 2022年春期：2022年6月20日～2022年7月25日

題 目：学際的事ことわざ学—ことわざを通して、社会・文化・人間関係、そして心について楽しく学ぼう—

講座趣旨：「ことわざ学」とは、ことわざを分析データ・資料とし、様々な学問分野の理論や視点を駆使し、社会・文化、人間関係や心の問題などについて、統合的に探究する研究分野です。

一般的にことわざを学ぶというと、ことわざの意味や出典を調べたり考えたりする、言語学・文学的なことを学ぶと思う方が多いかと思えます。しかしながら、それはことわざのほんの一面を学んでいるにすぎません。本講座では、ことわざの意味や出典など、ことわざ「そのもの」についてを学ぶことはもちろん、ことわざをデータや資料として、幅広く社会や人間について、様々な学問分野の視点や考え方をお伝えいたします。ことわざが持つ可能性や魅力をより一層感じていただけるかと思えます。

No	日付	内容	各回の詳細	担当講師
1	2022/06/20(月)	ことわざとは何か	ことわざは「言(葉)の技」であるとともに「事(柄)の技」でもあります。森羅万象、ことわざはあらゆることに言及しています。	川島 洋
2	2022/06/27(月)	ことわざ社会心理学	ことわざを通して心理学・社会心理学の基礎を学びましょう。	川島 洋
3	2022/07/04(月)	講談の中のことわざ - Part5	講談は言葉の技! 講談の中で心地よく響くことわざを実演でお楽しみください。	宝井 一凜
4	2022/07/11(月)	ドイツの食文化とことわざ	ドイツの食をめぐって、ことわざの味わい豊かな世界にご案内します。	藤村 美織
5	2022/07/25(月)	今に生きる病とことわざ	先人たちが向き合ってきた体と心の不調や病、ことわざから考察してみましよう。	大田 朋子

4. ことわざ講座

NPO ことネットのホームページ（ <http://koto-net.com/> ）は設立当初より川島洋理事が開設運営を担当してきた。このホームページを通して幾つかの自治体よりことわざ講座の依頼を頂いた。



出典：NPO ことネット HP、参照日:2022年8月20日、<http://koto-net.com/>
備考：これ以降の写真はことネット HP より転載している。

(1) 千葉県松戸市生涯学習推進課

2017年度 春の成人講座「ことわざの魅力探究」

日 時:2017年5月19日から全3回

会 場:松戸市文化ホール

講 師:穴田義孝 理事長

第1回:2017年5月19日

第2回:2017年5月26日

第3回:2017年6月02日



(2) 野田市 市民講座「ことわざを楽しく学ぼう～ことわざの魅力再発見～」

日 時:2017年7月14日～2017年7月28日

会 場:野田市中央公民館

講 師:穴田義孝(ことネット理事長)

第1回：2017年7月14日（金）14：00～16：00

ことわざ社会心理学を学ぶ

第2回：2017年7月21日（金）14：00～16：00

①既成（伝承・古典的）のことわざ、②創作（現代）ことわざ、
③郷土（地方・故郷）のことわざ

第3回：2017年7月28日（金）14：00～16：00

「ことわざエピソード」、「いろはことわざ創り」でことわざを創ってみましょう



（3）日本ことわざ文化学会「第84回月例定例会」講演

日 時：2018年1月27日（土）15時～17時 ※参加費無料

会 場：明治大学駿河台キャンパス・グローバルフロント 4021 教室

講 師：穴田義孝理事長（明治大学名誉教授）

題 目：郷土のことわざ蒐集法・ことわざエピソード



(4) 茨城県県南生涯学習センター(土浦市)「県民大学講座」

日 時：2020年10月4日～12月20日／全5回

講 師：川島洋 理事

題 目：ことわざ社会心理学講座—ことわざを資料として社会・文化・人間関係、そしてところについて楽しく学ぼう

第1回10月4日(日)

題 目：ことわざの概念を再検討—ことわざとは何か？—既成(伝承・古典的)のことわざ、創作(現代)ことわざ、郷土(地方・故郷)のことわざ

第2回10月18日(日)

題 目：ことわざ社会心理学Ⅰ—ことわざで心理学の基礎を学ぶ

第3回11月1日(日)

題 目：ことわざ社会心理学Ⅱ—かるた創りを用いた精神障害者に対する心理教育の実践

第4回11月22日(日)

題 目：ことわざ創りの実践とその可能性—いろはことわざ創りでことわざを創ってみましょう

第5回 12月20日(日)

題 目：ことわざエピソードを通して社会・文化・心について考える—ことわざエピソードを書いてみましょう



(5) 千葉県市原市辰巳公民館主催事業「ことわざ社会心理学」

期 間：2021年5月9日～7月11日／全5回

講 師：川島洋 理事

第1回 2021年5月9日(日)

題 目：ことわざの概念を再検討 ことわざとは何か？—既成(伝承・古典的)のことわざ、創作(現代)ことわざ、郷土(地方・故郷)のことわざ

第2回 2021年5月30日(日)

題 目：ことわざ社会心理学Ⅰ—ことわざで心理学の基礎を学ぶ

第3回 2021年6月13日(日)

題 目：ことわざ社会心理学Ⅱ—かるた創りを用いた精神障害者に対する心理教育の実践

第4回 2021年6月27日(日)

題 目：ことわざ創りの実践とその可能性—いろはことわざ創りでことわざを創ってみましょう

第5回 2021年7月11日(日)

題 目：ことわざエピソードを通して社会・文化・心について考える—ことわざエピソードを書いてみましょう



5. 研究報告と講演会

(1) 山梨県北都留郡小菅村社会調査中間報告

日 時：2016年1月23日

会 場：明治大学駿河台校舎リバティタワー10階 1107 演習室

題目1：社会学の視点からみた小菅村とことわざ

—社会科学としてのことわざ研究の試み— (中尾暢見)

中尾暢見理事より「社会学の視点からみた小菅村とことわざ」について、統計データから見える小菅村の変化と聞き取り調査とを織り交ぜた報告が行われました。

題目2：小永田地区の社会構造 (立柳聡)

立柳聡理事より「小永田地区の社会構造」について、小永田地区で

実施中の世帯調査の経過報告が行われました。

題目 3 : 小菅村高齢者学級編『小菅の民話と俚諺』の 30 年後
— 『小菅村のことわざ風土記(民俗誌)』 — (穴田義孝)

穴田義孝 理事長より「小菅村高齢者学級編『小菅の民話と俚諺』の 30 年後」について、小菅村の高齢者学級において実施した聞き取り調査の報告が行われました。



(2) 穴田義孝理事長の記念講演

日 時 : 2016 年 11 月 12 日

会 場 : 明治大学駿河台校舎リバティタワー15 階 1153 教室

講 師 : 穴田義孝 明治大学政治経済学部教授 / NPO 法人郷土のことわざネットワーク・ことネット理事長

題 目 : ことわざ社会心理学と NPO ことネット



(3) 中尾暢見監事が「日本ことわざ文化学会 第7回大会」にて研究発表

学会：日本ことわざ文化学会 第7回大会

日時：2016年11月19日（土）13：15～14：00

会場：明治大学 駿河台校舎（研究棟2階 第9会議室）

発表者：中尾暢見 日本大学非常勤講師／NPO 法人郷土のことわざネットワーク・ことネット監事

題目：小菅村のことわざからみえる社会変化—社会科学としてのことわざ研究の試み—

(4) 日本ことわざ文化学会 第75回月例定例会にて講演（穴田義孝理事長）

日時：2017年2月25日（土）15～17時

会場：明治大学駿河台キャンパス・リバティタワー1095教室

講師：穴田義孝 明治大学政治経済学部教授、NPO郷土のことわざネットワーク・ことネット理事長

題目：ことわざ社会心理学とNPO法人ことネット



6. パーティ

(1) 出版記念講座—『ことわざを楽しく学ぼう、社会・文化・人生—ことわざの魅力と威力の再発見—』出版記念会

日時：2016年10月22日

会場：明治大学駿河台校舎 研究棟4階 第3会議室教室

講師：穴田義孝

題目：ことわざを楽しく学ぼう、社会・文化・人生—ことわざの魅力と威力の再発見



【出版記念パーティ】 会場：明治大学カフェ パンセ

(2) 穴田義孝理事長の明治大学最終講義、退職・古稀記念パーティ

日 時：2017年3月11日

講 義：明治大学リバティ・タワー11階 1113教室

題 目：ことわざ社会心理学—教育と研究

会 場：紫紺館・椿山荘 6F「ラウンジ明治」



写真：最終講義、一次会、二次会

写真提供：柴田耕一郎氏、遠井雄史氏

第2章 リバティアカデミー講座

中尾 暢見

2014年11月末に設立したNPOことネットは、当時穴田理事長が所属する明治大学の市民講座においてことわざ講座を開講する手続きを比較的早い段階で開始して2015年秋期からの開講に漕ぎ着けた。幸いなことに申請、審査、承認、開講準備のプロセスはスムーズに進んだ。以後、途中でコロナ禍による影響も受けたが2022年度春期まで講座を継続させることができた。

最初は受講希望者が少なく開講しなかったこともあった。そのような場合は、ホームページ等からの広報活動に加えて、講師陣の教え子、知人などに声をかけたりして受講者を確実に増やす方法が一般的には試みられるそうなのだが、ことネットでは一切そういうことをしない方針であることがメンバー間での共通認識であった。

ことわざ講座は社会貢献活動の一環であり、自分たちの実績作りや箔付けのために行うものではないからである。メンバーはそれぞれに本業があり、余暇や趣味の領域で専門知識と技量を社会へ還元する目的に賛同した方のみで集まっている。営利目的でもなく利益追求集団でもなく、ただ余力スペースで社会貢献を一緒にしようという志を一にする同士が集まった組織集団なのである。それゆえそれぞれが帰属する専門領域や組織は十人十色である。

穴田理事長の方針に賛同する専門家集団が、ことば／ことわざを軸にして会合の時などに繰り広げる言霊、音霊の響きは美しい調べを奏でていた。異分野に属する博士集団、超専門家の対話は類を見ない超絶に楽しい波動を放出して響かせている。いつも笑顔で笑い声と優しい気持ちに満ちた空間でありながらも、内容は学会大会での報告よりも濃密で専門的な内容であるからいつも引き寄せられるように人が集まってきていた。これをことわざ講座で体験できるのはなんて素敵なことだろうという思いで講師陣は講座提供をしていた。

今回、明治大学のリバティアカデミー事務局と講師陣の許可を得て、そのことわざ講座6回分のレジュメを掲載させて頂けることになった。開講期の早い順に掲載している。講座のテイストを伝えるため、レジュメには手を加えずそのまま掲載させて頂いた。ご提供下さった講師は、立柳聡先生、山田千香子先生、中畑充弘先生、藤村美織先生、大田朋子先生である。

ご厚意を賜り、記して深謝する。

1. 2018年度春期（講演日 2018年7月2日）立柳聡

ことわざ民俗学の構想 —ことわざが明らかにする様々な民俗の本質と社会の特色—

立柳 聡

序 一本講座の目的と概要—

民俗学は、様々な習わしごと（背景となる謂れも含め）や社会のあり方をめぐってそれらの特色と共に、なぜ人々はそうした習わしや社会のあり方を支持したり、こだわるのか、その思い（心意）の解明に心を寄せてきたと思われませんが、十分な成果に至っていないようにみえます。なぜかと振り返ると、そのために有効な方法が生み出されていなかったからだと思えてなりません。

また、民俗学は、民俗の一つとしてことわざを認識していたとみられますが、研究対象とすると共に、それを用いた研究方法を確立できていなかったことも伺われます。

一方、ことわざ社会心理学の知見に学ぶと、ことわざの重要な特色、または機能の一つは、民俗を含め、森羅万象の本質に対する人々の悟り、確信といったものを多分に表現するものであることがわかります。

すると、ことわざに積極的に注目し、そうした知見を採り入れて活用してみると、様々な民俗の本質や社会のあり方をめぐる人々の心意を巧みに捉えることができるのではないかと？こうした民俗学の理論や方法を、仮に「ことわざ民俗学」と呼ぶことにしましょう。話の前段は、そのような構想が生まれてきた背景を少し理論的に考えてみます。

それを実際に試みてみると、どんな成果が導かれてくるか？具体的な事例に基づいて、後段は、その点を話題にしたいと思います。

I 私がやってきたこと —自己紹介を兼ねて—

専門分野： 文化人類学の中の社会人類学、民俗学（特に生業や社会伝承）
…当該の社会がどのように形成されているか、その特色の解明

民俗： 先祖たちからいつの頃からか伝承されてきた様々な習わしごとやそれに関する謂れ、習わしごとに使うものや信仰対象となる偶像やものなどの総称
民間伝承とも呼ばれる文化要素の一つ。

民俗調査（民俗について人々から話を聞いたり、民俗行事に参加して記録したり、関係する文献を探す等）と社会調査（注目した社会がどのような原理によって形作られているかを、人々に話を聞いたり、統計等の資料、文献に当たって明らかにすること）、民俗誌（民俗調査でわかったことをまとめた本・冊子）の編集による当該文化・社会の特質の解明

II 民俗学と民俗学におけることわざをめぐる基礎知識

A 民俗学

「世代を超えて伝えられる人々の集合的事象によって生活文化の歴史的展開を明らかにし、それを通して現代の生活文化を説明する学問。…一定の集団を単位に上の世代から伝えられてきて、現在人々が行為として行い、知識として保有し、観念として保持している事象、すなわち民俗を調査・分析し、世代をこえて伝えられてきた生活文化およびその変化過程を明らかにすることで歴史的世界を認識する方法である。旧来の歴史研究のように過去に文字で記録された資料に頼って記録された当時を明らかにするのではなく、現在の事象によって過去の人間生活を究明するという一見矛盾する方法を採用する。…

…現在に至るまで、日本民俗学研究は行為として示された行事・儀礼・組織・制度などを主要な対象とし、また心意の把握に大きな価値を置いており、そこに欧米の民俗学とは異なる特色がある。…日本の民俗学は、口承伝承という語りに加えて、人々の行為に示される制度や慣習を重視し、さらに意識・観念を明らかにしようとする総合的な学問として発達してきた。民俗学は研究に際して民俗を保持する人々からいわゆる聞き書きという方法で民俗事象を獲得しようとするが、その主要な目標は聞き書きの場で語られた語りそのものではなく、聞き書きを通して把握できる人々の行為や知識そして観念である。したがって、聞き書き以外のさまざまな方法、たとえば、観察調査や実測調査も重要な方法になる。逆に、聞き書きによって得られた語りそのものを考察する面は弱かった。しかし近年、行為や知識・観念を把握するにしても、語られる場や語られ方自体も重要であると認識されつつあり、語りに復権がみられる。…」<傍線筆者>

(福田アジオ、2000年、「民俗学」、『日本民俗大事典 下』、吉川弘文館、pp.640-642)

「民間伝承を素材として、民俗社会・民俗文化の歴史的由来を明らかにすることにより、民俗の基層文化の性格と本質とを究明する学問。…常民的な人びとにいだかれている伝承的慣行習俗や、民間文芸、観念などの民俗文化を明らかにすることを標榜して、民俗学と名づけているのである。…

…伝承を分析し意味づける上では、神話学・宗教学・心理学・言語(方言)学・文学あるいは考古学の面から力を借りることも必要となる。さらに相互に違うジャンルの伝承を有機的に関連づけ、体系的秩序の中に位置づけることが肝要になるが、その組織化のためにも史学・民族学・社会人類学や文化人類学その他の人間社会と文化にかかわる諸学の方法に学ぶべきものが多々あるはずである。こうして民俗資料を組織化して、民俗社会・民俗文化の構造と機能とを、歴史の相に応じて明らかにしていこうとする。…」<傍線筆者>

(和歌森太郎、1972年、「民俗学」、『日本民俗事典』、弘文堂、pp.705-706)

B 民俗・民間伝承とその分類

「一般には、民衆の習わしとか民間の風俗・習慣などという意味で用いられる。これに類する術語として、漢語では土俗・習俗・風俗・慣習・習慣が、和語としては風習・慣行・慣例などがある。それぞれの語義に微妙な差異があるが、習わしという点では共通性がある。…基層文化を形成する基本的な要素として捉える方法が妥当である。民俗は生活文化のうちの伝承、すなわち先祖代々受け継がれてきた部分と深く関連しているのである。民俗を民間伝承ないし伝承と同義とすることは、民俗が習わしという意味でも用いられてきた事実からも、また理論的にも不十分であり、民俗を伝承と慣習の複合体として捉えることが合理的である。…」<傍線筆者>

(平山和彦、2000年、「民俗」、『日本民俗大事典 下』、吉川弘文館、pp.640-642)

「…内容的には *folklore*[英]の意味するところを含んだ概念。常民に文字を媒介とすることなしに日常的・集团的・類型的に3世代以上にわたって、くりかえし伝承して来た言葉や行為、また観念を指す。民俗学の対象とする民俗の意味とほとんど同じである。

…今日日本では、慣行化した生活様式や技術、さらにこれらを支える思考様式の全体系を含む。…伝承文化は、基層文化をなすものである。」

(和歌森太郎、1972年、「民間伝承」、『日本民俗事典』、弘文堂、pp.701-702)

柳田国男による民俗資料の三部分類と特色：

- I 有形文化； (1) 住居、(2) 衣服、(3) 食物、(4) 資料取得法、(5) 交通、(6) 労働、(7) 村、(8) 連合、(9) 家・親族、(10) 婚姻、(11) 誕生、(12) 厄、(13) 葬式、(14) 年中行事、(15) 神祭、(16) 占法・呪法、(17) (舞踊)、(18) 協議、(19) 童戯と玩具
- II 言語芸術； (1) 新語作成、(2) 新文句、(3) 諺、(4) 謎、(5) 唱えごと、(6) 童言葉、(7) 歌謡、(8) 語り部と昔話と伝説
- III 心意現象； (1) 知識、(2) 生活技術、(3) 生活目的

… 主として資料収集の場面に即した類別？

心意現象はすべての民俗の事象の背景であり、当該民俗の真の意味の理解のために捉えねばならないものとする。<傍線筆者>

(柳田国男、1935年、『郷土生活の研究法』、刀江書院、pp.151-333)

折口信夫による五部分類と特色：

- I 周期伝承 (曆日に沿って毎年繰り返される伝承)
- II 階級伝承 (年齢集団、職業集団等々別に保持される伝承)
- III 造形伝承 (建築その他造形物に関わる伝承)
- IV 行動伝承 (祭や遊び等行動の形式をとって表される伝承)
- V 言語伝承 <傍線筆者>

… 伝承方式に基づく分類

(折口信夫、1951年、「民俗学」、『日本文学大事典』、第7巻、新潮社、pp.107-111)

和歌森太郎による三部分類と特色：

- I 経済人的生活伝承；（1）基本伝承〈衣・食・住〉、（2）取材的伝承〈産業・労働・交通・運搬・交易〉
 - II 社会人的生活伝承；（1）社会存在的伝承〈村構成・家構成・組連合・年齢階級〉、（2）社会的形成伝承〈誕生・成年・婚姻・葬制〉
 - III 文化人的生活伝承；（1）知識的[教育]伝承〈命名・言葉・鞍・技術・伝説・医療〉、（2）厚生[芸能]伝承〈年中行事・昔話・語り物・民謡・舞踊・遊戯〉、（3）倫理[法制]伝承〈社会・贈与・村制裁〉、（1）～（3）にわたる伝承ものとして信仰伝承〈祭・兆・占・禁・呪・妖怪・幽霊〉
- … 「民間伝承の人間生活における機能の性質から」の分類

人間は、経済人であり社会人であり文化人であり、三つの側面をとって生きる。

（和歌森太郎、1990年、『日本民俗学』、清水弘文堂、pp.18-24）

松崎憲三による四部分類と特色（※ 細部省略）：

- I 人と自然；（1）自然への対応〈A 開発の歴史、B 自然との交流〉、（2）消費生活とその技術〈A 食生活とその技術、B 衣生活とその技術、C 住生活とその技術〉、（3）職業と生産技術〈A 定住的職業と生産技術、B 渡りの職業〉
- II 人と人；（1）個人と家族の生活〈A 個人の生活をめぐって、B 家族生活〉、（2）地域生活と外社会〈A 地域生活、B 外社会との交流〉
- III 人ととき；（1）暦と生活リズム〈A 一日の生活、B 一年の生活〉、（2）人の一生〈A 人の歩とその儀礼、B 死にまつわる儀礼〉
- IV 人と神仏；（1）地域の中の神仏〈A 家・屋敷の神仏、B 小祠と小堂・石仏の信仰、C 神社祭祀、D 仏教と民俗〉、（2）地域を超えた信仰〈A 社寺参詣と神仏の巡行、B 宗教者の活動、C 祈願と俗信〉

… 民俗学が人々の行動様式や思考、価値観と日常生活のありようを解明しようとする限り、人と自然、人と人、人と神仏、それぞれの関係を通して民俗的世界を把握することは、大枠では今も有効であるが、年中行事と人生儀礼はこの枠組みには納まりにくい。「人ととき」を措定することで処理できる。〈傍線筆者〉

（松崎憲三、2004年、「民俗資料の分類」、『講座 日本の民俗学 11 民俗学案内』、雄山閣、pp.36-40）

C ことわざ

「中国の諺や proverb[英]などにあたるもので、口承文芸の一種として広く行われる。…言語の技芸で、特別の効果をおよぼすものに限られる。…教育のためのことわざは、人生の諸方面にわたって、必要な道理や知識を与えるものである。…本当のことわざの意義は、現実の生活の場で初めて確実に伝えられるものであった。…」

（大島建彦、1972年、「ことわざ 諺」、『日本民俗事典』、弘文堂、p.261）

資料1参照

D 民俗学の方法

「1960年代から80年代に至る時期は民俗学が大学の制度の中に位置づけられ、形式を整える時期であった。それはセオリーとしての方法論ではなく、メソドロジーとしての方法論の整備であった。…社会の急激な変貌のなかで、民俗学の対象を拡大する作業、さらには民俗学の分野を増やす作業が行われた、まず地域民俗学が起こり、ついで比較民俗学、そして、都市民俗学が提唱された。しかし、それらの拡充が民俗学の方法とどのように関連するかは必ずしも検討されなかった。…

90年代は現代民俗学という新しい民俗学の主張が展開されるようになった。…現代の問題に取り組む現代科学としての民俗学へ再生し、今日解決を迫られている問題に対して解答を出す学問として成長しなければならない。…現代に生きる人間として主体的に研究課題を設定し、問題の所在を歴史的に明らかにすることが、柳田国男の初志に学び、現代に生かす道である。…あらゆる社会問題が民俗学研究の課題を用意してくれている。…解決策を考えるための材料を提出することは民俗学の使命であろう。そのための方法論を、理論（セオリー）と研究法（メソドロジー）の両側面から統一的に組み立てることが緊急の課題と言えよう。」<傍線筆者>

（福田アジオ、1998年、「総説 民俗学の方法」、『講座 日本の民俗学 1 民俗学の方法』、雄山閣、p.12）

また、福田は、柳田国男の論説を手がかりに、民俗学は現代に累積する歴史を明らかにするのが第一の目的であり、それを通して現実の問題解決に資する実践性が第二の目的であることを最終的に明らかにするプロセスで、以下のようにも論じている。

「民族文化、民族の基層文化、民族性、エトノスなどの表現で民俗学の目的や性格を説明することはこの半世紀近い民俗学の一つの動向である。和歌森太郎は概説書『日本民俗学』の冒頭で次のように民俗学を定義している。

日本民俗学は、今日見聞きし得る諸々の民間伝承の比較研究を通じて、日本人の心性、生活文化の特色を把握しようとする学問である。

また、1954年の石田英一郎の民俗学批判と広義の人類学に入るべきだとの提案を受けての、民俗学の性格をめぐる議論の中で、桜井徳太郎は次のように主張している。

日本民俗学は、日本民族が送ってきた伝承生活、また現に送りつつある伝承生活を通じて、日本民族のエトノスないしフォルクストウムを追求するところに、その学問的目標をおく。ここでエトノスとかフォルクストウムということの意味は民族の特質、あるいは本質と解してよかろう。…

これで明らかのように、すでに1950年代に主張されたことが現在も繰り返されているのである。それではこの目的は半世紀近い間に少しは達成されたことが確認できるのであろうか。関敬吾が民俗学をエトノス追求の学とする説に対して、「われわれが現実の民俗調査・社会調査において、このエトノスなるものを抽出すべき材料をいかにとらえるか、われわれの調査技術の現段階においては、その片鱗をもとらえることはできないであろう。…」と述べていることは今でも十分に当てはまることである。

この半世紀近い間で、民俗学の研究過程の中で、あるいは研究成果に基づいて、日本本民族の民族性、エートノス、あるいは心性、また民族文化の特質を明らかにしたり、論じたりしたものは見られない。あるいは民族性、エートノス、民族文化とはいかなるものかについて日本民俗学として論じたこともない。…民族文化、民族性、エートノス、あるいは基層文化などという空疎な題目を民俗学の目的とすることは止めなければならない。…」<傍線筆者>

(福田アジオ、1998年、「1 民俗学の目的」、『講座 日本の民俗学 1 民俗学の方法』、雄山閣、pp.100-101)

E II章の小括

1. 民俗学は、そもそも日本人の心意（心にあるもの）や心性（心の性質）、思考や価値観の特色といったものに強い関心を寄せ、その解明を目指していたとみられる。
2. 民俗学は、研究対象となる民俗の一部としてことわざを捉え、相応にその本質を考察していたとみられる。
3. 民俗学は、他の学問の方法にも学ぶことの大切さを意識していたとみられる。
4. しかしながら、民俗学は、日本人の心意（心にあるもの）や心性（心の性質）、思考や価値観の特色といったものを、十分に解明できずにきていた。これは…
 - 民俗学には、本質的に解明不可能なことなのではないか？（福田説？）
 - 解明する方法が未確立なのではないか？
 - ことわざ社会心理学の知見を活用し、ことわざという民俗に注目することで、解明に迫ることができる。（立柳説）

III 民俗としてのことわざを文化（要素）や社会の研究にどう活かすか？

文化： 人間が考え出したものの総体（最も広義）

多くの人々の支持を集め、広まり、共有されたり、世代を超えて伝承されるようになった規範（肯定的、否定的両面で絶対性＝強い拘束力を持つ価値観）、考え、方法・技術など …その一つ一つが、文化要素

Cf. 従って、民俗も文化要素

核心は、規範的なもの …なぜそうすべきなのか？思考、判断、行動の基準

社会： 様々な人間関係でつながる人々が織りなす人間関係の網の目

多様な織りなされ方があり、生み出される特色（社会構造）にも違いがある。
なぜ人々はそのように織りなすのか？そのために人々が支持している原理や思
（規範）とは？ …そこで、この点に関わる人々の心意を捉える必要がある。

文化を伝承する母体

文化と社会は表裏一体。社会は文化（規範・ルール）によって秩序をもって保たれ、文化は社会によって共有され、その社会を構成する人々によって伝えられる。

ことわざ社会心理学からの提言

知っていることわざを、たとえば金銭について、酒についてというようにその項目に関することわざを改めて集めてみる、並列してみます。すると、成文化されたほう規範ではない、普段生活するにあたって酒とはこういうもの、あるいは酒はかく飲むべしなどの規範が見出せます。それを習俗規範といいます。またそれは共通感覚 (common sense) であるともいえます。…

…ことわざ群は、習俗規範や共通感覚を内包している…

(穴田義孝、1996年、『もう一つの日本人論』、人間の科学社、pp.16-17)

A ことわざによる文化要素＝様々な民俗の本質を明らかにする方法

資料2参照 (省略)

B ことわざによる社会を織りなす原理を捉える方法

社会のあり様、そうした現実に対する悟り・価値判断・評価といったものに関することわざや言い回しが存在する！

それらを集め、精査すると浮かび上がってくるものがある。

IV ことわざによる社会を織りなす原理を捉える試みの実例

—山梨県小菅村小永田における民俗調査・社会調査—

A 小永田の概況

小永田は、山梨県の東端に位置する小菅村を構成する八つの地区 (字、ムラ、自然村とみられる。以下、小永田、または、ムラと称する。) の一つで、長らく村の中心部から最も山奥に位置する袋ムラであった。2016年5月現在、自治会加入戸数は38となっているが、絶家や長期不在の家が増えており、現存する実質的な戸数は31と思われる。38戸の内、23戸がF姓であり、他にS姓 (3戸)、KS姓 (4戸)、A姓 (1戸)、N姓 (2戸)、FR姓 (2戸)、H姓 (1戸)、KW姓 (1戸)、O姓 (1戸) がみられ、これらがムラ組とみられる八つの隣保組に組織されており、葬儀等、近隣互助協同の中核として機能してきたことが知られる。伝統的な生業は、麦の栽培、並びに、アワ、キビ、ヒエ、サド、アカモロ、ソバといった雑穀の栽培による農業であり、特に、ソバは夏季に焼畑による生産が主体であった。この他、ジャガイモやコンニャク、ワサビの栽培、養蚕も多くのムラ人に記憶されていたり、現在も栽培されている。平地がない山間農村であり、田は昔からほとんど存在しなかった。これまでの調査から、財産保有や小作経験などの生業実態に照らし、家々に経済的な格差が認められる。一方、大正7年 (1918年) 当時のムラの総戸数は39であり、その後、昭和56年 (1981年) に、46戸まで増えたが、約1世紀の間、ほとんど変化していない。一つ一つの家が巧みに維持されてきたと

みられる。総じて、山間過疎地の零細ではあるが、共同性の強い穀類を中心とした畑作農村の姿が浮かび上がってくる。

B 従来の民俗調査・社会調査が捉えた小永田の社会構造

資料3と4参照（省略）

C ことわざが捉えた小永田の社会構造

資料5参照（省略）

D ことわざ民俗学の有効性と学際的な調査・研究の意義

資料6参照（省略）



写真：小永田地区全景

写真提供：中尾暢見

2. 2018年度秋期（講演日 2018年11月5日）山田 千香子

明治大学
リバティアカデミー講座

2018年11月5日(月)
於:駿河台キャンパス

しまでうまれることわざには
生き抜く知恵がある
—伝承される知恵、創造されることわざ—

聖徳大学 心理・福祉学部
教授 山田千香子

1

はじめに

「島」という地理的条件下で生きる人間の知恵。長崎の島を事例に、島独自のことわざについて考えていきましょう。

(各ことわざについてはテキスト参照)

高齢化・過疎化が急激に進行し病院がなく診療所が一か所のみである離島において、住み慣れた地域で暮らし続けるための人々の取り組みに注目し、人々が住み慣れた地域をどのようにイメージしているのか、ことわざがどのように生きているのか、考えていきましょう。

2





- ・しかし、豊臣、徳川の時代はカトリックの信仰を
禁じ、信徒らを弾圧しました。
イエス=キリストやマリアが描かれた絵を踏ませる
などして、ためらったり拒否したりすると、処刑
や拷問の対象になったので、キリシタンたちは信
仰を守るために潜伏することを余儀なくされたの
です。

教会堂もなく、神父もいない中で、弾圧に耐えな
がら、250年以上にわたって、密かにキリスト
教の信仰を守り続けました。

長崎とキリスト教の歴史



1873年 明治政府 キリスト教解禁

- 1873年、明治政府の第一次伊藤博文内閣時代に、キリスト教が解禁されると、信徒たちは各地に教会を建て、それらの建物が、今も残っています。

- 世界的に見ると、キリスト教の迫害はほかにもありましたが、日本の場合は、例えば観音像を聖母マリアに見立てて祈った「マリア観音」など、表向きは仏教徒を装うなどした点が特徴的です。

人目に付かない離島などに逃れ、日本らしい宗教形態に形を変えながら、子孫に信仰をつないでいったのです。

- NHK解説アーカイブス <http://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/700/251072.html>




平戸市の風景(教会と寺院が隣り合って存在している)








小値賀町の高齢化の現状

高い高齢化率	11の地区が高齢化率 50%以上
総人口: 2,786人 65歳以上人口: 1,234人 高齢化率: 44.3% 独居高齢者: 25.3%	浦・木下・上下・柳田・会舎 柳東・牛渡・筒井浦・黒島 斑島・納島(2013年8月時点) ⇒限界集落

- ・小値賀町の高齢化率は、長崎県の市町村で最も高く、高齢化の進行も速い
- ・小値賀町自体が「限界集落」に近い状態にある

小値賀の高齢者の暮らし

現在、一般社会の「豊かさ」の指標として、
利便性・快適性を重視



コンビニが一軒もなく、信号も一箇所しかない小値賀町には「便利で快適な暮らし」があるとは言えない・・・

そうした中でも、
小値賀の人たちは生き生きと暮らしており、
いくつになっても元気に生活している



最高にしあわせな人生ーKさんー



Kさん
(84歳)

「最高にしあわせよ、わたし。」
「私は掃除なんかするけん。あと
グランドゴルフ。それが楽しみ
じゃもんね。ひとつの生きがい。」
「子どもがいちばん頼り。元気に
しとってくれんばって言うてくれる。」
「いま、しあわせよ。死にたくなか。」

周りからは一見、不便で閉ざされている地域に見えるが、
人と人とのつながりが強く、それ故に誰もが**安心して**、
生きがいをもって暮らすことができる。
⇒「小値賀」という「しま」の暮らし

小値賀に暮らす高齢者の生きがい

【自然環境】

- ・「今が理想の生活。お金はないけど、その日その日生きていければいい。」
- ・「魚が安くあるし、おいしい」
- ・「島は小さいけど、いいところ。」
- ・「家族のような島」

【人間環境】

- ・「みんな仲良く、睦ましく暮らすということが基本であり、それが幸せ。」
- ・「小値賀は楽しい、楽しい島。」
- ・「誰かとつながっている」という感覚

生活の中の 楽しみ

- ・ 趣味（旅行・グランドゴルフ）
- ・ 食事
- ・ 墓参り

役割意識

- ・ ボランティア
- ・ グループ
ホームでの
役割

人との交流

- ・ 近所との
おしゃべり
- ・ 友達



小値賀町の信仰の形

毎日のお墓参り(祖先信仰)

(毎早朝 5:00-6:00)

- * 自分の家のお墓参りのみならず、親族のお墓参りもする⇒血縁関係が優先
- * 墓地の敷地内にある地蔵も掃除する
- * 女性が多いが、男性も墓参りを行う
- * お墓参りで情報交換をしている



お墓参りは、地域住民のコミュニケーションの場



共同体をつなぐ信仰

小値賀の高齢者を支えるしくみ

【小値賀島内】

【行政】

- ・小値賀町役場
- ・地域包括支援センター
- ・**社会福祉協議会**

【事業】

- ・買い物支援事業
- ・丸まタクシー

【高齢者施設】

- ・たんぼぼ荘
- ・養寿園
- ・**おぢかの家**

【つながり】

- ・近所の人
- ・友人
- ・親戚

高齢者

社会福祉協議会

小値賀の福祉を総括する。
地域のニーズと福祉を結び付けていくために、1995年から運営が始まった。

【主な活動】

相談事業・貸付事業・
介護事業

- ・介護保険が必要な人へのヘルパーの派遣
- ・通所介護：
生活援助や身体介護等
- ・「介護予防」



社会福祉協議会 局長
江川勉さん

小値賀の高齢者は、90過ぎても元気な人がたくさんいる。好きなように、好きなことをしながら生活できるのは、高齢者にとっての1つの生きがいとなっているところがある。自分の家で過ごしたいという気持ちは誰でも同じで、今まで過ごしてきた家で最期を迎えたいというのは、誰もが願うこと。だけど、一般的にはそれが叶わない現状にある。

グループホーム おぢかの家

2009年からグループホームの立ち上げを始め、2011年4月に開設された。
9名の入居が可能であり、2013年8月時点から、満室。



おぢかの家 施設長
西田キヨミさん

「大きな希望として小値賀で息を引きとらせてあげたいということがある。小値賀の高齢者は、都会には住めない。」
「自分たちが楽しくあることが、ケアにも大きくつながるため、職員自身が楽しくやれるような職場づくりを心掛けている。」
「これで良いのかということも、毎日自問自答しながら、夢中でやっている段階ですかね。」

しまの暮らしと文化

- 「寄り合い」や「講」の存在
- 鍵をかけない生活 → 家車・自転車・バイク → 鍵をかけたまま駐車する
- 回覧板や郵便物、宅急便 → 家の中へ 家への出入りが自由
- 冷蔵庫への出し入れ等
- 挨拶・声を掛け合う習慣
- 信頼の共同体
- 相互扶助と相互規制 (監視)
- 「終の棲家」への願い

3. 2019年度春期（講演日2019年6月17日）中畑 充弘

教養・文化「ことわざ社会心理学のすゝめ IV」
2019年6月17日（月）13:00～14:30
於：明治大学リバディアカデミー駿河台校舎

‘商い’におけることわざ —「損して得とれ」の会社神話

中畑 充弘

【エピソード — フィールド・ノートより A社営業部にて】

《scene 1》新規開拓先と予期せぬクレーム（寸法ミス抗議）

A社（鋼材流通）の課長は、大手優良鉄骨業 H社（大手ファブリケーター、以下「ファブ」と略記）からの新規「引合」に鼻息が荒かった。願ってもない話であり是非とも新規顧客として迎え入れたかった。再三の訪問の末、何とか同ファブと成約にまでこぎ着けたからだ。入念にデリバリーを打ち合わせ、待ちに待った初回納入を終えた3日後、予期せぬ問題が発覚した…（以下は大まかな電話のやりとりである）

H社（ファブ工場長）：「コラッ！大変なことをしてくれた…、寸法が間違っているぞ！」

A社（流通・営業課長）：「えっ！そんなわけは…貴社の購買に発注明細確認してもらえますか？」

（A社：営業課長には絶対、間違えていないという確信があった。大事な新規顧客しかも大手ユーザーゆえ細心の注意と再三のチェックを行って受注していたからだ）

H社工場長は電話を保留にしたまま、自社（H社）の購買本部に内線した

H社（ファブ工場長）：「納入業者（材料仕入先）が間違えおったわ！」

H社（本社購買部）：「ナヌ！そんな業者やめてしまえ！ちなみに寸法サイズは『●●●×▲▲▲』だ。切り直して持って来させろ！ウチの客（販売先ゼネコン）に申し訳が立たない！」

H社（ファブ工場長）：「……………」

（実はA社は指示通りのサイズできちんと納入していたのであった、つまり自身のミスであった）

内線を切り、再びA社との外線に切り替えた

H社（ファブ工場長）：「ええい！とにかく再度持って来い！この阿呆が！」

A社（流通・営業課長）：「そ、そんな…！即答はでき兼ねます。直ちに生産部に調査させ、弊社内で検討する時間を下さい。（辟易して）す、すみません」

A社課長は自社生産部が加工し間違えていた可能性もゼロではないと考え、早急に連絡することを約束し、とりあえずこの場は平謝りし、電話を切った。

《scene 2》各部門による罵倒、辞職覚悟の‘全面降伏’と再納入

A社課長は困惑し悩んだ…「せっかく開拓した客だ…しかし時間がない」と嗚咽気味に考えあぐねて、以上の経緯・事情を自社各部門に報告・相談を行った。

しかしながら…自社の各部門には不満が蔓延していた。

生産部門：「指示通り、ちゃんと切ったぞ（切断加工した）！何故、‘切り直し’せねばならぬのか？」

経理部門：「きちんと2回分請求できるのだろうか！それならいいぞ」

営業部門（上司）：「馬鹿者、何やってるんだ！しっかり我が社の正当、‘非’のなさを主張してこい！」

A社課長は社内の各部門に詫びて回った。何故、自身が罪を償わねば？！…そんなことも考える余裕のない程、焦燥感に駆られていた。ところが課長は悩んだ挙句、遂にある行動に出た…なんと‘辞表’覚悟で…、再度、H社工場長へ電話をかけたのであった。

「ウチの間違いでした。再度、納入し直します」

かくして、会社をクビになる覚悟で乾坤一擲、再三‘飛び込み営業’をかけていた大手ユーザー（H社）の言うなりに、言わば‘全面降伏’し、唯々諾々‘仰せの通り’にしたのであった

A社課長は後先の結果を考えず只々、生産部門に土下座して再切断・再納品を許諾して貰ったという…

<この男（課長）の運命は… 事の顛末は…>

ようやく再切断・再納入が完了した。この時点で整理すると、新規取引先（大手鉄骨業）に対し、納期遅延はおこしたが納入売上先のH社工場長（購買）の発注ミスはもみ消されたわけである。

ところが、A社課長にとってはこれからの正念場である。つまり自社内に対しては…

- 営業部門→ 売上^{ソウバ} - 返品（赤計上）^{アカトウ} + 再売上 = 1回の売上のみ
- 生産部門→ 返品製品がスクラップに。その間、置き場に困る。
- 購買部門→ 本来、他社に宛がわれるはずの母材および残材もロス。
- 経理部門→ 赤字決済。回収は2回目のみ。別途再送運賃発生。

といった難題が山積している。

（ここで、話は脱線するが）

以前 B社（A社のライバル社、商売敵^{アライバル}）にも、過去に同じようなことが起こっていた…つまり、B社も過去にこのH社（大手ファブ）に対して、売上・納品した後、‘不条理な‘返品’を喰らっていたのであった。ところがG社の対応が、A社のそれと唯一異なるのは…

「私たち（弊社）は自信をもって品質管理・寸法正確・納期遵守をモットーに貴社に良品を供給し続けております。万が一、寸法不良で納品させて戴いた場合、それは弊社の機械設備の能力・精度にかかわる重大かつ深刻な問題であり‘信用’を損なうものである、との危機感のもとに、常に機械技術・寸法精度・商品管理には万全を期しております。

従いまして、まず弊社の受注ミスは、よほどのことがない限り、あり得ないと自負いたしておりますので調査員を派遣し検品後、弊社の落ち度がないと判断した場合、貴社クレームに応じることはできませんし、さような場合は切り直し請求をさせていただきます！」

との書面で敷衍的に‘突っ跳ねた’のである。そして当然のことながら、切り直し請求（2回共請求）を押し切ったのである。無論、企業取引においてB社のとった対応は一般的にきわめて‘普通’ないし‘妥当’なものであるとされている。

《scene 3》思わぬ長期取引契約と出世（社長の斟酌）

— ‘結果’は勿論、‘プロセス’こそが‘神話’に—

数日後…、A社課長は悄然とし、降格処分を待つかのように「赤字決済報告書」をアンニュイな面持ちで作成していると、思わぬ人物から電話が入った。そう、あの日社工場長であった。電話の内容は、主に納品検収の報告であったが、工場長はさらにこう付け足した…

H社工場長：「(詳細には触れず) あなた(課長)の対応は、実に真摯な誠意ある対応だった…」に始まり、口さがない工場長にしては意外なモノ言いであったが、A社課長は彼への不信感に堪えながらも感動に電話対応した。しかし次の瞬間…思わず愕然とし、地獄から天国にも昇るような僥倖を得た。すなわち、その椿事の内容を端的に言えば、

「褒めて遣わず！以後、貴社を全面的に納入業者として出入りを許す！」

との好事であった。課長は工場長の御言葉を只々受け入れ、‘戦慄のお告げなるもの’を聞くかのような、‘ひれ伏す’態度で歓びを露わにしたのであった。

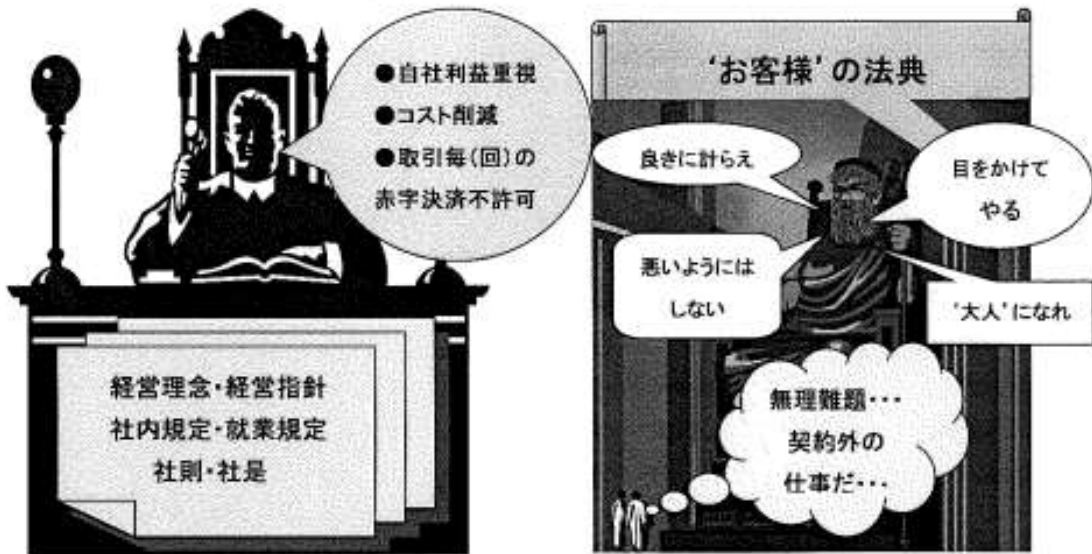
ここで忘れずに明記しておくが、B社（A社の商売敵）が、H社から‘出入り禁止’を言い渡されたのは言うまでもない。

<営業部長の英雄伝説ないし武勇伝 社長の斟酌?!>

この男(課長 48歳)は、自社の上位最恵先にまでなった新規優良取引先(大手ユーザー)を開拓した功績が認められこの後、課長から部長に昇進を果たした。しかも競合先(ライバル社)からの奪取という形で。

大手ユーザーは、A社をことのほか寵愛・重宝し、一時は罪をかぶり‘泣いた’対応をとったA社を信頼し、その後もA社を起用し、仕事を出してやっている。購買部長(工場長)は言う…「A社の担当者に惚れた」と。

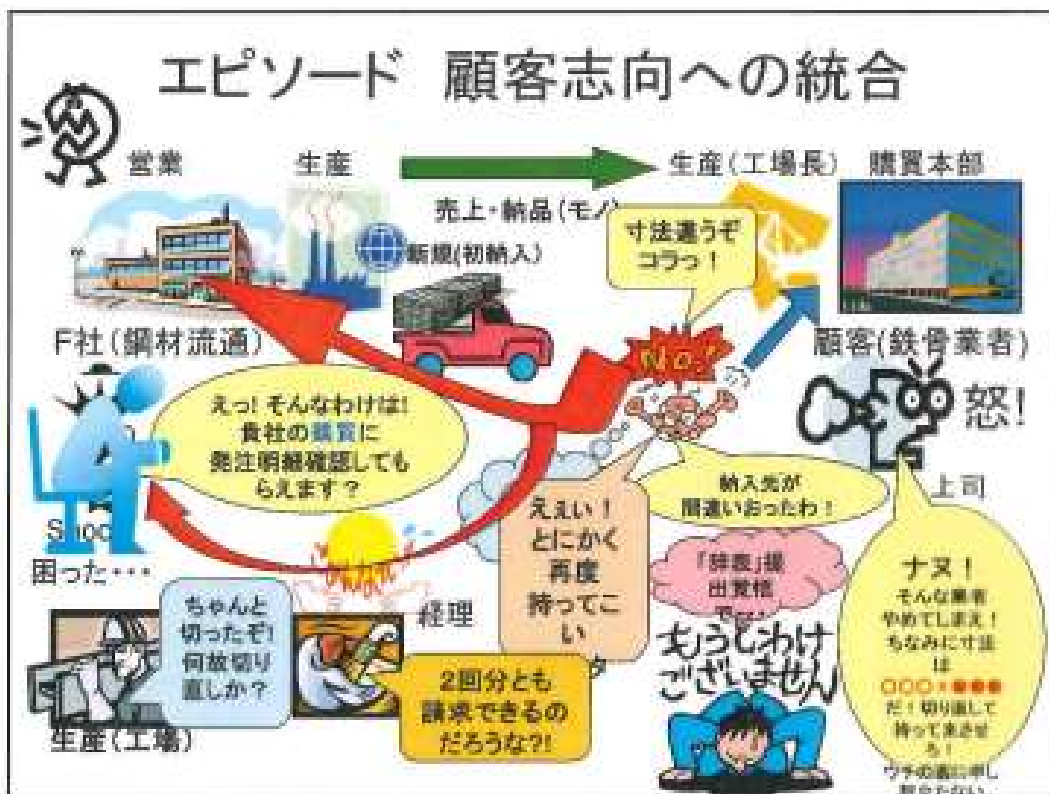
結果的に‘損して得をとった’にせよ、昇進部長は言う…「今の私があるのはお客さんのおかげ…正に‘お客様は神様’です」と。この実話ないし‘神話’が A社営業マンの英雄伝説となっている。



各部門の「言い分」と箴言・格言

- 営業部門 「お客様は神様です」「損して得とれ！」
「無い袖は振れぬ」(品揃え)
- 購買部門 「利は元にある」「買8分の利、売2分の利」
cf.本間宗久(1724-1803)江戸時代:相場の神様『宗久翁秘録』(後段)
- 生産部門 「現場を知らずに...モノ言うな！」
「大は小をかねる」
- 経理部門 「勘定合って銭足らず」
「安物買いの銭失い」





この男(課長)の運命は・・・ 事の顛末は・・・

新規取引先(大手鉄骨業)に対し⇒納期遅延はしたが、の発注ミスはもみ消されたところが社内に対しては・・・



営業→ 売上一製品(非売上)+再売上=1回の売上のみ
 生産→ 高品質製品がスクラップに その間、働き場に困る
 購買→ 製品を切り取られた母材の残材もロス
 経理→ 赤字決算 回収は2回目のみ 別途再送運賃発生



しかし以前 G社(F社のライバル社)

売上・納品

過去にも同じようなことが起こっていた

G社(従来)



V S

F社



以後、
出入り
禁止!!

私たちが(弊社)は自身をもって品質管理・寸法正確・納期遵守をモットーに貴社に良品を供給し続けております。復いまして、まず弊社の受注ミスは赤ほどのことがない限り、あり得ないと自負いたしておりますので、調査員派遣後、弊社の落ち度がないと判断した場合、貴社クレームに応じることはできませんし、きょうな場合は切り直し請求をさせていただきます！

営業部長の英雄伝説・武勇伝

社長の斟酌？！・・・

この男(課長和雄)は自社の上位最優先にまでなったこの新規優良取引先(大手ユーザー)を開拓した功績が認められこの後、課長から部長に昇進を果たしたしかも競合先(ライバル社)からの奪取という形で・・・

大手ユーザーは、F社をことのほか寵愛・重宝し、一時は罪をかぶり「盗いた」対応をとったF社を信頼し、その後もF社を起用し、仕事を出してやっている。購買部長(工場長)は言う・・・「F社の担当者に惚れた」と。

結果的に「損して得をとった」にせよ、昇進部長は言う・・・

「今の私があるのはお客さんのおかげ・・・

正に「お客様は神様」です」と。

この実話ないし「神話」がF社営業マンの英雄伝説ないし武勇伝ともなっている。

4. 2019年度秋期（講演日2019年10月28日）中畑 充弘

リバティアカデミー 2019年度 秋期
【ことわざ社会の理学のすゝめ V】
龍河台キャンパスアカデミーフロンティア
2019年10月28日（月）13:00～14:30

商いにおける「信用」をめぐることわざ

— 噂・流言飛語・吹聴のリアリズム —

中畑 充弘

【講義要旨】

本講義は、商いにおける「信用」をめぐることわざに関する事例の研究である。とりわけ「ウソも方便」「あとの祭り」「焦眉の急」を具に見て取れるケースを紹介する。先方・相手（組織や個人を共に含む）に対して与える信用、すなわち「与信」に関する分析と考察である。人間（担当者間）の、あるいは企業間の「信頼関係の現場」を扱うものである。会社及びそれに属する社員が顧客先に対してどのように信用を設定しているのか、信頼を与えているのかを観察し、どのような尺度でもって信用度なるものが測られているのかを精査することが目的である。

クライシスのケーススタディとして連鎖倒産を挙げる。そして特に、顧客との信頼関係が揺らいだ状態すなわち破綻寸前の取引先を持つ企業を例に挙げながら、その企業を取引先（売上先）にもつ企業（債権者）におけるクライシスの現場に直面した人々の対応や行動及び焦燥や動揺、また情報収集の様相を「社誌」^①（カンパニー・グラフィック）的に述べていく。具体的には1社が行き詰まっていくプロセスと、その1社を顧客（売上先）にもつD社の危機的状況を捉えていく。危殆に瀕した企業の対処法や善後策を模索する姿を克明に記述し名状することは、文化人類学的手法（とりわけ参与観察法）の得意とするところであり、これらを理論先行の予定調和的・法立定式的な分析だけで考察するには限界がある。「助付け理論」（この場合、企業の倒産原因を帰納的に道徳し一蹴すること）だけでは法人たる企業のダイナミズムを描くことはできない。

キーワード： ウソも方便・あとの祭り・焦眉の急

1 はじめに

企業間取引においては、「与信情報」の収集や取引先審査の方法は、近年の情報提供機関（興信所等）の進歩・発展とともに客観性・速報性が充実してきたが、依然、訪問し互いに話を交わす対面状況における身体系コミュニケーション（特にverbal communication）による情報伝達が支持されている。勿論、情報発信者（取引先各社）には、なんらかの恣意的な駆け引きや戦略があるケースが多いことは否めないが、本発表を通して、ますます人間自身が重要なメディアとなっていることが浮き彫りとなってくるはずである。

ここでは1社が倒産に至る経緯や「信用の崩壊」の過程を具体的に示し、D社のクライシス場面を「刹那」的に描写することで、堅固性と脆弱性の双方を併せもつ「信用」のリアリティを立体的に浮かびあがらせていく。単に企業が実践するリスク回避やその技法を羅列するだけに留まらず、現地調査における動態観察により、会社における緊急時の「社誌」（カンパニー・グラフィック）を多様な切り口からリアリティに描写することを主眼においている。会社間の「信用の崩壊」、また逆に「信用の創造」のプロセスにみられる人々の何らかの行動様式や価値体系を分析・考察することも視野に入れている。

2 本発表の目的・ねらい

- 顧客先に対してどのように信用を設定しているのか、与えているのかを観察し、どのような尺度でもって信用度なるものが測られているのかを精査する。
- 信頼関係が揺らいだ破綻寸前の取引先をもつ企業を例に挙げながら、会社においてクライシスの現場に直面した人々の行動・従事を記録する。
- リスク回避やパニック時にみられる対処法や、こうした「火事場」の最中に築かれる連帯を分析する。
- 会社間の「信用の崩壊」のプロセスを「社誌」的に描写することで人々の何らかの行動様式や価値体系を考察する。

2.1 与信とは・・・「信用」を与えること

「信用取引」とは⇒通常、品物を先に渡して後で代金の受け渡しをする取引、すなわち信用売買（信用販売・信用買付）全般を指し、

「人が他人を信頼することによって成り立つ、給付と反対給付との間に時間的なずれのある（信用）取引」

2.2 企業内外において、「信用」がないとどのようなことが起こるか？

- 相手からの情報が得られない。

- その情報が不正に歪曲する。
- 信頼度が低い相手に対しては情報量が取れて絞られる。
- 情報が矮小化されたりする。
- 取れて誤情報やウソが流されるのである。

3 “クライシス”のケーススタディー
連鎖倒産の悲劇 — I社の事例 —
(パワーポイントにて図示、参照)

- 3.1 I社ショック直後の反応
- 3.2 I社の事業内容
- 3.3 I社の社歴・沿革
- 3.4 I社：業績不振と低迷への一途 (その1)
- 3.5 I社：業績不振と低迷への一途 (その2)
- 3.6 連鎖倒産のクライシス J社⇒I社⇒D社
- 3.7 D社のクライシス：
— I社に対する貸倒発生と「社誌」的場面—
- 3.8 D社とI社との取引歴と経緯
— 従来D社はI社に直接売り上げてはいなかった—
- 3.9 D社のI社に対する貸し倒れ金額
- 3.10 I社の顧客であるJ社倒産時、
D社は直ちにI社に関する情報収集開始
- 3.11 D社が各情報筋を勘案して総合分析：
今やI社は瀕死・・・
- 3.12 「噂」の飛躍、氾濫や誤情報の流出、事実の歪曲
⇒D社(債権者)の焦燥感とパニック
- 3.13 なんと！一番被害があったとされたO社が
債権者会議を欠席

4 まとめ 及び 5つのキーワード

- 窮地に立った経営者が、会社存続のため設備投資による売上拡大をねらい、その財務的現実とのはざまでおこるジレンマ
- 倒産の起因の1つである「噂倒れ」を防ぐため顧客先に対して“ウソも方便”(信用を保つために周囲に危機を覚られない虚偽報告)を用いることによる延命か、それとも計画倒産か、支援をとり継ぎ債権者各社に命乞いをするか、の選択
- (倒産による貸倒発生によって、結果)騙された側、すなわち債権者でさえも周囲の他社からの評価も厳しくなるのである。なぜなら‘優良取引先がない’と判

断されるからである。

キーワード：“ウソも方便”、債務者のモラル、自己管理責任、「騙された!」、「あとの祭り」

5 “数値上”の与信とは・・・

- ほとんど「掛売り」による決済
- その手形サイトはおよそ120~150日
- 「与信限度額」の相対基準の算出式
- 「与信限度額」の設定を見直し、増枠もしくは減枠、与信懸念先に対する、取引額の絞り・縮小・撤退
【多角的尺度からのあらゆる情報】
業歴・規模・決算書(B/S・P/L)、資本構成、支払返済能力・社内の雰囲気・経営者の行動・態度等その噂に至るまで>から取引先を注視することが要求される。

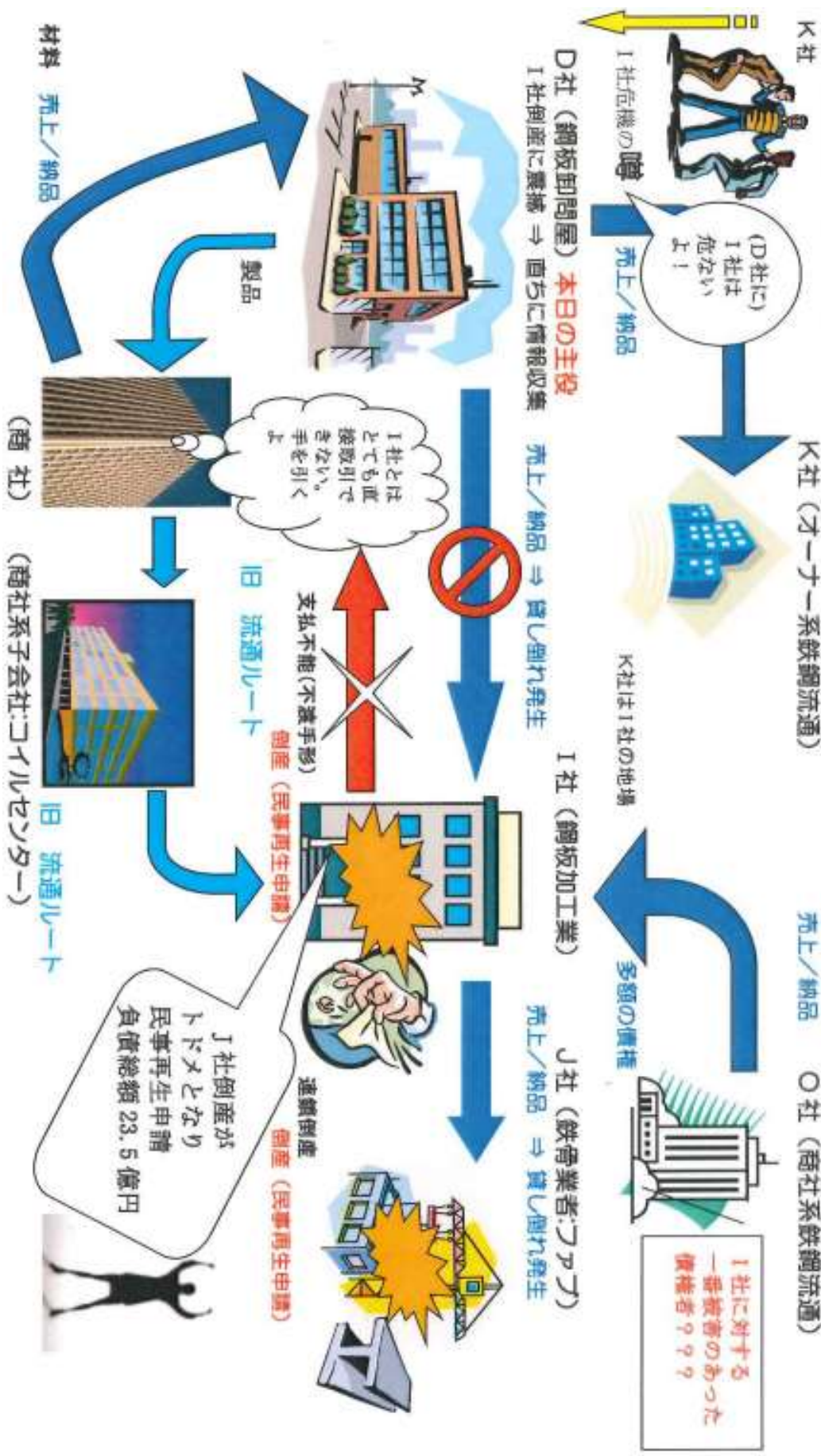
6 分析・考察のエッセンス

- いまわの際にみられた泡沫の「信用」
- 欺瞞に対する懐疑心や猜疑心、白眼視先・警戒対象
- 共栄・供託関係から不和・軋轢への様態
- 危殆に瀕した企業の今後の戦略
- 理論先行の予定調和的考察かつ法立定式的分析の限界
- “跡付け理論”(企業の‘倒産原因’を帰納的に道破し一蹴すること)では、企業のダイナミズムを描けない
- 企業のジレンマ・クライシス場面における焦眉の急
- 企業崩壊のプロセスのシナリオ
(複雑要因が連鎖⇒兆候の現出⇒デッドロック)
- 与信懸念先への‘噂’、流言飛語、吹聴
- 計略的なアイロニー、悪意に満ちた歪曲、恣意的な陥穽
- 警戒先としての伏線、婉曲的なリアリズム
- 「信用」は、単にモラトリアム(支払猶予)ではない
- 「信用」を与える側⇒慧眼し刮目する姿勢
- 「信用」を与えられる側⇒真摯に胸襟を正し披瀝する態度

<参考文献>

- [1]中牧弘允・日置弘一郎『経営人類学とはじめ—会社とサラリーマン—』大阪、東方出版、1997年、18ページ。
中牧は「会社の『民間誌』は、社史ならぬ『社誌』とし開示する価値がある。そこで社史のような会社の歴史的(ダイアクロニック)な記述よりも、会社の経営や社員的生活の切り口(シンクロナック)に描き込まれるであろう、社史の同時性に対し、『社誌』は同時性には重みづけられることになる」としている。

【登場企業一覧 相関関係図】



5. 2022年度春期（講演日 2022年7月11日）藤村 美織

2022年7月11日

2022年度春期 明治大学リバティアカデミー <学際的事ことわざ学>

ドイツの食文化とことわざ

藤村 美織

食べることは私たちの生命に直結するとともに、農業を始めとする産業、習慣、文化とさまざまな形で繋がっている。日本と同様、今日のドイツでは、50年前、100年前と食生活が変化してきた。どちらも大量生産の加工品や他国の食材が増えている。健康への意識も高まった。もちろん昔ながらの食生活が消えたわけではない。関連するドイツ語のことわざも実に豊かである。その表現はドイツ産のものばかりでなく、時を超えて、また食を越えて、様々な分野と絡み合ってきた。

I 生きる基本としての食、人として食べることの意味とは？

1. **Wir leben nicht, um zu essen – wir essen, um zu leben. (Sokrates)**

食べるために生きるのではなく、生きるために食べる（ソクラテス）

人は生きるために食べる。食べることは生きる基本。古今東西、それは変わらない。古代ギリシャのソクラテス（紀元前 470-399）の言葉が、今日の日本、ドイツにも伝わっている。「生きるために食べよ、食べるために生きるな」とも日本語ではいう。

2. **Der Mensch ist, was er isst (Feuerbach)**

人間は何を食べているかである（フォイエルバッハ）

何を食べるか？それが重要である。私たちは食べたものでできていると言ったのは19世紀ドイツの哲学者、フォイエルバッハ（1804-1872）であった。ドイツでこれが人口に膾炙したのは、言葉遊びの面が強い。ドイツ語の be 動詞、sein の三人称単数、ist(イスト)と動詞「食べる」essen の変化形、isst(イスト)が同音なのである。

3. Essen und Trinken hält Leib und Seele zusammen.

飲食は心身をつなぐ

食えることと飲むことは身体と精神のありかたに関連する。きちんと飲食をとれば心身の調子もよくなる。Johann Phillip Förtsch の Singspiel, 歌入り芝居、歌唱劇『異国の騎士、ラマンチャのドンキホーテ』(1690) のテキストが一般化した。(セルバンテスのドンキホーテは 1605、1615)。「衣食足りて礼節を知る」とも重なる。

4. Der Mensch lebt nicht vom Brot allein.

人はパンのみにて生きるにあらず

心身に注目して、聖書由来の有名な成句へ。申命記 (8-3)、マタイ伝 (4-4) には、「人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言葉で生きるものである」とある。物質的なものだけでなく、精神的なものが大切だと説いたものだ。有名ゆえにパロディも多い。+バター、ジャム、チーズ、スープ等。

5. Ohne Mampf kein Kampf.

たらふく喰わねば戦えず

何はともあれ、食うや食わずでは苦しい。空腹では頭が働かないし体も動かない。「腹が減っては軍(いくさ)はできぬ」というのはドイツでも同じ感覚である。今日、これは各種グッズで多用されている。エコバック、エプロン、朝食用ボード等。

6. Ohne Kaffee können wir nicht kämpfen.

コーヒーなくては戦えない

ザクセンには、「戦う」を使ったコーヒーのヴァージョンがある。ザクセンの都ドレスデンではコーヒー文化が栄え、近くのマイセン磁器工房でカップが作られた。ザクセンのライプツィヒには、ドイツ最古のカフェの一つ、カフェ・バウム(創業 1686)がある。この街で活躍したヨハン・セバスチャン・バッハ(1685-1750)は、18世紀、社会問題としてのコーヒー依存症を題材に「コーヒーカンタータ」も作曲した。

7. **Erst kommt das Fressen, dann kommt die Moral.(Brecht)**

まず喰うこと、道徳はそれからだ (ブレヒト)

食べなくて働けない。身体や精神にも影響が及ぶ。ブレヒトの代表作、『三文オペラ』は 1928 年初演で当時のドイツ社会への痛烈な批判がこめられた。そのソングの一節が人びとの間に広まる。「貧すれば鈍する」「衣食足りて礼節を知る」「花より団子」と通じるだろう。

II 空腹、食欲、食べすぎについて

8. **Hunger ist der beste Koch.**

空腹は最高の料理人

日常生活で、「お腹がとても空いた」「お腹ぺこぺこ」のことをドイツ語では比喩的に **Hunger wie ein Bär / Wolf haben**. (熊 / 狼のようにお腹がすいた) という。そんなときは何でもおいしい。「すきっ腹にまずいものなし」。空腹のことわざは古代ローマから存在し、英語で「最高のソース」、ドイツ語では「最高のコック」と結びついた。

9. **In der Not frisst der Teufel Fliegen.**

ピンチで悪魔はハエを食べる

食べ物の選択肢がない場合、あるもので間に合わせるしかない。せっぱ詰まった状況で、人はどんな食べ物も受け入れる。悪魔の場合は人の魂を食べるらしい。しかしピンチになればハエでよしとする。拡大解釈されて、「背に腹は代えられない」に通じる。なお、ハエ (Fliege) はドイツ語の「一石二鳥」の表現にも出てくる。**Zwei Fliegen mit einer Klappe schlagen**. (二匹のハエを一撃で捕まえる) という。

10. **Der Appetit kommt beim Essen.**

食欲は食べることで出てくる

一般的に、食欲についてどう考えるか？ 16 世紀のフランスの文豪、ラブレーの『ガルガンチュワとパンタグリユエル』(1532~1564)は 19 世紀前半ドイツ語に翻訳された。その一節が、フランスでもドイツでも今日まで生きている。食欲だけでなく、あらゆる欲望や気持ちに対しても使うようになった。もちろん勉強にもあてはまる。

11. Ein voller Bauch studiert nicht gern.

満腹では勉強する気なし

確かに、お腹いっぱい食べると勉強する気持ちは失せる。すでに古代ローマから伝わるラテン語のことわざが、ヨーロッパ各国語に翻訳された。日本語では「腹の皮が張れば目の皮が緩む」といって、さらに具体的な身体表現になる。

12. Was der Bauer nicht kennt, das frisst er nicht.

農夫は知らないものを食べない

お腹の空き具合と関係なく、食べたくないときがある。これまで食べたことのないものに食指が動かないこともよくあることだ。例えば、生の魚、ゆば、餅などを拒否するドイツ人に強制することはできない。

13. Lieber den Magen verrenkt als dem Wirt was geschenkt.

店主に贈る（戻す）よりお腹を壊す方がまし

逆に、満腹しても食べ続けることがある。日本人としては、「勿体ない」という言葉と結びつく。ところが、ドイツ語では、まったく違う視点で、ふざけたような言い回しが広まっている。外食する際、支払った以上は食べきるのだと。

14. Allzuviel ist ungesund.

多すぎては不健康

満腹というのは腹いっぱい、十分以上という感覚か。日本語では、「腹八分目」が健康によいとされる。食べすぎは身体に悪い。論語出典の「過ぎたるは及ばざるが如し」では、多すぎ、やりすぎが少なすぎることと同じだという。つまり同じようによくない。一方、ドイツ語では、ストレートに健康と関連させる。食べすぎはもちろんだが、今日、むしろ、一般的に使われることわざで、運動しすぎ、働きすぎ、寝すぎ、遊びすぎ、ゲームのしすぎ、なんにでも！

III 健康について

15. Lachen ist gesund.

笑うのは健康によい

さて健康といえば、どんな言葉を連想するだろうか。ドイツ語のことわざで、健康と結びつく単語として、まず富、財産がある。「健康は富よりまさる」という比較級のほか、**Gesundheit ist der größte Reichtum (健康は最大の富)**と最上級の形容詞でずばり言い切る。そして「笑い」との組み合わせも知られている。

16. Gut gekaut ist halb verdaut.

よく噛めば半ば消化したも同じ

食事と健康の面で、咀嚼について、よく知られたことわざである。多少は誇張しているが当然な内容だといえる。当然すぎて、日本語の感覚ではことわざではない。しかし韻を踏んで口調がよく、教訓を含む、立派なことわざである。しっかり噛んで食べれば、よくこなれる。ろくに咀嚼しなければ途中でむせたり、消化不良に。

17. Trocken Brot macht Wangen rot.

何もつけないパンが頬を赤くする

生命線、生活必需品を意味するのが、**Salz und Brot (塩とパン)**である。**Brot und Salz, Gott erhalt's (パンと塩は神が養う)**と古いことわざはいった。実際、ドイツではパンをよく食べる。朝は丸パンでジャムやチーズ、夜はライ麦パンのスライスでハムやサラミが一般的。朝晩、火を使わない家も多い。ことわざに粗食のすすめが残る。次の文も二重に韻を踏んで、記憶に刻みやすい。**Salz und Brot macht Wangen rot (塩とパンが頬を赤くする)**。最初にあげた何もつけないパンが最もシンプルだ。

パンは重要であり、さまざまな成句に現れてきた。

Altes Brot ist nicht hart, aber kein Brot, das ist hart.

古いパンはハードでない、パンがないこと、これこそハード (言葉遊び)

Ein Stück Brot in der Tasche ist besser als eine Feder auf dem Hut.

ポケットのパン一切れは帽子の羽よりまし (花より団子)

Wes Brot ich ess, des Lied ich sing.

パンを食べさせてくれる人の歌を歌う（雇い主、上司をほめそやす）

Die Kunst geht nach Brot.

芸術はパンに従う（芸術家も食べて行かなければならない）

Kleine Brötchen backen.

小さい丸パンを焼く（控え目にする。主張を引き下げる）

Wie warme Semmeln weggeh.

焼きたての丸パンのように消える（飛ぶように売れる）

18. Fressen und Saufen macht die Ärzte reich.

暴飲暴食は医者を富ませる

健康に戻ると、近年、日本では「医食同源」という言い回しに再び光が当たっている。病気の治療も食事とともに生命を養い、健康を保つ上で同じだという考えである。「病は気から」ともいうが、病気が食べたものの結果であることは多いだろう。食べすぎを繰り返し、あしき生活習慣が重なれば病気になり、医者のもとに行かねばならなくなる。日本で、食と医者と関連させたことわざといえば、「味噌は医者いらず」がある。

19. Wenn's am besten schmeckt, soll man aufhören.

一番おいしいときに、やめるべし

おいしいと食べ過ぎてしまうのは人の常。それを戒めることわざである。これは、ドイツ語にしかないが、意味として少し残念な気もする。結局、節制のすすめであり、先ほども取り上げたが「腹八分目」につきるだろう。

20. Milch macht müde Männer munter.

牛乳は疲れた男を元気にする

戦後、健康のために、牛乳を飲むことが奨励された。1950年代、当時の西ドイツで、牛乳の宣伝文句に使われたスローガンは、今日まで生き延びて、それを入れた商品が販売されている。5つの単語がMで始まり、語呂がよい。しかし、ジェンダーの問題がクローズアップされて、今後も生き続けるかどうかはわからない。

21. Nach dem Essen sollst du ruhn oder tausend Schritte gehen.

食後は休むか千歩歩くべし

食べた後に一休みは常識だと思われるが、かつて日本では「食べてすぐ横になると牛になる」とも言われた。もっとも畳に座って食事をした時代、すぐに横になれたわけでもマナーの要素が強かった。すでに死語になりつつある。江戸時代の「養生訓」でも食後、少し歩くことはよしとされた。それでも、千歩までとは言っていない。

22. Abwarten und Tee trinken.

待とう、そしてお茶を飲もう

今日、健康といえば、心のありかたも重要視されるようになった。ストレスなく、心穏やかに過ごすことは健康長寿の鍵ともいえる。せかせかすることなく、ひと休みしたり、ゆっくりする時間を大切にしたい。お茶を飲んで、くつろぐことを説くのは私たち全てに響くだろう。ところで、ここでのお茶とは何だろうか？

IV 味覚、感覚をめぐって

23. Über Geschmack läßt sich nicht streiten.

好みについては争えない

Die Geschmäcker sind verschieden.

好みはさまざまである

ドイツ語の Geschmack という語は「味覚」のほか、「嗜好、好み、味」も意味する。この語を含むことわざが古くからよく知られて、独和辞典では「蓼食う虫も好き好き」と訳されてきた。人の好みはいろいろということである。

24. Sauer macht lustig.

酸っぱいのは楽しい

味覚について、酸っぱさを想像してみよう。酸っぱいというのは、快不快のどちらかといえば、やや不快に近いのではないだろうか。ドイツ語で **sauer** (酸っぱい) といえば、リンゴ、レモン、酢、ピクルス、ザウアークラウト、ワインと結びつく。このこ

とわざの科学的な根拠は不明だが、食卓で実際によく使われる。それが酸っぱさの中和としての要素があるかもしれない。

25. Verbotene Früchte

禁断の果実

果実が出てきたので、ここでリンゴを覗く。旧約聖書の創世記で、アダムとイブは **Verbotene Früchte** (禁断の果実)をエデンの園で食べてしまった。この果実あるいは木の実には諸説あるが、リンゴとの連想が強い。リンゴの成句を見てみよう。

In den sauren Apfen beißen.

酸っぱいリンゴをかじる (仕方なく気の進まないことをする)

Der Apfel fällt nicht weit vom Stamm.

リンゴは幹から遠くに落ちない (瓜のつるに茄子はならない、蛙の子は蛙)

Ein Apfel pro Tag hält den Doktor fern.

一日一個のリンゴが医者を遠ざける

Ein fauler Apfel steckt hundert gesunde an.

一つの腐ったリンゴは百のよいリンゴにうつる

Wenn ich wüßte, daß morgen die Welt unterginge, würde ich heute noch ein Apfelbäumchen pflanzen.

明日世界が滅びようと今日リンゴを植える。(ルターの言葉とされる)

26. Rache ist süß / Blutwurst.

復讐は甘い味 / 血のソーセージ

味覚に戻って、酸っぱさの次は甘さへ。 **Verbotene Früchte sind süß** (禁断の果実は甘い) と知れ渡っている。さらに比喩的に扱われたことわざでは、復讐との結びつきが際立つ。冗談めかして口にして、仕返ししてやろう、今度は自分の勝ちだと優位に立つ。同じ意味で「復讐は血のソーセージ」が今日でも知られている。

27. Die Kirschen in Nachbars Garten schmecken immer ein bisschen süßer.

隣の庭のさくらんぼはいつもちょっと甘い

味覚の甘さでは、隣の庭のさくらんぼをとりあげて、他人のものはよく見えるとい

うたとえがある。**Das Gras auf der anderen Seite des Zaunens ist grüner.** (隣の芝生は青い) もよく知られていて、これは英語からドイツ語に入った。日本語も同様である。

28. In der Kürze liegt die Würze.

短さのなかに味がある

次は、味覚でもピリッとした感覚を見る。上のことわざのなかで、**Würze** は直訳すると、スパイス、香辛料である。料理のなかで、香辛料が全体の味を決めるイメージである。このことわざは、簡潔な表現こそピリッとしてよいと説く。比喩的に文章やスピーチにあてはめるのが一般的だ。シェイクスピア『ハムレット』のセリフ、「簡潔さが機知の精髓」のドイツ語訳にも使われた。

29. Die Augen sind größer als Magen.

目は胃よりも大きい

食事は味覚だけと関わっているわけではない。五感のなかで、視覚も大きな役割を果たす。見ることと食べることを関連づけたことわざがある。ドイツでは、大皿から自分で小皿に取り分けることが、日本よりも多い。つい食べられる分以上にとってしまうのは子供だけでも限らない。

30. Das Auge isst mit.

目が一緒に食べる

食卓をきれいに飾り、盛り付けを工夫するのはドイツでも見られる。ロウソクを灯すこともよくある。一般的には日本のほうが見た目にこだわるかもしれない。和食の店では、「海の幸、山の幸」をきれいに並べる。器にも心を配る。それでも家庭のレベルを見れば、どちらもシンプルにそれぞれの良さ、それぞれの心地よさがあるのではないだろうか。

V 食材、食べ物を中心に

31. Die dümmsten Bauern haben die größten Kartoffeln.

一番愚かな農夫が一番大きなジャガイモを得る

このことわざでは、努力と関係なく幸運に恵まれることをいう。ドイツで主食といえばジャガイモだと言われてきた。しかし、それは揺らいでいるようだ。朝と夕はパンを食べ、お昼に肉とジャガイモというのが伝統的であったが、昨今は平日昼を軽くすまして、週末の昼のみ典型的なドイツ料理を食べる人も少なくない。多様性の波に押されて自由になってきたのが今日である。

32. Die Kastanien / Kartoffeln aus dem Feuer holen.

火中の栗 / ジャガイモを拾う

日本語でも有名な言い回し、「火中の栗を拾う」は、ラ・フォンテーヌの『寓話』の「猿と猫」から各国語に入った。猿が猫をそそのかして暖炉の中の栗を拾わせる話で他人のためにわざわざ危険を冒すことをいう。ドイツ語では、栗のほかに、近年はジャガイモのヴァージョンも同じように使われるようになった。

33. Schwein haben.

豚を持つ（幸運である、ついている）。

ドイツでよく食べる肉といえば、まず豚肉である。一方で、豚は幸運の象徴としても大切にされてきた。**Glücksschwein**（幸運の豚）という言葉もあり、豚の貯金箱や置き物を目にすることが多い。

34. Alles hat ein Ende, nur die Wurst hat zwei.

全てに終わりが一つあり、ソーセージだけには二つ。

そして肉（主に豚）を加工したソーセージ、ドイツ語で **Wurst** は種類の多さ、手軽さ、人気の高さで国民食といってよいだろう。当然、ことわざや慣用句がいろいろ生まれて親しまれてきた。上のことわざは歌の一節になり、復活した例である。

35. Mit Speck fängt man Mäuse.

脂身でネズミを捕る

豚肉の脂身の含まれた部分はベーコン、ドイツ語で **Speck** であり、好まれている。「ベーコンの塊を求めてソーセージを投げる」(**Mit der Wurst nach der Speckseite werfen**) は「海老で鯛を釣る」のドイツ語版といってよい。小さな元手で大きな利益を得ること。上のことわざは、甘い言葉で人を思い通りにすることの譬えである。

36. Sich gleichen wie ein Ei dem anderen.

二つの卵のように似ている (瓜二つ)

日常的な食べ物として、卵もその一つに挙げられる。ドイツ語で、卵の黄身 (**das Gelbe vom Ei**) といえば、卵の中でも一番美味で最良の部分とされることから、比喩的に「最高のもの」を指す。また、日本語ではそっくりなことを二つに割った瓜のようだと、「瓜二つ」というが、ドイツ語では卵を使って表す。

VI 台所と料理

37. Eigener Herd ist Goldes wert.

自分のかまどは金の価値

かまど (**Herd**) は、本来、家の中心にあって、そこから団らん、家庭のシンボルとなった。今日、この語はレンジも指す。ドイツの機能的なキッチンと磨かれた美しさには、目を見張ることが多い。このことわざは、「我が家にまさるものなし」という意味で、独立して自分の住まいを持てる幸せをいう。

38. In den Teufels Küche kommen.

悪魔の台所に入る (窮地に陥る)

台所 (**Küche**) は、料理法や料理という意味も含む。悪魔の台所は地獄にあって、そこに行くのは非常に危険だと想像しやすい。日本の別府温泉の海地獄、血の池地獄、長野の地獄谷温泉のイメージは、そんなに悪くないのでは？

39. Es wird nichts so heiss gegessen, wie es gekocht wird.

煮た熱さのままで食べるものはない

料理する (**kochen**) とは火を使って加熱調理することだ。したがって、この動詞は煮る、ゆでる、湧かすの意味もある。煮え立てでは熱くて食べられないし、そのまま口に入れることはない。このことわざは、「案ずるより産むが易し」に通じて、取り越し苦労することはないことの譬えである。

40. Hier (dort) wird auch nur mit Wasser gekocht.

ここ (そこ) でも水だけで煮炊きする

もう一つ、同じ動詞 **kochen** を使ったことわざを挙げておきたい。結局、どこでも水で煮炊きするのであり、人は大して変わらないことをいう。料理を離れて、一般的に使われる。

41. Viele Köche verderben den Brei.

料理人が多いと粥をだめにする

料理する人、料理人 (**Koch**) についての古いことわざが長く使われてきた。先頭に立つ人が多くいと物事が必ずしもうまくいかないことの譬えで、日本語の「船頭多くして船山にのぼる」と重なる。

42. Liebe geht durch den Magen.

愛情は胃を通っていく

おいしい料理は人を喜ばせ、一緒の食卓はお互いの気持ちをつなぐ。このことわざに料理という言葉は入っていないが、かつては、料理上手の女性が男性の胃袋をつかみ、心をつかむことを指していた。今日では男女を問わず、カップルに限定されることもない。自宅で手作りの料理でもてなすこと、友人や家族で楽しむことを中心に、さらにはレストランでの料理を囲むことにまで、ことわざの意味が広がり、生きてきた。

VII 酒～ビールとワインを中心に

43. **Wein auf Bier, das rat' ich dir, Bier auf Wein das laß sein.**

ビールの後のワインは勧めるが、ワインの後のビールはやめておけ。

ドイツはビールの消費量が多い国である。世界最大のビール祭、オクトーバーフェストはバイエルン州ミュンヘンで開催される。しかし、ワインの生産もドイツ各地で盛んである。両方とも好きな人はどちらから飲んだらよいか？

44. **Das ist mein Bier.**

これは私のビールだ（君の知ったことではない。私の問題）

Das ist nicht mein Bier.

これは私のビールではない（私は関知せず。私の問題ではない）

ドイツのビール純粋令は、「ビールの原料は麦芽、ホップ、水、酵母に限る」という法律で、1516年バイエルンで制定された。日本人がビールを飲むようになったのは明治以降だ。1884年から88年まで、ドイツに留学した森鷗外は文学作品の翻訳、ドイツ滞在を題材にした小説を残したが、日本にビール文化の紹介もした。

45. **Wer nicht liebt Wein, Weib und Gesang, der bleibt ein Narr sein Leben lang.**

ワイン、女性、歌を愛さない者は一生愚かのみである

ビール純粋令ができた頃は、マルチン・ルター（1483-1546）が生きた時代である。ルターは宗教改革の推進だけではなく、聖書をヘブライ語および古典ギリシャ語からドイツ語に訳した功績が燦然と輝く。これにより、普通の人々が聖書と親しめるようになった。ことわざ辞典も編んでいる。（文献にはないが）ルターゆかりの言葉として後世に伝わる言葉のなかに、ワイン絡みの成句も入っている。

46. **Es ertrinken mehr Menschen im Weine als im Wasser.**

水よりもワインで溺れ死ぬ人のほうが多い

お酒は飲むと楽しいが、飲み過ぎには注意！ 病気になったり、家庭内または社会で大きな問題を起す人が後を絶たない。**Ist der Wein im Manne, ist der Verstand in der Kanne.**（ワインが体に入ると理性は器に入る）は多くの人に実感できるだろう。酒で身の破滅を招くのは、残念ながら古今東西を問わない。

47. Im Wein liegt Wahrheit. (In vino veritas)

ワインの中に真実がある

しかし適量を守れば飲酒は「百薬の長」となり、生涯の道連れになる。一人で飲むもよし、人と語り合うもよし。お酒にはリラックス効果があり、口を軽やかにし、愛の告白をしたり、他人を批判したりとその力は小さくない。ラテン語由来の有名なことわざがある。ニコライ・ヴォルム著 „Täglich Wein“ (「毎日ワインを」邦題『ワインが健康に良い理由』)の第一章のタイトルとして、このことわざに「健康」が加わり、本文では「幸福」も入れられていた。

最後に、次のことわざで結びとしたい。ボジョレー・ヌーボーのフレッシュな味もよいが、やはり熟成したワインを長年の友や家族とともにじっくりと味わいたい。これも真実ではないだろうか。

48. Guter Wein und gute Freunde...je älter desto besser.

よきワインと友人は、、、、年を重ねてもっとよくなる

飲食は生命を支えながら、生活の楽しみでもある。好みの違いや習慣性も強い。ドイツの食は質素、シンプルといわれるが、なかなかどうして、言語表現と共に奥深く、豊かな味の世界が広がっている。約70のことわざを通して、それが生命、感覚、文化、社会と密接に関わっていることを見た。講座では個人的な画像を使った。配付資料はことわざリスト（ドイツ語原文と和訳）のみだったが、今回、画像を省き、文章で補った。

参考文献

Scholze-Stubenrecht, W., Redewendungen.,2020, 5., vollständige überarbeitete und erweiterte Auflage. Duden Band 11. Dudenverlag, Berlin.

藤村美織 2018 『ミニマムで学ぶドイツ語のことわざ』 クレス出版

日本ことわざ文化学会編 2020 『世界ことわざ比較辞典』 岩波書店、ほか

Miori Fujimura miorit@ca.em-net.ne.jp

6. 2022年度春期（講演日 2022年7月25日）大田 朋子

講義録概略

明治大学リベティアカデミー 【学際的事物わざ学】 令和4年7月25日 月

今に生きる病とことわざ

大田 朋子

「先人たちが向き合ってきた体と心の不調や病、
ことわざから考察してみましよう。」

★はじめに

科学や医療が進んでも我々は細菌との闘いであることを実感したコロナ禍の昨今、先人たちはどのように流行り病、疫病に立ち向かってきたのでしょうか。コレラ、チフス、天然痘等々、免疫学や細菌学等の解明はもちろん、一般的には医療に対する知識の少なかった時代、先人たちが対峙してきた心身の不調や病、主に予防と対処に関する「ことわざ」からみていきたいと思えます。

なお「ことわざ」の一般的分類では、本稿項目は「身体・健康」に該当しますが、先人たちが「病」と対峙する「コト」と「ワザ」への姿勢から、分類を次の3つとします。また、現在使用されない言葉もありますが、地域文化として掲載します。ご了承ください。

I 飲食（a, 季節不問日常）（b, 季節限定）

II 自然（注意喚起）

III 行為（予防と推奨）

（この後関連することわざを以下の I から III に分けて各項多数列挙しましたが紙面の都合上割愛致します。受講生の皆さんと唱和、説明、意見交換しながら進めました）

I 飲食（a, 季節不問 日常）

☞ 考察キーワード

・推奨、禁忌等々。○か×か、ヤレ！とヤルナ！のパラドクス

例：「一石二鳥」⇔「アブハチ取らず」、

「血は水よりも濃い」⇔「きょうだいは他人の始まり」

飲食（b 季節限定）

☞ 考察キーワード

・食べ過ぎ、食あたり、冷えの戒め

・時代と流行り病

・医学的根拠の有無

・周利槃特（シュリハンドク 逸話）

・土地言葉と習俗

・重陽の節句と生薬（VB1）

・言葉のシャレ

・殺生の戒め、仏教との関わり

II 自然（注意喚起）

④ 考察キーワード

・自然への驚異と敬意 ・躰と礼節

・掛詞 ・衛生面への配慮

III 、行為（予防と推奨）

④ 考察キーワード

・流行り病への対処 ・たかが風邪、されど風邪

・怠惰の戒め ・躰と礼節

・東洋医学鍼灸 ・夏の蚊よけ ・生活リズム

・年長者への敬意と慰め→実は・・・

★まとめ

・厳しい自然条件⇒四季を享受・重視(脅威と驚異、喜びと祝い)

・礼節重視

・年長者への敬意と濃密な人間関係

特に厳しい自然環境と閉じた地方社会の中では上記を重視。

多様な「ことわざ」に先人たちの病や健康に対する気構えをみる。

・病への脅威

・日々の精進

・規則正しい生活

・働くことの意義

・自然の恵み・飲食への関心と感謝

・人や礼儀作法重視

★結びにかえて

これらを簡潔・明瞭に伝える先人たちの知の結集、それが「ことわざ」。荒唐無稽ととる向きもあるものかもしれませんが、医療や科学の発達していなかった時代、地方では「医者どん かかるは最後の手段」(新潟県の主に山間部豪雪地帯で大正時代に言われた)という言い伝えがあるように、健康増と疾病予防のために「ことわざ」を利用してきたと考えます。

はるか昔、病の対処には占い、加持祈祷という古典的手段もあったでしょうが、庶民にとっては古老の知恵や伝承・まじないも立派な民間療法や疾病予防であったと考えます。言い伝え、まじないにみる身近なコトの葉「言・事」+ 予防も含めた民間療法「技」の融合「コト+ワザ」のあれこれは、現代にも通じるものがあるようです。

ほかにも、病に関することわざは多々ありますが、今回は特色のあるものをご紹介します。言い回しや表現には地域によって多少の差異があることをご了承下さい。皆様の地域やふるさと、人生の先輩方の記憶の中にも存在する「ことわざ」を見つける一助となれば幸いです。

*掲載の「ことわざ」は筆者が主に新潟県内で採取、調査したものの一部ですが、ことわざの探求は世代間交流と高齢者の記憶回想療法にも役立ちます。

参考文献「新潟県大百科事典」(新潟日報事業社)「新潟県史 22」(新潟県)「滅びゆく民族文化」(磯辺定次 野島書店)「おもしろえちご塾」(大田朋子 恒文社)「郷土とことわざ」(人間の科学社)

なお、本稿は講義で受講者の皆様に配布した資料のアウトラインです。実際提示した「ことわざ」は多数あり、ページの都合と以前ネット掲載原稿をそのまま無断使用されたこともあり、省略致しましたことをご了承ください。

受講の皆さまと「ことわざ」の唱和でそのリズム、調子の良さを実感していただけたかと思います。発言や質問も活発にされ、こちらにも有意義な時間となりました。

勝手ながら当日は、机上の端に穴田先生の微笑んでいらっしゃるお写真を飾り講義を致しました。このような機会をいただき感謝いたします。ありがとうございました。

第3章 ことわざ市民講座—千葉県市原市の紹介

川島 洋

令和3年度 「辰巳公民館主催事業」

ことわざ社会心理学

第4回 ことわざ創りの実践とその可能

—いろはことわざ創りでことわざを創ってみましょう—



講師：川島 洋

大月短期大学兼任講師

ESP 学園 音楽専門学校 ESP エンタテインメント講師

NPO 法人 郷土のことわざネットワーク「NPO ことネット」理事

1、はじめに

私がこれまで色んな方に創っていただいた創作ことわざを紹介しつつ、強制ではありませんが、皆さんにもことわざを作っていただこうと思っております。

2、郷土カルタ

千葉県郷土カルタ

創作かるた【事例1】

「野田カルタ」(2007年、野田レクリエーション協会)



「関宿城 川の歴史の 博物館」「将門の伝説残る 野田の町」「名物は 枝豆、和菓子 おせんべい」

これらは、読み札に書かれている句です。野田の名所や旧跡、文化、伝統などが詠まれています。そして、絵札には手描きのイラストで場所や物、その句を表した1シーンなどが色鮮やかに描かれています。

市民や子どもたちに対して、遊びの中で郷土に愛着が持てるようにと考え、かるたを制作。

https://chiicomi.com/r_news_detail?id=e336e408-8382-11e8-855a-0cc47ab5ffd4

創作かるた【事例2】

「酒々井の郷土かるた創作」～夏休み講座で児童が民話など題材に～

2012年9月2日 『千葉日報』 <https://www.chibanippo.co.jp/news/local/99038>



同講座には町内の小学3～6年生12人が参加。公民館事業の町民大学卒業生らでつくる「酒々井紙芝居の会」のメンバー9人と町教委職員らが講師を務めた。7月25日にスタートした講座では、町名の由来となっている「酒の井伝説」や「カンカンムロ」といった町の民話や昔の様子などを紙芝居や語りで教わったり、ゆかりの地を見学。すいとん作りなども楽しんだ。

この体験をもとに酒々井にまつわるかるたを考案。1日は完成した読み札と絵札29組のかるたを使って参加者全員でかるた取り。子どもたちは“真剣勝負”を楽しんだ。

創作かるた【事例3】

千葉教育委員会「チーバくん、ふるさと・ことばかるた」の制作

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/seisaku/doutoku/karuta-index.html>

これらの地域で制作された創作かるたの読み札は「創作ことわざ」でもあり「郷土（地方・故郷）のことわざ」でもあります。もしかしたらこのカルタの読み札の中から、語り継がれていきことわざとして定着するものがあるかも!!

3、「ことわざ創り、意見・態度調査法」

「いろはことわざ創り、意見・態度調査法」

創作ことわざから、個人の心理や社会の価値観を探るという、「ことわざ社会心理学」の試み。

私たちは様々な価値観に縛られ(影響され)生きているが、客観的にその価値観を捉えることはなかなか難しい。そこで考え出されたのが、「ことわざ創り、意見・態度調査法」、「いろはことわざ創り、意見・態度調査法」。ある特定のテーマを決め、被調査者(作者)一人一人がそのテーマを「お題」として、ことわざのような短めの文章、あるいは伝統的に伝承されていることわざの文句をまねて言いかえる、「もじりことわざ」などを自由に創ってもらい、その創られたことわざを研究資料として用いる調査法。

創られたことわざには、被調査者の無意識な自己の内面が表出される。

↓

精神分析的分析が可能

↓

創られたことわざを集合させることでその集団の社会心理を抽出することが可能となる。

※資料1

4、「もじりことわざ」による意識調査

(1)「もじりことわざ」の事例

「働かざる者食うべからず」をどう捉えるのか

一般的に、「働かざる者食うべからず」ということわざは、働こうとしない怠惰な人間は、食べることを許されないといった意味で使用されている。インターネットで検索すると、「働かざる者食うべからず」に対する否定的な意見を述べたサイトが多く見受けられる。「日本の実態には合っていない」、「この言葉はそろそろ役割を終えようとしている」、「食べ

られるのは、働くかどうかに関係なく金を持っている者」など……、その多くは、若い世代によって書かれている。※資料2

現代の若者に対する労働に関する社会的なイメージは、働かないで家に引きこもっているニート、定職に就かないフリーター、就職して続かない新卒採用の社員など、良いものばかりではない。

皆さんは、資料2をお読みになり「今時の若い奴はどうしたものか」と思われたでしょうか？それとも、「今時の若い奴らも捨てたもんじゃない」と思われたでしょうか？

5、ことわざを用いた調査の長所について

- ・アンケート調査やアンケート調査の自由回答法では回答が出にくいですが、ことわざ創りでは特定のテーマに直接関連する回答が気軽に、率直に記入される可能性が高い。
- ・アンケート調査は、質問を作る側が自分たちの聞きたいことだけを聞くので、場合によっては都合の悪いことは質問をしないということもある。数値化されたデータ自体は間違いではないが、そのデータをどうとらえるのかによってだいぶ意味が変わることがある。
- ・個別の考えが無視されがち。

そこで、川柳なども含めて、創作ことわざ作りが、本音を聞き出すための重要な役割を果たす。

6、数値データとことわざ(川柳)データの違い

(1)大月短期大学で行ったオンライン授業アンケート調査

(2)関西大学「オンライン授業川柳」資料3

この「オンライン授業川柳」は、関西大学が発行している「ニューズレター特別号」に掲載されている。

数値データ、ことわざデータ、どちらの意見も正しい。

⇕

得られる情報は全く違う。

ニューズレターには、オンライン授業に関する学生からの意見・感想も掲載されている。

かっこつけて書いている!!
遊び感覚で創られた川柳のほうが本音に近い!!

7、ピックアップ効果

都合のいい実験データや調査結果だけを集めて信憑性があるように見せかけるってこと。

客観的なデータを見せつけられる信用してしまう。

⇕

「権威的説得」

科学的なデータは権威になる。人は権威に弱いもの。

8、血液型性格診断や占いを信じてしまう心理的作用

「FBI 効果」

血液型と性格には何の関連性もないと、科学としての心理学では考えられている。

①フリーサイズ効果

例えば、冷静に各血液型別の性格の特徴を読んで見ると、自分の性格はいずれの血液型の性格にも該当する部分があると思うはずである。これはフリーサイズの Y シャツのようなもので、誰にでも当てはまってしまう。誰にでも当てはまるような、どうとでも取れる事を占いと称して言い、相手に占いが当たったと思わせるテクニックということ。

例えば、「あなたは優しいが、気が強いところもある」「あなたは明るいが、時々深く落ち込んだりもする…」など。

誰でも神経質な一面やマイペースな一面がある。

⇕

プラスの内容が書いてあると信じる力が強くなることも知られています。

⇕

血液型性格診断は人数が多い A 型と O 型に対して良いことが書いてあるので、信じる人が多いと考えられてる。

※悩みには「四つのカテゴリー」しかない！

②「ラベリング効果」

例えば血液型性格診断でいえば、誰にでもある性格に、A 型、B 型、O 型、AB 型とい

うラベルをつけると、その血液型の固有の特徴だと思ってしまう。

「これが A 型の特徴です」と言われてから A 型の人を観察すると、そのラベルに引っ張られてその人を判断してしまう。※フィルタリング効果：先入観。

③「インプリンティング効果」

最初に「自分の性格の特徴と当たっている！」と驚いたことが、そのまま脳に記憶されてしまい、血液型性格診断で定められている性格に合致する傾向を示してしまう。

(2)その他の心理的要因

「自己成就予言(予言の自己成就)」

たとえ根拠のない予言 (=噂や思い込み) であっても、人々がその予言を信じて行動することによって、結果として予言通りの現実がつけられるという現象。

例えば、血液型性格診断の場合、「あなたは〇〇型ですね」と言われると、いつのまにか血液型性格診断で定められている性格を、自分のアイデンティティに取り込んでいってしまう。※未来日記

9、ことわざを創ってみませんか？

興味がある方は創っていただけたらと思います。もしよろしければ次回の講座の時に発表していただけたらと思います。今回は、「いろはことわざ創り」と「もじことわざ」にチャレンジしていただきたいと思います。

(1)「いろはことわざ創り」にチャレンジ！

- ・「特定の「タイトル(テーマ)」に関して、自身の率直な意見を「いろは歌」の「い・ろ・は・に・…」をそれぞれ頭文字として一句ずつ創作してください。
- ・すべて創作しますと、現代では頭文字にならない「ゐ・ゑ・を・ん」を抜かして計 44 句となります。
- ・どうしても思い浮かばない頭文字の句がありましたならば、省略しても結構です。

【タイトル(テーマ)について】

- A 「日本の常識・非常識」
- B 「老いと健康」
- C 「今どきの若者・今どきの高齢者」
- C 「コロナ禍」
- D 「自由題」

今回はのいずれかで考えてみてください。

【創作上の注意】

- ①解説・説明をするような三人称での創作を避けて、できる限り主観的な一人称で創作してください。
- ②時間をかけて考えずに、思いついたことを創作してみてください。語呂が悪くてもかまいません。
※「ことわざ」という言葉に捉われないでください。
- ③必ず 44 句を創らなければならないというものではありません。いくつか創ることが出来なくても結構です。

(2)「もじことわざ」にチャレンジ!

【テーマ】 ことわざ創りで男女観を考える

「男は度胸、女は愛嬌」といいますが…

「男は度胸、女は愛嬌」ということわざがあります。これは、男にとっては物おじしない“度胸”が、女にはにこやかでかわいらしい“愛嬌”が大事だという意味です。しかしながら、「草食系男子」「肉食系女子」という言葉からもわかるように、“男とはこうである、女とはこうである”という男女観は、時代によって変化が見られます。

そこで、「男は度胸、女は愛嬌」ということわざを、現代の男女にぴったりはまる言葉に置き換え、みなさんが考える「男は〇〇、女は〇〇」を創ってみてください。

【創作上の注意】

- ・語呂が悪くてもかまいません。
- ・どんな言葉に置き換えてもかまいません。
- ・自分が考える「男らしさ」「女らしさを」を自由にあてはめてください。
- ・何句創ってもかまいません。できる範囲で創ってください。

まとめ

今回は、皆さんが創られた創作ことわざを発表したいという方がおられれば、是非とも発表していたらと思います。最後の講座なので皆さんの質問になるべく多くお答えしたいと思っています。これまでの講座の内容に関する事、その他なんでもいいです。

心理学についての疑問。心の問題、発達障害や精神疾患のこと。あるいは、対人関係など関することなど…、何かありましたら、遠慮なく質問してください。

第4章 ことわざ教科書

穴田 義孝、川島 洋



はじめに

ことわざに対して「いくつか知っているけれど古臭くて関心が無い」、「面白くない」など、マイナスイメージを抱いている人は結構たくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。しかしながら、例えば幼児期の子どもたちは、自分の行動に対する親や周囲の大人たちの「誉めるか、叱るか」という態度・行動に対して、「人の顔色をうかがう」とか「人の振り見て我が振り直せ」のように反応して、正しいと思う言葉や礼儀作法、生活様式、人間関係の在り方などを身に付けていくものです。

こうしたしつけや教育などの過程で、私たちは自分では気が付かないうちに、ことわざを聞いており、そこから学び、無意識に使ってきたに違いありません。まして大人であれば、老若男女、誰もが日常的に意識などせずのことわざを使っています。例えば、朝起きたら「早起きは三文の徳」とか、新たに何かをやるうとすれば「思い立ったが吉日」とか「善は急げ」などと言います。また、忙しい時など「貧乏暇なし」の句を思い浮かべることでしょう。「ことばは文化である」といわれる所以^{ゆえん}です。

このように、日常的な言葉であることわざについて改めて学ぶとなると、多くの方がことわざの意味を覚えたり、出典を調べたり、使い方を学んだりする、いわゆる言語学・文学的なことを学ぶのではないかと思う方が多いかと思えます。現在、小学校学習指導要領の方針によって、小学校3年生、4年生の子どもたちは、国語の時間にことわざを学ぶことになっていますが、その目的も「長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと」となっています。

このようなこのわざに関する言語学・文学的な学びはとても大切なことですが、ことわざを学ぶとはこれだけではありません。また、学ぶだけ使うだけが

ことわざではありません。社会心理学者、穴田義孝(1946年-2022年)が提唱し実践した「ことわざ社会心理学」では、言語学・文学的な学びだけでなく、「ことわざ」を分析データ・資料として、心理学・社会心理学の理論や視点を駆使し「特定テーマ(項目・課題)」について統合的に探究します。

本章では、この「ことわざ社会心理学」の考え方や視点をお伝えし、ことわざの取り扱い方やことわざの面白さ可能性を理解していただけたらと思います。

1. ことわざ概念の再検討

ことわざってなんだろう?



(1) 実は難しいことわざ定義

そもそもことわざとはなんなのでしょう。「ことわざ社会心理学」について説明する前に先ずはことわざ定義について理解しておきましょう。ことわざ定義といっても実は非常に難しいのです。『広辞苑』(新村出編、岩波書店新1982)では、「古くから人々に言い習わされた言葉、教訓・風刺などの意を寓した短句や秀句」とありますが、それに加えて下記のような意味が書かれています。

【格言】「人生・真実などを述べ、多くの人の戒め・教訓とした簡潔なことば」

【名言】「確かにそうだと感じさせるようなすぐれた言葉」

類義語: きんげん【金言】、けいく【警句】、たとえ【譬え・喩え・例え】、ひゆ【比喩・譬喩】、ひょうご【標語】、モットー[motto]、スローガン[slogan]

ことわざ定義が統一し難い理由は「俚諺・俗諺・鄙言・野語・俗語・俗信・黄金言葉などのことわざの類語や、「ことわざ」「コトワザ」「諺」という表記の違い、さらに格言、箴言、警句、金言名句、名言、金句などの定義の意味が一部重なり合う多様な概念・用語があり、明確な区別がしづらいからといえます。

(2) 「狭義のことわざ」と「広義のことわざ」

多様な概念・用語があり、明確な区別がしづらいことわざですが、大きく「狭義のことわざ」と「広義のことわざ」に分けて考えると理解しやすくなります。

①狭義のことわざ

一般的にことわざというと、古くから人々に言い習わされ伝承されてきたことば、あるいは教訓・風刺などを含んだ短句や秀句といった思い込みがあるのではないのでしょうか(例えば「江戸カルタ」の読み札や辞書に載っていることわざなど…)。ところが辞書にも書いてある通り、ことわざの概念はとても幅が広いです。つまり、古くから人々に言い習わされたことばや教訓・風刺などを含んだ短句や秀句は、いわゆる伝統的な「既成のことわざ」を指すもので、「狭義のことわざ」といえます。

②広義のことわざ

『広辞苑』に書いてあるように、「標語」や「スローガン」もことわざの一部です。必ずしも古いものでもありませんし、秀句ではないこともあります。例えば、ビートたけしさんがツービート時代に創った「赤信号みんなで渡れば怖くない」や、「亭主元気で留守がいい」とか、アニメ『ヤッターマン』で創られた「ブタもおだてりゃ木に登る」など新しいことわざも、近年辞典に採用されています。

「広義のことわざ」とは、汎用性のある緩やかなことわざの概念です。例えば「蓼食う虫も好き好き」など、いわゆる伝統的な「既成のことわざ」(狭義のことわざ)はもちろん、その類義語の百人百様・十人十色・各人各様・三者三様・千差万別などの四字熟語も、「食べた後すぐ寝るとウシになる」のような俗信・迷信・口頭伝承、さらに俳句や川柳、流行語、現代語、名セリフなど、「言い得て妙」「要にして簡」な気の利いたことば、短句・成句すべてをことわざと定義する考え方です。そのため、「広義のことわざ」では、ことわざ辞典など掲載されている成句のみがことわざではないと考えます。

辞典に載っていようがまいが、「狭義のことわざ」、「広義のことわざ」いずれにせよ、すべて何時か何処かで誰かに創作されたことわざということに違いはありません。ことわざとは「言い得て妙」「要を得て簡」な「言葉の技(業)」であり、同時に人のこころ・行動、社会、文化などの事柄を叙述する技(業)なのです。

〈広義のことわざ〉 カテゴリー

現代用語、標語、流行語、キャッチコピー、スローガン、モットー、座右の銘、若者ことば、あるいは著作や論文やドラマ、映画、歌舞伎、落語や漫才、講談、浪曲、漫画、アニメなどのタイトル、副題、決め台詞、新聞や雑誌などの見出しや小見出し、歌の歌詞、さらに川柳や俳句、短歌、和歌、民謡や浄瑠璃など。

(3) ことわざは誰が創ったものなのか

例えば、多くの人に知られていることわざに、「一日の長」「一を聞いて十を知る」「己の欲せざるところは人に施すなかれ」「可もなし不可もなし」「女子と小人養い難し」「過ぎたるは猶及ばざるがごとし」「和して同ぜず」などがあります。実はこれらすべての成句は儒教の祖、孔子の『論語』を出典としています。

江戸時代の武士の子弟は、ひらがな交じりの「書き下し文」にされた『論語』を「読み下し文」として声に出して読み、儒教の徳目を学びました。その過程でことわざとして、要点だけが集約され「言い得て妙」だと了解・共有され、長い年月多くの人々の教え、戒めとして伝承されてきたわけです。

このように、ことわざの誕生の一つの可能性として、明確な作者・出典の文章、あるいは台詞などが人々の口から口へ伝承される過程で、「言い得て妙」「要にして簡」な成句に精錬されていったということが考えられます。もちろん、流行語や決め台詞、キャッチフレーズなどのように初めからの射た成句が共感、感動されて共有、伝承されことわざになった場合もあり得るでしょう。

(4) 『毛吹草』に掲載されていることわざ

ことわざ辞典をみると、それぞれの成句の出典の一つとして『毛吹草』(松江重頼編 1645年)という文献がよく掲載されています。『毛吹草』は、連歌や俳句の作法に関して用例を挙げて論説する俳諧作法書ですが、当時の庶民や武家などにも広く口頭伝承されており、しかも広く世の人々に知れわたっていたことわざを文字化し、俳句に使用できる用例として700句ほどを集録したものです。そのため、出典や作者が不明のことわざもたくさんあります。また、出典が明らかなことわざといっても口頭伝承されてきたことわざが文献に記述・記録されたに過ぎず、厳密な意味での出典ではありません。つまり、『毛吹草』にあることわざは、名も知れぬ庶民・民衆が創ったものと推定することができます。

『毛吹草』の初めのページをみると「七首に鏝」、「挨拶は時の氏神」、「愛想づかしも金から起きる」、「開いた口には戸は立たぬ」などは、いずれも読み人知らずとなっています。これらは庶民・民衆が創った句なのかの判断できませんが、庶民・民衆に了解され、時に感動され、共有され、伝承されて、辞典の選者に「言い得て妙」「要にして簡」な成句と認められて、作法書に掲載されることになったのでしょう。

ことわざは誰が創ったものなのか、それを一言で言えば、名も知れぬ誰かが

創り、二人でうなずき、千人が使い、万人がなるほどと受け取って、長い年月多くの人々の間に生きてきた言葉と言えるでしょう。その二人、千人、万人は名も知れぬ誰であり、それはつまり庶民・民衆であったに違いありません。

(5)「ことわざ社会心理学」ではことわざが民衆の間で創られたということに着目

ことわざについて日本を代表する国語辞典には、「古くから世間に伝わっている教訓や風刺を含む文句（守随憲治『国語辞典』旺文社 1965）」、「その国の民衆から生まれた教訓的な言葉（金田一京助他編 1972『国語辞典』三省堂）」と書かれています。また、御木光治編『類別ことわざ辞典』（文進堂 1981）の「はじめに」では、ことわざについて『一人がいいだし』たねらいがあると思われる。ぼそっと語られたもの、ぼつんと吐き出された声が、多くの共感を得て、今に残り、生きて来たものに違いない」と論じられています。

これまで説明してきたとおりことわざの概念は広く定義が難しいですが、ことわざが民衆の間で創られたのであれば社会、文化、人間関係などに関連しないわけはありません。

「ことわざ社会心理学」では、何がことわざであるかということよりも、この「民衆の間で創られた」ということに着目しことわざを研究します。

ことわざ社会心理学!?



2. 「ことわざ社会心理学」とは

(1) ことわざを用いて社会、文化、人間関係などを研究する

ことわざを学ぶ、あるいは研究するというと、言語学や文学、国語学、民俗学、図象学、哲学など…と関連して、成句の意味・解説、語源、用例、作者・出典、伝播・伝承、変遷、異説、類句・反句、図象など…を探究することが大部分であるとされています。しかしながら先に説明したように、ことわざが民衆の間で創られたのであれば社会、文化、人間関係などに関連しないわけはありません。「ことわざ社会心理学」ではこの関連性に着目します。

そうとはいえ、「ことわざ社会心理学」とは何のことであるかと疑問を持たれることでしょう。もしかしたら、ことわざを用いて社会、文化、人間関係などを研究する学問と表現した方が分かりやすいかもしれません。つまり「ことわざ社会心理学」とは、ことわざそのものを研究するだけではなく、ことわざを分析データや資料として取り扱い、特定テーマについて社会心理学の理論や視点を駆使して統合的に研究する社会心理学的研究であり、「ことわざ学」の新た

な研究分野なのです。簡単に言いますと、ことわざそのものを学ぶというよりも、ことわざをデータ・資料として学ぶ(研究する)ということになります。

(2) ことわざの「静態機能」と「動的機能」

ことわざをデータ・資料として学ぶ(研究する)とはいっても実際どういったことなのかわかりづらいかと思います。そこで一つの例として「怠け者の節供働き」ということわざを取り上げ、このことわざから何が見いだせるのか考えてみましょう。

「怠け者の節供働き」

ことわざを考える上で、物語の「もの」には原理性(モチーフ・中心思想)があり、ことわざの「こと」には そうした原理性はないという視点があります。しかし、ことわざには一句の中に庶民の行動原理、あるいは生活文化における原理が内在しているという分析が可能な句があります。それが「怠け者の節供働き」です。

日常は怠けているのに、節供のような人が休んでいる時に限って働くふりをするといった意味ですが、これを話し言葉(口語・口頭伝承)として「動的」に「言う・使う」場合、この様ではいけないという行動規制という意味でこの句を当意即妙に使えば、主に教訓やいましめの役割・機能を果たすでしょう。

しかし、時と場合、状況、タイミングによっては、鋭い風刺や皮肉となったり、対人関係では切り返し、強調、あるいはユーモアとなったりすることもあり得ます。タイミングが悪くて白けたりすれば、本来の意味すら持てなくなるかもしれません。このように、ことわざを動的に用いた場合、その使用法は時と場合、状況によって用い方に違があるため一回性で無法則と言えます。状況により役割・機能がそれぞれ異なるため、内容においては一貫した原理性は見出し難いと言えます。

しかしながら、ことわざを文字として「静的」に「知っている・調べる・覚える」場合、ゆっくり、じっくりとことわざ自体を分析することができます。

「節供」とは冠婚葬祭などの日常とは異なる「晴れの日」のことであり、「節供働き」とはこうした「晴れの日」に限って働くふりをするという意味です。「横着者の節供働き」「極道者の節供働き」「無精者の一時働き」などの類句も多く、これらはほとんど否定的な意味として捉えられています。このことから、「怠け者の節供働き」やその類句からは次のような行動原理、あるいは生活文化の原理が見出せます。

いずれもいわゆる一般庶民の日常的口語、ものいいであり、庶民の心情や社会現象、文化的事象、相互作用(対人行動・社会関係・コミュニケーション)などの本質を表していると考えられます。つまり、日本社会の大部分の構成員(メンバー)であるいわゆる庶民の間では、日常(普段)は勤勉に働くべきだが、節供といった晴れの日には思い切って休むべきであるということが、特定社会(日本社会)の構成員によって共有され、暗黙の了解がなされているということをおとわざが示しているわけです。このように、日本人の行動原理、あるいは生活文化における原理性がこの一句だけにも見出せるわけです。

(3) 分析データ・資料とすることわざは「既成」「創作」「郷土」の3種類

「ことわざ社会心理学」は社会科学分野の研究であり、ことわざを分析データ・資料として、「こころ・行動」「相互作用」「社会現象や社会的課題」「文化事象や文化的課題」など…に関する研究をします。

多様な概念を持つことわざですが、社会科学としてのことわざ研究「ことわざ社会心理学」における分析データ・資料としてのことわざは、「既成の(伝統的・伝承)ことわざ」、「創作ことわざ」「郷土のことわざ」3種類に分類することができます。

★ことわざ社会心理学における分析データとしての3種類のことわざ

① 既成の(古典的・伝承)ことわざ / “Established(Traditional・Classic)Proverb”

- ・古典的・伝承ことわざがやがて、全国区のことわざ“National proverb”となる。
- ・ほとんどの句が『ことわざ辞典』類に掲載されている。
- ・『国語辞典』のことわざ定義に準拠して、「学習指導要領」で古典と位置付けられている。
- ・『国語辞典』のことわざ定義に準拠する、『ことわざ辞典』類に掲載されている成句を「狭義のことわざ」とする。
- ・「既成のことわざ」は、“The Proverb/ことわざそのもの”と思込んでいる人が多いが、本分類のように他にもことわざの種類がある。特に「創作ことわざ」などを含むと、「広義のことわざ」カテゴリーという概念を持つことができる。
- ・「既成のことわざ」を分析データとすると、社会的(習俗的)規範。規制、国民性、地域性、常識(共通感覚/commonsense)などが抽出できる。

②創作(現代の)ことわざ／“Creative(Modern)Proverb”

- ・すべてのことわざは「何時か何処かで誰かに」創作された成句(短句)である。
- ・ことわざは「何時でも何処でも誰もが」新たに創作することができる。
- ・狭義の人文科学的事ことわざ研究では、「創作ことわざ」は秀句を創る国語教育の一端を担う。
- ・社会科学的事ことわざ研究では、「創作ことわざ」は意見・態度と見做すことができる。
- ・これらを分析データとして複数集合させて、それらに一貫する、共通する法則や理論を分析すると、常識、社会的規範・規制を探究することとなり得る。この場合のデータは、創作者の真意、心情が内包されていれば、必ずしも文学的「秀句」でなく、いわゆる「駄作」でもよい。
- ・「創作ことわざは」“Modern Proverb”(現代のことわざ)ともされるが、“Anti-Proverb”(反ことわざ・ことわざにあらず)とみる向きもある。

③郷土(故郷・地方)のことわざ/“Hometown(Regional·Local)proverb”

- ・ことわざの創生は、各地の「郷土(故郷・地方区)」のことわざが「既成のことわざ」よりも先であるかもしれない。
- ・故郷の「生活環境(社会)や生活様式(文化)、さらに心情や信条という生き方・生き様、生活の知恵」などを知る手掛かりとなる。
- ・「郷土のとわざ」は、地域の生活文化に根差した「生活の知恵の宝庫」であり、「隠れた地域生活文化遺産」である。しかし、意味の説明や解説、あるいはエピソードなどが無いと、世代間で意味・用例などが了解されず、伝承も難しい。
- ・成句(短句)の意味・解説だけではなく、その句にまつわるエピソードや用例などを加えると、生き生きとした、世代間をつなぐ「小さな地域のことわざ風土記(民俗誌)」となる。これであれば、生活環境(社会)や生活様式(文化)は共有、伝承されるようになり得る。

3. 既成の(伝承・古典的)ことわざ

(1)「これこそことわざである」と多くの人たちに思い込まれるようになったことわざ

「既成のことわざ」とは、古くから言い伝えられてきた、教訓または風刺の意味を含んだ短めの言葉(短句・成句)で、多くのことわざ辞典・辞書に掲載さ



れ、また教育やマスコミなどの影響で全国に広まった成句です。全国区のことわざとなることで、ますます「これこそ、あるいはこれだけがことわざである」と多くの人たちに思い込まれるようになったことわざともいえます。例えば、「江戸いろはかるた」の読み札などはその代表といえるでしょう。

また、ことわざ研究ということでは、「既成のことわざ」を用いて言語学や文学、国語学、民俗学、図象学、哲学など…と関連して成句の意味・解説、語源、用例、作者・出典、伝播・伝承、変遷、異説、類句・反句、図象など…を探究するのは、「狭義のことわざ」研究といえます。しかしながら、狭義のことわざ研究とはいえ「既存のことわざ」もその意味だけではなく、時代時代における取り扱い方の変化など、ことわざについての少し視点を変えることで社会、文化、人間関係などを理解する上での分析データ・資料としてとても重要なものとなります。

それでは、実際に既存のことわざの取り扱い方についていくつかの例をご紹介します。

(2) 既存のことわざの取り扱い方 I—既存のことわざを喩えに用いる

既存のことわざで社会心理学を理解

社会科学分野におけることわざ研究方として、意図的に選択したことわざを複数取り上げて、その一句一句に関して、例えば心理学的、社会心理学的、あるいは文化人類学的な分析・解説を加えるという研究方法があります。このことを踏まえ、ここでは既存のことわざを例に社会心理学の基本的な考え方・視点について説明していきます。

「ことわざ社会心理学」を理解するにあたっては、先ずその基礎となる社会心理学についての理解が必要となります。社会心理学とは、人間の考え、感情、行動が人や社会の影響をどのように受けるかを科学的に研究する学問です。具体的には、日常生活の中で起こる、人の心と行動の不思議と仕組みについて考えること、あるいは普段の生活の中で、私や彼や彼女、家族や有名人など、さまざまな人がなぜ、そう感じ、そう行動するのかを理解し、予測をするというのが社会心理学という学問です。

このように社会心理学とは、私たちの暮らしの中の心理学といえ、扱う事柄も多岐に及びます。

■社会心理の4つのレベル（領域）

社会心理学は様々なことを研究対象としますが、その領域は大きく「個人レベル」「対人レベル」「集団レベル」「社会・文化レベル」の4つのレベル(領域)に分けることが出来ます。

①個人レベル

個人レベルでは、「自己意識」「自己評価」「態度」などが研究対象となります。このレベルでは、人に影響を与え、人から影響を受ける個人の心理を扱います。

人は人との関係の中で自己を意識し、自己評価をします。人からどう見られているかということが自分を考える時に大きく影響します。このような人と人との相互作用によって変化する「自己意識」「自己評価」は、社会心理学の重要なテーマとなります。

【自己評価に関することわざ】

この自己評価に関することわざとして「井の中の蛙大海を知らず」があります。知識、見聞が狭いこと、また、それにとらわれて広い世界があることに気づかず、得意になっている人のことという意味ですが、自己を客観的に捉えられず、自己評価がちゃんとできていない人のことを表しています。

また似たようなことわざに、「天狗になる」ということわざがあります。得意になって自慢することという意味ですが、あまりにも自分を過大評価してしまうと、「鼻っ柱を折られる」ことになってしまいますよね。つまり、自己評価を正しく行うためには、客観的に他者と自分を比較することが大切になります。社会心理学を理解することは、この自分や他者に対する客観性を得ることにつながるでしょう。

②対人レベル

対人レベルでは、日常生活での周りの人との関係、あるいは小さな社会のなかの人と人の心理と行動を扱います。家族、友人、恋人(恋愛)、クラスメート、職場での上下関係、面接、交渉・説得など様々な人間関係などがそれにあたります。

【対人レベルに関することわざ】

対人レベルでの社会心理を表していることわざとして、「相手のない喧嘩はできぬ」ということわざがあります。喧嘩というものは、受けて立つ者がいて

こそ成り立つものなのだから、相手にしなければ喧嘩は起きないということですが、日常の様々な問題は他者とのかかわりの中で起こるということを表しているわけです。

私たちは多くの場合、他者との関係性のなかで悩みを抱えたり、感情を動かされたりします。もしこの世に自分一人しかかったら今ある悩みのほとんどはなくなるはずですが、おそらく、自分の健康・生命維持についての悩みくらいしかなくなるはずですが。

この他に対人レベルに関することわざとして、「恋は思案の外」ということわざがあります。恋愛しているときの心は、常識で説明できるものではないということですが、それを客観的に説明するのも社会心理学研究の一つです。

③集団レベル

集団レベルでは、家族、学校、サークル、職場、宗教、ファン集団、世代集団など様々な集団が研究対象となります。

人はだれしも集団の一員として生活しています。人類は進化の過程で長い間部族生活を送っていました。現在でも家族の一員として、職場の一員として、または宗教集団など様々な集団に所属しながら生活しています。そして集団には規範やルールがあり、地位や役割、リーダーとフォロアーの上下関係があり、人の心理や行動は、自分が所属する集団の影響を強く受けます。このレベルでこのような人と集団との関係がテーマとなります。

【集団レベルに関することわざ】

集団の社会心理ということでは、「三人寄れば文殊の知恵」ということわざがあります。凡人であっても三人集まって考えれば、すばらしい知恵が出るものだというたとえです。一人よりも集団のほうが力が倍増するということですが、その一方で「船頭多くして船山に登る」ということわざもあります。指図する人が多くて方針の統一がはかれず、物事がとんでもない方向にそれてしまうことのたとえですが、集団というのは、場合によってはとんでもないことをしてしまう恐れがあるというわけです。

なぜそうになってしまうか、それは集団になるとよく考えずに人の言動に同調し、軽はずみな行動をとるという人が多くなるからです。「尻馬に乗る」や「長い物には巻かれろ」ということわざは、そういった集団心理を表しています。

※「尻馬に乗る」：尻馬に乗るとは、よく考えずに人の言動に同調し、軽はずみな行動をとること。

※「長い物には巻かれろ」：目上の者や勢力の強い相手とは争わないで、それに従った方が得策だという意。

④社会・文化レベル

社会・文化レベルでは、国民性、県民性、ナショナリズム、マス・メディア、音楽、経済、うわさや流行、世論（社会風潮）、様々な価値観など、人と大きな社会との関係がこのレベルのテーマとなります。

例えば、日本人の多くは日本人としての社会的アイデンティティを持ち、このことが認知や行動に影響を及ぼしています。人は育った文化の影響を大きく受けます。そのため、文化の違いというのが軋轢の原因になるわけです。様々な民族紛争、あるいは移民の問題などは、文化と文化の衝突といえるでしょう。

【社会・文化レベルに関することわざ】

「郷に入っては郷に従え」ということわざがありますが、風俗や習慣はその土地によって違うから、新しい土地に来たら、その土地の風俗や習慣に従うべきだということという意味ですが、これは化と文化の軋轢を起こさないための知恵であり教訓です。

その他にも社会・文化レベルに関することわざとして、「一匹の馬が狂えば千匹の馬も狂う」があります。群集はたやすく暗示にかかりやすく、一人が騒ぐとそれにつられて騒ぎ出すという意味ですが、自分たちとは違う異文化の人たちに対してこういった群集心理が働くと、異文化の人たちへの差別や、それが国レベルになると民族紛争ということにまでなってしまうわけです。

こういった「一匹の馬が狂えば千匹の馬も狂う」という群集心理は、新型コロナウイルスの騒ぎでも起こりました。SNS でトイレットペーパーがなくなるというデマが流れ、トイレットペーパーの買い占めが起きたことを覚えていますか？「喉元過ぎれば熱さ忘れる」なんてことになっていませんか？



コラム1 人間の認知特性とことわざ

「感覚的情報処理」と「知覚的・認知的情報処理」

人間の認知特性についてわかりやすいことわざとして「恥を知らずば恥かかず」ということわざがあります。恥を恥と思わなければ恥は恥ではないという意味ですが、この「〇を〇と思わなければ、〇は〇ではない」という認知のあり方は、「感覚的情報処理システム」という人間の情報処理システムといえます。ものごとを主観的に論理、証拠もなく「～と感じる」「～という気がする」「～と思う」という認知のあり方です。わかりやすく言うと思ひ込み、決めつけ、先入観、固定観念などで、この感覚に捉われ過ぎると偏見・差別につながる可能性があります。

私たちは日常生活において主に「感覚的情報処理システム」で物事を直感的に判断しています。日常生活ではそれで良いのですが、そればかりに頼りすぎると、思ひ込みや勘違いで人間関係や仕事などでの失敗につながってしまうことになりかねません。このようなことを防ぐためには、「感覚的情報処理システム」に対して、「知覚的・認知的情報処理システム」を意識することが必要となります。

「知覚的情報処理システム」は、ものごとを論理的に「～と考える」「～と理解する」「～と知覚する」といった客観的レベルの認知のあり方です。「人の背中は見ゆれども、我が背中は見えず」ということわざが示す通り、自分の背中には自分では見えません。自分のことは自分が一番わかっていないというのが人間なのです。まずはそこを理解し、ものごとに対して知識や経験を総動員して客観的に「～と認識する」「～認知する」とすることが大切なのです。この

3つの情報処理レベル	情報処理の特徴	関連することわざ
感覚的情報処理レベル	ものごとを主観的に論理、証拠もなく「～と感じる」「～という気がする」「～と思う」程度の情報処理。 「思考」を2分すると、「思（感覚）」に呼応。	「過ちは好むところにある」
知覚的情報処理レベル	ものごとを論理的に「～と考える」「～と理解する」「～と知覚する」といった客観的レベルの情報操作。 「思考」の2分すると、「考（知覚）」に呼応。	「人の背中は見ゆれども、我が背中は見えず」
認知的情報処理レベル	ものごとに対して知識や経験を総動員して客観的に「～と認識する」「～認知する」とする情報操作処理。	「人の振り見て我が振り直せ」

知識や経験を総動員して客観的に物事を捉えるという情報操作処理のあり方を「認知的情報処理システム」といいます。

(3) 既存のことわざの取り扱い方Ⅱ—ことわざの意味や扱いの変化に着目 変化する「江戸いろはかるた」

古典的な遊びの一つで有名な江戸いろはかるたは、江戸時代後期に作られたいろは歌のかるたです。江戸いろはかるたのことわざ48句を並べてみます。皆さん聞いたことのあることわざがたくさんあるのではないのでしょうか。

い：犬も歩けば棒に当たる／ろ：論より証拠／は：花より団子／に：憎まれっ子世にはばかる／ほ：骨折り損のくたびれ儲け／へ：下手の長談義／と：年寄りの冷や水／ち：塵も積もれば山となる／り：律義者の子沢山／ぬ：盗人の昼寝／る：瑠璃も玻璃も照らせば光る／を：老いては子に従え／わ：破れ鍋に綴じ蓋／か：蛙の面に水／よ：葦の髄から天井を覗く／た：旅は道連れ世は情け／れ：良薬は口に苦し／そ：損して得取れ／つ：月とすっぽん／ね：念には念を入れよ／な：泣きっ面に蜂／ら：楽あれば苦あり／む：無理が通れば道理引っ込む／う：嘘から出た実／ゐ：芋の煮えたもご存じない／の：喉元過ぎれば熱さを忘れる／お：お鬼に金棒／く：臭いものに蓋をする／や：安物買いの銭失い／ま：負けるが勝ち／け：芸は身を助く／ふ：文はやりたし書く手は持たぬ／こ：子は三界の首枷／え：得手に帆を揚げる／て：亭主の好きな赤烏帽子／あ：頭隠して尻隠さず／さ：三遍回って煙草にしょ／き：聞いて極楽見て地獄／ゆ：油断大敵／め：目の上のこぶ／み：身から出た錆／し：知らぬが仏／ゑ：縁は異なるもの味なもの／ひ：貧乏暇なし／も：門前の小僧習わぬ経を読む／せ：急いては事を仕損じる／す：粋は身を食う／京：京の夢大阪の夢

この江戸いろはかるた、時代の流れとともに一部の読み札(ことわざ)が差し替えられるなどの変化が起きています。

江戸いろはかるたの差し替えの理由

京都市にある創業200年のカルタの老舗「大石天狗堂」で作成された江戸いろはかるたの解説書には、「現在では著しく意味の通じない句は、他のことわざに変えています」と書いてあります。このように江戸いろはかるたのことわざを差し替えた理由として「表現が難解あるいは死語となっている」ことが挙げられます。またその他にも「下品な表現が含まれる」「差別的ニュアンスがある」などの理由があげられます。

それでは実際どのようなことわざが差し替えられたのでしょうか。

a. 表現が難解あるいは死語となっている

かつて「つ」のことわざは「月夜に釜を抜く」でしたが、現在は「月とすっぽん」になっています。また「そ」のことわざは「総領の甚六」でしたが、「損して得取れ」に差し替えられています。

「月夜に釜を抜く」は、明るい夜に大事なお釜を盗まれ、不注意極まりない、「総領の甚六」は、甘やかして育てられる長男にはお人よしが多いという意味とされています(総領は長男のこと)、現代では難解な句になってしまってい

るということで差し替えられました。

b. 下品な表現が含まれる

「へ」のことわざはかつて「尻をひって尻すぼめる」でしたが、「下手の長談義」に差し替えられています。「尻をひって尻すぼめる」の意味は、失敗した後で、慌てて隠したり、取り繕うことのたとえです。決して下品な意味ではありませんが、表現が下品とされ差し替えられました。差し替えた「下手の長談義」は、上方いろはかるたから流用されました。

c. 差別的ニュアンスがある

「か」のことわざはもともと「かったいの瘡うらみ」でしたが、「かえるの面に水」に差し替えられています。

「かったい」とはハンセン病患者を指す言葉で、差別的な意味合いがある言葉です。また「かったいの瘡うらみ」の意味も、大差ないものを見てうらやむこと、ぐちをこぼすこととされていますが、病気の人が自分より軽い症状の病人を羨むということからそのような意味となっていて、そこにはハンセン病患者への差別・偏見が見て取れます。

江戸いろはかるたは小学校の国語の時間に学ぶ教材でもあるので、こういったいわゆる差別語を含むことわざは見直す必要があります。しかしながら、「かったいの瘡うらみ」ということわざを通して、かつて行われていたハンセン病患者への差別を知ることが出来るということもあります。伝統的なことわざをどう取り扱えばいいのか意見が分かれる問題といえます。

近年、言葉に対する「メディアの過剰自粛」「言葉狩り」といったことが話題になることがあります。出版社も、昔話の残酷な場面を次々に書き換えています。しかしながら、昔の人々の知恵や警句、哲学が損なわれることを懸念し、あえて原型にこだわる業者もあります。現代風への改変はどこまで許されるのか、賛否両論が渦巻いているのが現状です。いずれにせよ、カルタにもそういった自主規制がなされているということです。

d. その他

「良薬は口に苦し」は慣用仮名遣いの「れうやく」、「れ」の札であるが、現代仮名遣いの「りょうやく」、「り」の札に配置変更され、元の「り」の札「律義者の子沢山」が不採用となったこともあります。

「粋」と「雅」、東京(江戸)と京都の価値観の違い

江戸いろはかるたは江戸後期に誕生しましたが、太平洋戦争まではほぼその内容が変わることはありませんでした。差し替えが始まったのは、1950年～1960年代からで、現在は20句以上差し替えられているものもあります。

先に、京都市にある創業200年のかるたの老舗「大石天狗堂」で作成された江戸いろはかるたの解説書には、「現在では著しく意味の通じない句は、他のことわざに変えています」と書いてあるとお伝えしましたが、その一方で東京都千代田区神保町の「奥野かるた店」では、2002年にほぼ江戸期のままの江戸いろはかるたを20数年ぶりに復刻しました。京都のかるた店では現代風に差し替えを行い、東京のかるた店では江戸期のままの江戸いろはかるたを復刻させる、この江戸いろはかるたに対する対応の違いに京都と東京(江戸)の価値観の違いが見て取れます。

江戸と京都の価値観の違いを表す際に、江戸は「粋」で京都は「雅」などとよくいわれます。「粋」とは、江戸時代における美意識の一つでその意味は、混じりけのないこと、純粹です。「雅」は、平安時代に入って京都を舞台として展開された貴族文化の美意識の核心をなすもので、その意味は、宮廷風で上品なこと。都会風であること。洗練された風雅・優美です。この古くから伝わる江戸と京都の美意識の違いが、東京のかるた店と京都のかるた店の江戸いろはかるたに対する対応の違いをもたらしていると考えられます。

江戸の価値観・美意識で江戸いろはかるたを考えた場合、混じりけのない純粹なことが粋なこととなります。つまり多少下品で意味がわからなくても差別的でも昔のまま純粹なままの方が良いと考えるのは江戸の美意識としては自然なことです。

一方「雅」という価値観・美意識で江戸いろはかるたを考えた場合、江戸いろはかるたも上品で洗練された風雅・優美ということが大切となります。江戸いろはかるたといえども、やはり京都の老舗のかるた店が作成し販売するかるたが下品で差別的ではよろしくないとするのは「雅」を美德とする京都としては自然なことでしょう。

このように単にことわざを覚える、あるいはその意味や出典を覚えたり調べたりするだけではなく、少し視点を変えてことわざに着目していくと、地域性や文化・価値観の違い、現代社会が考えなくてはいけない問題などが見えてきます。ことわざは民衆の間で創られ伝承されるものであるため社会、文化、人間関係などに関連します。これは江戸いろはかるたのことわざに限らず、すべてのことわざに通ずるものです。分析データ・資料としてのことわざの有効性

がわかる事例かと思えます。

コラム2 ー放送禁止用語となったことわざ(慣用句)ー

「お灸を据える」は、こらしめのため、きつく注意したり処罰したりするという意味で使われますが、このような意味の言葉として使われると自分たちの職業へのイメージが悪くなってしまうという理由から、東京都はりきゅう・あん摩指圧師会からこの表現は使用しないようにとの要請があり、現在この表現は放送禁止用語となっています。そのため、「お灸を据える」は「お仕置き」「制裁」と表現しなければなりません。

「将棋倒しになる」もテレビなどでは現在放送禁止用語となっています。放送禁止用語となるきっかけは、2001年7月21日に兵庫県明石市で起きた「明石歩道橋事故」です。この事故では11名が亡くなり183名が負傷しました。

この事故は、花火大会を見るために大勢の人が歩道橋上に密集し将棋倒しになって多数の死者が出るというものでしたが、このときマスコミ各社は「将棋倒し」事故として連日報道しました。それに対して将棋連盟の当時の会長が「将棋に対して悪いイメージを与える」と抗議したうえで、『「将棋倒し」を使わないように」と要請しました。そのため、「将棋倒し」は「折り重なるように倒れる」と表現しなければなりません。

(4) 既存のことわざの取り扱い方Ⅲー意味が変わってきていることわざの例ー 本来に意味とは違う解釈になりつつあることわざ

近年、本来に意味とは違う解釈になりつつあることわざがあります。例えば「情けは人の為ならず」の意味は本来、「人に情けをかけるのは自分のためになる」ですが、最近は「人に情けをかけるとその人のためにならない」という意味だと理解している人も少なくありません。その他にも意味が変わってきていることわざとして次のようなものがあります。

・「馬子にも衣装」

本来の意味：誰でも身なりがよければ立派に見える。

近年の解釈：孫はなにを着てもかわいい。

「馬子」とは、駄馬に荷物や人を乗せて運ぶことを職業とした人のことで、馬子のような身分の低い人でも、羽織袴を着れば立派に見えることからこのことわざが生まれました。この「馬子」を「孫」と勘違いし「孫にも衣装」と思ってしまったことから意味の捉え方が変わってしまったと考えられます。

・「河童の川流れ」

本来の意味：上手な人でも失敗することがある

近年の解釈：とても上手にやっている

河童の川流れは、水中にすむ河童も、時には水に押し流される。どんな達人でも失敗することがあるという意味ですが、「川流れ」という表現がどこか河童が上手に川を泳いでいる姿に思えてしまい意味の捉え方が変わってしまったと考えられます。

確かにこのような解釈は辞書・辞典に書かれている意味とは違います。小学校の国語の授業やクイズでは当然のことながら「これは間違っている」となるでしょう。しかしながら、ことばとして考えた場合単純に間違っているといえるのでしょうか？

ことわざの意味が変化＝生きてることわざ

「渡る世間は鬼ばかり」というテレビドラマをご存じでしょうか？橋田壽賀子作のテレビドラマですが、このドラマのタイトル「渡る世間は鬼ばかり」は、「渡る世間に鬼はない」の言い換えなのですが、今ではむしろ「渡る世間は鬼ばかり」の方が有名になっています。

このように、ことわざは比喻や喩えが多く用いられていたり、今はあまり使われない漢字やことばが使われたり、そもそも基のことわざを知らなかったりすることがため、本来もっていた意味と違った解釈をされることがあります。しかしながら、その間違った解釈も、多くの人がそのように使っているうちに次第に定説として認められるようになるのです。先に紹介した「馬子にも衣装」「河童の川流れ」も同様で、たとえ辞書的な意味とは違っていても、多くの人がその意味を共有・共感しているのならば本来の意味も近年の解釈もどちらも間違いではないのです。

ことばはその時代の価値観を反映します。例えば、若い女性たちの間で日常使われる「かわいい」の概念の幅は広く、「おにかわ(いい)」「ばちかわ」「ぐうかわ」など、かわいい芸能人や小さい子ども、ふわふわした女の子らしいものなどの本来の意味としてはもちろん、「ぶすかわ」「きもかわ」「グロかわ」など、少し癖のあるキャラクターやグロテスクなものまで、「かわいい」と表現します。様々なニュアンスの意味を持つ「かわいい」を状況別に使い分けているわけ

です。そしてこの「かわいい」は若者ことばとしてその概念を年々変化させています。

ことばはその時代の価値観(社会心理)を反映します。当然ことわざもことばなのでその時代の価値観を反映します。先に紹介した「馬子にも衣装」は、「馬子」が「孫」に変わってしまった訳ですが、超高齢社会といわれる現代社会において孫を持つ高齢者は多く、孫の話は共通の話題となります。こういった社会状況が「馬子」を「孫」と勘違いさせることの要因となったと考えられます。

ことわざの意味が変化するというのは、そのことわざが日常的に使われているからであり、そのことわざが生きているからといえます。変化しなくなったことわざはいずれ忘れられていくことになるでしょう。現在、国語教育では生徒たちにことわざとその意味を暗記させることがメインとなっています。しかしながら、辞書に書いてあることだけがことわざの意味ではありません。

ことわざ理解の留意点―「雄弁は銀、無言は金」

「雄弁は銀、無言は金」の意味について現代日本社会でこれを教訓と捉えれば、「口が上手い(話し上手)よりもむしろ無口な方が良い」となります。しかしながら、ことわざの解釈は必ずしも正解が一つだけとは限りません。例えば「雄弁は銀、無言は金」にしても、「本当に雄弁であっても、世の中の成功者は無口な者である」とか、「雄弁と言っても本当に雄弁な者は、そうはいない、そこで中途半端な雄弁上手をもって優越観を持つよりもむしろ無口な方がまし」といった解釈にもなり得るでしょう。このように様々な解釈が可能ですが、ことわざの伝播、変容を知るとどの解釈も間違いだと気付きます。

「雄弁は銀、無言は金」は、古代ローマ時代に創られたことわざだといわれています。この時代は銀本位制の時代で、金よりも銀の方が価値が高いとされていました。そのため、無言・無口よりも雄弁家こそが銀を手に入れ社会で高い評価を受けたというのが元の意味となります。つまり、金と銀に対する価値観が現代とは逆であるため、ことわざの意味も正反対となるわけです。

こういったことわざの成り立ち(語源、出典、伝播など)は、「狭義のことわざ研究」において初めてその意味を知ることができるわけですが、そうだからと言って、必ずしも元の意味が正しいというわけではありません。ことわざの起源を知り、伝播、変容を認識した上で、現代日本社会の日本人の社会的態度、社会的性格ほど



ちらなのか、社会規範・規制としてはどうなのか、常識というよりも共通感覚としてはどうであろうかなどについて分析し、その意味を考察することも大切なのです。

コラム3 「火中の栗を拾う」—政治家も大変

2016年、民主党の新しい幹事長に野田佳彦前総理大臣の起用が決まった際の記者会見で野田佳彦前総理大臣は『青天の霹靂』でした。固くお断りしました。多くのまだ落選して戻れない人たち、地方で苦闘している人たちのためにも、自分の政治人生の落とし前を付けるつもりで、『火中の栗を拾う』決断をさせて頂きました」と述べました。

この記者会見で野田佳彦前総理大臣は「青天の霹靂」と「火中の栗を拾う」の2つのことわざを使ったのですが、その使い方についてある大手の新聞社から私のもとへ質問のメールが届きました。その内容は、『青天の霹靂』は本来の意味として使っていましたが、『火中の栗を拾う』は本来の意味とは違った意味で使っていました。これは間違いなのではないか。ご意見を伺いたい」というものでした。

「火中の栗を拾う」は、だまされて他人の手先として危険な仕事に使われるという意味ですが、今年「公益のためにあえて犠牲になる」という美しい意味として使われることが多くなっています。野田佳彦前総理大臣は後者の意味として用いています。

私は野田佳彦前総理大臣や民主党になんの義理もありませんが、ことわざ社会心理学的視点で「辞書的な意味とは違っていても、多くの人がある意味を共有・共感しているのならば本来の意味も近年の解釈もどちらも間違いではないです」と新聞社に返信しました。すると新聞社から「ありがとうございます」と返信がありましたが、新聞記事に取り上げられませんでした。おそらく新聞社が求めていた答えとは違ったのでしょう。「これは間違っている」と言ってほしかったのだと思います。

「ことわざの使い方が違う」「これは間違いだ」「教養が無い」と指摘して野田佳彦前総理大臣を批判し足を引っ張りたかったのでしょう。政治家も大変ですね。(川島 洋)

(5) 既存のことわざの取り扱い方Ⅳ—ことわざに共通する原理性、法則性を探究する

ことわざと社会・文化・人間関係との係わり

「ことわざ社会心理学」の研究法として、様々な社会・文化、人生、信条などの諸課題などに関連する「特定テーマ(項目)」を設定し、そのテーマに関連することわざ(類句や反句)を複数集合させて、それらのことわざに共通する原理性、法則性を探究する研究方法があります。これは、ことわざを分析デー

タ・資料として、特定社会の社会的規範・規制や社会的態度、あるいは常識や社会的性格(行動傾向)などの原理や法則性を見出すものです。

ことわざは民衆の間で創られ伝承されるものであるため社会、文化、人間関係などに関連します。ここでは既存のことわざを集合させ社会・文化・人間関係との係わりについて考察していきましょう。

「しきたり」とことわざ—習慣行動・慣行行動・制度的行動

私たちは、様々な習俗的(社会的)規範・規制行動(常識)に従って日々社会生活をおくっています。社会学や文化人類学では、習慣、慣行、慣例、慣習、風習、風俗などとされる習俗的規範・規制行動ですが、こうした行動が繰り返されると、「そういうもの」と共感されるようになり、さらに繰り返されると「そうあるべきもの」となるわけです。この「そうあるべきもの」が、いわゆる「しきたり」というものになるわけです。

「しきたり」という言葉は、伝統的に“して来たり”ということが由来となっています。つまり、そうあるべきものを伝統的にそうして来たとういうのが「しきたり」となり、科学的根拠はほとんどないものの、「しきたり」によって社会秩序が保たれてきたわけです。この「しきたり」について社会心理学では、その違反行動に対する制裁の程度により、軽いものを「習慣行動」、やや重いものを「慣行行動」、さらに重いものを「制度的行動」と分類しています。また、やがて社会的に意味が喪失されると「因習」となります。

習慣行動	日常の衣食住、健康・保健などに関する社会的行動のこと。これを破ると、「我がまま」「身勝手」「自分勝手」「若い」「アオイ」「ガキ」「まだまだ子ども」「大人になっていない」などと他者から否定されたりする。
慣行行動	冠婚葬祭などと一般的に言われる年中行事や人生(通過)儀礼などに関する行動のこと。これを破ると、かつては「村八分」;「火事と葬(とむらい)は村八分外」。現代では「変わり者」「変人」「非常識」などとされてしまう場合があったが、合理性の追求、生活改善運動などと、むしろ慣行行動を否定するような視点も近年出てきている。
制度的行動	必ずしも成文化されていなくても、例えば共同体の諸組織や共同労働の取り決めなどに関する社会的行動のこと。
やがて社会的に意味が喪失されると「因習」となる。	

習慣行動としての常識に関することわざの集合

「日常茶飯」と言うように、朝起きての歯磨きや洗面、化粧、整髪などの身だしなみを整える。喫煙、晩酌、緑茶・コーヒー・紅茶などの飲み物をとる。食事時間や食事作法・食べ方、あるいは「おはよう」「いただきます」「ごちそうさま」「行ってきます」「こんにちわ」「こんばんは」「さようなら」「おかえり」「おやすみ」といった挨拶…など、私たちは日々無意識にこういった言動を繰り返しています。このような習慣行動を分析することは日本人の常識を確認することであり、生活様式としての文化を知覚、理解、認識することにつながります。

①「衣」生活に関することわざ―「矛盾両極許容統合」

習慣行動に関するのことわざの例として「衣」についてのことわざを概観してみましょう。

多くのことわざには似たようなことわざ「類句」と、正反対の意味を持つ反句があります。「衣」についてのことわざにも、外見を良く見せることが大切という意味のものがある一方で、いくら外見を繕っても内面は隠せないという正反対の意味のものがあります。

「衣」についてのことわざ “not only A, but also B” (AだけでなくBでもある)		意味
not only A (肯定的)	「人は衣裳」「浮世は衣装七分」「仕事は衣から」「馬子にも衣装」 「猿にも衣裳」「裸で人前は通れぬ」	外見を良く見せることが大切。
but also B (否定的)	「面をかぶったよう」「姿は作り物」「着物は身の皮」「心に笠着て暮らせ」「心につるる姿」	いくら外見を繕っても内面は隠せない。

多様な類句と反句は日本人の社会的行動原理「矛盾両極許容統合」を象徴

なぜことわざには「反句」や「類句」が存在するのでしょうか。それは、人々の様々な生活体験の数々を類句や反句として表現しなければ、様々な文化的事象、あるいは人間同士の相互作用(人生の複雑さ、対人行動・社会関係・コミュニケーション)の繊細さを単純には言い尽くせないからです。そして、「類句」や「反句」の存在は “not only A but also B” すなわち「Aである。しかもまたBでもある」という、日本人の大人の社会的行動傾向「矛盾両極許容統合」を表しています。これは、矛盾する行動や価値観をも許容し、広く寛容に受容するという、日本人の社会的行動傾向の象徴といえます。

この「矛盾両極許容統合」とは、日々の生活の瞬間、瞬間において、矛盾両極の本来相容れない「何もの」かを、時と場合、状況、タイミングによって判断を臨機応変に、しかも柔軟にバランスを保って判断・決断することです。必ずしもイデオロギーや宗教的教義などを根底とした判断点を固定した正解は一つというような判断・決断ではありません。しかし、その判断・決断の瞬間は決して優柔不断や付和雷同などではなく、まして曖昧ではありません。ちゃらんぽらんな「イ・イ・カ・ゲ・ン」ではなく「好い加減」に、あるいは「テ・キ・ト・ウ」ではなく、「適切で当たっている、すなわち正解である」という意味の「適当」に判断(分別)しているのです。

好い塩梅＝「矛盾両極許容統合」

「衣食足りて礼節を知る」ということわざがあります。衣服や食糧といった生きるために必要なものが十分にあるようになって初めて、礼儀や節度といった、社会の秩序を保つための作法・行動を期待することができるようになるという意味です。また、「着れば着寒」は、寒いからといって重ね着をしてもまた寒くなる。習慣には限度がないから、多く着ていても、寒さを覚えるものであるという意味です。

これらのことわざは、好い塩梅でほどよく、バランスよく行動するべきということ比喩です。人は多くの情報を視覚によって得ています。そのためつい見ただけで判断しがちです。「衣」についてのことわざはこのような人間の認知特性についての注意喚起であり、人間の認知特性を理解し、客観的に人や物事を判断することの大切さを表しているといえるでしょう。

このように、ことわざに反句があることは、ことわざが人や物事を客観的に捉えていることをよく表しています。矛盾した両極端な意味を持つことわざを理解し、物事の本質をこうだと決めつけず、多面的に人や物事を許容する、こういった姿勢・視点を持つことが出来れば本当の意味で物事の本質に近づけるのではないのでしょうか。

共通するテーマのことわざを集合させ多面的に捉える

共通するテーマのことわざを集合させ多面的に捉えると、日本人がいかに矛盾両極を許容し、統合して社会的行動や社会的態度、あるいは習俗規範・規制としていることに気づくはずで

【事例1】

「恥」についてのことわざ “not only A, but also B” (AだけでなくBでもある)		意味
not only A	「生き恥かくより死ぬがまし」「生き恥さらしても死に恥さらすな」 「会稽の恥(戦いに大敗した恥辱、手ひどい屈辱)」「親の恥は子の恥、子の恥は親の恥」「恥の上塗り」	恥は忌避すべき。
but also B	「恥に死にせず」「命長ければ恥多し」「恥も外聞もない」「旅の恥はかき捨て」 「据え膳くわぬは男の恥」	恥は人の生死などに関係ない。
矛盾両極許容統合	「恥を知る者は恥じかかず」「恥を恥と思わぬものは役に立たぬ」「恥を知る者は勇に近し」「聞くは一時の恥聞かぬは末代の恥」「恥を言わねば理が聞こえぬ」 「暗がりの恥を明るみに出す」	恥は自覚すべきもの。／恥を如何に回避できるか。

【事例2】

「嘘」についてのことわざ “not only A, but also B” (AだけでなくBでもある)		意味
not only A	「嘘つきは泥棒の始まり」「嘘言うものは盗みする」「嘘をつくは盗人の下地」 「嘘を言うと閻魔に舌を抜かれる」「嘘ついたら針千本」「嘘を言うと背中に松が生える」「嘘を言うと腹に竹が生える」「嘘に涙は出ぬもの」 「嘘は疑われの先駆け」「嘘は後から剥げる」「嘘は足が短い」「嘘は門口まで」 「嘘の上塗り」「嘘で固める」「嘘で丸める」「嘘つきは本当のことを言っても信用されない」(『イソップ物語』)	「嘘」に対して否定的なことわざ。 (子どものしつけ)
but also B	「嘘は日本の宝」「嘘は世の宝」「嘘をつかねば仏になれぬ」	「嘘」を肯定することわざ。
矛盾両極許容統合	「嘘も方便」「嘘も追従も世渡り」「嘘も場合による」「嘘も身の芸」「嘘も誠も話の手管」「嘘から出た誠」「嘘らしい嘘はつくとも、誠らしい嘘はつくな」 「嘘らしいことは誠でも言うな」「嘘らしい誠は言うとも、誠らしい嘘は言うな」	「嘘」に対して柔軟なことわざ。
客観的、概説的視点	「嘘で固めた世の中」「嘘の世の中」「嘘八百」「嘘も三日は嬉しい」「嘘にも種がいる」	現実社会を叙述していることわざ。

②「食」生活に関することわざ

—習俗規範・規制を教える役割としてのことわざ

「食」生活に関することわざとして先ずは「茶」から見てみましょう。

「朝茶柱が立つと縁起がよい」「朝飯に茶をかけて食うと出世できない」

「茶腹も一時」。これらのことわざは、「縁起がよい」「出世できない」「急

場をしのぐことはできる」といったお茶によるメリット、デメリットを語っているわけですが、科学的根拠はほとんど考えられない俗信、言い伝えです。しかしながら、こうしたことわざが習俗規範・規制を教えることの一翼を担い、朝はお茶を飲む、朝飯をしっかり食べるという習慣行動を内在化させることになるわけです。

ちなみに、お茶に関することわざには科学的根拠があるものもあります。

「濃い茶目の毒気の薬」ということわざがそれです。濃い茶は興奮剤なので飲むと睡眠の妨げとはなるが、反面、元気が出る効果があるという意味ですが、これはお茶の成分であるカテキンの効果について語っているわけです。皆さんもこういったお茶の効果を期待して毎日お茶を飲んでいるかと思います。

それでは次に「飯」についてのことわざを見てみましょう。

「一杯飯は縁起が悪い」ということわざがあります。一膳飯は、葬儀の時、あるいは日常仏壇の仏様に差し上げのご飯が、一膳飯であることから縁起が良くないものとされました。同様に、「飯の上に箸を立てるな」ということわざも葬儀を連想させるため縁起が良くないものとされました。

また、「米一粒汗一粒」「飯をこぼすと目がつぶれる」は、お米は「八」「十」「八」と書くように、手間隙かけて作られた貴重な食べ物であるから大切に、そして「ご飯を食べるときはお膝して食べろ」と正座して礼儀正しく食べるべきという習俗規範・規制が言われています。

そして、米にこだわり、米食を愛してきた日本人には、「米の飯とお天道様は何処へ行ってもついてまわる」ということわざのとおり、太陽がどこでも照らすように、どんな苦しい境遇にあっても食べていくことはできるという、お米に対する楽観的世界観の傾向があると言われています。

日本人の社会的行動傾向、社会的性格ということでは、「同じ釜の飯を食う」ことわざがあります。これは「相互協調的自己観(像)」という日本人の社会的行動傾向、社会的性格の一つの特徴をよく表しています。「相互協調的自己観(像)」とは、自分はどういう人で、何が好きで、どうしたいかなどを認識する過程において、周りに合わせて協調的にそれを決定しようとする傾向のことです。

また、「朝飯前には出来ぬ」「朝飯前の仕事」「朝寝坊の宵っ張り」「早飯も芸のうち」などのことわざは、人々の日々の生活において真面目で勤勉ばかりではない、あそび、余裕の行動としての「粋」とか「いきがり」という社会的行動を示しています。

習俗的規範・規制—「食べる」という習慣行動のことわざを集合させてみよう	
「食べる」という習慣行動のことわざを集合	「食うだけなら犬でも食う」何もしないで食べるだけなら犬でも出来る。人間としての値打ちは幸せや意義を感じる事にある。
	「猫の食い残し」食べ物を残してしまう癖があるということ。食べ物を粗末にしてはいけないと戒める意味。
	「食べてすぐ寝ると牛になる」食事をした後すぐに横になったり眠ったりするのは行儀が悪い。
	「親が死んでも食休み」どんなに忙しくても食後の休息はとるべきである。忙しくても、休憩せずに働くのはよくないという戒め。
	「食い溜め寝溜めは何にもならぬ」余分に食べたり寝たりしても、時間が経てば腹も空くし眠くもなるので無駄であるということ。
	「怠け者の食い過ぎ」怠け癖のある者は働きもしないで食欲ばかり旺盛であること。
	「馬鹿の大食い」 暴飲暴食を戒めることば。
	「つまみ食いをするとしゃっくりが出る」「つまみ食いすると喉が詰まる」 つまみ食いは行儀が悪くよくないという戒め。
	「食わず嫌い」食べたこともないのにその物を食べるのを嫌うこと。物事の実情を知らないのにわけもなく嫌うこと。
	「つつき箸迷い箸はするな」 食べ方、箸の使い方に関する戒め。
「飯の上に箸を立てるな」「箸から箸へ食べ物を受け渡すな」葬儀を連想させるため縁起が良くない。	
集合させてみてわかること	<p>根拠がありそうなものとはっきりないものが混在していますが、どれも生活の知恵として必要な習慣行動という常識、習俗規範を伝えるものだということがわかる。</p> <p>親や年長者は意識的にこのような習俗的規範・規制を認識した上で、ことわざを用いて子や年少者のしつけを行った。</p>

③慣行行動—「祝う」と「祝われる」、「祀る」と「祀られる」の象徴的意味

誕生から成人するまでの間、子どもは親をはじめとして周囲の者から「祝われる」(初参り、七五三、節句、雛祭り…など)ばかりの存在です。それが婚姻、結婚式、披露宴という儀式を経て夫婦となり、やがて親となって子どもに対して「祝う」存在になっていきます。

「祝う」とは、儀礼ごとに人を呼び、付き合いをしなくてはなりません。内輪とされる自分に最も近い血縁の身内、姻戚、非血縁者で自分が属する諸集団

内の仲間内・同胞、日常的に親交のある直接付き合いのある近い他人。それよりは遠い関係であるが間接的に関連があるような遠い他人。そして「隣りは何をやる人ぞ」のアカの他人という枠組みの誰を呼ぶか、どのように付き合うか、贈答をするかといったことを選択、判断・決断していく過程を経ていくことで、特定の社会集団内における成人・大人となれるわけです。

「祝う」は、子どもの成長過程に対するだけの社会的行動ではありません。長寿の親や先輩なども祝います。人は生まれてから「祝われ」、婚姻を契機に「祝い」、やがて高齢になると再び「祝われる」こととなります。また、「祝う」という社会的行動だけが、婚姻後に待ち受けているものではありません。成人、大人は、死者を「祀る」という社会的行動をします。そして死後は「祀られる」ことになるわけです。

やがて必然的に自分自身も「祀られる」ことになるのであり、「祀る」ことを自らがしなければ「祀られない」ことにも成りかねない。このように、「祝う」「祀る」という社会的行動が知性豊かな大人を育てているという側面があります。

「祝う」に関することわざ—スピーチに使えることわざ
「一口は食べぬが、二人口は食べる」結婚して二人になればムダな出費がなくなって暮らせるということ。
「縁は異なるもの味なもの」男女の結びつきは不思議なもので、どこでどう結ばれるかわからない妙味があるという意味。
「ほれて通えば千里も一里」相手に会いたい気持ちがあれば、どんなに遠い道のりも近く感じるということ。
「人を愛すればすなわち人これを愛す」人を愛する人は必ず人から愛される。

④制度的行動—相互協調的自己観(像)の象徴

「この世は持ちつ持たれつ」と“Give and take”

「この世は持ちつ持たれつ」ということわざがあります。このこのことわざの類句に“Give and take”があります。前者のことわざは、社会心理学の概念である「相互協調的自己観(像)」を表す象徴的なことわざです。一方、後者のことわざは「相互独立的自己観(像)」を表す象徴的なことわざです。

「相互協調的自己観(像)」とは、自分はどういう人で、何が好きで、どうしたいかなどを認識する過程において、周りに合わせて協調的にそれを決定しようとする傾向のこと、「相互独立的自己観(像)」とは、人とは他の人やまわりの

物事とは区別されて独立に存在するという考えのことで、一般的には「相互協調的自己観(像)」を日本的な行動傾向、「相互独立的自己観(像)」を欧米な行動傾向であると思われています。

こういった考え方は、いわゆる日本人は集団主義で欧米人は個人主義という、白黒明白な正解は一つという発想といえます。しかしながら、日本的な行動傾向はこのような白黒明白に語れるものではありません。「ことわざ社会心理学」は、「特定のテーマ(項目)」に関して、「既成のことわざ」をデータとし、複数集合させることで、課題の本質を見出すというところを行います。白黒明白な正解は一つという発想とは異なるものの見方といえます。

「この世は持ちつ持たれつ」の類句には、「長いものには巻かれろ」「強い者には負けろ、長いものには負けろ」「大きいものには呑まれる」「太いものには呑まれる」「寄らば大樹の陰」「寄らば大木の下」「箸と主とは太いが良い」「犬になるなら大家の犬になれ」「泣く子と地頭には勝てぬ」「泣く子には千人の武者も叶わず」などがあります。

これだけ類句があるということは、各地で広くこの意味が普及していたであろうこと、また社会生活における本質を突いている可能性が高いと考えられます。さらに、日常語の「自分勝手、身勝手、我がまま」の「自分」、「身」、「我」は、自己主張の“I”であり、いずれも規制、批判的な意味として使われます。他者があっての“me”すなわち「他者にどのように見られているか」「他者の目を気にする」ことが、日本社会における社会的行動規範・規制になっているとみなすことができるでしょう。

これらのことから、類句も含め「この世は持ちつ持たれつ」は日本人の行動傾向、日本人らしさの一端を表していると分析することができるでしょう。しかしながら、数は少ないものの、これらのことわざの反句と考えられることわざもあります。

大きな集団の末端になるより、小さな集団であっても長になる方がよいという意味の「鶏口となるも牛後となるなかれ」「大鳥の尾よりも鰯の頭」です。現代日本社会では世代間の行動にギャップがみられ、社会的規範・規制も変わりつつあるとされます。

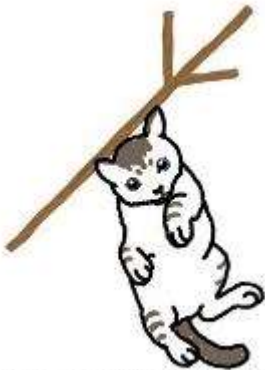
反句のように若者世代には、自己主張の“I”を行動の基調とする“Give and take”を自己の行動のモットーや座右の銘などとしたり、このように振る舞うことが個性的であるといった価値観が生じているという見方があります。また逆に、高齢者の方が自己主張をはっきりする傾向があるので「相互独立的自己観(像)」である、これに対して遠慮がちな若者は、むしろ「相互協調的自己

観(像)」であるといった若者自身の分析などもあります。

マクロな視点を欠いた、主観的な分析ですが、若者の意見・態度を知る手掛かりにはなるでしょう。このように、ことわざをデータとして特定の行動原理を分析の指標として活用することは「ことわざ社会心理学」の一つの視点となります。

4. 創作(現代の)ことわざ

(1) もとをたどればどのことわざも「創作ことわざ」



猫もも歩けば棒に当たる

一般的にことわざというと、古くから人々に言い習わされたことば。教訓・風刺などを含んだ短句や秀句という思い込みがあるのではないのでしょうか。しかしながら、ことわざはけっして古いものばかりではありません。そもそもことわざとは、誰かによって、いつかどこかで創られた言葉です。もとをたどればどのことわざも「創作ことわざ」といえます。つまり、ことわざは誰にでも創ることができるということなので

す。

そういったことから、広義のことわざ研究「ことわざ社会心理学」においては、サラリーマン川柳や、様々な流行語、あるいはキャッチフレーズなどもことわざのひとつであると定義しています。したがって、ことわざを研究資料としてみた場合、伝統的な「既成ことわざ」も、新たに創作された「創作ことわざ」も、ある地域や社会、あるいは特定の集団の共有感覚を表しているのであれば同様のものとしてみることができ、社会心理学における分析の対象とみなすことができるのです。

ことわざは、それを使う人々の日々の生活や社会、あるいは常識や価値観と密接に結びついています。例えばある地域や社会、あるいは特定の集団の皆が使い、その意味を共有していることわざは、その地域や社会、あるいは特定の集団を構成する成員の共有感覚としての言葉であり、社会心理を表しているといえます。つまりことわざを調査することは、社会心理を調査することと同様であるといえるのです。

(2) 元祖「創作コトワザ」と社会科学的「創作ことわざ」

「創作コトワザ」の元祖と言われる教育実践家・教育学者、庄司和晃(1929年-2015年)は、「創作コトワザ」を用いて長年教育実践を行っていました。その

発想の元となったのが民俗学者、柳田國男(1875年-1962年)の研究カードだったといえます。柳田の研究カードに「創作コトワザ」の記述があり、それが「創作コトワザ」による教育実践につながったというのです。ちなみに、柳田はことわざをカタカナで「コトワザ」と表記していました。おそらく柳田は、俚諺・俗諺・鄙言・野語などということわざを卑下したような呼称に対して、ことわざはもっと価値あるものであると考えたのではないのでしょうか。

庄司は、『コトワザの論理と認識理論—言語教育と科学教育の基礎構築—』(成城学園初等学校 1970年)、『コトワザ教育と教育の知恵—続・コトワザ教育のすすめ—』(明治図書 1994年)などで「創作コトワザ」を提唱し、「全国教育学研究会」において教育実践を行っていました。その内容は、自由題によりことわざを創作してもらうという方法で創られたことわざを集め、それらを例えば「将来、恋愛、友人、家族、学校、クラス、勉強、塾…」など項目ごとに分類して作品として公表するというものです。

こうした方法によって創られた「創作コトワザ」は、よく考えられ文学的に練れた秀句になり、その模範として傑作が選ばれるという可能性が高くなるでしょう。そのような理由から「創作コトワザ」はどちらかというところ、「言の業(技)」としての文学的作品であり、言葉を修飾、精選した傑作を創ることに重きが置かれているといえます。庄司自身もたくさんの選定されなかった句があると言っています。しかしながら、庄司の「創作コトワザ」を用いた活動は、国語教育の中の作文教育、つづり方教室に匹敵する教育的効果があると評価でき、生徒の行動、考え方などを知る教育指導の機能も付随する役割を持つ優れたものです。

これに対して穴田は、ことわざをひらがなとし、さらにことわざを創作することを「ことわざ創り(動詞)」、創作されて出来たことわざを「創作ことわざ(名詞)」と区別し、庄司の「創作コトワザ」の発想を手掛かりに、社会科学分野のことわざ研究として「ことわざ創り調査法」と「いろはことわざ創り、意見・態度調査法」(いろはことわざ創り調査法)を考案し実践しました。

(3) 「ことわざ創り調査法」と「いろはことわざ創り調査法」

「ことわざ創り調査法」とは、ある特定のテーマを決め、被調査者一人一人がそのテーマを「お題」として、ことわざのような短めの文章、あるいは伝統的に伝承されていることわざの文句をまねて言いかえる、「もじりことわざ」などを自由に創ってもらい、その創られたことわざを研究データ・資料として用いる調査法です。

創られたことわざ一句一句は様々な個人の率直な意見なので、それら諸々の意見を集合させることで、例えば「社会的態度」「社会(習俗)規範・規制」「社会的性格」「常識」などを捉えることができます。また、被調査者(創作者)の無意識な自己の内面が表出されるため、「精神分析的考察」が可能となります。さらに、特定の集団の成員によって創られたことわざを集合させることで、その集団の社会心理を捉えることが可能となります。

しかしながら、自由にことわざを創ってもらおうと、人によってその数にばらつきが出てしまいます。また、調査にあたっては創作者の意見・考えを多く採取したほうが、精度が高い調査となります。これらの問題を踏まえ、一人一人に多くのことわざを創ってもらうために考えだされた調査方法が「いろはことわざ創り調査法」です。

「いろはことわざ創り調査法」は、調査者が設定した「テーマ(項目)」に対して、現代用語では頭文字にし難い「ゐ・ゑ・を・ん」を抜かして、一人に「い・ろ・は・に・ほ・へ・と…」順にそれぞれを頭文字として、いろは44の頭文字分、44句の「いろは創作ことわざ」を創ってもらう方法です。できるだけ時間をかけないで、あえて熟考せずにことわざ創りをしてもらうことで思いを吐露してもらいます。

時間をかけ考えすぎると、どこか意識的になり、韻を踏んだり気の利いた洒落やギャグ、皮肉、ユーモアなどを考えたりして、とかく修辭的になりがちです。これでは本音が出にくくなります。「創作コトワザ」や川柳などが秀句を創ろうとするのに対して、「いろは創作ことわざ」は必ずしも優れた作品を創るものではありません。あくまでも個人の紛れもない心情を問うものです。だからこそ、社会科学分野の貴重で有効な分析データ・資料となるのです。

いろは44句の「いろは創作ことわざ」は、個人の「意見」と見做す事ができます。主に個人に視点を当てれば、無意識な自己の内面の心情などがことばとなり、自己分析のデータとなります。また、個人の意見を集合させて分析すると、創作者の属する社会・文化における「社会的態度」あるいは「社会意識」「社会的規範・規制、社会的性格」などを分析・抽出することが可能となります。

サンプリングの偏りの課題をクリア

「いろはことわざ創り調査法」は、大学生や短大生など成人であれば早い人で30～40分、通常1時間以内で創作できます。なぜ短時間で出来るのか、それは作品ではなく主観的に一人称で自分自身の意見を“ことわざらしき成句”

とするからです。また、川柳のように「五・七・五」などと韻を踏むとリズム感が出て句が創り易くなりますが、いろはことわざ創りはそのような条件も付けません。そして、必ず一句も欠けることなく「い・ろ・は…」すべてを創作しなくてはならないわけでもありません。なるべく条件を無くすことで、創作者は短時間で複数句を創作することが出来ます。そして、そのことが結果的に創作者自身の恣意的バイアスを回避することにつながるのです。

アンケート(質問紙法)による意識調査や意見・態度調査などは、サンプリングが偏ってしまうと、せつかくの調査結果の信憑性を欠くことになってしまいます。しかし、「いろはことわざ創り調査法」は、対象者個々の自己分析を見るにあたってはサンプリングに関して気にする必要はありません。回答として提出された「いろは創作ことわざ」の内容は濃密なので、質的・量的にも個人の回答としては十二分な量となるからです。しかも、適当に印をつけるようなアンケート調査の回答のような偏り(バイアス)が軽減されます。

また、世代間のバイアスも「いろはことわざ創り調査法」では問題となりません。例えば、若者の意識・価値観を探るためのアンケート調査などでは、必ずしも若者とは言えない調査者が若者についての設問作りをして、若者が回答することになります。これでは世代間のバイアスを埋め切れない恐れがあります。しかしながら、「いろはことわざ創り調査法」で創られる「いろは創作ことわざ」は、創作者自身の主観的な意見・考え・思いです。そのため、創られた「いろは創作ことわざ」には、若者でしか知り得ない、あるいは考えないような若者自身の意見が表出されます。

特定のテーマに対して短めの文章を書くという意味では「いろはことわざ創り調査法」で創られるいろは創作ことわざは、アンケートの自由回答欄や文章完成法の回答と同様のものともいえます。こうした「いろはことわざ創り調査法」で得られたデータ・資料を用いて、特定社会・文化の構成員に共通、一貫する「社会的態度」「社会的規範・規制」「社会的性格」などを分析するのですから、サンプリングの偏りの課題は問題としなくてもよいわけです。

「いろはことわざ創り調査法」におけるテーマ(項目)の設定

「いろはことわざ創り調査法」における「特定テーマ(項目)」は一種の質問項目です。そのため、調査者(あるいは主催者)がテーマの背景や話題性などを考慮して自由に設定することができます。しかしながら、あまりにも漠然としたテーマや大きすぎるテーマだと三人称で時代や社会・文化を説明、あるいは解説する句が多く創られることが多いという課題があります。このような事態

を避けるためには、「特定テーマ(項目)」の検討を体系的、構造的に考えることが必要となります。

例えば「現代の若者」を大きなテーマ(大テーマ)とした場合、その内容を体系化、構造的に分析することが可能なことわざを創作者から導き出すには、「現代の若者に関連する社会問題」「現代の若者の行動、意見・態度」「若者の関心事、流行」…など、より具体的なテーマ(中テーマ)を設定することが大切です。また各テーマについて関連するキーワード、例えば「いじめ」「キレル」「ネット社会」「おたく」「恋愛」「アルバイト」、「ファッション」…など小さなテーマ(小テーマ)を提示することで、創作者はよりことわざを創りやすくなります。

もちろん、大きなテーマを創作者が自由に捉え、自分でテーマを決めてことわざを創ることで問題はありません。いずれにせよ、創作者がことわざを創りやすいようにテーマを設定することが肝心です。

(4) 「いろはことわざ創り調査法」による「いろは創作ことわざ」の事例

「いろはことわざ創り調査法」によるいろは創作ことわざは、各地の老人大学や高齢者学級、カルチャー・センター、あるいは市町村などの主催による講演会などの際に創作していただくことが可能です。

それでは実際に「いろはことわざ創り調査法」によるいろは創作ことわざの事例をご紹介します。【事例1】は2007年、明治大学協賛の成田老人大学の参加者の事例です。特定テーマは、大テーマを「現代の中高年齢層の社会的行動」、中テーマを「常識・非常識」、小テーマを「礼儀作法・マナー・エチケット」として創られたいろはことわざです。

【事例2】は2006年、明治大学政治経済学部の学生によるいろはことわざ創りの事例です。大テーマを「現代の若者の社会的行動」、中テーマを「常識・非常識」、小テーマを「近頃の若者の常識」として創られたいろはことわざです。

【事例1】中高年齢層の〈いろはことわざ創り〉の事例

テーマ「礼儀作法・マナー。エチケット」男性、年齢不詳(成田老人大学参加者)
い:いっからか、「今の若い者は」が口癖に／ろ:老人多くして、ルールなり難し／は:
はき違い、自由と勝手の多いこと／に:人間と人との違いは「間」抜けなり／ほ:ほと
ぼりが醒める間もなく、また事件／へ:屁理屈を捏ねることだけ一丁前／と:とっちめ
てやりたい役人、天下り／ち:地理、歴史知らぬと、お頭を疑われ／り:理不尽がまか

り通る世紀末／ぬ:ぬるま湯に浸かっていると茹で蛙／る:累進税、退職金まで持ってゆき／わ:若者の化粧によってはバカ者に／か:書き込みでバレル、あなたの氏素性／よ:酔うほどに、自分の言葉に酔ってくる／た:誰だろう、化粧を落とすと分からない／れ:礼儀とは知って欲しい、人の道／そ:それほどに、難しいマナーはありません／つ:つまらない、近頃テレビ番組は／ね:根っからの悪い人は荀子だけ／な:「何々じゃないですか」は耳障り／ら:乱暴な言葉遣いに子が倣え／ぬ:無知を知る、人がますます減ってきた／う:裏があり、表もあるからややこしい／の:伸びた髭、そのぶん頭に移したい／お:美味しさも、無理強いされると不味くなる／く:悔いても過去は変わらない、だから愚痴はやめましょう／や:やめようと思えど出てくる愚痴、ぼやき／ま:まだはもう、充分酒はまわってる／け:謙遜も度が過ぎれば自負となる／ふ:吹けど踊らぬ学生に、温厚教授も腹が立ち／こ:ゴルフ場、サンダルTシャツ御法度よ／え:遠慮も、時には必要 T.P.O.／て:丁寧語、使い慣れぬと舌モツレ／あ:秋葉原、オタクの街だよ、おっかさん／せ:専用車両、女性も嫌う化粧臭／す:駿河台、最近聞けない白雲が／さ:座右の銘「驕らず、卑下せず」忘れがち／き:95 親父が仕切る、お袋の七周忌／ゆ:友情はリタイアあとに、試される／め:明大生、成って欲しいな掃き溜めに鶴／み:ミシュランに頼る日本、情けな。／し:食料の自給率は下がっても、廃棄率は下がらない／ひ:人を皆、我が師と思えば聞き上手／も:「もったいない」外国人に教えられ

【事例 1】は 2007 年の高齢者による創作ことわざですが、現在にも通じる中高年層の方の様々な角度からの“意見”が一句一句に散りばめられています。昔から言い続けられてきたとされる「今どきの若者は…」について、「い:いつからか、『今の若い者は』が口癖に」とやや自戒的に意見を述べていますが、若者に対する明らかな批判は、頭文字「は、へ、わ、か、れ、そ、な、ら、ふ、め」の 10 句です。しかし、同じ句が見方によっては自己批判や社会批判とも解釈できます。

44 句の意見に一貫・共通する社会的態度は、「さ:座右の銘『驕らず、卑下せず』忘れがち」に象徴されるように、良識としての社会常識を堅持し、趣味も豊かで柔軟な思考をお持ちですが、時に正義感の強い、正直でまじめな価値観が頭をもたげる昭和 10 年代(戦前)生まれの社会的態度を持たれていると推測できます。

【事例 2】若者の〈いろはとわざ創り〉の事例

テーマ「近頃の若者の常識」女性・22 歳(2006 年)

い:「いちいちうるせえ」が口癖です／ろ:路上喫煙当たり前／は:はっきり言われると傷つく心／に:日本は落ちたと言われる原因／ほ:他の人の目を気にしすぎ／へ:平気で嘘つく悲しい心／と:隣の人にも気を配れず／ち:ちょっと言えばすぐすねる／り:理解しようとしているみたい／ぬ:ぬるい環境でぬくぬく育った／る:ルンルンするのは小遣いをもらったとき／わ:詫びる心はいっから無くした／か:可愛がってもらえると思ひ込む／よ:世の中甘く見すぎて／た:誰がこんな子に育てたの／れ:列に並べない若者たち／そ:そんな子供に誰がした／つ:辛いことから逃れるのが得意／ね:寝るか、食べるか、遊ぶかの生活／な:何度同じことを言われたか／ら:羅針盤を失った若者たち／む:「昔、私たちの頃は…」と親の説教聞き飽きた／う:「うちの子は…」と世間体を気にする親の子はぐれる／の:飲み会での限度を知らない／お:お金の価値も知らない／く:口だけは達者／や:約束を守れることを約束される／ま:待ち時間は携帯電話が友達／け:喧嘩以外の解決方法を見つける時期／ふ:不安をいつも抱えて／こ:ここにいる存在価値をいつも捜している／え:笑顔は友達か恋人の前だけ／て:手紙はしばらく書いてません／あ:「明日やるから」と先延ばす／さ:されたら仕返す、これ常識／き:期日はあって無いようなもの／ゆ:ゆとり教育の結果／め:目指すものが見つからない／み:みんな見た目が同じ／し:芯が通っていない子多い／ひ:1人じゃ何も出来ません／も:もっとお金がほしいとせがむ／せ:背伸びをしても心は子供／す:好きなものにだけ熱中

【事例2】については、事例の提示のみで分析を行っていませんが、全体を通読するだけでも十分に若者が考える若者観を確認できるのではないのでしょうか。また【事例1】と比べることで若者についての世代間での捉え方の違い(ジェネレーション・ギャップ)がわかるかと思います。

「いろは創作ことわざ」をデータ・資料として分析すると、個々の創作ことわざは個人の意見と見做せます。個々のことわざの集合は、ことわざの創作者が属する特定社会・文化構成員の社会意識、社会的態度、社会的規範・規制、社会的性格と考えられます。また、こうした事例を複数集合させることで、それらに一貫・共通する特定社会・文化の成員の社会的態度や社会的規範・規制を分析・抽出することができるのです。



獅子も亦から落ちる

■ 「いろはことわざ創り調査法」の長所を整理すると

- ①「特定テーマ(項目)」に直接関連する「創作ことわざ」を、気軽に、率直に、感覚的に、短時間で複数創ることができる。
- ②特定被調査者(対象者)が同質の属性とすれば、サンプリングの偏りや数量的データ不足によるバイアスが生じ難い。事例が少なくても、対象者(創作者)自身の行動傾向は分析が出来る。複数であれば個々の属する社会集団構成員に共通する、一貫する社会的態度、社会意識、社会的規範・規制などが分析できる。
- ③質問紙法に表われ易い日本人特有の回答とされる「どちらともいえない」といった曖昧な回答を回避でき、回収されたデータは研究者・教育者などの調査者の分析力にもよるが、精密に整理・分析できる可能性を持つ。

(5) 自分探しの「いろはことわざ創り」やってみませんか？

自分探しの「いろはことわざ創り」は、創られたことわざを社会的態度、社会的規範・規制などを分析するデータ・資料としてみるのではなく、個人の自己認識、自己分析のデータ・資料として活用します。教室やサークルなどでも気軽な話題として、コミュニケーションの一環で取り組んでいただくのも良いかと思います。

【やり方】

- ①テーマを「本当の自分」「社会の中の私」と設定して、「いろは歌」の「い・ろ・は…」を成句の頭文字として、あなた自身の率直な思いや意見を一人で複数句創作してください。
- ②創作の前、あるいは創作後に自分で創作した「いろは創作ことわざ」に「副題」をつけてみてください。
- ③「い・ろ・はことわざ創り」をご自分でやってみていただき、「あなた(主我)」は、「あなた自身(客我)」をどのように見ているのか、あるいは、周囲の他人は「あなた(客我)」をどのように見ているか。これらについて自己分析してみてください。

【創作上の注意】

- ①できるだけ創作に時間をかけない(熟考しない)で自分の思いや意見を吐露してください。
- ②ことわざという言葉に捕われないで「ことわざらしき短めの成句」と思ってください。

- ③テーマについて説明するような三人称の創作を避けて、できる限り主観的な一人称で「自分の思いや意見」を44句創作してください。
- ④44句とは、現代では頭文字にしづらい「ゐ・ゑ・を・ん」の4文字を抜かした44句です。どうしても何句かが思いつかない場合は、無理にすべてを埋め尽くす必要はありません。

コラム4 「主我」と「客我」

アメリカの社会心理学者、ジョージ・ハーバード・ミード(1863年-1931年)は、「主我」とは、「何者にも拘束されない個性的な自分(自我)の側面、自己主張する能動的な自我」であると考えました。これに対して「客我」とは、「一般化された他者によってコントロールされる受動的な自分(自我)の側面」であると説明しました。

ミードは、様々な行為・行動を行う主体である自分が、自分を客体として意識することこそ、自我を意識することに他ならないと考えました。

5. 「創作ことわざ」を用いた研究事例

川島洋 2017 「創作ことわざを用いた社会心理学研究の実践と可能性」

明治大学『政経論叢』第85巻 第3-4号より

音楽は空気の詩である

【ことわざ創り調査法の実践①】

「創作ことわざ」を資料とした精神分析的考察

「いろはことわざ創り調査法」は、創作者(被調査者)の無意識な自己の内面が表出されるため、精神分析的考察が可能となります。ここでは、「いろはことわざ創り調査法」を用いた精神分析的考察の事例をご紹介します。



音楽専門学校生を対象とした「音楽」についてのいろはことわざ創り

2009年8月、若者の「音楽」に対する価値観を考察することを目的に、「いろはことわざ調査法」を用いて、都内の音楽専門学校に通う学生(男性16人、女性86人、年齢18歳から20歳)を対象に調査を行いました。

そしてこの中から、特に音楽に助けられたあるいは癒されたといった内容のことわざを多く創った学生、M・Iさん(女性、18歳)の創作いろはことわざを取り上げ、ヴィジュアル系ロックが「移行領域」「移行対象」的な機能を果たしているかに着目し、精神分析的考察を試みました。

M・Iさん(女性、18歳)による「創作いろはことわざ」

次に紹介するのが、M・Iさん(女性、18歳)による「音楽」をテーマとした創作いろはことわざです。

M・Iさん(女性、18歳)による「音楽」をテーマとした創作いろはことわざ

No.Ⓔ	頭文字Ⓔ	創られたことわざⒺ	No.Ⓔ	頭文字Ⓔ	創られたことわざⒺ
1Ⓔ	いⒺ	色々なジャンルがあるⒺ	23Ⓔ	うⒺ	運動してなくてもライブに行けば十分運動になるⒺ
2Ⓔ	ろⒺ	ロックは素晴らしいⒺ	24Ⓔ	のⒺ	のほほんとするメロディーⒺ
3Ⓔ	はⒺ	ハイトーンを出す夕霧の声が好きだⒺ	25Ⓔ	おⒺ	音楽は私の生きがいだⒺ
4Ⓔ	にⒺ	人気と有名はちがうⒺ	26Ⓔ	くⒺ	繰り返せば繰り返すほど深くなる曲Ⓔ
5Ⓔ	ほⒺ	本当の素直な気持ちになれるⒺ	27Ⓔ	やⒺ	休む暇のない激しい曲が好きだⒺ
6Ⓔ	へⒺ	勉強するときにもかかせないⒺ	28Ⓔ	まⒺ	毎日聴けばますます好きになるⒺ
7Ⓔ	とⒺ	トゥーン工場が好きだⒺ	29Ⓔ	けⒺ	消すことのできない思い出のメロディーⒺ
8Ⓔ	ちⒺ	ちょっとした移動のときにもかかせないⒺ	30Ⓔ	ふⒺ	普通に聴くだけではつまらないⒺ
9Ⓔ	りⒺ	理由なんてない、ただ好きだからⒺ	31Ⓔ	こⒺ	心と心をつなぐものⒺ
10Ⓔ	ぬⒺ	ぬかるみにはまりそうになっても助けてくれるⒺ	32Ⓔ	てⒺ	テンションあがると曇れるⒺ
11Ⓔ	るⒺ	ルンルン気分になるⒺ	33Ⓔ	あⒺ	愛をそそぐものⒺ
12Ⓔ	わⒺ	わたしはヴィジュアル系が好きだⒺ	34Ⓔ	さⒺ	最近色々なアーティストを聴くⒺ
13Ⓔ	かⒺ	悲しいときに元気をくれるⒺ	35Ⓔ	きⒺ	聴いている人に幸せを与えるⒺ
14Ⓔ	よⒺ	夜に聴けばテンションがあがるⒺ	36Ⓔ	ゆⒺ	夢叶くん愛してるⒺ
15Ⓔ	たⒺ	楽しいライブは私の支えだⒺ	37Ⓔ	めⒺ	メロディーを口ずさむくせがあるⒺ
16Ⓔ	れⒺ	毎日続くライブでもちっとも苦痛でないⒺ	38Ⓔ	みⒺ	耳をすませば色々な音楽が聴こえるⒺ
17Ⓔ	そⒺ	そっと口ずさめばいつの間にかノリノリにⒺ	39Ⓔ	しⒺ	幸せを感じる時は、好きなアーティストのライブにいるときⒺ
18Ⓔ	つⒺ	つまらない時にも楽しませてくれるⒺ	40Ⓔ	えⒺ	笑顔にしてくれるトゥーン工場Ⓔ
19Ⓔ	ねⒺ	眠る前にもかかせないⒺ	41Ⓔ	ひⒺ	必要以上にしつこく聴いてしまうⒺ
20Ⓔ	なⒺ	悩んでいるとき、手を引いてくれるⒺ	42Ⓔ	もⒺ	モッシュが楽しいⒺ
21Ⓔ	らⒺ	ライブは曇れてなんぼⒺ	43Ⓔ	せⒺ	背中を押してくれるⒺ
22Ⓔ	むⒺ	ムカついたときも心をしずめてくれるⒺ	44Ⓔ	すⒺ	素晴らしい世界Ⓔ

M・Iさんによる「創作ことわざ」は、その意味・内容ごとに次の4つに分類することができます。

①音楽について主観的あるいは客観的に語ったもの

No.1, No.2, No.4, No.9, No.24, No.25, No.27, No.31, No.33, No.35, No.44

②自分自身の音楽体験・行動・態度

No.6, No.8, No.15, No.16, No.17, No.19, No.21, No.23, No.26, No.28, No.29, No.30, No.32, No.34, No.38, No.41, No.42

③好きな音楽、アーティスト、バンドについて語ったもの

No.3, No.7, No.12, No.36, No.39, No.40

④音楽の心理的効果について語ったもの

No.5, No.10, No.11, No.13, No.14, No.18, No.20, No.22, No.43

音楽について主観的あるいは客観的に語ったことわざは、M・Iさんの音楽に対する価値観の表れです。内容について全体の割合としては、ライブでの体験など自分自身の音楽体験・行動・態度について語ったことわざが多くなっています。そして、好きな音楽、アーティスト、バンドについて語ったことわざに出てくるアーティスト名、バンド名はすべてヴィジュアル系ロックといわれる音楽ジャンルにカテゴライズされるバンドと、そのメンバーの名前です。ここからM・Iさんの音楽嗜好がわかります。

全体を通して読むと、自分自身の音楽体験・行動・態度について語ったことわざも、音楽の心理的効果について語ったことわざも、M・Iさんが挙げたアーティスト、バンドが関与していることがわかります。

「移行対象」と「イマジナリティー・コンパニオン」

「移行対象」とは、イギリスの精神分析家D.W ウィニコットが精神分析的発達理論に位置づけた用語です。主に幼児期や児童期の子どもが母親から徐々に離れていく際に、養育者の代理機能を果たすもので、母親がいない時のその不安を和らげ安心感を与える機能を持ちます。移行対象となるものには、毛布、タオル、ガーゼ、毛皮、ぬいぐるみなど、いろいろなものがあります。

移行対象は、自分と母親だけの関係(内的世界)から、第三者がいる外的世界へ出て行く途中の中間領域に存在し、移行対象と接する空間は「移行(中間)領域」といわれます。そして、この移行領域では「イマジナリティー・コンパニ

オン」を持つこともあります。

イマジナリティー・コンパニオンとは、子どもが母親から離れていく際の孤独感や、辛い状況をなぐさめ、励ましてくれる正体不明の“誰か”のことで、謎の生物や人であることが多く、アニメ『となりのトトロ』に出てくる謎のお化け「トトロ」も、イマジナリティー・コンパニオンだといわれています。

また移行対象は、大人になっても音楽をはじめとする様々な芸術や遊びといった形で存在し、ストレスfulな状況において、否定的な感情への対処を可能にするものとして機能する場合があります。移行対象の特徴の一つとして、常に肌身離さず持ち歩くものであるということがありますが、M・Iさんが創った「ちょっとした移動のときにもかかせない(No.8)」ということわざは、音楽を常に肌身離さず持ち歩いていることを述べたものです。

現在では、スマートフォンなどでより気軽に音楽を持ち歩くことができるようになっていますが、そうして常に持ち歩く音楽に期待することとは、「本当の素直な気持ちになれる(No.5)」「ムカついたときも心をしずめてくれる(No.22)」「つまらない時にも楽しませてくれる(No.18)」といったことなのでしょう。常に音楽を求め、音楽に心の癒しを求める姿がことわざから見て取れます。また、ヘッドホンで耳を塞ぎ自分の好きな音楽を聴き、自分の世界に閉じこもることは、移行領域に逃げ込んでいる状態とみることができます。

M・Iさんがことわざを創るにあたって、「背中を押してくれる(No.43)」「悩んでいるとき、手を引いてくれる(No.20)」「ぬかるみにはまりそうになっても助けてくれる(No.10)」といった、どこか音楽を擬人化したような表現をしています。まるで音楽をイマジナリティー・コンパニオンとして捉えているかのようです。はたしてこの音楽を擬人化したような表現には、どのような意味があるのでしょうか。

ヴィジュアル系ロックの世界観と移行領域

M・Iさんの場合、創られたことわざからヴィジュアル系ロックが好きなことがわかります。具体的なアーティスト名、バンド名もことわざの中で述べています。ヴィジュアル系ロックバンドとは、男性が中性的なメイクをしたり、華やかな衣装を身につけたりするなどして、音楽とともにその外見も重要視するロックバンド、ミュージシャンのことです。また、各バンドが各自の独特な世界観を持っていることも特徴の一つです。

ヴィジュアル系ロックバンドのファンは、楽曲の善し悪しだけでなく、バ

ンドが持つ世界観を重要視します。そしてバンド側は、多くのファンをつかむために独自の世界観を創り上げ、その世界観をファンに提供します。そして、ファン達はその世界観に身を委ねるわけです。そこにはファンとバンドの相互関係が成り立っています。そのため、M・Iさんの「愛をそそぐもの(No.33)」ということわざも、自分がバンドやアーティストに愛をそそぐという意味と、バンドやアーティストが自分に愛をそそいでくれるという意味の両方が考えられます。

社会学者、小泉恭子は、ロックバンドのコンセプトが「少女にやさしい」というのは、とりわけ思春期の少女にとって重要な鍵となるとして、その理由を、少女たちが自身の性にポジティブなジェンダー・アイデンティティを形成する手助けをしてくれるとしています(1)。青年期は、多様なアイデンティティの可能性を模索している時期です。その中には自分自身のセクシャリティーの問題も含まれます。思春期の少女が男性アイドルの熱烈なファンになり、おっかけをしたりすることがよくありますが、そこにはセクシャルな感情が含まれています。性的な成熟の到来が近いことが背景にあるのですが、本人は対象を理想化しているためそのことに気づくことはありません。

対象の理想化とは、自分自身の性的成熟を認めたくないという心理の表れです。このような、大人の女性になることを怖れる「成熟拒否」という葛藤は、初潮という身体的変化を迎えることで思春期の一大テーマとなるわけですが、「少女にやさしい」というロックバンドのコンセプトの意味は、その葛藤を和らげるということにあるわけです。とりわけヴィジュアル系ロックはその意味合いが強いとされます。つまり、ヴィジュアル系ロックバンドの世界観が、少女から成熟した大人の女性になる移行期における少女の逃げ場所として機能していると考えられるわけです。

「移行領域」としての音楽

M・Iさんによる「背中を押してくれる(No.43)」「悩んでいるとき、手を引いてくれる(No.20)」といったことわざは、ヴィジュアル系ロックバンドの創られた世界観の中(移行領域)で体験したことを語ったものだといえるでしょう。そして、その世界はM・Iさんにとって、自分をなぐさめ勇気づけてくれる「素晴らしい世界(No.44)」であり、「ちょっとした移動のときにもかかせない(No.8)」ほど、必要不可欠なものなのでしょう。移行対象のように携帯電話に音楽をダウンロードして持ち歩き、ヘッドホンで耳を塞げば「素晴らしい世界(No.44)」にいつでも逃げ込めるわけです。

このような行動や心理的体験は、児童期から青年期に移行する際に移行領域で子どもが体験する感覚と非常によく似ています。成熟した大人の女性になるということは、母親と同じになるということであり、現実には母親からの分離(自立)することです。それは児童期に母親から心理的に分離することよりも厳しいものなのかもしれません。そういった時期に移行領域や移行対象を求めようとする心理が働くことは、十分にありえることだと考えられます。

「イマジナリティー・コンパニオン」としてのヴィジュアル系アーティスト

M・Iさんは音楽が「背中を押してくれる(No.43)」「悩んでいるとき、手を引いてくれる(No.20)」と述べているわけだが、移行領域的な役割を果たしているヴィジュアル系ロックバンドの世界観の中で、どのような存在が背中を押し、手を引いてくれるのでしょうか。まず考えられるのは歌詞です。歌詞はそのバンドの世界観を表現していたり、アーティストからのメッセージであったりしますが、その歌詞を通して勇気をもらおうということがあるでしょう。つまり、移行領域としてのヴィジュアル系ロックバンドの世界観の中で歌詞を通してアーティストと出会うということですが、ここで出会うアーティストは、生身の人間としてのアーティストなののでしょうか。

ヴィジュアル系ロックバンドは、演劇的な要素が強く、バンドの世界観をつくりだすためメンバーはバンドの世界観を体現するキャラクターを演じます。例外はあるものの、多くの場合ヴィジュアル系ロックミュージシャンは男性で、美しく着飾り中性的ルックスです。中性的であることは、大人の女性になることを怖れる「成熟拒否」という葛藤を抱える少女達にとって、男性をあまり感じさせない安心できる存在です。「男」でも「女」でもない中性的なアーティストが、時には激しく男性的にステージ上で暴れ回ったり、またある時は女性的で繊細な演奏をしたりする、その姿に、ヴィジュアル系ロックファンの少女は自分自身の不安定なジェンダー・アイデンティティを重ね合わせるわけです。

また、ヴィジュアル系ロックバンドの世界観としてよく用いられるイメージとして、「死」「破滅」「破壊」などといった敗退的なイメージと、「夢」「天使」「愛」などメルヘンチックなイメージがあります。どちらか一方に重心を置いたバンドもあれば、両方の要素を持ち合わせるバンドもありますが、いずれにせよその世界観は「善」と「悪」の両極端です。

移行領域で出会うイマジナリティー・コンパニオンは、極端な「善」や「悪」の役をとることで、その子の衝動をほどよくコントロールしたり、社会から期待される無理な課題をやわらげる暖衝帯のような役割をもっているとされます。

また、「成熟拒否」という葛藤の背後には、成熟した大人の女性として恋愛をしたいという反対の心理があると考えられます。ヴィジュアル系ロックミュージシャンへの憧れは、その欲求を安全に満たそうとする行為と捉えることも出来ます。

このような移行領域に退行したような状態の中、ヴィジュアル系ロックバンドのアーティストを、現実世界から切り離されたキャラクターとして捉えるならば、そこにイマジナリティー・コンパニオンのようなイメージを持つことも十分あり得ることです。つまり、背中を押し、手を引いてくれるのは、好きなヴィジュアル系ロックバンドの世界観(移行領域的世界)においてキャラクター化された、バンドメンバー(イマジナリティー・コンパニオンの存在)ということになるわけです。

性的な「成熟拒否」と、社会人になることに対する「成熟拒否」

性的成熟には個人差があります。音楽専門学校生の多くは18歳から19歳なので、「成熟拒否」という葛藤を抱えていても何ら不思議なことではありません。また、音楽専門学校生の場合少なくとも2年後には社会人として自立しなければならぬため、社会的アイデンティティの危機も同時に抱えることとなります。性的な「成熟拒否」と、社会人となり大人になることに対する「成熟拒否」という2つの葛藤から一時期逃れるために、ヴィジュアル系ロックバンドの世界観に居場所を求めるとでしょう。

(1)小泉恭子「ポピュラー音楽と少女のジェンダー・アイデンティティー—ヴィジュアル・ロックバンドのビデオ・クリップに表象される少女像」三井徹監修『ポピュラー音楽とアカデミズム』音楽之友社 2005, p225

立石彩加 イラスト「創作音楽ことわざ」

明治大学公式キャラクター「めいじろう」の作者、立石彩加さんによるイラスト「創作音楽ことわざ」をご紹介します。



【ことわざ創り調査法の実践②】

「いろはかるた」創りからみる「ことわざ社会心理学」の可能性

「いろはかるた」創りは全国で企画され、実践されています。例えば、郷土の名所旧跡や郷土の名産・名物などを詠み込んだもの、あるいは「防災いろはかるた」、「健康いろはかるた」、「教訓いろはかるた」など各種多数あります。

「いろはことわざ創り調査法」も「いろはかるた」にヒントを得たものです。

「いろはかるた」の読み札はことわざそのものです。ですから「いろはことわざかるた」とも言います。しかも、元をたどればいずれも何時か、それぞれの地域で誰かに創られた「創作ことわざ」に違いありません。ここでは、東京都世田谷区で精神障害者の支援活動を行っているNPO法人、就労継続支援B型「ハーモニー」が制作した「幻想妄想かるた」を取り上げ、「いろはかるた」創りから「ことわざ社会心理学」の可能性を考えてみましょう。

「幻想妄想かるた」—いろはかるた創りによる精神障害者に対する心理教育—



東京都世田谷区で精神障害者の支援活動を行っているNPO法人、就労継続支援B型「ハーモニー」が制作したいろはかるた、「幻想妄想かるた」の特徴は、精神疾患の一つ、統合失調症の症状である幻聴・妄想、またそれに伴う行動をカルタの題材にしていることにあります。この「幻想妄想かるた」を取り上げ、実際に施設に

赴いて伺った話や、かるたの読み札に書かれていることわざなどを通して、精神障害者支援にかるた創りがもたらした意義を社会心理・心理学的視点で考察し、そこから「ことわざ社会心理学」の可能性を探りたいと思います。

「幻想妄想かるた」は、ハーモニーに通所している当事者の方々の主観的な体験談です。幻聴・妄想、またそれに伴う行動を表現した短文(ことわざ)が書かれている読み札と、読み札の内容をイメージし、視覚化した絵札46枚からなるいろはかるたです。読み札には次のようなことわざが書かれています。

- い いつの間にかご飯の食べ方がわからなくなった
- ろ ローレンローレン戦車に乗った自分がキリストだということがわかった
- は はやくつかまってほしい若松組
- に にわとりになった弟と親父
- ほ 星が人々だと思ってさげんでた
- へ ヘリコプターとジェット機はアメリカ軍諜報機関 監視されている…
- と 突然雨が降ってきてそしたら周りの町が消えていた
- ち ちょっとだけ将来を考える後頭部に違和感を感じる
- り 理由もなくやってくる金属音キーン
- ぬ ぬうあんだって？ハトが餌を食べていると恐くてしょうがない
- る 世界中が大洪水になって浮いている私
- を 若松組が床をゆらす
- わ 若松組が毎日やってくる
- か 過去から現在をながめる予言者となった
- よ 夜になると部屋に来て「お茶しましょうよ」「映画見ましょうよ」と言ってくる女
- た たまたま乗った電車で友達が楽しそうに話していた いっしょに話し始めたら無視された おかしいな？



れ レストランでうんこの話がしたくしょうがなくなる
 そ そうなんだよ知り合いのお坊さんの声が聴くえてくるんだ
 つ 妻のブルーのポルシェが迎えにくる 半日待ったがやってこない図書館前
 ね ねむれない日が続くと聴こえてくるジェットエンジン音
 な なにかやっていないと聴こえてくる
 ら ラジオから自分のことがいわれている
 む むりやり私は天皇にされる場所だった
 う うたがわれつづけて 20 年
 の 脳の中に機械がうめこまれしっちゃかめっちゃかだ
 お 弟を犬にしてしまった
 く 区役所で不審な行動していたら「事件の犯人つかまえろ」と警察がさげんでいた
 や やはりかすかな声「待っています」「ついて来い」五反田から江ノ島まで歩いてしまう
 ま 毎日金縛り状態
 け 警察から連絡があり若松組構成員半分逮捕しました
 ふ ふいに空から声がして「三越の前でまっている歩いてこい」一日待ったが誰も来なかった
 こ コンビニに入るとみんな友達だった
 え 遠慮なくフェラーリで待ち伏せ「彼と付き合っているのは私」ハーモニーの皆は全員知っている
 て テレパシーがやってきて自分の望みがすべてかなった
 あ ありがとう幻聴さんありがとう大野さんイライラする
 さ 佐賀、長崎、徳之島この世界から抜け出せない
 き 喫煙所タバコを吸うとあたまをさわるやつがいる
 ゆ 有名人になり自叙伝も売れた CD も売れた家を建てよう村役場に電話した
 め 目のせいじゃない色彩が急に鮮やかになるんだ
 み 皆殺しにされる日が特定され逃げ回ったがまだ生きている
 し 新宿の女番長がそんなこと話しちゃいけないと言ってくれる
 ひ ビルドードトップフォーティー トップの曲僕が作りました 普通妄想だと思うでしょ 本当だよ
 も もう気になるとそこから意識が離れない
 せ 先生「それは妄想です」僕「いやテレパシーだ」
 す すばやい幻聴はじまると落ち着きがなくなる
 ん 心臓(しんぞう)が止まっている



これらはすべて、病がもたらす幻聴や妄想による様々な苦勞話です。しかしながら、どの文章も荒唐無稽ですがどこかユーモラスがあり、読む者の想像力をかき立ててくれるような話ばかりです。

また、かるたに付属している冊子『露地』には、かるたに書かれた幻聴妄想体験の説明や、体験にまつわるエピソードが書かれています。例えば「にわとりになった弟と親父」という幻聴妄想体験については、「この人は鳥が怖くてしょうがないのですが、ある日家の中で父と弟を見るとにわとりだったということです、こわーいお話です」といった説明がなされています。こういった説明もカルタのおもしろさをさらに高めてくれます。そして、この「幻聴妄想かるた」のユニークさはマスコミにももの目にも止まり、新聞・雑誌、テレビ番組などで紹介されたことをきっかけに人気商品となりました。

統合失調症の幻聴・妄想の特徴について

統合失調症による妄想(幻聴)は、その内容から「被害妄想」「微小妄想」「誇大妄想」3つに分けられています。「被害妄想」とは、「へ:ヘリコプターとジェット機はアメリカ軍諜報機関 監視されている…」というような、他人が自分を見張り、追いかけて、迫害するといった内容の妄想です。また、「こ:コンビニに入るとみんな友達だった」といった、他人の表情や態度、周囲の出来事などをすべて自分に関係づけてしまう妄想(関係妄想)も「被害妄想」の一種です。



「微小妄想」は、自分は非常に劣っていると考える妄想です。「誇大妄想」はその逆で、「か:過去から現在をながめる予言者となった」といったように、自分は非常にすぐれていると考える妄想です。その他にも、「ら:ラジオから自分のことがいわれている」というように、自分の考えが他人につつぬけになっていると感じたり、「の:脳の中に機械がうめこまれしっちゃかめっちゃかだ」といった、他人の考えが自分の中に直接入ってくるように感じられる体験「自我障害」も、統合失調症の幻聴・妄想の特徴の一つです。

思いつきから始まったいろはかるた創り

かるた制作は、「ハーモニー」で週一回、認知行動療法を行っている集団精神療法士、藤田さんの思いつきから始まったといます。カウンセリングやグループワークの中で語られる幻聴妄想体験を何らかの形にし、外に向かって発信出来ないかという話しの中で突然ひらめいたといます。

制作するにあたり作業の進め方、考え方は、主にアドラー心理学の概念である「共同体感覚」を参考にして行われました。「共同体感覚」とは、他者との関

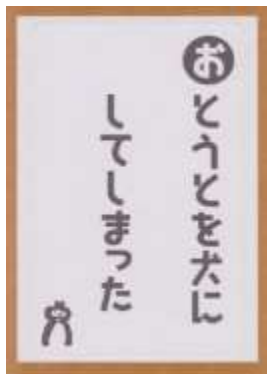
わりや結びつき、あるいは他者と何らかを共有したいという人間の欲求の根源にある感覚とされます。精神障害者などが抱える日常生活における様々な問題行動の一因として、この「共同体感覚」の喪失から来る劣等感があげられます。精神障害者が社会との関わりを持てるようになるためには、この「共同体感覚」を取り戻すことが不可欠なのです。

いろはかるた創りと「共同体感覚」

いろはかるた創りは、まずグループミーティングで語られた幻聴妄想体験を、藤田さんが五十音別の短文にまとめることから始まります。それを、グループにフィードバックし、みんなで修正し、良いもの、面白いものを選んでいきます。

言葉が決まったら、みんなで絵を描きます。一つの言葉に何枚も絵が描かれることもあるので、書かれた中から良いものを選びます。その際のミーティングはかなり白熱したものとなるといいいます。新澤さんによると、「お:弟を犬にしてしまった」という読み札の原案者は、メンバーの一人が描いた絵を見て、“この犬こそ私の弟に違いない!?”とあって採用を譲らなかったといったエピソードもあったといいいます。

そして、このかるた制作自体が「共同体感覚」を取り戻す為の認知行動療法の側面を持っています。



幻聴妄想体験を語るということは自己開示です。自己開示された内容を短文(ことわざ)にし、フィードバックすることは自己認識につながります。また、個々の幻聴妄想体験をグループの皆で論議し、共有・共感することで「共同体感覚」を養うことが出来るわけです。

幻聴・妄想体験を語る意義とかるたの利点

妄想は聞けば聞くほど妄想を拡大させ、ますます病状を悪化させるというのが精神医療の通説です。また当事者も、病院で幻聴妄想の話をするとう薬を増やされてしまう、入院させられてしまうといったことがあるため、自ら幻聴妄想体験を語ることは少ないといいいます。

かつては「ハーモニー」でも、幻聴・妄想の話しは封印されていたといいいます。しかしながら、話しをするようになってからは、明らかに皆の表情が変

わったといます。新澤さんは、「今まで話したくても話せなかった想いに満ちているようだった」と述べています。また、ある施設利用者からは幻聴妄想体験を語るることについて、「自分でも笑っちゃうんだから、人に笑われることは平気。怖がられたり危険だと思われることが一番悲しい」といった意見もあったといます。

一般的に精神障害者に対するイメージは、「怖い」「危険」といったマイナスイメージです。「幻聴妄想かるた」にはこのイメージを変えるという目的もあります。施設長の新澤さんは、幻聴妄想体験をかるたにしたことの理由を次のように述べています。

カルタの良さは遊べることです。遊びの中で体感・体験することが病気に対する理解に繋がります。単に幻聴妄想体験を文章化することは簡単です。確かに、事例集として読んでもらえるとは思いますが、大変だ、かわいそうで終わってしまっただけでは意味がありません。

いろはかるたを制作するにあたって、内容を面白おかしくする理由はここにあります。マイナスイメージで病気を理解するのと、プラスイメージで病気を理解することでは、理解という意味では同じですが、精神障害者に対する見方や態度は違ったものになるからです。

「いろはかるた創り」が施設にもたらしたもの

新澤さんは、「精神障害者が社会との関係性を持つためには、作業所の概念を変えていく必要があります。しかしながら、施設での作業を商売につなげるといふ発想は、施設運営者にはなかなか出来ません。いろはかるたの制作はまさに発想の転換となりました」と語っています。「幻聴妄想かるた」が新聞で紹介された際、電子掲示板サイト「2ちゃんねる」に、「キチガイが商売している」など、かるたの販売に対する中傷の書き込みが多くあったといます。しかしながら、新澤さんは、「このような心ない書き込みも社会とのつながりの一つ」だといいます。

そもそも、作業所の単純作業だけでは社会との関係性を持ってないといいます。社会との関係性が無ければ、批判や中傷さえもされないわけです。新澤さんは「作業を行うだけではなく、作業を行った結果(自信、やりがい、社会との繋がりなど)を感じられることが大事」だといいます。「幻聴妄想かるた」の販売は、作業をした結果を施設利用者達に感じさせることとなったわけです。

短い文章を集めると、全体の様子が見えてくる

ことわざの特徴の一つに「共有感覚」を表しているということがあります。ことわざは、ある地域や集団に所属する人達に共有された感覚や事柄を表しているということですが、「幻聴妄想かるた」に書かれている短文(ことわざ)はどれも個人的な体験であり、共有された感覚や事柄ではないと思われるかもしれません。

確かに個々の体験はそれぞれ違います。しかしながら、同じ病気で悩むもの同士の間では、幻聴・妄想体験は共有されている感覚であり事柄なのです。それは、付属の冊子『露地』に掲載されている、かるたの可能性について語った「同じ病を持つ周りの人のことが分かって良かった。それと同時に自分のことが分かって良かった」、「同じ病気の人たちと共感し合える。自分一人だけじゃなかったんだ」という施設利用者達の声からもわかります。

新澤さんは、ことわざと「幻聴妄想かるた」関連性について次のように語っています。

ことわざにはおもしろいところは、かならず逆の意味のことわざがあること。かるたに書かれた言葉も「だってこうなんだもん」といったことで、良い悪いとかの問題ではありません。

また、自由に書いたり、語ったり出来るのが良い。そして、短い文章だからこそ表出されることがあります。短い文章で形式もないので語りやすく、そのためたくさん体験談が表現されます。

新澤さんのこのような考え方は、自由にことわざを創る「いろはことわざ創り調査法」の考え方と同様です。幻聴・妄想体験というある意味特殊な体験を、俳句や川柳のような一定の形式がある短文で表現することは簡単なことではありません。心に病を持つ人達にはなおさらです。

また、形式にあてはめることで、リアリティーが無くなってしまうということもあります。このことについて、新澤さんは「絵も文章も変に整っているのは不自然。整っていないほうが逆にリアリティーを感じられ人の心を動かすことにつながる」言っています。つまり、「幻聴妄想かるた」の制作にあたっては、いかに自然にかつ自由に表現できるかが重要なのです。こういった理由から「幻聴妄想かるた」の短文は、形式や表現に制約のない「創作ことわざ」となっているわけです。

また、新澤さんは「短い文章を集めると、全体の様子が見えてくる」とも語っています。このような見方は、「いろはことわざ創り調査法」で集められたことわざを資料とし、社会心理学・心理学的考察を行う「ことわざ社会心理」と同様です。

「幻聴妄想かるた」の事例は、ことわざ社会心理学の調査法「いろはことわざ調査法」の心理療法・心理教育への応用が可能であることを示しています。



【ことわざ創り調査法の実践③】

「もじりことわざ」を用いた意識調査

—大学生を対象としたジェンダー観に関する意識調査—

近年、同性愛者や性同一性障害など性的少数者に対する関心が高まっています。企業や教育の現場でも性的少数者に対する差別や偏見を無くすための取り組みが盛んにおこなわれています。このようなジェンダーに関する問題に対する様々な取り組みに、今後大きく関わっていくであろう若者達が、今現在どのようなジェンダー観を持っているのかを知るために、2015年7月、大月短期大学においてジェンダー観に関する意識調査を行いました。

大月短期大学でのジェンダーに関する意識調査は、村越洋子(大月短期大学編『大月短大論集』第31号2000年)によって1999年にも行われているので、この調査結果を比較対象としました。また、村越の調査はって自由回答法で行われていたので村越の調査にならい、わたしが行った調査も主に自由回答としました。

質問事項

質問は全部で8問。Q5・Q6、質問1・2は自由回答としました。自由回答のため一人が複数回答となります。その自由記述で書かれた回答の意味・内容別に項目を抽出し集計を行いました。

【質問事項】

Q1: あなたの性別を教えてください。

1. 女性 2. 男性 3. その他 ()

Q2: あなたの年齢を教えてください。 () 歳

Q3: あなたの職業を教えてください。 ※差し支えなければご記入ください。()

Q4: あなたは「ジェンダー」という言葉の意味をどの程度知っていますか?

1. よく知っている 2. なんとなくは知っている 3. あまり知らない 4. まったく知らない

Q5: あなたが考える「女らしさ」とは何ですか?

※自由記述

Q6: あなたが考える「男らしさ」とは何ですか?

※自由記述

1. 女性が損をしている、不当な扱いを受けている、差別されている、と思うことは何ですか?

※自由記述

2. 男性が損をしている、不当な扱いを受けている、差別されている、と思うことは何ですか?

※自由記述

大学生達が考える「女らしさ」

女性が考える「女らしさ」に関する回答の内容別割合上位は、「身だしなみに気を使う」といった、「所作」に関する内容が 22.2%と一番高い割合でした。続いて「料理ができる・上手」といった、「性役割分業」に関する内容が 17.8%と高い割合を示しました。三番目に高い割合が示された内容は「上品である」といったことで 14.4%でした。これも「所作」に分類される内容です。「女らしさ」のイメージの多くは「所作」にあるということなのでしょう。

「女らしさ」に関する女性からの回答の内容別割合上位

No	回答【項目】	割合
1	身だしなみに気を使う【所作】	22.2%
2	料理ができる・上手【性役割分業】	17.8%
3	上品である【所作】	15.6%
4	控えめ・奥ゆかしさ【所作】、家事ができる【性役割分業】	14.4%
5	気遣いができる【性格】	13.3%
6	おしとやかである【所作】	12.2%
7	優しさ【性格】	11.1%
8	言葉遣いがきれい【所作】、柔らかさ【性格】	8.9%

一方、男性が考える「女らしさ」に関する回答の内容別割合上位は、「おしとやかである」といった「所作」に関する内容、「優しさ」といった、「性格」に関する内容が 15.6%と一番高い割合でした。続いて「身だしなみに気を使う」「気遣いができる」といった内容が 11.1%と高い割合を示しました。こちらも「所作」「性格」に関する内容です。男性も女性と同じく、「女らしさ」のイメージは「所作」にあると思っているようです。

三番目に高い割合を示した内容は、「控えめ・奥ゆかしさ」といった「所作」に関する内容、「家事ができる」といった「性役割分業」に関する内容と、「髪が長い・きれい」「綺麗」といった「身体」や「容姿」に関する内容です。「身体」や「容姿」に関する内容は女性の上位回答にはなく、男女の意識の違いが表れた結果となっています。

「女らしさ」に関する男性からの回答の内容別割合上位

No	回答【項目】	割合
1	おしとやかである【所作】、優しさ【性格】	15.6%
2	身だしなみに気を使う【所作】、気遣いができる【性格】	11.1%
3	控えめ・奥ゆかしさ【所作】、所作がきれい【所作】、家事ができる【性役割分業】、髪が長い・きれい【身体】、綺麗【容姿】	6.7%

大学生達が考える「男らしさ」

女性が考える「男らしさ」に関する回答の内容別割合上位は、「頼りがいがある」といった、「性役割分業」に関する内容が 11.9%と一番高い割合でした。続いて「器が大きい(包容力)」といった、「性格」に関する内容が 7.4%と高い割合を示しました。三番目に高い割合を示した内容は、「リーダーシップがとれる」「判断力がある」といった内容で 5.2%。「性役割分業」「性格」に分類される内容です。「男らしさ」のイメージの多くは「性役割分業」や「性格」にあるようです。

その他、高い割合を示した回答は、「細かいことは気にしない(性格)」「豪快・荒っぽい(性格)」「弱者や女性を守る(性役割分業)」「大黒柱(性役割分業)」「気遣いができる(対女性)」といった内容でした。

「男らしさ」に関する女性からの回答の内容別割合上位

No	回答【項目】	割合
1	頼りがいがある【性役割分業】	11.9%
2	器が大きい(包容力)【性格】	7.4%
3	リーダーシップがとれる【性役割分業】、判断力がある【性格】	5.2%
4	細かいことは気にしない【性格】、豪快・荒っぽい【性格】	3.7%
5	弱者や女性を守る【性役割分業】、大黒柱【性役割分業】、気遣いができる(対女性)【性格】、髪が短い【身体】、背が高い【身体】	3.3%

男性が考える「男らしさ」に関する回答の内容別割合上位は、「器が大きい(包容力)」「判断力がある」「意思が強い」「リーダーシップがとれる」といった、「性格」に関する内容が6.7%と高い割合を示しています。その他に「精神的に強い」「優しさ」「行動力がある」「積極性」といった「性格」に関する内容、「頼りがいがある」といった「性役割分業」に関する内容、「カッコよさ」といった「容姿」に関する内容、「社会的に主導的である」といった「社会的地位」に関する内容が比較的高い割合を示しました。男性が「男らしさ」を考えると、そのイメージの多くは「性格」にあるということなのでしょう。

「男らしさ」に関する男性からの回答の内容別割合上位

No	回答【項目】	割合
1	器が大きい(包容力)【性格】、判断力がある【性格】、意思が強い【性格】、リーダーシップがとれる【性格】	6.7%
2	精神的に強い【性格】、優しさ【性格】、行動力がある【性格】、積極性【性格】、頼りがいがある【性役割分業】、カッコよさ【容姿】、社会的に主導的である【社会的地位】	4.4%

1999年の調査との比較

1999年に行われた調査から導き出された「女らしさ」「男らしさ」のイメージと、2015年の調査から導き出された「女らしさ」「男らしさ」のイメージは次のとおりです。

調査年	女性が感じる「女らしさ」	男性を感じる「女らしさ」
村越による 1999年の調査	優しく、料理ができて気配りができて、しとやかで、家事がこなせて、気がきいて、家を守る家庭的な人で、言葉遣いもていねいで、おとなしく、上品で、弱々しく、でしゃばらず、かわいくて、繊細な人。	優しく、弱々しくて、繊細で、料理ができて、包容力があって、静かで、頭がよい
川島による 2015年の調査	身だしなみに気を使い、言葉遣いがきれいで、性格は控えめでおしとやか、そして、気遣いができ優しい。それでいて料理が上手な人。	おしとやかで身だしなみに気を使い、優しく気遣いが出来、控えめで髪が長く綺麗。それでいて家事ができる人

調査年	女性が感じる「男らしさ」	男性を感じる「男らしさ」
村越による 1999年の調査	強くて、頼りがいがある、たくましくて、女性を守り引っ張って行って、優しく、体が大きくがっしりしていて、筋肉がありムキムキしていて、うじうじしていず、決断力があり、リーダーシップがとれ、自分の道や夢、信念のためにがんばれて、背が高い人	頼りがいがある、力強くて、大ざっぱだけど、優しく包容力もある。
川島による 2015年の調査	頼りがいがあり人間としての器が大きく、リーダーシップがとれ、細かいことは気にせず豪快で、背が高く弱者や女性を守る大黒柱のような人	判断力があり意思が強く、リーダーシップがとれ取れ人間としての器が大きく、リーダーシップがとれ優しい人

1999年に行われた調査から導き出された「女らしさ」「男らしさ」のイメージと、2015年の調査から導き出された「女らしさ」「男らしさ」のイメージを比較するとその内容的には大きな違いは見られませんでした。いずれも「女性

は優しくて感受性もあり、かわいらしくて控えめ」「男性は行動力があって、リーダーとしてもふさわしい」といった、伝統的男女観に基づいた価値観が表出した結果となりました。

この結果を見る限り、1999年から2015年の16年間、若者たちのジェンダー観に関して大きな変化は無かったということになります。確かに社会的価値観はそう簡単には変わるものではありません。しかしながら、必ずしも社会的価値観と個々の意見・態度は一致するわけではないと考えられます。この疑問を確かめるために、2016年に「創作ことわざ調査法」を用いて再び調査を行いました。

「もじりことわざ」によるジェンダー観(意見・態度)に関する意識調査

2015年の調査では「優しい」「頼りがいがある」など短い文章での回答が多かったため、考察にあたり自身の考えなのか一般的に思われているイメージを語っているのかの判断が難しい部分がありました。そのため、自由回答法での調査では大まかなイメージを捉えることはできましたが、個別の意見・態度に関しては十分に捉えることができませんでした。

そこで、2016年、大月短期大学1年生、女性21名、男性14名の学生を対象に、既成のことわざを自由にアレンジして創作ことわざをつくる「もじりことわざ」を調査方法として用いて、学生個人のジェンダー観に関する調査を試みました。質問内容は次のとおりです。

【質問内容】 ことわざ創りで男女観を考える—ジェンダー観に関する意識調査—

「男は度胸、女は愛嬌」ということわざを、現代の男女にぴったりはまる言葉に置き換え、みなさんが考える「男は〇〇、女は〇〇」を創ってみてください。

学生たちによるジェンダー観に関する「もじりことわざ」の事例

ここでは特に個々の具体的な意見・態度が表出されている3人の学生の「もじりことわざ」を紹介します。

【事例1】女性(18歳)

①男は単純、女は複雑、②男は口だけ、女はうわべだけ、③男は女子力を見る、女は経済力を見る、④男は女に夢を見る、女は男に現実を見る、⑤男は気持ちをくみ取ってもらう事を望み、女は言葉に表してくれる事を望む、⑥男は自分のプライドを守り、女は世間体を守る、⑦男は優しさのつもりで嘘をつき、女はその嘘を裏切りだと感じる、⑧男はプレゼントの意味を大事にして、女はプレゼントの価値を大事にする、⑨男は結婚をゴールと考え、女は結婚をスタートと考える、⑩男は少年の心を忘れず、女は大人になる事を望む、⑪男は過去を美化した思い出にし、女は過去を経験のバネとする

とても具体的に男女の意識・態度の違いを述べているので、ことわざを創った女性を感じているジェンダー観に関する意見・態度をうかがい知ることができます。

「③男は女子力を見る、女は経済力」といった、伝統的ジェンダー観に基づいた意見もありますが、全体的に語られている内容をまとめると、男は「単純で夢見がちで子供っぽくロマンティスト」、女は「複雑で現実的で世間体を気にし大人である」となるでしょう。

このイメージは、村越による1999年の調査、わたしが行った2015年の調査での「女らしさ」「男らしさ」のイメージと異なる部分が多いです。

【事例2】男性(18歳)

①男は小心、女は大胆、②男は一步下がり、女は一步進む、③男は家事、女は仕事、④男は警戒、女は和睦、⑤男は質素に、女はおしゃれ、⑥男は消極、女は積極、⑦男は女に期待され、女は男に期待する、⑧男は鈍感、女は敏感、⑨男は思案、女は即決、⑩男は粗く、女は細やか、⑪男は正直に感情を表し、女は影で本性を見せる、⑫男はインドア、女はアウトドア

男性によって創られたことわざです。

「①男は小心、女は大胆」「②男は一步下がり、女は一步進む」「③男は家事、女は仕事」といったことわざは、いわゆる伝統的なジェンダー観とは逆のことを語っています。また、「⑧男は鈍感、女は敏感」「⑨男は思案、女は即決」「⑩男は粗く、女は細やか」といったことわざからは、女性の能力を男性よりも高くみていることがうかがえます。

これらのことわざには、伝統的なジェンダー観に縛られていない若者の意見・態度が表出されているといえるでしょう。

【事例3】男性(18歳)

①男は最高、女は最低、②男は楽しい、女はつまらん、③男はおもしろい、女はうるさい、④男はカッコいい、女はかわいい、⑤男は楽、女はだるい、⑥男は広い、女は狭い、⑦男は大きい、女は小さい、⑧男は強い、女は弱い、⑨男は浅い、女は深い、⑩男は楽観的、女は悲観的、⑪男は速い、女は遅い、⑫男はたくましい、女はたくましくない、⑬男は情熱、女は愛情、⑭男は勇気、女は元気、⑮男は努力、女は理想、⑯男は希望、女は願望、⑰男は仕事、女は家事、⑱男は真、女は実、⑲男は素、女は偽

男性によって創られたことわざですが、「①・②・③・⑤・⑥・⑩・⑪・⑫・⑲」のことわざは【事例2】とは逆に、女性の能力を男性より低くみている内容となっています。また「⑰男は仕事、女は家事」は、伝統的なジェンダー観です。このことわざを創った男性のジェンダー観が伝統的なジェンダー観に基づいていることをうかがわせます。

男性至上主義的な意見は自由回答では少なく、またここまで具体的に述べられた回答はありませんでした。

「もじりことわざ」による調査の可能性

創作ことわざを用いた調査の長所として、アンケート調査の自由回答には回答が書かれないことが多いのですが、ことわざ創りでは特定のテーマに直接関連する回答が気軽に、率直に記入される可能性が高いということがあります。また、例えば「若者の意見・態度」というテーマなどの場合では、中高年の調査者が作成した質問よりも、若者である被験者が直接回答しているので、はるかにその実態、本質に迫ることができます。「もじりことわざ」を用いた調査には、この長所がよく表れています。

先に述べましたが、自由回答では考察にあたり、自分の考えなのか一般的に思われている客観的なイメージを語っているのかの判断が難しい部分がありました。その点「もじりことわざ」で表現された内容は主観的で具体的です。そのため、個別の意見・態度を十分に捉えることができます。率直な意見が記入されるという点では、【事例3】がそのいい例だといえるでしょう。

また、若者ならではの意見・態度の表出ということでは、【事例1】がよい例でしょう。その他にも、若者ならではの意見・態度を表したことわざとして、「男は長渕、女はカナ〔西野カナ〕(女性・18歳)」「男はLINE、女は口頭(女性・

18歳)」「男は既読無視、女は未読無視(女性・18歳)」「男は下品な下ネタ、女は生々しい下ネタ(男性・18歳)」といったことわざがつけられました。これらのことわざには、この世代の男女の態度の違いが表出されています。

そして、このようなことわざが創られる社会的な背景や発達 of 男女差を理解することで、より若者たちのジェンダー観に迫れるでしょう。

自由回答は客観的な考え、「もじりことわざ」は主観的な意見・態度

自由回答による調査結果では、ジェンダーステレオタイプが強く表出され、「もじりことわざ」による調査では、ジェンダーステレオタイプは表出されていますが、それ以上に個別の意見・態度が強く表出されています。仮に自由回答で回答される内容が自分自身の意見というより一般的に思われている「女らしさ」「男らしさ」を語っているとすれば、そのジェンダー観は日本社会における固定されたジェンダー観だといえ、変化しにくいものだといえます。

一方、「もじりことわざ」で語られた「女らしさ」「男らしさ」は、主観的な意見・態度を語ったものだとすれば、その内容は個別な意見・態度であり、世代性が強く表れると考えられます。つまり、自由回答での調査は客観的な考え、

「もじりことわざ」による調査では主観的な意見・態度を捉えることができるということなのです。こういった自由回答での調査と、「もじりことわざ」による調査の両方を用いて継続的な調査を行うことで、より細やかな考察を行うことが出来るわけです。



【資料】女性が創ったことわざの例

<p>性別：女性①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男は単純、女は複雑 ・男は口だけ、女はうわべだけ ・男は女子力を見る、女は経済力を見る ・男は女に夢を見る、女は男に現実を見る ・男は気持ちをくみ取ってもらふ事を望み、女は言葉に表してくれる事を望む ・男は自分のプライドを守り、女は世間体を守る ・男は優しさのつもりで嘘をつき、女はその嘘を裏切りだと 	<p>性別：女性②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男は仕事、女は家事 ・男は(考え方)単純、女は(考え方)が複雑 ・男は深く考えない、女は嫉妬深い ・男は流行にのらない、女は流行にのる ・男は楽観的、女は悲観的 ・男ははっきり言う、女は陰口をたたく ・男は中身、女は外見 ・男は誠実、女は美人
---	---

<p>感じる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 男はプレゼントの意味を大事にして、女はプレゼントの価値を大事にする ・ 男は結婚をゴールと考え、女は結婚をスタートと考える ・ 男は少年の心を忘れず、女は大人になる事を望む ・ 男は過去を美化した思い出にし、女は過去を経験のバネとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 男は(関係を)丸くおさめる、女はさらに悪化させる ・ 男は楽、女は面倒くさい
<p>性別：女性③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 男は雑、女は丁寧 ・ 男は力（握力的な）が強く、女は口が強い ・ 男は無神経、女は神経質 ・ 男は経済力、女は女子力 ・ 男は単独、女は集団 ・ 男は仕事、女は家庭 ・ 男は青、女は赤 ・ 男はシークレットブーツ、女はインヒール ・ 男は大食い、女は小食 ・ 男の筆箱は小さい、女は大きい ・ 男は追うもの、女は追われるもの ・ 男は美黒、女は美白 ・ 男は言わなくてもわかるもの、女は言われなければわからないもの 	<p>性別：女性④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 男は嘘が下手、女は嘘が上手 ・ 男は何も考えていない、女は何も考えないふりをする ・ 男は夢を語る、女は夢を見る ・ 男は腹筋、女はくびれ ・ 男は働く、女は働かせる ・ 男は怒ると黙る、女は怒ると黙れない ・ 男は周りを気にしない、女は周りを気にしすぎる ・ 男はわかりやすい、女はもっとわかりやすい ・ 男は強くなろうとする、女は強くなっちゃう ・ 男は弱くなれる、女は弱くなれない ・ 男はすぐ忘れる、女は忘れられない ・ 男は女に理想を抱きすぎ、女は抱かなさすぎる
<p>性別：女性⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 男は素直、女は巧妙 ・ 男は不器用、女は器用 ・ 男は虫を殺せる、女は指示する ・ 男は夢見がち、女は現実的 ・ 男はこだわり、女はどうでもいい ・ 男は一瞬、女は永遠 ・ 男は外観、女は収入 ・ 男は発毛、女は脱毛 ・ 男は専門、女は万能 ・ 男は髪型、女は体型 ・ 男は黙って、女はマシンガン 	<p>性別：女性⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 男は力強い、女はしなやか ・ 男は仕事、女は家事 ・ 男は単純、女は複雑 ・ 男は沈黙、女はおしゃべり ・ 男は態度、女は言葉 ・ 男は目で惚れ、女は耳で惚れる ・ 男はマニア気質、女はオタク気質 ・ 男は一つの事にハマリやすく、女は一度に多くの事にハマリやすい ・ 男はシークレットブーツ、女はヒール ・ 男は大柄、女は小柄

<ul style="list-style-type: none"> ・男は後悔、女は忘却 ・男は横顔、女は笑顔 	<ul style="list-style-type: none"> ・男はものが少ない、女はものが多い ・男は大きいものに詰め込み、女は小さいものに詰め込む ・男はスポーツ、女は音楽 ・男は主、女は副
--	---

男性が創ったことわざの例

<p>性別:男性①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男は小心、女は大胆 ・男は一步下がり、女は一步進む ・男は家事、女は仕事 ・男は警戒、女は和睦 ・男は質素に、女はおしゃれ ・男は消極、女は積極 ・男は女に期待され、女は男に期待する ・男は鈍感、女は敏感 ・男は思案、女は即決 ・男は粗く、女は細やか ・男は正直に感情を表し、女は影で本性を見せる ・男はインドア、女はアウトドア 	<p>性別:男性②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男は金髪、女は茶髪 ・男は金、女は容姿 ・男はスケベ、女は腐女子 ・男はロマン、女は現実 ・男は話さず、女は黙らず ・男は30代、女は20代後半 ・男は単純、女は複雑 ・男は見せたがらず、女は見せたがる ・男は自転車、女は自動車 ・男はコンビニ、女はスーパー ・男は細マッチョがもて、女はぽっちゃりがもてる ・男はこじれず、女はこじれ ・男は人情、女は契約 ・男は紅の豚、女はハウルの動く城
<p>性別:男性③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男は不倫、女は浮気 ・男は一般車両、女は専用車両(電車) ・男はたくましさ、女は可愛さ ・男はすっぴん、女は化粧 ・男は運動系、女は文化系 ・男は下品な下ネタ、女は生々しい下ネタ ・男はゲーム、女はLINE ・男は孤独、女は群れる ・男は沈黙、女はお喋り 	<p>性別:男性④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男はガタイ、女は容姿 ・男は弱い、女は強い ・男は勢い、女は冷静 ・男は単純、女は複雑 ・男は優しさ、女は強さ ・男は表現が真っ直ぐ、女は表現が細やか ・男は行動が速い、女は頭の回転が速い ・男は感情的、女は計画的 ・男は行動、女は会話

	<ul style="list-style-type: none"> ・男は知りたがり、女は知られたがり ・男はすぐ仲直り、女はじっくり仲直り ・男は外見判断、女は内面判断 ・男は肝心なときに繊細、女は肝心なときに大胆 ・男は聞き上手、女は話し上手
性別:男性⑤ <ul style="list-style-type: none"> ・男はギャップ萌え、女は誠実さ ・男は理想、女は現実を見る ・男は経済力、女は家庭力 ・男は弱い、女は強い ・男は直感、女は計画 ・男は薄情、女は同情 ・男は鈍感、女は敏感 ・男は体力、女は知力 ・男は悲観的、女は楽観的 ・男は犬、女は猫 ・男はプロテイン、女はサプリ 	性別:男性⑥ <ul style="list-style-type: none"> ・男は最強、女は最恐 ・男は拳、女は平手 ・男は許す、女は怒る ・男はお金、女は見た目 ・男が筋肉、女は胸 ・男は若けりゃ強いが老けると弱い、女は若けりゃ弱いが老けると強い ・男は見た目はこわいが中身は弱い、女は見た目は弱いが中身は強い ・男は身長、女は体重 ・男は一人、女は大勢 ・男はハンバーグ、女はサラダ

6. 郷土（地方・故郷）のことわざ

富士山がかさをかぶれば雨



(1) 「郷土のことわざ」

かつての藩といった地域や、それよりも小さな河川の流域など地形上、他の地域と分離、独立しやすい地域。あるいは、都道府県はおろか市町村という行

政単位よりも小さな生活圏、生活共同体(ムラ・地区・部落・集落)などの生活文化※(地域の人々の生活信条、生活習慣・慣行、生活様式、人間関係、生活の知恵…など)を内包した、「要にして簡」「言い得て妙」な、地域特有のことば・ことわざを「郷土のことわざ」といいます。

「郷土のことわざ」は、その内容において各地域の生活の知恵の宝庫であり、隠れた生活文化遺産とも言えます。そして、文献や文字にされていない「郷土のことわざ」が全国各地にまだまだ眠っていると思われれます。

※「郷土のことわざ」における「生活文化」とは、いわゆる伝統芸能や文化財、文化勲章などの意味としての文化(culture)と区別して、生活様式・生活文化(way of life)の意味です。

(2)「地方のことわざ」は「郷土のことわざ」の中の一つの 카테고리

各地でよく使われる「地方のことわざ」という用語があります。これは、全国の各地域の主に生業にまつわる天気・気候・気象・季節・地理などを、「要にして簡」「言い得て妙」なことば(ことわざ)で表現したものです。当然、各地域で違いがありますが、同じようなことわざであっても、それぞれの地域で異なる体験的な用例が添えられていると地域の特徴をよく表すことわざとなっています。

しかしながら、地域特有のことわざは「郷土」という生まれ育った土地の住人がみずからの生活の中で了解、共有、使用、共感、主に地元のことば(方言)で口頭伝承されてきたものです。そのため、「地方のことわざ」というよりも「郷土のことわざ」と表現したほうが相応しく、「地方のことわざ」はあくまでも「郷土のことわざ」の中の一つの 카테고리と考えたほうが良いでしょう。また、地域によっては「郷土のことわざ」や「地方のことわざ」というような用語を使わずに単に「ことわざ」とか、「俗信、迷信」などとしている場合もあります。最近はあまり使われなくなっていますが、かつては日常的な呼称として「タトエ(喩え)」「世話(世俗の人が用いる話し言葉)」などとも言われていました。

他にも、長崎県壱岐市の「テーモン(というもの)」、佐賀県の「チャーモン(というもの)」、長崎県佐世保市黒島のムカシバナシ(昔話)、沖縄県のクガウアネ・クウトウバ(黄金言葉)など、各地域でそれぞれ独特の呼称があります。このような呼称が各地域にあることは、各地域に「郷土のことわざ」が存在することを表しているといえるでしょう。

コラム5 「地方」と「郷土」の違い

「地方」という用語は、「首都あるいは各地の政治・経済、社会・文化などの中心地といった都市部の人々から見た、それ以外の地域に対する第三者的な呼称・用語」です。一方、「郷土」は、「生まれ育った土地の住人がみずからをいう一人称の呼称・用語」です。

ちなみに、新村出編『広辞苑』（第6版）によると、「地方」とは「中央(首都)に対して、それ以外の土地。いなか」であり、「郷土」とは「生まれ育った土地。ふるさと。故郷」という意味となっています。

(3) 百聞は一見にしかず、実際に「郷土のことわざ」とはどういったものか

郷土(故郷・地方)で普通に使われている「郷土のことわざ」は、多くの中小の『ことわざ辞典』類にはほとんど載っていません。しかし、『故事俗信ことわざ大辞典』第2版(北村孝一監修 2012)のような大型の『ことわざ辞典』には「郷土のとわざ」は「俗信」として一部編纂・掲載されています。それでは、百聞は一見にしかず、実際に「郷土のことわざ」とはどういったものか見てみましょう。

ご紹介するのは、川原茂(鳴鹿小学校)著『奥越地域の残る言い伝え—先人の知恵、生活の諺—』(平成11年1月)です。おそらく福井県の学校の先生がインタビューによってまとめた著作であると思われます。

■生活に残る言い伝え

〈大野郡和泉村地区〉

- ・「地震さだめ」昔の刻(とき)で何が起こる地震かを占う。九は病、五、七の雨に、四つの日照り、六つ八つは国の騒ぎ。
- ・かわいい子には旅をさせよ

〈美山町下字坂地区〉

- ・親の意見とナスビの花は千に一つのあだもない
- ・夜、爪を切ってはいけない
- ・癩癧(かんしやく)のある子は灸(きゅう)をすると治る
- ・子供のしつけは親を見れば分かる

〈足羽郡美山町〉

- ・ 食事の時に箸を不揃(ふぞろ)いに持っと母が早く死ぬ
- ・ ナマズが暴れると地震が来る
- ・ 夜、爪を切ると親の死ぬ時に会えない
- ・ オネシヨをする子は灸(きゅう)をすると治る
- ・ 女の子はトイレの掃除を進んですると美人になれる
- ・ カラスがあまり鳴くと不幸がある
- ・ カラスがよく鳴く時は死人が出る
- ・ カラスの夜鳴きに火の用心

〈大野市南六師地区〉

- ・ カラスが騒ぐと火の用心
- ・ 蛇の道切り、右から左へを吉とする。
- ・ 山のネプの木(ネムノキ)は、日暮れになると、雨が降っていても・天気がよくてもしなびたようになる。手を握るともいう
- ・ 3歳児の魂百まで(三つ子の魂百まで)
- ・ ネプの木を見れば夕暮れが分かる
- ・ 虎(トラ)の子は生まれて三日目くらいに、山の上から谷底に落とされても這(は)い上がる
- ・ 鯉が池の真ん中に集まると地震
- ・ サツマイモに花が咲くと幸せが悪い(滅多に咲かない物)
- ・ カボチャがものすごくおおきいのは幸せが悪い
- ・ は一き星(彗星)は国の騒ぎ
- ・ 嘘をつくと「閻魔様」が舌を抜く

〈大野市阪谷地区〉

- ・ 出で針をするのはだめ
- ・ 早起きは三文の得
- ・ 三つ子の魂百まで
- ・ 家族の死後 49 日は魚を食べない
- ・ ご飯を食べてすぐ横になると牛になる
- ・ 流れ水におシッコをかけるとチンチンが腫れる
- ・ 夜、口笛を吹くとけものが来る
- ・ 夜、笛を吹くと泥棒が来る

- ・渡し箸(はし)はいけない

〈美山町上味地区〉

- ・乳飲まず親はいても、湯飲まず親はいない
- ・子供がおしっこを外でして、ミミズにかかるとチンチンが腫れる
- ・子供がぐずると後(下の子が生まれる)が近いという(弟見)
- ・箆を頭に被ると背が伸びなくなる

〈大野市蕨生地区〉

- ・昔の刻で夜中に地震があると次のように占った。四ツは日照り、五、七ツの雨、九ツは病、六・八ツは風になる
- ・^{さる}申、^{とり}酉荒れて、^{いぬ}戌、^い亥よし
- ・カラスが哀しい鳴き声で人の死を知らせる
- ・ツバメが家や小屋に巣作りをする家には火災は起きない
- ・動物が森から逃げてくると火災が起きる
- ・春の彼岸から秋の彼岸までは農家の人は昼寝をしても良いといわれた
- ・子供は親の背中を見て育つ
- ・誕生日前に歩いた子には米を担(かつ)がせて倒せ
- ・小さい時に魚を食べさすと、早くオムツが取れない
- ・夜、爪を切ると親の死に目に会えない
- ・里の灯が見えたら山を降りろ
- ・台所の流しに熱いお湯を流すな。下水の虫が死んで良いことがない
- ・夜口笛を吹くと泥棒が来る
- ・夜口笛を吹いたらだめ

これらのことわざを読むと「俗信」とされるわけが理解していただけること
と思います。

「かわいい子には旅をさせよ」や「早起きは三文の得」「三つ子の魂百まで」な
どはことわざ辞典に載っていますが、他のことわざは子育て、しつけ、そして
生業や災害などに対する先人の知恵が言い伝えとして、世代間で脈々と受け継
がれてきたことを彷彿とさせます。

見方によっては「迷信」ともされますが、「生活の諺」として緩やかな習俗規
範・規制となっていたと思われれます。ともあれ、伝承者のやさしさ、地域の子
ども達がよい子に育てという思いが伝わってくるような内容です。

このような各地で最初に自然発生的に創られた「郷土のことわざ」こそが、ことわざの創生を赤唆しているのではないのでしょうか。

(4) 「郷土のことわざ」の列挙、解説だけでは意味が伝わらない

全国各地の『郷土史(誌)』などの「ことわざ」「俗信・迷信」欄には、「郷土のことわざ」が列挙されていたり、ことわざに解説がある事例などが多く残されています。しかし、こうした文字化・記録化だけでは、他の地域の人達には関心が持たれ無いでしょうし、地元の若者でさえいずれば意味が理解できなくなるのではないかと危惧されます。このことを踏まえて次のことわざを見てみましょう。

『笠居郷風土記』（高松市西部）

高松市西部民俗調査団編、1986年、高松市歴史民俗協会出版

世渡りの知恵(批判、教訓、人情など)

- ①「釜に飯粒つけたまま水にかしとくんは女が裸で外歩くんといっしょ」
- ②「かいしょは出しづかい、金はもうけづかい」
- ③「大金もうけは小金もよう残さん、小金もうけは大金残す」
- ④「親のいうことと牛のしりがいははずれそうではずれん」
- ⑤「しょぼしょぼ雨に身がぬれる」
- ⑥「かかとから上へひきあげん」
- ⑦「はたはた貧乏になめくじ長者」
- ⑧「ボ奉公した(無駄奉公をした)」
- ⑨「屋島の山が梅干ぐらいになるまで続く旦那はんもなければ貧乏人もない」
- ⑩「娘三人大黒柱ゆるがす」

これらのことわざの大部分はいかにも「郷土のことわざ」らしいものですが、解説がなくても比較的分かり易い句が多いかと思えます。例えば、④「親のいうことと牛のしりがいははずれそうではずれん」や、⑩「娘三人大黒柱ゆるがす」などは『ことわざ辞典』類に載っている「全国区のことわざ」といえます。しかしながら、⑥「かかとから上へひきあげん」についてはまったく意味が分かりません。

このように、「生活の知恵の宝庫」、「隠れた生活文化遺産」とも言える「郷土のことわざ」は、その列挙だけ、あるいはその解説があるだけでは他の地域の

人だけではなく、地元の人達にもその意味が理解できないことがあります。それではどのようにすればよいのでしょうか。実は「郷土のことわざ」の列挙、解説だけではなく、独自の体験的な用例や地域や時代、人間関係などに関するエピソードなどが添えられた“小さな地域のことわざ風土記(民俗誌)”と比喻できる文献が各地に存在しているのです。

「郷土のことわざ」に用例やエピソードなどを加えれば当然意味や使用法が明確となり、広く了解、共有、共感、使用、伝承されることになるでしょう。

(5) 「小さな地域のことわざ風土記(民俗誌)」

「小さな地域のことわざ風土記(民俗誌)」とは、「郷土のことわざ」に体験的な用例やエピソードなどを添えたエッセイ風の文献を指します。“小さな地域の”とは、「郷土のことわざ」が共有、共感、使用、伝承される「集落・地区・ムラ・部落・シマ」などと言われる生活圏や、生活共同体の範囲のことです。「風土記」とは、地域別に風土・産物・文化その他の情勢を記したものです。また、かっこ付けで「民俗誌」となっていますが、これは“それぞれの執筆者個人の体験、生活の知恵に基づいた”という意味を表しています。民俗誌の特色として、フィールドワークに基づいた統合的な記述ということがあるので、風土記に加え“民俗誌”と表記されているわけです。

確かに、「郷土のことわざ」は各ことわざを列挙、解説しただけではその意味を理解することは難しいです。しかしながら、「郷土のことわざ」に意味がないということは決してありません。「小さな地域のことわざ風土記(民俗誌)」とすることで、多大の付加価値が加わるのです。それでは、「小さな地域のことわざ風土記(民俗誌)」を知っていただくために、2つの事例をご紹介します。

【事例 1】

『小豆島民俗誌』川野正雄、1984年名著出版

千年の昔から、「言霊の幸(さき)はふ国」といわれているだけに、わが日本人は造語には特別の才能を持っていたものとみえ、昔から庶民の間に日常用いられる言語のうちには、えもいえず巧みな言いまわしのものが多い。

ことに、遠まわしに物にたとえていう言葉などのうちには、絶妙なものがあって、そのためか遠い昔から今にいたるも、忘れられもせずに人々の口の端にのぼる言葉がある。たとえば、あまり好ましい言葉ではないが、「長いものには巻かれろ」などという言いまわしは、中世から近世へかけての封建制の根幹にふれるうまい言葉で、民主

主義の今日といえども、なお滅びもせずに庶民の間に生きている。

—中略—

「永く所の水を呑ませず」ということ。これは説明するまでもなく、封建時代の村落共同体内からの永追放、すなわち「村はちぶ」のひとつの言いまわしである。たとえば、ある村の農民のひとりが、隣村の入相山に入って、薪や下草を盗み刈りなどして、捕えられた際における、その村の年寄りや組頭らの相手村に対する詫び証文のうちによく書かれている。

「所の水」を飲むことは、あたりまえのはなしで、昔も今も変りはないけれども、近世封建社会においては、同じ水源乃至は水脈の水を共にすることによって、村落共同体内の血のつながりにも似た強固な団結があると考えていたのである。

それは、同じ酒樽から酒をくみ交すことによって、若者組仲間の一員としての資格を得るとか、あるいはまた、現今でも時折言われる「同じ釜の飯を喰う」ことによって、ひとつの職域内の親方と子方、乃至は仲間同志の単なる親近感以上のつながりを確認したのと同様であった。従って、「所の水」を飲ませられないということは、村落共同体内の最もきびしい処分方法であり、人々にとっては最大の恥辱にほかならなかったのである。

【事例2】

「村落に残る俚諺」『和歌山市民俗歳時記』

和歌山市伝承文化調査委員会編、1985年 和歌山市教育委員会文化振興課

「苦が餅喉に立つ」

八朔(陰暦8月1日)は、農家はその年の新穀を収める田実の節句にあたり餅をついて祝う。ところがこの頃になると、昼は短く夜が長くなる。従って夏の間行っていた昼休み(午睡)がなくなり、夜なべが始められる。農家にとっては、よなべは重労働であり、美味しいはずの餅も、苦くて喉とおりが悪いという意味である。夜なべは、夕食後から午後10時ごろまで行われ、主婦は継ぎもの、米搗き、男性は縄ない、わら草履づくりをした。

「餅喰て、寿司喰て、牛見て、井戸のぞく」

俚諺というより農家の生活の一断面を語る言葉である。農山村は、戦後、生活様式は全く変わってしまったが、その以前の生活は、年中行事として営まれる正月、盂蘭盆、村祭、大休み、小休みなど幾日かの休業日はあっても、村をあげての娯楽やレクリエーション的な催しはなかった。農閑期に田舎まわりの芸能人が村を訪れて、浄瑠

璃、でこ芝居、ちょんがれ節(浪花節)などの上演があって、いくらかの入場料を払って楽しんだ。これが村での唯一の楽しみであった。

ところで、村の行事などで親戚が農家に招かれても、馳走が出ても何の風情もないことを、来客者の立場で言ったのがこの言葉の意味するところである。「餅喰て寿司喰て」は字義通り、「牛見て」とは、農家にとって牛は大きな資産であり、農作業の主役であった。そこで農家では牛の飼育に力を入れ、立派にすることが誇りであった。来客として招かれた者は、その牛を見るときは礼儀であり、それをほめそやすことは、相手に敬意を表すことにもなった。

「井戸のぞく」も、上水道のなかったころ、井戸の良し悪しもまた大切なことであった。水質検査をしたわけではないが、自家の井戸水は、すべて良しと考えていたから、前述の牛見てと同様、来客は儀礼として井戸をのぞき、それをほめそやした。要するに「餅喰て寿司喰て…」は、客として招かれていっても、主人側として馳走すすめる以外もてなしようがなく、客として招かれた者の飽き足らなさを逆説的な表現として、この言葉が残されたのでなかろうか。(河野洋純)

2つの事例からは、私たち個人個人が文化・社会という背景と共に生まれ、そして生きているということが分かるかと思えます。このような貴重な各地の生活文化や生活の知恵は、こうして記述を残すことで広く共有できることになるばかりではなく、未来へとつながる地域の可能性を見出せるといえるでしょう。

コラム6 「小さな地域のことわざ風土記(民俗誌)」の探し方

図書館などで「小さな地域のことわざ風土記(民俗誌)」と目される文献を探す場合は、館内の「郷土資料室」などに行き、主に「民俗」の欄、あるいは「言語」の欄の開架棚から直接文献を探することができます。タイトルに「ことわざ」という銘が付いていないものが多いかもしれませんが、例えば郷上のはなしとか、郷土の昔話、わらべ歌や方言などについての用例のある解説文や文章、巻頭言、あるいは郷土のかるたの読み札などに該当するものが見つかるはずで、そしてなにより、司書の方に相談することが肝要です。

(6) 「郷上のことわざ」の分類と郷土の生活文化

「郷土のことわざ」を分類すると【表1】のように4つの種類に分けることができます。「郷土のことわざ」は「①地域独自のことわざ」、「②既成のことわざの疑似的ことわざ」、「③文句は既成のことわざ」の3つの種類とし、④は「地

方のことわざ」となります。

「郷土のことわざ」をみていくと、「①地域独自のことわざ」、「②既成のことわざの疑似のことわざ」、「③文句は既成のことわざ」が混在して郷土の生活文化を彷彿とさせていることが分かります。そして、④「地方のことわざ」のみが独立している例が多くあります。

【表1】「郷土のことわざ」の種類と郷土の生活文化

<p>①地域独自のことわざ</p> <p>当該地域で、何時か誰かに創られた地域独特の(他の地域には見当たらない)ことわざ。一句だけでも「郷土の生活文化」を彷彿とさせることわざもあるが、複数句が駆使され、さらに具体的な用例があると「小さな地域のことわざ風土記」の主要なデータとなり得る。</p>
<p>②既成のことわざの疑似のことわざ</p> <p>『ことわざ辞典』類にある成句と類似していても、既成のことわざの一部が方言や独特の言い回しであったり、発音やアクセントが違ったり、比喻されている固有名詞が異なるなど、全国区のことわざ「既成のことわざの擬似的なことわざ」と喩えることができることわざ。</p>
<p>③文句は既成のことわざ</p> <p>文章的には、『ことわざ辞典』類に載っている全国的に知られた「既成のことわざ」そのものであっても、会話や文章などでの独特の使い方、コンテキスト(文脈)によって、地域独特の意味や役割・機能が持たれる場合がある。さらに『ことわざ辞典』とは異なる独特の意味を持つことがある。</p> <p>また、単なることわざの列挙や解説だけで用例がない場合は、郷土のことわざ文化を彷彿とさせる「小さな地域のことわざ風土記」のカテゴリーに入れることができない。このカテゴリーのことわざは、用例やエピソードなどを加えると「郷土の生活文化」を表すことができる。</p>
<p>④地方のことわざ</p> <p>天気・気候・気象・風向き・地理など、主に「自然と生業」に係わる成句は、地域の独自性が明確に示されている。これらのことわざは、ことわざと地域性が密接であることの根拠となる。しかし、各地域で諸条件が当然異なる故に、他との比較や一般性は見出しにくい。そのため、「地方のことわざ」として、「①地域独自のことわざ」、「②既成のことわざの疑似のことわざ」、「③文句は既成のことわざ」の3つとはあえて区別する。</p>

①地域独自のことわざ

「地域独自のことわざ」は、かつて各地域において日常の会話などで創生さ

れて、それが伝承・伝播されることにより、今「郷土のことわざ」となっていると考えられます。大規模のことわざ辞典には「俗信」とか「言い伝え」として掲載されていることもあります。

各地域の地理・歴史・社会・生活・民間伝承などの記録や研究をまとめた書物『郷土史(誌)』『風上記』などには、ことわざの列挙のみの事例が多く、記録という目的が色濃く見受けられます。また、「地域独自のことわざ」の中には、紆余曲折の後『ことわざ辞典』類に掲載されるようになったことわざもあると考えられます。

【地域独自のことわざの事例】

「茅一本千匹かくせる」

川島洋 2014 「暮らしの中に息づくことば—青梅市の郷土のことわざより—」 日本ことわざ文化学会編『郷土とことわざ』人間の科学新社より

ニホンオオカミにまつわる伝説や言い伝えは、日本各地に数多く残されています。その一つが東京都青梅市に伝わる「送りオオカミ」の伝説で、それに関連して「茅一本千匹かくせる」ということわざも存在します。

茅一本に何を千匹かくせるのか、主語が抜けているため何のことかわからないかと思いますが、茅に千匹かくれているのはオオカミです。また、「送りオオカミ」と聞くとおそらく多くの方が、親切そうなふりをして女性を家まで送ろうとした男が、その途中で豹変し、いかがわしい行為におよぶといった意味を連想するかと思います。たしかに現代ではそのような意味で使われることが多いのですが、本来の意味は、山道を歩いているとオオカミが後をつけてくるので気をつけなさい、というものです。

「送りオオカミ」の話には、大きくふたつの意味が込められています。ひとつはオオカミに出会ったとき、安全に帰るための対処法を教えるものです。ふたつ目の意味は、オオカミは山中で危険から身を守ってくれる神様のような存在であるから、オオカミには感謝をしなければならないというものです。

②既成のことわざの疑似的ことわざ

「既成のことわざの疑似的ことわざ」は、『ことわざ辞典』類に掲載されている成句に、方言や固有名詞などが加わって現在に至ったものです。逆に、少数でしょうがこちらが先で、次に『ことわざ辞典』類に掲載されるようになったことわざもあり得ると考えます。

【既成のことわざの擬似的なことわざの事例】

「あんころもちより心もち」

小野将美 1976 「俚諺百話」『富士北麓の耳学問横行自在』山梨県富士吉田市下吉田 2675 発行より

「来たらよっとくれヨ あばらやだけど ぬるいお茶でも あっくする」。

たとえ貧しくて、あばらやに住んで居ても、訪ね来る客を、何は無くとも精神をこめてもてなす心意気がうかがえて、心温まる文句である。雪の夜の客を暖めるために、大切な鉢の木を、惜し気も無く薪にして燃やす心。来客を泊めるために、自分達は紙をかぶって夜を明かした絵師夫婦のはなしなど、皆日本人本来のもてなす心である。

外国にも、「家は、構えでなく、心をこめた手料理で立派の見える」と言うことばがある。洋の東西を問わず人情に変わりなく、どんな立派な邸宅に住んで居ても、そこに住む人の心が冷たくては、邸宅も客にとっては小屋に劣るのである。

忙しい世の中であるから、誰ものんびりと改まって、お茶も上等の菓子で、御馳走になろうとも思ってはいないが、せめて気持だけは、温く迎えてもらいたいものである。

③文句は既成のことわざ

「文句は既成のことわざ」は、『ことわざ辞典』類に掲載されている全国的によく知られている「既成のことわざ」が、教育やマス・メディア、あるいはロコミなどにより各地に伝わり、時間の経過と共に地域の生活文化に組み込まれ、文句は既成のことわざと同じなのですが地域独特の意味や役割を持つようになったことわざです。

【文句は既成のことわざの事例】

「親孝行はマネでもしろ」

小野将美 1976 「俚諺百話」『富士北麓の耳学問横行自在』山梨県富士吉田市下吉田 2675 発行より

昔、親孝行の貧乏な子供が居た。その孝行ぶりが、ついに殿様の耳にまで達して、大変なおほめと、ごほうびとを頂いた。

これを聞いた、余り孝行者でなかった子供が、その真似をして、これも又遂に殿様からほめられる様になったが、何処にも他人の良いことに邪魔をする者が居て「殿様、実はあの者は前の孝行者の真似をした者でございますから、ごほうびなどやる要はございません」と、忠義顔に進言したところ、殿様は「親孝行の真似をしても、決して恥しいことではない。立派な心掛けだ。領内の者が、全部真似ごとでも良いから親孝

行をする様に」と言ったという話があるが、その真偽は別として、如何なる時代も、親が無くて生れた者も無いし、1人で成長した者も無いから「親の恩は海よりも深く、山よりも高い」ことは今更一言う要もない。

「いつまでもあると思うな、親と金」孝行したいと思った時は、親は無いかもしれない。戦後の家族制度の変革に依り、「家つきカーつきババア抜き」の思想がはびこり、子供の権利は主張しても、親の尊厳は認めなくても良い様な、誤った考えをもつものが多くなって来たのではないだろうか。かけがえの無いものは親であるから、真似ごとでも良い。心から親に感謝して孝行をしようではないか。

④地方のことわざ

「地方のことわざ」は、天気・気候・気象・風向き・地理など、各地域の主に自然と生業に係わることわざです。これらのことわざには、地域の独自性が明確に示されています。そして、ことわざと地域性が密接であることを表しています。しかしながら、各地域で諸条件が当然異なり、他との比較や一般性は見出しにくいいため「地方のことわざ」として、「①地域独自のことわざ」、「②既成のことわざの疑似的ことわざ」、「③文句は既成のことわざ」の3つとは区別しています。

【地方のことわざの事例】

「天気のことわざ」 大野地球科学趣味の会編・発行『自然界のユートピア』発行年不詳

①光・音に関するもの

「夕焼けは晴れ、朝焼けは雨」

このことわざは最もよく使われているようです。日の出、日の入りのときには、太陽光線はより長い空気層を通ることになります。このため、空気の分子や塵のために短い波長の光(青い光)が散乱され、主に長い波長の光(赤い光)だけが空気層を通過してきて、目に入り赤く見えます。このようなわけで、夕焼けが見られる時は、西の空が晴れている証拠で、その翌日も晴れることが予測できます。この場合は黄色味を帯びた夕焼けについてで、黒味を帯びている時は西の空に雲が多い場合で、むしろ天気は悪くなります。

反対に、朝焼けが見られる時は、澄んだ空気層が東に去ったとみることができ、今後天気が悪くなることが予測できます。

②風に関するもの

「煙が西へなびくと雨、東へなびくと晴れ」

北半球においては、低気圧のまわりに左まわりの風が吹きます。また、低気圧は西から東に移動します。このため、低気圧が接近すれば東寄りの風が吹くようになり、煙は反対の西方になびきます。

低気圧が通りすぎてしまうと、風は西寄りに吹くようになり、煙は東方になびくようになります。したがって、西寄りの風が吹くようになるとは、天気が回復してくることを示していると言えます。

「夏の南風は晴れ」（日本海側）

夏には太平洋高気圧が勢力を増し、南風がよく吹くようになります。このため、太平洋側地方では湿気を含んだ大気の侵入によって雨となりますが、日本海側では、湿気のない乾いた空気が中央山脈を越してくることになり、天気は晴れとなるわけです。したがってこの諺は日本海側地方にのみ通用することになります。

一方、太平洋側地方ではこれに対して、「南風が吹くと雨が近い」などの諺となっています。冬は夏とは逆になり、日本海側では「北風は雪の兆」となり、太平洋側では「北風吹けば、あすも晴れ」というように使われています。

ネコが顔を洗うと雨



ゲロゲーロ



アマガエルが鳴くと雨

コラム7 天気のことわざは本当？

天気のことわざは一つ一つみれば非常にたくさんみられますが、その内容を吟味してみると表現形式が異なるだけで、予想している天気については同じものが多くみられます。雨・虹などの気象現象に関するものや、雲・風に関する諺については、科学的証明がなされその信頼度も比較的高いと言えるでしょう。しかし、動植物に関する諺や季節に関することわざについては、科学的裏付けがむずかしく、利用するにあたっては参考程度とみたほうが無難なように思われます。

【茨城県の気象に関することわざ】

筑波山



夕焼けは晴れ(明日の晴れ・明日のなご)／朝焼けは雨(その日の雨)／アマガエルが鳴くと雨／月にかさをかぶると雨(明日雨)／筑波山に雲がかぶったときは雨、よく見えるときは晴れ／／汽車あ汽笛が聞こえると雨(聞こえないと晴れ)／モグラが土を盛り上げると雨が降る(近日中に雨)／

ツバメが低く(地面すれすれに)飛ぶと雨が降る／ネコ炉耳までかけて顔を洗うと雨／朝バト鳴くと雨が降る(みのを着る)／地震が起きた時刻により天気を判断する／アリが長く行列を作ると(移動すると)雨が降る／カエルが鳴くと雨／夕方、子どもが騒ぐと明日雨になる(冬は雪になる)／ヨシキリが高く巣を作る年は洪水あり／ハチが高いところに巣を作ると洪水

井坂末松 1969年8月「茨城県における気象狸言(りげん)について」より

7. 暮らしの中に息づく「郷土のことわざ」

—「想いでのことわざ・エピソード」記述のすゝめ☆—

「想いでのことわざ・エピソード」は、老若男女、年齢を問わず誰もがその書き手(語り手)になることができます。ことわざに関する思い出(親からよく言われた、こんなことわざが地元にはある、ことわざと自分史…)など、自分自身で体験した事例を自由に書けばよいのです。また、「郷土のことわざ」

故郷忘れ難し



にまつわる場所・地域などに実際に赴いて「ことわざ旅行記」にするといったことでも大丈夫です。旅行先などで「郷土のことわざ」や「小さな地域のことわざ風土記(民俗誌)」を探してエッセイ風にまとめるというのも良いかと思います。

いずれにせよ、こういった文章を集め何

らかの冊子にまとめ地域の図書館に寄贈する、あるいは個人的に SNS などで発信することが消えゆく「郷土のことわざ」を後世に伝えることになるのです。

【想いでのことわざ・エピソードの一例】

青梅市の郷土のことわざより―「^{らいでんやま}雷電山が鳴ると雨が降る」

川島洋 2014 「暮らしの中に息づくことば―青梅市の郷土のことわざより―」 日本ことわざ文化学会編『郷土とことわざ』人間の科学新社より

「^{らいでんやま}雷電山が鳴ると雨が降る」

天候に関することわざ、なかでも雨に関することわざは全国各地に多く存在します。たとえば「東風が吹くと雨」「山に笠雲かかれば雨」「羽アリが多いと雨が近い」といったものがよく知られています。私の生まれ故郷である東京都青梅市にも、「雷電山が鳴ると雨が降る」ということわざがあります。雷電山で雷が鳴ると夕立が来る、という意味で、人々の暮らしの中に息づくことばのひとつとなっています。

石灰採石と雷電山

東京都青梅市は、東西に長くのびた東京都の西の端にあります。JR 青梅線「青梅駅」の裏手に広がる山々は、青梅丘陵と呼ばれ、地元の人々から手軽なハイキングコースとして親しまれています。この丘陵は JR 青梅駅から奥多摩方面に向かって数えて四つ目の駅にあたる JR 二俣尾駅付近まで続いています。雷電山は、その最終地点に位置する標高四〇四メートルの山です。

明治時代から昭和初期にかけて、雷電山付近の山々では石灰の採石が盛んに行われていました。雷電山はその石灰を集積し、トロッコに乗せて運び出す場所でした。そもそも青梅線は、奥多摩や青梅でとれた石灰を運ぶために敷かれた路線で、開業当時の青梅線は、石灰を運んだ貨車の一番後ろに一、二両の客車がつながれていたといえます。

「**青梅線、石より人が安く見え**」 青梅市教育委員会 1989『青梅歴史物語』悠山社書店より

このように青梅線の様子は川柳にも詠まれています。人を運ぶより、石灰を運んだほうがお金になったというわけです。

雷電山で雨に遭う

私が子どもの頃、雷電山は遊び場でもありました。雷電山は採石場の跡地であるから危険だということなのか、母からは「雷電山には行ってはいけない」と言われていました。しかし廃墟というのは子どもの冒険心をくすぐるものです。母の忠告などはお構いなしによく雷電山へ行きよく遊んでいました。

今、当時のことを思い返してみると、雷電山に入るときに民家の裏の方から有刺鉄線を潜っていった記憶がありますので、おそらく立ち入り禁止の場所であるにもかかわらず、それを無視して勝手に入り込んで遊んでいたのだと思います。雷電山に樹木は少なく、そこは背丈ほどもある草に覆われていました。道も無くまるでジャングルを探検しているようでした。草をかき分け、トロツコの線路跡に添って廃墟に向かうのが、いつもの私たちのルートでした。

ある日のことです。それはいつものように廃墟に侵入した私たちが、骨組だけになった建物の二階部分に座って話をしていたときのことです。友人が突然、雷電山の話をしました。

「俺、雷電山が鳴ると雨が降るっていう話をばあちゃんから聞いた」と友人は言いました。

私が初めて「雷電山が鳴ると雨が降る」を知ったのはそのときです。友人は話を続けます。

「雷電山に雷が鳴るとかならず大雨になるんだって。雷電山は雨乞いをする山だから、むやみに入ったりするとバチが当たるんだって」。

雷電山に勝手に入り込み、さんざん荒らしまわった後に、なんてことを言うんだと私は思いました。「バチが当たる」という言葉に子どもの私は怯えました。母が「雷電山には行ってはいけない」と言ったのは、そのような「祟り」があることを知っていたからではないかと思いました。そこにいた全員の中の頭に「一刻も早くこの場から離れなければ」という思いがあったのでしょうか、今にも崩れそうな廃墟の二階から一人ずつ慎重に下へ降り始めた、まさにそのときです。今まで晴れていた空が突然暗くなり、雷が鳴り始めたのです。これはもう“祟りが来た！”と思うほかありません。大粒の雨が降ってきて、私たちはずぶ濡れになりながら必死に逃げ帰りました。このことがあって以来、私たちが雷電山に行くことはなくなりました。

「雷電山が鳴ると雨が降る」このことわざを実際に体験した出来事でした。その後も「雷電山が鳴ると雨が降る」ということわざは、地元の年配の人たちからたびたび聞くことができました。しかし「バチが当たる」というくだりは友人以外からは聞いたことがありませんので、おそらくこれは単なるデマなの

でしょう。危険な場所に子どもを近付けさせないための大人達の優しい嘘だったのかもしれませんが。

「雷電山の雨乞」を伝える昔ばなし

雷電山と雨の関係にまつわる話は、青梅に伝わる昔ばなしの中にもありました。「雷電山の雨乞」というお話です。

「雷電山の雨乞」

むかし、青梅付近一帯が、ひどい旱^{ひでの}にみまわれた。田畑は、からからに干上がり、作物ばかりか草木まで枯れかけていた。わずかばかりの米はもちろん、麦も粟も稗さえも穫れそうになかった。

時の領主、北条氏照^{うじてる}は、金剛寺^{こんごうじ}の良深僧上^{りょうしんそうじょう}に雨乞いをするように命じた。良深僧上は、さっそく雷電山にのぼり、雨乞いの祈とうを行った。村人たちは、かたずをのんで良深僧上の祈とうを見守っている。そして、満願の日がきた。僧上の最後の祈とうが終わるやいなや、雷電山の北からまっ黒な雲がわき上がってきた。

「おおっ、ご利益だ、ご利益があったぞ！」人びとが大さわぎしている頭上に、ものすごい稲光りとともに大粒の雨がふりかかった。「雨だ、雨だ。ありがたい！」

人びとは、涙を流して喜びあった。

その後、村人たちは、山上に雷神^{らいじん}をまつり、旱の年には山上で雨乞いの祈とうを行った。すると、かならず大雷雨に恵まれたという。今でも土地っ子は、夕立がきそうになると空を見上げてこういう。

「あれ、今日のカミナリさまは、雷電山から鳴りだしたから、大夕立になるべえ」

たしかに、西や南からカミナリが鳴りだしたときは、たいしたことのない夕立でおわることが多く、雷電山からはじまる夕立は、どしゃぶりになることが多い。

青梅市教育委員会編 1994『青梅のむかし話』青梅市教育委員会より

青梅のむかし話に出てくる金剛寺は、「青梅」という地名の由来となった「将門誓いの梅」と呼ばれる梅の木があるお寺です。伝説では、戦の途中、金剛寺に立ち寄った平将門が戦勝祈願として、杖にしていた梅の一枝を地にさし、「我がこと成るなら、この梅栄えよ。成らぬなら枯れよ」と祈願したという話です。

その後、梅は芽をふき、実を結んだのですが、不思議なことに秋になっても梅の実が黄色く熟さず、青いままであったということです。このことから、この土地を「青梅」と呼ぶようになったと言われています。

また、雷電山で雨乞いを行った良深僧上については、雨乞いにまつわるもうひとつの伝説「雨乞鉢」という話が残っています。

「雨乞鉢」

やはり金剛寺の良深僧上りょうしんそうじょうの話である。永祿えいりくのころ、良深僧上は、金剛寺の境内に壇を築いて雨乞いの祈とうをした。僧上の祈とうが佳境に入ったとき、とつぜん大風がまきおこり、豪雨となった。そして、壇に飾ってあった水盤みづばんの竜索りゅうさく二つのうち一つが、風に乗ってとびだし天ヶ瀬淵あまがせぶちにしずんでしまった。

人びとは驚いて、もう一つがとびださないように、水盤に金網をかけてしまった。

この「竜索」とは、青色のコヨリで竜の形をつくったもので密教の祈とうに使われるものである。

この水盤は、「雨乞鉢」といわれ、寺の宝となっている。

青梅市教育委員会編 1994『青梅のむかし話』青梅市教育委員会より

雨乞いは、雨の神である龍神に祈ることから、雨乞いのことを「竜王申し」と呼ぶ土地も多いと言われます。現在も祭りとして雨乞いの儀式を行う地域がありますが、雷電山に関して言えば、現在そのような祭りは行われていません。あくまでも伝説のひとつとして青梅の人々に伝承されてきた話です。そのため、この伝説にあるような雨乞いがどのような儀式であったのか、それを知ることができませんが、この「雨乞鉢」の話から、雨乞いは密教の作法にのっとり行われた儀式であったこと、龍神に祈っていたこと、などをうかがい知ることができます。

いま再び、雷電山へ

本稿を書くにあたり、いま再び雷電山に行ってみることにしました（2014年8月19日）。子どもの頃に遊んでいたトロッコの線路跡や廃墟は、現在はどうなっているのでしょうか。期待と不安が入り混じります。廃墟の中で「雷電山が鳴ると雨が降る」を実体験し、山の崇りに怯え、雨に濡れながら逃げ帰ってきたあの日から約30年ぶりの雷電山です。

本当は当時と同じルートで雷電山に入りたかったのですが、さすがに有刺鉄

線をくぐることはできませんので、今回は雷電山のハイキングコースを歩いて、山の頂上付近に出ることにします。



ハイキングコースの入口は、JR 青梅線の軍畑駅から埼玉県に抜ける峠道の途中にあります。まずは車でハイキングコースの入口近くまで行き、細い峠道になんとか車の駐車場所を見つけ、そこから雷電山の山頂に向けて歩き始めました。

しばらく峠道を歩いてハイキングコース入口「青梅丘陵ハイキングコース・榎峠口」に到着すると、「ご注意ください」と大きな赤字で書かれた看板が目に入りました。「なんだろう？」と思い、説明書きを読んでみると、熊の目撃情報があるので注意してくださいと書かれていました。そして熊

に出くわしたときの対処法がいくつか書かれてありました。「熊はまずいな…」と不安を覚えました。熊に出くわしたときの対処法をしっかりと頭に入れて山道に入っていました。

標高 494 メートル、山頂までは約 2 キロ。山頂には、ここが山頂であることを示す石標があるだけで、とくに雨乞いが行われていた痕跡や採石場の痕跡などは見あたりません。山頂から分かれているけもの道のような荒れた山道には、「立入禁止」の看板がありました。「肝心なものごとはいつも人の目には触れないところにひっそりと佇んでいるものだ」と考え、私は早々に下山することにしました。

ハイキングコース入口近くに住むおばあさんの話

雷電山の山頂まで行ったものの、これといった情報が得られなかったことを残念に思いながら山を下りてくると、峠道の途中に民家があるのが目に入りました。家の縁側に白髪のおばあさん(80 歳位)がいます。私は早速事情を話し、そのおばあさんに雷電山のことを聞いてみることにしました。

私：この辺では「雷電山が鳴ると雨が降る」とよく言いますか？

おばあさん：この辺の人はよく言うね。

私：昔、雷電山は雨乞いをする山だったと聞いたのですが。

おばあさん：私はもともとこの辺の人間じゃない（嫁に来た）から昔のことはわからないけど、おじいさんなら知ってたかもね。「雷電山が鳴る

と大夕立がくる」とはよく言うね。それから子どもには、あそこ（雷電山）は穴だらけで危ないから行っちゃだめだ、とよく言っていたよ。

私：雷電山には昔、二俣尾駅まで石灰を運ぶためのトロッコがあったみたいですね。

おばあさん：そう。昔は石灰をとっていたからあそこは裸山だった。今みたいに木は生えてなかったんだよ。今は時代にあわせて杉を植えて、木がいっぱい生えているけどね。

突然の訪問にもかかわらず、おばあさんは快く私の質問に答えてくれました。「よそから嫁に来た」こともあり、土地の事情にはあまり詳しくないということでしたが、「雷電山が鳴ると雨が降る」ということわざは知っており、このことわざが今もなお青梅市で暮らす人々の中に「生きたことば」として存在していることを確認することができました。

コラム8 「郷土かるた」創り—各地のいろはかるた創り



「いろはかるた」こそが誰もがよく知っている「郷土のことわざ」「地方のことわざ」です。「いろはかるた」創りは全国で企画され、実践されています。例えば、郷土の名所旧跡や郷土の名産・名物などを詠み込んだもの、あるいは「防災いろはかるた」、「健康いろはかるた」、「教訓いろはかるた」など各種多数あります。

その他「方言いろはかるた」や、いわゆる江戸いろはかるたの「大棒かるた」などの絵札に漫画やアニメのキャラクターを描いた子供向けのかるたが市販されています。

北海道弁や津軽弁などの「方言いろはかるた」も全国で知られるようになってきましたが、1947年(昭和年)発行の「上毛かるた」は代表的な「郷土かるた」です。

■上毛かるたの読み札(一部)

い：伊香保温泉日本の名湯／ろ：老農船津傳次平／は：花山公園つつじの名所／に：日本で最初の富岡製糸／ほ：誇る文豪田山花袋／へ：平和の使い新島穰／と：利根は坂東一の川…

8. 「郷土のことわざ」テキストとコンテキストの問題

「郷土のことわざ」の多くは、既成のことわざをアレンジしたものがほとんどであり、地域で創られたオリジナルのことわざなどは、ほとんどないに等しいという意見もあります。しかしながら、たとえば現代の若者たちが「ヤバイ」というひとつのことばを、実に様々な場面において、様々な感情を表わすことばとして、また多様な意味を含むことばとして使っているように、ことばの意味は未来永劫、固定されるものではありません。

テキスト(文章)とコンテキスト(文脈・背景)の問題を考えた場合、ことわざというテキストには、当然、その文脈・背景・状況・言葉で書かれていない意味等のコンテキストが含まれます。「既成のことわざ」も「郷土のことわざ」も、テキストとコンテキストを含みますが、辞書を引けばその意味が書かれている「既成のことわざ」よりも、その地域の歴史や文化を知らなければ意味がわかりづらい「郷土のことわざ」は、よりコンテキストの理解が必要なことばであると言えます。テキストが同じだからといって、そのことばが包括するコンテキストが同じであるとは限らないからです。

消えゆく「郷土のことわざ」を収集していくことは、とても大切なことです。しかしながら、収集されたことわざのテキストにだけ目を向けるのではなく、そのことばの背景、つまりコンテキストを掘り下げていかなければ、とくに「郷土のことわざ」のおもしろさはわからないでしょう。逆に言えば、コンテキストを掘り下げていくことで「郷土のことわざ」はとても魅力的になるのです。

結びにかえて―「ことわざ社会心理学」の可能性

2015年11月24日、山梨県北都留郡小菅村にて、小菅村高齢者学級編『小菅の民話と俚諺』昭和59年刊に掲載されている「俚諺・言い伝え」の30年後についてインタビューする、「ことわざ社会心理学」の調査を実施しました。

わたしは穴田先生の「ことわざ社会心理学」の調査に同行し、村に住む高齢者の方々にかつて村で使われていたとされることわざを知っているか、あるいは使ったことがあるかを思い出してもらおうという調査を行いました。その際、参加された皆さんはことわざを思い出しながらそれと同時に昔のことを思い出し、一応に笑顔で昔話に花を咲かせており、この姿を見ながらわたしは、ことわざ調査の社会的な可能性について強く思うことができました。それは、ことわざ調査を行うことで「回想法」と同じ効果が得られるのではないかとことです。



回想法とは高齢者に対する心理療法の一つで、昔の思い出を蘇らせることで精神的な安定をはかり、認知症の進行を遅らせる心理療法です。今後この回想法としてのことわざ調査ということをしかりと体系化していくことが、ことわざを用いた社会心理学研究、そして社会貢献の可能性を広げることにつながると考えています。(川島 洋)



第5章 理論と実証との融合

—社会科学としてのことわざ研究の 学際的な位置づけと手法について—

中尾 暢見

1. ことわざを科学的に検証することの難しさ

社会科学の一領域である社会学の創始者 A. コントが『実証哲学講義』第4巻において社会学という用語と造語したのが 1839 年であり、それを創始年とするならば社会学の歴史は 200 年にも満たないということになる。地球の歴史、人類の歴史と比すればなんと短いことであろうか。

19 世紀の世界は自然科学万能主義の時代であり、社会学では自然科学の模倣をすればよしという風潮が主流であったが、それは適切ではないということが実証されてきた過程を社会学史では学ぶ。

同様に研究手法では、学説／理論研究か、実証（調査）研究か、そのどちらかを基軸にして研究を進める手法から、いまでは実証研究という土台のうえに理論が成り立つという考え方となり、どちらかをするのではなく両方する、両方できるというのが当たり前の時代になっている。掘り下げると実証研究は、量的調査と質的調査とに大別されるが、一昔前までは量的調査と質的調査とは相容れず、どちらか1つの調査手法を得手とする研究者が多かったのだが、今では量的調査と質的調査とは同時並行で行うという考え方が主流となってきた。とはいえ、その両方を同時並行で実践している研究者は少なく、大学の授業でも「両方をするんですよ」と教えるのは比較的近年になってからである。

科学は再現性が重視される。社会現象において再現性を検証するなど不可能だという見解を示す研究者が多くいる。社会学で提示されるものは、アメリカ社会学のドンと言われるタルコット・パーソンズもそうであるが「学説」止まりである。仮説命題を検証しきれた段階で「理論」と呼ばれるが、だれも再現性を担保できていない。20 世紀、唯一、学説を理論にまで昇化させることができたのは、アメリカ人のグレン・H・エルダーJr.によるライフコース理論のみである。四半世紀に及ぶ学説の比較検証過程は圧巻である。

このような文脈と背景からしても分かるとおり、ことわざと科学は相容れないという見解が常識であった。ことわざの言い回しによる音を音霊として楽しみ、ことわざ自体を言霊として味わい、日常生活の中で慣れ親しむことわざは、いつの時代、どこの地域社会で、どこの誰がどのような状況下で使い始めたのかす

ら分からないものがあり、ことばの概念定義すら残っていないものが多く、検証も再現性を担保することも不可能であり、したがって科学的研究は無理だという捉え方をされてきた。

2. 社会科学としてのことわざ研究に着手した時期

穴田理事長は社会科学としてのことわざ研究は可能であり、その一領域を確立しようと考えておられた。社会学および学際研究領域に属するライフコース研究を専門とする私はその構想をお伺いした時に、ことわざの実証研究は可能であるし、社会科学の一領域になれると理事長のご意見に賛同した。私は「大学でデータ分析を教えており社会調査士資格科目を担当している専門社会調査士資格を有する私がそういうのだから間違いない、ただ誰もやったことがないのが事実ですよ」と申し上げた。穴田理事長は「やっぱ出来るよね。中尾さんにはできるよね。ことわざ研究をされている方々は全員不可能だって言うけど、僕は出来るって確信しているんだ。中尾さんさ、簡単に〈できる〉って言うけど、**今、僕らは誰もやってないことをやろうとしているんだよ。**」と苦笑しながら仰るので「私はいつも前例がないって言われ続けて来ましたよ。我らチームが前例一号になるだけですよね。穴田先生がいつも仰る通り、大抵は一号って変人と言われる運命ですよ」と言えば穴田理事長は「(周囲の評価を) 気にしたことないでしょ」と笑っておられた。

この会話は私が博士号を申請する前の時期のことであった。博士論文は、明治大学へ論文博士として申請することが協議され、普段の仕事があるために準備期間を1年間設けた後で、もう1年先延ばしにしたいと申し出た時に穴田理事長は「もう待てない、今だ、今しかない」ということで2014年度に申請する時期が決まりました。

その間、上記の社会科学としてのことわざ研究の話題が出て「それどころじゃない、博士論文をやらないと未だ書いている途中だから」と泣き言を言えば、穴田理事長は「同時にできるよ」と笑顔で言うので、私は「無理むり無理むりい、ぜったい無理〜!」とお返事しますと穴田理事長は「無理というから無理なんだ。できると言えばできるんです。そういうネガティブなことばは発しない方が良く。私でよろしければさせていただきますと言える器になりなさい」とよく言われたものである。こうして計画の延期が続いていた。

穴田理事長はやろうとしていたが、延期させてしまったのは私が原因であったのは確かだ。この時にもっと協議を重ねておくべきであったと悔やまれる。穴田理事長は、ある程度までくると「後はよろしく」と一言だけ言って細かく

言わないことが多い。私はいつも「何をどこまでやりますか。どなたへどこまでするのですか。具体的にここはどうする、あそこはどうすると伝えて下さい」と聞き返してもノー・リアクションで任されることが常であった。間違ったら叱られ正されるだろうと割り切り、ご意向を推察しながら進めていたが叱られたことはなかった。

2015年3月に論文博士号を取得して私はやっと落ち着いて社会科学としてのことわざ研究に従事できる状況が整い、どのような手法を用いて検証していくのかを協議する段階に移行できた。

3. ことわざデータベースの作成

穴田理事長は若い頃から日本全国を訪ねて聞き取り調査を実施されていた。それと同時に全国各地の図書館を訪問してその地域に埋蔵されていることわざ資料を収集してきた。地域に埋蔵されていることわざは、ことわざと銘打った図書名が付いていることは殆どない。郷土（その地域）のことわざは、当該県の県史の中に記載されていたり、公刊されていない地元の地域資料の中に記載されていることもあれば、その地域を紹介する図書の中に記載されていることが多い。地元の図書館司書の方、各地域のとりまとめ役の方、高齢者など物知りな方から聞き取り調査していく手法で、地味に時間と手間はかかるが確実に資料に辿り付ける調査方法を実施しており、膨大な量が蓄積していた。

それを私が入力して、ことば／ことわざをテキストデータへと変換する。そのうえで、そのテキスト（文字）を計量分析すれば、質的なデータを量的なデータへと変換可能であり、計量分析が可能であるというのが我々の計画であり、すでに入力を完了させている。巻末にことわざリスト全体像を公開した。

そのデータをどのように活用していくのかを協議する段階で、穴田理事長の体調が優れなくなり、またコロナ禍も重なり会って協議することが難しくなっていた。もはや研究のことよりも理事長のご健康回復が最たる願いであった。理事長からのメール返信が遅くなり、届いた時には「回復したら三福寺へ一緒に行きましょう」と何度もお誘いを頂いていたが叶わなかった（後日、御霊を三福寺へ必ずお連れします）。

2022年1月に私が日本ことわざ文化学会へ長野調査チームのサポート内容を寄稿する時に、そのデータの使用許可を穴田理事長へ求めると許可を頂けたのと同時にこの時も「後はよろしく」と言われたことばの重みを噛みしめている。学会では社会科学としてのことわざ研究をどのようにして科学的検証の過程を経るのか、その研究手法の一部を解説した内容を寄稿している。

4. 社会科学としてのことわざ研究成果

社会科学としてのことわざ研究への取り組みによる成果は、私からは以下の3つの成果を示したい。①と②の実質的な編集はすべて私が行った。

- ①NPO 法人 郷土のことわざネットワーク・ことネット 2016年8月20日
『ことわざを楽しく学ぼう、社会・文化・人生』人間の科学新社
- ②NPO 法人 郷土のことわざネットワーク・ことネット 2017年5月30日
『山梨県北都留郡小菅村のことわざ風土記(民俗誌)』NPO 法人 郷土のことわざネットワーク・ことネット (<http://koto-net.com/> よりダウンロード)
- ③中尾暢見 2022年2月4日「長野のことわざ研究手法ー社会科学としてのことわざ研究ー」『HP ことわざ研究/談話室 #11』日本ことわざ文化学会
https://www.kotowaza-bunka.org/_files/ugd/a07909_e9cc06c0ef9a473993f202bd3c300c2a.pdf

社会科学としてのことわざ研究への取り組みは、2015年8月より開始した山梨県の小菅村調査の時から科学的手法による調査研究に着手している。小菅村調査では文献調査、量的調査、質的調査の手法を取り入れた調査手法をとり、再現性を可能にした科学的な手法を実践しており、成功している事実がある。穴田理事長が目指した社会科学としてのことわざ研究は小菅村調査で成し遂げていると考えている。後は周囲が評価できるか否かである。穴田理事長は次は長野調査、その次はことわざテキスト分析と次々と成果が繰り出す予定であった。道半ばではあったが、当初の目的は実現はさせたのではないだろうか。

調査手法の1つである質的調査では、世帯調査の手法で聞き取り調査を実施しており、プロ技に長けているフィールドワーク専門家の立柳聡理事から指導を受けた。聞き取り調査は一世帯あたり2時間と聞き取り調査の時間として最長クラスである時間のなか、質問項目は頭の中で構造化されており、それを調査対象者の受け答えや状況に応じて臨機応変に質問項目を入れ替えたり追加の質問項目をさりげなく入れたりしながら無駄なく確実に質的データを収集する手法である。調査対象者を緊張させたり圧が感じることがないように和やかな雰囲気づくりは絶妙なプロ技であり、また余談などで話が脇道に逸れると2時間枠を超えてしまうために話す内容量は緻密に計算され細心の注意を払って行われるものである。この調査技量は教科書を読めば分かるものでもない。ただただ長年の豊富な経験によってのみ修得することができるプロ技である。穴田理事長も一人でも多くのメンバーが立柳理事より指導を受けプロ技を後世に引

き継いで欲しいと願っておられた。

この質的調査に従事する研究者は調査前から何度も現地へ足を運び、予備調査を行い情報収集を行うと共に、自治体との協議や自治会長へのご挨拶に始まり、実際の聞き取り調査に入る前までに膨大な作業を要する。また入手できたデータを分析データに変換して分析するまでも膨大な作業量を要する。1本の研究論文になるまでに途方もない手間暇がかかる。統計分析のようにSPSSを使ってカチカチポンでアウトプットされたものをサラサラと説明書きを添えて作成される1本の論文とは重みが違う。もちろん分析に至る前までにそれなりの手順を経ることは承知したうえでの見解である。

ことネットではさまざまな分野で活躍する超凄技を持つ専門家集団であるため、調査でも他メンバーとの同行ができるとシナジー効果が大きい。このような機会は言うまでも無く穴田理事長の取り計らいで実現したものである。

5. 創作ことわざとことわざ教科書

穴田理事長が取り組んでこられたことわざ研究への取り組みを最も深く理解されたうえで忠実に実践されてこられたのは川島理事である。穴田理事長は創作ことわざを学生や高齢者学級等で実践する活動を熱心に実践してこられた。ことばは生きものであり、ことわざ研究は過去の蓄積を発掘するに留まらず、今も新たに生まれ続けているのではないか。それを収集して記録に残すことは今を生きる人がなすべき課題であると仰っておられた。それゆえ創作ことわざ作業がとても大切であるという価値観であり、その作業を忠実に実践されてきたのが川島理事である。

それと同時にベストセラーになる「ことわざ教科書」を作りたいと笑顔で仰っておられた。川島理事が執筆担当された第3章では「ことわざ市民講座」にて創作ことわざを実践されている様子、および第4章では「ことわざ教科書」の内容を体現して下さっており、穴田理事長の息づかいを川島理事から感じ取ることができる。穴田理事長からはよく「プロに上手いと言うな、失礼じゃないか」と言われてきたが、川島理事の創作ことわざづくりの解説、穴田理事長が伝えたかったことわざ教科書の内容記載は、やはり上手くてすごい。お見事としか言えない、すみません。機会に恵まれれば、川島理事の声で実際に解説されている内容を聞くことができればより一層伝わることであろう。

第6章 郷土のことわざ調査

穴田 義孝、中尾 暢見

2014年11月末にNPOことネットを設立して以降、郷土のことわざ調査を実施してきた。日本は島国といえども、都市と地方、東北型と西南型、海側／山側／平野部、北海道／本州／四国／九州という区分ごとに分けても、地域差がみられるのと同時に郷土色が豊かなことは既知の事実である。

音と文字として存在する「ことば／ことわざ」は、その地域／郷土で生活する中で生活の知恵や教訓として使用されてきたものである。社会構造や生活様式が変化すれば、生活の中で使用される「ことば／ことわざ」も変化する。やがて特定のことばは使用されなくなり死語となりゆく。おじいちゃん、おばあちゃんの智恵袋は、若い世代では活用される場面もなくなり、やがて忘れ去られ郷土の中に埋蔵されてゆく。埋蔵された「ことば／ことわざ」は記録されている場合もあるが、多くが消失していく傾向にある。

学際研究領域に属するNPOことネット会員には、調査の専門家が複数在籍しており現地調査によって埋蔵されていることわざの発掘調査に携わってきた。小菅村調査、八丈島調査、長野県調査は立柳聡理事を中心にして現在も同時並行で継続されている。

1. 山梨県北都留郡小菅村のことわざ調査

NPOことネットとして最初に着手したフィールドワークは、山梨県北都留郡小菅村のことわざ調査である。フィールドワークは以下の日程で進行しており、2016年以降も立柳理事が調査を継続している。

表1：小菅村フィールドワークの日程

日程	調査内容
2015年8月から9月	予備調査
2015年10月から11月	小菅村の高齢者学級での聞き取り調査
2015年9月から継続中	小永田地区での社会構造調査
2016年1月23日	山梨県北都留郡小菅村社会調査中間報告会 ①中尾暢見「社会学の視点からみた小菅村とことわざ —社会科学としてのことわざ研究の試み—」 ②立柳 聡「小永田地区の社会構造」 ③穴田義孝「小菅村高齢者学級編『小菅の民話，俚諺』の 30年後(『小菅村のことわざ風土記(民俗誌)』)」
2016年2月	ことわざ・方言の聞き取り調査

小菅村調査研究の成果は**2016年1月23日**に**中間報告会**を実施しており、その後**2016年8月**には**図書①**を刊行しており、**2017年5月**には**ことネットホームページ**において誰でも閲覧／ダウンロードすることができる**調査成果②**を公開している。

①NPO 法人 郷土のことわざネットワーク・ことネット 2016.8.20.『ことわざを楽しく学ぼう、社会・文化・人生—ことわざの魅力と威力の再発見—』人間の科学新社

☆出版記念パーティは**2016年10月22日**に**明治大学のカフェ パンセ**にて開催した。

②NPO 法人 郷土のことわざネットワーク・ことネット、中尾暢見編、2017.5.30.『山梨県北都留郡小菅村のことわざ風土記（民俗誌）』NPO 法人 郷土のことわざネットワーク・ことネット

(<http://www.koto-net.com/img/file1.pdf>)

『ことわざを楽しく学ぼう、社会・文化・人生』の目次

ii	
	ことわざを楽しく学ぼう、社会・文化・人生——ことわざの魅力と威力の再発見／目次
	巻頭言 …………… 川島洋 3
	はじめに …………… 穴田義孝 5
	序論 プロローグ・ことわざの魅力と威力…………… 17
	A. 「ことわざエピソード」——やってみませんか…………… 21
	B. 人生に関わることは、ことわざエピソード…………… 25
	1. 青大将と白蛇、そして父（川島洋）…………… 26
	2. ムカデの支度、ムカデのくみかけ（大田朋子）…………… 27
	3. 講談とことわざ（宝井一凜）…………… 28
	4. あうんの呼吸（増田克己）…………… 29
	5. 縁起にこだわった祖母の言葉（立柳喜美子）…………… 30
	6. 人と同じことをやっていると儲からん（堀谷尚正）…………… 31
	7. 猫に小判（中里隆）…………… 32
	8. 長いものには巻かれろ（山下信也）…………… 33
	9. 誰も見えていなくても、神様はみているよ（立柳聡）…………… 34
	10. 人は必要とされることを必要とする存在（山田千香子）…………… 35
	11. いつの間にか（穴田義孝）…………… 36



写真1：大嶺荘と周辺

目次	頁
12 精神は人のあなからず(池井 雄史)	37
13 二葉の想ひーA Harsh Dream(中尾 暢見)	38
14 日常と人生の狭間で、気づかせてくれる旅(日下部 隆佳)	39
15 ぬきを思う(ことわざ)について(藤野 一忠)	40
I部 「ことわざ」の歴史を辿る	43
A 「ことわざ」の起源／「ことわざ」の再発見.....	45
1 「物語(ものごた)の「もの」の可塑性と「ことわざ」の「もの」の固定.....	48
2 多様な類句と反句は日本人の社会的行動原理の「DNA」である。矛盾両義的言説合を裏返す.....	52
3 「ことわざ」(ことわざ)「ことわざ」(ことわざ)「ことわざ」(ことわざ).....	56
4 発想の転換／「ことわざ」は「慣習(ことわざ)」である.....	60
1 「決意の「ことわざ」概念」と「広義の「ことわざ」概念」.....	61
2 「ことわざ」を用いた名も知れぬ話か.....	66
3 分析シートとしての「ことわざ」.....	71
4 「創作シート」から「へいろは」は「ことわざ」創り、意見・態度調査法)へ.....	73
5 「自分探しの「へいろは」は「ことわざ」創り」.....	83
6 「慣習(ことわざ)創り」のもう一つの「アイディア」や「みませんか」.....	83
C 「ことわざ」／その魅力と威力	87
1 「郷土(政経・地方)の「ことわざ」の秘めたる魅力と威力.....	87
2 「小さな地域の「ことわざ」風土記(民俗誌)」の魅力と威力.....	92
3 県民の「古義的・伝承」ことわざによる社会・学術的分析.....	96
D NPO法人郷土のことわざネットワーク・ことわざ・郷土・郷民、NPO(「ことわざ」)の概要.....	101
1 「郷土のことわざ」にみる地域の生活文化・ネットワークの設立とその事業.....	101
2 「小さな地域の「ことわざ」風土記」.....	104
3 NPO法人郷土のことわざネットワーク・ことわざ・郷土への思い／全国参加のことわざ.....	106
I部 「郷土(地域)の「ことわざ」と「小さな地域の「ことわざ」風土記(民俗誌)」	109
A 「郷土(郷土)」にみる「郷土のことわざ」の歴史、記録.....	111
1 「郷土のことわざ」は地域の生活文化に根差した「生活の知恵の宝庫」であり、「隠れた地域生活文化遺産」.....	111
2 「郷土史(郷土)」にみる典型的「郷土(地域・地方)区」のことわざの記述事例.....	112
【事例1】「二葉、いなわらわ」ー長野県藤原1町877「民間郷土史 民俗編 第一巻(三) 東信地方 ことわざ伝承」社団法人長野県史(行方).....	113
【事例2】県立文化財保護研究会編1984「福島の四季」第 巻(青田県高松町).....	115
【事例3】山崎賢太郎「南信州の歴史民俗」／野中太氣編著1991「昭和6生」(南信郷土研究 第3号)南信郷土研究会.....	116
【事例4】なにわいろはかるた選句と解説／清水路子編1985「昭和6生」(なにわいろはかるた全集)なにわいろはのついでい事業局.....	119

目次	頁
3 「郷土のことわざ」の分類と「郷土の生活文化」(中尾 暢見).....	130
【事例1】「女気のことわざ」大野英史社会学雑誌の公開。発行「自然界のユートピア」発行を不評よく使われる天気情報.....	132
B 「小さな地域の「ことわざ」風土記(民俗誌)」	132
【事例6】立石利行1991「歌3巻」(くらしの中で「ことわざ」)「ものごた」の「休戦から」開山の「ことわざ」(中尾).....	135
【事例7】田野正幸「郷土の歴史」1981「昭和56年」(小笠原郷土誌)名室出版.....	139
【事例8】村上和雄1954「昭和29年」(百たふ伝承)上尾民俗表紙「社会福祉法人高知県社会福祉協議会」.....	139
【事例9】相模山町老人クラブ組合編1990「平成2年」(ことわざ)「語りつぐ 相模山老人の知恵」発行長谷川昌雄.....	134
【事例10】五十嵐孝夫1999「平成17年」(増刊 見聞 三河地方の誇り).....	144
【事例11】小野村史1997「京土北郷の耳字田 発行日誌」山崎賢太郎1997「京土北郷2675」発行.....	148
II部 「山崎賢太郎郷土小菅村の「ことわざ」風土記(民俗誌)」中間報告	150
A インタビュー調査と小菅村訪問.....	157
1 調査の経緯と目的、そしてNPO(ことわざ)の活動.....	157
2 インタビューの経緯.....	158
3 小菅村訪問.....	159
【例1】山崎賢太郎郷土小菅村の位置.....	161
1 「小菅の民間 歴史」のまとめと編集.....	162
2 「小菅の民間 歴史」の経緯.....	164
3 「小菅の民間 歴史」から「小菅のことわざ」風土記(民俗誌)作成のための資料.....	176
4 「ことわざ」整理のための「教員資料」.....	180
C 社会学・社会学の視点からのメソダラフ(研究論文)	193
1 社会学としての「ことわざ」研究の試みー小菅村の事例研究.....	193
2 社会学としての「ことわざ」研究の試みー小菅村の事例研究.....	193
3 社会学としての「ことわざ」研究の試みー小菅村の事例研究.....	193
4 社会学としての「ことわざ」研究の試みー小菅村の事例研究.....	193
IV部 社会学としての「ことわざ」研究の可能性	219
1 社会学としての「ことわざ」研究の可能性.....	219
2 社会学としての「ことわざ」研究の可能性.....	219
3 社会学としての「ことわざ」研究の可能性.....	219
4 社会学としての「ことわざ」研究の可能性.....	219
【調査者紹介】.....	219



写真2：小菅村歴史資料の展示

『山梨県北都留郡小菅村のことわざ風土記（民俗誌）』の目次

山梨県北都留郡小菅村のことわざ風土記（民俗誌）

目 次

はじめに 立柳 聡 (02)

第1章 小菅村フィールドワーク 中尾暢見 (04)

第2章 「小菅村（小さな地域）のことわざ風土記（民俗誌）」を創る・穴田義孝 (18)

第3章 小菅村小永田の民俗学的調査報告 立柳 聡 (53)

第4章 小菅村のことわざ社会学的調査報告 中尾暢見 (85)

第5章 小菅村の印象・小菅村を訪ねて・小菅村に思う／随筆

 第1節 「トンネルと橋」一人の移動を加速させる装置
 —松姫トンネルの開通と新たな人の移動— 山田千香子 (98)

 第2節 小菅村を訪ねて 近藤美保 (100)

 第3節 学問なき経験は、経験なき学問に勝る 川島 洋 (101)

 第4節 小菅村に埋め込まれた資源を思う 塩谷尚正 (102)

第6章 「ことわざ質問票」概論 穴田義孝 (103)

おわりに—小菅村でのことわざの聞き取り調査— 中尾暢見 (113)

執筆者紹介 (115)



写真3：バス時刻表



写真4：神事



写真5：虫歯が治るお地蔵さん

2. 八丈島のことわざ調査

八丈島のことわざ調査は、立柳聡理事が研究されているフィールドであり、穴田理事長へことわざ調査のお誘いがあったことに始まる。2017年に穴田理事長は八丈島にて予備調査と聞き取り調査を実施した。基礎資料も収集しており、そのうちの郷土ことわざ資料として文献収集もされていた。しかし、コロナ禍と理事長のご体調が優れない状況が続き、研究内容が公になることは無いままであった。

穴田理事長が八丈島で入手した資料の1つに以下の文献がある。

奥山光洋『伝承農作業暦(言い伝え)調査事業報告書「平成4年度東京都島しょ振興公社人材育成事業」』八丈島アグリビジネス研究会

発行年は不詳だが、1992年度事業であるため、1992年か1993年であろうと推察できる。奥山光洋氏は八丈島アグリビジネス研究会の会長と記載されている。穴田理事長は、分析データとするために民俗学者である西川桂史氏に入力を依頼しており、その記録を私が保管してあったものだ。

同報告書には、八丈島の気候や風土に即した農作物を栽培するうえでの伝承内容が丁寧に記録されている。ことば／ことわざを列記するだけでなく、1つ1つがどのような内容で、どのような場面で使用され、どのような生活の知恵、教訓を含蓄しているのかをまとめた貴重な資料である。他の地域ではなく、八丈島ならではの郷土色豊かな報告書である。報告書には、以下のことわざが含まれている。一部分のみ紹介させて頂く。

『青ヶ島が見えると雨が降る』

『山近く見えれば雨』

『彼岸花早く咲けばサトイモ不作』

『サトイモの花が咲くのは豊年のきざし』

『サトイモに花がつけばイモ凶作』

『五寸の土にて一尺のダイコン、一尺の土にて五寸のニンジン、ゴボウ』

『ダイコンの根が長い年は寒い』

『春の竹で籠を編むな』

『七度耕せば肥いらず』

『蚊多き歳は豊年』

『三隣亡と卯の日には種まくな』…というのが天気をみて種まきした方がよい

『三十過ぎの男への意見』・・・効果がないばかりか関係悪化することもある
『神沢は西風の当たらない最高の所』
『最高の畑、末吉オオタンチョ』
『ともぐね』・・・八丈島では農地の4割を防風林に当てると良いという生活の知恵
『失敗が経験になる』
『昔の篤農家は他人に教えない』

なお、穴田理事長は、八丈島にて聞き取り調査も実施していたのだが、その内容も埋蔵されたままになるのであろう。

3. 長野県のことわざ調査

(1) 長野県小田切地区のことわざ調査の実施過程

ことネットで事業展開している長野小田切地区のことわざ調査は、私が日本ことわざ文化学会へ寄稿しているので以下を参照されたい。

中尾暢見 2022.2.4. 「長野のことわざ研究手法—社会科学としてのことわざ研究—」『HP ことわざ研究/談話室 #11』 pp.1-22., 日本ことわざ文化学会 ([a07909_e9cc06c0ef9a473993f202bd3c300c2a.pdf](https://kotowaza-bunka.org/a07909_e9cc06c0ef9a473993f202bd3c300c2a.pdf) (kotowaza-bunka.org))



写真1：小田切地区風景 写真提供：西川桂史氏

長野県小田切地区／小野平地区／小湊地区／地藏平地区／中組地区／湯山地区のことわざ調査は2023年3月時点も継続中である。第1次現地調査は2018年8月、第2次と第3次現地調査は2018年9月に実施しており、第2次現地

調査までに延べ約 10 名のことネットメンバーが現地入りしている。先行研究はずっと以前より着手されたきたが、現地調査に先立ち、2018 年 6 月には配票調査も実施している。

2019 年末から COVID-19 の影響により、現地入りすることが憚られる状況となり自粛期間が続いた。第 2 次調査以降も立柳聡理事をリーダーとして少人数で個別テーマを調査すべく調査研究を継続し、2022 年 11 月には立柳聡理事、藤村美織理事が新たに現地入りをしている。

ことネットのホームページに掲載している長野調査の様子を以下の掲載する。



写真 2 : 長野調査の様子 1



写真 3 : 長野調査の様子 2

出典：NPO ことネット「活動報告 ことネット／NPO 法人 郷土のことわざネットワーク」参照日：2022 年 1 月 23 日、<http://koto-net.com/activity.html>

(2) 長野県のことわざ調査の調査票

長野県小田切地区のことわざ調査の調査票は、次頁以降の通りである。調査票は穴田理事長が作成したもので長年にわたり調整を重ねてきた版である。この調査票の特徴は、単に知っていることわざを聞き取るのではなく、ことば／ことわざが日常生活のどのような文脈背景から使用されてきたのかを掘り下げて聞き取ることに主眼がおかれている。加えて、回答者が回答しやすいように場面設定をして質問をしている点にも特徴がある。

聞き取り調査の質問に仕方で初心者がよくしてしまう NG 質問は「知っていることわざを教えてください」という問いかけである。単刀直入、ド・ストレートな質問ではあるが、質問された側は返答に窮することが常である。高学歴かつご自身の生活を構造的かつ客観視できている対象者である場合は、こういうことわざがありますよと回答ができる。経験上、大卒、大学院卒の方は、その場で回答できる傾向がみられる。しかし殆どの方は「分からない」「知らないな～」と答える。質問する側、質問の仕方が悪いのである。質問をする場合は、「このようば場面ではどのような表現、言い方をしますか」と具体的に冠婚葬祭、春夏秋冬の行事を設定して個別に言い回しを変えて質問すると良い。農業など仕事の場面、味噌や漬物などの食品加工の場面など、その地域（郷土）の特徴を事前調査した上で質問を予め準備することが求められる。穴田理事長が改訂を重ねて作成した調査票は工夫が凝らされていることがわかる。



写真4：聞き取り調査の様子

写真提供：西川桂史氏

(3) 「郷土（暮らしの中）のことは・ことわざ」収集調査票

穴田理事長が改訂を重ねて作成した調査票は以下の通りである。

(1)「郷土(暮らしの中)のことは・ことわざ」収集調査票	NO.1
<p>☆ご挨拶とお願い☆</p> <p>「郷土(暮らしの中)のことは・ことわざ」は元々何時か何処かで名も知れぬ誰かに創られ、地域の皆様に共感・了解され、長い間共有され、人から人へ伝えられ(口頭伝承され)てきたものです。そして、今書き留めておかないとやがて消えていくのみで再生は不可能です。</p> <p>その内容は日常生活のあらゆる側面に言及しており、心理の機微を突き、生活の知恵をあらわし、適切な言い回しで、要領よく短縮された「ことは・ことわざ」となっています。各地で呼び方が異なり、たとえば「口頭伝承・言い伝え・ことわざ(俚諺)・喩え・俗信・迷信・まじない」などといわれています。</p> <p>私たちは貴地域に伝えられてきた、さまざまに呼ばれる「ことは・ことわざ」をできる限り思い出し、教えていただき、それらに内包する日常生活における暗黙のルールや生活の知恵を掘り起こし、『長野市小田切のことは風土記(民俗誌)』を編纂していきたいと希望しております。最終的には座談会などで皆様と相談されながら「郷土(暮らしの中)のことは・ことわざ」を教えていただきたいと存じます。</p> <p>どうぞ、ご協力をお願い申し上げます。</p> <p style="text-align: right;">2018年7月吉日</p> <p style="text-align: center;">NPO 郷土のことはネットワーク・ことネット(通称:ことネット)</p> <p>連絡先: ホームページ http://koto-net.com/ 穴田 Eメール: anada@meiji.ac.jp</p>	
<p>☆質問☆</p> <p>皆様方各自が日々の暮らしの中でこれまで用いてきた、伝えられてきた、そして今でも忘れられない、心に染みる、あるいは感動した「ことわざ(俚諺)・言い伝え・俗信・迷信・まじない」といわれる「ことは・ことわざ」を項目(領域)ごとに思い出して教えて(記述して)ください。出来るだけ日ごろ使われていることば(表現・言い方)を教えてください。 ※各項目(領域)で、句が思いつかない場合は次に進んでください。</p>	
<p>★記入に際しての留意点★</p> <p>○この収集調査はお一人でご記入いただく方法だけではなく、周囲の皆様のだなたとでも相談しながら「ことは・ことわざ」を思い出し、教えて(記述して)いただく方法も有効です。初めから小グループを作って、グループごとに複数の方と相談しながらご記入いただく方法もあります。ご自由にお選びください。</p> <p>○ある段階で、データを整理した後、座談会でより多くの句を導き出したいと存じます。</p>	
<p>★参考と解説・説明のお願い★</p> <p>思い出していただく手がかりとして次のような項目(領域)と事例。※「キーワード」を参考にしてください。また、意味が分かり難いと思われるものには簡単に結構ですので解説・説明をお願いいたします。</p> <p>①天気、気候、地形、風向き、地形、季節などに関する「ことは・ことわざ」(天気ことわざ)</p> <p>事例:「朝の入れ風はその日のうちに雨となる」「夕焼けは暗れの前兆」「夜カラスが鳴くと火元を気を付ける」 「山に行くとき朝露のない日は雨具を持って、かならず降る」「家の中の石や味噌樽が乾くと暗れ」 「高山に早く雪ある年は大雪なし」「カエルが鳴くと雨」「猫が顔を洗うと雨となる」「夜鷹が夜鳴くと天気」</p>	
<p>▲山、川、木、林、森、海、平地、平野などに関連した「ことは・ことわざ」はありませんか。</p>	

⑨台風、水害、干ばつ、害虫、地震、津波、噴火などの予兆や防災に関する「ことば・ことわざ」

事例：「川が汚れると大雨の兆し」「台風や大雨の後川の水が引くと、まだ降り足りないのだ」
 「大木を川に流し落とすと大雨が降る」「谷間の沢蟹が山に移動すると大きな嵐となる」
 「ネズミが出ない年は火早い」「つばめが低いところに巣を作ると台風が来る」「津波でんでんこ」

★地域の皆さんで「い、ろ、は…」順にそれぞれを頭文字として短句を削る「いろは防災ことわざ」を制作してみませんか。

⑩農業や漁業、林業、商業、鉱業他の生業、作物、あるいは生業層に関する「ことば・ことわざ」

事例：「大根や菜をまく時、4のつく日、9のつく日は死葉、苦葉といって忌み、まくことをさける」
 「旧正月14日、月の山ざわをはなれる時の高低によって豊凶を占う」「海に漁あれば陸は凶作」
 「杉の木、松などの植林は、春土用は土が乾くので植えぬこと」「朝霧の話をするとう恥す」

※季節(春夏秋冬)ごとに思い浮かべていただけませんか。

⑪衣食住、健康・保健、病気などの日常生活に関する「ことば・ことわざ」や生活信条

事例：「馬子にも衣装」「出針朝針」「赤飯(おこわ)にお茶をかけて食べると大風が吹く」「医者より養生」
 「豆を炒って神様にあげて、天気良し」「米一粒汗一粒」「食べてすぐ寝ると牛になる」
 「親が死んでも食休み」「草ヤネは火早い」「飯屋に乗るな」「何処で移らすも一生」「柱に釘打つな」
 「一に看病二に薬」※以下のように細分化してみました。それぞれについて教えてください。

1. 衣食住、家事
2. 健康・保健(薬、健康法、スポーツ・武道、余暇、趣味、ギャンブル、酒、旅行など)
3. 病気、予防、介護
4. 生活信条、生きがい、処世術
5. その他(農閑期、休日など)

⑤ 出産、育児（授乳や夜泣き）、保育・教育、しつけ、入学式や卒業式、成人（一人前）の条件、婚姻、長寿の祝い、死の予兆、忌み事、葬儀、法事、墓、あの世とこの世、地獄、聖と俗、神・仏、信仰、まじないなどの人生（運通）儀礼、それらの贈答に関する「ことば・ことわざ」

事例：「腹帯は戌の日に限る」「案ずるより生むが易し」「産後には神の災はよくない（ひえる）」「苦しいときの神頼み」

「出産期、育児初期は動物を飼うにも同じ年の子は飼わない」「泣く子は育つ」「寝る子は育つ」

「夜泣きすると川原の石（神様の石）を枕元に置く」「宮参りは男子は生後三十二日目、女子は三十三日目」

「あまり選べば選びはすす」「嫁は異なもの、味なもの」「嫁は手を見てもらえ」「嫁は親を見てもらえ」

「結婚式は大変の日」「友引だから葬式を遅らさげよう」「二人口は過ごせるが一人口は過ごせぬ」「氏より育ち」

「浮き沈み七度」「善も一生悪も一生」「死んで花見が咲くものか」「普請と葬式は一人で出来ん」「知らぬが仏」

「仏の顔も三度」「葬式すんで医者話」「無常の風は時を選ばず」「墓へ供えたものを食えば中風にかからぬ」

1. 出産、育児（子どもが出来たら、授乳や夜泣き、産前産後）
2. 保育・教育
3. 食事（箸の持ち方、行儀、席順など）のしつけ（こうあるべきこと、こうしてはいけない）
4. 入学式や卒業式（幼稚園、保育園、小中高校に関連して…・勉強、友達、先生、宿題、塾、稽古事）
5. 成人（一人前）の条件、成人式・働き盛り
6. 婚姻（出会い、見合い・恋愛・紹介、仲人、婚約、荷送り、盃、披露宴、里帰り、新婚旅行）
7. 長寿の祝い
8. 死の予兆、忌み事
9. 葬儀、法事、年忌
10. 墓、墓参り、墓掃除、供え
11. あの世とこの世、地獄・極楽、天国、西方浄土
12. 家の中の神仏、屋敷神、路傍の神仏、山の神、妖怪・ばけもの・おばけ、霊魂、ご先祖様
13. 聖と俗、世間（世の中、浮世・憂世）
14. 神（神社、氏子、氏子総代）・仏（寺、宗派、僧侶、檀家、檀家総代）、信仰、まじない
15. 贈答、中元、歳暮、しきたり、誕生日、初誕生、クリスマス、バレンタインデー

◎暮れの正月の準備、正月、節供、春の予祝祭や秋の収穫祭などの年中行事に関する「ことば・ことわざ」

事例：「年越しそばに葱（ねぎ）を忘れるとよくない」「門松の一夜飾りはいけない」
 「元旦に掃除をすると福が逃げる」「一富士二鷹三茄子」「年取り豆の数だけ食べると病気になる」
 「懸人形はすぐに片づけなとお嫁にいけない」「暑さ寒さも彼岸まで」「盆に殺生をしてはいけない」
 「三の酉のある年は火事が多い」「冬至に南瓜を食べると、中風にならない」

1. 正月の準備（大掃除・すす払い、餅つき、おせち、神棚・仏壇他）
2. 正月行事（若水・雑煮、初詣、初夢、仕事始め、初荷、書初め、小正月／成人の日他）
3. 春の行事（初午、節分、花見、他の紙・山の神、ひな節供、お彼岸／バレンタインデー他）
4. 夏の行事（端午の節句、八十八夜、虫おくり、雨ごい、七夕、お盆、盆踊り／花火、母の日他）
5. 秋の行事（お月見、秋祭り、収穫、秋の彼岸／敬老の日、紅葉他）
6. 冬の行事（西の市、冬至、年越し／クリスマス、七五三他）
7. その他（衣替え、夏休み他）

⑥運徳、教訓：「他人の行為をほめたり、何かを稱めたりする」際の「ことば・ことわざ」

事例：「衣食足りて礼節を知る」「楽あれば苦あり」「苦は楽の種」「為せば成る」「人生意気に感ず」
 「六十の手習い」「三つ子の魂百まで」「良き分別は老人に問え」「家するより産むが早し」
 「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」「勤勉は成功の母」「故郷へ錦を飾る」「先人すれば人を制す」
 「三人寄れば文殊の知恵」「能ある鷹は爪隠す」「過ちは改むるに俾ることなかれ」

※①徳り・達観、②幸福・不運、③運命・宿命・使命、④金銭、⑤感情、⑥知性などのキーワードに留意して下さい。

⑥道徳、教訓：「他人の行為を非難したり、批判したりする」際の「ことば・ことわざ」

事例：「礼も過ぎれば無礼になる」「人のふり見て我がふり直せ」「嫁を憎かば我が子を思え」「歌に涙なし」
 「備えあれば憂いなし」「恥を知らねば恥知らず」「憎まれっ子世にはばかる」「金を貸せば友を失う」
 「金は天下の回り物」「後悔先に立たず」「留守は火の用心」「口は禍の元」「上には上がある」

⑦親子関係、兄弟姉妹関係、夫婦関係、近隣、親せき、友人関係、年長者・目上、異性関係、師弟関係、嫁姑関係など人間関係（人付き合い）に関する「ことば・ことわざ」

事例：「合縁奇縁」「縁は異なるもの味なもの」「男心と秋の空」「憎い憎いは可愛いの裏」「同じ穴のむじな」
 「遠くて近きは男女の仲」「お山の大将」「遠い親戚より近くの他人」「世は情け」「類は友を呼ぶ」
 「兄弟は他人の始まり」「子は庭（かすがい）」「内孫より外孫」「縁の下の力持ち」「他人の飯を食う」
 「嫁と姑も七十五日」「嫁と姑犬と猫」「女房は家の大黒柱」「両方立てれば身が持たぬ」「老婆心」

1. 親子関係（親子、祖父母と孫、義父・義母、義兄弟）
2. 兄弟姉妹関係・子ども同士
3. 夫婦関係、離婚、再婚、姉女房
4. 近隣、親せき（叔父・叔母、伯父・伯母、いとこ）
5. 友人関係・ライバル、先輩・後輩、いじめ
6. 年長者・目上（中高齢、老人）
7. 異性（恋愛）関係（恋人、婚約者）
8. 師弟関係
9. 嫁姑関係
10. その他（共同労働、出稼ぎ、講など）
11. よそもの、旅の人、行商

●新聞、テレビ、ネット、雑誌、小説などで関心を持った「ことば・ことわざ」

※テレビや新聞・雑誌、インターネットなどを見ていて、思わず口をついて出てきてしまうようなキャッチコピー（キャッチフレーズ）、標語、流行語などのような「ことば・ことわざ」はありませんか。それはどのような「ことば・ことわざ」で、どのような時、場面、状況で使いましたか、「ことば・ことわざ」と、簡単な状況などを教えてください。

事例：「亭主元気に留守がいい」「いつやるの？今でしょう」

「インスタ映え」「倍返し」「辛いという字がある。もう少しで幸せになれそうな字である」

ご協力、ありがとうございました。

被調査者 フェイスシート（男性）

※氏名、職業、出身地は任意とさせていただきます。プライバシーについては慎重に配慮いたします。

※編集の際に必要となりますのでできるだけご回答をお願いいたします。

氏名：()、男性・女性
生年月日：M・T・S・H ()年()月()日 生まれ 満()歳
職業：
出身地：()都道府県()市郡()町村()地区
メモ
対象地域：(長野)県(長野)市(小田切)地区 ()
調査者：氏名：()男性・女性
調査日時：西暦(2018)年()月()日
PM/PM ()～PM/PM () 計()時間()分
メモ

長野県のことわざ調査では、2018年8月に穴田理事長が46頁分の中間報告書を取りまとめており、この後、2019年度末に報告書を完成する予定のまま現在に至る。長野調査は三福寺様と地域住民の支援を得て現在も継続中である。

第7章 長野県三福寺とのご縁

穴田理事長より調査の折に触れ三福寺和尚様ご夫妻とのこころの交流、想い出話をお伺いしてきた。和尚様とのご縁、三福寺でのゼミ合宿、そして長野調査の拠点としてもお世話になっている内容であった。長野調査の調査員より献立表が保存されていることを伺い、和尚様ご夫妻へ原稿と献立表の相談をした。和尚様をご提供下さった献立資料は文章で綴ることばにも優るインパクトがあり、長期間に亘る信頼関係と和尚様ご夫妻の愛情で溢れていた。百聞は一見にしかずご覧下さい。〔中尾記〕

1. 先生との私らしい出会いと別れ

櫻井 勲山

ゼミの夏合宿の一日は「おはようビール」で始まる。わが寺にはいろいろな般若湯があり、泡般若もある。般若とは仏教でいう智慧のことで、先生と私は「酒は智慧の水であるから、ひとに迷惑をかけなければ」と大変に鷹揚に構えていたので朝食時の飲酒を認めていた。これが「おはようビール」である。夕食は当然、飲み会であった。色々な学生たちがいた。

ブラジルに短期留学して男性天国であること、料理が全て同じ味であることを話してくれた学生。

日本育ち都立高校出身、短期留学のアメリカ白人女子学生。

入試で日本語が大変だったと話す男女学生（帰国子女）。

大学検定で入学した学生。

徴兵がある国の現実を教えてくれた2人の韓国人留学生。

私が退学させられた高校の教師になった学生。

ヨーロッパへ無茶な旅をしに行った学生。

私の寺の檀家で息子を亡くした家に招待された2、3名の学生。

鹿児島のお宿旅館の息子で、歳の離れた弟を可愛がる優しい学生。

本堂でひとり寝る学生。

博士課程に進んだ優秀な女子学生。

上品でクールビューティーな韓国人大学院留学生。

モデルさんのような美しい中国人大学院留学生。

テコンドーの達人にして語学堪能、口八丁、手八丁の韓国人大学院留学生（後年、彼の結婚式に私は僧侶の装い、家内は和服で先生ご夫妻、日本での友人達と出席した）。

先生と私が心配するぐらい酒を飲んだ学生。

様々な理由による学業を中止せざるを得なかった学生たちもいた。

驚いたこともあった。

父親が会社経営の学生から東京赤坂の少々危険な高級クラブにお誘いをされたこと（丁重にお断りしたが）。

寺からゼミ参加学生に卒業記念として腕にかける小さな念珠を差し上げた。後日、看護師（産婦人科）をしながらゼミで学んでいた方から手紙が送られてきた。そこには新しく誕生する生命と出会う思いが綴られていた。

学生たちは私の住んでいる地域の敬老会や運動会に、お弁当を持って参加してくれた。あるプロジェクトの仮調印式にも同席した（このプロジェクトは残念ながら立ち消えになってしまったが）。

いつだったか、エジプト人女性（教員）が夏合宿に参加すると聞き、「クレオパトラが来る」と大変期待したが、中止になってしまいガッカリした。

ゼミの合間には高山村の混浴温泉に行ったり、戸隠の洒落た喫茶店に行った。これらは先生と私の付き合いの中での一部だが、忘れられない楽しかった思い出だ。

先生と私の出会いは今から 53 年前だった。正義感と好奇心、探究心の強い、若い大学院生だった先生と、少々成績が良い、ヤクザに憧れるイカレタ 20 歳の高校生だった私。3 年生のクラス生徒の四分の一以上が 20 歳を過ぎていた高校だった。卒業当日の夜は先生が紹介してくれた明大近くの飲み屋でドンチャン騒ぎをして先生に多大な迷惑をかけた。学校はいろいろあり、廃校になった。

先生との再会は私が大学 4 年生の時、訪れた。都電荒川線終点の三ノ輪駅近くで自転車に乗っていた時、通行中の女性とトラブルになった。その女性が助けを求めたのが偶然にもデート中の先生であった。再会後も時々、上野の飲み屋や三ノ輪の泡盛屋で大いに飲ませてもらった。

再会から 12 年後、ゼミの夏合宿を私が住職をしている長野市三福寺で始めることになった。以後約 30 年、大変ではあったが、楽しい思い出を多く残してくれた。また、先生と行った中国旅行や数回にわたる韓国の旅も忘れられない思い出である。

二度目の別れは、私が急病で病院に入院している時に訪れた。ベッドの上に

いて、2人の医師が深刻な顔で開腹手術するかもしれないと説明している最中に先生の訃報を知った。その夜は涙が流れた（腹痛のせいだったかもしれないが）。

死出に臨んだ先生の思いは如何。西行法師か平安女流作家の様か。

純白の花に包まれて先生は旅立った。先生の魂は千か百か万か知らないが風に乗って三千大千世界を旅しているだろう。

私は浄土宗の僧侶で法然上人のみおしえを信じている。それは「死んだ後は、西方極楽浄土で親しかった人と会える」というものである。両親、早世した友人、縁のあった方が蓮の台に乗って待っているのだ。いま仏国土を旅している先生と出会ったら、その時はおたがい二日酔いを心配せず痛飲したい。だが会うまでにはもう少し時間が欲しいとも思っている。

思い出の一部を粗雑で幼稚な文で綴った。沢山のご縁を結ばせてくれた先生、ゼミ参加学生に感謝しつつ、この駄文をおしまいにする。

令和5年正月23日（友引の夜）

夕食後、先生と一献傾けた台所にて



写真1：三福寺

写真提供：櫻井勲山氏、櫻井幸子氏

2. ゼミ合宿の思い出

三福寺 櫻井 幸子

何を書いたら良いのか。

当時を思い出すと楽しかったなあ、若いから出来たのだなあ〜とつくづく思います。

穴田ゼミの学生さん達が寺に来た時の見取り図です。

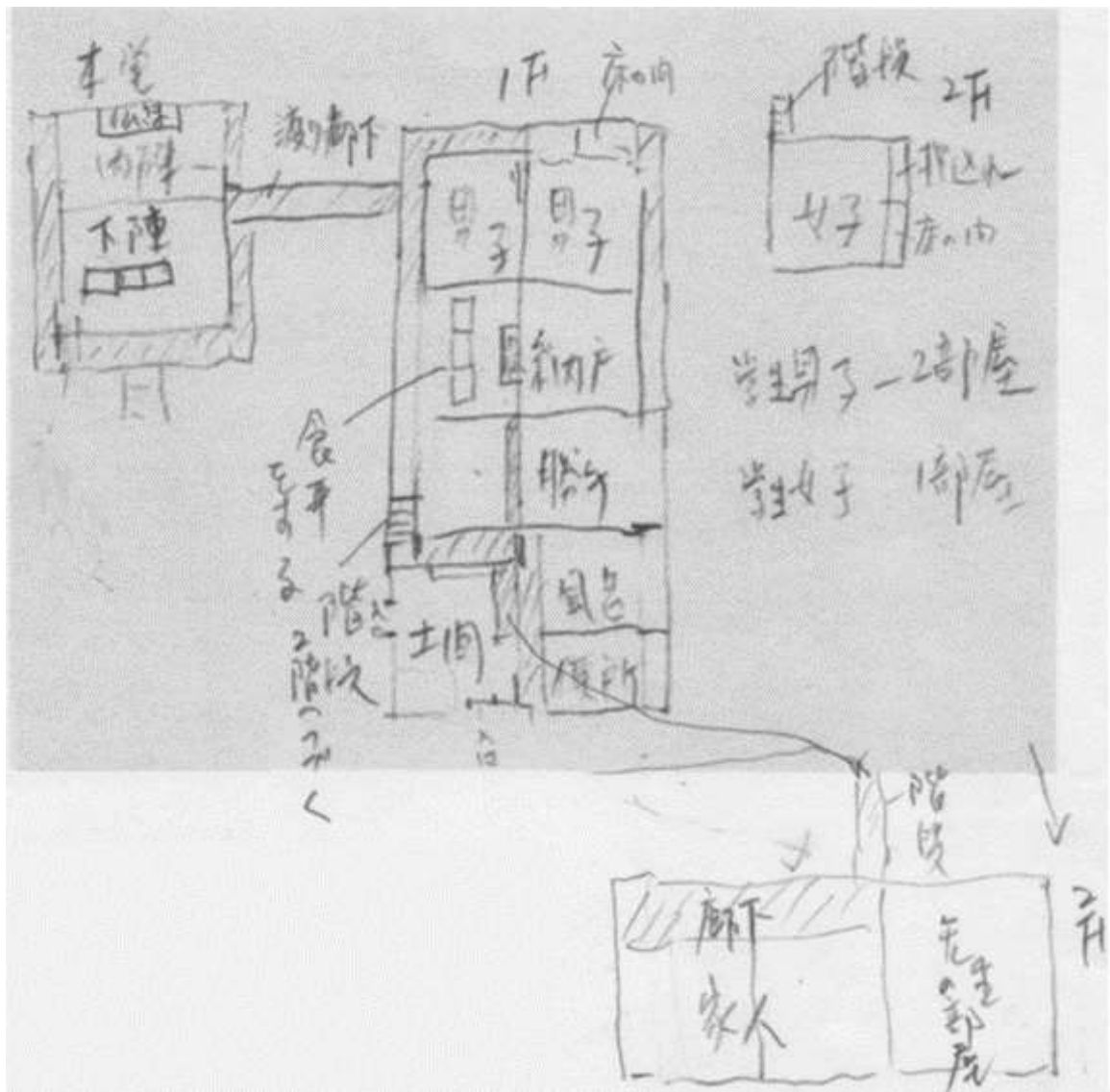




写真 2 : 合宿当時の三福寺

写真提供 : 櫻井勲山氏、櫻井幸子氏

合宿のスケジュールです。

午前 07:00～07:30 朝食

午前 09:00～12:00 本堂にて授業

午前 10:00 休憩後に授業

午後 12:00～01:00 昼食

午後 01:00～06:00 本堂にて授業

午後 03:00 休憩後に授業

午後 06:00～07:30 夕食

午後 07:30～10:00 夕食後に授業

午後 10:00～ 自由時間にて 1 杯飲み会

我が家、寺にとっては一大行事となりました。1週間前から食事の用意の買い出し、洗濯、布団干し、部屋の掃除と、ゼミ合宿中には住職の寺関係（周りの住職さま達からの）陣中見舞いが届き、又檀家の方々からは季節の野菜をいただき、大勢の人達に支えられて実現しました。本当に感謝、感謝です。合宿後には片付け等忙しい日々でした。

今でも思い出すのは、中国旅行、万里の長城、故宮（紫禁城）、頤和園、韓流

が流行していた〈冬のソナタ〉、チャングムの誓い（この時は役者さんに声をかけられました）、朴さんの結婚式、黒部へ旅行、大勢の人達に出会い、楽しい時間でした。若いという時間、大変だったけど、面白かったなあ～楽しかったなあ～と思います。

穴田先生には感謝です。

去年は先生がお亡くなりになって、本堂にて授業は凍としていて、又、優しい笑顔に二度とお会いできないという事はとても淋しいですネ!! 残念です!!

随分昔になりますが長野駅近くの長谷川ギャラリーにて私の好きな花キルト展を開催しました（5/1～5/5）。



写真3：善光寺御開帳「善光寺花回廊 2005」ながの花フェスタ

写真提供：櫻井幸子氏

750枚のトップキルト（32×32cm）が集まり一針一針心をこめて多勢の方に支えられて制作しました。布を提供して下さった方、糸を送って下さった方に感謝です。7×5、5×5のタペストリーを27枚ほどが出来上り、展覧会には各地から1,700名が見学に見えました。その後、公民館、病院、各施設へ寄贈

をし、お礼の手紙をいただきました。

実行委員（13名）の中へ参加をして本当に良かったです。又、穴田先生からは多大なご寄付をいただきました。書面にて御礼申し上げます。

1つ1つの布は糸がつむいで多くの人に支えられて大きな輪になりました。1つづつ思い出となっています。ゼミの学生さん達は多勢来寺いただき、住職と私にとっては生きがいとなりました。本当に楽しかったです！！ 37年間の日記には空白の部分と楽しかった事だけが書かれています。

穴田先生、貴方に出会えて本当によかった。

これからあるがままの自分を見つめ、明るく、仲良く、正しく歩いて、生きたいと思います。

合掌

令和5年1月25日



写真4：穴田先生ご夫妻が訪れた長野の花キルト展（2005年5月3日撮影）

写真提供：櫻井幸子氏

解説：こちらは皆さんから集まったキルトを展示したものです。

私（櫻井）がデザイン設計して作ったガーデンです。

小屋の中のキルト作品は私が作りました。

作品は穴田先生のお母さんにさしあげました。



写真5 : 花キルト展での穴田先生ご夫妻 (2005年5月3日)

写真提供 : 櫻井幸子氏

1994年8月28日~29日

1994年8月30日

1994年
8/28(日) 8/29

1100	12920
290400.7	2447
3-4104	3000
	1000
1100	1100
2447	2447 (2447)
3000 (15)	3000
4104	4104
1100	1100
2447	2447
3000	3000

116
1994年
8/30 朝
12920
2447 (1100, 1100, 1100)
3000 (2000)
4104
1100, 1100
2447
3000
1100, 1100

1994年8月26日~28日

1994年8月28日~29日

	8/26(水)	8/27(木)	8/28(金)
朝		1100 2447 3000 4104	1100 2447 3000 4104
昼		1100 2447 3000 4104	1100 2447 3000 4104
夜		1100 2447 3000 4104	1100 2447 3000 4104

	8/28(月)	8/29	8/30
朝	1100 2447 3000 4104	1100 2447 3000 4104	1100 2447 3000 4104
昼	1100 2447 3000 4104	1100 2447 3000 4104	1100 2447 3000 4104
夜	1100 2447 3000 4104	1100 2447 3000 4104	1100 2447 3000 4104

1994年9月13日~14日

明治学生 1994年 9/13

9/13, / /

9/14.
10時
2時
10時
11時
初見

2.3.4.5.6.7.8.9.10.11.12.13.14.15.16.17.18.19.20.21.22.23.24.25.26.27.28.29.30.31.32.33.34.35.36.37.38.39.40.41.42.43.44.45.46.47.48.49.50.51.52.53.54.55.56.57.58.59.60.61.62.63.64.65.66.67.68.69.70.71.72.73.74.75.76.77.78.79.80.81.82.83.84.85.86.87.88.89.90.91.92.93.94.95.96.97.98.99.100.

10時
2時
10時
11時
12時
13時
14時
15時
16時
17時
18時
19時
20時
21時
22時
23時
24時
25時
26時
27時
28時
29時
30時
31時
32時
33時
34時
35時
36時
37時
38時
39時
40時
41時
42時
43時
44時
45時
46時
47時
48時
49時
50時
51時
52時
53時
54時
55時
56時
57時
58時
59時
60時
61時
62時
63時
64時
65時
66時
67時
68時
69時
70時
71時
72時
73時
74時
75時
76時
77時
78時
79時
80時
81時
82時
83時
84時
85時
86時
87時
88時
89時
90時
91時
92時
93時
94時
95時
96時
97時
98時
99時
100時

10時
2時
10時
11時
12時
13時
14時
15時
16時
17時
18時
19時
20時
21時
22時
23時
24時
25時
26時
27時
28時
29時
30時
31時
32時
33時
34時
35時
36時
37時
38時
39時
40時
41時
42時
43時
44時
45時
46時
47時
48時
49時
50時
51時
52時
53時
54時
55時
56時
57時
58時
59時
60時
61時
62時
63時
64時
65時
66時
67時
68時
69時
70時
71時
72時
73時
74時
75時
76時
77時
78時
79時
80時
81時
82時
83時
84時
85時
86時
87時
88時
89時
90時
91時
92時
93時
94時
95時
96時
97時
98時
99時
100時

1994年9月15日~16日

9/15 9/16

11時
(2.3.4.5.6.7.8.9.10.11.12.13.14.15.16.17.18.19.20.21.22.23.24.25.26.27.28.29.30.31.32.33.34.35.36.37.38.39.40.41.42.43.44.45.46.47.48.49.50.51.52.53.54.55.56.57.58.59.60.61.62.63.64.65.66.67.68.69.70.71.72.73.74.75.76.77.78.79.80.81.82.83.84.85.86.87.88.89.90.91.92.93.94.95.96.97.98.99.100.)

11時
2時
3時
4時
5時
6時
7時
8時
9時
10時
11時
12時
13時
14時
15時
16時
17時
18時
19時
20時
21時
22時
23時
24時
25時
26時
27時
28時
29時
30時
31時
32時
33時
34時
35時
36時
37時
38時
39時
40時
41時
42時
43時
44時
45時
46時
47時
48時
49時
50時
51時
52時
53時
54時
55時
56時
57時
58時
59時
60時
61時
62時
63時
64時
65時
66時
67時
68時
69時
70時
71時
72時
73時
74時
75時
76時
77時
78時
79時
80時
81時
82時
83時
84時
85時
86時
87時
88時
89時
90時
91時
92時
93時
94時
95時
96時
97時
98時
99時
100時

1994年9月17日~18日

1994年

9/17 9/18

11時 11時

10時
2時
3時
4時
5時
6時
7時
8時
9時
10時
11時
12時
13時
14時
15時
16時
17時
18時
19時
20時
21時
22時
23時
24時
25時
26時
27時
28時
29時
30時
31時
32時
33時
34時
35時
36時
37時
38時
39時
40時
41時
42時
43時
44時
45時
46時
47時
48時
49時
50時
51時
52時
53時
54時
55時
56時
57時
58時
59時
60時
61時
62時
63時
64時
65時
66時
67時
68時
69時
70時
71時
72時
73時
74時
75時
76時
77時
78時
79時
80時
81時
82時
83時
84時
85時
86時
87時
88時
89時
90時
91時
92時
93時
94時
95時
96時
97時
98時
99時
100時

1994年9月19日

1994年

9/19

11時

10時
2時
3時
4時
5時
6時
7時
8時
9時
10時
11時
12時
13時
14時
15時
16時
17時
18時
19時
20時
21時
22時
23時
24時
25時
26時
27時
28時
29時
30時
31時
32時
33時
34時
35時
36時
37時
38時
39時
40時
41時
42時
43時
44時
45時
46時
47時
48時
49時
50時
51時
52時
53時
54時
55時
56時
57時
58時
59時
60時
61時
62時
63時
64時
65時
66時
67時
68時
69時
70時
71時
72時
73時
74時
75時
76時
77時
78時
79時
80時
81時
82時
83時
84時
85時
86時
87時
88時
89時
90時
91時
92時
93時
94時
95時
96時
97時
98時
99時
100時

1995年3月28日~30日

1995年3月31日~4月2日

1995年 飯7年

3/28(木)	3/29(水)	3/30(火)
	パン 大-70(30分) AP サ-70 70分(20分)	パン 10分 大-70 生卵 サ-70(20分)
	お-15分 leant 大-70 サ-70 サ-70(20分)	20分(15分) 大-70(15分) サ-70(15分)
パン 10分 大-70(15分) サ-70(15分) サ-70(15分) サ-70(15分) サ-70(15分) サ-70(15分)	パン 10分 大-70(15分) サ-70(15分) サ-70(15分) サ-70(15分) サ-70(15分)	パン 10分 大-70(15分) サ-70(15分) サ-70(15分) サ-70(15分) サ-70(15分)

飯7年

3/31	4/1(土)	4/2(日)
パン 大-70 AP(20分) サ-70 サ-70(20分)	パン 大-70(20分) サ-70 サ-70(20分) サ-70(20分)	パン 大-70(20分) サ-70(20分) サ-70(20分)
パン 10分 大-70(15分) サ-70(15分) サ-70(15分) サ-70(15分)	パン 10分 大-70(15分) サ-70(15分) サ-70(15分) サ-70(15分)	パン 10分 大-70(15分) サ-70(15分) サ-70(15分) サ-70(15分)

1995年4月3日~4月4日

1995年9月19日~21日

飯7年

4/3(月)	4/4(火)
パン 大-70 サ-70 サ-70(20分)	パン 大-70(20分) サ-70(20分) サ-70(20分) サ-70(20分)
パン 10分 大-70(15分) サ-70(15分) サ-70(15分)	パン 10分 大-70(15分) サ-70(15分) サ-70(15分)

	9/19(木)	9/20(水)	9/21(火)	9/22(金)
朝	パン 大-70 サ-70 サ-70(20分)	パン 大-70 サ-70 サ-70(20分)	パン 大-70 サ-70 サ-70(20分)	
昼	パン 大-70 サ-70 サ-70(20分)	パン 大-70 サ-70 サ-70(20分)	パン 大-70 サ-70 サ-70(20分)	
夜	パン 大-70 サ-70 サ-70(20分)	パン 大-70 サ-70 サ-70(20分)	パン 大-70 サ-70 サ-70(20分)	



1995年10月5日~10日

	10/5	10/6	10/7	10/8(日)	10/9	10/10(運動会)
朝	/	10:00 2-7 4:30 10:00 10:30 11:00	10:00 アジ 20:00 10:00 10:30 11:00	10:00 4:30 10:00 10:30 11:00	10:00 10:30 11:00 11:30	運動会 10:00 10:30 11:00 11:30 12:00
昼	/	うどん 20:00 20:30 21:00	4:30 20:00 20:30	カレー	煮 雑炊	運動会 10:00 10:30 11:00 11:30
夜	天ぷら 10:00 10:30 11:00	煮カキ 20:00 20:30	10:00 10:30 11:00 11:30	10:00 10:30 11:00 11:30	10:00 10:30 11:00 11:30	10:00 10:30 11:00 11:30

平成7年
1995年

1995年11月1日~5日

	11/1	11/2	11/3	11/4	11/5	11/6
	/	10:00 10:30 11:00	10:00 10:30 11:00	10:00 10:30 11:00	10:00 10:30 11:00	10:00 10:30 11:00
		甲斐井	うどん	10:00 10:30 11:00	10:00 10:30 11:00	10:00 10:30 11:00
				10:00 10:30 11:00	10:00 10:30 11:00	10:00 10:30 11:00
				10:00 10:30 11:00	10:00 10:30 11:00	10:00 10:30 11:00
				10:00 10:30 11:00	10:00 10:30 11:00	10:00 10:30 11:00

平成7年
1995年



1996年4月1日～4月3日

4/1 (金)	100級 50P 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級	100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級	100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級
4/2 (土)	100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級	100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級	100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級
4/3 (日)	100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級	100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級	100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級

1996年4月4日～4月5日

平成8年 1996年			100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級
4/4 (A)	100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級	100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級	100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級
4/5 (B)	100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級	100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級	100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級

1996年8月25日～8月29日

8/25	8/26(月)	8/27(火)	8/28(水)	8/29(木)	平成8年 1996年
/	100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級	100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級	100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級	100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級	
/	100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級	100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級	100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級	100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級	
100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級	100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級	100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級	100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級	100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級 100級	

1996年8月29日～9月3日

平成8年 1996年	8/29	8/30	8/31	9/1	9/2	9/3
	パン 20人 パン	カレー 40人	カレー 20人	カレー 20人	カレー 20人	カレー 20人
						カレー 20人

8/29
パン
20人
パン

8/30
カレー
40人

8/31
カレー
20人

9/1
カレー
20人

9/2
カレー
20人

9/3
カレー
20人

8/29
パン
20人
パン

8/30
カレー
40人

8/31
カレー
20人

9/1
カレー
20人

9/2
カレー
20人

9/3
カレー
20人

8/29
パン
20人
パン

8/30
カレー
40人

8/31
カレー
20人

9/1
カレー
20人

9/2
カレー
20人

9/3
カレー
20人

1996年9月14日～9月17日

	9/4(木)	9/5(金)	9/6(土)	9/7(日)	9/4(木) 9/5(金)
	パン 20人	パン 20人	パン 20人	パン 20人	パン 20人
	カレー 40人	カレー 40人	カレー 40人	カレー 40人	カレー 40人
	カレー 20人	カレー 20人	カレー 20人	カレー 20人	カレー 20人

9/4(木)

9/5(金)

9/6(土)

9/7(日)

9/4(木)
9/5(金)

1997年不明月15日~不明月18日

1997年9月16日~9月18日

9-3 (9/27=7/10)

	15	16	17	18	9月9日 1997年
朝	/	14/60 14/44 20/20 (空) 3x+1000	10/2 13/2	14/60 (空) 2/40	
昼	/	0/0 0-4	0/0 14/60 0/0 (空) 0/0	/	
夜	0/0 0/0 (空) 0/0	14/60 14/60 0/0	14/60 (空) 0/0	/	

	9/16	9/17	9/18	9月9日 1997年
朝	110/2 10/2 7/40 14/60 0/0	14/60 14/60 14/60 14/60 14/60	14/60 14/60 14/60 14/60 14/60	
昼	0/0 0/0 0/0 0/0	0/0 0/0 0/0 0/0	0/0 0/0 0/0 0/0	
夜	14/60 14/60 14/60 14/60	14/60 14/60 14/60 14/60	14/60 14/60 14/60 14/60	

1998年9月14日~9月17日

H10/ 9/14 9/15 9/16 9/17

	9/14	9/15	9/16	9/17
朝	/	110/2 0/0 0/0 0/0	10/2 0/0 0/0 0/0	14/60 14/60 4-0-0 14/60
昼	/	0/0 14/60 14/60 14/60	0/0 14/60 14/60 14/60	/
夜	14/60 14/60 14/60 14/60	14/60 14/60 14/60 14/60	14/60 14/60 14/60 14/60	/



2000年4月5日～4月8日

	4/5 (水)	4/6 (木)	4/7 (金)	4/8 (土)
朝	/	10- 3-4時分 12-3- 10-2 サ-サ	10時頃 (栽培) 10- 10時頃 12時頃 2時頃	11:00 2000年 3時頃
昼	/	10- (10時) 10時頃 10時	10時頃 10時頃 10時頃 (栽培)	2:00 栽培 2000年
夜	10時頃 (栽培) 10時頃 10時頃 (栽培) 2時頃	カレー 10時頃	10時頃 (栽培) 10時頃 10時頃 10時頃 10時頃 (栽培)	

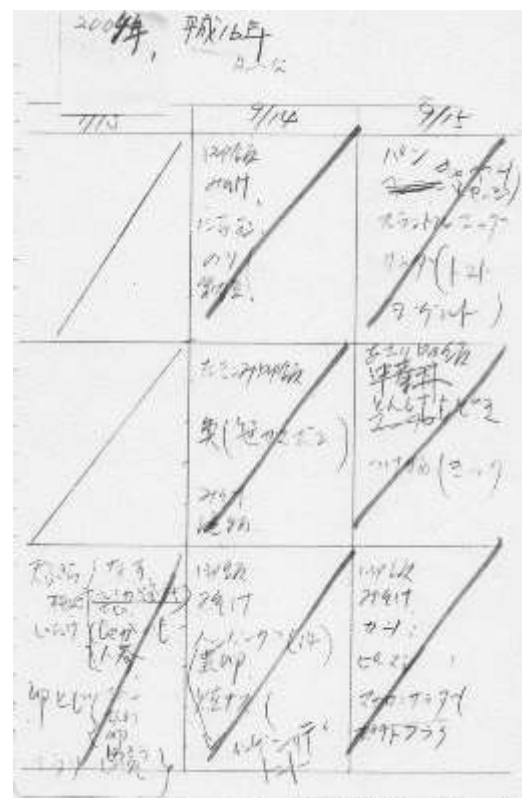
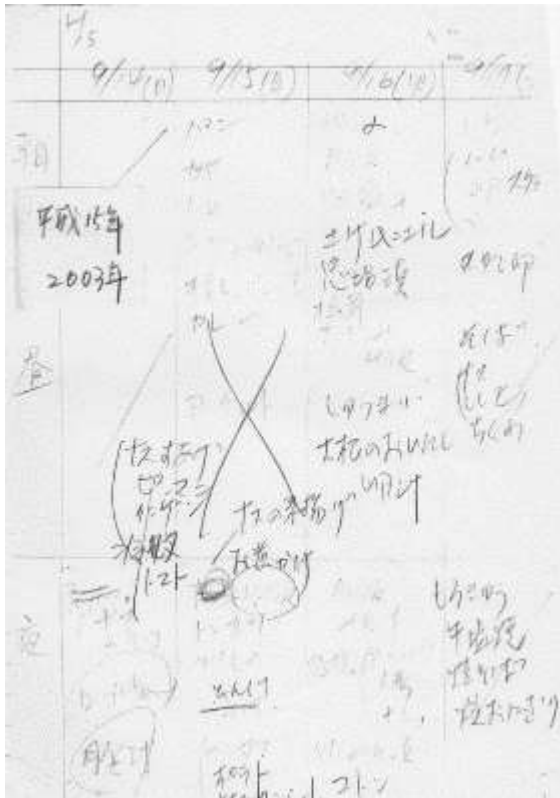
2002年9月15日～9月18日

	9/15 (日)	9/16 (月)	9/17 (火)	9/18 (水)
朝	/	10- 10-12 10-2 3時頃 3-7 栽培	10時頃 栽培 10時頃 (栽培) 10時頃 10時頃	10- 10時頃 (栽培) 3時頃 10時頃 10時頃
昼	/	カレー 2-70 (3-4時)	10時頃 10時頃	栽培 2002 9/15-9/18
夜	10時頃 (栽培) 10時頃 10時頃 (栽培) 2時頃	10時頃 (栽培) 10時頃 10時頃 (栽培) 2時頃 (栽培)	10時頃 (栽培) 10時頃 10時頃 (栽培) 10時頃	

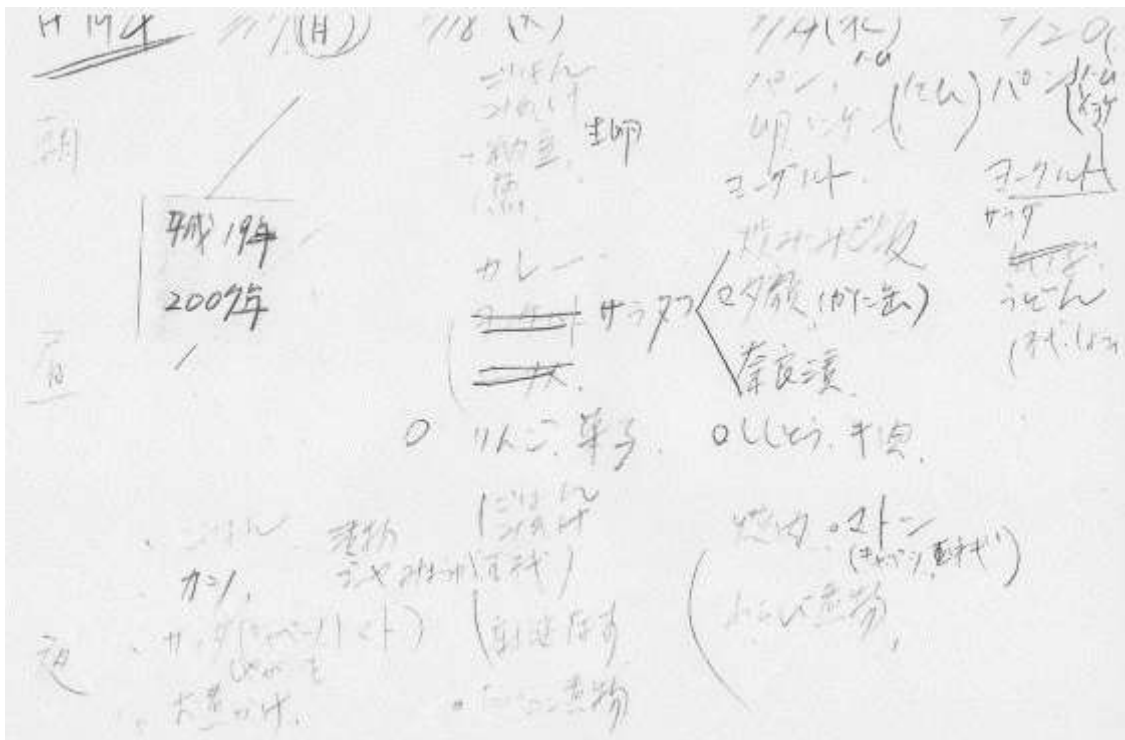
H14

2003年9月14日～9月17日

2004年9月10日～9月15日



2007年9月17日～9月20日



2007年11月23日~11月25日

	11/23	11/24	11/25
朝	/		10:40~9 12:22~6p 25
昼	/	雑豆 汁 210g	雑豆 200g
夜	鍋 (白菜 汁)	雑豆(惣菜) 汁 (200g)	/

2008年9月16日~9月19日

	008.9/16	9/17	9/18(休)	9/19
朝	/	雑豆 汁 雑豆(汁)	10:10~(11:00) (9:17) 9:09~6p	雑豆
昼	雑豆 2008年 9/16~9/19	カレー (汁)	雑豆汁 雑豆 雑豆	雑豆 雑豆
夜	雑豆(汁) 雑豆 肉汁	雑豆(汁) 雑豆 雑豆 雑豆	雑豆汁 雑豆 雑豆 雑豆	雑豆 雑豆

2011年9月6日～9月9日

2011
9/6 (水)

9/7 (木)

9/8 (金)

9/9 (土)

2011年

カル (株)

3-4 (株)

7-8 (株)

9 (株)

10 (株)

11 (株)

12 (株)

13 (株)

14 (株)

15 (株)

16 (株)

17 (株)

18 (株)

19 (株)

20 (株)

21 (株)

22 (株)

23 (株)

24 (株)

25 (株)

26 (株)

27 (株)

28 (株)

29 (株)

30 (株)

31 (株)

9/6 (水)

9/7 (木)

9/8 (金)

9/9 (土)

2011年

カル (株)

3-4 (株)

7-8 (株)

9 (株)

10 (株)

11 (株)

12 (株)

13 (株)

14 (株)

15 (株)

16 (株)

17 (株)

18 (株)

19 (株)

20 (株)

21 (株)

22 (株)

23 (株)

24 (株)

25 (株)

26 (株)

27 (株)

28 (株)

29 (株)

30 (株)

31 (株)

2012年9月12日～9月15日

9/2 (水)

9/3 (木)

9/4 (金)

9/5 (土)

2012年

カル (株)

3-4 (株)

7-8 (株)

9 (株)

10 (株)

11 (株)

12 (株)

13 (株)

14 (株)

15 (株)

16 (株)

17 (株)

18 (株)

19 (株)

20 (株)

21 (株)

22 (株)

23 (株)

24 (株)

25 (株)

26 (株)

27 (株)

28 (株)

29 (株)

30 (株)

31 (株)

9/2 (水)

9/3 (木)

9/4 (金)

9/5 (土)

2012年

カル (株)

3-4 (株)

7-8 (株)

9 (株)

10 (株)

11 (株)

12 (株)

13 (株)

14 (株)

15 (株)

16 (株)

17 (株)

18 (株)

19 (株)

20 (株)

21 (株)

22 (株)

23 (株)

24 (株)

25 (株)

26 (株)

27 (株)

28 (株)

29 (株)

30 (株)

31 (株)

2013年9月13日～9月15日

	9/13(金)	9/14	9/15
	10時頃 +104(花枝?) (人、山、山) +104(花枝?)	10時、山 山、山、山 山、山、山	10時頃、山 山、山、山 山、山、山 (山、山、山)
山、山	山、山 (山、山)	山、山、山 山、山、山 山、山、山 山、山、山	山、山、山 (山、山、山) 山、山、山 (山、山、山)
山、山	山、山、山(山、山) 山、山、山、山、山 山、山、山、山、山 山、山、山、山、山 山、山、山、山、山 山、山、山、山、山	山、山、山(山、山、山) 山、山、山、山、山 山、山、山、山、山 山、山、山、山、山	山、山、山(山、山、山、山、山) 山、山、山、山、山 山、山、山、山、山 山、山、山、山、山

2013年9月20日～9月23日

	9/20(日)	9/21	9/22	9/23
	山、山、山	山、山、山	山、山、山	山、山、山
山、山	山、山、山	山、山、山	山、山、山	山、山、山
山、山	山、山、山	山、山、山	山、山、山	山、山、山
山、山	山、山、山	山、山、山	山、山、山	山、山、山

2014年9月4日～9月7日

	9/4	9/5	9/6	9/7(日)
日	新2年 2014	APR 2014 70h APR (100)	APR 100h APR 魚の飼育	APR
昼		カレー 3人 2014 (100)	うなぎ 70h 記録 (2014)	魚の飼育
夜	内田 カツ 麻婆豆腐 お好み焼き	カレー 100h (100)	遠田 宴会 うなぎ	2014 11月

2018年8月29日～9月1日 ♪ことネット長野調査

	2018 8/29(水)	8/30(木)	8/31(金)	9/1(土)
日	5人	4人		
月	平成30年 2018年			
昼	4人	カレー お魚	うなぎ 2014 (100)	うなぎ
夜	お好み焼き お好み焼き (100)	カレー お魚	お好み焼き お好み焼き お好み焼き	穴田 山田 山田

2018年9月13日～9月15日 ♪ことネット長野調査

018 成30年	9/13(木)	9/14	9/15
月	/	餃子 和風 生卵	餃子パン 和風。や
日	2018年	カレー 子ガキ	餃子
夜	夕飯 煮込み カレー 卵とじ(=4人分)	ハンバーグ 餃子 カレー	(穴田 五郎)

2018年9月19日～9月21日 ♪ことネット長野調査

018 成30年	9/19(木)	9/20(金)	9/21(土)
月	/	子ガキ 餃子 和風卵	餃子子ガキ や
日	成30年 2018	餃子	餃子
夜	夕食 餃子100個 カレー	餃子 カレー カレー	(穴田 五郎)

4/3(月)	4/4(火)
12時 2時 3時 4時	10時 11時 12時 1時 2時 3時 4時
14時 15時 16時 17時 18時 19時 20時	

	9/16	9/17	
	10時 11時 12時 1時 2時	11時 12時 1時 2時	13時 14時 15時 16時 17時 18時 19時 20時

	10/11	10/12	10/13	10/14(土)	10/15(日)
10時	10時 11時 12時 1時 2時	10時 11時 12時 1時 2時	10時 11時 12時 1時 2時	10時	13時 14時 15時 16時 17時 18時 19時 20時

	8/5(火)	8/6(水)	8/7(木)	8/8(金)
朝	/	10:30 スグサの12:30 12:30 サグサ、スス	14:00 14:00 12:30 サグサ(木97) サグサ(木97)	14:00 島の唐揚げ 日菜漬物
昼	/	14:15 (15:45) サグサ サグサ	14:00 (15:00) サグサ サグサ	14:15
夜	ミックス7時 (7:45) サゴロ イカ サグサ(サグサ) MA Opal?	14:00 サゴロ 島の唐揚げ サグサ	14:00 (豚水) サゴロ (サゴロ) 14:00 14:00 サグサ サグサ	/

9/10	9/11	9/12	9/13
/	14:00 14:00 14:00	14:00 14:00	14:00 (14:00)
/	14:00 14:00	14:00 14:00	14:00
14:00 (14:00) 14:00	14:00 (14:00) 14:00	14:00 (14:00)	14:00

第8章 穴田理事長とのご縁ーコラム

1. 先生ありがとうございます。

大田 朋子

「偶然は必然」、人生そんなこともあると思うのは、年齢をそれなりに重ねてきたせいでしょうか。

「明治大学の穴田先生という方からこちらに連絡がありました。連絡先をお教えしてもよいでしょうか？」新潟県からの一本の電話、これが穴田先生とのご縁の始まりでした。それは奇しくも、市内の神社で偶然旧制明治大学学徒出陣御霊の忠霊殿を見つけ、学究の機会を断念した若者たちのみたまに手を合わせた翌々日のことでもありました。

当時先生は、新潟の病院へ定期的に通院されていらっしゃいました。その折、図書館で、これまた偶然新潟の方言やことわざについてまとめた拙著を手にとられご興味をもたれたそうです。これをご縁にその年秋開催「日本ことわざ文化学会第4回大会 郷土とことわざ」に発表の機会を頂き、先生方のご教示を賜り、「ことネット」活動「明治大学リバティアカデミー」講座の経験をいただきました。いくつかの偶然が、穴田先生を核として、皆様との出会いに繋がり、「ことわざ」について探求する意義とおもしろさを再認識するきっかけになりました、今、この奇跡をあらためて感じております。穴田先生、ありがとうございます。

これからも先生の繋いでくださったご縁を大切に、また感謝しつつ、郷土のことわざの掘り起こしに努めて参りたいと思います。

2. 有用な無駄

(オリエンの授業で、先生が言われた言葉。当時の記憶なので、不確かですが、今でも鮮明に残る言葉です)

増田 克己

「有用な無駄」。私と穴田先生のご縁は、この言葉から始まります。大学1年のオリエン授業で、「社会心理学」という言葉が気になり、受講。講義では、黒板に立方体の図形を書き、「みなさん、この図形の反対側（見えない側）は、どう見えると思いますか？」という趣旨の話。「伝えなかったのは、片方（見えていて側）からだけでなく、いろいろな見方（反対側を考えること）があります。そういう視点で考えていくと、本当の意味で無駄なことは、ないのではないのでしょうか」という話の後、そのことを指して「有用な無駄」という言葉を言われました（私の記憶のモノなので、正確な状況などご容赦のほど）。

実は、政経学部に入學したのは、興味あるゼミがあったのが動機だったのですが、この授業をキッカケとして、「社会心理学」の授業、先生のゼミでお世話になり、中国の調査旅行、沖縄のゼミ調査など、学生時代、いろいろな場所をご一緒させて頂きました。

なんとか希望分野の職種に就職し、卒業後も先生の研究室にて、機会ある度に様々なお話させて頂きました。社会に出て、いろいろなご縁で、自分の仕事や考えに趣きを与えて下さった方々と、公私でご一緒させて頂きました。そんな中で、効率や損得勘定だけにとらわれないよう心がけてきましたが、それは、先生の初めての授業（ご縁）と、そこで聴いた「有用な無駄」という言葉から得たことによるものと考えています。「有用な無駄」という言葉は、そんな私の考えや在り方の大きなポイントで、忙しい毎日、日々、思い返してきました。

穴田先生、またお会いできる日を楽しみにしております。

3. 40年越しの卒論

衣山 英俊

バース、岡田、掛布のバックスクリーン3連発に虎党が熱狂した年、私たちゼミ生と穴田先生とのご縁が生まれました。

当時、先生は明治大学の助教授に就かれて間もなくー 私たちに見せる横顔は研究者よりは教育者のそれの方が強く、若く情熱溢れる大学教員であられました。

実は、同期のゼミ長を拝命しておきながら、ガクモン的なことの記憶はほとんど残っておりません。ただ、始まってまもなくのゼミの中で、

～「思う」と「考える」はまったく別物、似て非なるものだ。～
というお言葉があり、それは今でも私にとっての人生訓となっています。

私たちのゼミは、日本人論が一つの研究テーマで、そのために中国の杭州、上海へのフィールドワークとそのまとめが必須課題となっていました。杭州の田舎に泊まった時に、昼間にキャンキャン鳴いていた犬が翌日になったら姿が見えなくなっていたので、きっと昨夜の歓迎会の御馳走はアイツだぜ、、とか、上海の比較的近代的なホテルで知り合った美女は、実は高級コールガールで、ばれて捕まったら（当時の中国では）死刑になるんだぞ、、等々どうでもいい記憶ばかりが、穴田先生の笑顔とともに甦ってきます。

中国旅行が11月上旬、帰ってきたら「日本人再考 in CHINA」という本を出版するために、それぞれが卒論を兼ねて寄稿することになっていました。ところが私ときたら、中国から帰ってきたら旅行前につき合っていた彼女に新しい彼氏ができていて振られてしまい、そのショックで執筆どころではありません。

先生と中央線でともに帰る道すがら、オロオロし情けない様子を見せる私に
「そんなことじゃ、恋多き男になれないぞ！」
と声をかけ励まして下さったのも、生涯忘れえぬ思い出です。

卒論も提出しなかった学生に「優」の評定を下さった、穴田先生！
40年越しの恩返しとして、この駄文を恥ずかしながら捧げます。

どうか安らかにおやすみください。

本当にお世話になりました。ありがとうございました。



写真1：中国旅行（1986年11月に杭州・上海のフィールドワーク）

写真提供：衣山英俊氏



写真2：夏のゼミ合宿（1986年、3・4年合同）

写真提供：衣山英俊氏

4. 穴田先生とのロンドン徘徊記

山下 信也

(1) 序論

もう 30 年以上も昔の話です。多少記憶が混乱している点がありますが、ご容赦ください。今でも覚えていることを書いてみます。

穴田先生はロンドン大学で1年間の在外研究をされました。その間、ご家族と一緒にロンドンへ移住されたのです。赴任される前に、私は、たまたま先生の研究室へ顔を出しました。その時に、「是非その間にイギリスへ来てください」とのありがたいお言葉をいただいたのです。私も『善は急げ』と、早速渡航することにしました。今思えばなんとも図々しい話です。渡航は冬の1月のことでした。

(2) たばこ (マイルドセブン)

待ち合わせの場所へ、先生は自ら車を運転して迎えにきてくださいました。車に乗り込んだ私に、「マイルドセブンを持っていたら少し欲しい」というのです。車のフロントガラス前には、数個のマイルドセブンの箱があるのにはです。

先生がおっしゃるに、「ロンドンで売られているマイルドセブンは、日本国内で販売されているものと味が違う」とのことでした。ためしにロンドンマイルドセブンをいただいて吸って見たのですが、たしかに別物の味です。こんなことは海外に行かないと分かりませんね。

(3) パブ

途中、パブに立ち寄りしました。先生は、要領がわからない私に代わり、「これがおいしんだよ」と黒ビールを注文してくださいました。(ビールの種類がとにかく多かったのを今でも覚えています。) たしかに美味でした。アルコール好きな人にはパブは最高でしょう。なにしろ昼間から堂々と飲めるのですから。

(4) スーパー

地元の人々の日常生活を知るには、その土地のスーパーをみることが大変参考になります。あるスーパーに入り一通り中を見た後で、おいしい紅茶の銘柄を教えていただきました。早速購入し、帰国後周囲の人に飲んでもらったところ大好評でした。残念なことにその紅茶のブランド名は忘れてしまいました。

(5) 日本ショップ

ロンドンに「日本ショップ」があるのだよ。せっかくだから見に行こうということで、先生の案内で店へ行きました。しかしながらそこは、我々の期待を大きく裏切る場所でした。

例えば、「着物」と称して「ゆかた」が売られていました。日本の「箸」として売られていたのは、「割りばし」です。おかれていた食器は、今では100円ショップで売られているもののほうがはるかに高品質な、質の悪いものでした。これでは日本を知らない人が来店すると、日本の文化を誤解しかねません。

帰り道で先生が一言つぶやきました。「あのお店はなくなったほうがいいね・・・」と。私も同感でした。

(6) ロンドン大学

ここから先生の奥様が合流されたように記憶しています。先生は自分の研究室と図書館などを案内してくださいました。図書館の日本関連書籍のコーナーで、「ここに私の書いた社会心理学の本を置くのが目標だ」とおっしゃいました。「先生、それならば英語で書いたほうがいいですよ」と私が言うと、先生は、なぜかにつこりとされました。

(7) 先生のお宅

夕方になり、先生のお宅で夕食をごちそうになりました。ここでいただいたローストビーフは、最高においしかったです。また、イギリスの家のつくりなどを色々解説してくださいました。先生はイギリスでの暮らしぶりを、私に伝えたかったのかもしれない。

(8) レ・ミゼラブル

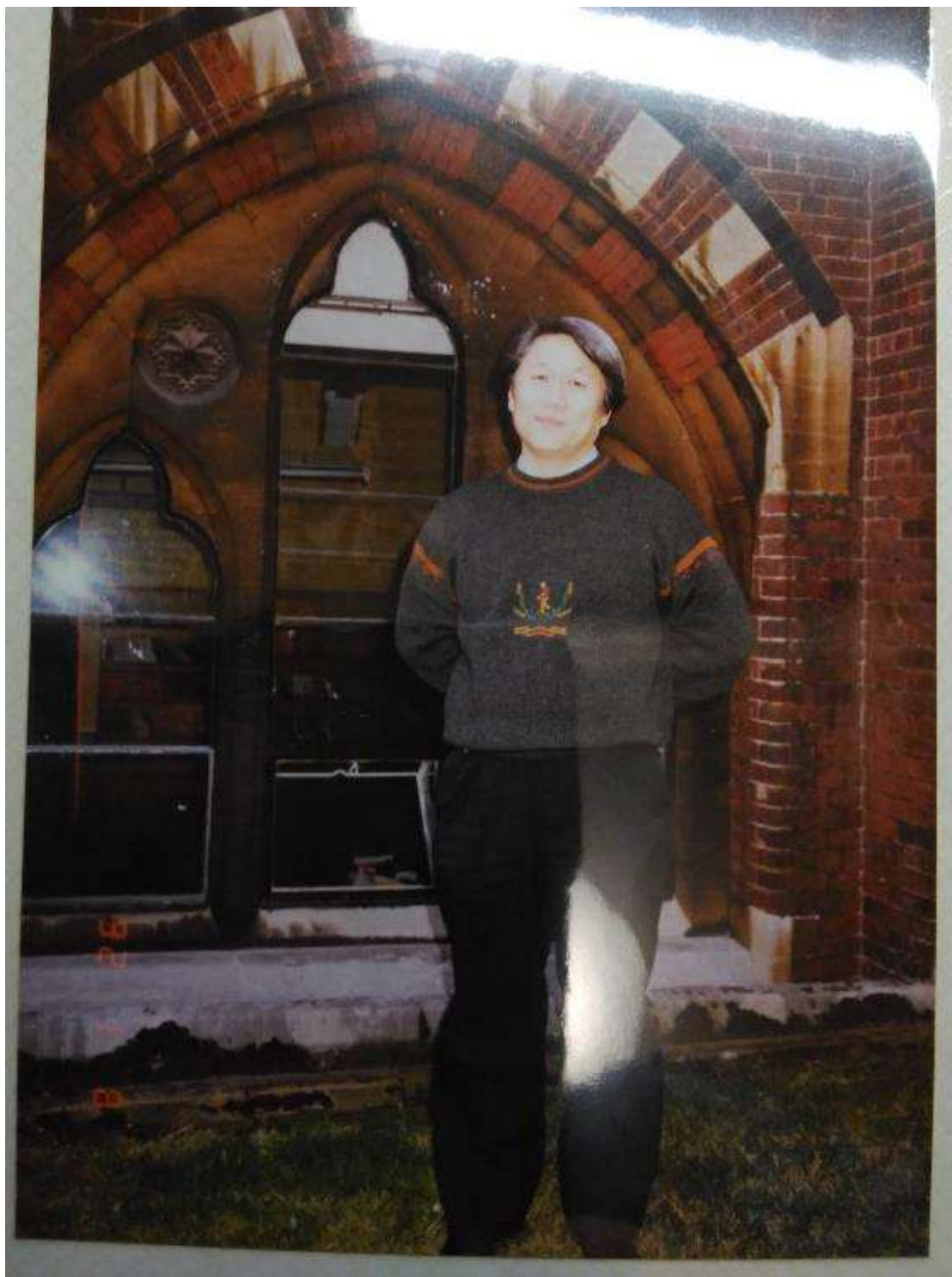
帰り道に、ロンドン市内の有名な劇場（有名であることはあとからわかりました）へ案内されました。そこでは、「レ・ミゼラブル」を上演中でした。せっかくだから、見ておけば思い出になるとのお考えだったのでしょう。

夜もかなり更けてきましたので、ここで穴田先生とお別れして、私は観劇した次第です。ストーリーが分っているので、英語のセリフもなんとなく理解(?)できました。

(9) 最後に

こうして振り返ってみると、観光名所を回るのではなく、街の中を気の向く

ままにふらふらと歩き回ったとの印象です。それゆえに上記表題にしました。
先生、ご案内と楽しい一日をありがとうございました。



写真：ロンドンでの穴田先生

写真提供：山下信也氏

5. 穴田先生からのメッセージ

藤里 郁夫

“四年生の皆様へ（最後のメッセージ）”と題した2枚のプリントを見つけました。1988年1月14日付です。35年前の正月明け、卒業を控えたゼミ生に向けた穴田先生からのメッセージです。

その頃はまだワープロ、パソコンは一般に普及しておらず、e-mailなども無い時代でした。このように手書きで紙コピーして配るのが常でした。先生の筆致も懐かしく読み直しました。

四年生の皆様へ。
(最後のメッセージ)

1988.1.14.
穴田 義孝

新年あめアとうごいします。

賀状ありかとうごいします。旅行に行、左にもあり、何人かのオホ
は失礼アアしました。お許し下さい。

もりたくさんで、十分の条件設定アアアアア 申しわけありませんアア
いよいよ、皆様は新しい場での生活の年とちりまは。究極の
日本人らしいは、何事にも好奇心をもち、しかも許容アアアアア
もち、自らの生活空間の内外にあり、単に調和的バランスを
発揮するのアアアアア、主体的なけじめをつける行動が瞬時
に可能なことアアア、時にあいまは必要アアア、両刃のつるさで、それ
使えな人間にもなりえます。要は、けじめ、分別をもつ、オホオホオ
本能的アアアアア、分際をわきまえ、格調高くものごとに対処す
ことアアア。転換と集中が必要ともいえます。

こうした時々々のあり方の根柢には、行動の源、エネルギーアアア奇
を常に絶対的普遍性に向け、燃え尽せていなくてはなりません。
率なことに、我々は、やり直し、再出発を許容する文化をもちあわ
せています。ネジを巻くこと、そのエネルギーを解放することアア
可能アアアアア。この三月、四月は、皆様の誰もが、ネジを巻
直すはずアアア。皆さんは、インパクトにアアアアアアアアア
まは。来年の今アアア、オホオホオ、らしくなりかけているアアア。

明治大学政治経済学部

しかし、三日三月三年、またまた「ネジ」の巻き直しの機会はありません。そして、生34のリズムが形成されていくことでしょう。生34のリズムには、また新生、スタートが、これもこのボリウツにありますが、職業によって、これはやや異なるのが、例えは私の場合には、八月です。早く、このリズムを意識的に見出すことが必要でしょう。

もう一つ、生活空間の内においては、一引き、二才、三学問ということがあります。引きは、文字通りでありますのも、大く人間関係ということでしょう。才は、自らの気の大きさを含めた可能性です。学問は、新たな知識です。一、二、三の順に、必須の自らと自らのなりうるものとすべく条件であります。

日本人道自称家元として、免許皆伝のセントを授けます。大く伝播させ下さい。もう一人、新たな流派を創設することもあもろいでしょう。

進コンは、これからの新巻のステップとして、食みましよう。酒はみぎであり、ふたれいものです。

私は、航空母艦のようなもので、これからは三十年近く、明治大学におります。また、ハードル競争のハードルをのりて、飛び越えたいものでもあります。しかし、私自身も引退してハードル競争に参加してあります。と、のように、私も含め十年後、二十年後は変わっていくでしょう。で、これは、互いに確かめ合いたいものです。

とにかく、心から健闘を祈ります。

明治大学政治経済学部

私自身、大学を卒業後は会社勤めを長々と続けてきました。このプリントのことはすっかり忘れていたのですが、折に触れ「三日三月三年」と自分に言い聞かせてきたように思います。ずっと心に留めていたこの言葉を知ったのは、この先生からのメッセージだったのだと思い当たった次第です。

もちろんこのメッセージだけではありません。実に多くの教え、示唆をいただいてきました。当時はさほど気にとめなかったことも、振り返ると、その意味合いに今更ながら合点したりもします。まさに航空母艦でした。ありがとうございました。

6. 穴田ゼミの思い出

高田 誠一

わたしが穴田ゼミに入った動機は、この社会に生きにくさを感じていたからだとも記憶している。中学生、高校生と成長するに従ってこの日本社会に閉塞感を強く感じていたように思う。先輩後輩の関係、授業内容、細かい校則、社会にあるべき姿に収まることを求められているようで、自分がやりたいこと、ありたい自分に制限されていると感じていた。アメリカの高校に交換留学したのも自由さを求めて、そこに心の自由の新天地を求めていたからだと思う。帰国後、大学に進学し3年次にゼミに選んだのが穴田ゼミ=日本人の社会的性格。この日本社会がなぜこう在るのか？ それは変えられるのか？ を考察したかった。日本人論の名著をテキストに考察する。「菊と刀」「甘えの構造」「タテ社会」など、ゼミでの考察は面白かった。断片的に見えていた社会の在り様のそのメカニズムを垣間見たようにだった。マイナスの要素で覆い隠され批判的にみていた日本社会に改めて興味がわいてきていた。

3年生の冬に日本社会と比較するために中国の杭州浙江省に研修旅行に参加した。先輩の四年生とふたりひと組に分かれ農家の各家庭に宿泊した。外国人が初めて入るといふ村、そこは選ばれた成功したモデル村なのだろう。3姉妹がいる家庭が私たちの宿、自信ありげにお宅の内外を紹介してくれた。コンクリートの家には、ガラスの入ってない窓、手すりの付いてない階段、それはまだ未完成に見える。しかし住みながら少しずつ完成させていくという。大きなステレオセットなどの家電や家具も自慢の持ち物。解き放立てたドアの玄関を入るとその先は土間。そこはテーブルと椅子が置かれたダイニングだ。足元にはニワトリが外から自由に出入りしていて、食事時には人が落とした食べ残しをついばむ。こぼしたというより魚の骨や野菜の心をテーブルの下に捨てている。ひとが食べない食品はダイレクトに家畜に回している、生ごみにならない。効率的だ、おおらかというか大陸的というか、大胆だ。しかし理にかなっていない。

またその頃はひとりっ子政策の真っ只中だったのでその農家は罰金を払ってでも人手の多さを優先して三人も子供を育てているといていた。調査旅行中は政府から送られた通訳が私たちと住人との間に入りコミュニケーションを取っていた。監視役としてまた余計なことは伝えないようにフィルターの役割として完璧な存在だと感じた。

4年生になり卒論のテーマに選んだのが日本の教育制度、わたしは日本の教育制度では教える内容に関して充分でないとの立場を取った。学ぶべき基礎的な知識をお互いに共有していないと十分な議論が出来ないとの意見である。他のゼミ生からは批判もあった。学ぶ側が自主的に学ぶ項目を選べばいいとの立場からだった。穴田先生は両方の意見も正しいとの見解だった。結局わたしは卒論未提出のまま卒業した。ゼミの2年間では穴田先生からは自由にさせてもらった。若いゼミだから学生にしてあげられることは限られていると、いい評価で卒業させていただいた。大変感謝している。

卒業後は現役ゼミ生たちとの会合に度々お誘いいただいた、後輩たちとの交流は母校に立ち寄る機会をいただき、学生時代の自分を顧みるいい機会であった。いま思い返すと、先生は常に優しい眼差しとゆっくりした温厚な口調で話されていた。その在り様に感謝したい。

現在、私はディズニーの日本支社に勤め、東京ディズニーリゾートで運営管理の職に就いている。ライセンシーの運営会社にディズニーのフィロソフィーやスタンダードを解き、その遵守を促している。

穴田ゼミにて考察してきた日本人の社会的性格はこの米国の会社と日本の会社との間の異文化コミュニケーションに大変役立っている。またディズニーパークを一つの社会実験の場としてみると。パークの中では人の心は緩み、解き放たれていて、知らない人同士でも手を振りあったり、小さなお子さんに声を掛け合ったりする姿が見える。安心して人と関われるシーンがある。ここでのゲストの行動や心のありようがパークの外の社会にて再現できないのだろうかと思う。人間の本性には誰とでも仲良く安心して暮らしたいと心の奥底にはあるはずだ。しかし日本社会の多く、特に都市部では必要以上に憶病になり他人と仲良くすることに慎重になり、それはリスクが高いとの評価を持ち躊躇しているのではないかと見える。

穴田ゼミでの学びは今も私の社会の観点として生かされています。誰でもより生きやすい社会を目指して。

穴田先生の優しいまなざしとともに。



写真1 : 合宿での集合写真1

写真提供 : 高田誠一氏



写真2 : 合宿での集合写真2

写真提供 : 高田誠一氏



写真3：合宿所での穴田先生とわたし

写真提供：高田誠一氏



写真4：合宿所でのリラックスしたひと時

写真提供：高田誠一氏

写真5



写真6



写真7



写真5～7：杭州浙江省

写真提供：高田誠一氏

7. 穴田先生のことばのわざ（業）

塩谷 尚正

穴田先生とのご縁が始まったのは1999年の11月下旬、翌年度からのゼミ所属が決まった時だった。その時から穴田先生の幾多のことばが蓄積されてきた。そのことばには、厳しさと優しさがあった。

第1回のゼミで数分の遅刻をした学生に「やめるか」とおっしゃり、空気が緊張した。すぐに「コンパをやりましょう」ともおっしゃた。実際に2年間で何度もコンパやゼミ合宿があり、そのたびにゼミの一体感ができていった。輪読に指定された教科書は「大学院レベルの内容」とのことでハードルの高さを感じさせられた。しかし「時間をかけて取り組めば、みんな大きく変身できるし、レベルアップできる」ともおっしゃり、安心感や自信のようなものも与えていただいた。

「いつでも研究室に来てください。お茶を出すので雑談をしましょう。」とおっしゃった。いつからか、私はしばしば研究室を訪ねるようになった。堂々と雑談をしに行けるほど素直ではなかったので、口実として何かしら質問を用意していった。先生はご自身を「拡散思考なもので」とおっしゃって、議論も話題も様々に展開された。同期のゼミ生が、それぞれ同じように研究室に通っていた。

お好きなことはサッカーと「お笑い」を観ることで、大阪出身の私に「笑いの本場だね」と、様々な芸人やネタの話をしてくださった。その知識は尋常ではなく、私はほとんど口をはさむことができなかった。

当時は「常識」や「けじめ」を研究の主題にされていた。その時々で出会われた「常識のないふるまい」「けじめをわきまえない者」に対する嘆きを、よく聞いた。やや、べらんめえ口調の「冗談じゃないよ」「困ったもんだよ」「ふざけるんじゃないよってやつだよ」などを聞くたび、私は相槌を打ちながらも、自分がその対象にならないようにしなければ、と気をもんだ。それらの苦言をしかめ顔で存分に繰り出された後は、一転して茶目っ気たっぷりの笑顔で「ごめんね、口が悪くて」と続くのもお決まりだった。

「ごめんね」も、よく使われたことばだった。先生は一日数回の腹膜透析が必要だった。その時間に訪ねてしまうと「ごめんね、こんな格好で。どうぞ座って」。あるいは、体調がすぐれないときでも飲み会に参加してくださり、十分にお付き合いくださった後に「ごめんね、先に帰るね」。いつでも私たちのことばを拾い上げる構えをお持ちだった。

研究室ではいつもコーヒーを淹れてくださった。けれど、私はそれほどリラックスできていたわけではない。それでも訪ねていってしまうのは、何かにつけて穴田先生のことばを聴きたかったからだ。父と年齢が一つ違いで、似ているわけではないけれど、重ねてしまう気持ちがあった。

先生のことばで人生が変わった。就職の内定の報告をした際には「おめでとう、よかったね」と「少し残念でもある」とおっしゃった。就活に苦戦していた私に「大学院への進学も選択肢ではないか」と考えてくださっていたという。自分では考えもしなかったし、適性があるとは少しも思えなかった。

しかし、そのあと2回、同じことばをかけていただいた。次は、提出後の卒論のフィードバックだった。独特の崩れた字体で「進学できる力は十分にある」と書かれているのを見て、嬉しさに震えた。そして最後は卒業して3年目、OB会の前に研究室にお邪魔して近況報告をしていた時だった。「大学院に行ったらと今でも思っている」と言われ、本心のことばだと感じた。期待にこたえたいと思った。退職し、進学することを決意した。

進路変更を決意したのは、穴田先生のようにになりたい、と強く思ったからだった。

社会人として仕事を通じて何を成せるのかと考えていたそのころ、穴田先生のように若者の個性を伸ばし、背中を後押しして、社会に踏み出す力を育てることができるとしたら、このうえなく素晴らしい仕事だと思った。私は穴田ゼミの2年間で成長を感じ、自信を得て、社会に出ていくことに前向きになれた。私の志は穴田先生のことばから生まれた。

本文の題に用いた「わざ（業）」には、「しごと、しわざ、おこない」といった意味がある。私が大学教員となれたのは、幸運によるところも大きいですが、何

より穴田先生のことばに導かれ、後押しをいただけたからこそだ。同じように先生のことばに強く影響を受けた人は、私が知っているより何十倍、何百倍と多いに違いない。

私は今、ますます先生のことばが聴きたくなる。学生への指導のあり方はこれでよいのでしょうか。学生にどのように接したらよいのでしょうか。わからないことがどんどん出てきます。どうしたらよいのでしょうか。どうか、教えてください。

先生がこの世を去られたことを、まだ受け入れられずにいる。しかし前へと進まなくてはならない。そのためのことばも、すでに先生からいただいていたのかもしれない。

「卒業してからの付き合いです」。

このことばがあったから、大学卒業後も先生の研究室を訪ねることができた。仕事をして、生活をして、時々のことを報告し相談し、また日常に戻る。その循環がずっと続くと思った。

まだまだ先生のことばが聴きたい。その気持ちはどうしようもないが、今が2度目の卒業で、本当の付き合いの始まりなのかもしれない。

「いつも応援しています」。

私はこれからも、迷いが生じたらころの中で穴田先生にお尋ねするだろう。そして聴こえてくることばを支えにして、また前へ踏み出す。そうして日々を過ごし、いつか報告をして先生から直にことばをいただきたい。

先生。ゆっくり休んでいただきたい気持ちもあるのですが、これからも、ご指導ご鞭撻をいただきたく思います。どうぞよろしく願いいたします。

8. 追悼文

竹本 純一郎

先生、長い人生お疲れ様でした。

明治大学の教授として数多くの教え子を卒業させ、充実された人生を送られたかと思います。

私の先生との思い出は、長野や沖縄でのゼミ合宿もありますが、研究室にお邪魔しての雑談でしょうか。先生は私の父と同年だったため、何となく私にとっては親近感があり、時に父とは違う厳しさと優しさを持っていらっしゃいました。就職先のコネは無いから自分で探してください、と言われたことは特に印象に残ってます笑。

卒業してからも毎年ではないですが、数年に一度 OB 会でお会いさせていただきました。

仕事で古着を東南アジアに輸出しようとした際、明治大学は東南アジアからの留学生も増えているお話を先生からいただき、お忙しい中、ビジネスの可能性を模索していただきました。

この場をお借りして、御礼とともにご冥福をお祈りいたします。



写真：卒業式の後、研究室にて

写真提供：塩谷尚正氏

9. 明治大学政経学部穴田社会心理学ゼミナールの思い出

遠井 雄史

穴田先生との出会いは大学一年の一般教養「社会心理学」の受講から始まりました。若くして教授になった社会心理学教授の開口一番は、「皆さんは本を読みますか？漫画でいいです。とにかく読んで、漫画に飽きたら本を読んでください。」という驚きの一言から始まり、次の言葉が、「私の授業では物を食べながらも飲み物を飲みながらも気楽に聞きに来てくれればいいです。」と、これまた大学生になりたての私には衝撃的な切り口でありました。

三年生になりゼミ生の生活も始まりました。ここでまた驚かされた先生の一言は、「自分のゼミでは討論に参加していれば、飲み食い喫煙自由にしてもらって構わない。自分も好きにやるから」という今ではあり得ない自由度の高いゼミでした。社会心理学という枠ではなく、日本人の国民性の探求というゼミのお題目はどちらかという文化人類学の範疇のものではありましたが、「ことわざ社会心理学」という冊子に代表されるように、穴田先生の「ことわざの採集」から見えてくる日本人の在り方を導き出そうという面白いアプローチでありました。記憶している唯一の先生からのお叱りは、討論の主題についてゼミの時間の半分くらい一人で延々と語った後、先生に「40分も一人で喋るんじゃない！」と言われたことがありました。

我々穴田ゼミ第4期生、ゼミではまとまりはなかったのですが、飲み会にはまとまりがあり、学生だけでも、先生も連れ立っての飲み会を月に一度以上のペースで企画し、明治の学生の合言葉である「アミで待つ」の派生で、我々のゼミ生の間で「CABINで待つ」という言葉もあったほどでした。ゼミの合宿に行くと持ち込みの飲み会が始まり、麻雀が始まり、延々と先生と話をする時間が、それこそ永遠に続くような感じだったのです。



写真 1 : 飲み会にて

写真提供 : 遠井雄史氏

沖縄は名護市饒平名での調査に4月一杯滞在していましたが、調査もあと3日で終わる頃に先生の具合が悪くなり、一緒に帰京できない状況になり、その後ゼミで、研究棟で先生に会うと、時候の挨拶のように「いやあ～具合悪いよ」と聞き続けているうちに我々は大学を卒業しました。

大学を卒業してからも時間を見つけては研究棟に顔を出すようにしていましたが、本格的に具合が悪くなり、臓器移植から戻るとまた元気になられたようでした。大学教授を退職するという連絡を頂き、再び顔を出すようになり、2017年に退職記念パーティをお手伝いしたこと、そしてその後のNPO法人の活動としての講演会の送り迎えで、ゼミ以来の長い時間先生と話をする時間を持たたのはいい思い出となりました。最後にご馳走になったのは「とんでん」のいわしの握りでしたね。

先生、せっかちでわがままなのは知っていたけど、今回は早すぎませんか？

「一期一会」ではありましたが、少なからず、「蛙の子は蛙」になれたかな？と還暦を目の前にして、こうしてわが師の恩を振り返らせていただきました。



写真 2 : 記念撮影

写真提供 : 遠井雄史氏



写真 3 : 麻雀風景

写真提供 : 遠井雄史氏

10. 出会いの糸に引かれて

藤村 美織

穴田先生と最初に出会ったのは 35 年以上も前のことです。私は学生時代からドイツ語のことわざに関心を抱き、「ことわざ研究会」の活動にやがて参加するようになりました。穴田先生とはその会で出会いました。毎月、多面的なテーマに触れるなか、先生のアプローチには特に惹きつけられました。当時、先生のご著書、『ことわざ社会心理学』(1982 人間の科学社)を繰り返し読んで、一つの指針としたものです。個人と社会的パーソナリティの問題については、今日に至るまで私を捕らえて離しません。

大学卒業後は東ドイツとの文化交流団体に働きましたが、民主化運動が起こり、1989 年壁開放、翌年ドイツ統一と怒濤の日々が続きました。その後、団体は解散、フリーランスとなり、二足の草鞋を履きながらも、ことわざへの Liebe を抱えていました。当時、ドイツ統一前後のことわざの変化については、今はなき『月刊言語』(1992 年 5 月号、1996 年 7 月号、大修館書店)や『ことわざ学入門』(1997 遊戯社)に執筆しました。ことわざ研究会編のこの本には、穴田先生も「社会科学とことわざ研究」について寄稿されています。

さらに研究会の活動のなかで、例えば会報第 45 号(2000 年 9 月 29 日発行)に私は巻頭言を寄せて、「いつの世も愛情は胃にしみこむ!？」というタイトルで、一つの諺について小さなアンケートをまとめていました。その会報の短信に、「食卓をめぐる～ドイツの諺を中心に～」、同年 6 月 23 日、明治大学リバティタワーで例会報告したと記載がありました。今でも覚えています。穴田先生が参加されて、コメントしてくださいました。先生の最後の言葉は忘れていません。「これは面白いから、ぜひ続けるように」と。この「面白い」という言葉がどれだけ励みになったことでしょうか。

しかし、その直後から私は時間がますますとれなくなり、ことわざ研究から遠ざかっていきました。ドイツ語を高校で教えながら、視覚障害の夫の国際事業に携わったからです。2000 年代初め 10 年以上、年間 8～10 回は海外出張に同行しました。その間にことわざ研究会は二つの学会へと分かれ発展しました。いったん離れましたが、海外への同行が減っていくと、ことわざへと自然にまた向かっていきました。

2015 年 9 月 26 日、明治大学ことわざ学研究所と日本ことわざ文化学会の主催によるシンポジウム「ことわざ学を巡って」に久しぶりに出席しました。そ

の資料が手元に残っています。当時、日本ことわざ文化学会の会長は穴田先生でした。先生は、NPO 法人 郷土のことわざネットワーク・ことネットの企画、「小さな地域のことわざ風土記（民俗誌）の作成—山梨県北都留群小菅村における事例—」というテーマで、ことわざの定義、社会科学としてのことわざ研究、ことネット設立、そこでやるべきことを鮮明に打ち出しました。私は、自分の課題を再確認して、ことネットに入れてもらおうと決めたのです。

また、学会のプロジェクトとして、ことわざの国際比較にも参加するようになり、その流れで月例会にも出るようになりました。2017年10月28日、私が翻訳した絵本を軸にナチスとことわざについて明治大学のリバティタワーで報告しました。この日、穴田先生は最初にいらして、教室の鍵をあげ、最後まで見守ってくださいました。先生と再び交わりができるようになり、「ミニマムで学ぶドイツ語のことわざ」（2019 クレス出版）出版の際は、メールでありがたいメッセージをいただきました。

そして、2019年夏ごろ、ことネットの活動において、翌年のリバティアカデミーの講座で私も講師の一人となる機会へと発展していったのです。このやり取りの際、夫の出張に同行しブータンにいた時と重なり、明治大学に提出する写真は現地のもとなりました。テーマは、かつて穴田先生から力を得た「食」にすることにしました。ところが、2020年、2021年とコロナに見舞われて、延期されたのです。結局、実現したのは2022年7月11日のことでした。明治大学リバティアカデミーで、「ドイツの食文化とことわざ」についての講座が無事に終わるとすぐ、穴田先生に手紙で報告しました。

まさか、その直後、先生の訃報に接するとは思ってもみませんでした。途中、空白期間のあった私はギリギリのところのことネットに加わり、先生の講座の一員にさせていただいたこと、奇跡のようです。最初で最後になってしまいましたが、私にとって特別な講座となりました。そして、まだ終わっていません。2020年から、中尾先生、立柳先生のお導きで、ことネットの長野調査への準備を進めてきました。コロナで延期となり、私が小田切地区へ初めて足を踏み入れたのは、2022年11月でした。三福寺ご住職の櫻井様と会って、お話を伺うなかで穴田先生の姿が何度浮かんだことでしょうか。櫻井様ご夫妻はもちろん、その日にご紹介いただいた方からも先生への信頼、これまでの絆を深く感じることができました。ことネットのメンバーだからこそ、先生の七光り（！）で、私もあたたかく迎えていただきました。小田切地区での調査は、まだこれからです。これまでの絆を大切に、先生の応援をしっかりと受けとめていきたいです。ご遺志を少しでも受け継いでいかれますように！

11. 「馬鹿は、要らん。」Tシャツ

川島 洋

大学院時代、学部のゼミに参加させてもらおうと教室に行くと、穴田先生がゼミ生達に「私は“馬鹿は、要らん”などと言っていない!!」とお怒りのご様子。どうやらゼミ対抗球技大会に出場するために作ったお揃いのTシャツについて怒っているようです。

そのTシャツがこちらです。



写真1：馬鹿は、要らん。Tシャツ

写真提供：川島洋氏

わたしは事前にゼミ生からデザインを教えてもらっており、「馬鹿は、要らん。」が面白いと思ってわたしも購入していました。

穴田先生としてはコンプライアンス的に、こんなTシャツを着て球技大会に出られたらたまったもんじゃない、ということで怒っているのですが、「私は“馬鹿は、要らん。”などと言っていない!!」とムキになっている穴田先生の様子がどこか可愛らしく、わたしは心の中で爆笑していました。ゼミ生達は下を向いて黙っていましたが、わたしにはゼミ生達の“心の叫び”が聞こえてきました。

穴田先生：私は“馬鹿は、要らん。”などと言っていない!!…

ゼミ生：いつも言ってるじゃん…(心の叫び)

ゼミ生：もうTシャツ作っちゃったし…(心の叫び)

ゼミ生達の心の叫びのとおり、穴田先生はゼミの時によく「馬鹿は、要らん。」と言っていました。穴田先生はゼミ生達に、「実際の場面・瞬間に自分自身で臨機応変に時と場合による適切な判断・決断ができ、知識を自在に駆使できる知

恵を持ったバランスの大人になってほしい」という話をよくされてきました。この文脈の中で、これが出来ないといくら勉強が出来ても社会に出た時に“馬鹿”と思われ“要らん奴”と言われちゃうよ、ということを表す時に「馬鹿は、要らん。」ということばを使っていました。

コンプライアンス的には問題があることばですが、江戸っ子の穴田先生らしい表現でこのことば、わたしは大好きです。わたしにとっては今でも教訓となっています(まさにことわざです)。

この日もいつものようにゼミが終わってから穴田先生と飲みに行きましたが、「まったく学生達には参りますな」と笑いながら穴田先生はビールを飲んでいました。

さて、ここで問題です。ゼミ生達は球技大会当日、このTシャツを着用したでしょうか？

正解は…「着用した」です。でも「馬鹿は、要らん。」と書いてある部分にガムテープを貼って見えないようにして着用したそうです(タトゥーかよっ！と感じですが)。まあ、臨機応変に適切な対応をしたんですね。さすが穴田ゼミの学生!!



写真2：穴田研究室にて

写真提供：川島洋氏

12. 穴田先生に学んだご薫陶 ―学問は厳しくあるべき！

中畑 充弘

私にとって穴田先生とは、一言に「厳しい先生」であったことに尽きます。「厳しい」というのは無論、「学問的に」という意味です。ご晩年こそ気さくに話しかけてくださり、調査で一緒させていただいた折も学問以外にも世間話も含めた談笑が絶えませんでした。穴田先生は小生のライフコースの節目にいつも高く大いなる‘壁’として立ち塞がったのです。とりわけ、小生も含め人類学系の当時（2000年前後の入学）の院生たちは、事例の羅列が分量を多く割くなかで分析が乏しいとよく叱られたものでした。

小生の博士後期課程の入試では、口頭試問の際の副査を担当され、非常に厳しいお言葉を頂戴したことが思い起こされます。とりわけ、後期課程2年時、2002年の春期に投稿した親族の組織と機能に関する論文は、穴田先生より痛烈な‘ダメ出し’を喰らいまして（苦笑）、若かりし小生は何度も食い下がりました（笑）。しかしながら、そこで穴田先生が敬服に値しますことは、その論文のままではどうしてダメなのか、何が足りないのか、論理整合や統合性・一貫性に矛盾はないかなど、懇切丁寧に詳説して下さったことです。当時の小生のような一介の院生に対し、ご自身の研究室に呼んでくださり貴重な時間を割いて下さったことは（小生の直^{じか}の指導教官ではない教授というお立場からしても）決して当たり前なことではございません。小生にも反駁の余地を与え、その後、喧々諤々と学問について論じ合い、小生の拙論にも真摯に傾聴して下さり‘議論に上下なし’を実践して諭して下さいました。

もう、20余年も前の話ですから詳細は覚えておりませんが、確か小生が「正／不正」、「善／悪」の間に、そして「個人」の目的と「社会」の目的との間に「道徳」は介在する、といった内容で、穴田先生は、もちろん欺様に解釈もできるが「道徳」それ自体が社会の目標となり得る、こともあるといった主旨でした。これまた、どういう文脈であったかは既に失念しておりますが、当時は悉^{みづ}に腑に落ちたことだけは記憶しております。同日、帰宅するや否や論文を大幅変更どころか、ほぼ構成から全改訂すべく着手し、ほぼ不眠で数日後に穴田先生に再提出し、再びご査読後、穴田先生から「直したものであれば掲載可能としましょう」といったお言葉を賜ったときは殊更、嬉しかったものでした。

同時に、小生はこのときに学問の厳しさや崇高さ、または堅忍不拔が返報したり、実を結んだりすることもあるのだな、と身に染みたまものでした。そして何より、小生のような不束者としてしっかり向き合ってください、的確なアドバイスやご指導をいただいた得難いプロセスが、論文一稿をも^{ゆるが}にできないことを拝領した貴重な経験となりました。この貴重な経験がなければ、きっと今でも小生は、^{スペック}仕様もない消耗品ないし（言葉は悪いですが）‘排泄物’のような論文を量産して満足するだけに留まっていたかもしれません。

また、前期（修士）課程では確か、人間関係の範囲と距離感に関する講義（社会学研究Ⅱ）を履修・受講いたしました折、ジュースの持ち込みも可でフレキシブルな講義が展開されていたことを覚えております。小生が云うのもおこがましいのですが、とにかく穴田先生は概念整理がうまく図示を交えて体系化なさる作業やご考察がひと際、参考になりました。

穴田先生は講義後、必ずといってよいほど学校周辺での飲食店で懇親会が行われ小生も時折、参加させていただきました。あの、厳しい論文指導・試問での叱咤はどこへやら・・・、分け隔てなくどなたにも優しく接していただき、終始ビールを片手に目を細めていらっしゃった穴田先生のお姿が本当に今でも忘れられません。

当時、大学院生は修士課程でも1学年に数人しかいませんでしたので、今でも穴田先生の門下の先生方、院生 OBOG の方々とも親しく交流させていただいております。

今となっては、同行させていただいた長野の調査が最後の思い出となりましたが、おみ足を悪くされているなかでの調査にたいする並々ならぬ情熱に魂を揺さぶられました。そういった穴田先生の背中をみて後進たちは感化されたのだと思います。

最後になりますが、穴田先生から教えを受けた者のひとりとして、やはり学問は厳しくあるべきだと思います。時々の苦悩や難儀の克服を経験しないとブレーク・スルーすることは叶わないからです。

真剣に叱ってください、どこが問題なのかを指摘してください、どのような

方法論を用いてガイドラインを示すのがよいか、ということと学生と議論を重ねながら、（学生目線からも理解できるよう）丹念に紡いで論を展開していくことの大切さを学びました。また、論述するうえでも必要な敷衍を施しながら首尾一貫した概念提示や論理整合性に用心し、解釈に無理はないか、など慎重を期す必要性を穴田先生から学び取りました。



写真1：長野調査の風景

写真提供：中畑充弘氏

当然のことながら、思想自由、独創性の重視、多様性の時代のなかにあっても、論文の「形式合理」や堅固な「構造的性」は普遍的に守られるべきであり、こうした体裁ないし約束事を等閑視しないまでも、私見では、厳格に、さらに懇切丁寧に指導する先生は近年少なくなっているのではなかろうかと感じます。穴田先生は、決して黙殺することなく不足を指摘し、不用意を叱り、ときに褒め、学生と正対し、学生と共に問題に対峙してくださいました。かような先生が逝去なされたことは本当に寂しい限りでございます。今一度、叱っていただいた思い出、お優しいお言葉を戴きました有難みが身に沁みます。

穴田先生に受けました数々のご薫陶、学問観を胸に、今後も研究活動を続けてまいりたいと思います。本当に幾多のご高説、叱咤激励をありがとうございました。どうぞ、安らかに眠りください。合掌

13. 邂逅—穴田先生との34年—

立柳 聡

(1) 先生との出会いと運命を実感したこと

穴田先生に初めてお会いしたのは、自分が明治大学の大学院に進学した1988年4月のことでした。マスターの1年目は規定の単位修得のため、複数の科目を履修しなければならず、すでに社会人であった自分には、そのための時間のやりくりは結構大変なことでした。

このため穴田先生の授業の履修は2年目にさせていただいたわけですが、1年後に遅れて入学してきた後輩と二人、穴田先生が担当する授業を履修する最初の大学院生となりました。先生は、仕事を終えて駆けつけてくる自分ために、夜に自分の研究室で講義する方法を提案され、そのために専用のホワイトボードまで購入して対応して下さったのです。深い感謝の念でいっぱいであったことを、今でも折に触れて思い出します。やがて、研究会の終了後などに一献かわす機会も増え、打ち解けるほどに、先生の気さくなお人柄にも魅かれて、何かと相談に乗っていただくようになりました。

自分にとって、こうした相談が生み出した最も重大な成果が、博士後期課程から東洋大学の大学院へ進学したことであったことは間違いありません。当時、自分が興味を持ち、研究を深めたいと思っていたテーマと関わって、指導できる研究者が限られていたことから、博士後期課程の進学先を見つけることは難題でしたが、穴田先生が東洋大学の高橋統一先生を推薦され、お陰様で試験にも合格して、東洋大学大学院へと移籍した自分は、高橋先生の厳しい指導の下、一方では、その後、今日に至るまで懇意にご指導いただくことになる良き先輩方や留学生、友人たちと出会い、切磋琢磨したり、一緒に研究会を立ち上げたりするなど、とても充実した大学院生時代を過ごすことができました。そして、こうした伏線の先に、博士学位の取得や福島県立医科大学への就職の機会を得ることもできたのでした。もしもあの時、穴田先生の推薦がなかったら、一体、自分はどんなことになっていたのだろうか、その後の人生の折々に振り返るほどに、先生の恩に尽きることのない感謝の思いがこみ上げてきます。先生はまちがいなく自分の人生に決定的な影響をもたらした方の一人です。

さらに、たまたま福島県立医科大学に就職したのと同じ年度から、明治大学の資格課程の非常勤講師としても採用され、毎週のように明治大学へも通うことになったことから、時折穴田先生の研究室におじゃまさせていただいてきました。お話し好きの先生からあれこれ伺って、新たな研究のヒントをいただき、

後輩である院生の皆さんとの出会いと付き合いも絶えることなく、長々有意義で楽しい時間を過ごさせていただきました。

加えて、本をまとめることに巧みな穴田先生は、次々と本を出版されてきましたが、新刊が出る度に、ご恵贈に与り、とても恐縮でしたが、それ以上に、常に先生に覚えていただいている、先生の視野の中に自分があることを知り、大きな心の支えになっておりました。重ね重ねの感謝ですが、こうしたかれこれお34年に及ぶ穴田先生とのお付き合いを通して自分が学んだこと、悟ったこととは…

(2) 出版という研究成果のまとめ方を通して、社会科学の独自性を極める

自然科学の頂点のような医学の専門店である大学に赴任してかれこれ四半世紀に。医師や看護師である多くの同僚との付き合いを通してしみじみと実感するのは、社会科学の世界の常識と彼らのそれとのギャップとも形容すべき大きな違いです。社会科学は森羅万象に対する多様な解釈なり理解、それを踏まえた認識のあり方に注目し、それぞれの裏付けとなっている合理性を捉えると共に、それらに共通することとは何か＝普遍的な捉え方＝人類が当該の対象の本質として把握していることを明らかにしようとする知的営為です。これに対し、自然科学は、自然法則に基づく因果関係を明らかにすることを専ら目指しています。数式やグラフ、定理で表現できるような、優れて客観合理的な認識の世界であり、これらを駆使して表現された数ページの論文でも、ノーベル賞の価値を持つことがあります。しかし、こうしたことは社会科学には概ね不可能です。自由な観念操作で生み出される多様な解釈や理解の説明や紹介は、相応の長さの文章として、言語的に表現するしか方法がありません。社会科学の研究成果は、論文よりも本としてまとめ、発表する方が適しているのです。しかも、自由な観念操作で生み出される多様な解釈や理解は間々主観的なものであるもので、当該の対象の本質を捉える作業は、複数の人間で議論を積み重ねながら丹念に進めていくことが大切です。社会科学の本は、単著ではなく、共著が望ましい理由がここにあります。

振り返って、穴田先生が刊行された本は、単著のものもありますが、研究会での議論を踏まえ、複数の研究者などによる共著の形態をとったものが多くあります。特に、折々の院生たちやゼミの学生たちと共にまとめられているものが目につき、個人的には、そこに重要な特色があると考えてきました。結局、穴田先生は、研究会活動や本の刊行作業を通じて、社会科学を究めると共に、それがどういう世界であって、それ故に、どのように研究成果をまとめ、世に

問いかけていくべきかを、無言のうちに院生や学生に伝え続けていたのだと思えてなりません。気が付けば、自分の本の作り方もまた、同じ方法になっている…今後ともそうした先生の教えを受け継ぎ、良書の刊行に尽力して参りたいと思います。

(3) 質的研究の教育手法・研究方法としてのことわざ創り

一方、教育手法、研究方法として穴田先生から学び、しっかりと発展的に継承して参りたいと思っているのは、創作ことわざ、もしくは、ことわざ創りの取り組みです。これらの詳細は他の章で紹介されていますから省略しますが、ことわざを介して森羅万象に対する人々の思いや認識、価値観を浮かび上がらせることができることを知り、大変驚かされると共に、強い関心を引き寄せられたのは、1990年代前半のことでした。やがて自分もまた主体的にこの手法を用いた教育や研究に取り組むようになり、今日に至っています。

穴田先生からのお誘いを受けて、『もうひとつの日本人論』（1996年）の執筆者の一人となりましたが、当時の自分は児童館に勤務する児童厚生員でもあり、ここにやってくる子どもに呼びかけ、「ことわざを創って遊ぼう！」と呼びかけ、主に小学生の子どもの創作ことわざを集め、分析し、子どもの内面を考察したのが、忘れがたい最初の取り組みでした。

その後、1999年に、福島県立医科大学看護学部へ赴任した自分は、その年から1年生の「社会学」の授業の一環として、ことわざ創りを導入しました。「創作ことわざ—看護学部学生気質調査—」の主題の下、自分たちが創ったことわざという質的データを用いた社会調査を学生たちに体験させると共に、自分もまたそれらの分析と考察に取り組むようになりました。そして、学生たちが創ったことわざを、創作ことわざ集として冊子にまとめ、新刊ができる度に、穴田先生にお届けしてきました。先生の喜ばれた表情が、印象的でした。

それが毎年のように繰り返され、気が付けば10年を超える月日が経過していました。またまた穴田先生からお誘いを賜って、『ことわざDE社会心理学の探究—現代日本社会における常識という社会意識を考える—』（2009年）の執筆に加わることになりましたが、看護学部学生の創作ことわざ集も部数を重ね、データも豊富になっていたことから、経年の変化も視野に、看護学部学生の学生気質についてまとめ、寄稿させていただきました。

思えば、この間も穴田先生から新刊が出る度にそのご恵贈に与り、感謝と恐縮の思いで読み、学ばせていただいていたわけですが、その成果もあってか、この本では、自分なりのことわざ分析のスキームを提示させていただきました。

大きな挑戦でしたが、手ごたえを実感し、その後今日に至る自分の研究手法の一つとして引き継がれています。例えば、2000年代半ばに、穴田先生と一緒に取り組んだ山梨県小菅村での民俗調査、社会調査のデータ分析にも活かされることにもなったのです。

ことわざ創りは学生たちにも好評で、毎回、楽しみながら取り組む様子が、分析・考察の成果をまとめたレポートなどから伝わってきます。やがて、主に統計的な手法・量的調査になじむことが多くなる看護学生たちですが、創作ことわざの分析と考察は、質的調査の面白さや意義を伝える重要な教育手法になっています。そして、自分もまた、ことわざが社会科学の真理探究において、極めて有効なデータであることに確信を持つようになりました。

(4) ご恩返しに向けて

このように振り返ってみると、穴田先生から受けたご恩が如何に大きなものであったかがしみじみと悟られてきます。思えば、大学院の授業で「恩」について語られた穴田先生の言説にも覚えがありますが、「恩」は返すべきものであるので、この点について考え、実行していかねばなりません。穴田先生が、自分の一生をかけた学問のさらなる発展を最後まで願い続けていたことは疑いようがありません。それならば、先生の願いと教えをしっかりと継承し、そこに新たな可能性を開拓したり、発展させていくことが「恩返し」なのだと思います。以下にしっかりと取り組んでまいります。

1. 穴田先生と緒に付けた八丈島のことわざ（的な言い回し）の収集と分析を通して、八丈島の文化と社会の特色をめぐる探究を深めること。
2. 穴田先生との最後の共同研究となり、先生には、未完の取り組みとなってしまった長野市小田切地区でのことわざ（的な言い回し）の収集と民俗調査を完成させること。
3. ことわざ収集やことわざ創りを広めていくために、一段と有効な方法を開発したり、それを研ぎ澄ましていくこと。
4. ことわざ（的な言い回し）を用いた社会科学的な真理探究のための新たな方法を開発すること。また、それを文化人類学の世界でも積極的に活用していくこと。

14. 今も研究室のドアは開いている

柴田 耕一郎

穴田先生、いつも応援くださり有難うございます。

「卒業論文集 第6・7集 日本人らしさを考える」のまえがきにいただいた「悔いのない人生を送って下さい。頑張れ、いつも応援しています。」のお言葉を胸に、「良い加減」を極めた大人を目指してしなやかに生きていきたいと考えています。

先生から頂いた言葉の数々は、私にとり全てことわざとして刻まれています。また、同期ゼミ生の生きる指針となっており、今も穴田先生は私たちの中に生き続けています。我々2000年卒業のゼミ生は、2017年のご退職最終講義及び退職・古稀記念パーティにて、改めて旧交をあたためる機会をいただきました。私は卒業後、Uターンにて地元佐賀に戻っており、出張等で上京はするものの同期と酒を酌み交わすことは次第に途絶えていましたので、大変懐かしく楽しい時間を共にすることができたことと思います。当日のパーティ前に立ち寄った駿河台のとある居酒屋に集まったメンバーは、先生の自由な精神に魅力を感じ穴田ゼミに集った、それぞれに個性的で型にはまることを苦手とする学生であったように記憶しています。昔ばなしや近況報告の中で、異口同音に「今も文章を書く時は、『思う』ではなく『考える』を使っている。」の発言に、私は17年以上経った今も先生の教えを皆で実行していることに、先生の影響力を改めて感じていました。その教えで、卒業後の社会人生活を乗り切ってきたメンバーもいたかもしれません。私もその一人です。今、穴田ゼミ出身者の一員であることを誇りに感じています。

私は、佐賀県で生まれ育ち大学入学をきっかけに初めて東京に居を移しました。まずは親からの開放、そして受験勉強からの開放感を満喫し自堕落に生きていたものです。また、田舎から大都市への移動は、生活環境や文化が大きく変わることから、不安や緊張を感じることもありました。しかし、時間とともに東京での生活に慣れ、初めての独り暮らしや大学生活に対する不安も次第に薄れていったように記憶しています。それと同時に、学校とアパート、そしてバイト先の往復の生活にこのままで良いものかと疑問を感じ始めていました。卒業するためのカリキュラムに沿った学びもさることながら、知的好奇心や人生の師との繋がりを無意識で求めていたのかもしれません。

そうこうするうちに、ゼミ選択の時期となり、学生の中に各教授のお人柄やゼミ内容と共に、厳しさなどなどの噂が飛び交い始めました。無知な私は「社会心理学」とは何かなど調べもせず、マーケティングの一種か?などトンチンカンな連想をしつつ、社会心理学という言葉の響きだけに魅力を感じ穴田ゼミを志望しました。始めて先生と深くお話させていただく機会を得たのは、ゼミへの入室試験であったと記憶しています。先生に持った印象は、「少々癖はありそうだが、なんと粋で格好いい人なんだろう、こんな大人はこれまで出会ったことがないな。」というものでした。平気で「つまらないものはつまらない」「バカはきらい」「冗談じゃないよ」「嫌になっちゃうよ」などなど、佐賀の田舎者にとり始めて耳にする江戸弁で発せられました（今も脳内でリピート再生できるほどです）。それらは、一般的な教授が使わないような齒に衣着せぬ物言いで、鬱屈とした気持ちを抱えたまま学生生活を過ごしていた私にとり痛快以外のなにものでもありませんでした。人間的な魅力のある教授に巡り会えたことを有り難く思います。また、ゼミの時間も各方面からの視点で物事を切り取り、学生に示唆を与え続けてくださり、知的好奇心を掻き立てていただきました。また「扉があいていたら、いつでも研究室に来て下さい。」など懐の深い言葉や、「卒業してからが本当の付き合いです。」と温かい言葉をかけて下さり、地方出身者の私には、卒業後も東京への繋がりを持てることを大変嬉しく感じておりました。

そして、現役穴田ゼミ生であった2年間もあっとゆう間に過ぎ、私は地元での就職の道を選ぶことになりました。佐賀に戻ってからは自分の仕事を優先してしまい、上京した際も研究室を訪ねることも少なく「卒業してからが本当の付き合いです。」とのお言葉を思うように実行できずにいました。

そのような非礼な私にも、2015年のNPO法人 郷土のことわざネットワーク・ことネット・総会のご案内、その後2017年のご退職最終講義及び退職・古稀記念パーティへのお誘いを頂き、喜んで参加させて頂きました。ご退職最終講義及び退職・古稀記念パーティには、せめてものご恩返しにと、写真と動画で記録する事を思い立ち、佐賀から機材一式を抱え上京したことを思い出します。後日、記録データを先生にDVDにてお送りしたさいのお礼のメール内容をそのまま記載させていただきます。

件名 ありがとうございました。

お久しぶりです。お元気ですか。

このたびは、DVD をお送りいただきまして誠にありがとうございます。

昨日届きましたので、さっそくすべてを拝見させていただきました。

講演は自分でも初めて見る自分の姿です。

肥満気味であるのと、声が昔と大分違っていると感じたものです。

3月から3か月以上たち、特に何もしていませんがお陰様で6, 7キロ痩せました。

パーティの方は、皆さんの御顔を改めてみることができ感謝の気持ちで一杯です。

孫達にも見せたいと思っております。

本当にありがとうございました。

近況をお知らせいたします。

4月以来、明治大学リパティ・アカデミー講座6回、千葉県松戸市の講座3回、さらに来月は千葉県野田市の講座3回というように、ことわざに関する講座の講師を計10回以上やっています。先週金曜日は小菅に報告書を届けに行きました。近日中に小菅の高齢者学級でも講座に行くことにもなりました。8月末には、立柳さんたちのグループと八丈島にことわざのフィールド・ワークに行きます。NPOの活動にすべく、研究費を申し込む予定です。この執筆は数日ではできないもので厄介です。また、それぞれの講座のレジュメ作成は結構大変ですが、次の本の刊行予定の準備にもなっています。目の付け所や発想は良いが、本としての切り口が教科書的、説明が多すぎるなどと指摘されていることもあり、今度こそとベストセラーをあきらめておりません。

しかし、こうした状況が何時まで続くかは分かりません。

体力の衰えも顕著です。

それでも、もうひと踏ん張りするつもりでおります。

名誉教授になりましたので、東京にお越しの節は明治大学研究棟4階にある名誉教授室でお話ししたいと思っております。

後先になってしまいましたが、柴田さんの益々のご活躍を只々応援しております。

お孫さんに穴田先生の講演の姿をご覧いただけたのであれば本当に有り難く、僅かながら恩返しができたのではないかと感じておりました（本追悼文集内にも、当時の写真を使っただき心より感謝しています）。

また当時、メールの文面から思うようにならない体にも関わらず、本当に精力的に仕事をなさっており感嘆しておりました。是非、名誉教授室にも足を運びたいと思いながら、年月だけが過ぎ、私も年を重ねて行きました。そのような状況のなか、2022年4月より勤務先に時間を頂き人生で2度目の学生生活を送る決断をしました。母校とはそう遠く無い、九段にある大学院での1年間、一番の楽しみが穴田先生を訪ねて人生後半戦へ喝を入れていただくことでした。46歳にしてこの決断に踏み切れたのも、東京での楽しい学生時代の思い出を先生からいただいていたからに違いありません。

しかし、あの日の訃報によりそれが叶わなくなったことに呆然としました。その後、ご親族様の配慮により最期の面会の機会をいただくことができました。静かに先生と向き合い、これまでの感謝と、学び直しの為に上京したこと、お会いできなかった期間に起こった出来事を伝える濃密な時間を二人で過ごしました。いつもの穏やかな笑顔で目を細め、私の話をうなずいて聞いてくださっていると感じました。今でも、コロナ禍により大学院進学を1年先送りにしたことを悔やみますが、先生がこのタイミングで、私に在京するように呼ばれたのではないかと受け入れるしかありません。

これまで、先生とのメールのやり取りや、お会いした時にお声掛け頂いた「いつも、応援しています。」「活躍を期待しています。」の言葉に、いつも心が熱くなる感情があり、それにより安心して前にすすめた気がしてなりません。学ぶことの楽しさと自由を教えていただいたことに心から感謝しています。今もこれからも変わらず、あの研究室のドアを開けて待っていて下さっているものと信じています。

まだまだ未熟な私を、どうか温かくお見守り下さい。いつの日か、私がそちらに行ったさいは、心置きなく「おはようビール」から始め、夜の宴会まで語り尽くしたいです。



写真1：三福寺でのゼミ合宿

写真提供：柴田耕一郎氏

ゼミナール入室試験	
受 験 票	
指導教員名:	穴田義孝 先生
	穴田 社会ゼミナール 人の理学
政治経済学部	経済学科2年2組20番
コース名:	A, B, C, D, E, F, G, (H)
フリガナ	シバタ 耕一郎
氏 名	柴田 耕一郎
(注) 受験の際は、受験票と学生証を必ず持参すること。	

写真2：穴田ゼミ入室試験受験票

15. 穴田先生への追悼文

近藤 美保

穴田教授の御逝去の後に、このように皆様と先生への思いを綴らせていただけることとなり

棺を蓋いてこと定まる。棺を蓋いて知る。

が意味するところを、あらためて穴田先生よりご教示いただいているかのようです。穴田先生、ことネットの皆様、心より感謝申し上げます。

大学卒業の際にゼミ生に贈るお言葉を先生よりいただいて以降も、永きにわたり多くのご教示を穴田教授よりいただきました。

その中でも、ことさらに家族関係に関わるご教示をいただきました際の記憶は、特に鮮明に蘇ってまいります。

「富士北麓の耳学問 横行自在」の著者 小野 将美氏のことわざを基に

〇〇の人生〇〇次第

このような創作ことわざを巡り、お話を伺わせていただく機会がございました。この表現は主には多様な人間関係と人生のあり方に繋がることわざに応用できますが、今となりましては

恩師のご教示生かせる人生かは、ゼミ卒業生次第

と私自身への問いへと変化いたしました。

卒業後にも、研究室を訪ねさせていただいた際、今にしてみれば、ささやかな転機を私は迎えておりました、当時は一大事であり、不安で一杯でした。穴田先生は私のその年齢にイギリス留学をされたとのこと。「新たなチャレンジはまだまだこれから」と励ましていただきました。

また、人間関係の些少の困難に遭った際にいただきました『和』を大切にされては」とのご助言は、家族関係への、私には、言うは易く、しかし、行うは難いご教示となり胸に響き続けております。

当事者の私自身が認識している、目前のことの大きい、小さいではなく、全く、異なる次元からのご教示をいただき、大変、感謝しております。ありがとうございました。

棺を蓋いてなお生き続ける珠玉のお言葉の数々は大変ありがたく、これからもさらに生き続けることと思います。

山梨県小菅村での調査には1日のみ参加させていただきました。小菅のバス停にて先生と再会できましたその瞬間はまた不思議と鮮明に覚えております。この日、NPO 法人ことネット小菅村調査の研究者の先生方に初めてお目にかかりました。また、この調査での研究発表はリバーティータワーで拝聴させていただき、家族関係に関して学ばせていただきました。県内在住でありながら、日帰り参加にとどまってしまったにもかかわらず、小菅のバス停では在学中と全くお変わりのない笑顔で、出迎えてくださいました。

その頃は、このように穴田先生の最期が訪れるとは想像もできず、これからも、永く永くまた再び、穴田先生、研究者の先生方とも社会調査の現地でお目にかかる機会があるかと思っておりました。

追悼文集への投稿は、今は亡き穴田先生を彷彿とさせ、偲ぶ思いを綴り切れずに、止まったままに本来の原稿締め切り日は過ぎてしまいました。NPO 法人ことネットは解散となりましても、この文集の創作を機に、穴田教授を偲ぶ会へと継承されて、いつまでも会員の皆様の心の中に存続すると思ひ続けたく存じます。



写真1：穴田先生と近藤美保氏

写真提供：遠井雄史氏

第9章 穴田義孝理事長を偲んで一虫の知らせ

穴田理事長の訃報は、お嬢様から三福寺へ連絡が入り、三福寺和尚様の奥様から山田千香子監事へ伝わり、山田監事より中尾へ伝わり、中尾から当法人の全員への一斉メールにて皆さんにお知らせすることが叶った。

突然の知らせに何かの間違いであって欲しい、信じられないような思いにも駆られたが、心の深い部分で理解していた。というのも、穴田理事長がお亡くなりになった日は某大学にて授業をしていたのだが、授業中にふと穴田理事長のことが頭に浮かんだのだ。近くからこちらを閲覧になっているような感覚があった。有るわけ無いのに不思議だな、夏休みにでも会合を開けるであろうかと思ったが、その感覚こそが虫の知らせであったと後から思った次第である。

普段から交流のあることネットの皆さまからは個別に確認のメールを頂いたが、そのやりとりの過程で複数人の方々より虫の知らせを伺った。そこで同時多発的に生じた現象として、それら虫の知らせエピソードのご寄稿を依頼した。

〔中尾記〕



写真：研究室にて（2017年3月11日撮影）

写真提供：柴田耕一郎氏

1. 孝行のしたい時分に恩師（親）はなし

山下 信也

穴田先生の命日の翌日の7月21日、私は私用で国立国会図書館におりました。ここでは、目的の書籍等を館内パソコンで検索し、書庫から取り出していただく、いわゆる閉架式を採用しております。従いまして、依頼してから本が出てくるまで多少時間がかかります。

広い図書館内で本が出てくるのを待つ間に、ふと、穴田先生がイギリス在外研究中に案内して下さったロンドン大学の図書館の中で、「ここに私の執筆した社会心理学の本を置くのが目標だ」とおっしゃっていたことを思い出しました。では、日本の国立国会図書館に、穴田先生の著書等はどれくらい収蔵されているのでしょうか。早速調べて見ることにしました。検索の結果、約70件弱（論文・書評等を含む）が表示され、先生の精力的な仕事ぶりを改めて認識した次第です。

その後帰宅して、先生の訃報を聞いたときは驚きました。退職・古稀記念パーティの時以来、6年間もお会いしていなかった先生のことを突然思い出したのは、きっと先生が天国へ召される前にご挨拶に来てくださったのでしょう。「山下君、僕は先に天国に行くけれども、君はまだまだこっちで頑張りなさいよ・・・」と。このようなことを「虫の知らせ」というのでしょうか。本当に虫はいるのですね。

思えば穴田先生には大変お世話になりました。いつも広い心と優しさをもって学生を受け止めてくださりました。学問の奥深さと面白さを私に教えて下さったのも先生です。（最も私の怠慢により、いまだにほんの少ししかわかりませんが。）仕事だけでなく、人間としても尊敬できる方でした。その先生はもうこの世にいらっしゃらないと思うと、たまらなく寂しくなります。先生、長い間本当にお世話になりました。ご冥福を心よりお祈りいたします。

2. 恩師との御魂交流

中尾 暢見

穴田先生の晩年に最も連絡を取り合っていたのは、ことネットの運営内容についての話題を中心に川島洋理事と私であったのではないかと考えています。コロナ禍となり複数名での会合が憚られるようになったため、2019年の夏会合を最後にお目にかかる機会はなく、もっぱらメールでのやりとりでした。次の夏休み頃、年末頃、春休み頃など、いつもタイミングを見計らっていました。

大学での授業中に穴田先生からの虫の知らせがあり、その後に山田千香子監事より訃報を頂きました。それを合図に穴田先生の御魂交流が始まりました。個別に先様へは頂いたメッセージをお伝えさせて頂いた通りです。生前より死後の方がよく話せる不思議な現実の始まりです。

多くの方々が心配されていたことは、穴田先生がお亡くなりになる前に体調を崩しておられたこととお辛いお気持ちではなかったか、死後も予想外に早い旅立ちで苦しんでおられないかということでした。そのことに対して穴田先生は厚情を寄せて下さっていることへの感謝の気持ちと、肉体から魂が離脱したらとても軽くて爽快だと仰っておられました。スキップだってできちゃうよ(しないけど) とのことでした。

魂レベルが低い方は、死後も電車やタクシーに乗ったり、歩いて移動しようとするのですが、魂レベルが高い方は瞬時に移動ができます。肉体が無いという事実を自覚できるか否かの問題です。穴田先生は瞬時に移動できておられ縁者の方々に個別にご挨拶に行かれたとのことでした。それゆえ、多くの皆さまが虫の知らせを受け取ったというのは、穴田先生が会いに行かれた時のことを感じとれていたからなのです。

亡くなった方を観ておりますと、1週間から10日ほどは、生前と同様に食欲があり、あれが食べたい、これを飲みたいという気持ちが強くあります。その期間は故人がお好きな食べ物、お酒、コーヒーなどを御供えすると喜ばれます。段々と食欲は無くなるとのことで、後は普通の御供えで大丈夫です。個人差がありますが、49日法要の頃までは生前と同じ個人の意識で姿は見えませんが生前と同じ場所にて滞在しておられる方が多いです。その後、極楽(天国)と言われるような所、人によっては地獄へと導かれます。地獄に近い方ほど、

現世と同じ人格のままで意識が残っているようですが、上へ行くほど、過去世の自分、源霊へと遡り転生の履歴が統合されていきます。

穴田先生はすぐに過去世のご自身との統合ができておられます。過去世でこの方はこういう関係で、現世でもちゃんと交流ができていたと納得されておられました。今も生きて居る現世組の方々は、この世から旅立った時に、再び穴田先生とお目にかかれる方が多数おられます。楽しみにして下さい。

【穴田先生から皆さまへのメッセージ】

通常は見えないけれど、私はいつも皆さんを見守っています。
いつも応援しています。

と仰っておられます。ですので、どうぞ悲しまず、明るく楽しく正しくご自身の生を全うして下さい。失敗しても良い、見て見ぬふりや行動しない後悔をしないで欲しいとのことです。

穴田先生は、いつもそばで見守っていますよ。僕の名前を3回呼んでくれれば会いに行きますよとのことでした。恐れ多くて、そんな気軽にお呼びするなど私にはできませんよってところの中で思いました。そんな私に穴田先生は、Michael Jackson の♪I'll Be There♪を聞かせて下さいました。なぜに英語で伝えるのかと考えると論文博士の審査の時に経済学等の専門用語が含まれる英語翻訳に苦心した時の穴田先生とのやりとりの情景が思い出されました。今となっては温かい思い出です。

訃報後の穴田先生から私へのメッセージは「後はよろしく」とのことでした。私は「何をどうよろしくすれば良いですか。具体的にあればどうする、これはどうする等のアドバイスを下さい」とお願いしましたがお返事はないままです。これと同じやりとりを生前にも何度かしてきております。関係者と相談する過程で、NPO ことネットは解散手続きをすること、文集は作成すること、この2点は貫徹すると決まりました。本追悼文集を作成している時に多くの写真を拝見してありましたら、表紙のお写真はこれだと穴田先生ご自身が選ばれました。調査票等も私へのメールのここにあると教えて下さいました。川島理事の第4章と同様にすべて穴田先生との協働作業、共著と言っても過言ではありません。記して御礼申し上げます。

第10章 日本全国のことわざ資料集

穴田 義孝、中尾 暢見

穴田義孝理事長が収集して中尾暢見がデータベース化したことわざ全国リストを以下に示す。リストは穴田理事長が長い年月を費やして収集した基礎資料となるデータの一部である。

記録されたことば／ことわざの殆どは、ことわざを列記したものに限られ、その意味が解説されていないものが多く、いつの時代にどのような文脈で使用されてきたのかを知るのには難しい。時代の変容に伴い産業構造と生活様式が変化すれば、生活の知恵や教訓も変化するため、使われなくなる「ことば／ことわざ」は死語と化して記憶の奥へと埋蔵され消失していくのが常である。

穴田理事長は、基礎資料としてデータとして過去のことば／ことわざを蓄積しつつ、今を生きる人々の「ことば／ことわざ」も収集してきた。同時並行して今を生きる人々の「ことば／ことわざ」を創作ことわざとして記録して残す活動にも取り組んできた。穴田理事長の研究成果をみれば分かる通り、収集した記録に残ることわざに対して丁寧な解釈を重ねておられた。

穴田理事長は、以下に示すことわざ資料をテキスト分析することで社会科学としてのことわざ研究の樹立に加勢するとお考えになられていた。その発掘してきた資料データは穴田理事長のサポート係である中尾に託されている。私がそれを秘匿したり死蔵させることは許されない。穴田理事長の遺産として皆さまへ贈与させて頂くことにする。穴田理事長の社会科学としてのことわざ研究領域の樹立を目指した遺志を継ぎ資料が活用されることを願う次第である。2022年1月に穴田理事長より以下のデータを公開する許可を得てたいことを幸いと考える。



写真：百合の香り 写真提供：藤村美織氏

1. 穴田理事長作成「郷土のことわざ全国一覧表」の4分類

表1：〈郷土のことわざ〉の四分類

1/A 当該地域で、何時か誰かに創られた地域独特のことわざ（成句）。 一句だけでも「地域の生活文化」を彷彿とさせる成句もあるが、複数句が駆使され、さらに具体的な用法や解説があると「小さな地域のことわざ風土記」となり得る。
2/B 「全国区のことわざの擬似的なことわざ」と喩えることができることわざ（成句）。 『ことわざ辞典』類にある成句と類似しているが、その一部が方言や独特の言い回しであったり、発音やアクセントが違ったり、比喩されている固有名詞が異なる、独特の用例となっていることわざ（成句）。
3/C 「全国区のことわざ」と同じ文面であるが、その使い方などにより地域独特の意味や役割を持つことわざ（成句）。 ※(A)静的（static）には「全国区のことわざ」そのものであっても、(B)動的（dynamic）には、会話や文章などで具体的に地域独特の用例、役割・機能が示されている場合がある。さらに(A)静的（static）にも『ことわざ辞典』類とは異なる独特の意味を持つことがある。この様なことわざ（成句）は、〈郷土のことわざ〉のカテゴリーとする。 ※2や3は文化の伝播や学校教育などにより「全国区のことわざ」が各地に伝わり、時間の経緯と共に地域の生活文化に組み込まれていったのであろう。
4/D 「主に生業にまつわる天気・気候・気象・季節・地理」など、生業と自然現象にかかわることわざ（成句）。 当然、地域によって異なるに違いない。地域の独自性が明確とは言え、他との比較や一般性は難しいと考えられる。4は単独で整理されたり、口頭伝承欄に掲載されている場合が多いことなどにより、これをあえて〈地方のことわざ〉として、1や2、3と区別する。

以下は、穴田理事長による解説である。

「小さな地域のことわざ風土記」と比喩できる「民俗誌」は、1のみが列挙、解説されるよりも、2や3が混交して列挙されている中に1が見出される事例が多いと言えます。

3については、単なる成句の列挙や解説だけで、用例やエピソードなどが無い場合は、「地域の生活文化」を彷彿とさせる「小さな地域のことわざ風土記」のカテゴリーに入れることが難しいといえましょう。

各地の『郷土史（誌）』などの「民俗・口頭伝承」、「ことわざ」の編纂では、調査にあたって1がほとんど「聞き出せない」ので、この項を省略した場合があるのではないかと推測されます。また、2や3、特に3は〈郷土のことわざ〉と認識されていないので、「ことわざ」の項が無い場合があり得るのではないかと考えられます。

2. 都道府県コード

47 都道府県の並び順は、国勢調査での順番を採用している。

表 2：都道府県コード

地域コード	都道府県名	地域コード	都道府県名
1	北海道	25	滋賀県
2	青森県	26	京都府
3	岩手県	27	大阪府
4	宮城県	28	兵庫県
5	秋田県	29	奈良県
6	山形県	30	和歌山県
7	福島県	31	鳥取県
8	茨城県	32	島根県
9	栃木県	33	岡山県
10	群馬県	34	広島県
11	埼玉県	35	山口県
12	千葉県	36	徳島県
13	東京都	37	香川県
14	神奈川県	38	愛媛県
15	新潟県	39	高知県
16	富山県	40	福岡県
17	石川県	41	佐賀県
18	福井県	42	長崎県
19	山梨県	43	熊本県
20	長野県	44	大分県
21	岐阜県	45	宮崎県
22	静岡県	46	鹿児島県
23	愛知県	47	沖縄県
24	三重県	48	日本全体

出典：政府統計 HP 「国勢調査」、参照日：2015 年 3 月 4 日

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001007706&cycode=0>

テキスト＝文字データに数値を割り振っていく作業をコーディングという。コード化することで、後に計量分析をすることが可能になるため統計処理をするための下作業としては必須となる。

3. 穴田理事長が収集したことわざ文献リスト

作業は穴田理事長よりお預かりした文献資料を中尾が入力のうち、文献調査が可能になるように内容を分類のうち整理している。読者が分かりやすいように作業過程がわかるデータクリーニング内容のメモも合わせて掲載することにした。書誌事項だけでも表記にゆらぎがあり検証した内容、また資料の総頁数、ことわざの数などもカウントしておかないと計量分析ができないため記載してある。そのうえで穴田理事長が示した4分類に中尾が内容をみてポイントとなる点を抜き書きした備考などを追加していき、文献内容を比較検証が可能な形式にまで整えていくことで文献調査が可能になる。地味に時間を要する作業を経なければ文献調査は成り立たないのである。

穴田理事長との共通認識は、学問は基礎が大事だ、基礎なくして専門も応用展開もあり得ないと話していた。長期にわたり共同研究を水面下で行ってきた。分析手法について私が「クラスター分析もいけますね」とかいうと、穴田理事長は「(ことわざの分析でそれって) おもしろいかね～」と一言、私は「・・・(心の声: おもしろくはないかも、きっと)」で会話終了というぐらいで、また別な機会に分析手法をまじめに検討しようと思っていたら、そのままになってしまった。あの時に深掘りしておけば穴田理事長が目指すポイントまで既に漕ぎ着けていたかもしれない。先延ばしにしたことが悔やまれてならない。

まず最初に穴田理事長が収集した文献リスト 67 件分を提示する。2016 年に公刊した『ことわざを楽しく学ぼう、社会・文化・人生』(人間の科学新社)では、このうち 65 件の書誌事項のみを巻末にて公開した。重複している文献があったために 65 件である。本稿は公刊文献ではなく、追悼文集であるため、公の論文では決して書くことがない研究の背景など、普段は絶対に見られない内容と聞けない内容を盛り込んでいる。研究者が1つの論文なり図書を出す背景にどれほどの作業をしているのかがご理解頂けることを期待している。

文献リストの次は、それらの文献に記載されていることわざをテキストとして入力して分析可能な形式にしたバージョンを掲載して公開する。

このデータを活用して文献調査、量的調査が実現するわけである。加えて、創作ことわざの質的データ、郷土における聞き取り=質的調査の内容を統合していくことでことわざオーケストラが完成して、社会科学としてのことわざ研究が誰にでも認識できる形で表出することになる。

行番号	種別	題名	著者名・著者・地域・発行年月日など	＜国土のことわざ＞区分	概要	小さな地域のことわざ風土記	発行年	頁数	備考	備考	備考	
60	15	新潟県	著者名：『新潟県のことわざ』 著者：板垣栄一 発行所：県立新潟女子短期大学 板垣研究室 発行年：2008年10月1日 備考：211ページ	・Aが多い。 ・B、C、Dも含まれている。	ことわざに関する解説あり。 ことわざは定置川、大目山、山北町、始輪、上越三長、長岡高岡などの地区が掲載されている。	「あいそけもも原た」 「雪は新町で買え、魚は四谷で買え」 「秋萩に食むるや、夜南」 「新山野と森上夜」	ことわざ	2003 頁	テキスト	・書籍等事典部分には下記 以下URLよりダウンロード可。 http://www.lib.niigata-u.ac.jp/streams/10823/25568/1/umc_43_1-211.pdf	新潟県のことわざ 編纂者：板垣栄一 発行所：県立新潟女子短期大学 板垣研究室 発行年：2008年10月1日 発行	
42	18	福井県	著者名：南越 第53号 徳語(ことわざ)〔一〕 著者名： 編纂者：杉本伊佐美 発行所：南越文化財研究協議会 発行年：1982年4月 備考：-	・殆どが全国区のことわざと同じであるが、一部にBが混在している。 ・Dも混在している。	・著者が1979年に刊行した村誌「郷愁-河和川の里の未来を模索するためにつづいたことわざ」(数詞の多い)を参照して本誌へ分類して一部分を掲載している。「あからけ」まで。 ことわざの判別で解説は殆どない。 ・動作とことわざとして「またも」は全く違う「またも」は「またも」などがあるとしている。	・D：キジが突っ込んで鳴くと地震が起きる	1021	7	ワード	南越 第53号 1982-4 南越文化財研究協議会 編纂者：杉本伊佐美 発行所：南越文化財研究協議会 備考：「か」の3行目は誤字か？ 順次について	南越 第53号 1982-4 南越文化財研究協議会 編纂者：杉本伊佐美 発行所：南越文化財研究協議会 備考：「か」の3行目は誤字か？ 順次について	
43	18	福井県	著者名：南越 第54号 徳語(ことわざ)〔二〕 著者名： 編纂者：杉本伊佐美 発行所：太陽印刷センター 発行年：1982年9月 備考：-	・殆どが全国区のことわざと同じであるが、一部にBが混在している。	・著者が1979年に刊行した村誌「郷愁-河和川の里の未来を模索するためにつづいたことわざ」(数詞の多い)を参照して本誌へ分類して一部分を掲載している。「くからせ」まで。 ことわざの判別で解説は殆どない。		1021	5	ワード	南越 第54号 1982-9 太陽印刷センター 発行所：太陽印刷センター 備考：-	南越 第54号 1982-9 太陽印刷センター 発行所：太陽印刷センター 備考：-	
44	18	福井県	著者名：南越 第55号 徳語(ことわざ)〔三〕 著者名： 編纂者：杉本伊佐美 発行所：太陽印刷センター 発行年：1983年4月 備考：-	・殆どが全国区のことわざと同じであるが、一部にBが混在している。	・著者が1979年に刊行した村誌「郷愁-河和川の里の未来を模索するためにつづいたことわざ」(数詞の多い)を参照して本誌へ分類して一部分を掲載している。「そからせ」まで。 ことわざの判別で解説は殆どない。	・D：地震のときは竹藪に逃げよ、トビが舞うと天気になる。東宮は雷が降らない。鳥が草(糞)と雷が早い(降る)	1021	4	ワード	南越 第55号「徳語(ことわざ)」 と同ファイル(全部で2頁)に収録されている。	南越 第55号 1983-4 太陽印刷センター 発行所：太陽印刷センター 備考：-	南越 第55号 1983-4 太陽印刷センター 発行所：太陽印刷センター 備考：-
45	18	福井県	著者名：南越 第56号 徳語(ことわざ)〔四〕 著者名： 編纂者：杉本伊佐美 発行所：太陽印刷センター 発行年：1983年4月1日 備考：-	・殆どが全国区のことわざと同じであるが、一部にBが混在している。	・著者が1979年に刊行した村誌「郷愁-河和川の里の未来を模索するためにつづいたことわざ」(数詞の多い)を参照して本誌へ分類して一部分を掲載している。「なからけ」まで。 ことわざの判別で解説は殆どない。	・D：仏壇の暑り煙が立つと天気、なびくと雨	1021	4	ワード	南越 第56号「徳語(ことわざ)」 と同ファイル(全部で2頁)に収録されている。	南越 第56号(55ではな(58号の間違い)) 1983-4 太陽印刷センター 発行所：太陽印刷センター 備考：-	南越 第56号(55ではな(58号の間違い)) 1983-4 太陽印刷センター 発行所：太陽印刷センター 備考：-
46	18	福井県	著者名：南越 第57号 徳語(ことわざ)〔五〕 著者名： 編纂者：杉本伊佐美 発行所：太陽印刷センター 発行年：1984年4月1日 備考：-	・殆どが全国区のことわざと同じであるが、一部にBが混在している。	・著者が1979年に刊行した村誌「郷愁-河和川の里の未来を模索するためにつづいたことわざ」(数詞の多い)を参照して本誌へ分類して一部分を掲載している。「ふからけ」まで。 ことわざの判別で解説は殆どない。	・D：夕焼けはお天気。夕虹は二十日の雨	1021	5	ワード	南越 第57号「徳語(ことわざ)」 と同ファイル(全部で2頁)に収録されている。	南越 第57号 1984-4 太陽印刷センター 発行所：太陽印刷センター 備考：-	南越 第57号 1984-4 太陽印刷センター 発行所：太陽印刷センター 備考：-
47	18	福井県	著者名：永生の徳語-方言今昔集 著者名：牛若重信 編纂者：牛若重信 発行所：牛若重信文芸門 発行年：1997年11月2日 備考：-	・殆どはAである。 ・Bが多量に混在している。 ・Dも混在している。	・永生(福井県丹生郡)の徳語-方言に、約1万の語彙を収録している。 ・「あいうえお」に収録されている。	・野に飯まれば返田の水も、飲めば甘味のがする ・B：アツチで立立つ、コツチで立立つ。「野で立つたらや立立つと同じ意味」 ・B：コケの三杯汁「アホの三杯汁と同じ意」	1022	11	ワード	「お」14行目誤字か？ 第三十号そらそら花よ、女たちには 「ま」14行目誤字か？ 「お」14行目誤字か？	永生の徳語-方言今昔集 編纂者：牛若重信 発行所：牛若重信文芸門 発行年：1997年11月2日 備考：-	永生の徳語-方言今昔集 編纂者：牛若重信 発行所：牛若重信文芸門 発行年：1997年11月2日 備考：-
48	18	福井県	著者名：禁語 編纂者：島田静雄 発行所：福井県山内市教育委員会 福井県山内市夜内町 発行年：1958年4月30日 備考：-	・A、B、Cが混在している。 ・Dも若干含まれる。	解説文等は無いが、徳語が列記されている。一部は一言程度の意味記載が付されている。	・小使する ・D：地味に竹藪へ逃げ、雷は飯の中へ落ちると火を免れる。	1024	4	ワード		1024 禁語 編纂者：福井県山内市教育委員会 福井県山内市夜内町 発行所：福井県山内市教育委員会 福井県山内市夜内町 発行年：1958年4月30日 備考：-	1024 禁語 編纂者：福井県山内市教育委員会 福井県山内市夜内町 発行所：福井県山内市教育委員会 福井県山内市夜内町 発行年：1958年4月30日 備考：-
49	18	福井県	著者名：奥越地域の残る言い伝え-先人の知恵、生活の謎 著者名：川原茂(鳴鶴小学校) 編纂者： 発行所： 発行年：1999年1月 備考：生活に残る言い伝え(大野郡和泉村地区)	・A、B、C、Dが混在している。	・解説文は殆ど無い。 ・生活の知恵や教訓、戒めが多い。 ・親子関係に多いが、多量に説教はない。 ・健康に関することわざが多い。	・食事の遅い者は仕事も遅い ・台所にお湯を煮ると音が当たる ・水太くお湯が熱くなる ・火事になる ・川原がうるすと雷が降る ・稲が低く倒れる時は雨 ・リウマチが痛むは雨 ・雨降りが重なる時は雨 ・雨降りが重なる時は雨 ・雨降りが重なる時は雨	1026	16	ワード	・福井県の 大野郡和泉村は2005年11月1日の合併により大野市へ編入のため消滅となり、属していた大野郡も消滅した。和泉村は、14町(大野郡和泉地区)2行目誤字か？ おしりかへおしりかへ	1026 奥越地域の残る言い伝え-先人の知恵、生活の謎 編纂者：川原茂(鳴鶴小学校) 発行所：川原茂(鳴鶴小学校) 発行年：1999年1月 備考：生活に残る言い伝え(大野郡和泉村地区)	1026 奥越地域の残る言い伝え-先人の知恵、生活の謎 編纂者：川原茂(鳴鶴小学校) 発行所：川原茂(鳴鶴小学校) 発行年：1999年1月 備考：生活に残る言い伝え(大野郡和泉村地区)
50	18	福井県	著者名：福井県の天気俚語 著者名：菅原隆吉 編纂者：菅原隆吉 発行所：福井県指路農業協同組合連合会 発行年：1949年9月10日 備考：-	・すべてがAである。	・(一)体感及人間の生理作用。(二)鳥(鳥)、(三)虫(虫)、(四)植物(植物)、(五)動物(動物)、(六)天候(天候)、(七)気象(気象)、(八)その他(その他)。	・「あむり」の「かき」が漢語であると ・川原がうるすと雷が降る ・稲が低く倒れる時は雨 ・リウマチが痛むは雨 ・雨降りが重なる時は雨 ・雨降りが重なる時は雨 ・雨降りが重なる時は雨	1028	12	ワード	・三(三)の(口)から(水)にかけてNo.14から29へ番号が飛んでいる。 ・科学的根拠の無さや、同じ現象でも正反対の俚語があることと解説している。 ・(92)と(93)の間の一の途中(一)の間違い	1028 福井県の天気俚語 編纂者：菅原隆吉 発行所：福井県指路農業協同組合連合会 発行年：1949年9月10日 備考：-	1028 福井県の天気俚語 編纂者：菅原隆吉 発行所：福井県指路農業協同組合連合会 発行年：1949年9月10日 備考：-
35	30	長野県	著者名：南越郷土研究 第4巻 著者名： 編纂者：野中太夫 発行所：野中太夫研究会 発行年：1931年4月 備考：南越村の徳語集 山崎貞義	・A、B、Cが混在している。	句の判別で解説は殆ど無い。		N-2	3	ワード	蔵書図書には以下3巻のみ。 1. 大南大学 附属図書館(法) 2. 東京大学 附属図書館 3. 一橋大学 附属図書館	N-2 南越郷土研究 第4巻 編纂者：野中太夫 発行所：野中太夫研究会 発行年：1931年4月 備考：南越村の徳語集 山崎貞義	N-2 南越郷土研究 第4巻 編纂者：野中太夫 発行所：野中太夫研究会 発行年：1931年4月 備考：南越村の徳語集 山崎貞義
36	30	長野県	著者名：長野県史 民俗編 第二巻(三)南信地方 ことばと伝承 著者名： 編纂者：長野県史編纂委員会 発行所：社団法人 長野県史刊行会 発行年：1989年2月 備考：-	・A、B、Cが混在している。	南信地方の「いなわらわ」を以下の4つに分けている。 1. 知恵・知識 2. 戒め 3. 批判 4. 比喩	・A：彼等を通じての美態やし(諏訪郡下諏訪町の原) ・A：牛のつらつと裏のうんこは、はずもつてはずれん(下伊那町野村前原) ・B：かきつとんを産んだ。(名古原)	N-4	5	ワード	発行年をN-5に合わせて補記した。 第3頁1行目に誤字あり。 「伝承された(てき)」	長野県史 民俗編 第二巻(三)南信地方 ことばと伝承 編纂者：長野県史編纂委員会 発行所：社団法人 長野県史刊行会 発行年：1989年2月 備考：-	長野県史 民俗編 第二巻(三)南信地方 ことばと伝承 編纂者：長野県史編纂委員会 発行所：社団法人 長野県史刊行会 発行年：1989年2月 備考：-
37	30	長野県	著者名：長野県史 民俗編 第三巻(三)中信地方 ことばと伝承 著者名： 編纂者：長野県史編纂委員会 発行所：社団法人 長野県史刊行会 発行年：1990年11月29日 備考：-	・A、B、Cが混在している。	中信地方の「いなわらわ」を以下の4つに分けている。 1. 知恵・知識 2. 戒め 3. 批判 4. 比喩	・川原がうるすと雷が降る ・稲が低く倒れる時は雨 ・リウマチが痛むは雨 ・雨降りが重なる時は雨 ・雨降りが重なる時は雨 ・雨降りが重なる時は雨	N-5	4	ワード	CNで以下の通りで、出版先が異なります。1989が正解のようですが要再確認。 長野県史 民俗編 第三巻(三)中信地方 ことばと伝承 長野県史 民俗編 第三巻(三)中信地方 ことばと伝承 平成二年二月二十八日発行 編纂者：長野県史編纂委員会 発行所：社団法人 長野県史刊行会 発行年：1989.3 明治大学 図書館 [215.2]1011990224に在る。 日本大学 文学部図書館 [215.2]101814-3-113917119に在る。	長野県史 民俗編 第三巻(三)中信地方 ことばと伝承 編纂者：長野県史編纂委員会 発行所：社団法人 長野県史刊行会 発行年：1990年11月29日 備考：-	長野県史 民俗編 第三巻(三)中信地方 ことばと伝承 編纂者：長野県史編纂委員会 発行所：社団法人 長野県史刊行会 発行年：1990年11月29日 備考：-
3	36	徳島県	著者名：『奥島の民俗』前編=第六章 俗信 著者名：菅原一夫 編纂者： 発行所：三好郡三好町 島田印刷所 発行年：1983年12月18日 備考：非売品。著者住所：徳島県美馬郡美馬町		・俗信とその内容に関する文書説明、と成句		4	4	コピー	HPには、書籍事項に記載してある著者住所は削除した方がよいのではないかと。	『奥島の民俗』前編=第六章 俗信 非売品。 著者：菅原一夫 住所：徳島県美馬郡美馬町 発行：昭和33.12.18 印刷：三好郡三好町 島田印刷所	『奥島の民俗』前編=第六章 俗信 非売品。 著者：菅原一夫 住所：徳島県美馬郡美馬町 発行：昭和33.12.18 印刷：三好郡三好町 島田印刷所
4	36	徳島県	著者名：『ひわき-方言のことわざ』 著者名： 編纂者：1987 日和佐町老人クラブ連合会 発行所：徳島県南郡日和佐町 発行年：1987年3月28日 備考：全長 川越節美	・「全国区のことわざ」が大部分であるが、部分の成句が若干記されている。	・(一)「わ」半句が列挙され、すべてに解説がついている。	・★「福にふるとんはきせられぬ」 「福が死んでんは半行がよぬ。」	30	30	コピー		『ひわき-方言のことわざ』 1987 日和佐町老人クラブ連合会編纂 昭和六十二年二月二十日 印刷 昭和六十二年三月二十六日 発行 発行所：徳島県南郡日和佐町 会長 川越節美 ～ことわざ篇～	『ひわき-方言のことわざ』 1987 日和佐町老人クラブ連合会編纂 昭和六十二年二月二十日 印刷 昭和六十二年三月二十六日 発行 発行所：徳島県南郡日和佐町 会長 川越節美 ～ことわざ篇～
1	37	香川県	著者名：『香川県三豊郡阿波郡美馬郡の民俗-特集号』 著者名： 編纂者：香川民俗学会 発行所：香川県多度郡多度津町 武田明 発行年：1989年1月8日 備考：-	・ABCが混在して列挙されている。 ・Dも混在して記載されている。			4	4	コピー		『香川県三豊郡阿波郡美馬郡の民俗-特集号』 編纂者：香川民俗学会 発行所：香川県多度郡多度津町 武田明 発行年：平成元年一月八日	『香川県三豊郡阿波郡美馬郡の民俗-特集号』 編纂者：香川民俗学会 発行所：香川県多度郡多度津町 武田明 発行年：平成元年一月八日
2	37	香川県	著者名：『讃岐郷土誌本』 著者名： 編纂者：讃岐郷土研究会 代表 権名六郎 発行所：丸山義雄 発行年：1934年10月25日 初版発行/1988年10月5日 再版発行 備考：限定500部複製。「讃岐の歴史」著者三二の一部分コピー	・AとBのみの成句	・複製の量は少ないが、ユニークな成句ばかりである。 ・すべての成句に、方言や雑詩の言い回しなどについての解説が記されている。		2	2	コピー	雑詩事例	『讃岐郷土誌本』 限定500部複製 編纂者：讃岐郷土研究会 代表 権名六郎 発行年：昭和九年十月二十五日 初版発行 発行所：丸山義雄 発行所：丸山義雄 発行所：株式会社丸山義雄 発行所：株式会社丸山義雄 発行所：株式会社丸山義雄	『讃岐郷土誌本』 限定500部複製 編纂者：讃岐郷土研究会 代表 権名六郎 発行年：昭和九年十月二十五日 初版発行 発行所：丸山義雄 発行所：丸山義雄 発行所：株式会社丸山義雄 発行所：株式会社丸山義雄 発行所：株式会社丸山義雄
5	37	香川県	著者名：『香川の理科ものがたり』 著者名： 編纂者：香川県立小学校理科教育研究会 発行所：株式会社 日本標準 発行年：1982年4月20日 備考：出版権者(株)日本標準 代表者 石橋勝治。印刷権入取額1400円。		・『お天草ことば』であるが、香川県の理科ものがたりとして記されている。		1	1	コピー		『香川の理科ものがたり』 編纂者：香川県立小学校理科教育研究会 発行年：昭和五十七年二月二十日 初版発行 学校納入定額 1400円 出版権者(株)日本標準 代表者 石橋勝治 発行所：株式会社 日本標準	『香川の理科ものがたり』 編纂者：香川県立小学校理科教育研究会 発行年：昭和五十七年二月二十日 初版発行 学校納入定額 1400円 出版権者(株)日本標準 代表者 石橋勝治 発行所：株式会社 日本標準

行番号	種別	著者名・著者・地域・発行年月日など	＜領土のことわざ＞四分類	備考	小さな地域のことわざ風土記	資料	頁数	備考	備考	備考	
6	37	香川県 著者名：『高松市史』(高松市西部の民俗)「高松市の民俗」(財)高松市文化財保護協会 編集者：高松市文化財保護協会 発行所：高松市歴史民俗協会 発行年：1988年7月1日 備考：-	・以下のように分類、A、B、C記号にしている。 一、経験による知識、技術 二、職業の得意(裁判、教訓、人情など) 三、しつとえ、その他				1	コピー			『宮原郷土記(高松市西部の民俗)』 編集者：高松市歴史民俗協会 高松市の文化財 第十編 発行 昭和五十七年七月一日 発行所：高松市歴史民俗協会 高松市文化財保護協会
7	37	香川県 著者名：『高松市の文化財』第9編 編集者：高松市歴史民俗協会 発行所：高松市歴史民俗協会 発行年：1984年3月 備考：-	・併用と区分されそうな成句が多いが、AとBに分類できる成句も混ざっている。句の解説がない。			33	コピー			『高松市の文化財』第9編 編・発行所：高松市歴史民俗協会 昭和五十九年三月発行 印刷所：(有)アアロード印刷	
8	37	香川県 著者名：『小豆島民俗誌』 著者名：川野正雄 編集者：川野正雄 発行所：株式会社 名著出版 発行年：1984年8月18日第一刷発行/1984年9月28日第二刷発行 備考：-	「二、暫え言葉の妙味として、文章の中に成句を引用し、説明している。			5	コピー	抜粋事例		著者：川野正雄(小豆島民俗誌) 昭和五十九年八月十六日第一刷発行 昭和五十九年九月二十八日第二刷発行 発行所：株式会社 名著出版	
9	37	香川県 著者名：『塩江の四季』(香川県高松市内の地名)第一集 編集者：塩江町文化財保護研究会 発行所：塩江町教育委員会 発行年：1984年4月1日 備考：-	・ABCが混在して列挙されている。	解説がない。		2	コピー	一部抜粋事例		『塩江の四季』(香川県高松市内の地名)第一集、編集：塩江町文化財保護研究会 発行所：塩江町教育委員会 発行日：昭和五十九年四月一日	
10	37	香川県 著者名：『四国民俗学々誌』第24号 編集者：水野一、谷澤博 発行所：四国民俗学会 発行年：1983年1月20日 備考：代表者 高橋克夫 『藤とさめぎの暮らし』西山市南	・1. はじめに、2. 鳥々の話の中から(事例1)、3. さめぎの話の中から(事例2)、4. 藤と鳥の話の暮らしの種から成る文章にA、B、C、Dが混在している。	民俗学の項目毎に句が集合している。		7	コピー	一部抜粋事例		『四国民俗学々誌』第24号 編集者：水野一、谷澤博 発行日：平成五年一月二十日発行 発行所：四国民俗学会 代表者：高橋克夫 『藤とさめぎの暮らし』西山市南	
11	37	香川県 著者名：『四国民俗学々誌』第30号 編集者：谷澤博、水野一 発行所：四国民俗学会 発行年：1986年12月15日 備考：代表者 高橋克夫 『高松藩その他』藤と土地がら、水野一	・文中にA、B、Cが混在している。	・上記10が『四国民俗学々誌』24号、この10の90号である。		5	コピー	一部抜粋事例		『四国民俗学々誌』第30号 編集者：谷澤博、水野一 発行日：昭和六二年二月二十五日 発行所：四国民俗学会 代表者：高橋克夫 『高松藩その他』藤と土地がら、水野一	
17	37	香川県 著者名：『白鳥の民俗』(第39号)「土俗(ことわざ)」 編集者：香川県白鳥町教育委員会事務局内 発行所：白鳥町文化財保護協会 発行年：1985年3月31日 備考：土俗(ことわざ) 西原シマ子		・文中にことわざを織り込み、一つのことわざも、対人関係の世どららの視点から最もか、どのよ、どのよに記述されるかというように、いたって社会心理学的に記述されている。		3	コピー	抜粋事例		『白鳥の民俗』(第39号) 編集者：香川県白鳥町教育委員会事務局内 発行日：昭和六十三年三月十一日 発行所：白鳥町文化財保護協会 『土俗(ことわざ)』西原シマ子	
19	37	香川県 著者名：『山本町のことわざ』 編集者：山本町文化財保護研究会 発行所：香川県三豊郡山本町 発行年：1973年7月10日 備考：-	・100句ほど、Bのことわざを列挙している。	解説はない。		3	コピー(2段組み)	一部抜粋事例		『山本町のことわざ』 編集者：山本町文化財保護研究会 昭和四十七年10月10日発行 香川県三豊郡山本町	
34	37	香川県 著者名：『華町の方言』 編集者：香川重市 発行所：香川重市方言研究会 発行年：1983年1月1日 備考：制作 株式会社高知新聞企業出版部	・A、B、Cが混在している。	・1,000句以上が、あ、い、う、え、おに列挙されている。解説はないので、意味不明のものもある。		15	コピー(2段組み)	制作は筆者編か?		『華町の方言』 編集者：香川重市 昭和五十八年一月一日発行 発行所：華町方言研究会 連絡先：香川重市町四六八番地 制作：株式会社高知新聞企業出版部	
12	39	高知県 著者名：『シルバートーク』土佐の知恵ばなし 編集者：財団法人こうち長寿センター 発行所：財団法人こうち長寿センター 発行年：1983年3月31日 備考：-	・D ・採録協力者および文献、成句はBである。	・個人名の他に、「土佐のお笑話ことわざ」(土佐女子中・高等学校校友会)、「気象ことわざ」(高知海上保安部、海上保安協会高知支部、高知産業協同組合連合会)		5	コピー				『シルバートーク』土佐の知恵ばなし 企画：編者：財団法人こうち長寿センター 平成5年(1993)3月31日発行 発行所：財団法人こうち長寿センター 発行所：山本町
13	39	高知県 著者名：『土佐民俗叢書』土佐民俗叢書第七編「土佐俚語集」(附録)土佐俚語集 編集者：桂井和雄 発行所：土佐民俗研究会 発行年：1982年3月10日発行 備考：-	・解説はない。 ・B分類の句が多い。	・種類、家数、育児、食言、身体、感情、處世、労働(農作)、建の10項目に分類して、1,000句以上が列挙されている。 ・「建」は、いわゆる借語について列挙している。		24	コピー	一部抜粋事例		『土佐民俗叢書』土佐民俗叢書第七編 桂井和雄著「土佐俚語集」(附録)土佐俚語集 『土佐民俗研究会』 昭和二十七年三月五日印刷 昭和二十七年三月十日発行 発行所：桂井和雄 発行所：土佐民俗研究会 電話八二六番	
14	39	高知県 著者名：『土佐方言集』 編集者：宮地美津子 発行所：宮地美津子(東京市神田区神保町一ノ三)山陽文化社 発行年：1987年10月24日 備考：定価五五五円		・借語を確定の「ものもんじや」と否定の「〜(する)もんじやない」に分けて言葉を挙げて、()に説明を加える独特の形式。		13	コピー			宮地美津子「土佐方言集」定価五五五円 昭和二十二年十月八日印刷 昭和二十二年十月二十四日発行 発行所：山陽文化社 東京市神田区神保町一ノ三山陽文化社 発行所：山陽文化社	
15	39	高知県 著者名：『互たぶと伝承』土佐民俗叢書第一編 編集者：桂井和雄 発行所：桂井和雄 発行年：1984年12月10日 備考：-	・文中のA、Bに分類できる成句を引用し、補記文で、解説している。			4	コピー	一部抜粋事例		『互たぶと伝承』土佐民俗叢書第一編 著者：桂井和雄 発行所：桂井和雄 発行年：昭和五十九年十一月三十日印刷 昭和五十九年十二月十日発行	
16	39	高知県 著者名：『山子の民俗誌』 編集者：桂井和雄 発行所：桂井和雄 発行年：1991年5月30日 備考：-		「山子」とはきざり山で働く人。 ・全国各地の「山子」の民俗比較・分析。 ・「してはなない事」を採録し、あるは某景として別項を記述して、後に成句を列挙している。		7	コピー	一部抜粋事例		著者：桂井和雄「山子の民俗誌」 1991年5月30日印刷 1991年5月30日発行 発行所：桂井和雄 780 高知市城山町170-3 発売所：(株)清文社 〒530大阪府北区南開町7-20山ビル新館	
18	39	高知県 著者名：『土佐民俗学』第二巻第二号(通巻4号) 編集者：土佐民俗学 発行所：土佐民俗学(代表者：桂井和雄) 発行年：1982年8月1日 備考：-	・A	「俗語集」としてある。 ・方言で書かれており、地元の人しか書けない文章の典型といえよう。		3	コピー			『土佐民俗学』第二巻第二号(通巻4号) 編集者：土佐民俗学 代表者：桂井和雄 昭和三十七年八月一日発行 高知新聞社七	
20	44	大分県 著者名：『日田方言入門』 著者名：石原典義 編集者：石原典義 発行所：石原典義 発行年：平成十三年四月一日 備考：-	・A	・方言で、ことばことわざを記述し、解説している。 ・書籍の「言語」の田舎に書かれた。		2	コピー	一部抜粋事例		『日田方言入門』 著者：石原典義 発行年：平成十五年四月一日発行 大分県日田市三本松新町八二九	
21	44	大分県 著者名：『大正も遠くりにけり〜その一〜』 著者名：竹本正夫(津久見市西ノ内8027) 編集者：竹本正夫 発行所：竹本正夫 発行年：2001年10月31日 備考：-	・ほとんどの句が、AかBである。	・246もの成句を、口語調で解説する。 ・必ず誰か聞いたと明記してある。		11	コピー	一部抜粋事例		『大正も遠くりにけり〜その一〜』 著者：竹本正夫 津久見市西ノ内8027 発行日：平成十三年十月三十一日	
22	44	大分県 著者名：『九重町の民俗』(土佐民俗学叢書第一巻第五号 禁裏(東郷田地区)) 編集者：九重町教育委員会「町誌編纂室」 発行所：九重町教育委員会「町誌編纂室」 発行年：1982年3月 備考：-	・A	・田舎の歌、若い唄、民間伝承などが、大分県九重町九重という単位よりも、もっと小さな単位や個人で伝承されていることを示している。		5	コピー	一部抜粋事例		九重町文化財調査報告書第十九編 『九重町の民俗』(土佐民俗学叢書第一巻第五号) 禁裏(東郷田地区) 平成四年三月 発行 編者：九重町教育委員会「町誌編纂室」 大分県九重町九重大字右田足立金館内 発行年：1982年3月 備考：-	
23	44	大分県 著者名：『行人地域の民俗』 編集者：国東町歴史民俗資料館 発行所：国東町歴史民俗資料館 発行年：1983年3月19日 備考：-	・A	「俗語」の中には、その俗語を生みだした、社会環境が存在し、伝承され、我々の生活の中に息を吹きかき受け継がれた」とある。		4	コピー	一部抜粋事例		『行人地域の民俗』 発行所：国東町歴史民俗資料館 平成五年三月一日 印刷 平成五年三月十九日 発行 大分県国東町国東町橋川	
24	44	大分県 著者名：『隼町の民俗』 編集者：九州大学民俗学研究会 発行所：九州大学民俗学研究会 発行年：1978年11月2日 備考：第四号 俗語 高砂美江		・民俗学の調査の一部である。 ・民俗学の調査員自ら「採り入れていない、ここにあるよ」と「俗語」として、個人が採りだしたものである。		9	コピー			『隼町の民俗』 著：九州大学民俗学研究会 編者：九州大学民俗学研究会 発行日：昭和五十二年十一月三日 発行所：九州大学民俗学研究会 第四号 俗語 高砂美江	

行番 No	種類 コード	修訂履歴	著書名・著者・地域・発行年月日など	<領土のことわざ>四分類	概要	小さな地域のことわざ風土記	資料 数	頁数	備考	備考	登録事項
25	44	大分県	著書名:『国分寺地域の民俗』三 宿禰 著者: 編集者: 発行所:大分県教育委員会 発行年:1983年3月30日 備 考:		「1字表、2と点、3読み4まい(仮法)という項目が口伝伝承」とされ、前2と点同様「語」の項目がない。		5	コピー			『国分寺地域の民俗』三 宿禰 昭和五十八年三月二十日印刷 昭和五十八年三月三十日 発行 発行所:大分県教育委員会 大分県南陽町二番三十一号
26	44	大分県	著書名:『しゅれことば』 著者:安部 直樹(大分県津島市年田) 編集者: 発行所: 発行年:1980年5月30日 備 考:	*AないLBの成句を説明する。	*現代ではくさ用語とされる言葉を使用している。		4	コピー	一部抜粋事例		安部 直樹『しゅれことば』 昭和五十二年五月 発行 著 者:大分県津島市年田 発行所:大分県津島市下原 阿方善士安部直樹事務所内 阿方善士安部直樹事務所内 阿方善士安部直樹事務所内 阿方善士安部直樹事務所内
27	44	大分県	著書名:『海鏡』第10号 著者名:池田 浩 編集者: 発行所:大分市中戸次(戸次公民館内) 大南地区文化財同好会 発行年:1974年7月25日 備 考:農村の歴史(一)		*3人の話者のことわざを交えた語 成句を挙げて、詳細な地元出身・在住の話者であるからこゝろ×××が解説がある。		4	コピー	一部抜粋事例		池田浩『海鏡』第一〇号 昭和四十九年七月 日印刷 全 年七月二十日発行 発行所:大分市中戸次(戸次公民館内) 大南地区文化財同好会 農村の歴史(一)
28	44	大分県	著書名:『古い伝えやことわざ』 著者名:石川 寛 編集者:中津江村(大分県 日田市に合併)公民館 発行所:中津江村教育委員会 発行年:1977年3月 備 考:	*A	*文字通り、古い伝えや、いわゆることわざが 列挙され、分かり難い成句には方言の解説が つ。		2	コピー	一部抜粋事例。 和は昭和の入りかきか?		石川寛『古い伝えやことわざ』 昭和五十二年五月 発行 編集者:中津江村(大分県 日田市に合併)公民 館 発 行 中津江村教育委員会
29	45	宮崎県	著書名:『雑草のことわざ』第1集 著者名: 編集者:雑草村教育委員会/雑草村文化財保存調査委 員会 発行所:教育長 中瀬元平 宮崎県東臼杵郡雑草村大字下福良1761の1 発行年:1985年11月18日 備 考:	*A	*「村のことわざ類が、すでに消滅すると思 われない。ここに文化遺産を継承し、温故知 新の方途を見出すならば、村の発展に大きく 寄与するであろう」とある。 *村を挙げて蒐集した230の句が列挙されてい る。		11	コピー	一部抜粋事例		『雑草のことわざ』第1集 編 者:雑草村教育委員会 雑草村文化財保存調査委員会 発行日 昭和60年11月18日 全 年七月二十日発行 所在地 宮崎県東臼杵郡雑草村大字下福 良1761の1 発行所:(財)足沢印刷
30	45	宮崎県	著書名:『宮崎県のことわざ』格言一農山漁村に伝わる 先人の知恵― 著者名: 編集者:宮崎県農業改良普及所 発行所:川口誠巳 発行年:1991年11月3日初版 備 考:	*ほとんどの成句がAとB分類の 句である。	*1,000句以上のことわざが載せられている。 解説はない。 *宮崎県農業改良普及所の編集という特徴が よく表れている。		25	コピー	一部抜粋事例		『宮崎県のことわざ』格言一農山漁村に伝わ る先人の知恵― 編 者:宮崎県農業改良普及所 1991年(平成3)11月3日初版印刷 1991年(平成3)11月24日初版発行 発行所:川口誠巳 発行所:監訳社 平80宮崎市田代町二六 三番地 電話0985-25-1758
31	45	宮崎県	著書名:『日向のことわざ』第一集 著者名: 編集者: 発行所: 発行年:1985年9月30日 備 考:●NHK・ラジオ第一放送(宮崎百科) 1965年4月17日放送(原稿提供)	*B分類の成句が多い。	*興味深いことわざとともに、150の句が添え られている。		8	コピー	一部抜粋事例		『日向のことわざ』第一集 昭和40年7月20日印刷 昭和40年7月30日発行 ●NHK・ラジオ第一放送(宮崎百科) 昭和四〇・四一七放送(原稿提供)
32	45	宮崎県	著書名:『伝承のうら(永之内)』 著者名: 編集者:上下永之内集落史編さん会 発行所:高千穂農業改良普及所 発行年:宮崎県西臼杵郡高千穂町 発行年: 備 考:	*A	*「永之内に伝わることわざ」して200句が 載っているが、他では「格言」とされている句 が多い。		6	コピー	*書誌事項赤字部分の記述は記 述の通りよりよいであろう。		『伝承のうら(永之内)』 上下永之内集落史編さん会 発行所:宮崎県西臼杵郡高千穂町 高千穂農業改良普及所
33	46	鹿児島県	著書名:『さつまのことわざ』鹿児島県民俗叢書(1) 著者名:北山 陽典 編集者: 発行所:株式会社 いさな書房 発行年:1988年 備 考:288 ページ	*A							北山陽典『さつまのことわざ』 株式会社 いさな書房 1988年 288 ページ 鹿児島県民俗叢書(1)
51	48	日本全体	著書名:自然のユーピア 著者名: 編集者:大野地球科学趣味の会 発行所: 発行年: 備 考:天気のことわざ	*すべてがひである。	*日本全体の気象情報について、使用頻度が 高く全国的に通用する用語を取りあげて内容 が分れている。 1. 先-音に関するもの 2. 風に関するもの 3. 雨-雲-霧などに関するもの 4. 動植物に関するもの *各ことわざに、300字程度の解説がある。 *日本の気象と気象に関する用語は、文献 のあとがきに記載されていることが多い。	*雲がチラチラすると雨 *雲が暗くなびくと雨、雲へなびくと 晴れし、観覧車のある場所と気象 圧の中心との関係によって変わ る。 *雲脚はやれば大風の兆 *高い山に登雲がかかる雨 *と(ん)ひがひく雲へは風	1029	9	ワード	著者は最後に「雨・虹などの気象 現象に関するものや、雲・風に関 する語については、科学的証明が なされその信頼度も比較的高いと 言えるでしょう。しかし、動植物に 関する語や季節に関する語につい ては、科学的裏付けがむづかしく、 利用するにあたっては参考程度と したほうが無難なように思われま す。」と記している。 *6頁「カトコ」雲がたつ時は暴風 雨が自降す、カトコ雲も 「(も)トル」	1029 自然のユーピア 著者のことわざ 大野地球科学趣味の会 日本の天気

4. ことわざリスト

上記 67 件の文献から抽出することができたことわざ 8207 件を列記する。膨大なデータ容量であるため過去にことネットのホームページと Facebook での公開を試みたが叶わなかった。リストには、ことわざの解説部分、検証内容、備考データも存在しているが、それを含めると 200 枚を超える量を要するため削除せざるを得なかった。削除後でも 130 枚を超えたためフォントを 6、改行間隔も 6 にして、さらに 2 段組にして枚数を圧縮のうえ力業で公開している。泣かずに泣かせてみようホトトギス精神で理事長の遺志を尊重したい。

穴田理事長が重要視している項目をデータが多すぎるために公開できないことは残念だが、将来的に社会科学の手法を用いてテキスト分析したものを研究発表していく所存である。

リストは通常では見えないであろうから、倍率を 200% ぐらいにしてからご覧頂くと読めるのでお試し頂きたい。一番左がことわざに番号をつけたもの、作業 No は文献番号を照応している。都道府県コードは削除してある。

No	作業No	都道府県	ことわざ
1	38	青森県	扇屋 世の中曲がネバ立たない
2	38	青森県	年寄 (としより) と釘は引つ込んだがよい
3	38	青森県	姉泣かせのジンジリ子
4	38	青森県	阿呆の三さん杯は汁じ
5	38	青森県	朝の湯漬漬け飯めしは何時も食っても美味くない
6	38	青森県	婿は上から嫁は下から
7	38	青森県	家の前のジゴボ (慈光坊)
8	38	青森県	鯛 (煮干し) の頭も信心から
9	38	青森県	エホンたら煙草盆
10	38	青森県	親父マルグ (縛る) ヨンタルギ方
11	38	青森県	女の禪
12	38	青森県	カラヤギア隣りの御器洗う
13	38	青森県	寒の前の土用の後
14	38	青森県	杭は船で打て
15	38	青森県	怪我と弁当は手前持ち
16	38	青森県	牛と女はば垣立たない
17	38	青森県	小糠 (こぬか) 三合持たら婿さば行くな
18	38	青森県	酒徳利が立たねば薬瓶が立つ
19	38	青森県	雑魚釣りあ馬鹿だそれを見る奴あ又馬鹿だ
20	38	青森県	死んだと焼けたにあ嘘がない
21	38	青森県	死人の大食らい
22	38	青森県	挿鉢 (すりばち) 横に背負う
23	38	青森県	スグネ トツクのは首かかりバリ
24	38	青森県	スミカラ金ア取られねえ
25	38	青森県	ヘズネバ茨ッコでも撰む
26	38	青森県	立すより返事
27	38	青森県	手前座は見えない
28	38	青森県	年寄りの言うことは土サバ落ちない
29	38	青森県	南部男と秋田女
30	38	青森県	西風と手間取りは晩方になれば止める
31	38	青森県	なりなりの釜の蓋
32	38	青森県	盗ツ気と痔ツ気はでえにもある
33	38	青森県	早飯早糞芸のうち
34	38	青森県	裸馬鞍げさね
35	38	青森県	腹も身の内
36	38	青森県	ひとへら千両
37	38	青森県	冷や酒と親の折檻は後から効く
38	38	青森県	ホエドも後まれば貰いが少ない
39	38	青森県	餅はホエドさ能がせる
40	38	青森県	やへ者の大食らい
41	38	青森県	他国坊主と国侍
42	38	青森県	野老 (ところ) 眉と女子層は残らない
43	38	青森県	漬物美味れば亭主が怒る
44	38	青森県	朝アツカリと雑母のニカリ
45	38	青森県	朝アツカリと雑母のニカリ
46	38	青森県	大つき大根は辛くない
47	38	青森県	青山に雪が降れば根雪は遅い
48	38	青森県	八細工の七貧乏 (又は) 八の芸の七貧乏
49	38	青森県	仇の前より借金の前
50	38	青森県	蕎麦は刈られても三日知らねている
51	38	青森県	後からとあもこさば会ったことない
52	38	青森県	案ずれば銭コで案じてケロ
53	38	青森県	石の皮をはぐ (石から皮をはぐ)
54	38	青森県	寝溜めと食い溜めは出来ぬ
55	38	青森県	兄弟喧嘩は砂糖餅より旨い
56	38	青森県	〇〇衆と牛の糞サバ気を付ける
57	38	青森県	好き連れは泣き連れ
58	38	青森県	行くべとふくべ (瓢) は長いもの
59	38	青森県	ぬたばるとくとたばるの違ひ
60	38	青森県	裸サモ帯
61	38	青森県	流行の半纏サネ奴ア馬鹿だ
62	38	青森県	先勝は糞勝ち
63	38	青森県	鍋と舌は熱がらない
64	38	青森県	仕方なしの米の飯
65	38	青森県	風船と牛は引くもじゃねえ
66	38	青森県	馬鹿と旦那のニ勝つヨがない
67	38	青森県	牛と女は垣立たない
68	38	青森県	ちんげのじ
69	38	青森県	眼千貫、胴百貫、手ぶり八貫、樺一貫
70	38	青森県	話は面白く尻は臭く
71	38	青森県	山の物とメラスの何は先だち上げえ
72	38	青森県	女の賢しいのは男の馬鹿にも劣る
73	38	青森県	いとこと馬の糞どこにもある
74	38	青森県	じよっぱりと力は強い程よい
75	38	青森県	菊 (あじやみ) の花も一盛り
76	38	青森県	男と牛は急ぐもんでない
77	38	青森県	福岡の福岡
78	38	青森県	府金でア 転んで
79	38	青森県	フツカブ フツカブ
80	38	青森県	褌でフマルテ フワフワ
81	38	青森県	ナニヤドヤラ
82	38	青森県	あわまぐ・あわまぎ
83	38	青森県	量り方の話
84	38	青森県	にしめの二度売り
85	38	青森県	酒の空売り
86	38	青森県	流れ三寸
87	38	青森県	ひとへら千両
88	38	青森県	年寄りの言うことは土サバ落ちない
89	38	青森県	姉泣かせのジンジリ子
90	38	青森県	阿呆の三さん杯は汁じ
91	38	青森県	朝の湯漬漬け飯は何時も食っても美味くない
92	38	青森県	婿は上から嫁は下から
93	38	青森県	家の前のジゴボ (慈光坊)
94	38	青森県	鯛 (煮干し) の頭も信心から
95	38	青森県	エホンたら煙草盆
96	38	青森県	"親父マルグ (縛る) ヨンタルギ方 (親父をしばるようなしぱり方)"
97	38	青森県	女の禪
98	38	青森県	カラヤギア隣りの御器洗う
99	38	青森県	寒の前の土用の後
100	38	青森県	杭は船で打て
101	38	青森県	怪我と弁当は手前持ち
102	38	青森県	牛と女はば垣立たない
103	38	青森県	小糠三合持たら婿さば行くな
104	38	青森県	酒徳利が立たねば薬瓶が立つ
105	38	青森県	雑魚釣りあ馬鹿だそれを見る奴あ又馬鹿だ
106	38	青森県	死んだと焼けたにあ嘘がない
107	38	青森県	死人の大食らい
108	38	青森県	挿鉢横に背負う
109	38	青森県	スグネ トツクのは首かかりバリ
110	38	青森県	スミカラ金ア取られねえ
111	38	青森県	ヘズネバ茨ッコでも撰む
112	38	青森県	立すより返事
113	38	青森県	手前座は見えない
114	38	青森県	年寄りの言うことは土サバ落ちない
115	38	青森県	南部男と秋田女
116	38	青森県	西風と手間取りは晩方になれば止める
117	38	青森県	なりなりの釜の蓋
118	38	青森県	盗ツ気と痔ツ気は誰にもある
119	38	青森県	早飯早糞芸のうち
120	38	青森県	裸馬鞍げさね
121	38	青森県	腹も身の内
122	38	青森県	ひとへら千両
123	38	青森県	冷や酒と親の折檻は後から効く
124	38	青森県	ホエドも後まれば貰いが少ない
125	38	青森県	餅はホエドさ能がせる
126	38	青森県	やへ者の大食らい
127	38	青森県	他国坊主と国侍
128	38	青森県	野老 (ところ) 眉と女子層は残らない
129	38	青森県	漬物美味れば亭主が怒る
130	38	青森県	朝アツカリと雑母のニカリ
131	38	青森県	朝アツカリと雑母のニカリ
132	38	青森県	大つき大根は辛くない
133	38	青森県	青山に雪が降れば根雪は遅い
134	38	青森県	八細工の七貧乏 (又は) 八の芸の七貧乏
135	38	青森県	仇の前より借金の前
136	38	青森県	蕎麦は刈られても三日知らねている
137	38	青森県	後からとあもこさば会ったことない
138	38	青森県	案ずれば銭コで案じてケロ

No	作業No	都道府県	ことわざ
139	39	青森県	石の皮をはぐ (石から皮をはぐ)
140	39	青森県	寝溜めと食い溜めは出来ぬ
141	39	青森県	兄弟喧嘩は砂糖餅より旨い
142	39	青森県	〇〇衆と牛の糞サバ気を付ける
143	39	青森県	好き連れは泣き連れ
144	39	青森県	行くべとふくべ (瓢) は長いもの
145	39	青森県	ぬたばるとくとたばるの違ひ
146	39	青森県	裸サモ帯
147	39	青森県	流行の半纏サネ奴ア馬鹿だ
148	39	青森県	先勝は糞勝ち
149	39	青森県	鍋と舌は熱がらない
150	39	青森県	仕方なしの米の飯
151	39	青森県	風船と牛は引くもじゃねえ
152	39	青森県	馬鹿と旦那のニ勝つヨがない
153	39	青森県	牛と女はば垣立たない
154	39	青森県	ちんげのじ
155	39	青森県	眼千貫、胴百貫、手ぶり八貫、樺一貫
156	39	青森県	話は面白く尻は臭く
157	39	青森県	山の物とメラスの何は先だち次第
158	39	青森県	女の賢しいのは男の馬鹿にも劣る
159	39	青森県	いとこと馬の糞どこにもある
160	39	青森県	じよっぱりと力は強い程よい
161	39	青森県	菊 (あじやみ) の花も一盛り
162	39	青森県	男と牛は急ぐもんでない
163	39	青森県	福岡の福岡
164	39	青森県	府金でア 転んで
165	39	青森県	フツカブ フツカブ
166	39	青森県	褌でフマルテ フワフワ
167	39	青森県	ナニヤドヤラ
168	39	青森県	あわまぐ・あわまぎ
169	39	青森県	量り方の話
170	39	青森県	にしめの二度売り
171	39	青森県	酒の空売り
172	39	青森県	流れ三寸
173	39	青森県	ひとへら千両
174	39	青森県	冷や酒と親の折檻は後から効く
175	39	青森県	ホエドも後まれば貰いが少ない
176	39	青森県	餅はホエドさ能がせる
177	39	青森県	やへ者の大食らい
178	39	青森県	他国坊主と国侍
179	39	青森県	野老 (ところ) 眉と女子層は残らない
180	39	青森県	漬物美味れば亭主が怒る
181	39	青森県	朝アツカリと雑母のニカリ
182	39	青森県	朝アツカリと雑母のニカリ
183	39	青森県	大つき大根は辛くない
184	39	青森県	青山に雪が降れば根雪は遅い
185	39	青森県	八細工の七貧乏 (又は) 八の芸の七貧乏
186	39	青森県	仇の前より借金の前
187	39	青森県	蕎麦は刈られても三日知らねている
188	39	青森県	後からとあもこさば会ったことない
189	39	青森県	案ずれば銭コで案じてケロ
190	39	青森県	石の皮をはぐ (石から皮をはぐ)
191	39	青森県	寝溜めと食い溜めは出来ぬ
192	39	青森県	兄弟喧嘩は砂糖餅より旨い
193	39	青森県	〇〇衆と牛の糞サバ気を付ける
194	39	青森県	好き連れは泣き連れ
195	39	青森県	行くべとふくべ (瓢) は長いもの
196	39	青森県	ぬたばるとくとたばるの違ひ
197	39	青森県	裸サモ帯
198	39	青森県	流行の半纏サネ奴ア馬鹿だ
199	39	青森県	先勝は糞勝ち
200	39	青森県	鍋と舌は熱がらない
201	40	青森県	仕方なしの米の飯
202	40	青森県	風船と牛は引くもじゃねえ
203	40	青森県	馬鹿と旦那のニ勝つヨがない
204	40	青森県	牛と女は垣立たない
205	40	青森県	ちんげのじ
206	40	青森県	眼千貫、胴百貫、手ぶり八貫、樺一貫
207	40	青森県	話は面白く尻は臭く
208	40	青森県	山の物とメラスの何は先だち上げえ
209	40	青森県	女の賢しいのは男の馬鹿にも劣る
210	40	青森県	いとこと馬の糞どこにもある
211	40	青森県	じよっぱりと力は強い程よい
212	40	青森県	菊 (あじやみ) の花も一盛り
213	40	青森県	男と牛は急ぐもんでない
214	40	青森県	福岡の福岡
215	40	青森県	府金でア 転んで
216	40	青森県	フツカブ フツカブ
217	40	青森県	褌でフマルテ フワフワ
218	40	青森県	ナニヤドヤラ
219	40	青森県	あわまぐ・あわまぎ
220	40	青森県	量り方の話
221	40	青森県	にしめの二度売り
222	40	青森県	酒の空売り
223	40	青森県	流れ三寸
224	40	青森県	ひとへら千両
225	40	青森県	冷や酒と親の折檻は後から効く
226	40	青森県	ホエドも後まれば貰いが少ない
227	40	青森県	餅はホエドさ能がせる
228	40	青森県	やへ者の大食らい
229	40	青森県	他国坊主と国侍
230	40	青森県	野老 (ところ) 眉と女子層は残らない
231	40	青森県	漬物美味れば亭主が怒る
232	40	青森県	朝アツカリと雑母のニカリ
233	40	青森県	朝アツカリと雑母のニカリ
234	40	青森県	大つき大根は辛くない
235	40	青森県	青山に雪が降れば根雪は遅い
236	40	青森県	八細工の七貧乏 (又は) 八の芸の七貧乏
237	40	青森県	仇の前より借金の前
238	40	青森県	蕎麦は刈られても三日知らねている
239	40	青森県	後からとあもこさば会ったことない
240	40	青森県	案ずれば銭コで案じてケロ
241	40	青森県	石の皮をはぐ (石から皮をはぐ)
242	40	青森県	寝溜めと食い溜めは出来ぬ
243	40	青森県	兄弟喧嘩は砂糖餅より旨い
244	40	青森県	〇〇衆と牛の糞サバ気を付ける
245	40	青森県	好き連れは泣き連れ
246	40	青森県	行くべとふくべ (瓢) は長いもの
247	40	青森県	ぬたばるとくとたばるの違ひ
248	40	青森県	裸サモ帯
249	40	青森県	流行の半纏サネ奴ア馬鹿だ
250	40	青森県	先勝は糞勝ち
251	40	青森県	鍋と舌は熱がらない
252	40	青森県	仕方なしの米の飯
253	40	青森県	風船と牛は引くもじゃねえ
254	40	青森県	馬鹿と旦那のニ勝つヨがない
255	40	青森県	牛と女はば垣立たない
256	40	青森県	ちんげのじ
257	40	青森県	眼千貫、胴百貫、手ぶり八貫、樺一貫
258	40	青森県	話は面白く尻は臭く
259	40	青森県	山の物とメラスの何は先だち上げえ
260	40	青森県	女の賢しいのは男の馬鹿にも劣る
261	40	青森県	いとこと馬の糞どこにもある
262	40	青森県	じよっぱりと力は強い程よい
263	40	青森県	菊 (あじやみ) の花も一盛り
264	40	青森県	男と牛は急ぐもんでない
265	40	青森県	福岡の福岡
266	40	青森県	府金でア 転んで
267	40	青森県	フツカブ フツカブ
268	40	青森県	褌でフマルテ フワフワ
269	40	青森県	ナニヤドヤラ
270	40	青森県	あわまぐ・あわまぎ
271	40	青森県	量り方の話
272	40	青森県	にしめの二度売り
273	40	青森県	酒の空売り
274	40	青森県	流れ三寸

No	作業No	都道府県	ことわざ
275	40	青森県	捕らぬ狸の皮算用
276	40	青森県	飛んで火に入る夏の虫
277	40	青森県	*賢食いは歩き乍ら食べないように
278	40	青森県	父の徳は最上の遺産
279	40	青森県	血で血を洗う
280	40	青森県	鷹も裸れば山となる
281	40	青森県	沈黙は婦人の最良の飾り
282	40	青森県	提灯持ち
283	40	青森県	長者の万燈より貧女の一燈
284	40	青森県	近くても見えないまつげ
285	40	青森県	知者は惑まどわず
286	40	青森県	知恵の籠も蒸る
287	40	青森県	竹馬の友
288	40	青森県	*悪いことか良しにとか良心に問う
289	40	青森県	理屈と膏薬をどこでもつく
290	40	青森県	利食い千人力
291	40	青森県	利によって行えば怨(うらみ)多い
292	40	青森県	利は元になり
293	40	青森県	離別のあとのやきもち
294	40	青森県	流りゆう連れん荒こう亡ぼう
295	40	青森県	両手に花
296	40	青森県	良妻は決して不平を言わず
297	40	青森県	両方立てば身が立たぬ
298	40	青森県	良薬は口に苦し
299	40	青森県	*子は親を一番信頼する
300	40	青森県	ぬれぬ先の草かき
301	40	青森県	ぬれぬ先こそ露をも■とむ
302	40	青森県	ぬれ手にあわ
303	40	青森県	ぬす人・つかまいて見れば我が子
304	40	青森県	ぬす人を捕えてなわをなる
305	40	青森県	ぬすびとのひるね
306	40	青森県	鎌に釘
307	40	青森県	ぬす人にかき
308	40	青森県	ぬす人猛々し
309	40	青森県	ぬかるみに足を踏み込む
310	40	青森県	*春仕づけて恩にきせない
311	40	青森県	頼友の噂にまざる
312	40	青森県	留守見舞は問を遠くせよ
313	40	青森県	るりはもろい
314	40	青森県	累卵の危き
315	40	青森県	るりも許も照せば光る
316	40	青森県	留守守のたくつ
317	40	青森県	流転
318	40	青森県	累犯
319	40	青森県	流転
320	40	青森県	類縁あり力強し
321	40	青森県	*小善積んで大善となる
322	40	青森県	若いには従え
323	40	青森県	若い子に教えられる
324	40	青森県	小川の水を手でせきとめる
325	40	青森県	大費より小遣い
326	40	青森県	大風呂敷を広げ
327	40	青森県	己を責めて人をせめるな
328	40	青森県	思ひは思われざる
329	40	青森県	親の心は七光
330	40	青森県	親の光は七光
331	40	青森県	親の心知らず
332	40	青森県	■
333	40	青森県	若い時の苦労は買ってでもせよ
334	40	青森県	我が身をたぬて人の痛さを知れ
335	40	青森県	義に門には辱た
336	40	青森県	義にもすが
337	40	青森県	和を以てとうとしとす
338	40	青森県	割った茶碗をつき合せて見
339	40	青森県	渡る世間と思はない
340	40	青森県	我が物と思はぬものは
341	40	青森県	我が子の自慢は親のつね
342	40	青森県	禍を転じて福とする
343	40	青森県	*親切切つて明るい心
344	40	青森県	鯛い犬に手をかまれ
345	40	青森県	蛙の面ツツられ
346	40	青森県	龍に水を吸く
347	40	青森県	龍籠に乗る人担ぐ人その又草履を作る人
348	40	青森県	稼ぐに追いつく貧乏
349	40	青森県	火事場泥棒
350	40	青森県	家内で喧嘩は貧乏の種まき
351	40	青森県	借者より洗者
352	40	青森県	可愛い子には旅させよ
353	40	青森県	亀の甲より年の功
354	40	青森県	*和を中心に明るい我が家
355	40	青森県	用意周到に
356	40	青森県	用心に怪我なし
357	40	青森県	欲に目がくらむ
358	40	青森県	長く学べよとるべき
359	40	青森県	淀む水にはごみたま
360	40	青森県	嫁貰えば親をもらい
361	40	青森県	弱り目にたたり目
362	40	青森県	酔よっぽろいは怪我なし
363	40	青森県	呼ぶより喚
364	40	青森県	夜目遠目愈の内
365	40	青森県	*愛憎めたかに立派に育つ我が子
366	40	青森県	大事の前の小事
367	40	青森県	竹を割ったよう
368	40	青森県	他人の失敗は良き教師
369	40	青森県	立つ鳥あとをにこさず
370	40	青森県	棚たなから
371	40	青森県	隙は道つれば世は情け
372	40	青森県	足りるを知る者は富む
373	40	青森県	男家を出れば七人の敵あり
374	40	青森県	短気は損気
375	40	青森県	玉磨かざれば光なし
376	40	青森県	*車内で席をゆづるあたゝかい心
377	40	青森県	礼過れば無礼になる
378	40	青森県	歴史は繰返す
379	40	青森県	練糸に悲む
380	40	青森県	運木で重箱を洗う
381	40	青森県	礼の用は和をとうとしとなす
382	40	青森県	礼儀は重とみりて生ず
383	40	青森県	礼儀は下から慈愛は上から
384	40	青森県	連れん理りの架ちざり
385	40	青森県	運木で腹切る
386	40	青森県	れいごむなし
387	40	青森県	*道路美化には実用あるのみ
388	40	青森県	前髪はよく守れば難し
389	40	青森県	葬式すんで医者甚
390	40	青森県	そうは問屋は卸さぬ
391	40	青森県	備えあれば憂いなし
392	40	青森県	袖の振り合も多少の縁
393	40	青森県	損して徳取れ
394	40	青森県	その身正しければ命令せとも行
395	40	青森県	その地にあらずれば何を植えても育たない
396	40	青森県	外が明るくなら内は闇になる
397	40	青森県	袖から手を手すのきらい
398	40	青森県	*酒呑み運転 絶対やめまじよう
399	40	青森県	搦たし餅よりもち
400	40	青森県	杖に立
401	40	青森県	使う者は使われる
402	40	青森県	月に霞むら雲も花に風
403	40	青森県	作り花に匂においなし
404	40	青森県	罪にくんで人をにくまず
405	40	青森県	べんぼの早耳
406	40	青森県	鶴のひと
407	40	青森県	つり合わせは不縁のもと
408	40	青森県	使っている刃物は光る
409	40	青森県	*無免許運転してはいけない
410	41	岩手県	変嬌いものに近づくな
411	41	岩手県	*相手変つても人(にん) 変らぬ
412	41	岩手県	あいなとかいなのぐらい(位) 違う

No	作業No	都道府県	ことわざ
413	41	岩手県	アイヌの宝物
414	41	岩手県	筋筋立てるより、筋道立てる
415	41	岩手県	赤いも黒いもやつちらない
416	41	岩手県	赤さも黒さも赤たて死母た
417	41	岩手県	あかきやあしきあこつこあつかない
418	41	岩手県	秋田女と南部の男
419	41	岩手県	秋田の火付け、津軽の手長、南部の人殺し
420	41	岩手県	秋田ホイト(乞食)に津軽衆、貰うばかりでくれることを知らぬ
421	41	岩手県	秋といふ名をつければ、裕福のなれぬ
422	41	岩手県	秋泊りあさしんだい
423	41	岩手県	秋マツベと命マツベ位忙しいことはない
424	41	岩手県	倦きがきたら旅さ出る
425	41	岩手県	空きとこ猫もとる
426	41	岩手県	空家さもをくばるようだ
427	41	岩手県	悪になやまされる人は刃物を枕の下に入れて寝る
428	41	岩手県	大仲(あくじ)の移れない人と旅連れるな
429	41	岩手県	あげもの(供物)は六つの物あげな
430	41	岩手県	あつしえものあ、離れもの
431	41	岩手県	遊日の御日様あ早馬さ乗る
432	41	岩手県	遊び役の豆の草引き
433	41	岩手県	あだか(返礼) 山のだけ
434	41	岩手県	あだか(返礼)は頭取
435	41	岩手県	あだか(返礼)は頭取(おけ) かぶつてもあたる
436	41	岩手県	あだりが福すば屋敷を取られる
437	41	岩手県	あだりが福すば室をもうける
438	41	岩手県	あだんねえ、かふかね
439	41	岩手県	あつたら彼岸唯七日よくなし土用は十八日
440	41	岩手県	あてて〜のほつぷり
441	41	岩手県	あど丑は取らなくていいが、初日のすくりき(薬草)はぞうや取るものだ
442	41	岩手県	あどの狐にや尾つべねえ
443	41	岩手県	後から来ればホイド(乞食)でも損だ
444	41	岩手県	後の妻事くすぐら
445	41	岩手県	あど(後)まーりきただ(崇)
446	41	岩手県	あど(後)まーりきただ(崇)
447	41	岩手県	穴の穿いている石を薬師堂に納めると耳が開こえるやうになる
448	41	岩手県	穴二つ重なる三つになる
449	41	岩手県	あの人さばっつせえ任せで上げばいい
450	41	岩手県	あはせもの離れもの
451	41	岩手県	アブナイ(危ない)
452	41	岩手県	油石拾うと風も吹く
453	41	岩手県	あぶりこ(渡金)さコグつたのをくばはんづの尻が出る
454	41	岩手県	甘ーごさあ蟻あすばる
455	41	岩手県	あまり睡るな、鷹のペコが売れない
456	41	岩手県	あまりに苦をすれば頭が売れる
457	41	岩手県	あまりぬはればカエツク来る
458	41	岩手県	あまりはづかがる子供は雑巾で顔をふけ
459	41	岩手県	余んなば足りんな
460	41	岩手県	荒い波でも優しく受けりや心動かぬ沖の鳥
461	41	岩手県	あら探し、あら拾い
462	41	岩手県	あらにもすずにもなんねえ
463	41	岩手県	あら湯あ毒だ、トドア先
464	41	岩手県	あられ団子を鳥がつつくと喜ぶ
465	41	岩手県	"ありがたエもわがなエは、大畜生にさらえおど"
466	41	岩手県	有る手からはこぼれる
467	41	岩手県	あるていどはいつ出しても悪くない
468	41	岩手県	ある方向に枝の向いてる桜の花を取って、相手の袖に密かに入れたら相手必ず折れる(女師屋の呪い)
469	41	岩手県	荒れ川で尻を洗う
470	41	岩手県	荒れ役で骨のぼし
471	41	岩手県	あれも一定刺しのつもり
472	41	岩手県	有れば有り物使い
473	41	岩手県	有れば有り物使い
474	41	岩手県	要米三斗たら糶にゆくな
475	41	岩手県	あんこ(大口)も一代ちえちえつ(尖口)も一代
476	41	岩手県	案じてけるより銭こける
477	41	岩手県	あんつこと御法事は当たった時すればよい
478	41	岩手県	行燈の火に子頭付けばよいことがある
479	41	岩手県	あんば、三はエ
480	41	岩手県	あんまりねつづいば金貨をなす
481	41	岩手県	いごをしてでたら灰袋(あぐだわら)をしよわされる
482	41	岩手県	言い過ぎると掻き過ぎは後から痛む
483	41	岩手県	うに言はれぬ坊主の頭
484	41	岩手県	いきあたくないは医者も坊主
485	41	岩手県	行きがたけえの来からげえ
486	41	岩手県	生きどど
487	41	岩手県	いきなりしんだい(きしんだい)
488	41	岩手県	いき身をさえたすま
489	41	岩手県	生き物は声かけばいも
490	41	岩手県	生きものを殺したり傷つたりすれば崎形児を生む
491	41	岩手県	生物を殺し止めを立てなければ祟がある
492	41	岩手県	行くべしとよれりやよいホイドのイカガリ
493	41	岩手県	行くべしは短くて、フグベは長い方がよい
494	41	岩手県	池や沼の主を見るな、見た者は死ぬ
495	41	岩手県	石からさ馬
496	41	岩手県	石からさ櫃
497	41	岩手県	石切り(平伝)はコッパにもならない
498	41	岩手県	石橋に、塗家にかけるのがよくない
499	41	岩手県	石を投げられたら真綿でうけ
500	41	岩手県	移住する時には自分が今まで慣れていた井戸の石を三つ持つて行き、新しく使う井戸に入れて呑むと水にあてられない
501	41	岩手県	急かせば、高嶺
502	41	岩手県	痛い事と思いたい事黙つてあられねえ
503	41	岩手県	痛い事もおがる
504	41	岩手県	板の間に纏綿木
505	41	岩手県	一月はいく、二月は逃げる、三月は去る
506	41	岩手県	一あ欠ければ二あ欠ける
507	41	岩手県	一が抜ければ二が出ない
508	41	岩手県	駄馬(うま)はどっさもまがない
509	41	岩手県	一難(いつた) 難難
510	41	岩手県	一に黒まら、二に赤まら、三に白まら役に立たず
511	41	岩手県	一に寝るもよい、二に逃げるもよい、三に酒盛りまでよい、四にはしつくだまきばい残る
512	41	岩手県	一日調理時三回、其の他夏季を除く寒冷な時期は殆ど絶えず 焚火(火)をなす
513	41	岩手県	*一文借しみの百知らず
514	41	岩手県	一文銭にさい割をかける
515	41	岩手県	一をとれば二がでる
516	41	岩手県	一切くやぐ
517	41	岩手県	一升あるものはどこへ行つても一升だ
518	41	岩手県	一升たらの三杯徳利
519	41	岩手県	一升豆腐に骨あなぬ(雑) アツパに義理ねえ
520	41	岩手県	一升ときまれば五合掛いらぬ
521	41	岩手県	一生に一度も仲しなないば彼の世で馬飼いにされる
522	41	岩手県	一心は岩をも通す、硬小使は莫産を通す
523	41	岩手県	一定はねれば皆はねる
524	41	岩手県	一服カッコフ
525	41	岩手県	一服のまいてんでに持つてだの
526	41	岩手県	一本木あ燃えな
527	41	岩手県	一本橋をわた(渡)る
528	41	岩手県	一縮一時よこび繁昌、一縮一縮が何事にもよい
529	41	岩手県	一銭でもくでえて使え
530	41	岩手県	いつも背に煎餅はない
531	41	岩手県	いつも背に煎餅でねえ
532	41	岩手県	いづもの餅の飯
533	41	岩手県	いないものあ、めいたことはない
534	41	岩手県	福荷の鳥居を二度かぞへて其の数が同じなれば死ぬ
535	41	岩手県	命あ、かふれくしえあ
536	41	岩手県	命は杖で大きい
537	41	岩手県	命に縛りつける
538	41	岩手県	雲ふも百日云はるゝも百日
539	41	岩手県	卑しいコッパでマナグをつ
540	41	岩手県	いやだをかたでもぼんだし時あ切れじの山刀を落としたりよりは口惜しい
541	41	岩手県	いやさは分飲み
542	41	岩手県	いらざる輩の先達

No	作業No	都道府県	ことわざ
543	41	岩手県	色気と工気は誰にもある
544	41	岩手県	色気と偷気は無き者はない
545	41	岩手県	色気と盗気は誰にもある
546	41	岩手県	言わば言わんやんせ 石の土台が腐るまで
547	41	岩手県	因果たかりああ焼けば風あ吹く
548	41	岩手県	因果たかりの松割台
549	41	岩手県	因果とつれい
550	41	岩手県	上というがある
551	41	岩手県	上見ろ下見るアグド(踵)の輝見ろ
552	41	岩手県	上見ろ下見ろ
553	41	岩手県	浮世は団子の煮え返ると同じ
554	41	岩手県	うさねをはがねえで、ツマゴをはえできた
555	41	岩手県	嘘と坊主の髪は締ったことが無い
556	41	岩手県	嘘とメラスコの手を握ったことが無い
557	41	岩手県	歌作るより田を作れ
558	41	岩手県	唄と北寄になげつこことはない
559	41	岩手県	うらこころばしは蚤にも食わせるな
560	41	岩手県	うら立てはいどう立ては儲かる
561	41	岩手県	生れ穴より挿し穴
562	41	岩手県	海ど山あ取り勝ち勝負
563	41	岩手県	厂が通れれば養蠶も羽こしらへする
564	41	岩手県	厂も鳩と喰ったものは知る
565	41	岩手県	*賣物には花かされ
566	41	岩手県	運がよいば牛の糞も味噌になる
567	41	岩手県	運と備は無いあるかわからない
568	41	岩手県	運のねえホエドあ、盆腹痛む
569	41	岩手県	うんが口さ合わせよとすればかまけえすだ
570	41	岩手県	えいの親父の叫ばない日と鶏の鳴かない日はない
571	41	岩手県	えい柱折れる
572	41	岩手県	ええ位という位はどこにもない
573	41	岩手県	ええこめえで あくだらあ背負う
574	41	岩手県	エスコピンに掛る
575	41	岩手県	越中衆が通った後は草も木も生えぬ
576	41	岩手県	得手勝手あ寝てもある
577	41	岩手県	エビスのようでも我が子は可愛い
578	41	岩手県	えをはつちやげる
579	41	岩手県	えへてはハイツキ
580	41	岩手県	えへん湯薬腹裏
581	41	岩手県	襟元つき合え
582	41	岩手県	えれぐらえするな
583	41	岩手県	おいにおいをぶ(打)つ
584	41	岩手県	大浦の勘定無しばう
585	41	岩手県	大木には巻かれる、長いものには巻かれる
586	41	岩手県	大きなネプタ後から出る
587	41	岩手県	*大島より小島
588	41	岩手県	大相撲の手形をお守りにして持つてと安産する
589	41	岩手県	多(おお)つきみより小つきみ
590	41	岩手県	多(おお)まきあれば大取か
591	41	岩手県	おがの粗出しは見てもが無く、布団の三角は見てもが無く
592	41	岩手県	可笑すがつたらオガワかぶ
593	41	岩手県	岡のハツタ
594	41	岩手県	オガラを髪にはさんでミズアジれば河童に引かれない
595	41	岩手県	おがり盛り、食い盛り
596	41	岩手県	おがり次第に皮剥ける
597	41	岩手県	置きかえる家を出れば果報をとぼどし
598	41	岩手県	屋外の火を内に入れるな、もし入れるときは、
599	41	岩手県	塩をふって清めてから入れる
600	41	岩手県	臆病を直すには白首を飲めると良い
601	41	岩手県	贈物に四、六、八を忌み三、五、七、九を喜ぶ
602	41	岩手県	遅れるとお婆もたぬ
603	41	岩手県	お言葉の御褒美も響かない
604	41	岩手県	ことばの御褒美と、鱈の頭は食うどがない
605	41	岩手県	怒れる拳銃顔にあたらす
606	41	岩手県	おさからよりそばからええ、やせた馬子にかせた方ええ
607	41	岩手県	おしきにあわねえ人
608	41	岩手県	御座話四文、はなかけ十四文
609	41	岩手県	お空に梯子
610	41	岩手県	*煽てと替(もっこ)に乗るな
611	41	岩手県	*落ちそうで落ちないペゴ(牛)とキンタマ(糞丸)
612	41	岩手県	落ち着き雨
613	41	岩手県	落ちないばふんない
614	41	岩手県	落ちないば惚れに惚れる
615	41	岩手県	おつかねど思えば自分のアグドもおつかねえものだ
616	41	岩手県	付き合いなヤグ(火傷)にもなれ
617	41	岩手県	おお月様さ中かえる
618	41	岩手県	お月様の上物を三所から盛んで食ひば思ふことは叶
619	41	岩手県	お月さんに供えた物を食べた女は縁付きが遠い
620	41	岩手県	おとがたにつづりかえ
621	41	岩手県	おどげは、ほんとになる
622	41	岩手県	男猫が子を産した
623	41	岩手県	大人しい猫は鼠をとる
624	41	岩手県	大人の耳くう
625	41	岩手県	*種を種は百まで
626	41	岩手県	同じ家の者が、同じ日に二人以上旅先に泊まるのを
627	41	岩手県	「同泊り」といい、凶事が起る(忌む)
628	41	岩手県	同じ日に生まれた者どうしは、祝いの事やりとりをしない、
629	41	岩手県	もしやれば、どちらかが死ぬ
630	41	岩手県	同じ日に死ぬるときは耳ふたぎ餅揚げが良いといふて搦て食ふ
631	41	岩手県	同じ日にものを言われない
632	41	岩手県	鬼木を家相の悪い所に植れば災難のがれとなる
633	41	岩手県	お唐黒とつても後家の後家
634	41	岩手県	おすれえも世渡りのうち
635	41	岩手県	お言葉御褒美とかいれい頭喰はれぬ
636	41	岩手県	おへり盗まれたのレナクテの借入に云はれぬえ
637	41	岩手県	*おぼされば、抱かれる
638	41	岩手県	おまありになれば村長もする
639	41	岩手県	お前一番、馬の糞一番
640	41	岩手県	お守りを開けて見れば馬鹿になる
641	41	岩手県	おまるさ糞
642	41	岩手県	おまんこ語におこんのは石地蔵ベヌーリだあど
643	41	岩手県	お宮の境内の樹を焚けば馬鹿が出る
644	41	岩手県	お宮のみずを取ると雨が降る
645	41	岩手県	思い切つて連れ添ってみると、何かうまくいくものである
646	41	岩手県	*思い立ったが吉日で、疾の立つ日は大風で、煙の立つ日は大火事だ
647	41	岩手県	思通りになれば踏跡を横に背負うべ
648	41	岩手県	思う慮えなれば誰も勝手足切っているものもない
649	41	岩手県	思うようになれば蟹もとんづく
650	41	岩手県	思うようになれば蟹もとんづく
651	41	岩手県	おも(面)がいがいにする
652	41	岩手県	重荷は背負えるが、糞荷は背えなえ
653	41	岩手県	俺の髪昌し
654	41	岩手県	俺の糞と糞は小便利たれることはない
655	41	岩手県	俺の年すかあ、前の柿の木と同じ年だあ
656	41	岩手県	終り初もの
657	41	岩手県	御座をおあげんせ
658	41	岩手県	がいてるべれば隣のべこあ売れない
659	41	岩手県	街道神楽を舞う
660	41	岩手県	街道を又にして暮らす
661	41	岩手県	がいが年寄あ丈夫だれば若いもんががしい
662	41	岩手県	買うより貰うは高上がり
663	41	岩手県	返りかまどの内ばもめ
664	41	岩手県	返りは山ほど
665	41	岩手県	鏡を頼つて歩いて歩けば恐くない
666	41	岩手県	かきさなめば、こえこのわらしになる
667	41	岩手県	家業上手はカガ(織)が持つ
668	41	岩手県	家業よりおつかないものは無い
669	41	岩手県	字間の力は体躯の力に百倍す
670	41	岩手県	神楽舞えどおんなじに宿を貰えんす
671	41	岩手県	隠れ馬鹿は行きやて来た
672	41	岩手県	*駆け馬さ鞭
673	41	岩手県	掛置きたる三味線自然に糸巻ゆるみて「キウ」と鳴りて
674	41	岩手県	ゆるめは待人来るとして閑居たるもの「チウ」と鼠鳴をする
675	41	岩手県	陰口言われれば耳が火照る
676	41	岩手県	陰法師の無い人は間もなく死ぬ
677	41	岩手県	陰達育ち

No	作業No	都道府県	ことわざ
677	41	岩手県	籠の鳥つてを逃がしたうだ
678	41	岩手県	火災生ずる際は鶏家に入らずと云ふ
679	41	岩手県	かきば、かきにする
680	41	岩手県	カシギが変れば猫が死ぬ
681	41	岩手県	かかしとじり平産す女の時持つ前
682	41	岩手県	かかしのくせも産す女(おなご)あ色好みする
683	41	岩手県	鹿島の鹿取り
684	41	岩手県	頭が廻らないば尾つても廻らない
685	41	岩手県	ガスガス袋ノソリ果報
686	41	岩手県	稼ぎだして従兄弟を買う
687	41	岩手県	稼ぎマッコ(馬)てえねえで、つなぎマッコてえだあ
688	41	岩手県	仇は水き流せ、思は水き刻め
689	41	岩手県	片正月をするものでない
690	41	岩手県	片心あれば両心ある
691	41	岩手県	片方で片方とるはよくない
692	41	岩手県	仇に上げ打ち
693	41	岩手県	*仇の家でも口は濡らせ
694	41	岩手県	仇の前でかい山刀使うな
695	41	岩手県	*仇の前には通るにいが、
696	41	岩手県	かり(借金)のめ(前)えは通れぬえ
697	41	岩手県	仇の前は通れぬが、借金の前は通れない
698	41	岩手県	仇の金でもあればつかる
699	41	岩手県	かたごと
700	41	岩手県	刀あ貸して首い取られる
701	41	岩手県	カチャクチャと棒
702	41	岩手県	かくくいあれば、馬つこ繋ぐ
703	41	岩手県	かくくいもよいがら
704	41	岩手県	カクかからがい、目にしんしょう
705	41	岩手県	かつてはつて次第
706	41	岩手県	カツ荷とヤマエ(術)は軽いだけ
707	41	岩手県	*金鐘の河流れ
708	41	岩手県	金の災難は何れか来るもの
709	41	岩手県	金の額はあつても言葉の額は無い
710	41	岩手県	金の腐れはあつても言葉に腐れはない
711	41	岩手県	かまあるものは高川原に走る
712	41	岩手県	かま糞丸前田千刈持たつより面白
713	41	岩手県	釜ヶえさば三年前
714	41	岩手県	釜ヶえす家の馬はただの角
715	41	岩手県	釜の陰が薄うすと、
716	41	岩手県	稼ぎ(人)はか(食)んええもんだ
717	41	岩手県	吠青負い
718	41	岩手県	糞が良くなる時は、ペゴの糞も金になる
719	41	岩手県	籠と屏風は曲らないば立たない
720	41	岩手県	かまはなへばかまはない
721	41	岩手県	紙を火にやくと佛物焼く
722	41	岩手県	かもど返しの内ばもめ
723	41	岩手県	*かめし折へ手がかどかめ
724	41	岩手県	空尻を叩く
725	41	岩手県	カラケ横に背負う
726	41	岩手県	からげを飲めるとよくつになる
727	41	岩手県	から落葉まわすな
728	41	岩手県	からなへこ豆をがらからと入れると
729	41	岩手県	難産するという
730	41	岩手県	空嚔をかけたばカワキが生まれる
731	41	岩手県	カラハシでこえた
732	41	岩手県	からまるつら(憂)あ、離されぬあ
733	41	岩手県	からまる松を枯らす藤の花
734	41	岩手県	からまる松を枯らす藤の花
735	41	岩手県	*飯ばげ袋さかつかない
736	41	岩手県	*借りつぎの恵比寿面(顔)、払うどきの閻魔面(顔)
737	41	岩手県	借りつぎ
738	41	岩手県	借りればワライア(我)もの
739	41	岩手県	枯木とマツゴ(馬糞)
740	41	岩手県	川井桑とマツゴの糞には油断がなんねえ
741	41	岩手県	川から巻石を取つてくれれば死人が出る
742	41	岩手県	川流(かなが)れゴト(埃)
743	41	岩手県	川流れ三尺
744	41	岩手県	川原の石とわらしは冷える程よい
745	41	岩手県	川原を馳せるも早部の手前
746	41	岩手県	川目であま当り馬三頭死なないば、
747	41	岩手県	けつかつあ来るつてち
748	41	岩手県	寒かてびらに、土用つづれ
749	41	岩手県	カンコーの町の日に隠れ座頭をおさきに行く
750	41	岩手県	がんにも足はぬかたよう
751	41	岩手県	がんい食うは太い食う
752	41	岩手県	木裏が良、木表がわる
753	41	岩手県	*聞けば聞かす腹が立つ
754	41	岩手県	*木さげのいきがらけ
755	41	岩手県	*木さ餅あなる
756	41	岩手県	鍛える神はメッコになる
757	41	岩手県	鍛へるしんうは鼻をかかく
758	41	岩手県	きた休みなないばこあ驚えする
759	41	岩手県	*吉因は日でねえ、人だ
760	41	岩手県	吉三留まると書て貼れば七風と云へ、風邪にからぬ
761	41	岩手県	きくつす(木声)すんじよ(人形・地蔵)も、
762	41	岩手県	もやしえ(袋)から
763	41	岩手県	切つたり盛つたり
764	41	岩手県	*切つても納切れ、なれても侍
765	41	岩手県	*木で鼻かむ
766	41	岩手県	祈禱札を水口に立てれば虫つかぬ
767	41	岩手県	着床後と中年の浮気は止められない
768	41	岩手県	キドコロネは百病の因
769	41	岩手県	木に鼻を付ている小島の糞や卵を取ると、
770	41	岩手県	病気が怪我をする
771	41	岩手県	病気が怪我をする
772	41	岩手県	甲子の年に建築、修繕、ヤドコはせぬ
773	41	岩手県	木の尻とおなごのけつはいつも冷えてる
774	41	岩手県	木の根が土舌の下に入ると病人が出る
775	41	岩手県	木の葉あ、木の葉さ落つる
776	41	岩手県	木の葉を釣る
777	41	岩手県	きの雪折れの澤山出た時は若人が死ぬ
778	41	岩手県	*キビカラの皮は人の骨を見たがぬ
779	41	岩手県	木竹末(うら)
780	41	岩手県	免跡のない人と道連するな手間取りと
781	41	岩手県	音風は日の頭い
782	41	岩手県	灸をしない者と道連れするな
783	41	岩手県	金の着倒れ、南部の食い倒れ
784	41	岩手県	鏡面前方を照せば背後を照さず
785	41	岩手県	虚弱な体質の人が死んだとき、
786	41	岩手県	機織のオサを持たせてやる
787	41	岩手県	調理はつてのたばなる
788	41	岩手県	調理はつてのたばなる
789	41	岩手県	器量で飯食うは女郎ばかり
790	41	岩手県	器量良いとてげんたいぶるな
791	41	岩手県	綺麗な草あ毒(どく)もある
792	41	岩手県	きれも精されなれども鯛なます
793	41	岩手県	目目にはつづいているが、そり目にはつづきがない
794	41	岩手県	きんじと遠慮は腹さ入んない
795	41	岩手県	金ほつば(指輪)の脚り返し
796	41	岩手県	きくつす(木声)すんじよ(人形・地蔵)も、
797	41	岩手県	草つから人形もようえ
798	41	岩手県	草はききばこくゆきばるもんでない
799	41	岩手県	腐れ糞と馬糞
800	41	岩手県	くしえ(糞)も、かぐす
801	41	岩手県	*薬九層膏、種類十層膏
802	41	岩手県	苦するより小便して、小便はこやしになる
803	41	岩手県	苦するより小便して、小便はこやしになる
804	41	岩手県	*せ皮三寸我が身のうちでない
805	41	岩手県	*糞喰れあ糞音
806	41	岩手県	くそぐれえさく
807	41	岩手県	糞荷の柄の柄のけた
808	41	岩手県	食つたあ犬のそいになんねえ、
809	41	岩手県	ぬめた犬のそいになつた
810	41	岩手県	くつつき犬さ棒
811	41	岩手県	工藤高橋べこ糞
812	41	岩手県	若になんねえべこ糞には役に立たぬえ
813	41	岩手県	苦の無え者あ、求めて苦苦こせえる
814	41	岩手県	*時闇(くらすま)と棒

No	作業No	都道府県	ことわざ
806	41	岩手県	見ないば限ったのと人の縁は用立たない
807	41	岩手県	蔵の敷したのと人の縁は用立たない
808	41	岩手県	来る時遅えやつ帰る早い
809	41	岩手県	くれた物えと返せば瓜あぬける
810	41	岩手県	くれた物えとれば盗人だ
811	41	岩手県	縁々通らば真中通れ、ほどりほどりに穴がある
812	41	岩手県	縁々通らばほどなとて冠うた、金が無ければ秋の崎
813	41	岩手県	縁がついたボイド見たことない
814	41	岩手県	ぐわん口のつぐなし
815	41	岩手県	ケンユ (返し) は山程
816	41	岩手県	怪我と便当は手前持ち
817	41	岩手県	歌頻々森淫せば七里四方枯れる
818	41	岩手県	けつかつてやにして悪ぶ
819	41	岩手県	けつこうちようらい寒卵
820	41	岩手県	けつつきあ、ぐやめがな一で ける
821	41	岩手県	けつばら穴がつつて一
822	41	岩手県	けつばらえもなえ
823	41	岩手県	毛馬内の権現様が来ると翌日は雨
824	41	岩手県	けふあ飾のしつただもて色の黒い方さなびく
825	41	岩手県	煙いあ色男
826	41	岩手県	煙いどこと雨のものどこにあられない
827	41	岩手県	げはだんつくれ 馬のちようちん
828	41	岩手県	げもいらいすんで三年間は仲人の持前
829	41	岩手県	けるでは欲しくない、げないでは欲しい
830	41	岩手県	ける飯してよりよきける
831	41	岩手県	けるもけるくやめでける
832	41	岩手県	けるつけない奴ははいとう
833	41	岩手県	喧嘩と手倉たなきあ一人であ出来ない
834	41	岩手県	喧嘩に負けても相續に勝て
835	41	岩手県	喧嘩の共倒れ
836	41	岩手県	けんださんの婆さま聞け
837	41	岩手県	聲と力は持ってもじまなんねえ
838	41	岩手県	五階の塔も下からくめ
839	41	岩手県	こけつこも歌のうち
840	41	岩手県	九つ時の地震は病
841	41	岩手県	九つ通いの夫婦が縁が絶えない
842	41	岩手県	ここ一杯ないものごとさ行っても一杯ない
843	41	岩手県	ここ一文字は松前さ行っても一文
844	41	岩手県	ここみ鏡に反り鎌
845	41	岩手県	心細やかに小間物売ればかつく貧乏なし
846	41	岩手県	心迷えば盲目同じ
847	41	岩手県	ご祝儀とご祝儀と行會ひは負勝が出て悪い
848	41	岩手県	恨恨と足りぬ
849	41	岩手県	腰の冷えと己惚れあ女の大概
850	41	岩手県	こしえやいだと家焼いたは損
851	41	岩手県	こしえやがれで、しえぎ (関) の山
852	41	岩手県	後生と握り飯はてんで
853	41	岩手県	*春将葉を覚ると親の死日に逢はぬ
854	41	岩手県	御神代と申のお叱りをうけ
855	41	岩手県	小銭の高鳴り
856	41	岩手県	ごせの焼き損
857	41	岩手県	炬燵の角に坐ると金持になる
858	41	岩手県	こたつ八人
859	41	岩手県	小遣いも工面
860	41	岩手県	コッパコッパエがる奴は格気深い
861	41	岩手県	コッパコッパは立てないば燃えない
862	41	岩手県	子連れ使わば、テンゴ使え
863	41	岩手県	こていにあづられたから鶏の妻となれ
864	41	岩手県	こていの昼間
865	41	岩手県	唇と舌の縁の音さゆるは雨
866	41	岩手県	言葉に敵 言葉に隠れ難
867	41	岩手県	*言葉に税金はかからぬ
868	41	岩手県	言葉の礼と縁の頭は貰わなくてもらい
869	41	岩手県	ことばりが事欠けない
870	41	岩手県	ことわり事かかげない
871	41	岩手県	小鯛の腹を着物の下に背負っていると、勝負事に強い
872	41	岩手県	小人敵のたつき
873	41	岩手県	こねくり人あ、めくれない
874	41	岩手県	このかわうそのかわほんとうのかわうそのかわ
875	41	岩手県	困る八月、盆の末
876	41	岩手県	塵 (こみ) と銭あたまれば汚くなる
877	41	岩手県	塵の馬と銭あ (家) に銭あねえ
878	41	岩手県	塵も投げな
879	41	岩手県	五文の頼燭を灯して三文の得をとれ
880	41	岩手県	転げたものを持って出ると事故が起きる
881	41	岩手県	転げ始めた石は行くどころか行かないば止まない
882	41	岩手県	轉ばぬ前の杖
883	41	岩手県	毒は打ばほんだら田でも打て
884	41	岩手県	つんばの鼻を欠く
885	41	岩手県	こんげ (自慢) はくより、庭掃げ
886	41	岩手県	権現様のようにあつからぬぐ
887	41	岩手県	権現を祠つてあるので四足二足を食べられない
888	41	岩手県	「この」という本は燃えない
889	41	岩手県	*今度化物には逢った事 (ごと) が無い
890	41	岩手県	賽銭箱と脚を突つたむ
891	41	岩手県	さい嘘で猫のケツを叩く
892	41	岩手県	財布はハラビクから縫って貰へば銭あたと入る
893	41	岩手県	財布を買った時は他方からお金を入れて貰ふと金が貯まる
894	41	岩手県	境はおりあい 世はまわつ
895	41	岩手県	境はおりあいてる
896	41	岩手県	さかす (賢い) じこ (雑魚) あ、おが (陸) さ上がる
897	41	岩手県	歪と相撲あ手とどる
898	41	岩手県	歪と世中あ来る程よい
899	41	岩手県	サカムケが出来る者は親不幸者だ
900	41	岩手県	酒盛りのときは入より先に立て
901	41	岩手県	酒盛りのよべつば (小唄)
902	41	岩手県	*先勝ふガ勝、後勝ふガ勝
903	41	岩手県	(先) になつたのはボイドでも
904	41	岩手県	先先むね (嘘) はわれのむね (嘘)
905	41	岩手県	先棒かいて得はない
906	41	岩手県	作のちつちよくねは一年が、カカのもつちよくねえは一生涯だ
907	41	岩手県	酒賣と医者むかいはほんぼ早くても早いだれない
908	41	岩手県	指した歪に指図はいらない
909	41	岩手県	さつさん (借金) と妻は踏むほどおがる
910	41	岩手県	さつこ (雑魚) 釣マ鹿だ 見るヤツアホイト
911	41	岩手県	さつてから三服
912	41	岩手県	さつてば掘らば身を掘れ
913	41	岩手県	佐藤高橋の薬
914	41	岩手県	砂糖かめで年をとる
915	41	岩手県	さぼつこと上手のやり下手
916	41	岩手県	さべ (嘘) るだけは誰でもできる
917	41	岩手県	さべねえようでも縁のごと
918	41	岩手県	寒い時火のそばも女ごのそばがよい
919	41	岩手県	寒い時着えすい物はない
920	41	岩手県	寒さは風が持つ 憎さは口が持つ
921	41	岩手県	皿やなめつた犬や殺される
922	41	岩手県	*爪さ水
923	41	岩手県	三寸流れれば清し
924	41	岩手県	*三寸の舌で五尺の身を滅ぼす
925	41	岩手県	三束縛った人
926	41	岩手県	三タイ (太陽) が三つに見えること) に見えれば荒れる
927	41	岩手県	三度は大事
928	41	岩手県	三年経てば投げんもんでも役に立つ
929	41	岩手県	三文でえなし
930	41	岩手県	三文の袋を握えねえ奴とは旅をすんな
931	41	岩手県	飛騨織れば秋の風がくる
932	41	岩手県	さんびつ揃った人なあもんだ
933	41	岩手県	産を治めるにやっしつ持つ
934	41	岩手県	幸せと、尻糞、コバカタレにつく
935	41	岩手県	しえん (先) が、おかわ (代) り
936	41	岩手県	塩 (し) のない鹽は立ちない
937	41	岩手県	*鹿立と、矢をはく
938	41	岩手県	しかたに律ない、アグドに爪ない
939	41	岩手県	仕方もなければ、おかたもない
940	41	岩手県	*仕事あ仕事教へる
941	41	岩手県	仕事は大人数 食う時は小人数
942	41	岩手県	七賢さ 八 (はっ) さえらく (細工)
943	41	岩手県	しちかき 七年かさかさ八年

No	作業No	都道府県	ことわざ
944	41	岩手県	いつ七年こそごそ五年げんぶく三年トテ十五年かかる
945	41	岩手県	品物三分七毛
946	41	岩手県	ジム染まねば根雪にならぬ
947	41	岩手県	*自分の頭の腫を追え
948	41	岩手県	自分をつめて人の痛さを知れ
949	41	岩手県	踊らに金がある、華のたらに金がない
950	41	岩手県	仕舞の幕に鬼が出る
951	41	岩手県	*自慢高慢馬鹿のうち
952	41	岩手県	自慢の慢の字は藪偏に倒れるど書く
953	41	岩手県	高直の目を針で突くとメクラになる
954	41	岩手県	高直は買ふものでない、盗むもの、盗んだ者の罪も問われぬ
955	41	岩手県	写真を写せばその都度命が短くなる
956	41	岩手県	喋つた口はふたがけない
957	41	岩手県	喋つた ささき、聞いた ききうり
958	41	岩手県	喋り過ぎと、塩の入れ過ぎは取り返しつかない
959	41	岩手県	しゃべるとしゃべんねえは三分の遅い
960	41	岩手県	しゃべん一ば 馬鹿あめない
961	41	岩手県	邪魔にされて取つて投げられて、こらほどきえねえのんに枝さげられて、三百六十日風に吹かねえ日は無がべえが、雨の降かねえ日も無がべえが
962	41	岩手県	邪魔にならねば一人前
963	41	岩手県	十六ササギの初なり
964	41	岩手県	じやつ切れば屋内の人ア死ぬ
965	42	福井県	朝くもは復くば、夜くもは鬼くば
966	42	福井県	朝の茶柱はよいことがある
967	42	福井県	暑さ寒さも彼岸まで
968	42	福井県	朝紅に筆を垂れるな
969	42	福井県	アホウの大喉い
970	42	福井県	あいた口はふさがらぬ
971	42	福井県	アホウの三杯汗
972	42	福井県	あきないのは牛のよだれ
973	42	福井県	朝障子に鳥の影は珍客がくる
974	42	福井県	あつものにこりてナマスを吹く
975	42	福井県	雨降つて地固まる
976	42	福井県	秋ノ芝は秋に食わずな
977	42	福井県	頭かして尻かきさす
978	42	福井県	足元から鳥が立つ
979	42	福井県	悪事千里を走る
980	42	福井県	悪銭身につかず
981	42	福井県	朝起きは三文の得
982	42	福井県	朝 (あ) ときさちよろちよろ、中パツパツ親が死んでもア取るな
983	42	福井県	朝紅に川越すな
984	42	福井県	東 (あずま) 男に京女
985	42	福井県	あほうにつける葉なし
986	42	福井県	あたらしくも遠からず
987	42	福井県	あたらしくも遠からず
988	42	福井県	あたらしくも遠からず
989	42	福井県	合せもの離れもの
990	42	福井県	赤児の手をひねるような
991	42	福井県	赤い花にはトグがある
992	42	福井県	青葉に塩
993	42	福井県	あとの祭り
994	42	福井県	油を売る
995	42	福井県	あほう見たけりや親をみよ
996	42	福井県	あつて七癖なくて七癖
997	42	福井県	悪妻は百年の不作
998	42	福井県	六の遠吠え
999	42	福井県	いびきやメカキツバタ
1000	42	福井県	一寸先は闇
1001	42	福井県	一寸の虫にも一分のたましい
1002	42	福井県	色白は七難隠す
1003	42	福井県	一孔餅に二孔は入らぬ
1004	42	福井県	六が腹を向けば尾が西を向く
1005	42	福井県	いり豆花が
1006	42	福井県	医者不養生、坊主の不信心
1007	42	福井県	石の上にも三年
1008	42	福井県	石に礎 (いかり)
1009	42	福井県	息の臭さは主知らず
1010	42	福井県	犬にも知らずな
1011	42	福井県	犬に論語
1012	42	福井県	石を流して木の葉を洗める
1013	42	福井県	イタダが左から右へ道を横切つたら商売に出るな
1014	42	福井県	イタダの最後つ屁
1015	42	福井県	家付さカフ向きばあ親と金
1016	42	福井県	歌はつてもあと思うな親と金
1017	42	福井県	生馬の目をぬく
1018	42	福井県	イタダが道を横切ると雨になる
1019	42	福井県	一週間に二人死ぬと三人死ぬ
1020	42	福井県	石橋を叩いて渡る
1021	42	福井県	急がばまわれ
1022	42	福井県	イワの頭も信心から
1023	42	福井県	犬も犬は棒にあたる
1024	42	福井県	衣食足りて礼節を知る
1025	42	福井県	痛くない腹をさくられる
1026	42	福井県	羊の手より年の功
1027	42	福井県	羊の手の二人遊
1028	42	福井県	陰徳あれば陽報あり
1029	42	福井県	一心骨をも透す
1030	42	福井県	家の前の鬼つ子
1031	42	福井県	一度あれば二度ある
1032	42	福井県	内股にこうなく
1033	42	福井県	瓜のつりにナスビはならぬ
1034	42	福井県	嘘をすれば嘘になる
1035	42	福井県	内弁慶の外ネズミ
1036	42	福井県	上を見ず下に見せ暮せ
1037	42	福井県	ウドの木
1038	42	福井県	うまいものは小勢で
1039	42	福井県	中ば連れ馬は馬のれ
1040	42	福井県	打たねは鳴らぬ
1041	42	福井県	魚のいない所で釣をする
1042	42	福井県	馬の目に念仏
1043	42	福井県	牛を馬に乗りかえる
1044	42	福井県	歌は世につれ世は世につれ
1045	42	福井県	海千山千
1046	42	福井県	牛にひかれて善行寺詣り
1047	42	福井県	嘘か出たまこと
1048	42	福井県	嘘も方便
1049	42	福井県	ウグイス泣かせたこともある
1050	42	福井県	羽根 (うたつ) にくもつて己午に降る
1051	42	福井県	浮城 (うたつ) 日はいすの岸に映く
1052	42	福井県	雨後の節
1053	42	福井県	鳥合の衆
1054	42	福井県	縁は異なもの味なもの
1055	42	福井県	縁の下の方持ち
1056	42	福井県	絵にかいたばた餅
1057	42	福井県	得んば帳をあける
1058	42	福井県	江戸の仇を長崎で討つ
1059	42	福井県	エビでタイを釣る
1060	42	福井県	お山の大将
1061	42	福井県	女は三界に家なし
1062	42	福井県	鬼のいぬまに洗滌
1063	42	福井県	鬼の腹理とナスビの花は千に一つのアダもない
1064	42	福井県	奥庫に物がはさまつたような言い方
1065	42	福井県	オクビにも出ずな
1066	42	福井県	鬼の目にも涙
1067	42	福井県	お茶をにごす
1068	42	福井県	お茶をにごす
1069	42	福井県	お茶をにごす
1070	42	福井県	大男総身にチエがまわりかね
1071	42	福井県	負したに教えられた浅瀬を渡る
1072	42	福井県	岡に上つた河童
1073	42	福井県	屋上屋を重ねる
1074	42	福井県	鬼にかな棒
1075	42	福井県	岡目八目
1076	42	福井県	鬼も十八番茶も出花
1077	42	福井県	老いては子に従え

No	作業No	都道府県	ことわざ
1078	42	福井県	親の手知らず
1079	42	福井県	親の光は七光り
1080	42	福井県	帯に短かし褌(たすき)に長し
1081	42	福井県	親の因縁が子に報い
1082	42	福井県	小田原評定
1083	42	福井県	男は度胸女は愛嬌
1084	42	福井県	男やもめにうじがつき、女やもめに花が咲く
1085	42	福井県	男心(女心)と秋の空
1086	42	福井県	お茶にも屋根ふきにも
1087	42	福井県	おくびのしよんべん
1088	42	福井県	および腰(たじじする)
1089	42	福井県	己れをつめて人の痛さを知れ
1090	42	福井県	オオムよく言えども飛鳥を離れず
1091	42	福井県	女さかして牛乳がそこなう
1092	42	福井県	思い立ったが吉日
1093	42	福井県	お百度をふむ
1094	42	福井県	大風が吹くと桶屋が儲かる
1095	42	福井県	かさかさの帯
1096	42	福井県	可愛い子には旅をさせよ
1097	42	福井県	カエルのつらに小便
1098	42	福井県	カラスは白くてサギは黒い
1099	42	福井県	かぜはが病のともい
1100	42	福井県	柿を食うとも種食うな
1101	42	福井県	火の中の栗を拾う
1102	42	福井県	川に水を運ぶ
1103	42	福井県	金あればバカでも旦那
1104	42	福井県	亀の年を鶴がうらやむ
1105	42	福井県	学者の太木はわかにはできぬ
1106	42	福井県	縁ぎに追いつく貧乏なし
1107	42	福井県	仇さの助言も善は善
1108	42	福井県	形なれど影もなし
1109	42	福井県	壁は壁でふせげ
1110	42	福井県	画竜点睛を欠く
1111	42	福井県	我田引水
1112	42	福井県	神の如く怖れる
1113	42	福井県	栴を賣つてその名定まる
1114	42	福井県	河童(かっぱ)の川流れ
1115	42	福井県	鐘が鳴るかや、木が鳴るか
1116	42	福井県	枯木も山の賑わい
1117	42	福井県	借りる時のエビス顔なす時のエンマ顔
1118	42	福井県	妖鬼がお音(とき)についたよな
1119	42	福井県	笠から雨が糸引く時はとんで帰る
1120	42	福井県	柿が豊だと楽しいになる
1121	42	福井県	カラス鳴きが悪いと人が死ぬ
1122	42	福井県	元旦にホウキを使うと福がくる
1123	42	福井県	亀の甲より年の功
1124	42	福井県	元旦にイロリに足を入れるな
1125	42	福井県	返すときのエンマ顔
1126	42	福井県	皮を切らずに肉を切れ
1127	42	福井県	眼光紙背に徹す
1128	42	福井県	蛙(かえる)の子は蛙
1129	42	福井県	かっつたいの痘(かさ)うらみ
1130	42	福井県	蟹は甲に伏せて穴を掘る
1131	42	福井県	勘定あてで銭足らず
1132	42	福井県	金の切れ目が縁の切れ目
1133	42	福井県	金もものをいう
1134	42	福井県	柿の皮はうすくむけ、瓜の皮は厚くむけ
1135	42	福井県	カラスの行水
1136	42	福井県	カモがネギ食わえてくる
1137	42	福井県	庵難攻を玉にす
1138	42	福井県	庵難攻は長久の基
1139	42	福井県	キジが突った声で鳴くと地震がおきる
1140	42	福井県	聞いて極楽見て地獄
1141	42	福井県	キジも鳴かざれば打たれまい
1142	42	福井県	木に竹をつく
1143	42	福井県	器用貧乏
1144	42	福井県	木仏金仏石仏
1145	42	福井県	漁夫の利
1146	42	福井県	きちがいにも刃物
1147	42	福井県	桐の木のこやしも遠くから
1148	42	福井県	きのうは人の身明日はわが身
1149	42	福井県	今日は風、明日はあすの風が吹く
1150	42	福井県	着たり着、明日はあすの風が吹く
1151	42	福井県	木で鼻をかむ
1152	42	福井県	鱈尻取って猫を噛む
1153	42	福井県	鱈島橋かに入れは風師も之を捕らず
1154	42	福井県	君子危ふきに近よらず
1155	42	福井県	クモの巣で馬をつなぐ
1156	42	福井県	雲を起し嵐を呼ぶ
1157	42	福井県	雲をつかむような話
1158	42	福井県	クモが網羅をつくと天気になる
1159	42	福井県	クモの手を散らす
1160	42	福井県	群盲象を撫でる
1161	42	福井県	腐つても腐
1162	42	福井県	首がまがるぬ
1163	42	福井県	口はわざわいの元
1164	42	福井県	口車にのせる
1165	42	福井県	口にも箸にもかからぬ
1166	42	福井県	臭い物にはフタをせよ
1167	42	福井県	口八丁、手八丁
1168	42	福井県	暗がりから手を引出す
1169	42	福井県	粟九そう倍
1170	42	福井県	葉(松)の木と後生ねがいになっくな
1171	42	福井県	ものはない
1172	42	福井県	車の両輪の如し
1173	42	福井県	苦しむ神のみ
1174	42	福井県	大猿の俵
1175	42	福井県	芸を身を助ける
1176	42	福井県	玄關から出たら妻戸口から入れ
1177	42	福井県	下戸の建てた倉がない
1178	42	福井県	けがの功名
1179	42	福井県	けちん坊の柿の種
1180	42	福井県	毛並みがい
1181	42	福井県	毛ざらいされる
1182	42	福井県	健全なる精神は健全なる身体に宿る
1183	42	福井県	兄たり難く弟たり難し
1184	42	福井県	巧言色少しに
1185	42	福井県	虎口を逃れる
1186	42	福井県	こんどくで石垣を築く
1187	42	福井県	紺屋の白はかま
1188	42	福井県	転ばぬ先の杖
1189	42	福井県	虎穴に入らずんば虎尻を得ず
1190	42	福井県	紺屋のあさって
1191	42	福井県	飯んでもたは起きぬ
1192	42	福井県	乞食のおかゆ
1193	42	福井県	言葉に税金はかからぬ
1194	42	福井県	子をほめる親たわけ
1195	42	福井県	孝行したい時親はなし
1196	42	福井県	子は大福のカスガイ
1197	42	福井県	弘法は筆のあやまり
1198	42	福井県	恋は盲目
1199	42	福井県	郷に入つては郷に従え
1200	42	福井県	乞食の赤糞
1201	42	福井県	光陰矢の如し
1202	42	福井県	乞食は三日するとやめられぬ
1203	42	福井県	行囊無き
1204	42	福井県	後侮先に立たず
1205	42	福井県	猿に冠り
1206	42	福井県	猿も木から落ちる
1207	42	福井県	さかりのついた猫のような
1208	42	福井県	刺し刺で行く(夫婦同歩)
1209	42	福井県	サイヤの川流れ
1210	42	福井県	ニちゃん農業
1211	42	福井県	ザルで水をすくう
1212	42	福井県	先のガンが後になる
1213	42	福井県	三種の神器
1214	42	福井県	三べんまわつてタバコにしよう
1215	42	福井県	さわらぬ神にたたりなし

No	作業No	都道府県	ことわざ
1216	43	福井県	酒のみ本性たがわず
1217	43	福井県	地獄の沙汰も金次第
1218	43	福井県	猿の小便で木(気)にかかる
1219	43	福井県	三人番れば文珠の知恵
1220	43	福井県	酒は百薬の長
1221	43	福井県	酒のの織り言
1222	43	福井県	鱈を噛む
1223	43	福井県	正月はあの世への一里塚
1224	43	福井県	しわんぼうの柿の種
1225	43	福井県	証文の出しおくれ
1226	43	福井県	シヤクの虫を押える
1227	43	福井県	心頭を滅却すれば火もまた涼し
1228	43	福井県	朱に交われば赤くなる
1229	43	福井県	死人の骨を粉にして飲むとオコリが癒る
1230	43	福井県	正月餅は豆がらで煮よ
1231	43	福井県	鹿を追う風師山を見ず
1232	43	福井県	死にしまの念仏
1233	43	福井県	春眼眺まきおぼえず
1234	43	福井県	小便もひっかけぬ
1235	43	福井県	食足りで口籠を知る
1236	43	福井県	尻に根が生える
1237	43	福井県	シヤカに読法
1238	43	福井県	重箱の糠とシヤジでつく
1239	43	福井県	自分の尿は臭くない
1240	43	福井県	心配すると頭がはげる
1241	43	福井県	知らぬが仏
1242	43	福井県	獅子身中の虫
1243	43	福井県	シシ食った報い
1244	43	福井県	死鬼の輪を数える
1245	43	福井県	上手の手から水が漏る
1246	43	福井県	春植儀(あたひ)千金
1247	43	福井県	弱肉強食
1248	43	福井県	詩をつくるより田をつくれ
1249	43	福井県	十人十色
1250	43	福井県	小の虫殺して大の虫を助ける
1251	43	福井県	知らぬ顔の半兵衛
1252	43	福井県	死人に口なし
1253	43	福井県	鐘で花束が咲くものか
1254	43	福井県	自分の子と猫はほめるな
1255	43	福井県	幸福は金なり
1256	43	福井県	蛇(じ)の道はへび
1257	43	福井県	地獄で仏
1258	43	福井県	立脚の矢が立つ
1259	43	福井県	初心忘るべからず
1260	43	福井県	小人閑居して不善をなす
1261	43	福井県	尻をかかげる
1262	43	福井県	尻に鞭をかける
1263	43	福井県	針小棒大
1264	43	福井県	人事を尽して天明を待つ
1265	43	福井県	秋露烈日の如し
1266	43	福井県	親しき中にも礼儀あり
1267	43	福井県	蛇は寸にして人を呑む
1268	43	福井県	蛇の道はへび
1269	43	福井県	死ぬ馬も尻
1270	43	福井県	水魚のまじわり
1271	43	福井県	雀まで踊りを忘れず
1272	43	福井県	雀の涙
1273	43	福井県	袴が身を食う
1274	43	福井県	好きこそ物の上手なれ
1275	43	福井県	捨てる神あれば拾う神あり
1276	43	福井県	住めば都
1277	43	福井県	末の百より今五〇
1278	43	福井県	過ぎたるは及ばざるが如し
1279	43	福井県	過ぎたるは及ばざるが如し
1280	43	福井県	センダンには薬より香ばし
1281	43	福井県	せいては事を仕損じる
1282	43	福井県	清濁合せのむ
1283	43	福井県	背に腹はかえられぬ
1284	43	福井県	世間の口に戸は立たぬ
1285	43	福井県	せかせか寝ざめつくり長者
1286	43	福井県	そろばんとて足足らず
1287	43	福井県	総領の甚六
1288	43	福井県	袖の下を使う
1289	43	福井県	袖ふれ合うも他生の縁
1290	43	福井県	外の腫ぬは大きい
1291	43	福井県	積して徳をたれ
1292	43	福井県	立たばシヤクヤク座ればボタン
1293	43	福井県	叫べばホコリが出る
1294	43	福井県	高い所へホッコ持つ
1295	43	福井県	高い山はどこから見ても高い
1296	43	福井県	タガの外れた人間
1297	43	福井県	竹に音がない
1298	43	福井県	ただと高いものはない
1299	43	福井県	立つ鳥あちを濁さず
1300	43	福井県	出すことなら親父(おやじ)を監獄から出すのも嫌
1301	43	福井県	棚からぼた餅
1302	43	福井県	立板に水
1303	43	福井県	伊達舟の薄着
1304	43	福井県	他人の飯には骨がある
1305	43	福井県	旅は道づれ世は情
1306	43	福井県	太鼓もば子のあたりよう
1307	43	福井県	他人のフンドシですもうをとる
1308	43	福井県	タゴになりべすになり
1309	43	福井県	他人の石
1310	43	福井県	他人の背中でバラを背負う
1311	43	福井県	たと馬にも得手
1312	43	福井県	大は小を兼ねる
1313	43	福井県	短気は損気
1314	43	福井県	泰山鳴動して震一匹
1315	43	福井県	誰かアスの雌雄を知らん
1316	43	福井県	高嶺の花
1317	43	福井県	地震のときは竹藪に逃げよ
1318	43	福井県	ちんぱひく
1319	43	福井県	ちようちん持
1320	43	福井県	ちようちんに吊鐘
1321	43	福井県	ちやちやをくれる
1322	43	福井県	狎(ちん)がくしゃみをしたような
1323	43	福井県	ちんぱもひききようで腹が立つ
1324	43	福井県	地獄の沙汰も金次第
1325	43	福井県	血を血で洗う
1326	43	福井県	麩もつもれば山となる
1327	43	福井県	茶柱が立つと縁起がよい
1328	43	福井県	地震かみなり火事おやじ
1329	43	福井県	沈香もたかす尻もこかず
1330	43	福井県	つらの皮千枚張り
1331	43	福井県	角を矯めて牛を殺す
1332	43	福井県	つんぼの立聞き
1333	43	福井県	土人形の川流び
1334	43	福井県	釣するバカより釣見るバカ
1335	43	福井県	強くなったのは女と靴下
1336	43	福井県	爪で火を打す
1337	43	福井県	月とスッポンほどちがう
1338	43	福井県	月夜にちようちん
1339	43	福井県	つんぼの耳
1340	43	福井県	爪につめなし、爪につめあり
1341	43	福井県	月にむら雲花には嵐
1342	43	福井県	頭寒足熱
1343	43	福井県	亭主の好きな赤帽子
1344	43	福井県	亭主は月船の運び屋
1345	43	福井県	出る杭(くい)は打たれる
1346	43	福井県	出ものはれもの所さちわす
1347	43	福井県	寺の門前鬼が住む
1348	43	福井県	天を仰いでツバをはく
1349	43	福井県	てんぼ七分にして瀬ろさず
1350	43	福井県	天網恢々疎にして漏らさず
1351	43	福井県	手くすばく
1352	43	福井県	天ぶらがなたねになるまで聞く
1353	43	福井県	天秤にかける

No	作業No	都道府県	ことわざ
1354	44	福井県	福知る己れ知る
1355	44	福井県	天は自ら助くるものを助く
1356	44	福井県	鉄は熱いうちに打て
1357	44	福井県	天衣無縫
1358	44	福井県	天の穴から空のぞく
1359	44	福井県	手かせ足かせ
1360	44	福井県	手前が
1361	44	福井県	トビが舞うと天気になる
1362	44	福井県	東雷は雨が降らない
1363	44	福井県	鳥が早く渡ると雪が早く降る
1364	44	福井県	遠い親類より近い他人
1365	44	福井県	年寄りのヨダレはにかわになる
1366	44	福井県	トビに油揚げをさらわれる
1367	44	福井県	豆腐で歯を痛める
1368	44	福井県	塔は下から積む
1369	44	福井県	年寄りの冷や水
1370	44	福井県	とらぬ狸の皮算用
1371	44	福井県	飛んで火に入る夏の虫
1372	44	福井県	豆腐にカスガイ
1373	44	福井県	隣りの花は赤い
1374	44	福井県	泥棒にも三分の理
1375	44	福井県	虎の尾を踏む思い
1376	44	福井県	泥棒に道銭
1377	44	福井県	所さむらいに旅坊主
1378	44	福井県	鳥なき世のコウリ
1379	44	福井県	飛ぶ鳥も後をにこさず
1380	44	福井県	土用の節
1381	44	福井県	虎の威をかる狐
1382	44	福井県	冬至十日間
1383	44	福井県	ところかわれば品かわる
1384	44	福井県	トビがツガを生む
1385	44	福井県	燈台もと暗し
1386	44	福井県	時は金なり
1387	44	福井県	戸板に水
1388	44	福井県	毒食わば皿まで
1389	44	福井県	土方登りに刃物はいらぬ
1390	45	福井県	泣き面は顔はは
1391	45	福井県	裂につぶ
1392	45	福井県	泣き面に蜂
1393	45	福井県	情けは人の為ならず
1394	45	福井県	生木を裂く
1395	45	福井県	二階に上ればハシゴを取る
1396	45	福井県	一度あることは二度ある
1397	45	福井県	迷した魚は大きい
1398	45	福井県	荷うても折れぬ
1399	45	福井県	二階から目薬
1400	45	福井県	にくまれ者世にはばかる
1401	45	福井県	人參種は精進蕎麦せよ
1402	45	福井県	二階(せんじ)
1403	45	福井県	女房と盤は新しいがよい
1404	45	福井県	人間至るところに青山あり
1405	45	福井県	似たもの夫婦
1406	45	福井県	鎌に釘
1407	45	福井県	盗れども手は洗い
1408	45	福井県	盗人ひる寝
1409	45	福井県	盗人にも三分の理
1410	45	福井県	鎌よこび
1411	45	福井県	猫の手でも借りたい
1412	45	福井県	猫の手で餅
1413	45	福井県	猫の爪は梅雨明け
1414	45	福井県	猫と犬の夫婦
1415	45	福井県	猫に小判
1416	45	福井県	猫まね声に油断すな
1417	45	福井県	猫の前の小鼠
1418	45	福井県	寝る子は背つ
1419	45	福井県	寝る子は背つ
1420	45	福井県	年寄りのさめどき
1421	45	福井県	念には念を入れよ
1422	45	福井県	寝耳に水
1423	45	福井県	猫のわたたび
1424	45	福井県	猫に紙袋
1425	45	福井県	猫の爪は梅雨明け
1426	45	福井県	ノド元すざれば爪は懸る
1427	45	福井県	能ある鷹は爪を隠す
1428	45	福井県	のれんに腕押し
1429	45	福井県	腹も身のうち
1430	45	福井県	腹に衣(きぬ)着せぬ
1431	45	福井県	腹八分目に医者いらす
1432	45	福井県	春の吹雪坊立の種草
1433	45	福井県	鼻にハマグリ
1434	45	福井県	針の穴から天のぞく
1435	45	福井県	花より団子
1436	45	福井県	ハンにも棒にもかからぬ
1437	45	福井県	鼻の穴で突う
1438	45	福井県	八面六臂
1439	45	福井県	裸八郎兵エ
1440	45	福井県	鼻毛をのばす
1441	45	福井県	墓にふとはは着せられぬ
1442	45	福井県	始めに二度なし
1443	45	福井県	鼻にさすやうちんをはる
1444	45	福井県	早急点の早急
1445	45	福井県	ハンゴをとられても二階に上る
1446	45	福井県	馬耳東風
1447	45	福井県	バカにつける薬はない
1448	45	福井県	腹八分目に医者いらす
1449	45	福井県	腹八分目に医者いらす
1450	45	福井県	八掛謎みの八掛知らず
1451	45	福井県	八せん竹切のな、大根ひきするな
1452	45	福井県	白髪三千丈
1453	45	福井県	八十八の祝餅を食べると長生きする
1454	45	福井県	歯が一本抜けた夢をみると縁者が死ぬ
1455	45	福井県	張り紙式な話
1456	45	福井県	バカとはさみは使えよう
1457	45	福井県	バカの一つおぼえ
1458	45	福井県	晩の虹、百日の照り
1459	45	福井県	馬脚を露わす
1460	45	福井県	八十の手習い
1461	45	福井県	腹を割る 腹をくくる
1462	45	福井県	ひいきの引き倒し
1463	45	福井県	火の気のない所に煙は立たぬ
1464	45	福井県	百日の説法尻一つ
1465	45	福井県	ヒョウタンから駒が出る
1466	45	福井県	火鉢の火が消えたような
1467	45	福井県	左り前になる
1468	45	福井県	ひさしを貸して母屋までとられる
1469	45	福井県	冷飯を食う
1470	45	福井県	百年清可を待つ
1471	45	福井県	ひやまで手を焼く
1472	45	福井県	百聞は一見に如かず
1473	45	福井県	引かぬ舌の小唄
1474	45	福井県	火なぶりすると小便が出る
1475	45	福井県	彼岸すきて妻の肥
1476	45	福井県	人の口に戸は立てられぬ
1477	45	福井県	人を覗えば二つ
1478	45	福井県	人の噂も七十五日
1479	45	福井県	人にに譲りてみよ、馬には乗ってみよ
1480	45	福井県	人を見れば鈍する
1481	45	福井県	人をみたら泥棒と思え
1482	45	福井県	貧乏人の子だくさん
1483	45	福井県	一人まんさい
1484	45	福井県	人のちやうらんで明りとなる
1485	45	福井県	百尺頭一歩進む
1486	45	福井県	百里を行く者は九十里を半とす
1487	45	福井県	人のふりみて我がふり直せ
1488	45	福井県	貧乏の一人長者の万灯
1489	45	福井県	水山の一角
1490	45	福井県	百折不撓
1491	45	福井県	百舌あって一利なし

No	作業No	都道府県	ことわざ
1492	45	福井県	人のフンドンで相撲をとる
1493	46	福井県	武士は寝ぬほど高橋枝
1494	46	福井県	吹三日なし
1495	46	福井県	仏壇の香り煙が立つと天気、なびくと雨
1496	46	福井県	夫婦喧嘩は犬も喰わぬ
1497	46	福井県	ふくは喰いたし命は惜しし
1498	46	福井県	ふく喰ったなくい
1499	46	福井県	風呂敷をひらける
1500	46	福井県	笛吹けど人睡らぬ
1501	46	福井県	文はやりたし書く手はもたぬ
1502	46	福井県	二つよいことはいない
1503	46	福井県	歩のない将棋は負け将棋
1504	46	福井県	風前のともしび
1505	46	福井県	腹水盆に返らす
1506	46	福井県	舌表行
1507	46	福井県	へそが茶をわかす
1508	46	福井県	下手な考え休むに似たり
1509	46	福井県	下手の長談義
1510	46	福井県	下手の横好き
1511	46	福井県	尻をひいて尻のぼめ
1512	46	福井県	下な鉄砲も数うてばあたる
1513	46	福井県	下手の道具調へ
1514	46	福井県	へそがあかめる
1515	46	福井県	尻こいたようなコタツ
1516	46	福井県	辺幅を修飾す
1517	46	福井県	北国の雷
1518	46	福井県	仏の顔へ日に三度
1519	46	福井県	盆と正月が一しよにくる
1520	46	福井県	惚ればアバタもエコボ
1521	46	福井県	坊主に説教
1522	46	福井県	坊主僧けりや袈裟(けさ)まで憎い
1523	46	福井県	背折りのなびれ儲け
1524	46	福井県	はれて通えは千里も一里
1525	46	福井県	仏つって獲れれず
1526	46	福井県	外の団子はうまい
1527	46	福井県	坊主丸もうけ
1528	46	福井県	坊主の不信心、医者の不養生
1529	46	福井県	食けるが勝
1530	46	福井県	待てば海路の日和かな
1531	46	福井県	馬子にも衣裳
1532	46	福井県	万能者身を持たず
1533	46	福井県	異端で首をしめる
1534	46	福井県	眉つばもの
1535	46	福井県	時かぬ種ははえぬ
1536	46	福井県	ミツとクワをせしよにする
1537	46	福井県	ミンが悪くなる
1538	46	福井県	三日坊主
1539	46	福井県	身から出たサビ
1540	46	福井県	日見ぬまの桜かな
1541	46	福井県	ミミズに小便をかけるると下の病気になる
1542	46	福井県	耳をとって鼻をかく
1543	46	福井県	ミイラ取りがミイラになる
1544	46	福井県	身を捨ててこそ浮かぶ瀬もある
1545	46	福井県	二つ子のたましい百まで
1546	46	福井県	水漬ければ寝住まず
1547	46	福井県	水は方円の器に随う
1548	46	福井県	妻もふたもない
1549	46	福井県	耳にたこができる
1550	46	福井県	耳を掩うて鐘を盗む
1551	46	福井県	みめより心
1552	46	福井県	婦一人に婿八人
1553	46	福井県	無理が通れば道理ひっこむ
1554	46	福井県	昔とった柿(きね)づか
1555	46	福井県	娘三人もつと身代つばす
1556	46	福井県	娘十八、蛇(じゃ)も二十
1557	46	福井県	目くそ鼻くそを笑う
1558	46	福井県	めくらの塩のき
1559	46	福井県	メシ数を釣る
1560	46	福井県	目は口ほどに物をい
1561	46	福井県	目の上のたんこぶ
1562	46	福井県	目から鼻に抜ける
1563	46	福井県	めくらに蛇におじす
1564	46	福井県	めくらにちやうちん
1565	46	福井県	門前の小僧お経を誦む
1566	46	福井県	門前のオオオカミ、後門のトラ
1567	46	福井県	餅は餅屋で
1568	46	福井県	物もいいうで角が立つ
1569	46	福井県	桃栗三年、柿八年
1570	46	福井県	物は言うまに聞くもの、人は通る間に見るもの
1571	46	福井県	縁對
1572	46	福井県	よその雨にに笛を吹く
1573	46	福井県	よこ樋で横を揺く
1574	46	福井県	四隅とられて暮をうつな
1575	46	福井県	夜フクロウが鳴くと天気になる
1576	46	福井県	夜爪を切ると悪いことがある
1577	46	福井県	弱い目より目
1578	46	福井県	よしはずいから天のぞく
1579	46	福井県	寄らば大樹の陰
1580	46	福井県	羊頭をかけて豹肉を売る
1581	46	福井県	嫁に食わずな秋なすび
1582	46	福井県	来年のことを言うて鬼が笑う
1583	46	福井県	善花枝にかたらず
1584	46	福井県	葉あれば苦あり
1585	46	福井県	良薬は口に苦し
1586	46	福井県	律義者の小沢山
1587	46	福井県	両手に花
1588	46	福井県	腹を叩いて集まる
1589	46	福井県	瑠璃も破損も照らせば光る
1590	46	福井県	六月頃おそくウグイスが鳴くと大水が出る
1591	46	福井県	論語読みの論知らず
1592	46	福井県	論より証
1593	46	福井県	六十の手習い
1594	46	福井県	論に負けても実に勝つ
1595	46	福井県	六面八臂
1596	46	福井県	若い時は姑に、年をとったら嫁に、どこで立つ瀬があるのやら
1597	46	福井県	渡り世間に鬼はなし
1598	46	福井県	薬は千本あっても柱にならぬ
1599	46	福井県	わが身つめて人の痛さを知れ
1600	46	福井県	笑う門には福来る
1601	46	福井県	渡りに舟
1602	46	福井県	わが田へ水をひく
1603	46	福井県	割れ鍋にとじふた
1604	46	福井県	桶は口より生ず
1605	46	福井県	破れ籠からナスビを出すように
1606	46	福井県	碓石に水
1607	46	福井県	山の草を蒲葺きにして喰べる
1608	46	福井県	山は高きがゆえに尊からず
1609	46	福井県	山のうさぎに値をつける
1610	46	福井県	焼けたあとの火の用心
1611	46	福井県	桶に鉄砲
1612	46	福井県	桶に音折れなし
1613	46	福井県	病は口より入る
1614	46	福井県	虎野のキギス夜のツル
1615	46	福井県	柳の下にいつもドジョウはいない
1616	46	福井県	山に千年海に千年
1617	46	福井県	藪をつついて蛇を出す
1618	46	福井県	安物買いの銭(ぜに)失い
1619	46	福井県	徳がにやなおらん
1620	46	福井県	藪から棒
1621	46	福井県	山の神
1622	46	福井県	雪の上の糞
1623	46	福井県	夕焼けはお天気
1624	46	福井県	油断大敵
1625	46	福井県	夕虹は一日のひでり
1626	47	福井県	アアと思ったら、死のぞいのう
1627	47	福井県	上げも下げもならん、石ボトケ(仏)のキンタマ
1628	47	福井県	顎のうへ入る
1629	47	福井県	朝糞りと博打コキは、のち裸

No	作業No	都道府県	ことわざ	No	作業No	都道府県	ことわざ
1630	47	福井県	朝の白ウジョウ(虹)に川越しせんな	1766	47	福井県	死んでまた来る婆婆ならよかる
1631	47	福井県	朝焼けと娘のガラガラ後で鬼が出る	1767	47	福井県	シンボル木に金がなる
1632	47	福井県	足が笑う	1768	47	福井県	辛抱は金で 後は借金
1633	47	福井県	頭を刺される	1769	47	福井県	好いて飲まれば泥田の水も、飲めば甘露の味がする
1634	47	福井県	アッチで食立つ、コッチで腹立つ	1770	47	福井県	酔おろし喰ったような
1635	47	福井県	当て事と越中樫、向いから外れる	1771	47	福井県	雀の一番壱 朝寝坊すること
1636	47	福井県	アト心食	1772	47	福井県	ストーン忘れ
1637	47	福井県	アブ獲るとして、蜂ネ刺され	1773	47	福井県	北風の勝が蓬原
1638	47	福井県	アブやドオセン蜂給来い	1774	47	福井県	流産柳
1639	47	福井県	アボが世を持つ今の世は	1775	47	福井県	千日一日
1640	47	福井県	アボと猫までは横座(上席)張り	1776	47	福井県	千両シル馬ネも傷はある
1641	47	福井県	アボと大風	1777	47	福井県	ゼン(銭)の無いのは、首の無いより劣る
1642	47	福井県	アボの大風、コケの小腹	1778	47	福井県	ゼン(銭)は弥陀ほど光る
1643	47	福井県	アメと思えど、乗せやワルシ	1779	47	福井県	ツツパイベツリ牛の糞
1644	47	福井県	雨風ドウラン	1780	47	福井県	ツツパイ(譯式) 済んでの医者喃
1645	47	福井県	有る手からこぼれる	1781	47	福井県	ソツト蒸しや、ガツト蒸す
1646	47	福井県	有れば有り感	1782	47	福井県	高い所へモッコ持ち
1647	47	福井県	粟カネ茶で、おだてような	1783	47	福井県	竹皮表皮、中は菩薩の踊りかた、なまに
1648	47	福井県	アンパイ(ますい) もんの煮え太り	1784	47	福井県	他国坊主に国侍
1649	47	福井県	石に根接ぎ	1785	47	福井県	晝一夜の主
1650	47	福井県	イズメ編んだもん(者) かぶる	1786	47	福井県	卵に目鼻
1651	47	福井県	痛いコへ針	1787	47	福井県	タンス長持顔ある
1652	47	福井県	イチナイ、気遣い	1788	47	福井県	チヂメバの葬式添の祭り
1653	47	福井県	一文銭を割って使う	1789	47	福井県	ジナ(川にな)がホンコ(報恩講)申す
1654	47	福井県	一文銭の縁極知らず	1790	47	福井県	機持持ち
1655	47	福井県	一向ユコトコなし、天台テエナワズ、法華ホツケ	1791	47	福井県	チツボコ
1656	47	福井県	一伯様が人を切ったような顔	1792	47	福井県	揃いておくれの千本ツツギ、揚げば菩提のためとなる
1657	47	福井県	犬も重も噛み合わせ	1793	47	福井県	月夜鳥は夜に迷て啼く、妾や貴方に迷提て泣く
1658	47	福井県	福は天気で、妻は雨でしがる	1794	47	福井県	ツツゴはすし
1659	47	福井県	色の白いは、七難隠す	1795	47	福井県	梅雨時の露雨と、口開けて泣く子は止めどなし
1660	47	福井県	嫌でいれど身が恐ろしてアイと返事が出来かねる	1796	47	福井県	手足まめならいつくでも
1661	47	福井県	嫌でならんば菜飯の茶漬け、夜中時分に腹が減る	1797	47	福井県	手が生臭い
1662	47	福井県	鬼くそ	1798	47	福井県	てくそ(手薬馬)
1663	47	福井県	牛の糞ネを段々	1799	47	福井県	寺元に鬼がすむ
1664	47	福井県	蛆虫の高上がり	1800	47	福井県	天下とコンカ(米糖)
1665	47	福井県	蛆がツツ(漬物)にわく蛆)を笑う	1801	47	福井県	天が赤けりや生イカ獲れる
1666	47	福井県	内くるはシレンメ(釜) ネも食わせんな	1802	47	福井県	ツツパイ(天狗)つく
1667	47	福井県	うちの中が火ワラ(原)	1803	47	福井県	天掛け
1668	47	福井県	内広がりの外スバリ	1804	47	福井県	アンボ八分に嘘が二分
1669	47	福井県	生マズ(子無し)の死んだ後のような	1805	47	福井県	土方殺すにや勿物はいらん雨の十日も降ればいい
1670	47	福井県	梅干しいり粉	1806	47	福井県	トクダミの花も一盛り
1671	47	福井県	臍んだ鼻が欠けたとも言わん	1807	47	福井県	ドシヤカケル
1672	47	福井県	ワシツツツ	1808	47	福井県	年寄りのツツパイ(盛)はニカワになる
1673	47	福井県	エモジ(湯もじ=腰巻き) かぶり	1809	47	福井県	年寄り死んば昌給えず
1674	47	福井県	えんど腹	1810	47	福井県	飛ぶ虫より匂う虫
1675	47	福井県	おかみさんとは、殿の威光	1811	47	福井県	土用の青田なし
1676	47	福井県	お客三杯、手八杯	1812	47	福井県	土用の五郎ねは、ギャルメも飛ばせん
1677	47	福井県	オダを上げる	1813	47	福井県	ドラの憎げなし
1678	47	福井県	男二十とさる花よ、女たちは婆婆のうち	1814	47	福井県	コロトコロと眠たい時は馬に五十駄の金も嫌
1679	47	福井県	男伊達大晦日の間に含むん	1815	47	福井県	十七の脱法屋一つ
1680	47	福井県	男にヤクラ(土蔵)させ、女にや蚊帳させ	1816	47	福井県	南瓜の未入り
1681	47	福井県	オビツツル	1817	47	福井県	ナキミソ、ホイミン、ナンバミン
1682	47	福井県	おミキ(神酒)をあげる	1818	47	福井県	握りきたたま
1683	47	福井県	重荷水かけ	1819	47	福井県	二百十日に風さえ吹かな、依立て置き箕で量る
1684	47	福井県	親父の足あと、肥やしになる	1820	47	福井県	猫歩き
1685	47	福井県	親の意見となすびの花は千に一つも仇はない	1821	47	福井県	猫一つ漁せず
1686	47	福井県	親はこの世の油灯さまで、親の無い子は光無い	1822	47	福井県	ネズミが蚊帳
1687	47	福井県	親子は一世、夫婦は二世	1823	47	福井県	寝床をこしらえる
1688	47	福井県	御嶽参りも一度はなされ、二度と参るはアホの開山	1824	47	福井県	ノツココク
1689	47	福井県	日野山に一度は登れ、もあのお急な坂は二度とは登らん	1825	47	福井県	のれん棒
1690	47	福井県	目撃トクナイオナシ十年の急	1826	47	福井県	ハムサマ
1691	47	福井県	欠けトクリ(徳利)	1827	47	福井県	尻を撒く
1692	47	福井県	カタケ(食事) 延びればおとし	1828	47	福井県	ハガネが裏へ廻る
1693	47	福井県	カナガシラ	1829	47	福井県	白山の麦
1694	47	福井県	カナサイツチ(金種)の川流れ	1830	47	福井県	バクチのシカれ(引かれ) 打ち
1695	47	福井県	カナ(金) 驚く	1831	47	福井県	箸にダゴ(団子)
1696	47	福井県	カナはアトに境かせ	1832	47	福井県	博方の手管め
1697	47	福井県	鳥がモウたら雨が降る トンビがモウたら陽が良かる	1833	47	福井県	足利じやと思わんもんは、恥を掻いた事が無い
1698	47	福井県	鳥啼きが悪い	1834	47	福井県	鼻薬を吸出す
1699	47	福井県	感心上手の行いへた	1835	47	福井県	羽根を生やす
1700	47	福井県	勘七食	1836	47	福井県	腹の臓が腐る
1701	47	福井県	ガンガアあととなり	1837	47	福井県	腹も身のうち
1702	47	福井県	願はあれど、行がでん	1838	47	福井県	バラを出す
1703	47	福井県	カンノサマ	1839	47	福井県	東窓から夜が明けかかる、嫁が姑に成りかかる
1704	47	福井県	聞くは当座の恥、聞かぬは未代の恥	1840	47	福井県	彼岸の片路
1705	47	福井県	北風のあくる日、乳母迎いに	1841	47	福井県	彼岸過ぎてての妻の肥
1706	47	福井県	北がなければ、日本三角	1842	47	福井県	東宮雨降らず
1707	47	福井県	キタネタナも肥えたがいい	1843	47	福井県	膝頭で江戸
1708	47	福井県	ギトバカ	1844	47	福井県	七足カクツを履く
1709	47	福井県	狐シマ(馬)に乗せられたような	1845	47	福井県	人には添って見よ、馬には乗ってみよ
1710	47	福井県	コツツで鼻で果てる	1846	47	福井県	ヒト(他人)のハラ(腹中)をシデ(濡れ) 潜る
1711	47	福井県	黍餅に油引き	1847	47	福井県	日照りで獲れんば、量の縁程
1712	47	福井県	君と寝ようか五千石取るか、何の五千石君と寝る	1848	47	福井県	火吹いて灰も残らん
1713	47	福井県	巾着が金が出る、横着から暇が出る	1849	47	福井県	百姓片手に小盗人
1714	47	福井県	キノコ	1850	47	福井県	鼻汁は雨たれに近くなる、親類遠なる
1715	47	福井県	キノコ	1851	47	福井県	鼻汁(臭)が欠ける
1716	47	福井県	キノコ	1852	47	福井県	吹雪倒れね、小便かける
1717	47	福井県	キノコ	1853	47	福井県	へいせいゴウジョウ(平生業成)
1718	47	福井県	キノコ	1854	47	福井県	臍になる
1719	47	福井県	キノコ	1855	47	福井県	ヘンツツジを巻く
1720	47	福井県	キノコ	1856	47	福井県	ヘンツツコロン(福照金剛)
1721	47	福井県	キノコ	1857	47	福井県	ホツコ(北国)の雷
1722	47	福井県	キノコ	1858	47	福井県	ホトケのお籠
1723	47	福井県	キノコ	1859	47	福井県	ホトケホツツケ、神様カマウナ
1724	47	福井県	キノコ	1860	47	福井県	幕の引き時
1725	47	福井県	キノコ	1861	47	福井県	マタイ者が、臭い尻をこく
1726	47	福井県	キノコ	1862	47	福井県	待た待てと持った今年も年過んで、また来年の待てを待たな
1727	47	福井県	キノコ	1863	47	福井県	待った待ったと言ったは嘘じや、待ったはお前の腰の
1728	47	福井県	キノコ	1864	47	福井県	町で生まれて山家で住めば、川の鴨瀬と鹿の声
1729	47	福井県	キノコ	1865	47	福井県	マンノミシヤ(万能者)身持たず
1730	47	福井県	キノコ	1866	47	福井県	人間にホクロ、陰のアザ
1731	47	福井県	キノコ	1867	47	福井県	味啖に飽く
1732	47	福井県	キノコ	1868	47	福井県	味噌も糞も一つにする
1733	47	福井県	キノコ	1869	47	福井県	味噌ヌスツ(盗人)は手を嗅ぐ
1734	47	福井県	キノコ	1870	47	福井県	弥勒の世(五十六億七千万年の世)
1735	47	福井県	キノコ	1871	47	福井県	冥途は古賢使う
1736	47	福井県	キノコ	1872	47	福井県	娘は愛さず茶をやる程然、娘返さば茶も返せ
1737	47	福井県	キノコ	1873	47	福井県	娘は愛さ(上)べさつば娘は流し元からとれ
1738	47	福井県	キノコ	1874	47	福井県	娘の子と真餅は、キツウあたれ
1739	47	福井県	キノコ	1875	47	福井県	娘ヒト(他人)の子、嫁こそ子なれ
1740	47	福井県	キノコ	1876	47	福井県	娘やるなら町こそ良けれ嫌じや山家のヤタボロリ
1741	47	福井県	キノコ	1877	47	福井県	目こそ鼻こそオソンド出し
1742	47	福井県	キノコ	1878	47	福井県	ツツゴ(女の鬼)は垣へ挟んで置いても育つ
1743	47	福井県	キノコ	1879	47	福井県	雌鳥が時をつる
1744	47	福井県	キノコ	1880	47	福井県	モク(杵)を割る
1745	47	福井県	キノコ	1881	47	福井県	餅の中の糶
1746	47	福井県	キノコ	1882	47	福井県	持ったパイ(棒)でたたかれる
1747	47	福井県	キノコ	1883	47	福井県	モノを挽く時ヤキヤクになるな、白は臭いもんじや丸隠せ
1748	47	福井県	キノコ	1884	47	福井県	モノ種盗んでも、ひとだね(人種)は盗めぬ
1749	47	福井県	キノコ	1885	47	福井県	ヤイト(雇人)と北風は陽が限り
1750	47	福井県	キノコ	1886	47	福井県	屋のムネ(業)半分は
1751	47	福井県	キノコ	1887	47	福井県	山よりイカイ(大きい) 化けもんは出ん
1752	47	福井県	キノコ	1888	47	福井県	柚の木樫(水の中樫)
1753	47	福井県	キノコ	1889	47	福井県	霜の来るまの昔中あり
1754	47	福井県	キノコ	1890	47	福井県	霜た衆男に見せん
1755	47	福井県	キノコ	1891	47	福井県	夢に尻踏んだような
1756	47	福井県	キノコ	1892	47	福井県	ヨグルイ悪い
1757	47	福井県	キノコ	1893	47	福井県	夜出の日は暮れる
1758	47	福井県	キノコ	1894	47	福井県	嫁の親、下冊戸裏から上がられず
1759	47	福井県	キノコ	1895	47	福井県	娘の取りたら真餅不砂糖じや
1760	47	福井県	キノコ	1896	47	福井県	利巧は積をつる
1761	47	福井県	キノコ	1897	47	福井県	利巧はスクフでいうこたないが、合いのドカンシヤが玉に傷
1762	47	福井県	キノコ	1898	47	福井県	蜘蛛たらず
1763	47	福井県	キノコ	1899	47	福井県	ワイライラと云うなワイラ、卑のワイラが笑うぞや
1764	47	福井県	キノコ				
1765	47	福井県	キノコ				

No	作業No	都道府県	ことわざ
1900	48	福井県	若狭に花が咲く、男やもめに組がわく
1901	48	福井県	夜爪を切ると世せぬ
1902	48	福井県	南風に指さすと落ちる
1903	48	福井県	みゝずに小便をかけたるとチンボが腫れる
1904	48	福井県	蛇を指さすと指が腐る
1905	48	福井県	元且にイロリに足を踏み入れると苗代田が鳥に踏まれる
1906	48	福井県	洗足で飯所へはいると火葬の時片足だけ燃えぬ
1907	48	福井県	口笛は盗人の先き走り
1908	48	福井県	天狗にだまされたら「左腕を返せ」と呼び歩く
1909	48	福井県	嬰兒に火事を見せると青瘡が出来る
1910	48	福井県	縦膳はするものではない
1911	48	福井県	馬の尻を突ふとロガサが出る
1912	48	福井県	屏風を並べて立てると死人が出る
1913	48	福井県	赤飯に汁かけて食ふと中氣になる
1914	48	福井県	耳袋の大きい者は長者になる
1915	48	福井県	冬至南瓜は中氣を防ぐ
1916	48	福井県	残り物はに福がある
1917	48	福井県	鳥の哀鳴は死亡のしらせ
1918	48	福井県	頭にくりく(旋子)が二つある者は横着物だ
1919	48	福井県	左義長の餅は腹痛の妙薬
1920	48	福井県	三昧のすゝは肺病の薬
1921	48	福井県	牛肉を食ふと奇形児が生れる
1922	48	福井県	ミヤウガを食ふと物忘れする
1923	48	福井県	脚気になったら朝露踏んで洗足で歩け
1924	48	福井県	飯食ふと寝ると中になる
1925	48	福井県	火事の夢は翌日に晴天
1926	48	福井県	狼に追はれたら荷籠を投げる
1927	48	福井県	鼠がマツチに小便かけると発火する
1928	48	福井県	赤児を踏くとその子は出世せぬ
1929	48	福井県	頭の大きい子供は親を養ふ
1930	48	福井県	幼児は火なかりするを親小使する
1931	48	福井県	火事に赤い腰巻を振ると火が止まる
1932	48	福井県	銀舌をたべると驚風になる
1933	48	福井県	初雪で顔を洗ふと瘧疾にかゝらぬ
1934	48	福井県	初朔は乳がよく出る
1935	48	福井県	唐摺には歯の歯をかい戸口に貼り、痛く歯を打てるを治す
1936	48	福井県	にんにくを戸口に吊すと流行病を除ける
1937	48	福井県	八十八の祝餅を食べれば長生する
1938	48	福井県	習字を便所へ捨てると上達せぬ
1939	48	福井県	灯心にチョウが出来るると得人来る
1940	48	福井県	茶柱が花と幸福が来る
1941	48	福井県	霜むらびが出来たら人の知らぬ間に着物の裾を結んでやる
1942	48	福井県	シヤクリ茶碗に葉を乗せて茶を飲むと治る
1943	48	福井県	白くもは笹の葉でこすつて川へ流すと治る
1944	48	福井県	くしゃみ三つはどこかで噂されてゐる
1945	48	福井県	咽喉に骨がささった時はその血を頭の上に乗せてやると治る
1946	48	福井県	食後湯をうせぬと咽喉に毛が生える
1947	48	福井県	七夜の睡目薬を打つと悪魔を除ける
1948	48	福井県	七夕には七回飯を食ひ七回水をあびると病氣にかゝらぬ
1949	48	福井県	初雪を食ふと腹痛を起さぬ
1950	48	福井県	南天の杖をつくと中氣が治る
1951	48	福井県	網目模様の茶碗を飲まふと中氣にかゝらぬ
1952	48	福井県	北枕にねると早死する
1953	48	福井県	下雷が打つたら屋根の方へ上雷の時は雨だれ方に捨てると再生する
1954	48	福井県	イロリへ唾を吐くと火の神の祟がある
1955	48	福井県	歯の抜けた夢を見ると親に親別れる
1956	48	福井県	着物を左前にすると天狗にだまされぬ
1957	48	福井県	朝顔を洗はぬ者は猫にわはれる
1958	48	福井県	真綿で手頭を巻くと蛇にかまれぬ
1959	48	福井県	初雪で手頭を巻くと七五郎長生する
1960	48	福井県	箸で茶碗を叩くと乞食になる
1961	48	福井県	鼠はオザロハン(上■さん)と呼ぶといはずらせぬ
1962	48	福井県	蛇はナガさんと呼ばはかまぬ
1963	48	福井県	汁は三杯吸ふと阿呆になる
1964	48	福井県	福を煮ず時不潔なことを言ふと蒸があがらぬ
1965	48	福井県	長良川は等立を立てる
1966	48	福井県	荒島が帽子(雲)かぶると翌日は必ず晴天
1967	48	福井県	卯辰の雨は己で晴れる
1968	48	福井県	夕暮にぶと(ブヨ)の多い翌日は雨
1969	48	福井県	草履を空へ投げて表が出れば晴、裏が出れば雨
1970	48	福井県	等星は災難の知らせ
1971	48	福井県	お供は竹藪へ逃げ、雷は蚊帳の中へ隠れると難を免れる
1972	48	福井県	お供供さん(ござんさんともいふ)を食べて生臭い
1973	48	福井県	物を食ふと罰があたる
1974	48	福井県	親の口まねするとロガサが出る
1975	48	福井県	親をならむと嫌になる
1976	48	福井県	東果の落ちた子は長生せぬ
1977	48	福井県	東果の落つてを食ふと及生児が生れる
1978	48	福井県	ひのえうまは夫を殺し、さる年には嫁は貰はぬ
1979	48	福井県	物指を踏くと上達せぬ
1980	48	福井県	白に腰掛けたると難産する
1981	48	福井県	薬はいたで飲まぬと効きかぬ
1982	48	福井県	肩毛の長い者は長生きする
1983	48	福井県	耳が遠くなるを寿菊が良い
1984	48	福井県	どんな病氣でも貰うて来た日(佛から)が来ぬ内は死なぬ
1985	48	福井県	夜蜘蛛は殺してはならぬ
1986	48	福井県	蛇を殺すと首を締められる
1987	48	福井県	馬を叩くと火事の時飛び出ぬ
1988	48	福井県	餅は三片養へば恩を忘れぬ
1989	48	福井県	餅ま(餅)にトト(魚)そへて食ふと口が曲む
1990	48	福井県	神社の境内で小便するとシモヤマヒにかゝる
1991	48	福井県	ソラ手は善光寺の草履でふむと治る
1992	48	福井県	唾つきは地獄でえんまに舌を抜かれる
1993	48	福井県	薬師(野向町)の神社の銀杏の木を噛んで乳が出る
1994	48	福井県	平塚の宮は安産の神
1995	48	福井県	岩屋(北野町)の観音様は雨乞の神
1996	48	福井県	雨風三日なし
1997	48	福井県	鼠があげれると雨
1998	48	福井県	馬が落つた
1999	48	福井県	石塀をたたく
2000	48	福井県	ケツの下の毛はない
2001	48	福井県	直直まっぼう(馬鹿正直)真向の意か
2002	48	福井県	めつぼうかいや(度を通すこと)滅法界
2003	48	福井県	爪の先で火を燃ともす(節儉家)
2004	48	福井県	さいづち(金槌)の川流れ
2005	48	福井県	雪の上のアツバ(糞)
2006	48	福井県	椅子定規
2007	48	福井県	腫のぼた餅
2008	48	福井県	腫の軒宿尻
2009	48	福井県	顔如さんみたいな顔
2010	48	福井県	顔がはげる
2011	48	福井県	影が薄い
2012	48	福井県	尻がはげる
2013	48	福井県	夏のぼた餅
2014	48	福井県	死んだ子の年を数へる
2015	48	福井県	一度ありや二度ある
2016	48	福井県	一ちようらい
2017	48	福井県	転んでもたは起きぬ
2018	48	福井県	内服薬
2019	48	福井県	平生養生
2020	48	福井県	牛のシリガイと親の注意にやはずがれない
2021	48	福井県	とつたら餅
2022	48	福井県	蛇(執念深い)犬(密告)鶏(探してまぜくり返す)狸(穴探し)をを表す うまい物は小勢で食へ 雛の子と親の言う事にやあだがない 古籠から茄子出す様な 志が止まる 火事ばかり 三崎のこえん キマリ中番鍋の蓋 飯食は 飯粒で鯛 からすが田ふんだ様な字 あまんじゃく 一かバチか アオー一言はせぬ

No	作業No	都道府県	ことわざ
2036	48	福井県	アイ転る様に忙がしい
2037	48	福井県	尻に根が生える
2038	48	福井県	食のお粥
2039	48	福井県	豆腐の丸いと女郎の真実
2040	48	福井県	夫婦喧嘩は犬も喰はぬ
2041	48	福井県	スコタム喰はす
2042	48	福井県	蛙豆
2043	48	福井県	縁の下の力持ち
2044	48	福井県	いもじ(ゆもじ)冠り
2045	48	福井県	昼行灯
2046	48	福井県	尻が軽い
2047	48	福井県	立板に水
2048	48	福井県	船頭多ければ舟も山へ登る
2049	48	福井県	横車を押す
2050	48	福井県	福井県
2051	48	福井県	のどから手が出る
2052	48	福井県	金時の火事見舞
2053	48	福井県	欠け徳利
2054	48	福井県	アヒルの火事見舞
2055	48	福井県	アメ(甘)カゼ(辛)
2056	48	福井県	ぬすじに騙
2057	48	福井県	チョウ
2058	48	福井県	序の口
2059	48	福井県	片倉
2060	48	福井県	梯子酒
2061	48	福井県	おけふせ
2062	48	福井県	青の河原
2063	48	福井県	懐が暖い
2064	48	福井県	懐の裏は
2065	48	福井県	首ウナジが悪い(不幸)
2066	48	福井県	高い所へ登り
2067	48	福井県	南風出す
2068	48	福井県	さんば騒る
2069	48	福井県	コッパ(木の葉)で鼻をかんだ様な
2070	48	福井県	意味溝
2071	48	福井県	死にしま(死期)の念佛
2072	48	福井県	垣壁
2073	48	福井県	提灯と吊鐘
2074	48	福井県	ところで
2075	48	福井県	底の河童、朝飯前。
2076	48	福井県	とつけんはちげん
2077	48	福井県	はつしゅくしゅ
2078	48	福井県	仰向いて睡
2079	48	福井県	さちがい、いへんに蜂さいた様な
2080	48	福井県	出すとならぬ騒騒へはいても出したうない
2081	48	福井県	色の黒いのは七難かす
2082	48	福井県	腐つても鯛
2083	48	福井県	尻に根が生える
2084	48	福井県	善を立てる
2085	48	福井県	乞食に日忘れられぬ
2086	48	福井県	腫鬼がお酒トキについた様な
2087	48	福井県	かまくら
2088	48	福井県	頭を横に振る
2089	48	福井県	頭を縦に振る
2090	48	福井県	長い顔する
2091	48	福井県	柳からばたもち
2092	48	福井県	立き面がツレ
2093	48	福井県	ほうかむり
2094	48	福井県	虹が羽もがった様
2095	48	福井県	四十徳
2096	48	福井県	あいつは猫や
2097	48	福井県	癪けても癖は治らぬ
2098	48	福井県	猫の目
2099	48	福井県	肥力の柄の抜けた様な
2100	48	福井県	三子坊子
2101	48	福井県	さし膳
2102	48	福井県	暖簾と腕押し
2103	48	福井県	月とすっぽん
2104	48	福井県	我が見と猫の自慢は出来ぬ
2105	48	福井県	一國者
2106	48	福井県	小便する
2107	48	福井県	地獄で佛
2108	48	福井県	空念佛
2109	48	福井県	佛の顔も日に三度
2110	48	福井県	人ニシテ法を解け
2111	48	福井県	あごが胸にかゝる
2112	48	福井県	一兩勝負
2113	48	福井県	賽銭に釣をとる
2114	48	福井県	人のふり見て我がふり直せ
2115	48	福井県	石の上にも三年
2116	48	福井県	ひずみいとはず働け
2117	48	福井県	喧嘩すり穴深うなる
2118	48	福井県	痛いと膏薬
2119	48	福井県	紺コウ屋の明後日
2120	48	福井県	なんはんはん(佛)が見てあはれる
2121	48	福井県	佛からばたもち
2122	48	福井県	佛方の陣
2123	48	福井県	倒れた箸も起さぬ
2124	48	福井県	袖の下が物言ふ
2125	48	福井県	有る時怖ひ
2126	48	福井県	アラバチ割る
2127	48	福井県	沈香も焚かす尻もこかず
2128	49	福井県	九は晴、五、七の雨に、四つの日照り、 六つ又は国の騒ぎ かわいひ子に旅をさせよ 癪腫(かみしゃく)のある子は灸(きゅう)を すると治る オネシヨをする子は灸(きゅう)をする と治る 女の事はトレの掃除を准ん女との と美人になれる カラスがあまり鳴くと不幸がある カラスがよく鳴く時は死人が出る カラスの夜鳴きに火の用心 虎(トラ)の子は生まれて三日目に、 山の上から谷底に落とされても遠 (は)い上がる 鯉が池の真ん中に集まると地獄 サツマイモに花が咲くと幸せが悪い カボチャがものすくおきなのは幸せ が悪い はーき星(替すい星)は国の騒ぎ 嘘をつくると「聞えん魔ま集」が舌 を抜く ご飯を食べずぐ横になる牛になる 流れ水におシッコをかけるシチン チンが腫はれる 夜、口笛を吹くとけもの来る 夜、笛を吹くと泥棒が来る 2146 49 福井県 乳飲ます親はいても、満飲ます 親はいない 子供がおもっことを外でして、ミ ミズにかかると チンチンが腫れる 2148 49 福井県 親の意見と子 の意見は千に一つ のあたもない 夜、爪を切つては いけない 2150 49 福井県 渡し箸(はし)は いけない 2151 49 福井県 子供のしつけは 親を見れば分かる 食事の時に箸を不 揃(ふぞろ)いに 持つと母が早く死 ぬ 2153 49 福井県 ナマズが腫れると 地獄が来る 2154 49 福井県 夜、爪を切ると 親の死ぬ時に会 えない 2155 49 福井県 カラスが騒ぐと 火の用心 2156 49 福井県 蛇の道切り、右 から左へ吉とする 2157 49 福井県 蛇のネフの木(ネ ムノキ)は、日暮 になると、雨が 降っていても蒸 気がよくてもし なびたようになる。 手を握にきると 3歳児の魂百まで (三つ子の魂百まで) ネフの木を見れば 夕暮れが分かる 出で針はりするの はだめ 2161 49 福井県 早起きは三文の 得 2162 49 福井県 二つ子の魂百 まで 2163 49 福井県 家族の死後49日 は魚を食べない 2164 49 福井県 子供がぐすと後 (下の子が生まれ る)に近いとい う 2165 49 福井県 子供は親の背中 を見て育つ 2166 49 福井県 誕生日に張った 子には来を担(か つ)がせて倒せ

No	作業 No	都道府県	ことわざ
2167	49	福井県	小口に魚を食べさせず、早くオムツが取れない
2168	49	福井県	夜、爪を切ると親の死に目に見える
2169	49	福井県	里の灯が見えたら山を降りる
2170	49	福井県	台所の流しに熱いお湯を流すな。下水の虫が死んで良いことがない
2171	49	福井県	夜口笛を吹くと泥棒が来る
2172	49	福井県	夜口笛を吹いたらだ
2173	49	福井県	窓の裏に蚊がぶさぶさ青が伸びなくなる
2174	49	福井県	四ツは日照り、五、七ツの雨、九ツは病、六・八ツは風になる
2175	49	福井県	申さる、酉と亡れて、戌いぬ・亥いし
2176	49	福井県	カラスが哀しい鳴き声で人の死を知らせる
2177	49	福井県	ツバメが家や小屋に巣作りをする家には火災は起きない
2178	49	福井県	動物が森から逃げにくると火災が起きる
2179	49	福井県	春の彼岸から秋の彼岸までは農家の人は昼寝をしても良いといわれた
2180	49	福井県	9は病、6ツ8ツ風、3ツ日照り
2181	49	福井県	朝、早起きは三さん文もの得とく
2182	49	福井県	夜、おしめを洗うと子供が泣きをする
2183	49	福井県	夜、オムツを外に干すと夜泣きをする
2184	49	福井県	夜、靴下を履（は）いて寝ると早く親に死に別れる
2185	49	福井県	夜、爪を切ると親の死に目に見える
2186	49	福井県	夜、爪を切ると親の死に目に見える
2187	49	福井県	夜、口笛を吹くと泥棒がやって来る
2188	49	福井県	家の玄関の靴がいつも整理整頓されている家は、いつも家の中が整理されている
2189	49	福井県	玄関の戸を開けたらその家の様子が分かる
2190	49	福井県	親の背を見て子供は背つ
2191	49	福井県	子供は親の背を見て背つ
2192	49	福井県	早寝早起きは三文の得
2193	49	福井県	腹八分医者いらず
2194	49	福井県	人の振り見て我が振り直せ
2195	49	福井県	三つ子の魂百まで
2196	49	福井県	言葉の端と葉の端は残せ
2197	49	福井県	言葉の端と葉の端は残せ
2198	49	福井県	ご飯粒の中には三人の神様が居てご飯粒を粗末にすると罰があった
2199	49	福井県	雛祭りにお雛様を飾らないと泣きながら
2200	49	福井県	幼児に鏡を見せると川にはまる
2201	49	福井県	カラス鳴きが悪いと近くで誰かが死ぬ
2202	49	福井県	オムツがあせると動く、地震がいく
2203	49	福井県	ナマズの魚が動く、地震がいく
2204	49	福井県	朝、クモを見ると縁起が良い
2205	49	福井県	アリ一匹を殺すと雨が降る
2206	49	福井県	火事の前にはネズミが一匹も居なくなる
2207	49	福井県	下駄を掛けて天気を読む
2208	49	福井県	あまの泣くと出べになる
2209	49	福井県	火遊びするとおネギをする
2210	49	福井県	ミズにおシッコをかけるるとチンチンが腫れる
2211	49	福井県	川におシッコを掛けるとチンチンが腫れる
2212	49	福井県	汚い所こそ神様が居るので、風呂場でオシッコをすると罰が当たる
2213	49	福井県	食事の後、すぐ横になると牛になる
2214	49	福井県	食事の後、すぐ横になると牛になる
2215	49	福井県	夜口笛を吹くと鬼が来る
2216	49	福井県	夜口笛を吹くと泥棒が来る
2217	49	福井県	夜口笛を吹くと蛇が来る
2218	49	福井県	一夜の計は三文の得
2219	49	福井県	一を聞いて十を知る
2220	49	福井県	寝るは寝て待て
2221	49	福井県	残るは残る
2222	49	福井県	残り物は福がある
2223	49	福井県	早起きは三文の得
2224	49	福井県	三つ子の魂百まで
2225	49	福井県	壁に耳あり障子に目あり
2226	49	福井県	あまの泣くと出べになる
2227	49	福井県	川の木は根が深く、土壌がいく
2228	49	福井県	子供の背を見て背つ
2229	49	福井県	赤ちゃんが泣き出したらオムツを換えてやるのと泣き止みよく眠る
2230	49	福井県	赤子を飲んだ茶碗でお茶を飲むと申す
2231	49	福井県	(半身不随すいひの病やまい) 起きる
2232	49	福井県	山の朝、出掛（は）にけい、野を使う、をするとけがをする
2233	49	福井県	山のでん、山で寝（か）ったことも三年経つと人に知れる
2234	49	福井県	夏は田んぼの畦（あぜ）の草取りを怠らされた
2235	49	福井県	昔は一まいそくの薬（わら）を産（む）しの用（ひ）の細細（こ）しなれば、
2236	49	福井県	ご飯があたりなかつた
2237	49	福井県	やくざは桶ど種が多い
2238	49	福井県	親の意見とナスビの花は千に一つのはたではない
2239	49	福井県	親の意見とナスビの花は千に一つのはたではない
2240	49	福井県	親の意見とナスビの花は千に一つのはたではない
2241	49	福井県	ナスビの花は咲くとその花には必ず実がなる
2242	49	福井県	親の意見には聞かない
2243	49	福井県	下見で聞かせ、上見で学ぶ
2244	49	福井県	浅は夏つ生しよには鱈を買って食べる
2245	49	福井県	半あ黄き柄がらの着物を着せると恥を取るかかない
2246	49	福井県	親の言うことを聞かない子も親の真似だけはする
2247	49	福井県	人見知りする時は、雑そう巾着で顔を試ふくと治る
2248	49	福井県	子供が寝た後すぐに寝ると犬狗（てんく）が捕つかまえるに
2249	49	福井県	夜、口笛を吹くと泥棒が来る
2250	49	福井県	四ツ男に意見と彼岸まで妻の肥
2251	49	福井県	子供が頭やカゴやバケツなどの入れ物をかぶせると背が伸びない
2252	49	福井県	彼岸花を家の中に持ち込むと火事になる
2253	49	福井県	山に雪のある時に映相を作る
2254	49	福井県	夜、爪を切ると親の死に目に見える
2255	49	福井県	雷が鳴る時、へそを出していると雷さんがへそを取っていく
2256	49	福井県	子供が火遊びをすると寝小便する
2257	49	福井県	うそつきは泥棒の始まり
2258	49	福井県	ご飯の一粒には仏様が三体おさるので、ご飯を粗末にしたら罰が当たる
2259	49	福井県	家にネズミが居なくなるなど火事なる。ネズミは火事のあることを
2260	49	福井県	福知山の神社にある大銀杏の瘤（こぶ）をけずり、
2261	49	福井県	薬として煎（せん）じて飲むと母乳がよく出る
2262	49	福井県	人の振り見て我が振り直せ
2263	49	福井県	早起きは三文の得
2264	49	福井県	早寝早起き
2265	49	福井県	寝る子、魂百まで
2266	49	福井県	夜、爪を切ると親の死に目に見える
2267	49	福井県	夜、爪を切ると早く親に別れる
2268	49	福井県	口八丁手八丁
2269	49	福井県	餅二膳せん（佛然）さんを食べると頭がよくなる
2270	49	福井県	子供が親の背を見て背つ
2271	49	福井県	仕事は段取り八分
2272	49	福井県	食器のゆずき茶を飲まないのとに毛が生える
2273	49	福井県	食事の遅い者は仕事も遅い
2274	49	福井県	田植えが終わったら青田祭り
2275	49	福井県	月夜のカーは肉（身）がない
2276	49	福井県	夜、口笛を吹くと誰か来る
2277	49	福井県	駆らす鳴き声「カクアーカクアー」というと誰かが死ぬ
2278	49	福井県	蛇が纏まっているのを見るとその人は幸せである
2279	49	福井県	蛇の夢を見たと金が入る
2280	49	福井県	メカガを飲むとよく泳げる
2281	49	福井県	餅作りで、子供にやる後に仏様に備えるのは良くないこと
2282	49	福井県	足を入れると、一年中カラスに田んぼを荒らされる
2283	49	福井県	西日が夜まで射す場所にお米を貯蔵すると、10年は味が変わらない
2284	49	福井県	秋の關は約帳（つるべ）落とし
2285	49	福井県	早起きは三文の得
2286	49	福井県	腹八分医者いらず
2287	49	福井県	人の振り見て我が振り直せ
2288	49	福井県	三つ子の魂百まで
2289	49	福井県	生き物を捕って食べると良いことが無い

No	作業 No	都道府県	ことわざ
2300	49	福井県	上歯が抜けたら上へ、下歯が抜けたら下へ向けて、両あま垂だれの所に「ありがとうさん」と言って捨てる
2301	49	福井県	お米には八十八人の神様が居るので粗末にしてはいけない
2302	49	福井県	カラスの鳴き声が悪いと誰かが亡くなる
2303	49	福井県	川はまず茶を濁すと青まて食べられる
2304	49	福井県	子供のねね、よが寝たら銀杏を食べさせる
2305	49	福井県	子は大人の背中を見て背つ
2306	49	福井県	ご飯粒を粗末にすると目がつぶれる
2307	49	福井県	飯やお茶を飲む時は一番上の人から先にどうぞ
2308	49	福井県	差さき長ちようの火で焼いた餅を食べると腹痛にならない
2309	49	福井県	神仏の教え
2310	49	福井県	誕生日前に歩くとき一升を担がせる
2311	49	福井県	月夜のカーは身が少くない
2312	49	福井県	冬に梅瓜を食べると腹痛にならない
2313	49	福井県	ネズミが居なくなると火事に気をつけよ
2314	49	福井県	毎日、朝、仏壇拝み
2315	49	福井県	夜、口笛を吹くと早く親に分かれる
2316	49	福井県	靴を足で空に投げ手下に落ちてきたのを見て、晴れや雨、曇りなどを決める
2317	49	福井県	しもして水を直接飲むと「鬼口」（三つ口）の子が生れる
2318	49	福井県	敷居を踏むと罰が当たる
2319	49	福井県	戸の敷居（しきい）を踏んだり畳の縁（へり）を踏むな
2320	49	福井県	火遊びをすると寝シヤンペンをする
2321	49	福井県	物大切しなると罰が当たる
2322	49	福井県	「四ツ」（10時）は日照り、「五ツ」（8時）七ツ（4時）は雨降りで、「六ツ」（6時）八ツ（2時）は風が吹く、「九ツ」は病が流行する
2323	49	福井県	23夜の俄たおら払ばらいい
2324	49	福井県	「さくらんぼう」の日は事故が多い
2325	49	福井県	だも歩けば棒に当たる
2326	49	福井県	稲の刈り取りで刈り終いのなると、「カランダ」と言って農家の人たちがさきやかなお祝いをする
2327	49	福井県	生まれたばかりの赤ん坊は何も分らないのに、しゃべりだすとわさわさたりする
2328	49	福井県	親の意見と茄子の花は、千に一つのはたではない
2329	49	福井県	ナスの花と親の言うことはあだがない
2330	49	福井県	ナスの花と親の意見は百に一つのはたではない
2331	49	福井県	二十歳過んで子どもへ意見
2332	49	福井県	三つ子の魂百まで
2333	49	福井県	親の後ろ姿（背中）を見て子は背つ
2334	49	福井県	子は親に似る
2335	49	福井県	仕事は段取りしてする
2336	49	福井県	食事は早い人は仕事も早い
2337	49	福井県	子を見たかと思ったら親を見よ、親を見たかと思ったら子を見よ
2338	49	福井県	背（よい）つ張り朝寝坊
2339	49	福井県	嫁を貰（もら）うなら大野から貰（もら）え
2340	49	福井県	夜、口笛を吹くと誰か来る
2341	49	福井県	子も泣くのが仕事
2342	49	福井県	夏、土用にウナギ、半夏生鱈
2343	49	福井県	土用の丑の日に薬草を採る
2344	49	福井県	大寒に入る日に水を飲むと風邪をひかず
2345	49	福井県	台所にお湯を流すと罰が当たる
2346	49	福井県	高いところへベッコウ樺
2347	49	福井県	カラスが鳴くと誰かが亡くなる
2348	49	福井県	鳴らすの鳴きが悪いと誰かが死ぬ
2349	49	福井県	三寸流れば大川
2350	49	福井県	長い物には巻かれる
2351	49	福井県	桃、夏三つ。柿八年、柚子ゆずは九年でなりかゝる
2352	49	福井県	お米の一粒には仏様が千体居るから粗末にしてはいけない
2353	49	福井県	おへそを出して寝ると雷にへそを取られる
2354	49	福井県	親の意見は暗くして歩くといけない
2355	49	福井県	女は男の背後から歩くこと
2356	49	福井県	子どもの寝つけば三歳まで
2357	49	福井県	ご飯を食べた後すぐ横になると牛になる
2358	49	福井県	食事の時は、お茶碗の中を見て、肘（ひじ）を上げないと酔かする
2359	49	福井県	何でも食べると太る
2360	49	福井県	火遊びするとネギが出る
2361	49	福井県	人には誰にも挨拶をよそをするように教しつける
2362	49	福井県	ミズにおシッコをかけるると雨が降る
2363	49	福井県	ミズにおシッコをかけるるとチンチンが腫れる
2364	49	福井県	腫れる
2365	49	福井県	日は阿呆でも人の明かりの先には立たない
2366	49	福井県	夜、口笛を吹くと蛇が出てくる
2367	49	福井県	夜遅くまで遊んでいると、男の子はてんぐぐんに
2368	49	福井県	連れていかれる
2369	49	福井県	（地獄について）四ツ風、六ツ・八ツの日
2370	49	福井県	照（ひ）五・七の雨に、九は病
2371	49	福井県	牛やかめは尻から道
2372	49	福井県	家の周りや近くでカラスがあまり騒ぐと不幸があるという
2373	49	福井県	1月は行く、2月は逃げる、3月は去る
2374	49	福井県	女の強型のときは「ネブ」（ネム）の薬で洗うと綺麗に洗われる
2375	49	福井県	ネブの木（ネムノキ）で髪を洗うと良く汚れが落ちる
2376	49	福井県	こうりの黒焼きは肺結核の治療に良い
2377	49	福井県	子供が寝小便の特効薬は去きよ勢せいした馬の糞こう丸がしん（きんたま）
2378	49	福井県	初めチヨロチヨロ、中ばっぼ、赤子泣いても蓋ふた取るな
2379	49	福井県	ソバの釜を煮出して、その汁で柱や床を磨くと良い艶つやがでる
2380	49	福井県	田畑をする土地が瘦（や）せる
2381	49	福井県	冬に、柿の木に「アズナギ」を食べさせると、翌年よく実がなる
2382	49	福井県	柿の木に傷を付けて生育を押さえる
2383	49	福井県	冬に柿の木に「小豆あずきが」を食べさせると翌年良くなる
2384	49	福井県	ミズにおシッコを掛けるとチンポコが腫れる
2385	49	福井県	耳の大きな人は出世する
2386	49	福井県	写真を燃やすと、燃やした人は火事の時家から出られない
2387	49	福井県	大晦日に早く寝ると顔に凸凹ができる
2388	49	福井県	茶柱が立つと良いことがある
2389	49	福井県	朝に見る夢は本実（まこと）が多い
2390	49	福井県	鼻の下が長い人は長生きする
2391	49	福井県	奥山のスガクラ（大日岳）の影を捉え、今何時頃だと判断した
2392	49	福井県	奥山へ仕事に行く人は、ねぶ（ネム）の木の花がすばらいたら家に帰る目安にしていた
2393	49	福井県	お見合いにお茶を出すといけない
2394	49	福井県	お正月の朝に豆がらを炊くと働かない
2395	49	福井県	お父さんが二日酔いの時、梅干茶を飲むとい
2396	49	福井県	お仏壇を買ったと罰が当たる

No	作業No	都道府県	ことわざ
2395	49	福井県	赤い砂を早く片付けないと、お嫁に行くのが遅くなる
2396	49	福井県	漆(ほうき)をさかさまに立てて置くと、長く居た人がかえってしまう
2397	49	福井県	苦荷(シヨウガ)を食べると頭が悪くなる
2398	49	福井県	外出す時は針を使ってはいけない
2399	49	福井県	肝臓のつかれた置かなければ、来年は柿がならない
2400	49	福井県	肝臓が悪い人は風呂にコップ一杯の塩を入れて毎日入ると肝臓が治る
2401	49	福井県	縁と縁を合せてと縁が出る
2402	49	福井県	空手になったと、兄弟の一番末っ子の男の人に糸を結んでもうと治る
2403	49	福井県	手が痛くなったら一番男の子に手を括てもらおうと痛みが治る
2404	49	福井県	玄關にんにくを吊ると病気が治らない
2405	49	福井県	玄關に造花を飾ると家の人の病気が治らない
2406	49	福井県	玄關に造花を飾ると病気が治らない
2407	49	福井県	差支の火で焼いた餅は腹痛になる
2408	49	福井県	寝食を写す時、三人で写すと真中の人は早く死ぬ
2409	49	福井県	鼻の下駄は家の中から履いてはいけない
2410	49	福井県	真の下駄できんが出来ると身寄りに赤ちゃんが生まれる
2411	49	福井県	お腹に赤ちゃんが居る人が火事を見るとあさの出来た子が生まれる
2412	49	福井県	次の赤ちゃんを産む時、上の子の両足にしろが一本づつあったら男、二本づつあったら女
2413	49	福井県	赤ちゃんがお腹の中に居る時、丸い物の上で果物や野菜を切ると、口の曲がった子が生まれる
2414	49	福井県	赤字で名前を書くと、けがをし貧乏人になる
2415	49	福井県	赤字の名前は不幸なことには会う
2416	49	福井県	大寒にお餅を焼くと、カビが生えない
2417	49	福井県	二月を拜くとその年の災難は逃れる
2418	49	福井県	二月二十九日に餅を焼くと悪い
2419	49	福井県	乳をミミズがなめると乳が出なくなる
2420	49	福井県	乳を壁にかけると乳が出なくなる
2421	49	福井県	八目鱈(やつめうなぎ)を食べると目が良くなる
2422	49	福井県	鯛(なご)の蓋(ふた)の上で物を切ると片輪の子が生まれる
2423	49	福井県	秋刀魚を、雨垂を食って「食べておくれ」と言うと、上向いて生える
2424	49	福井県	彼岸花を家の中に置くくと火事になる
2425	49	福井県	彼岸花を折って家に持って帰ると家が火事になる
2426	49	福井県	墓石の上に草たんすが置いてあると罰が当たる(その草管に雲と書くといひ)
2427	49	福井県	仏壇を倒すと悪いことがある
2428	49	福井県	北向きを向くと寝るといけない
2429	49	福井県	北向きを向くと寝ると健康になる
2430	49	福井県	夢を見る時、水の関係のある夢を見ると風邪をひき、馬に乗っている夢を見るとお金がたまる
2431	49	福井県	芽もらういできたら、池の中に小豆(粒)を落とすと治る
2432	49	福井県	餅が喉につかかた時、酢または醤油(しょうゆ)を鼻の中に入れて食べると餅が下へ下る
2433	49	福井県	夜、梅返しを食べると餅が下へ下る
2434	49	福井県	庭が鳴る時髪を立てて髪の毛をいじると悪い
2435	49	福井県	雷に降るといけないもの...びわ、銀杏いちょう・栗・梨・百日草
2436	49	福井県	殺した蛇を川へ投げると生返る
2437	49	福井県	たさくのガラスが鳴くと人が死ぬ
2438	49	福井県	ガラスがうめくくと誰かが死ぬ
2439	49	福井県	ガラスがうめくくと誰かが死ぬ
2440	49	福井県	ガラスが鳴くと縁起が悪い
2441	49	福井県	ガラスの鳴き方が違うと、一週間以内に誰かが死ぬ
2442	49	福井県	ガラスの鳴き声が悪いと人が死ぬ
2443	49	福井県	ガラスの鳴き方の悪い時は誰かが不幸
2444	49	福井県	ガラスがうめくくと誰かが死ぬ
2445	49	福井県	縁根の上でガラスが鳴くと吉な事がある
2446	49	福井県	ツバメが家に居ると火事にならない
2447	49	福井県	家の中に、ウドングの花(ウツバカゲロウの卵)が咲くと吉な事が起こる
2448	49	福井県	チドメ草を塗る(貼る)と血が止まる
2449	49	福井県	クモを朝見ると良い、夜のクモは縁起が悪い
2450	49	福井県	朝の雲は縁起が悪い
2451	49	福井県	朝の花が白くすると縁起が悪い
2452	49	福井県	朝(ネム)の木の花は、曇天で夕方になるとしほむ
2453	49	福井県	夜にキツネが鳴くと、お稲な背に縁が危険になっている
2454	49	福井県	流れ星を見たら、ポケットに手を入れたとお金が溜まる
2455	49	福井県	家にネズミが居なくなると火事になる
2456	49	福井県	朝早くお金を使うとお金が貯まらない
2457	49	福井県	朝早くお金を使うとお金が貯まらない
2458	49	福井県	朝早くお金を使うとお金が貯まらない
2459	49	福井県	盆に水浴びをしないと、カッパに「けつこの」を取られる
2460	49	福井県	盆に水浴びをしないと、カッパに「尻のこ」を抜かれる
2461	49	福井県	夜、爪を切ると親が早く死ぬ
2462	49	福井県	夜、爪を切ると親の死目に会えない
2463	49	福井県	夜、笛を吹くと蛇が出る
2464	49	福井県	夜、笛を吹くと蛇が出る
2465	49	福井県	夜、「コケコッコー」と言うと火事になる
2466	49	福井県	夜、梅を食べると親の死目に会えない
2467	49	福井県	夜、梅を食べると親の死目に会えない
2468	49	福井県	正月に餅を食うと、生なま揃あげを持って歩くときキツネにだまされる
2469	49	福井県	正月に餅を食うと、生なま揃あげを持って歩くときキツネにだまされる
2470	49	福井県	お正月、いろりに入ると、その年はカラが煙やを荒らす
2471	49	福井県	お正月、いろりに入ると、その年はカラが煙やを荒らす
2472	49	福井県	お正月、いろりに入ると、その年はカラが煙やを荒らす
2473	49	福井県	赤飯にお茶をかけた食べると縁が悪い
2474	49	福井県	赤飯にお茶をかけた食べると縁が悪い
2475	49	福井県	赤飯にお茶をかけた食べると縁が悪い
2476	49	福井県	雨垂れの落ちるところへ小便をしないと、火事の時、逃げられない
2477	49	福井県	雨垂れの落ちるところへ小便をしないと、火事の時、家から出られない
2478	49	福井県	お地蔵さんにシヨンペンを掛けると足がおこにこく、つつか
2479	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2480	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2481	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2482	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2483	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2484	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2485	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2486	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2487	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2488	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2489	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2490	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2491	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2492	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2493	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2494	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2495	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2496	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2497	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2498	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2499	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2500	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2501	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2502	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2503	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2504	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2505	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2506	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2507	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2508	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2509	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2510	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2511	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2512	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2513	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2514	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2515	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2516	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2517	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2518	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2519	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2520	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2521	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2522	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2523	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2524	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2525	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2526	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある
2527	49	福井県	屋根の上からおシヨンをすると悪いことがある

No	作業No	都道府県	ことわざ
2528	49	福井県	赤い砂の手足が熱い時は眠くなった時
2529	49	福井県	親父のする事が稽けい古くなる
2530	49	福井県	親の意見とナズビの花は万に一つの
2531	49	福井県	あだはない
2532	49	福井県	親の後ろ姿(仕事ぶり)を見て子供は育つ
2533	49	福井県	子供は親の背中を見て育つ
2534	49	福井県	二つ子の魂百まで
2535	49	福井県	赤ちゃんが誕生直前(1歳になる前)に歩いたら突き倒せ
2536	49	福井県	赤ちゃんのしゃっくりは大抵お母さんが濡(ぬ)れている時に起こる
2537	49	福井県	ご飯を食べる時は腹八分目に食べる
2538	49	福井県	下の乳首が抜(ぬ)けたら上の方へ投げる
2539	49	福井県	茶柱が立つと良いことがある
2540	49	福井県	ハンカ(麻ま疹しん)やウエボウソウ(楳えぼそう)をした後、良くなたらサシドワ(米俵のふた)に麦飯を載せて川に流す
2541	49	福井県	子供のハンカが治ると、サンドワに麦飯を載せて川に流す
2542	49	福井県	蛇の抜け殻を財布の中に入れておくとお金が貯まる
2543	49	福井県	蛇の抜け殻を財布の中に入れておくとお金が貯まる
2544	49	福井県	カラスが近くで鳴いた時は悪い知らせ
2545	49	福井県	カラスが鳴くと不幸がある
2546	49	福井県	ツバメが入る家は火事にならない
2547	49	福井県	親指をしゃぶると手は火事にならない
2548	49	福井県	親指をしゃぶると手は火事にならない
2549	49	福井県	赤飯でお茶漬けをすると結婚式の当日雨が降る
2550	49	福井県	火遊びをするとオネショをする
2551	49	福井県	負けるが勝ち
2552	49	福井県	夜、口笛を吹くと蛇が来る
2553	49	福井県	夜、三日盆三日、後のごじゃごじゃ半日づつ
2554	49	福井県	梅のシソ塩漬けを土用に夜露に当たると色が良くなる
2555	49	福井県	お米の粒の中には神様が三人入って居るので、粒一粒を粒にしてはならない
2556	49	福井県	夜、爪を切ると親の死目に会えない
2557	49	福井県	夜、爪を切ると親の死目に会えない
2558	49	福井県	夜、爪を切る者は一銭に泣く
2559	49	福井県	アホは風邪ひかん
2560	49	福井県	朝寝坊の背つ張り
2561	49	福井県	頭などに打撲コブができた時、砂糖水を塗るとコブが無くなる
2562	49	福井県	塗るとコブが無くなる
2563	49	福井県	塗るとコブは無くなる
2564	49	福井県	塗るとコブは無くなる
2565	49	福井県	塗るとコブは無くなる
2566	49	福井県	塗るとコブは無くなる
2567	49	福井県	塗るとコブは無くなる
2568	49	福井県	塗るとコブは無くなる
2569	49	福井県	塗るとコブは無くなる
2570	49	福井県	塗るとコブは無くなる
2571	49	福井県	塗るとコブは無くなる
2572	49	福井県	すぐ忘れるのを「ぼん」といって
2573	49	福井県	正月3ヶ日の間は、開軒裏(いろり)に子供が足を突くと、苗代にカラスが入るとだめ
2574	49	福井県	食べやすく寝ると中になる時は、火事を
2575	49	福井県	見に行ってもいけない
2576	49	福井県	おしりが青いのは、お母さんのおなかの中に入っている時「閻魔さま」つねたといひ
2577	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2578	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2579	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2580	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2581	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2582	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2583	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2584	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2585	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2586	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2587	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2588	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2589	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2590	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2591	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2592	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2593	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2594	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2595	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2596	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2597	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2598	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2599	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2600	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2601	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2602	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2603	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2604	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2605	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2606	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2607	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2608	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2609	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2610	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2611	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2612	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2613	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2614	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2615	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2616	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2617	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2618	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2619	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2620	49	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2621	50	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2622	50	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる
2623	50	福井県	つけた茶碗でご飯を食べると、唇ちびる

No	作業No	都道府県	ことわざ
2624	50	福井県	「あつち」の音が白くなると晴
2625	50	福井県	経節を削る時柔かいと雨
2626	50	福井県	煙草が濡れば雨の兆
2627	50	福井県	煤が落ちると雨模様
2628	50	福井県	家の中で薪の火が美しいと晴
2629	50	福井県	「あつち」の「かき」が温めると雨
2630	50	福井県	馬の喉が乾くと晴
2631	50	福井県	鹽が水を吸えば雨
2632	50	福井県	「はこべ」の花が閉じると雨
2633	50	福井県	遠寺の鐘の音がハッキリ聞えるのは雨
2634	50	福井県	物の響きが近く聞えるのは雨の前兆
2635	50	福井県	北濃湖の汽笛の音が聞える時は意又は雨
2636	50	福井県	泉や川の音の判つきり聞えるのは雨
2637	50	福井県	川音がすると雪降りかざると雨
2638	50	福井県	三味、大鼓の音の響くのは雨の兆
2639	50	福井県	物音の良く聞ゆる時は晴
2640	50	福井県	風の無いのに電線の上なるのは天気悪くなる前兆でその日の、電線の上なるは晴
2641	50	福井県	煙の上らない翌日は雨
2642	50	福井県	家の内で煙が、こもつたら翌日は雨
2643	50	福井県	煙が低く棚引く時は雨
2644	50	福井県	線香の煙が垂れ上ると晴
2645	50	福井県	煙が風直ぐに立上ると晴
2646	50	福井県	煙が横へなびれば晴
2647	50	福井県	煙が南へなびれば晴
2648	50	福井県	便所の臭気の強い時は雨
2649	50	福井県	大火事の後には雨
2650	50	福井県	火の勢をみて煙が黒いと翌日は雨、赤いと晴
2651	50	福井県	着物を裏返して着ると雨
2652	50	福井県	蒸し暑い翌日は雨
2653	50	福井県	蒸し暑いのは雷雨の兆
2654	50	福井県	夏、冷たきは雨
2655	50	福井県	子供が騒ぐと翌日は雨
2656	50	福井県	頭が重いと近い中に雨になる
2657	50	福井県	雪やけの痛むは翌日は晴
2658	50	福井県	ワケが痛むと雨
2659	50	福井県	骨折の痕が痛むと翌日は雨
2660	50	福井県	傷口が痛むと翌日は晴
2661	50	福井県	傷が高く跳び上ると雨
2662	50	福井県	池の蛙が跳ねると雨
2663	50	福井県	池の蛙が、はねるが大風の兆
2664	50	福井県	蛙やけが響くと翌日は晴
2665	50	福井県	魚が水面に出て呼吸しているとは雨
2666	50	福井県	魚が川の上で輪をかくと雨
2667	50	福井県	魚が川の上で輪をかくと晴
2668	50	福井県	朝霧は雨
2669	50	福井県	霧が朝から舞うのは晴
2670	50	福井県	霧が朝から舞えば雨、高く飛べば晴
2671	50	福井県	霧の鳴くは雨の兆
2672	50	福井県	霧が朝鳴くと晴
2673	50	福井県	霧の鳴くは雨の兆
2674	50	福井県	夕暮しに鳴くは雨の兆
2675	50	福井県	雨の時霧が陸上を飛ぶは晴の兆
2676	50	福井県	雲空を覆れば晴
2677	50	福井県	霧が右へ廻ると晴
2678	50	福井県	霧が左へ廻ると雨
2679	50	福井県	夕暮しは晴
2680	50	福井県	霧が山の上を舞うは雨
2681	50	福井県	霧が高く飛ぶと晴
2682	50	福井県	霧が低く飛ぶと雨
2683	50	福井県	霧が水を浴びると雨
2684	50	福井県	霧が朝早く響く時は晴
2685	50	福井県	霧が朝早く響く時は雨
2686	50	福井県	霧が水を含み出すと雪降りか近い
2687	50	福井県	霧が水を浴びると晴
2688	50	福井県	霧が水を浴びると雨
2689	50	福井県	霧が夕暮まで舞うは晴
2690	50	福井県	霧が夕暮まで舞うは雨の兆
2691	50	福井県	霧が低い所に集ると風
2692	50	福井県	霧が低い所に集ると雨
2693	50	福井県	霧が海水に、つかると雨
2694	50	福井県	霧が海水に、つかると晴
2695	50	福井県	霧が夜鳴けば翌日は晴
2696	50	福井県	霧が夜鳴けば翌日は雨
2697	50	福井県	霧がぐるぐる廻ると明日は晴
2698	50	福井県	霧が高い所へ頭をつけて置くと雪が近い
2699	50	福井県	霧が夕刻早く集ると翌日は晴
2700	50	福井県	霧が夕刻早く集ると翌日は雨
2701	50	福井県	霧が朝早く高鳴きする日は晴
2702	50	福井県	霧が朝早く高鳴きする日は雨
2703	50	福井県	群鳥啼きながら山を飛ぶは暴風雨の兆
2704	50	福井県	「かもめ」が海より九頭龍川へくると雨
2705	50	福井県	「かもめ」が田圃へゆくと明日は晴
2706	50	福井県	海鳥が、たくさん騒ぐは大風の兆
2707	50	福井県	「ふくろう」の「く」が鳴けば晴
2708	50	福井県	「ふくろう」の「く」が鳴けば雨
2709	50	福井県	「ふくろう」が夕方「ホ、クルリトカエ」と鳴くと雨
2710	50	福井県	雉が鳴けば暴風雨
2711	50	福井県	雉が鳴けば晴
2712	50	福井県	朝鳴くは雨
2713	50	福井県	夕鳴くは晴
2714	50	福井県	雁が海の方へ飛んでゆく時は晴、山の方へ飛んでゆく時は雨
2715	50	福井県	「きつさき」が鳴けば雨
2716	50	福井県	「みぞさえ」が鳴けば翌日は暴風
2717	50	福井県	「テラス」の嘴をならすと雨
2718	50	福井県	水こい鳥が朝鳴くは雨
2719	50	福井県	鶏が一日中餌を食ると翌日は雨
2720	50	福井県	鶏が晩まで「とや」と上らないのは雨の兆
2721	50	福井県	小鳥がたくさん騒ぐと雨
2722	50	福井県	小鳥が朝鳴くと晴
2723	50	福井県	「かいつこう鳥」がなくと晴
2724	50	福井県	雲雀が高く昇ると晴
2725	50	福井県	鶉の一撃風の兆
2726	50	福井県	雷鳥が出る時晴
2727	50	福井県	蟹が道路に出ると雨
2728	50	福井県	蟹が家の中へ入ってくると雨
2729	50	福井県	溝蟹が家の中へ入ってくると大雨か洪水
2730	50	福井県	「くらげ」の大きいのが多く陸へくと大雨
2731	50	福井県	「くらげ」が陸の方へ向つくと大雨の兆
2732	50	福井県	蟹の多く這い出る時は雨の兆
2733	50	福井県	馬が威勢良く鳴くと晴
2734	50	福井県	牛が鳴くと風が出る
2735	50	福井県	牛の鼻に糞がくっついていたら雨近し
2736	50	福井県	牛が牛舎の板を、なめると雨
2737	50	福井県	牛が地を掻き或は空に角を上げると大風の兆
2738	50	福井県	犬が草をかむと晴
2739	50	福井県	犬が高い所へ上つて寝ると雨の兆
2740	50	福井県	狸が鳴くと翌日は雨
2741	50	福井県	家禽が騒ぐと雨
2742	50	福井県	家禽が不安の様子をする時は雨近し
2743	50	福井県	蝶の列の周囲に土が、こもりかぶさつていたら翌日は雨
2744	50	福井県	蝶の行列盛んな時は雨近し
2745	50	福井県	蝶の出る時は風雨の兆
2746	50	福井県	蝶が穴を塞ぐは大風
2747	50	福井県	蝶が低い所に集ると風強し
2748	50	福井県	蝶が卵を運ぶと大雨
2749	50	福井県	蝶が一列に並んで歩けば嵐の兆
2750	50	福井県	蝶が高所へ移ると洪水の兆
2751	50	福井県	蛇が木に登ると雨
2752	50	福井県	蛇が一日に三匹以上現れれば雨
2753	50	福井県	蛇が一日に三匹以上現れれば雨
2754	50	福井県	蛇が一日に三匹以上現れれば雨
2755	50	福井県	朝「みゝず」の出ると晴
2756	50	福井県	「みゝず」が鳴くと翌日は晴
2757	50	福井県	「みゝず」が朝去れば晴
2758	50	福井県	大みゝず路上に出ると雨の兆
2759	50	福井県	夕方「けり」が鳴くと晴
2760	50	福井県	蜘蛛が巣を作ると雨が降る

No	作業No	都道府県	ことわざ
2761	50	福井県	蜘蛛が網を張り始める時は晴
2762	50	福井県	蜘蛛が雨中又は夕方方に巣を張れば晴
2763	50	福井県	「ぶよ」が外であばると雨
2764	50	福井県	「ぶよ」が群がり出ると雨
2765	50	福井県	「ぶよ」が高く飛ぶと晴
2766	50	福井県	「ぶよ」が低く飛ぶと雨
2767	50	福井県	軒下に小虫が集まつては雨
2768	50	福井県	「こおろぎ」が晩、家に入れば明日は大風
2769	50	福井県	「こおろぎ」が鳴けば晴
2770	50	福井県	蜂が物陰に巣を作る年は風強し
2771	50	福井県	蜂が低いと風の強い日が多い
2772	50	福井県	蜂が巣を高い所に造る年は大風吹かず
2773	50	福井県	十一月頃、わたつき虫が飛ぶ時は近日中に雪を見る
2774	50	福井県	「いもり」が地上に出ると雨
2775	50	福井県	夜蛾が出る時雨
2776	50	福井県	小蛾が雨だれの下に集ると明日も雨
2777	50	福井県	蚤を火鉢に入れてボンと音のする時は晴
2778	50	福井県	百足の多い時は雨
2779	50	福井県	蟻の多く這い出るは雨の兆
2780	50	福井県	「もぐら」の寝息が聞えると翌日は晴
2781	50	福井県	「ねずみ」が騒ぐと翌日は晴天
2782	50	福井県	「かし」の木の根元の蒸める時は雨
2783	50	福井県	川柳の直立する時は洪水がある
2784	50	福井県	梅の上には晴、下向きは雨
2785	50	福井県	「ゆず」の花が上向きに咲くと雪がくる
2786	50	福井県	桃の花が咲けば三日はもたぬ
2787	50	福井県	蒲公英の花が閉じると雨
2788	50	福井県	草の葉に夕露深きは晴
2789	50	福井県	草の葉に綺麗な水玉の露がかゝると、その日は晴、一面に曇ると雨
2790	50	福井県	稲の葉に夕露多ければ晴
2791	50	福井県	青蜻蛉が北へ飛ぶ事が少なければ大雪
2792	50	福井県	赤蜻蛉の多い時は大雪
2793	50	福井県	蛙が早眠する場合は雪が早くくる
2794	50	福井県	「おそうじ」が多い年は雪が多い
2795	50	福井県	大雪降り虫が出るは雪が降る
2796	50	福井県	蜂の巣が高い所にあれば大雪
2797	50	福井県	蜂が早く出ると雪早く、薄山出ると雪が早い
2798	50	福井県	小蛾が多いと大雪
2799	50	福井県	蟬がなくと梅雨があける
2800	50	福井県	小鳥が山の沢の高い所で巣をつくると雪が多い
2801	50	福井県	小鳥の巣には鳥の低い所の巣を高い所に移す
2802	50	福井県	鳥が餌を高い木の枝にさして置くは大雪
2803	50	福井県	百舌鳥が餌を高く置く時は大雪
2804	50	福井県	小鳥が餌をたくさん集めると大雪
2805	50	福井県	「つむぎ」が多くとれる年は大雪
2806	50	福井県	「つむぎ」が早く来るは大雪
2807	50	福井県	秋鳥が早く南へ歸るは雪遅し
2808	50	福井県	海に「くらげ」のたくさん出る年は大雪
2809	50	福井県	「いちち」が早く出る時は雪早し
2810	50	福井県	「いちち」の出歩くのが多いと雪が多い
2811	50	福井県	秋、農作物が乾燥して荒れる時は大雪
2812	50	福井県	歌が近いにきていた大雪
2813	50	福井県	熊が初秋にあむれると雪が早い
2814	50	福井県	親子熊が出ると、雪が早い
2815	50	福井県	熊が人家近く迄来る年は雪が多い
2816	50	福井県	鮎の通るの少ない年は雨天の日少し
2817	50	福井県	木の實の少ない年は大風吹かず、薄山なる年は大風
2818	50	福井県	「ねむ」の花が咲くと梅雨明け
2819	50	福井県	葵の花が頂上まで咲くと梅雨明け
2820	50	福井県	「ゴマ」の収穫の良い年は大雪
2821	50	福井県	「ゴマ」の花が上に咲く時は大雪
2822	50	福井県	「ゴマ」の木が長く伸びると大雪
2823	50	福井県	「ゴマ」の實が上になる時は大雪
2824	50	福井県	つばきが葉の上に出ている年は小雪
2825	50	福井県	つばきが葉の裏に蕾をつくと大雪
2826	50	福井県	「ゆず」の實の方が遅れば大雪
2827	50	福井県	山茶花の花が下向きに咲いた時は大雪
2828	50	福井県	山茶花の花が上向きに咲いた時は大雪
2829	50	福井県	茶の葉が下を向くと大雪
2830	50	福井県	茶の花が上向きに咲く年は大雪
2831	50	福井県	茶の花が上向きに咲くと大雪
2832	50	福井県	茶の實がたくさんつけば大雪
2833	50	福井県	南瓜のつるの多い年は大風が吹く
2834	50	福井県	南瓜のたくさんなる年は大風
2835	50	福井県	「すき」の花が咲くと大雪
2836	50	福井県	「きび」が咲けば大雪
2837	50	福井県	「そば」の花が上向きに咲くと大雪
2838	50	福井県	「そば」の花の早く咲く年は大雪
2839	50	福井県	「そば」の花が良く咲くと大雪
2840	50	福井県	「そば」のたくさん咲いた年は大雪
2841	50	福井県	「そば」の木が大きくなると大雪
2842	50	福井県	里芋の根が多ければ大雪
2843	50	福井県	山芋の根が「もろい」ときは雪が早い
2844	50	福井県	山芋の根が地上に出ている時は大雪
2845	50	福井県	山芋の根が新芋の附近に残っている時は小雪
2846	50	福井県	梨の花の多い年は大風と大雪
2847	50	福井県	梨の實の多い年は大風の兆
2848	50	福井県	青天の實が薄山なると大雪
2849	50	福井県	栗が、たくさん出来た年は大雪
2850	50	福井県	栗の花がたくさん咲いた年は大雪
2851	50	福井県	蒲公英の葉が短ければ風の日多し
2852	50	福井県	松葉が沢山落ちると大雪
2853	50	福井県	柿の新芽の長い年は雪が多い
2854	50	福井県	柿の「あひら」の少ない年は大雪
2855	50	福井県	「こぞ」が良く成長すると大雪
2856	50	福井県	「こぞ」が早く落葉すると雪が早い
2857	50	福井県	「きのこ」が早く出ると雪が早い
2858	50	福井県	「もち」の葉が裏になつて落ちている年は小雪
2859	50	福井県	「ひば」の葉が裏になつて落ちている年は小雪
2860	50	福井県	落葉が早ければ雪が早い
2861	50	福井県	落葉が早ければ大雪
2862	50	福井県	作物の實のりが早ければ雪が早い
2863	50	福井県	春霞の不出る年は天候が悪い
2864	50	福井県	性の實が多く実つた年は大雪
2865	50	福井県	「ひば」が長く成長した年は大雪
2866	50	福井県	柳の芽の多い時は晴天大雪
2867	50	福井県	奥山の紅葉が早く、近山の紅葉が遅い時は雪が早い
2868	50	福井県	土用に竹の垂れる年は大雪
2869	50	福井県	笹竹に花が咲くと大雪
2870	50	福井県	「とうもろこし」の根の上の年は風
2871	50	福井県	舊暦十月二十日午前十時に西風が吹くと雪多く、南風吹けば晴天、北風吹くと寒
2872	50	福井県	舊の二月二十日の朝から吹く風が夏の土用まで、それに似た風が吹く
2873	50	福井県	夏の土用入りの朝から吹く風が舊の十月二十日まで、それに似た風が吹く
2874	50	福井県	舊の十月二十日二吹く風が舊の二月二十日まで、その風が吹くと大雪
2875	50	福井県	舊の十月二十日に南風だと小雪、北風だと大雪、西風だと大雪
2876	50	福井県	陰暦十月二十日を定めた日とし、その日曇り北から出れば北風が多く吹き、南から出れば南風が多い
2877	50	福井県	舊四月二十日午前七時より午前十時の間、南風あれば、その虫音多く、西北風あれば豊作、舊二月二十日正午より日没まで、南風あれば冬積雪多く、北風なれば雪少し
2878	50	福井県	照り入り八重降り八重、降り入り八重、照り八重
2879	50	福井県	大雪は豊年の兆
2880	50	福井県	百日紅の花の多く咲く年は豊年
2881	50	福井県	雪多き年は豊作
2882	50	福井県	雪の結實多き年は豊作
2883	50	福井県	茶作豊作ならば米も豊作
2884	50	福井県	柿のとれない年は米がとれる
2885	50	福井県	海草の長く伸びる年は豊作
2886	50	福井県	春の高温、豊年の兆
2887	50	福井県	母「こぶし」の花上向きに咲くと豊年
2888	50	福井県	

No	作業No	都道府県	ことわざ
2889	50	福井県	元日縁日は早稲豊年
2890	50	福井県	満年に凶作なし
2891	50	福井県	燕の飛来早き年は豊作
2892	50	福井県	燕の巣が粗末に作られる年は豊作
2893	50	福井県	梅の結実多き年は豊作
2894	50	福井県	麥の豊作、米の豊作
2895	50	福井県	冬季多雨多く春暖かくして春雨少き時は豊作
2896	50	福井県	豊年には松茸不作
2897	50	福井県	五月早に米買うな
2898	50	福井県	霜の多い年は豊作
2899	50	福井県	大寒後が寒く、土用前が高温なれば豊作
2900	35	長野県	秋茄子は嫁にくれるな
2901	35	長野県	朝酒は賢を置いても呑め
2902	35	長野県	過アヤ子功名
2903	35	長野県	あき盲
2904	35	長野県	何れも嘲笑的
2905	35	長野県	秋の日は釣瓶落し
2906	35	長野県	開いた口が塞がらぬ
2907	35	長野県	足の裏をかか
2908	35	長野県	石部金吉、金かぶと
2909	35	長野県	色の白いは、七難かかず
2910	35	長野県	●イズカの嘴のくちがひ
2911	35	長野県	いまでは恋佛、誰も唱へる
2912	35	長野県	犬と雀、すかれちや困る
2913	35	長野県	大と嫁
2914	35	長野県	仲悪しき意
2915	35	長野県	石橋の腐るまで
2916	35	長野県	生馬の眼を抜く
2917	35	長野県	いの一番
2918	35	長野県	いとこは道端の犬の糞クソ
2919	35	長野県	嘘も千言百言
2920	35	長野県	馬の耳に念佛
2921	35	長野県	牛の角に蜂
2922	35	長野県	牛にひかれて善光詣り
2923	35	長野県	うそから出た誠
2924	35	長野県	牛の一毛下宿や
2925	35	長野県	嘘と坊主の頭は結った事ない
2926	35	長野県	鶴の目、鷹の目
2927	35	長野県	内股膏薬
2928	35	長野県	兎辰凶年、明れば巳年
2929	35	長野県	兎辰=祝ウダツ
2930	35	長野県	家ウケの雪セツ隠チンと一口淨瑠璃知らぬ者はない
2931	35	長野県	縁の下刀もち
2932	35	長野県	追手に帆をあげる
2933	35	長野県	江戸の仇を長崎でうつ
2934	35	長野県	えり豆に花
2935	35	長野県	枯木に花
2936	35	長野県	鬼に金棒、熱鉄棒
2937	35	長野県	重傷にかじツツ
2938	35	長野県	鬼も十七、番茶も出ばな
2939	35	長野県	大男惣身に智慧がまほりかね
2940	35	長野県	帯に短し、袴タスキに長し
2941	35	長野県	鬼の念佛
2942	35	長野県	男は抜スキびん、女は善士びたい
2943	35	長野県	奥歯に物、かはさまった様
2944	35	長野県	河童カップの川流れ
2945	35	長野県	蛙の面ツラに水
2946	35	長野県	産カユキ所に手が届く
2947	35	長野県	看板、かくれなし
2948	35	長野県	南瓜に年を取らすな
2949	35	長野県	南瓜に年を取らすな
2950	35	長野県	川そだちは、川で果てる
2951	35	長野県	雉子が鷹を産む
2952	35	長野県	薬キン丸タマもつりやう
2953	35	長野県	薬九層倍、百姓百層倍
2954	35	長野県	腐っても鯛の背
2955	35	長野県	暗闇に
2956	35	長野県	喧嘩過ぎての棒ちぎり
2957	35	長野県	高い水は風にあたる
2958	35	長野県	こけの一心
2959	35	長野県	こけ=産暇なり
2960	35	長野県	紺屋の明後日アサツツテ
2961	35	長野県	セツハ明後日アサツツテ
2962	35	長野県	心は二つ、身は一つ
2963	35	長野県	此口所が思案の箇所
2964	35	長野県	乞食の子も三年たてば三つになる
2965	35	長野県	乞食の喧嘩
2966	35	長野県	手間、暇に構はない
2967	35	長野県	木片コツツで鼻をかむ
2968	35	長野県	ごみ溜に鶴
2969	35	長野県	米の中のあら
2970	35	長野県	三度さっぱり
2971	35	長野県	三人善れば文珠の智慧
2972	35	長野県	雑巾はほうりし上を御覽
2973	35	長野県	酒屋へ二里、豆腐屋へ二里
2974	35	長野県	砂糖の水に背を負つて登る
2975	35	長野県	猿の人真似
2976	35	長野県	猿智慧
2977	35	長野県	山椒目の毒、實は目の薬
2978	35	長野県	さくごころ
2979	35	長野県	正直の頭に神やどる
2980	35	長野県	死馬に針
2981	35	長野県	仕事は大勢、うまい物は小勢
2982	35	長野県	四十がすみ、又四十暗がり
2983	35	長野県	死人に口なし
2984	35	長野県	尻に帆をかける
2985	35	長野県	知らぬ顔の半兵衛
2986	35	長野県	七難、九厄
2987	35	長野県	自分の田へ水を引く。又は我田引水
2988	35	長野県	塩を賣っても手をなめろ
2989	35	長野県	経済の理法を示す
2990	35	長野県	腰に傷を符つ。……犬の遠吠
2991	35	長野県	隣間から来る風は寒い
2992	35	長野県	せつない時の神だのみ
2993	35	長野県	千服吸っても立煙草
2994	35	長野県	急せいで事は仕損じる
2995	35	長野県	高い所へもつご持ち
2996	35	長野県	立坂に水
2997	35	長野県	玉にさび
2998	35	長野県	狸寝入り
2999	35	長野県	他人のそら似
3000	35	長野県	竹は一八
3001	35	長野県	竹を切る期節は一月、八月が最も好い
3002	35	長野県	餅から牡丹餅
3003	35	長野県	朔に目黒
3004	35	長野県	竹に水をつぐ
3005	35	長野県	曇の上のけが
3006	35	長野県	高山で日ヒを見るな
3007	35	長野県	旅の恥は、かき捨て
3008	35	長野県	多理二の驚の足
3009	35	長野県	事態の不明明の場合にいふ
3010	35	長野県	地震、雷かみ鳴ナリ、火車、親オヤ父チ
3011	35	長野県	仲裁は時の氏神
3012	35	長野県	地獄の一丁目
3013	35	長野県	燈籠に釣鐘
3014	35	長野県	物事の都合はぬ意
3015	35	長野県	月夜に提灯、晝あんどん
3016	35	長野県	月にむら雲、花に風
3017	35	長野県	豊ツンゴの早耳
3018	35	長野県	月日に開守なし
3019	35	長野県	手前味噌
3020	35	長野県	梅子も動かぬ
3021	35	長野県	燈台もと暗し
3022	35	長野県	燈台もを殺さず
3023	35	長野県	年寄の冷水
3024	35	長野県	老の木登り
3025	35	長野県	鳥は食ってもドリ食ふな
3026	35	長野県	豆腐に鎌カスガイ、糠に釘

No	作業No	都道府県	ことわざ
3027	35	長野県	虎の巻
3028	35	長野県	遠くて近いは男女の間
3029	35	長野県	年寄の物忘れ
3030	35	長野県	烏なき千里の騙賊。烏に油揚をさらはる
3031	35	長野県	虎の巻
3032	35	長野県	土用半ばに秋風が吹く
3033	35	長野県	夏の火は嫁にたかせ
3034	35	長野県	七重の膝を八重に折る
3035	35	長野県	夏の藤と去霜喧嘩は犬でも食はぬ
3036	35	長野県	二階から目撃
3037	35	長野県	荷と病は軽い程よい
3038	35	長野県	以て者夫婦
3039	35	長野県	女房は山の神
3040	35	長野県	人面獣心
3041	35	長野県	盗ヌス人、ビトの晝寝
3042	35	長野県	盗人に追裁
3043	35	長野県	盗人猛々
3044	35	長野県	念には念を入れ
3045	35	長野県	猫に小判
3046	35	長野県	狸耳に水
3047	35	長野県	猫に紙袋、...を被せた様
3048	35	長野県	猫にまたよび
3049	35	長野県	猫を被カプ
3050	35	長野県	能なしの節句働き
3051	35	長野県	野中の一本杉
3052	35	長野県	花は半開
3053	35	長野県	花より團子
3054	35	長野県	話、半分
3055	35	長野県	取の上り
3056	35	長野県	腹も身の内
3057	35	長野県	室にも棒にもかからぬ
3058	35	長野県	馬鹿に付ける薬はない
3059	35	長野県	恥も知らなければ、かいた事もない
3060	35	長野県	鼻毛を黒む
3061	35	長野県	腹が黒む
3062	35	長野県	裸体ハダカで山椒の木
3063	35	長野県	はだいで針の山、...へ登る
3064	35	長野県	人には添ふて見る、馬には乗つて見る
3065	35	長野県	一人娘に嫁入人
3066	35	長野県	人の權で身をとる
3067	35	長野県	人の牛蒡で法事をする
3068	35	長野県	人の噂も七十五日
3069	35	長野県	人の仙氣を頭痛に病む
3070	35	長野県	臍氣の引削し
3071	35	長野県	鱒の鱗を拂ふ
3072	35	長野県	人は一代、名は末代
3073	35	長野県	百日の説法、屁一つ
3074	35	長野県	人の顔へ泥をぬる
3075	35	長野県	日和見の順慶。又ハ筒井順慶
3076	35	長野県	文はやりたし、書く手は持たぬ
3077	35	長野県	風前の塵
3078	35	長野県	袋の中の鼠
3079	35	長野県	河豚は食ひたし、命は惜し
3080	35	長野県	へうたんなます
3081	35	長野県	不得要領の意
3082	35	長野県	下手の長談義
3083	35	長野県	有折損のくたびれも上げ
3084	35	長野県	坊主掛けの、袈裟まで憎い
3085	35	長野県	盆と月(露)が一所に来た
3086	35	長野県	佛つくて魂入れず
3087	35	長野県	時かぬ種は生えぬ
3088	35	長野県	長睡物
3089	35	長野県	長睡物
3090	35	長野県	間道と風通は江戸にもある
3091	35	長野県	丸い卵も切様で四角
3092	35	長野県	見ミ様や見ミ眞マ似
3093	35	長野県	満昌寺
3094	35	長野県	見るは目の毒、歯の薬
3095	35	長野県	見るは道楽、聞くは法楽
3096	35	長野県	虫が好む蜂はさかさかに巣を造る
3097	35	長野県	眼の上のこぶ
3098	35	長野県	柳の下に泥輪ドチヨウ
3099	35	長野県	山師は山で果てる
3100	35	長野県	焼石に水
3101	35	長野県	焼つりは火におちける
3102	35	長野県	人百長
3103	35	長野県	藁に馬糞
3104	35	長野県	無藝大食
3105	35	長野県	山は山ほど
3106	35	長野県	山師の玄關
3107	35	長野県	癪せても拾れても武士は武士
3108	35	長野県	癪やまに睡ハ足アン
3109	35	長野県	行かけの駄賃
3110	35	長野県	湯の碎儀は水
3111	35	長野県	湯飯も一ツ時トキ
3112	35	長野県	夢は朝に判じろ
3113	35	長野県	夢を御し
3114	35	長野県	弱り目に強り目
3115	35	長野県	寄らず頼らず
3116	35	長野県	よしの■から天井のづく
3117	35	長野県	横槍を入れる
3118	35	長野県	律義者の子澤山
3119	35	長野県	癪せても拾れても武士は武士
3120	35	長野県	雷雨の時に木の下の下に休むな
3121	35	長野県	龍洞院の和尚
3122	35	長野県	笑ふ門には福来る
3123	35	長野県	渡りに船
3124	35	長野県	われ鍋にとち蓋
3125	35	長野県	六十の手習い
3126	35	長野県	突つて暮らして一生、泣いて暮らして一生
3127	35	長野県	居るとこくばむ
3128	35	長野県	世の中は縁の様にせまい
3129	35	長野県	土用布ヌノコに寒帷子
3130	35	長野県	農作物は土用に根株に土を寄せ、寒には取去るがよい
3131	35	長野県	寒あればあり
3132	35	長野県	担して得とれ
3133	35	長野県	下手の鉄砲も数撃ちや当たる
3134	35	長野県	あわてる者の半足生
3135	35	長野県	宰主の好きを客にふるまう
3136	35	長野県	彼岸過ぎての妾肥やし
3137	35	長野県	牛のシリガイと親のいうことは、はずれそうではずれん
3138	35	長野県	急がば回れ
3139	35	長野県	四〇歳の手習い
3140	35	長野県	早起きは三文の得
3141	35	長野県	親の意見となすの花は、千に一つの無駄がない
3142	35	長野県	年寄りのいうこととなすの花は、千に一つの無駄がない
3143	35	長野県	輪より証
3144	35	長野県	愚には勝つてみる人には添ってみる
3145	35	長野県	早うが勝ち
3146	35	長野県	早い者が勝ち
3147	35	長野県	嫁は手を見てもらえ
3148	35	長野県	嫁をもらうには親を見てもらえ
3149	35	長野県	石の上にも三年
3150	35	長野県	かかの悪しは五〇年の不作
3151	35	長野県	器用貧乏人定
3152	35	長野県	朝露りかん(早)のもと
3153	35	長野県	雨降って地固まる
3154	35	長野県	秋かん(早)の米とらず
3155	35	長野県	秋番と味噌
3156	35	長野県	一尺藤、一尺藤は荒れ
3157	35	長野県	一桑二種三飼育
3158	35	長野県	氏より育ち
3159	35	長野県	うりのつるにはなすびはならぬ
3160	35	長野県	馬も牛も信へ着くは一箱
3161	35	長野県	お玉もしは耳かきにならず
3162	35	長野県	親を見て子をもらえ
3163	35	長野県	寒雨三粒降れば水不足なし
3164	35	長野県	かめの甲くりに年の功

No	作業No	都道府県	ことわざ
3165	36	長野県	さるかぶるの背が低くなる
3166	36	長野県	細工はりゅうりゅう仕上げをごろうじろ
3167	36	長野県	酒飲み本性変わらず
3168	36	長野県	三尺流れりや清まる
3169	36	長野県	さわらぬ神にたたりなし
3170	36	長野県	仕事に習う
3171	36	長野県	好きこそ物の上手
3172	36	長野県	善は急い
3173	36	長野県	損して得とれ
3174	36	長野県	清濁合わせ飲む
3175	36	長野県	田植えは中(夏至)まで
3176	36	長野県	大は小を兼ねる
3177	36	長野県	火をたら火事と思え
3178	36	長野県	百日のかん(旱)より三日の降り
3179	36	長野県	武士は食わねど高ようじ
3180	36	長野県	冬山へ行くにはお空を見るな
3181	36	長野県	盆暮れに医者払いなきは最高の幸
3182	36	長野県	坊主憎けりやけさまで憎い
3183	36	長野県	まかぬ種は生えぬ
3184	36	長野県	曲がりに来てがある
3185	36	長野県	回る水車は凍らない
3186	36	長野県	飯粒でたい
3187	36	長野県	柳の下のどじょう
3188	36	長野県	焼き味噌すれば桶の神が逃げ出す
3189	36	長野県	夕立は雨の背を分ける
3190	36	長野県	嫁はしゅうとに似る
3191	36	長野県	夜道に日暮れなし
3192	36	長野県	顔をもつて集まる
3193	36	長野県	頼みなき身の神もつで
3194	36	長野県	苦しいときの神頼み
3195	36	長野県	つめ(爪)につめ(爪)なく、うり(瓜)につめ(爪)あり
3196	36	長野県	隣の貧乏つる(鶴)の味
3197	36	長野県	どろなわ
3198	36	長野県	遠い親戚より近い他人
3199	36	長野県	灯台下暗し
3200	36	長野県	毒食や皿まで
3201	36	長野県	所食は品変わる
3202	36	長野県	なくて七くせ
3203	36	長野県	苗間(苗代)半作
3204	36	長野県	泣く口には入るが、笑う口には入らぬ
3205	36	長野県	逃がした魚は大きい
3206	36	長野県	八月の風のそぼ迷惑
3207	36	長野県	八十夜の別れ霜
3208	36	長野県	人のうわさも七五日
3209	36	長野県	火のない所に煙は立たぬ
3210	36	長野県	人の痛いは三年でもこらえる
3211	36	長野県	無理が通れば道理も引込む
3212	36	長野県	寒あれば苦あり
3213	36	長野県	善は寒の種
3214	36	長野県	長いあたま(後)は悪い
3215	36	長野県	冷酒と親の意見は後ででき
3216	36	長野県	年寄りの意見と冷酒は後ででき
3217	36	長野県	断んでもたまたあ起きない
3218	36	長野県	暑さも寒さも彼岸まで
3219	36	長野県	かばらけは年を感ずな
3220	36	長野県	百聞は一見にしかず
3221	36	長野県	地獄の沙汰も金次第
3222	36	長野県	困るときの神頼み
3223	36	長野県	ないが意見の総じまい
3224	36	長野県	親のときは子は子
3225	36	長野県	へとは子元から
3226	36	長野県	十三夜に曇りなし
3227	36	長野県	十日夜の飛
3228	36	長野県	○○三八つさつと常輪の鐘は、あてにしやすなうそをつく
3229	36	長野県	彼岸石塔がくし
3230	36	長野県	暑さも寒さも彼岸まで
3231	36	長野県	春も夏も彼岸まで
3232	36	長野県	五七の雨に九は病
3233	36	長野県	からすがとんびを産んだ
3234	36	長野県	嫁のしゅうとになる早さよ
3235	36	長野県	待てば海路のひより
3236	36	長野県	待つてはたい
3237	36	長野県	来腹もす
3238	36	長野県	黙りへ(尻)は臭い
3239	36	長野県	古川は水絶たず
3240	36	長野県	しりの穴の小さいやつは気も小さい
3241	36	長野県	似た者夫婦
3242	36	長野県	壁にあり隣りに目あり
3243	36	長野県	秘切るは梅切らぬはか
3244	36	長野県	三人告れば文殊の知恵
3245	36	長野県	正直の頭に神宿る
3246	36	長野県	出物はれ物所構わず
3247	36	長野県	後梅先にたして後から見れば、つえをついたり転んだり
3248	36	長野県	嫁と三年かき八年
3249	36	長野県	女房は家の大黒柱
3250	36	長野県	一を聞いて十を知る
3251	36	長野県	三つ子の魂百までも
3252	36	長野県	七転び八起き
3253	36	長野県	良薬は口に苦し
3254	36	長野県	えてはを上げる
3255	36	長野県	夫婦げんかと北風は日暮れにややむ
3256	36	長野県	秋の夕焼けかま(鎌)をとげ
3257	36	長野県	覆る子はまめだ
3258	36	長野県	きしが鳴くと地震が起くる
3259	36	長野県	捨てる神あれば拾う神あり
3260	36	長野県	夜更しの朝ねぼう
3261	36	長野県	よいばれの朝ねぼう
3262	36	長野県	死んでから石灯籠に布団をかけてもしょうがない
3263	36	長野県	踏み板に落ちた御飯粒でも拾って食べる
3264	36	長野県	こぬか三合あったら糞子に作りな
3265	36	長野県	人の口には戸は立たぬ
3266	36	長野県	出るくいは打たれる
3267	36	長野県	出るくきは打たれる
3268	36	長野県	食わずきらい
3269	36	長野県	夜口笛を吹くと泥棒が来る
3270	36	長野県	親子の仲でも金は他人
3271	36	長野県	きしも鳴かずば撃たれまいに
3272	36	長野県	きたなな種いできれいに使え
3273	36	長野県	ある戸からもれる
3274	36	長野県	己のぼんのぼは見えぬ
3275	36	長野県	自慢高慢ばかの親方
3276	36	長野県	しりといわねども口といわれるな
3277	36	長野県	夫婦げんかかは大も食わぬ
3278	36	長野県	はおがかりしても前後はあく
3279	36	長野県	待たれるとも待つ身になるな
3280	36	長野県	物種盗んでも人種盗むな
3281	36	長野県	結い物物はカンダラ
3282	36	長野県	夕立やどうせぬれるにとぶなやい
3283	36	長野県	てんから銅匠にはなれぬ
3284	36	長野県	とらたぬきの夜露用
3285	36	長野県	鳥食つてもドリ食うな
3286	36	長野県	なりににてへそを巻け
3287	36	長野県	習より慣れる
3288	36	長野県	七日の説法へつ
3289	36	長野県	薬種絶やすな公事するな
3290	36	長野県	寝てろ手を起こす
3291	36	長野県	ねを迫より皿を引け
3292	36	長野県	人のふり見てわがふり直せ
3293	36	長野県	人増しや水増す
3294	36	長野県	ひいきの引き倒し
3295	36	長野県	彼岸過ぎでの妻の肥と子の意見
3296	36	長野県	四年〇で田が五〇〇俵になり
3297	36	長野県	御飯食べてすぐ寝ると牛になる
3298	36	長野県	一本はして物を食べると片親が死ぬ
3299	36	長野県	左手できゅうすを法くと不幸になる
3300	36	長野県	妹を借りたら姉で返せ
3301	36	長野県	にん(人)を見て法を説け

No	作業No	都道府県	ことわざ
3303	36	長野県	やせ手におぶすな
3304	36	長野県	仏の顔二度
3305	36	長野県	内腹にきゅうの跡のない物と旅をするな
3306	36	長野県	親が死んでも食休み
3307	36	長野県	月の七日に旅立ちするな
3308	36	長野県	金神様のいる方角に普請するな
3309	36	長野県	乾いぬい土蔵、井戸は炭たつみ
3310	36	長野県	鬼門に便所はよくない
3311	36	長野県	泥棒にも三分の
3312	36	長野県	欲かきやくそかく
3313	36	長野県	悪銭身につかず
3314	36	長野県	つらきもこえよ、辛抱は金
3315	36	長野県	土見で進め下みて暮らせ
3316	36	長野県	軟なすは嫁に食わすな
3317	36	長野県	かわい子には旅をさせ
3318	36	長野県	子に教えられて浅瀬を渡る
3319	36	長野県	人の荷は軽く見える
3320	36	長野県	婿は座敷から嫁は庭からもらえ
3321	36	長野県	腹も身の内
3322	36	長野県	かか女に反り男
3323	36	長野県	朱に交われば赤くなる
3324	36	長野県	人をのろわば穴二つ
3325	36	長野県	秋葉様でも火がつきや燃える
3326	36	長野県	弘法にも筆の誤り
3327	36	長野県	能なしの大敵くらしい
3328	36	長野県	ばか見ても親を見る
3329	36	長野県	ノベの節供備き
3330	36	長野県	能なしの節供備き
3331	36	長野県	ズクナシの節供おし
3332	36	長野県	ノッコの日身たおし
3333	36	長野県	ばかにつける薬はない
3334	36	長野県	猿も木を食ふ
3335	36	長野県	倉売って日当たりのよきたんぼかな
3336	36	長野県	骨折り損のくたびれもうけ
3337	36	長野県	あわてるこじきはもうけが少ない
3338	36	長野県	あわてる半人足
3339	36	長野県	一文借りの百知らず
3340	36	長野県	入る減る知らず
3341	36	長野県	医者の不養生
3342	36	長野県	うどの大木
3343	36	長野県	うなぎに油ぞうきん
3344	36	長野県	開目八目
3345	36	長野県	借りたきこえびす顔、返すときのえんま顔
3346	36	長野県	長じの目せ銭
3347	36	長野県	こじきの足湯
3348	36	長野県	こみだめにつる(鶴)
3349	36	長野県	はきだめにつる(鶴)
3350	36	長野県	こんや(紺屋)の白ばかま
3351	36	長野県	こまめの歯ざしり
3352	36	長野県	宝の持ちさし
3353	36	長野県	下手の横好き
3354	36	長野県	下手の鉄砲も数撃ちや当たる
3355	36	長野県	便器は洗っても食器にはならぬ
3356	36	長野県	こう岸の火事
3357	36	長野県	めん鳥ついでおん鳥時を作る
3358	36	長野県	飯はメンバで仕事は半端
3359	36	長野県	門徒物知らず
3360	36	長野県	論語読みの論語知らず
3361	36	長野県	つめで拾ってみ(糞)でこぼす
3362	36	長野県	つめで火をたく
3363	36	長野県	つめで火をたく
3364	36	長野県	幸主の好きを客にふるまう
3365	36	長野県	鉄棒削って針作る
3366	36	長野県	とんでくようなオツクバイ
3367	36	長野県	トーネの無駄歩き
3368	36	長野県	隣のこぼして法事をする
3369	36	長野県	隣で身焼くや腹がたつ
3370	36	長野県	人のせんきを頭痛に病む
3371	36	長野県	人のふんどしで相撲
3372	36	長野県	総領のじんろく
3373	36	長野県	針小棒大
3374	36	長野県	口八手八丁
3375	36	長野県	こんや(紺屋)のあさって
3376	36	長野県	転んだ後のシッパサミ
3377	36	長野県	桑千貫働いたらず
3378	36	長野県	甲州へいに牛のくそ
3379	36	長野県	貧乏人の子次山
3380	36	長野県	ネツキアイは大のくそのおいがする
3381	36	長野県	シワツボのかきの種
3382	36	長野県	女郎買いの切れわらじ
3383	36	長野県	木で鼻をこする
3384	36	長野県	にくまれこ世にはばかる
3385	36	長野県	針の穴から天上のぞく
3386	36	長野県	頭隠して尻隠さず
3387	36	長野県	井の中のみる大海を知らず
3388	36	長野県	勘定合って銭足らず
3389	36	長野県	痛くない腹をさぐる
3390	36	長野県	三〇後家は立たぬ
3391	36	長野県	いとこはこは道端の犬のくそ
3392	36	長野県	極く高い山は貧乏なし
3393	36	長野県	三日ばす
3394	36	長野県	ぬかこくぎ
3395	36	長野県	豆腐にかすがい
3396	36	長野県	月とすっぱん
3397	36	長野県	しやかに説法
3398	36	長野県	犬も歩けば棒に当たる
3399	36	長野県	身から出た錆
3400	36	長野県	ちようちんとすり鐘
3401	36	長野県	針と棒ほどの違い
3402	36	長野県	斜にかばった餅
3403	36	長野県	やぶへび
3404	36	長野県	馬の耳に念仏
3405	36	長野県	夏下を上
3406	36	長野県	木に竹を縫いだよう
3407	36	長野県	きつねに馬を乗せたよう
3408	36	長野県	馬にきつねを乗せるな
3409	36	長野県	油紙に火がついたよう
3410	36	長野県	朝雨と女の腕まくり
3411	36	長野県	赤子の手ねじれるよう
3412	36	長野県	朝ふ夜ぬ
3413	36	長野県	空き家のエベス
3414	36	長野県	糸の切れたたこ
3415	36	長野県	一寸先はやみ
3416	36	長野県	いり豆に花
3417	36	長野県	内えんまの外地蔵
3418	36	長野県	海千山千
3419	36	長野県	絵にかいた餅
3420	36	長野県	帯に短たすきに長し
3421	36	長野県	かつおぶしを猫に預けるよう
3422	36	長野県	借りてきた猫
3423	36	長野県	猫の目のたつ
3424	36	長野県	昼きつねを追い出したよう
3425	36	長野県	枯れ木も山のにぎわい
3426	36	長野県	かえるの子はかえる
3427	36	長野県	火薬箱背負って火葬場へ
3428	36	長野県	あじきに赤痢
3429	36	長野県	このがりかんに反りかま(鎌)
3430	36	長野県	こもりも鳥の忍従
3431	36	長野県	こじきが馬をもちたつよう
3432	36	長野県	座頭頭のようならむすび
3433	36	長野県	飛んで穴に入る夏の虫
3434	36	長野県	座頭でかぶる
3435	36	長野県	砂礫の木上ってみつめるよう
3436	36	長野県	さんしょうは小粒でもひりりと辛い
3437	36	長野県	すなかつた替わりにひきくると
3438	36	長野県	から念仏
3439	36	長野県	

No	作業No	都道府県	ことわざ
3440	36	長野県	じば(言葉)一
3441	36	長野県	連もかかるような口
3442	36	長野県	盆ごさ
3443	36	長野県	ぼうずのちよんまげ結ったことがない
3444	36	長野県	豆がらに火がついたよう
3445	36	長野県	目のものたんこぶ
3446	36	長野県	ゆう(蒲桶)のよう
3447	36	長野県	鉄砲玉のお使い
3448	36	長野県	烏なき里のこうもり
3449	36	長野県	とち(桶)のような目
3450	36	長野県	どんぐりの背比べ
3451	36	長野県	泣く子と地頭
3452	36	長野県	ぬれ手にあわ
3453	36	長野県	のれんに腕押し
3454	36	長野県	日陰の豆も時期くりやへせる
3455	36	長野県	墨と雪
3456	36	長野県	弓と鉄砲ほどの違い
3457	36	長野県	人面獣心
3458	36	長野県	弱り目にたたり目
3459	36	長野県	つち、土がないわ
3460	36	長野県	地獄で仏
3461	36	長野県	かえるのつらに水
3462	36	長野県	かえるのつらにしよんべん
3463	36	長野県	大が里を見るようだ
3464	36	長野県	阿い、手をかきされる
3465	36	長野県	懐石橋をたたい渡る
3466	36	長野県	本木に勝るうら木なし
3467	36	長野県	からすの行水
3468	36	長野県	割れなべにとじぶた
3469	36	長野県	牛のしんがいと親のいうことは、はずれそうではずれん
3470	36	長野県	伊豆木椀の油つばのよなもの
3471	36	長野県	小門と鉄は使いよう
3472	36	長野県	門前の小僧習わぬ経を説く
3473	36	長野県	ねずみとる猫はつめを隠す
3474	36	長野県	懐後のからすは先になる
3475	36	長野県	他人の飯には背がある
3476	36	長野県	お前さん、弟子との違い
3477	36	長野県	ちりも積もれば山となる
3478	36	長野県	ゼリクラに石が転がり込むようだ
3479	36	長野県	豆の花と親の意見は、千に一つの無駄もない
3480	37	長野県	親の意見となすびの花は、千に一つの無駄もない
3481	37	長野県	親の意見となすびの花は、百に一つの無駄もない
3482	37	長野県	シロクハ(お粥)と山勝のあたたことはいない
3483	37	長野県	味噌汁と秋葉はあたたかことがない
3484	37	長野県	暮さ寒さも彼岸まで
3485	37	長野県	秋なすは線に食わずな
3486	37	長野県	苗半作
3487	37	長野県	馬には乗ってみる、人にはそってみる
3488	37	長野県	流れ星(ほうき星)が飛ぶとよくないことがおきる
3489	37	長野県	からす鳴きが悪いとだれか死ぬ
3490	37	長野県	わらじを片方だけ作ったままにしておいたとき、人が死んだ話を聞いたらわらじは捨てる
3491	37	長野県	朝起きは三文の徳
3492	37	長野県	早起きは三文の徳
3493	37	長野県	初物をはたせば五日長生き
3494	37	長野県	桃くり二年かき八年
3495	37	長野県	似た者夫婦
3496	37	長野県	知らぬが仏
3497	37	長野県	石橋をたたい渡る
3498	37	長野県	亀の甲より年の巻
3499	37	長野県	長いものは巻かれる
3500	37	長野県	兄弟は他人のはじめ
3501	37	長野県	遠くの親類より近くの他人
3502	37	長野県	ものはためし
3503	37	長野県	稼ぐに追いつく貧乏なし
3504	37	長野県	朝にしないたら川越えるな
3505	37	長野県	朝風吹いたら丘にのぼれ
3506	37	長野県	苦あれば楽あり
3507	37	長野県	細工はりゅうりゅう、仕上げをごろじろ
3508	37	長野県	火のない所に煙は立たない
3509	37	長野県	正直の頭に神宿る
3510	37	長野県	酒は百薬の長
3511	37	長野県	二つの乗るまでも
3512	37	長野県	地獄の沙汰も金次第
3513	37	長野県	律義者の子だくさん
3514	37	長野県	男は度胸、女はあいさよう
3515	37	長野県	地震、雷、火事、おやじ
3516	37	長野県	一善は万善
3517	37	長野県	短気は損気
3518	37	長野県	聞くは一時の恥、聞かぬは孫末代の恥
3519	37	長野県	聞くは一時の恥、聞かぬは孫末代の恥
3520	37	長野県	ふくろうが鳴けば物価が上がる
3521	37	長野県	子はかすがい
3522	37	長野県	もらふものなら夏に小袖そで
3523	37	長野県	秋の夕焼け、かまをどけ
3524	37	長野県	大しみ三日なし
3525	37	長野県	大雪のあしたは裸子の洗濯
3526	37	長野県	秋北春南
3527	37	長野県	寒風は針伏おろしと針尾風
3528	37	長野県	芸身を助ける
3529	37	長野県	おぼしめしより米の飯
3530	37	長野県	すきつ腹にまぜいものなし
3531	37	長野県	腹八分
3532	37	長野県	一人のわさも七五日
3533	37	長野県	一にノートク(手入れ)、二にこやし
3534	37	長野県	腹も身の内
3535	37	長野県	病は氣から
3536	37	長野県	負けるが勝ち
3537	37	長野県	泣く子は背つ
3538	37	長野県	冷や酒と親の意見はあとででき
3539	37	長野県	背に腹はかえられぬ
3540	37	長野県	かわい子には旅をさせる
3541	37	長野県	さわらぬ神にたたりなし
3542	37	長野県	降れついたち、照れ三日
3543	37	長野県	巳年の男に卯辰の女
3544	37	長野県	夜つめを切れは親の死に目にあえない
3545	37	長野県	こめか三合あつたら頼に行くな
3546	37	長野県	人の口は見ておろし直せ
3547	37	長野県	人を見たらどろぼうと思え
3548	37	長野県	ちようちんと釣り鱸たあと、あわてないこと
3549	37	長野県	寝ころんで飯を食べると牛になる
3550	37	長野県	寝ながら物を食うと角が生える
3551	37	長野県	食後すぐ寝ると牛になる
3552	37	長野県	みみで小便すると目がつぶれる
3553	37	長野県	晩につめを切るとときがよいになる
3554	37	長野県	火欄に四つ足のものをのせるな
3555	37	長野県	口はわざわいの門
3556	37	長野県	せいてはことを仕損ずる
3557	37	長野県	来年のことをいうと鬼が笑う
3558	37	長野県	人の口は見たたぬ
3559	37	長野県	孝行したいころに親はなし
3560	37	長野県	身から出たさび
3561	37	長野県	だも恩で返せ、恩をあだで返すな
3562	37	長野県	庭もありの一穴より崩れる
3563	37	長野県	罪を憎んで人を憎まず
3564	37	長野県	朝の口はやつかりと、しうとのつこりはあてにならない
3565	37	長野県	急がば回れ
3566	37	長野県	仏の顔も三度
3567	37	長野県	仏の顔も二度、三度
3568	37	長野県	しよった子に教えられ
3569	37	長野県	祈るより稼げ
3570	37	長野県	親が死んでも食休み
3571	37	長野県	左膳は死人の膳
3572	37	長野県	ねえようであるのが借金
3573	37	長野県	人をのろわば穴二つ
3574	37	長野県	とらぬたぬきの皮草用
3575	37	長野県	こぼした飯を拾わないと目が石になる
3576	37	長野県	子供がさるをかぶると大きくなる

No	作業No	都道府県	ことわざ
3577	37	長野県	ほうきで人をこく(たたく)と小便だめに落ちる
3578	37	長野県	大欲は強欲に等し
3579	37	長野県	命あつての物種
3580	37	長野県	長者三代銭かず
3581	37	長野県	人の仕事は楽にみえる
3582	37	長野県	半種盗んでも人種盗むな
3583	37	長野県	よその村へ行つたら、道端の石にも頭を下げて歩け
3584	37	長野県	数珠をまたげば八人の敵がいると思え
3585	37	長野県	能なしの節供働き
3586	37	長野県	すくなしの節供働き
3587	37	長野県	幅作りの米どらす
3588	37	長野県	こうや(紺屋)のあさって
3589	37	長野県	まかぬ種はほえぬ
3590	37	長野県	口も八丁手も八丁
3591	37	長野県	安物買ひの銭失い
3592	37	長野県	下手の横好き
3593	37	長野県	ぬかにくぎ
3594	37	長野県	死人に口なし
3595	37	長野県	ばかにつける薬はない
3596	37	長野県	うごの犬
3597	37	長野県	やせの大食い
3598	37	長野県	懐デッカ能なし
3599	37	長野県	憎まれっ子世にはばかる
3600	37	長野県	階から目薬
3601	37	長野県	大木の水
3602	37	長野県	あわてるとみは穴にも入れぬ
3603	37	長野県	つめで拾つてみてこぼす
3604	37	長野県	泥棒を見て縄をなう
3605	37	長野県	とらの威をさるきつて
3606	37	長野県	居候三杯はそつと出し
3607	37	長野県	小町
3608	37	長野県	月とすっぽん
3609	37	長野県	天気からかきアンボンタン
3610	37	長野県	ばかの大まくらい
3611	37	長野県	ばかの大めし
3612	37	長野県	桜切るばか、梅切らぬばか
3613	37	長野県	芝刈りもらじら
3614	37	長野県	下戸蔵を建てず
3615	37	長野県	仏作って魂入るぞ
3616	37	長野県	よいばれの朝寝こき
3617	37	長野県	お姫様のオノコを灯しんて突つてくやなり方
3618	37	長野県	風呂桶にコソボ(ごぼう)のようなものだ
3619	37	長野県	よらばら
3620	37	長野県	二度めの三酔
3621	37	長野県	見たようならそをいう
3622	37	長野県	ぬすつとに追銭
3623	37	長野県	はとに豆鉄砲
3624	37	長野県	親はばか
3625	37	長野県	一文おしみの百たらず
3626	37	長野県	つまつた石に頭を下げる
3627	37	長野県	本皮で鼻をかんだよう
3628	37	長野県	百の説法へつと
3629	37	長野県	人のごぼつて法事する
3630	37	長野県	おかめはちもく
3631	37	長野県	かっぱの山流れ
3632	37	長野県	猿も木から落ちる
3633	37	長野県	憎い嫁でもこなされりや、いい気はしない
3634	37	長野県	馬の耳に念仏
3635	37	長野県	ゲロー(かえる)のつらに小便
3636	37	長野県	かえるのつらに小便
3637	37	長野県	かえるのつらへ水
3638	37	長野県	かえるのしやつらに水
3639	37	長野県	川原田地もつり大まらもて
3640	37	長野県	弱り目にたたり目
3641	37	長野県	七転び八起き
3642	37	長野県	つんばねの耳
3643	37	長野県	帯に短し、たすきに長し
3644	37	長野県	馬の耳に念仏
3645	37	長野県	鬼の目にも涙
3646	37	長野県	勘定合つて銭足らず
3647	37	長野県	六〇の手習い
3648	37	長野県	ないぞで掘ればぬ
3649	37	長野県	鬼も十人、番衆も手花
3650	37	長野県	坊主憎けりや、袂に袋まで憎い
3651	37	長野県	孫をかうより犬を飼え
3652	37	長野県	小人の大まら
3653	37	長野県	棚からばたもち
3654	37	長野県	鬼に金棒
3655	37	長野県	花より子
3656	37	長野県	慎よしのすえ(鮎)から天井のぞく
3657	37	長野県	わざわいも三年たれば役に立つ
3658	37	長野県	鶏さやう鼠そかえて猫をかむ
3659	37	長野県	空母にぶっつけなし
3660	37	長野県	泣く子と地頭には勝てぬ
3661	37	長野県	長者のしや
3662	37	長野県	やぶをついて蛇を出す
3663	37	長野県	道福はあさなえる縄のごとし
3664	37	長野県	牛に引かれて善光寺参り
3665	37	長野県	弘法にも筆の誤り
3666	37	長野県	金は天下のまわりもの
3667	37	長野県	器用鎧
3668	37	長野県	女心に秋の空
3669	37	長野県	紺屋の白ぼかま
3670	37	長野県	上手の手から水がもれる
3671	37	長野県	いり子に花
3672	37	長野県	そでから手を出すもやだ
3673	37	長野県	木に竹
3674	37	長野県	竹を割つたよう
3675	37	長野県	犬も歩けば棒に当たる
3676	37	長野県	朝雨と女の顔まくり
3677	37	長野県	縁の下の夜明け
3678	37	長野県	夜道にや日が暮れぬえ
3679	37	長野県	人のふんしでずもをとる
3680	37	長野県	えびでたいを釣る
3681	37	長野県	出るくいは打たれる
3682	37	長野県	目くそ鼻くそを笑う
3683	37	長野県	こまめの歯ざり
3684	37	長野県	すずめの眼ほど
3685	37	長野県	からかさ鐘の小僧のようだ
3686	37	長野県	のみの夫婦のようだ
3687	37	長野県	川向こうの火事
3688	37	長野県	マチダ(まちがい)とキチダ(きちがい)ほどの
3689	37	長野県	遠いだ
3690	37	長野県	子供は風の子
3691	37	長野県	寝耳に水
3692	37	長野県	油に水
3693	37	長野県	とんびに油揚げ
3694	37	長野県	泣きつらにはち
3695	37	長野県	おぼれば抱かれ
3696	37	長野県	うばれば抱かれ
3697	37	長野県	病み足にはれ足
3698	37	長野県	重荷にふ付け
3699	37	長野県	山に登つた舟のよう
3700	37	長野県	転んだあとをふりかえるよう
3701	37	長野県	うりのつるになすびはならない
3702	37	長野県	人の飯にはんがある
3703	37	長野県	他人の飯には背がある
3704	37	長野県	しわんぼう、かきの種
3705	37	長野県	天から細引が下ってきた
3706	37	長野県	青山に火がついた
3707	37	長野県	ぬかにくぎ
3708	37	長野県	豆腐にしがいい
3709	37	長野県	いすかのほしの食いちがい
3710	37	長野県	親の意見となすの花
3711	37	長野県	はちの巣に石を投げる
3712	52	茨城県	エテコーはコーシャ(キョーシャ) 早起き正直で働けば貧乏神は追いつかない

No	作業No	都道府県	ことわざ
3713	52	茨城県	天下の善肴焼餅どころ米ないとてソバで焼く
3714	52	茨城県	ものぐさ者の節供働き
3715	52	茨城県	朝起きは三文の得
3716	52	茨城県	家柄は芋がかりより劣る
3717	52	茨城県	隣の音が建つと腹が立つ
3718	52	茨城県	うそは泥棒の始まり
3719	52	茨城県	朝顔は朝の目
3720	52	茨城県	大ハブ風にも四つ日照り
3721	52	茨城県	日照りに餓死なし
3722	52	茨城県	朝顔泣けば川越すな
3723	52	茨城県	自分の家の米の飯より隣の麦飯
3724	53	茨城県	開いた口にはぼた餅
3725	53	茨城県	秋茄子は餅に食わずな
3726	53	茨城県	悪態身に付かず
3727	53	茨城県	朝雨と女の腕まくり
3728	53	茨城県	朝起きは三文の徳
3729	53	茨城県	足下の明るさ
3730	53	茨城県	頭隠して尻隠さず
3731	53	茨城県	書き集まると彼岸まで
3732	53	茨城県	後の祭り
3733	53	茨城県	虻蜂取らず
3734	53	茨城県	あわてる乞食は貰いが少ない
3735	53	茨城県	食するより生むが易い
3736	53	茨城県	家の身上は妻でもつ
3737	53	茨城県	家の前の赤井塵
3738	53	茨城県	急がば遅れ
3739	53	茨城県	痛くもない腹を探られる
3740	53	茨城県	一年の計は元旦にあり
3741	53	茨城県	一寸の虫にも五分の魂
3742	53	茨城県	一文呑みの百知らず
3743	53	茨城県	犬も吠けは種にあたる
3744	53	茨城県	井の中の蛙大海を知らず
3745	53	茨城県	隠居育ちは三文安い
3746	53	茨城県	うそをつくと鬼に舌をぬかれる
3747	53	茨城県	うどの大木
3748	53	茨城県	鶴の真似をする鳥、水に溺れる
3749	53	茨城県	馬の目念仏
3750	53	茨城県	瓜のつるに茄子びはならぬ
3751	53	茨城県	売り言葉に買い言葉
3752	53	茨城県	うさすれば影
3753	53	茨城県	運は天にあり、ぼた餅は棚にあり
3754	53	茨城県	海老で鯛をつる
3755	53	茨城県	縁の下の力持ち
3756	53	茨城県	縁は異なもの味なもの
3757	53	茨城県	おだてともここにはのるな
3758	53	茨城県	小田原評定
3759	53	茨城県	落ち武者は芒の穂に怯む
3760	53	茨城県	鬼もめに蛆がわく
3761	53	茨城県	鬼のかくらん
3762	53	茨城県	鬼のかくらん
3763	53	茨城県	お前までわしゃ九十九まで
3764	53	茨城県	親の意見と茄子びの花は、千に一つの無駄もない
3765	53	茨城県	親の心子知らず
3766	53	茨城県	鯛に大に手を噛まれる
3767	53	茨城県	蛙の子は蛙
3768	53	茨城県	蛙の子は蛙
3769	53	茨城県	かこの中の鳥
3770	53	茨城県	稼ぐに追い付く貧乏なし
3771	53	茨城県	鬼の前の燈
3772	53	茨城県	河重の川流れ
3773	53	茨城県	金持ちくはくはく、溜る程きたい
3774	53	茨城県	壁に耳あり障子に目あり
3775	53	茨城県	噛みつく馬は死ぬまで噛みつく
3776	53	茨城県	鬼の甲より年の功
3777	53	茨城県	神は正直の頭に宿る
3778	53	茨城県	鳥のつるに手が届く
3779	53	茨城県	鳥のつる
3780	53	茨城県	聞いて極楽見て地獄
3781	53	茨城県	聞くは一時の恥、知らざるは一生の恥
3782	53	茨城県	北枕に寝ると死人と同じ
3783	53	茨城県	糞虫の我が身知らず
3784	53	茨城県	口は輪のもの
3785	53	茨城県	苦は焼のね葉は苦のたね
3786	53	茨城県	芸は身を助く
3787	53	茨城県	うらの産てた蔵はない
3788	53	茨城県	喧嘩過ぎての棒ちぎり
3789	53	茨城県	郷に入れば郷に従え
3790	53	茨城県	弘法にも筆の誤り
3791	53	茨城県	こけは葉がでかきない
3792	53	茨城県	小膳三合あつたら婿に行くな
3793	53	茨城県	子は三罪の首枷
3794	53	茨城県	子程に親を思え
3795	53	茨城県	困った時の神だのみ
3796	53	茨城県	転んでは起きぬ
3797	53	茨城県	椀屋の白粉
3798	53	茨城県	桜屋の馬鹿、梅代らぬ馬鹿
3799	53	茨城県	猿も木から落ちる
3800	53	茨城県	猿も木から落ちる
3801	53	茨城県	山椒は小粒でもびりりと辛い
3802	53	茨城県	三度の正直
3803	53	茨城県	死人に口なし
3804	53	茨城県	釈迦に説法
3805	53	茨城県	重箱の隅を楊枝でつつく
3806	53	茨城県	柔よく剛を制す
3807	53	茨城県	主人と親とは無理なる者としれ
3808	53	茨城県	知らず知らず
3809	53	茨城県	好きこそ物の上手なれ
3810	53	茨城県	背には腹は代えられぬ
3811	53	茨城県	梅屋の杖六
3812	53	茨城県	梅屋の杖六
3813	53	茨城県	損して得取れ
3814	53	茨城県	その目暮らし
3815	53	茨城県	蓼食う虫も好きぶずき
3816	53	茨城県	旅には道連れ世は情け
3817	53	茨城県	玉に瑕
3818	53	茨城県	短気は損気
3819	53	茨城県	他人のそら似
3820	53	茨城県	地獄の沙汰も金次第
3821	53	茨城県	地獄・雷・火事・おやじ
3822	53	茨城県	長者の万灯より貧者の一灯
3823	53	茨城県	塵も積もれば山となる
3824	53	茨城県	角を矯めて牛を殺す
3825	53	茨城県	鉄砲玉の使い
3826	53	茨城県	出物には物とこすり嫌わず
3827	53	茨城県	冬釜から米一握りずつがびる
3828	53	茨城県	燈台下暗し
3829	53	茨城県	遠くの親戚より近くの他人
3830	53	茨城県	所かわれば品かわる
3831	53	茨城県	鳥は食ってもとり食うな
3832	53	茨城県	泥棒が来ては儲けなう
3833	53	茨城県	飛んで火に入る夏の虫
3834	53	茨城県	無い袖は振れず
3835	53	茨城県	長いものには巻かれろ
3836	53	茨城県	泣く子も地頭には勝てない
3837	53	茨城県	七ヶ月は探して置いても背つ
3838	53	茨城県	七転び八起き
3839	53	茨城県	生兵法は大怪我のもと
3840	53	茨城県	習うより馴れる
3841	53	茨城県	長居は無用
3842	53	茨城県	逃げればたぬは大きい
3843	53	茨城県	一足ものわらじは履けぬ
3844	53	茨城県	似た者ほど
3845	53	茨城県	二度ある事は三度ある
3846	53	茨城県	二度びっくり
3847	53	茨城県	鎌に釘
3848	53	茨城県	盗人を捕えてみせれば我が子なり
3849	53	茨城県	盗人に追い銭

No	作業No	都道府県	ことわざ
3850	53	茨城県	盗人も三つの理あり
3851	53	茨城県	濡れ手に粟
3852	53	茨城県	猫を殺すと七代祟る
3853	53	茨城県	猫に小判
3854	53	茨城県	狸に水
3855	53	茨城県	念には念を入れよ
3856	53	茨城県	能ある鷹は爪をかくす
3857	53	茨城県	残り物に福がつく
3858	53	茨城県	晴元過ぎれば熱さを忘る
3859	53	茨城県	暖簾に腕押し
3860	53	茨城県	のみの夫婦
3861	53	茨城県	八十八夜の別れ霜
3862	53	茨城県	はっさくみもたず
3863	53	茨城県	花より団子
3864	53	茨城県	馬鹿に付ける薬なし
3865	53	茨城県	馬鹿の大足三ヶの小足
3866	53	茨城県	火を見たら火事と思え
3867	53	茨城県	火むすらすると寝小便
3868	53	茨城県	人を見たら泥棒と思え
3869	53	茨城県	人の種で相撲とる
3870	53	茨城県	丙午の女は夫を食う
3871	53	茨城県	百日の説法屁一つ
3872	53	茨城県	白濁は三ヶの如かず
3873	53	茨城県	ひもいじ時にますいものなし
3874	53	茨城県	貧すれば鈍す
3875	53	茨城県	貧乏暇なし
3876	53	茨城県	夫婦喧嘩は犬も喰わない
3877	53	茨城県	河豚は食いたしし生命は惜しい
3878	53	茨城県	下手な鉄砲
3879	53	茨城県	下手の横好き
3880	53	茨城県	骨折損くたびれ儲け
3881	53	茨城県	ほめるはよしと思え
3882	53	茨城県	棒ほど願って針ほど叫ぶ
3883	54	茨城県	月のかきの中に星があると星の数の日数の間に雨
3884	54	茨城県	よしきり、が深い所に星をつくと洪水
3885	54	茨城県	鍋や釜の煤炭に火がつくと風
3886	54	茨城県	かまとの前は火がついて居ると風
3887	54	茨城県	卯・辰の雨は巳にかゝる(三日づいて降る)
3888	54	茨城県	日和坊さんを桶天の木にするつと雨が降らぬ
3889	54	茨城県	六月八つ風は四つひでり五の雨で九のやまひ
3890	54	茨城県	雷がなつて時を待つと火事になる
3891	54	茨城県	雷の時節分の豆を食ふと落雷しない
3892	54	茨城県	雷の時節香をつけて居ると落雷しない
3893	54	茨城県	雷の時節蚊帳をついて居ると落雷しない
3894	54	茨城県	夕方鶏の鳴き声をまねると火事になる
3895	54	茨城県	塩をすてる土事になる
3896	54	茨城県	縄を朝の日に燃やすと火事になる
3897	54	茨城県	申の日に「こたつ」をかけるると火早い
3898	54	茨城県	辰の日に「こたつ」をかけるると火事が起らない
3899	54	茨城県	乞食に味噌をやるると火事になる
3900	54	茨城県	足の毛をそると(ぬくと)火事の時逃げられない
3901	54	茨城県	夜爪を切るると泥棒が入る
3902	54	茨城県	夜爪を切るると泥棒が来る
3903	54	茨城県	夜寝る時桶をふせておくと盗人に入れない
3904	54	茨城県	泥棒が入った時その足跡に釘を打っておくとつかまる
3905	54	茨城県	歯のかけた夢を見た時下駄の歯をかくと難をまぬかれる
3906	54	茨城県	桶を拾ふた夢は凶
3907	54	茨城県	田圃の夢を見ると人が死ぬ
3908	54	茨城県	母のかけた夢を見ると近親者が死ぬ
3909	54	茨城県	蛇の夢を見ると金もうけがある(然し三人に知らぬ事)
3910	54	茨城県	赤坊が生れた夢を見ると人が死ぬ
3911	54	茨城県	とげぬき地蔵は借金をぬいてくれる
3912	54	茨城県	元日に買物すると年中金が出る
3913	54	茨城県	蛇の日に買物すると金がつまる
3914	54	茨城県	丑の日に爪を切るると金持になる
3915	54	茨城県	正月十六日に財布をぬうると金持になる
3916	54	茨城県	三りんぼうに屋根をふいては悪い
3917	54	茨城県	家を建てる時方角を見る
3918	54	茨城県	寅と巳の日に家を建てるな、旅に出るな
3919	54	茨城県	金神・玉皇・稲穂の方向に工事を忌む
3920	54	茨城県	申の日に裁物すると火早い
3921	54	茨城県	鬼の日に物してはいけない
3922	54	茨城県	辰の日に裁物してはいけない
3923	54	茨城県	寅と巳の日に裁物するな
3924	54	茨城県	元日に洗濯してはわるい
3925	54	茨城県	着物を北向にしてはいけない
3926	54	茨城県	死人の白装束を縫った針で裁物すると上手になる
3927	54	茨城県	出先で針をつかうと恥をかく
3928	54	茨城県	着物を着て居てほころびを縫ふと出先で恥をかく
3929	54	茨城県	物指でたゝかれるるとしやくもちになる
3930	54	茨城県	正月一日、八日、十五日、二十四日は悪い
3931	54	茨城県	寅と八日に物指つな、袖に涙のかわく事なし
3932	54	茨城県	酉の日に裁縫するとよい
3933	54	茨城県	月始に裁縫してはならない
3934	54	茨城県	正月の初酉の日に着物を裁つとその年の着物の運がよい
3935	54	茨城県	いらぬ(正月十五日)をやらずに耕してはならない
3936	54	茨城県	田圃に頭合盆に植えてはいけない
3937	54	茨城県	正月三日は悪い日、二月は午、三月は酉は悪い
3938	54	茨城県	十五日に雨が降ると小麦が取れない
3939	54	茨城県	旧五月六日に田に入つてはならない
3940	54	茨城県	旧四月十日、十一日の何れかには田に入つてはならない
3941	54	茨城県	卯の日に田植するとその米は枕米(死人に供へる)になる
3942	54	茨城県	苗をしばる藁を粗米にするると米が取れぬ
3943	54	茨城県	二月はなつてからナスを植えては悪い
3944	54	茨城県	戌の日に黍蒔はいけない
3945	54	茨城県	卯の日に田植すると不作になる
3946	54	茨城県	三月味噌をたいてはいけない
3947	54	茨城県	卯の日餅をついてはいけない
3948	54	茨城県	丑年生れの子は兄弟をつき殺す
3949	54	茨城県	夜つづ木をやらすと仲たがひになる
3950	54	茨城県	氣つらずに物を反対に使ふとお客様が来る
3951	54	茨城県	朝クモが下ると客が来る
3952	54	茨城県	帯に手拭をかぶせると客が帰る
3953	54	茨城県	客が長い時には帯をかきさに立てる
3954	54	茨城県	夜爪を切るると不吉になる
3955	54	茨城県	帯をからし、鳴らすと親不幸になる
3956	54	茨城県	茶柱が立つるとよい事がある
3957	54	茨城県	頼頼塚まにまるとよい身分になる
3958	54	茨城県	鶏が上りどきをつくと吉
3959	54	茨城県	正月元日に風呂をたてゝは悪い
3960	54	茨城県	正月丑の日に風呂をたてゝは悪い
3961	54	茨城県	二月初午に風呂をたてない
3962	54	茨城県	墓の十三仏の頭を人知れず着物の間に入れてくと
3963	54	茨城県	勝負事に勝つ
3964	54	茨城県	天神様に消毒をあげると上達する
3965	54	茨城県	寅の日に髪を洗つてはいけない
3966	54	茨城県	髪をよそふと七代たゞりがある
3967	54	茨城県	善と善のつまみ合ひは悪い
3968	54	茨城県	釜の上に切物をのせると悪い
3969	54	茨城県	夕方着物を下ると悪い事がある
3970	54	茨城県	花巻が鳴くと悪い事がある
3971	54	茨城県	梅干にかびが生えたと変事がある
3972	54	茨城県	ばけ、とみかた、きん、なると変事がある
3973	54	茨城県	鶏が吉とくれば凶
3974	54	茨城県	からす鳴くと凶
3975	54	茨城県	星屋の上でからすと鳴くと凶
3976	54	茨城県	帯星が出るると戦がある
3977	54	茨城県	赤日の日に旅立しては悪い
3978	54	茨城県	正月六日に山に入つては悪い
3979	54	茨城県	正月六日、夜・日・夜・日の間に風呂を切ると願事がかたない
3980	54	茨城県	墓場で下駄がわれと凶事がある
3981	54	茨城県	木杵正月(正月四日)のすむまで山に入つては悪い
3982	54	茨城県	御飯に朝汁をかけて(或ひは湯)喰べると一日中失敗つづき
3983	54	茨城県	机の上にとるると字間が出来ない
3984	54	茨城県	被ひ事は不成親日にやらない
3985	54	茨城県	後述
3986	54	茨城県	履物を下す時座敷からはいて下りな

No	作業No	都道府県	ことわざ
4253	56	岩手県	医者の養生
4254	56	岩手県	一分頼母子に、二分かける
4255	56	岩手県	一分着物に、五分の帯
4256	56	岩手県	家ん中弁慶
4257	56	岩手県	牛売って荷鞍気張る
4258	56	岩手県	上手の手から水が漏る
4259	56	岩手県	おど半分、真がまじわり
4260	56	岩手県	大木に斬
4261	56	岩手県	沖で助けて、岸で殺す
4262	56	岩手県	落ちこぼれば、検断の持前
4263	56	岩手県	鬼させんべい
4264	56	岩手県	おぶった子を、三年探す
4265	56	岩手県	蛙に食
4266	56	岩手県	栢食った犬が追われず、ザルをなめた犬が打たれる
4267	56	岩手県	河童の川流れ
4268	56	岩手県	かばね病みの節句働き
4269	56	岩手県	かばね病みの夜光り
4270	56	岩手県	金の番人
4271	56	岩手県	木を伐らぬ者の背中あぶり
4272	56	岩手県	銀の煙管に青さん蒼
4273	56	岩手県	暗やみから、べいこ(牛)を引き出す
4274	56	岩手県	くだい坊主は、寺持たず
4275	56	岩手県	を食の酒盛り
4276	56	岩手県	賢い雑魚は陸さ上る
4277	56	岩手県	仕方なくなれば、敵も踊る
4278	56	岩手県	死人に止め
4279	56	岩手県	上戸の飲みかかし
4280	56	岩手県	雀子に針
4281	56	岩手県	干刈田を離して、落穂ツコ拾う
4282	56	岩手県	そっぱに餅
4283	56	岩手県	込座のあさって七十五日
4284	56	岩手県	棚にも置かず、犬にも食わせず
4285	56	岩手県	亭主八杯、客三杯
4286	56	岩手県	薩のものは神粥もうまい
4287	56	岩手県	純と利口は十五里遠う
4288	56	岩手県	啼かない猫はネズミをとる
4289	56	岩手県	嘘から出た孫のこい
4290	56	岩手県	錦旗迄
4291	56	岩手県	日本一なら鼻たらしでもよい
4292	56	岩手県	猫さ小判
4293	56	岩手県	馬鹿のみせひろげ
4294	56	岩手県	溜の小袖に籠の帯
4295	56	岩手県	腹にあてても、目にあぎぬ
4296	56	岩手県	一口物を頬を焼く
4297	56	岩手県	人の病気をわれが病む
4298	56	岩手県	ヘラをかつく
4299	56	岩手県	乾糞を投げて生糞つかむ
4300	56	岩手県	日くそ鼻くそを笑う
4301	56	岩手県	言さ限絶
4302	56	岩手県	目を蛇をつかむ
4303	56	岩手県	餅よか粉が高くなる
4304	56	岩手県	積産座塵
4305	56	岩手県	山師の玄關構
4306	56	岩手県	山師の糞葉よく効いた
4307	56	岩手県	理くつ取手はつけよう
4308	56	岩手県	利口の家持たず
4309	56	岩手県	刃切弁慶
4310	56	岩手県	わが物増えれば、仏もよろこぶ
4311	56	岩手県	赤犬が狐をぼつたくる
4312	56	岩手県	給と甘栗、糰に食う
4313	56	岩手県	磯草に糰
4314	56	岩手県	オシッコ仏にボロ
4315	56	岩手県	粟米を粉にこじく
4316	56	岩手県	油紙へ火
4317	56	岩手県	石で鼻汁をかむ
4318	56	岩手県	石に布団は着せられぬ
4319	56	岩手県	石か糰とる
4320	56	岩手県	牛の角を蚊がさす
4321	56	岩手県	後という鬼に尻尾なし
4322	56	岩手県	馬つ子さ乗って犬に吠えられる
4323	56	岩手県	馬の耳さ三味線
4324	56	岩手県	絵にも版にもくらぬ
4325	56	岩手県	絵に地盤
4326	56	岩手県	大風に風よどみなし
4327	56	岩手県	斧をといて針にする
4328	56	岩手県	大川に香煎
4329	56	岩手県	鬼のから豆を取る
4330	56	岩手県	鬼もかさされ死も川流れ
4331	56	岩手県	女のさししいのと、夜の明るいはは役にたたぬ
4332	56	岩手県	かさ気と自惚れ気のない者はない
4333	56	岩手県	木の葉をかむ
4334	56	岩手県	河童に塩を頼む
4335	56	岩手県	萱の尾花さ団子を刺す
4336	56	岩手県	扇の羽根の白くなるまで
4337	56	岩手県	川越で糰をはしる
4338	56	岩手県	ビッキ(蛙)の面さ小便
4339	56	岩手県	木の実は下さ落ちる
4340	56	岩手県	伐って来すば、燃えない
4341	56	岩手県	霧に入った雁
4342	56	岩手県	食った座頭生きて、着た座頭が死ぬ
4343	56	岩手県	ケケの風が音くくる
4344	56	岩手県	下戸のしぼて食い
4345	56	岩手県	粉箱から出たネズミ
4346	56	岩手県	転んで起きるも旦那のひま
4347	56	岩手県	竿で糰を打つ
4348	56	岩手県	座頭とネズミかぶせる
4349	56	岩手県	座頭の一ido道
4350	56	岩手県	死人に口なし
4351	56	岩手県	借金を質に入れる
4352	56	岩手県	酢壳がはやって、香壳が売れぬ
4353	56	岩手県	千両に糰一盞
4354	56	岩手県	勝のしげから
4355	56	岩手県	煎餅に金糰
4356	56	岩手県	草履作りは草履をはけぬ
4357	56	岩手県	太平の苗代騒ぎ
4358	56	岩手県	鷹にいらまれた雀
4359	56	岩手県	他人の糞(しらみ)はきさない
4360	56	岩手県	小さいもので手をつく
4361	56	岩手県	親の袴は首だけ
4362	56	岩手県	出ない癖に婆アが出る
4363	56	岩手県	寺が曲ってお経が読めぬ
4364	56	岩手県	天から落ちた茶碗かけ
4365	56	岩手県	天神様と乗りかかる
4366	56	岩手県	冬まは半
4367	56	岩手県	流るる川を棒で打つ
4368	56	岩手県	逃がした雑魚は大食い
4369	56	岩手県	鶏も木さ登る
4370	56	岩手県	猫の眼珠
4371	56	岩手県	寝ていて転んだだめしなし
4372	56	岩手県	はいい物要らず
4373	56	岩手県	裸で物を落したためしなし
4374	56	岩手県	鳩に豆
4375	56	岩手県	春日にひさし
4376	56	岩手県	春の雪と年寄りの話
4377	56	岩手県	引越しに二倍
4378	56	岩手県	ビッキ(蛙)は口から蛇に呑まれる
4379	56	岩手県	人の袴に尻を踏み込む
4380	56	岩手県	貧乏者の来年
4381	56	岩手県	貧乏人の気張り
4382	56	岩手県	ひょうたんで糰を打つ
4383	56	岩手県	ヘラで糰を切る
4384	56	岩手県	へんと糰手前から
4385	56	岩手県	孫の浄瑠璃
4386	56	岩手県	股より脛は太い
4387	56	岩手県	豆をこつて取る
4388	56	岩手県	真綿で針を包む
4389	56	岩手県	ミノ笠持たずの空なおし
4390	56	岩手県	耳よりも口から

No	作業No	都道府県	ことわざ
4391	56	岩手県	飯粒でを釣る
4392	56	岩手県	めん棒で腹を切る
4393	56	岩手県	火傷者は火にこりぬ
4394	56	岩手県	やとえば犬も糞食わぬ
4395	56	岩手県	青いものなら虹の目で刈れ
4396	56	岩手県	秋茄子は嫁に食わずな
4397	56	岩手県	悪縁身にたのす
4398	56	岩手県	朝雨ばくち裸のもと
4399	56	岩手県	朝日のでてかかと、姑のけたけた油断するな
4400	56	岩手県	明日は明日の神守る
4401	56	岩手県	明日は雨降り、人は盗人と思え
4402	56	岩手県	明日に良いことなし
4403	56	岩手県	あると思うな糰と金、無いと思うな火事と災難
4404	56	岩手県	歩くに足には泥がつく
4405	56	岩手県	案するより生むは易い
4406	56	岩手県	家でした事は外でもはだける
4407	56	岩手県	浮世は団子をにるようだ
4408	56	岩手県	痛いところからおがる
4409	56	岩手県	犬になつても天家の犬になれ
4410	56	岩手県	一時三代借来代
4411	56	岩手県	上を見ればさがりがない
4412	56	岩手県	牛は牛づれ、馬は馬づれ
4413	56	岩手県	馬に乗るまで牛にのれ
4414	56	岩手県	馬には乗つて見よ、人には添うて見よ
4415	56	岩手県	奥書はさき見よ、借金はいつかたられる
4416	56	岩手県	思ううちに垣をせよ
4417	56	岩手県	親のものは子のもの
4418	56	岩手県	親は千里行つても子を忘れず
4419	56	岩手県	家相見より家督見よ
4420	56	岩手県	粥餅は嫁に、小豆粥は嫁に洗わせろ
4421	56	岩手県	借り衣より洗い衣
4422	56	岩手県	気づこうより金使え
4423	56	岩手県	下さるものなら夏もお小袖
4424	56	岩手県	公事するより勘定せよ
4425	56	岩手県	五月ホヤは嫁に食わせんな
4426	56	岩手県	小膳二合持たら糰に行くな
4427	56	岩手県	糰す神あり、助ける神あり
4428	56	岩手県	子を賣わば親買え
4429	56	岩手県	酒は飲むとも飲まれるな
4430	56	岩手県	秋鮎は嫁に食わせるな
4431	56	岩手県	持参金は苦情のもと
4432	56	岩手県	正の神に祈る
4433	56	岩手県	白手を見てから黒手を出せ
4434	56	岩手県	十年の餓死に遭うとも、一年の戦争にあうな
4435	56	岩手県	女子と子供近づべからず
4436	56	岩手県	詩を作るより田を作れ
4437	56	岩手県	仕事は食い物による
4438	56	岩手県	姿とるより心とれ
4439	56	岩手県	生豚本性をあらわす
4440	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4441	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4442	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4443	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4444	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4445	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4446	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4447	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4448	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4449	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4450	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4451	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4452	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4453	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4454	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4455	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4456	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4457	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4458	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4459	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4460	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4461	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4462	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4463	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4464	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4465	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4466	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4467	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4468	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4469	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4470	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4471	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4472	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4473	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4474	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4475	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4476	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4477	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4478	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4479	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4480	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4481	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4482	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4483	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4484	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4485	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4486	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4487	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4488	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4489	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4490	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4491	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4492	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4493	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4494	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4495	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4496	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4497	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4498	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4499	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4500	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4501	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4502	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4503	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4504	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4505	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4506	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4507	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4508	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4509	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4510	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4511	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4512	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4513	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4514	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4515	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4516	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4517	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4518	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4519	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4520	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4521	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4522	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4523	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4524	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす
4525	56	岩手県	せいた(急いだ)蟹は穴をなくす

No	作業No	都道府県	ことわざ
4526	50	岩手県	痛はさぞ七洞
4527	56	岩手県	氏より音
4528	56	岩手県	生まれ所より立ち所
4529	56	岩手県	後衆の足あとに草生えぬ
4530	56	岩手県	親の意見と冷酒は後から効く
4531	56	岩手県	親の寝かせる息子は歯が白い
4532	56	岩手県	親がなぐとも子は背で
4533	56	岩手県	女の持てる金は柿の種になる
4534	56	岩手県	学者必ず馬鹿になる
4535	56	岩手県	金あれば馬鹿も旦那
4536	56	岩手県	亀の甲より年の功
4537	56	岩手県	借り時の恵比須顔、返す時のえんま顔
4538	56	岩手県	河たは河で果つる
4539	56	岩手県	学者の片言は水のアセ(副食物)にもならない
4540	56	岩手県	かん繰さげれば葉なべ
4541	56	岩手県	兄弟喧嘩は他人の始まり
4542	56	岩手県	くさつても鯛の頭
4543	56	岩手県	小僧の木片は天にも昇る
4544	56	岩手県	子がなくても泣く人はない
4545	56	岩手県	子持の腹には(妊婦)ホイドがいる
4546	56	岩手県	子なし長者
4547	56	岩手県	山しよは小粒でも辛い
4548	56	岩手県	三杯目は粉くさい
4549	56	岩手県	三度か定めの目
4550	56	岩手県	知った者は言わないで、言う者は知らず
4551	56	岩手県	死ぬという者に死んだためしなし
4552	56	岩手県	借金に掛す札
4553	56	岩手県	知らずば値を買い
4554	56	岩手県	好きな者と添うなら紙衣着る
4555	56	岩手県	世間の口に戸が立たぬ
4556	56	岩手県	瀬戸物の夫婦は離れ易い
4557	56	岩手県	損は身代り
4558	56	岩手県	長者に子なし
4559	56	岩手県	追従極白も世渡りのうち
4560	56	岩手県	遠くの神は有難い
4561	56	岩手県	無い子に泣かす、有る子に泣く
4562	56	岩手県	無いも鯛なす
4563	56	岩手県	成る木はコウ(初葉)から知れる
4564	56	岩手県	盗み気と大工気のないものはない
4565	56	岩手県	根がにがいば葉までにがい
4566	56	岩手県	寝たため食いため役に立たぬ
4567	56	岩手県	残りものに福あり
4568	56	岩手県	みわから入るハガネは従ふ立たぬ
4569	56	岩手県	袴と沙汰はかかり次第
4570	56	岩手県	針と大名は遠くからみえる
4571	56	岩手県	婆ならし子は三百安い
4572	56	岩手県	ひかげの南風も赤くなる
4573	56	岩手県	ひかひの豆も時来ればはじける
4574	56	岩手県	人ひとりの心は真直に立たぬ
4575	56	岩手県	貧の子マギ
4576	56	岩手県	貧乏に親類なし
4577	56	岩手県	古綿帽子は耳にかかると
4578	56	岩手県	万の蔵より子は至
4579	56	岩手県	見えなはいづづぐし
4580	56	岩手県	見えないはうづぐし
4581	56	岩手県	婿取り三代続くと蔵が立つ
4582	56	岩手県	酔いざめ水の味、後岸すぎの麦の肥
4583	56	岩手県	嫁とたとえれば、ひさかぶも憎い
4584	56	岩手県	わが代になれば兎唇も火を吹く
4585	56	岩手県	ワラと河原の石は冷える程よい
4586	56	岩手県	当たり勝つと石は冷える程よい
4587	56	岩手県	余りの果報は身をばなす
4588	56	岩手県	網の目でも風は防げる
4589	56	岩手県	蟻のつく息天にも届く
4590	56	岩手県	うまいものに舌を抜かる
4591	56	岩手県	親を切る刀あつても、子を切る刀なし
4592	56	岩手県	負うたては浅瀬を渡られる
4593	56	岩手県	送る月日に留守りなし
4594	56	岩手県	悲しい時は身一つ
4595	56	岩手県	金が仇の世の中
4596	56	岩手県	稼ぐに追いつく貧乏なし
4597	56	岩手県	市着拾つて身代限り
4598	56	岩手県	臭いもの身知らず
4599	56	岩手県	薬能事ほど効かず
4600	56	岩手県	こごみ女にそり男
4601	56	岩手県	こごみ捨てるころあり
4602	56	岩手県	今日人は人、明日はわが身
4603	56	岩手県	来も三年立ては身立つ
4604	56	岩手県	猿も木が落ち
4605	56	岩手県	好きなものたたりなし
4606	56	岩手県	優る猿はあるが、劣る猿はなし
4607	56	岩手県	千里も一里
4608	56	岩手県	立山坐仏を使う
4609	56	岩手県	小さくても祭壇玉は人を殺す
4610	56	岩手県	権も鳴かすは打たれまい
4611	56	岩手県	長者に二代なし
4612	56	岩手県	長者の後に茄子畑
4613	56	岩手県	手織尊し丸裸
4614	56	岩手県	手なしも工夫
4615	56	岩手県	手前ば馬鹿の中
4616	56	岩手県	啼かない猫はネズミをとる
4617	56	岩手県	何事も二度
4618	56	岩手県	常備金(とこなれずめ) 鳴子に恐れず
4619	56	岩手県	念仏と食いの口は一口でもよい
4620	56	岩手県	馬鹿につける妙薬なし
4621	56	岩手県	服八分の医者いらす
4622	56	岩手県	紙もたはねれば折れぬ
4623	56	岩手県	ひもしい時は食を選ばず
4624	56	岩手県	人語りの人語られ
4625	56	岩手県	人枕千両にも買われず
4626	56	岩手県	平常以上のとつき(よそゆき)なし
4627	56	岩手県	不器量ものの良し身持ち
4628	56	岩手県	任せ来はつかみにくい
4629	56	岩手県	踏まれても寝るにいいが、踏んで寝られぬ
4630	56	岩手県	百日の旱天にあきず一日の雨にあきる
4631	56	岩手県	見えない怪物に怖る
4632	56	岩手県	三ツ尾の魂せなみまで
4633	56	岩手県	三ツ尾の魂せなみまで
4634	56	岩手県	日向の塩引き今日の水
4635	56	岩手県	目の寄るところへ玉がよる
4636	56	岩手県	めんどりがつくと、おんどりが「とき」をつくる
4637	56	岩手県	もめる汀には漁はない
4638	56	岩手県	柳に風折れなし
4639	56	岩手県	湯殿も一時松の木柱も三年
4640	56	岩手県	湯もじき水になる
4641	56	岩手県	嫁も姑になる
4642	56	岩手県	あたれば八雲、あたねばもつけ
4643	56	岩手県	あわせ物は離れ物
4644	56	岩手県	あるときはあり、あまりないときは梨もなし
4645	56	岩手県	石垣より申桶
4646	56	岩手県	石巻より腰巻
4647	56	岩手県	医者と南瓜は古いが良い
4648	56	岩手県	犬にもやらず欄にも置かず
4649	56	岩手県	言わねえようでもよめあごと(世迷言、嫁ア事)
4650	56	岩手県	因果は一腹茶は二腹(腹)
4651	56	岩手県	ウソと妙主の髪はゆれぬ
4652	56	岩手県	うりのつるには、なすびがならぬ
4653	56	岩手県	うわさをすれば影とやら
4654	56	岩手県	帯に短かし、たすきに長し
4655	56	岩手県	かかあどゆつて頭(ツマゴ)は、たたけば治る
4656	56	岩手県	口の多い奴はビンビク
4657	56	岩手県	口はちよう、手はちよう
4658	56	岩手県	下駄は緒柄、妻は夫柄
4659	56	岩手県	ころばぬさきつえ
4660	56	岩手県	子とフングリ(陰囊)は邪魔にならぬ
4661	56	岩手県	沙汰は元から木は裏から
4662	56	岩手県	座頭と風は昼立ち
4663	56	岩手県	姑という字はよめにくい

No	作業No	都道府県	ことわざ
4664	56	岩手県	知らぬが花
4665	56	岩手県	借金としらみはかくすほど増える
4666	56	岩手県	しんは泣き寄り、他人は食い寄り
4667	56	岩手県	すき運れば泣き連れ
4668	56	岩手県	たんつぽと金持は、たまるほどきかない
4669	56	岩手県	宝のもちぐされ
4670	56	岩手県	提灯持ちと旗持ちは先に立つ
4671	56	岩手県	燈台もど暗し
4672	56	岩手県	豆腐と豆類の子は、煮ても似なくてもよい
4673	56	岩手県	年寄りと釘頭は引つ込んだ方がよい
4674	56	岩手県	取り衣にやり袴
4675	56	岩手県	七重のヒザを八重に折る
4676	56	岩手県	ねずみと木挽きは引かねば食えぬ
4677	56	岩手県	話は元から木は裏から
4678	56	岩手県	八雲判断ずあたり
4679	56	岩手県	はやりものはすたらぬ
4680	56	岩手県	火いじりは、●アいじり
4681	56	岩手県	腹立てるより義理立てよ
4682	56	岩手県	ひさとも談合
4683	56	岩手県	夫は妻から機は経から
4684	56	岩手県	へたは上手のもと
4685	56	岩手県	へんと眉毛に役なし
4686	56	岩手県	見るは放棄、見ないは道楽
4687	56	岩手県	持ったが病い
4688	56	岩手県	山の見たてと娘の見たてはあてにならぬ
4689	56	岩手県	嫁とりがけ、ツマゴ(おしんこ)は出しがけ
4690	56	岩手県	木も歩けば棒にあたる
4691	56	岩手県	論より証拠
4692	56	岩手県	花より団子
4693	56	岩手県	似たもの夫婦
4694	56	岩手県	骨折りのくたびげ儲け
4695	56	岩手県	腹の中
4696	56	岩手県	戸板に豆
4697	56	岩手県	地獄の沙汰も金次第
4698	56	岩手県	律儀者の子沢山
4699	56	岩手県	沼地も蓮の花
4700	56	岩手県	類をもつて集まる
4701	56	岩手県	知ては子に、貸い
4702	56	岩手県	笑いは人の葉
4703	56	岩手県	蛙のつらに水
4704	56	岩手県	夜目遠目笠のうち
4705	56	岩手県	玉膳かざれば光なし
4706	56	岩手県	れう粟口に苦し
4707	56	岩手県	遠慮の害大
4708	56	岩手県	面の皮をはぐ
4709	56	岩手県	念には念を入れよ
4710	56	岩手県	泣き面に蜂
4711	56	岩手県	楽あれば苦あり
4712	56	岩手県	無理が通れば道理引こむ
4713	56	岩手県	氏より音
4714	56	岩手県	井戸から火の出たよう
4715	56	岩手県	能ある鷹は爪をかくす
4716	56	岩手県	親の心子知らず
4717	56	岩手県	臭いものに蓋
4718	56	岩手県	瘦せ顔にも骨
4719	56	岩手県	負けるが勝ち
4720	56	岩手県	志は身を助ける
4721	56	岩手県	ふまれる妻は強くなる
4722	56	岩手県	弘法も筆のあまやり
4723	56	岩手県	得手に帆をあげ
4724	56	岩手県	出る杭は打たれる
4725	56	岩手県	あら立てればこちらが立たぬ
4726	56	岩手県	酒飲みの半人足
4727	56	岩手県	義理と柱は立てるもの
4728	56	岩手県	油断大敵
4729	56	岩手県	盲の探り当て
4730	56	岩手県	身から出た錆
4731	56	岩手県	ていつ
4732	56	岩手県	縁は異なもの
4733	56	岩手県	貧乏ひまなし
4734	56	岩手県	門前の小僧習わぬ経を読む
4735	56	岩手県	背に腹はかえられぬ
4736	56	岩手県	過ぎたるは及ばざるが如し
4737	56	岩手県	朝の夢は大阪の
4738	58	新潟県	もは人なみ、団子も人なみ
4739	58	新潟県	病み上手の死に下手
4740	58	新潟県	死ぬ死ぬの長生き
4741	58	新潟県	いくいくの長居
4742	58	新潟県	おいおいの太くらい
4743	58	新潟県	背山カカはめる阿呆
4744	58	新潟県	越後のつれ小便
4745	58	新潟県	お客二ばい、亭八はい
4746	58	新潟県	仕事はおおせい、うまいもんは小せい
4747	58	新潟県	大勢まわしよりも小勢まわし
4748	58	新潟県	蛙のつらな小便
4749	58	新潟県	東宮はばかり
4750	58	新潟県	朝ゲのテカカリ、昼メッコ
4751	58	新潟県	越後の昼晴れ
4752	58	新潟県	朝雨、笠をぬげ
4753	58	新潟県	世のなかはいつとも八月十五夜、おれが二十のかか十八、死ぬぬ子の三人、へらぬかぬの二〇両一のみましほぬのワラジでさがせ
4754	58	新潟県	春の日とまま母は、くれそうてくれない
4755	58	新潟県	浦瀬女に桂男
4756	58	新潟県	年寄りの達者と春の雪
4757	58	新潟県	餅ま倒しのつき盗人
4758	58	新潟県	生むる昔話
4759	58	新潟県	生まれながらにナマリで知れる
4760	58	新潟県	下手の大作で、コミー丁
4761	58	新潟県	一ほめ、二こなし、三ほれ、四かせ
4762	58	新潟県	知るもんはいわん、いうもんは知らない
4763	58	新潟県	首のドンチャ、朝ゲのフンチャ
4764	58	新潟県	二人づれのひとりこじき
4765	58	新潟県	むくはさしきから、嫁はニヤからもらえ
4766	58	新潟県	ところ変れまが品かわる、センチン変ればクソ変わる
4767	58	新潟県	いぬいぬのママ
4768	58	新潟県	しんしんと盃はでっかいほどよい
4769	58	新潟県	親と月夜はいつもよい
4770	58	新潟県	ツマゴキの節供はたらき
4771	58	新潟県	正得盆担
4772	58	新潟県	一つ雪、国がやままし
4773	58	新潟県	夫婦けんかと春の雪は消えやすい
4774	58	新潟県	娘と春の雪は固いようどとけやすい
4775	58	新潟県	一つ思い、二つにくまれ、三つ見せめられ、四つ風ひき
4776	58	新潟県	朝雨と女うでまくり
4777	58	新潟県	秋と昔の正月はなし
4778	58	新潟県	新米ナマリトロロ
4779	58	新潟県	越後のつれ小便
4780	58	新潟県	話上手の仕事下手
4781	58	新潟県	朝雨笠をぬげ
4782	58	新潟県	朝ツカリの姑ニツカリ
4783	58	新潟県	雷代どきのむくこかせ
4784	58	新潟県	稚谷の馬のくそ流し
4785	58	新潟県	いつまでもあると思うような親とかね
4786	58	新潟県	霧雨と親のバチは、あたらんようである
4787	58	新潟県	お客三杯、亭八杯
4788	58	新潟県	おいぬの長つちり
4789	58	新潟県	おえたおえたの太くらえ
4790	58	新潟県	仕事は大勢、うまいもんは小勢
4791	58	新潟県	大勢まわしよりも小勢まわし
4792	58	新潟県	犬になるなら、オオドコ(大所)の犬になれ
4793	58	新潟県	朝ゲの雨と、かかのかのすくなしは、末ははだかになる
4794	58	新潟県	話上手の仕事下手
4795	58	新潟県	秋と昔の正月話
4796	58	新潟県	運と果報は生まれつき首にのっている
4797	58	新潟県	貧乏神は先にいって待つ
4798	58	新潟県	朝ツカリの詰めっこ
4799	58	新潟県	朝ツカリの詰めっこ

No	作業 No	都道府県	ことわざ
4800	58	新潟県	餅米のつぎぬすつと
4801	58	新潟県	二人ずれのひとつこじき
4802	58	新潟県	目ぼそ、鼻高、桜色
4803	58	新潟県	土用七夕立は上作
4804	58	新潟県	十五夜の餅、食わんうちは作なめんな
4805	58	新潟県	コブの花さかりはせんマイイのさかり
4806	58	新潟県	生まる存続は、なまりて知れる
4807	58	新潟県	下手の長談義
4808	58	新潟県	親と月夜はいつもよい
4809	58	新潟県	一つめしはかねのワラジでさがせ
4810	58	新潟県	年寄りの達者と春の雪
4811	58	新潟県	貧乏イナリでトリエがない
4812	58	新潟県	雨ふりのアワの日でゴマ
4813	58	新潟県	腹も身のうち
4814	58	新潟県	犬の糞の高上り
4815	58	新潟県	くさつても、鯛の骨
4816	58	新潟県	遠くの親類よりも、近くの他人
4817	58	新潟県	元木にまさるワラ木なし
4818	58	新潟県	だんまの壁破り
4819	58	新潟県	のめしこきの節供
4820	58	新潟県	人の口に戸を立てられない
4821	58	新潟県	一思い、二にくまれ、三ほめられ、四風ひく
4822	58	新潟県	話上手の聞き上手
4823	58	新潟県	かかたまたみは新しいほどよい
4824	58	新潟県	一つめしはかねのワラジでさがす
4825	58	新潟県	豆と十七はあるうち手を出す
4826	58	新潟県	終り初物
4827	58	新潟県	しつべたとほつべたのちがい
4828	58	新潟県	まちがいと気がいはいどこにもある
4829	58	新潟県	かた餅にキナコ
4830	58	新潟県	餅のつぎカナンボ
4831	58	新潟県	貧乏イナリで、トリエがない
4832	58	新潟県	秋ゴトムカシの正月バナシ
4833	58	新潟県	朝げのチャッカリ、女のうでまくり
4834	58	新潟県	朝げのチャッカリ、姑のニッカリ
4835	58	新潟県	朝雨をさぬく
4836	58	新潟県	生きた夜とかねのワラジでさがす
4837	58	新潟県	いごういごうの長つちり
4838	58	新潟県	おいたおいたのくらくらえ
4839	58	新潟県	かけつけ三杯
4840	58	新潟県	下手の長談義
4841	58	新潟県	お客三杯売人杯
4842	58	新潟県	小便
4843	58	新潟県	ものは人なみ、団子は家並
4844	58	新潟県	百姓の不作話とアキンドの損話
4845	58	新潟県	キナコにカタモチ
4846	58	新潟県	嫁はニヤから、むこは座敷からもらえ
4847	58	新潟県	はめ、こい、こい、よれ、四、かぜ
4848	58	新潟県	嫁の三日はめ、奉公人のあととほめ
4849	58	新潟県	朝、テッカーリの女のニッカリ
4850	58	新潟県	住まば山川
4851	58	新潟県	東夕立と女のうでまくり
4852	58	新潟県	朝雨は笠をぬいで待たれ
4853	58	新潟県	モンたむごも変りもの
4854	58	新潟県	カヤのクワイグワイ (かや野のヨシキリ)
4855	58	新潟県	盆と正月が、いっしょにきた
4856	58	新潟県	春南秋北
4857	58	新潟県	カイモチかつぎのつぎ盗人
4858	58	新潟県	米飯まめだか節供に食たま
4859	58	新潟県	雪つも餅汁はあとから
4860	58	新潟県	越後の水と水の噂
4861	58	新潟県	おえたおえたの長つちり
4862	58	新潟県	朝右夕左
4863	58	新潟県	越後の昼晴れ
4864	58	新潟県	盆がすきてのハスの花
4865	58	新潟県	縁十、アザミの花はひとときかり
4866	58	新潟県	いやや、いやだは女にくせ
4867	58	新潟県	嫁とせんちんは遠いほどよい
4868	58	新潟県	嫁はニヤからもらえ、婿は座敷からもらえ
4869	58	新潟県	夫婦けんかど春の雪は消えやすい
4870	58	新潟県	佳男の浦瀬女
4871	58	新潟県	檀吉、龍崎寺は女の出どこ、柿の沢から婿が出る、 腹に痛めどとがたえない
4872	58	新潟県	年寄りの昔語り
4873	58	新潟県	下手な大工で、ノミー丁
4874	58	新潟県	下手の長談義
4875	58	新潟県	知るものはいわぬ、いうものは知らぬ
4876	58	新潟県	話上手の仕事下手
4877	58	新潟県	女の立身、騒動のもの
4878	58	新潟県	あるようでないものは金、ないようであるものは借金
4879	58	新潟県	蛙のつらに小便
4880	58	新潟県	内べんけいの外すくだまり
4881	58	新潟県	きんかのぞら耳
4882	58	新潟県	田中の寝どん、もとより悪い
4883	58	新潟県	モズの糞さし
4884	58	新潟県	十月テッカーリばばころし
4885	58	新潟県	霜月の綱つけ日和
4886	59	茨城県	小俣川・崎房南坪においては雷をライサマといひ、 「雷が落ちる」こと「ライサマがオリル」という。 サマノネノライサマ カラライサマ 日光ライサマはつかげばかり ライサマは火を燃やしておくと落つこんね タツミのライサマたち悪し ライサマは百姓の骨休み 雷が落ちたカサの中へ入れ 雷が落ちた本を柱に投げてはいけない ヒウが降つたら釜の蓋を空から投げるとよい、 タツマキがくると裏あるいはザル (竹で編んだ入れ物) でおす (追い返す)。 出穂の時期に釜、からつ風が吹くとほとんど取れない 西の窓が晴れると晴れ 西がくもれば雨や 月に暈がかぶると雨が降る ヤツムツは風 ゴシチの雨 農具は大安の日におろせ 農具はおけばおくほどかたはる 妻はジウシジウ (17)、小妻はニジュウ (20) 卯の日は田んぼは種えられない 戌の日には種まきしちやあ、うまくない 親が死んでも蓋とらずす下がつてサルむわり 豆はバカにもやさせろ クンチミツカはうまくない イチヂキチはうまくない 正月三ヶ日日はお金を使うな こぬかサンジョあれば婿に出るな 婿をとる娘は血の涙 つり糞とちようちん ヒャクイチ ハツクワカシ ミニズに小便をかけるのと曲がる (もぎられる、腐る) 小便が出なくなる へびを殺してはいけない へびを指すと指をきる 人節の前日にカラス鳴く 夜に梅干を食べるとよくない 季節でない花が咲くと縁起がよくない 相川のチャは飲まねんチャ 挨拶は時の氏神 愛想つかしは金から起る 愛想のない叔母のところより木の下 あい、もてても戻た 開いた日に風吹かず 相手変われど手前変わらぬ 北風と雁い日は日いっぱい あいの風が吹いたら倉の戸を開けて待て あいのこわ吹きやませぬとも あいまのんに美味いまい言うな

No	作業 No	都道府県	ことわざ
4934	60	新潟県	背竹つかせて伊勢参り
4935	60	新潟県	赤らと備養める阿呆
4936	60	新潟県	青田は馬鹿がほめる
4937	60	新潟県	青田ほめる馬鹿
4938	60	新潟県	青菜の世帯はこんちの男に見せられない
4939	60	新潟県	青物は新町で買え、魚は四谷で買え
4940	60	新潟県	赤い花にもとけがある
4941	60	新潟県	赤ん坊は泣き背
4942	60	新潟県	赤子の指から乳が出る
4943	60	新潟県	赤子は七面鳥
4944	60	新潟県	赤恥をかく
4945	60	新潟県	赤飯に豆腐汁
4946	60	新潟県	明の先には馬鹿が立つ
4947	60	新潟県	赤ん坊の後さかり
4948	60	新潟県	秋あげ米高し
4949	60	新潟県	秋あげ半作
4950	60	新潟県	秋がます嫁に食わずな
4951	60	新潟県	秋こそ昔の正月ばなし
4952	60	新潟県	秋縁起に食わずな
4953	60	新潟県	秋タナゴ嫁に食わずな
4954	60	新潟県	秋なかの鎌
4955	60	新潟県	秋茄子は嫁に食わずな
4956	60	新潟県	秋菜穂に食わずな
4957	60	新潟県	秋の朝照り、隣へ行くな
4958	60	新潟県	秋の西置置き雲
4959	60	新潟県	秋の雨
4960	60	新潟県	秋の田の水縁に飲ませるな
4961	60	新潟県	秋の日と娘はくれぬようしてくれる
4962	60	新潟県	秋のやませはヒカダを招く
4963	60	新潟県	秋の山嫁に見せるな
4964	60	新潟県	秋の夕暮、鎌を上げ
4965	60	新潟県	秋の夕焼け、明日のもつけ
4966	60	新潟県	秋縁起に食わずな
4967	60	新潟県	秋山へ嫁やるな
4968	60	新潟県	商人と大風は家の中に入れるな
4969	60	新潟県	あくとが化ける
4970	60	新潟県	悪女の笑顔より善女の怒り顔
4971	60	新潟県	あぐね餅いた
4972	60	新潟県	上げる子より下げる子がめこい
4973	60	新潟県	上路男と市振女
4974	60	新潟県	朝雨笠を脱げ
4975	60	新潟県	朝雨せんたく
4976	60	新潟県	朝雨と女の腕まくりに恐れんな
4977	60	新潟県	朝雨と女の腕まくり
4978	60	新潟県	朝雨とノツコ
4979	60	新潟県	朝雨に笠いらす
4980	60	新潟県	朝風、昼あいのかぜ、夜南
4981	60	新潟県	朝生まれの稼き手
4982	60	新潟県	朝と女の腕まくり
4983	60	新潟県	朝霧は百日の日照り
4984	60	新潟県	朝下り、夕方えい風
4985	60	新潟県	朝蜘蛛は福の神、夕蜘蛛は盗賊
4986	60	新潟県	朝がくることは晚げもある
4987	60	新潟県	朝の雨とカカリのすくなしは、末ははだかになる
4988	60	新潟県	朝のチャッカリ、姑のニッカリ
4989	60	新潟県	朝のテッカーリ、星メッコ
4990	60	新潟県	朝のんにそむくんでない
4991	60	新潟県	朝題目の夕念仏
4992	60	新潟県	朝茶の茶柱は縁起がよい
4993	60	新潟県	朝茶は七重戻つても飲め
4994	60	新潟県	朝は二重
4995	60	新潟県	朝茶は縁を質に置いては飲め
4996	60	新潟県	朝茶四股
4997	60	新潟県	朝てつかりの昼めつこ
4998	60	新潟県	朝照り、縁立たせ
4999	60	新潟県	朝虹、縁起すな
5000	60	新潟県	朝虹は雲とる暇もない
5001	60	新潟県	朝虹は馬の鞍おきませられない
5002	60	新潟県	朝虹は雨、夕虹は晴れ
5003	60	新潟県	朝霞は貧乏の始まり
5004	60	新潟県	朝縁起の宵つ張り
5005	60	新潟県	朝の一瓶、夜の二瓶
5006	60	新潟県	5004から突く油断するな
5007	60	新潟県	朝てつかり油断するな
5008	60	新潟県	朝てつかり婿泣かせ
5009	60	新潟県	朝てつかりめつき、笠を持って
5010	60	新潟県	朝のチャカチャカと女の腕まくり
5011	60	新潟県	朝のチャカチャカと貧乏者の縁取り長持ちない
5012	60	新潟県	朝のチャッカリ、朝のニッカリ
5013	60	新潟県	朝冷えと嬢のしみつたれば後裸
5014	60	新潟県	朝ふじ、夜縄
5015	60	新潟県	朝まらしたたねに金貸すな
5016	60	新潟県	朝右夕左
5017	60	新潟県	朝右 (再) 夜左良いことない
5018	60	新潟県	朝風、北風の夕風
5019	60	新潟県	朝焼けは時化る
5020	60	新潟県	あざみの花の二つ咲きに小豆は蒔け
5021	60	新潟県	足元から鳥が立つ
5022	60	新潟県	鯉鱈の石
5023	60	新潟県	明日の天気は入り目を見よ、家の跡取りは二代子を見よ
5024	60	新潟県	明日は馬鹿になかせろ
5025	60	新潟県	小豆は嫌う友の露
5026	60	新潟県	小豆は土用半作
5027	60	新潟県	小豆は無精者に煮させろ
5028	60	新潟県	小豆は祭りの端開きながら蒔け
5029	60	新潟県	あづけた米は噛めぬ
5030	60	新潟県	5030も田舎たも同じこと
5031	60	新潟県	唾もくればよい、田も同じよう
5032	60	新潟県	遊ぶ暇あつても仕事する暇ない
5033	60	新潟県	暇かいてもも察のうち、にらまぬようでも姑の目
5034	60	新潟県	当たつてつぶれる卵作
5035	60	新潟県	頭で言うよう 多忙なまきまいう
5036	60	新潟県	頭を風い
5037	60	新潟県	頭を下げて叱られたことなし
5038	60	新潟県	新しいセナコテは嫁に着せ
5039	60	新潟県	当たらぬ蜂は刺さぬ
5040	60	新潟県	当たり前の十五日
5041	60	新潟県	当たり前ができてく
5042	60	新潟県	当たり前の肥やし米
5043	60	新潟県	あたまなさんわんな山の神
5044	60	新潟県	九口たたきの真口たたかず
5045	60	新潟県	悪口すれば主が来る
5046	60	新潟県	暑さ寒さも彼岸まで
5047	60	新潟県	当り事とつふふんどしは先からはずれる
5048	60	新潟県	当り事と種、先からはずれる
5049	60	新潟県	後足が先に立つ
5050	60	新潟県	あとの鳥が先になる
5051	60	新潟県	後の喧嘩、先にする
5052	60	新潟県	あとはアリの有合
5053	60	新潟県	後はさんじよっぱらい
5054	60	新潟県	あとは梨の木、後は無いこと。
5055	60	新潟県	あとは羽黒町
5056	60	新潟県	あと見ず観音
5057	60	新潟県	跡見ずそはか
5058	60	新潟県	穴掘り大工、ノミー丁
5059	60	新潟県	丸の陣、手ぬぐいにもらう
5060	60	新潟県	あつてたたかれる
5061	60	新潟県	危ないところに金がある
5062	60	新潟県	油紙に火のついたよう
5063	60	新潟県	油をくれば車は回る
5064	60	新潟県	甘酒こそしたおかめ
5065	60	新潟県	甘酒に酔うたおかめ
5066	60	新潟県	甘酒を食わんぬい
5067	60	新潟県	余らず過ぎず子三人
5068	60	新潟県	余るは足りないもの
5069	60	新潟県	阿弥陀の光も金次第
5070	60	新潟県	阿弥陀も銭ほど光る

No	作業No	都道府県	ことわざ
5071	60	新潟県	網のほも風が止まる
5072	60	新潟県	雨イカ、照りパンジョウ
5073	60	新潟県	胎くれる 勝負のときなどにわざと負けてやること (山本修之助著『佐渡民俗ことば事典』1987)。
5074	60	新潟県	胎買つて産かれる
5075	60	新潟県	胎で餅食うか、おぼさと寝るか
5076	60	新潟県	胎なめせられぬ
5077	60	新潟県	胎の銭より雀の銭が高い
5078	60	新潟県	雨降らし夕顔汁
5079	60	新潟県	雨降りアワの日照りゴマ
5080	60	新潟県	雨降り八重、照りじっぽう
5081	60	新潟県	雨降り日かげ作
5082	60	新潟県	雨降り豆の日照り小豆
5083	60	新潟県	鮎が飛べばおんころべが躍る
5084	60	新潟県	荒らける馬も使い手から
5085	60	新潟県	あら繩は帯にするな
5086	60	新潟県	新山男と森上女
5087	60	新潟県	有り合い無り合い
5088	60	新潟県	有り合いはまた坊主もない
5089	60	新潟県	有り難いのは善光寺様、うまいのは猪汁
5090	60	新潟県	蟻このだい持ち
5091	60	新潟県	蟻の穴天下の破れ
5092	60	新潟県	蟻は五日の雨を知る
5093	60	新潟県	有りもんは出もん
5094	60	新潟県	歩く足べとが付く
5095	60	新潟県	ある手からこぼれる
5096	60	新潟県	有る時の米の飯
5097	60	新潟県	有る時払いの催促なし
5098	60	新潟県	有る時までの催促なし
5099	60	新潟県	有るときには有る、無いところには無い
5100	60	新潟県	あるとよでないものは金、ないようであるものは借金
5101	60	新潟県	有れば有り甲斐なし
5102	60	新潟県	有れば邪魔だし、無くては困るこの糞鬼
5103	60	新潟県	粟島の雨と隣のぼた餅は来ないことがない
5104	60	新潟県	合わせものは離れもど
5105	60	新潟県	粟後のふが切れたようだ
5106	60	新潟県	慌てて食う人、三年先に死んだ
5107	60	新潟県	慌てて食う人、三年先に死んだ
5108	60	新潟県	慌てて食う人、三年先に死んだ
5109	60	新潟県	栗糠と嫁の糞、たち止まね
5110	60	新潟県	合わせた糞もあれば、合う蓋もある
5111	60	新潟県	栗の笠蓋、守門の願勝、弥彦の根霧
5112	60	新潟県	粟は他人の肩引かせろ
5113	60	新潟県	粟一粒は汗一粒
5114	60	新潟県	あんころ餅の網渡り
5115	60	新潟県	あんころ餅に砂糖つけた
5116	60	新潟県	あんころ餅より心待ち
5117	60	新潟県	彼岸の味み取り
5118	60	新潟県	言いい事はあした言え
5119	60	新潟県	言いい事はあした言え
5120	60	新潟県	言いい事権力術
5121	60	新潟県	言いい事めだが、節句のマンマ
5122	60	新潟県	言いい事は口ごたえ
5123	60	新潟県	家柄より手勢
5124	60	新潟県	家柄より手勢
5125	60	新潟県	家の身上は糞が持つ
5126	60	新潟県	言えは言いで、飲めば飲み得
5127	60	新潟県	五十沢女に城内男
5128	60	新潟県	イカの甲より年の功
5129	60	新潟県	イカの甲は喰うてもその手は喰わぬ
5130	60	新潟県	イカ腸がうらやましい
5131	60	新潟県	生きていくもの因果
5132	60	新潟県	いくいくの長居
5133	60	新潟県	池の蛙が水の上にはねると天気が悪くなる
5134	60	新潟県	意見と餅はつくほど縁がよい
5135	60	新潟県	犬子が犬糞に向かったよう
5136	60	新潟県	犬子が犬糞についたよう
5137	60	新潟県	石切りの茶丸、御老中の判
5138	60	新潟県	石車に乗っても口車に乗るな
5139	60	新潟県	石飛んで糞に勝たず
5140	60	新潟県	石の印判
5141	60	新潟県	石橋をたいて渡らぬ
5142	60	新潟県	医者が取らなや坊さんが取る
5143	60	新潟県	医者が取らなや坊さんが取る
5144	60	新潟県	医者、坊、カボチャ
5145	60	新潟県	石原に糞引きするようだ
5146	60	新潟県	石を投げても届かない
5147	60	新潟県	意地っばりの強つ棒
5148	60	新潟県	母娘の大食い
5149	60	新潟県	痛い目も糞だ
5150	60	新潟県	糞く物なら夏の小袖でも
5151	60	新潟県	イタナみめよし、猫のみめは杵子
5152	60	新潟県	板屋の乞食は餓死ぬ、くず屋の乞食は金貯める
5153	60	新潟県	二工面、二働き
5154	60	新潟県	二工面、二働き
5155	60	新潟県	一香、二花、三茶、四飯
5156	60	新潟県	一合雑炊、二合粥、三合飯、四合団子、五合餅
5157	60	新潟県	一合雑炊に二合粥、三合かて飯に四合団子、五合おこわに六合餅
5158	60	新潟県	一糞、二糞、三糞
5159	60	新潟県	一度見ぬ馬鹿、二度見る馬鹿
5160	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5161	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5162	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5163	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5164	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5165	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5166	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5167	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5168	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5169	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5170	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5171	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5172	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5173	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5174	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5175	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5176	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5177	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5178	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5179	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5180	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5181	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5182	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5183	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5184	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5185	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5186	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5187	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5188	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5189	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5190	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5191	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5192	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5193	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5194	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5195	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5196	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5197	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5198	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5199	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5200	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5201	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5202	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5203	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5204	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ
5205	60	新潟県	一日遅れの千日遅れ

No	作業No	都道府県	ことわざ
5206	60	新潟県	犬の蚤で噛みあてる
5207	60	新潟県	犬の道を変えたよう
5208	60	新潟県	犬の種と命は長いほど良い
5209	60	新潟県	稲こいで作れ、麦は藪で作れ
5210	60	新潟県	亥の子餅は石で揚げ
5211	60	新潟県	亥の子餅と有卦の餅は外へ出すな
5212	60	新潟県	猪の向こうやぶり
5213	60	新潟県	命に替える宝なし
5214	60	新潟県	命に替える宝なし
5215	60	新潟県	命に替える宝なし
5216	60	新潟県	命に替える宝なし
5217	60	新潟県	命に替える宝なし
5218	60	新潟県	命に替える宝なし
5219	60	新潟県	命に替える宝なし
5220	60	新潟県	命に替える宝なし
5221	60	新潟県	命に替える宝なし
5222	60	新潟県	命に替える宝なし
5223	60	新潟県	命に替える宝なし
5224	60	新潟県	命に替える宝なし
5225	60	新潟県	命に替える宝なし
5226	60	新潟県	命に替える宝なし
5227	60	新潟県	命に替える宝なし
5228	60	新潟県	命に替える宝なし
5229	60	新潟県	命に替える宝なし
5230	60	新潟県	命に替える宝なし
5231	60	新潟県	命に替える宝なし
5232	60	新潟県	命に替える宝なし
5233	60	新潟県	命に替える宝なし
5234	60	新潟県	命に替える宝なし
5235	60	新潟県	命に替える宝なし
5236	60	新潟県	命に替える宝なし
5237	60	新潟県	命に替える宝なし
5238	60	新潟県	命に替える宝なし
5239	60	新潟県	命に替える宝なし
5240	60	新潟県	命に替える宝なし
5241	60	新潟県	命に替える宝なし
5242	60	新潟県	命に替える宝なし
5243	60	新潟県	命に替える宝なし
5244	60	新潟県	命に替える宝なし
5245	60	新潟県	命に替える宝なし
5246	60	新潟県	命に替える宝なし
5247	60	新潟県	命に替える宝なし
5248	60	新潟県	命に替える宝なし
5249	60	新潟県	命に替える宝なし
5250	60	新潟県	命に替える宝なし
5251	60	新潟県	命に替える宝なし
5252	60	新潟県	命に替える宝なし
5253	60	新潟県	命に替える宝なし
5254	60	新潟県	命に替える宝なし
5255	60	新潟県	命に替える宝なし
5256	60	新潟県	命に替える宝なし
5257	60	新潟県	命に替える宝なし
5258	60	新潟県	命に替える宝なし
5259	60	新潟県	命に替える宝なし
5260	60	新潟県	命に替える宝なし
5261	60	新潟県	命に替える宝なし
5262	60	新潟県	命に替える宝なし
5263	60	新潟県	命に替える宝なし
5264	60	新潟県	命に替える宝なし
5265	60	新潟県	命に替える宝なし
5266	60	新潟県	命に替える宝なし
5267	60	新潟県	命に替える宝なし
5268	60	新潟県	命に替える宝なし
5269	60	新潟県	命に替える宝なし
5270	60	新潟県	命に替える宝なし
5271	60	新潟県	命に替える宝なし
5272	60	新潟県	命に替える宝なし
5273	60	新潟県	命に替える宝なし
5274	60	新潟県	命に替える宝なし
5275	60	新潟県	命に替える宝なし
5276	60	新潟県	命に替える宝なし
5277	60	新潟県	命に替える宝なし
5278	60	新潟県	命に替える宝なし
5279	60	新潟県	命に替える宝なし
5280	60	新潟県	命に替える宝なし
5281	60	新潟県	命に替える宝なし
5282	60	新潟県	命に替える宝なし
5283	60	新潟県	命に替える宝なし
5284	60	新潟県	命に替える宝なし
5285	60	新潟県	命に替える宝なし
5286	60	新潟県	命に替える宝なし
5287	60	新潟県	命に替える宝なし
5288	60	新潟県	命に替える宝なし
5289	60	新潟県	命に替える宝なし
5290	60	新潟県	命に替える宝なし
5291	60	新潟県	命に替える宝なし
5292	60	新潟県	命に替える宝なし
5293	60	新潟県	命に替える宝なし
5294	60	新潟県	命に替える宝なし
5295	60	新潟県	命に替える宝なし
5296	60	新潟県	命に替える宝なし
5297	60	新潟県	命に替える宝なし
5298	60	新潟県	命に替える宝なし
5299	60	新潟県	命に替える宝なし
5300	60	新潟県	命に替える宝なし
5301	60	新潟県	命に替える宝なし
5302	60	新潟県	命に替える宝なし
5303	60	新潟県	命に替える宝なし
5304	60	新潟県	命に替える宝なし
5305	60	新潟県	命に替える宝なし
5306	60	新潟県	命に替える宝なし
5307	60	新潟県	命に替える宝なし
5308	60	新潟県	命に替える宝なし
5309	60	新潟県	命に替える宝なし
5310	60	新潟県	命に替える宝なし
5311	60	新潟県	命に替える宝なし
5312	60	新潟県	命に替える宝なし
5313	60	新潟県	命に替える宝なし
5314	60	新潟県	命に替える宝なし
5315	60	新潟県	命に替える宝なし
5316	60	新潟県	命に替える宝なし
5317	60	新潟県	命に替える宝なし
5318	60	新潟県	命に替える宝なし
5319	60	新潟県	命に替える宝なし
5320	60	新潟県	命に替える宝なし
5321	60	新潟県	命に替える宝なし
5322	60	新潟県	命に替える宝なし
5323	60	新潟県	命に替える宝なし
5324	60	新潟県	命に替える宝なし
5325	60	新潟県	命に替える宝なし
5326	60	新潟県	命に替える宝なし
5327	60	新潟県	命に替える宝なし
5328	60	新潟県	命に替える宝なし
5329	60	新潟県	命に替える宝なし
5330	60	新潟県	命に替える宝なし
5331	60	新潟県	命に替える宝なし
5332	60	新潟県	命に替える宝なし
5333	60	新潟県	命に替える宝なし
5334	60	新潟県	命に替える宝なし
5335	60	新潟県	命に替える宝なし
5336	60	新潟県	命に替える宝なし
5337	60	新潟県	命に替える宝なし
5338	60	新潟県	命に替える宝なし
5339	60	新潟県	命に替える宝なし
5340	60	新潟県	命に替える宝なし

No	作業No	都道府県	ことわざ
5341	60	新潟県	会つた居る宮の神主
5342	60	新潟県	犬、狼よりは古家の漏りがおつかない
5343	60	新潟県	大男総身に智恵が廻りかね
5344	60	新潟県	大風に灰まいたよう
5345	60	新潟県	大風の過ぎたあと
5346	60	新潟県	大川で洗う
5347	60	新潟県	大金も小金取れ
5348	60	新潟県	大釜の底は、がらり八杯
5349	60	新潟県	大鵬が翼を背負って舞いこむ
5350	60	新潟県	大きい大根辛くない
5351	60	新潟県	大きいものには呑まれよ
5352	60	新潟県	大木の下に小木なし
5353	60	新潟県	大崎女の乳を搾ったか、八色原で野菜をこいたか
5354	60	新潟県	おお菜食いの身上壊し
5355	60	新潟県	大勢に手なし
5356	60	新潟県	大勢まわしよりも小勢まわし
5357	60	新潟県	大年をとるより小年とれ
5358	60	新潟県	おおどこのかてばち、こうげても三杯
5359	60	新潟県	おおどこのかてばち、こうげても三杯
5360	60	新潟県	大苗に豊作なし
5361	60	新潟県	おおふ万金舟
5362	60	新潟県	大船浮かぶと小舟も浮かぶ
5363	60	新潟県	大木に飲み水なし
5364	60	新潟県	大家のかて鉢なせても八杯
5365	60	新潟県	大器は器がク荒れ
5366	60	新潟県	大器に不作なし
5367	60	新潟県	大雪は豊作の前兆
5368	60	新潟県	陸に上がった河童
5369	60	新潟県	お金一代、人間二代、味三代
5370	60	新潟県	お金は阿弥陀ほど光る
5371	60	新潟県	お米は夜語り
5372	60	新潟県	芋がら大木
5373	60	新潟県	芋殻を折るようなもんだ
5374	60	新潟県	置き釣失持たぬが不調法
5375	60	新潟県	起きて働く果報者
5376	60	新潟県	沖で底掘るまで小便するな
5377	60	新潟県	沖に吐き糞にも香かす
5378	60	新潟県	お客三杯、亭主八杯
5379	60	新潟県	お客三杯手八杯
5380	60	新潟県	奥徳の抜けた夢は不吉
5381	60	新潟県	送り団子の迎い小豆
5382	60	新潟県	贈り物は奇数にせよ
5383	60	新潟県	お餅のち香
5384	60	新潟県	桶が腐れば葉が腐る
5385	60	新潟県	お香々三切付けのものでない
5386	60	新潟県	お講にもソウデンにもこれ一つ
5387	60	新潟県	虎魚の下り潮に会うたよな面
5388	60	新潟県	怒り上戸に泣き上戸
5389	60	新潟県	おこぼれの手甲
5390	60	新潟県	お先たばことお先まま
5391	60	新潟県	お産は女の大役
5392	60	新潟県	借しがればおしが食う
5393	60	新潟県	押し糞案に吸い糞案
5394	60	新潟県	おしゃれしゃれも埋れ手がない
5395	60	新潟県	おじやれおじやれも埋れ手がない
5396	60	新潟県	おじと締打ちは食うが役
5397	60	新潟県	おじは貸すが馬は貸さぬ
5398	60	新潟県	叔父見りや荷が重い
5399	60	新潟県	押せに引く張り
5400	60	新潟県	おせん泣かぬ、火事出さぬ、前の田の草人に取らせるな
5401	60	新潟県	選べば牛も定に着く時は一つ
5402	60	新潟県	おだてともつこには馬鹿が乗る
5403	60	新潟県	落ち着き三杯
5404	60	新潟県	おっかし臭い遠慮の屁
5405	60	新潟県	おっさんとカボチャはなりしれだ
5406	60	新潟県	おっさんとカボチャはなりしれだ
5407	60	新潟県	おっさんとカボチャはなりしれだ
5408	60	新潟県	お天と三度と三度の飯はついてまわる
5409	60	新潟県	男心と秋の空
5410	60	新潟県	男心と川の瀬は夜の間に変わる
5411	60	新潟県	男だてより小錦だて
5412	60	新潟県	男の仕つき持つ
5413	60	新潟県	男の目には女をひけ、女の目には鈴をはれ
5414	60	新潟県	男は一生に一度地芝居と伊勢詣りはするものだ
5415	60	新潟県	男は気でもち酔は酔でもつ
5416	60	新潟県	男ばいと一人こと
5417	60	新潟県	男の眼でたれ女の眼つり
5418	60	新潟県	男やごめに娘がわき、女やごめに花が咲く
5419	60	新潟県	男よ派で尻っば
5420	60	新潟県	踊りに花火
5421	60	新潟県	鬼のおらぬ地獄
5422	60	新潟県	鬼のおらぬ地獄
5423	60	新潟県	小野見天神、化粧語り
5424	60	新潟県	小野見もんに出会うたよう
5425	60	新潟県	お祖母さん子三呂安
5426	60	新潟県	おば唄いたら姉返せ
5427	60	新潟県	伯母のとこへ行くより秋山へ行きやれ
5428	60	新潟県	おびやこのように物を食いたがる
5429	60	新潟県	お振舞いに行く前に馬肥え束ね
5430	60	新潟県	お風呂は普つかりのご馳走
5431	60	新潟県	小風呂の湯に下女
5432	60	新潟県	御神酒あがらぬ神はない
5433	60	新潟県	親おこれば子貧乏
5434	60	新潟県	親が死んでも食休み、軒端の下でも下り休み
5435	60	新潟県	親が死んでも食休み
5436	60	新潟県	親が死んでも食休み
5437	60	新潟県	親が死んでも食休み
5438	60	新潟県	親の仲にも銭は他人
5439	60	新潟県	親治はおれより年上
5440	60	新潟県	親と月夜はいつもよい
5441	60	新潟県	親に貸した金と味噌の塩
5442	60	新潟県	親に似ぬ子は鬼子に流せ
5443	60	新潟県	親に似ぬ子は鬼子に流せ
5444	60	新潟県	親にまさは竹の子ばかり
5445	60	新潟県	親の意見と冷や酒は後で効く
5446	60	新潟県	親の意見と霽雨はあとから効く
5447	60	新潟県	親の意見と茄子の花は千一つは無駄もない
5448	60	新潟県	親の息と春雨は当たるが知れぬ
5449	60	新潟県	親の首に綱かける
5450	60	新潟県	親の雪隠で糞をこく
5451	60	新潟県	親のばち、獲かぶついても当たる
5452	60	新潟県	親のばちは子にあたる
5453	60	新潟県	親の降る雨子にかかる
5454	60	新潟県	親の物子の物
5455	60	新潟県	親の守りて子おもしろい
5456	60	新潟県	親ばか畜生
5457	60	新潟県	親ばかチャンソそば屋の風鈴
5458	60	新潟県	親腹七目
5459	60	新潟県	親腹七目
5460	60	新潟県	親守り手機嫌
5461	60	新潟県	親を見て子を知る
5462	60	新潟県	お湯の寿命は水となる、嫁の寿命はばばあとなる
5463	60	新潟県	折戸男の異野女
5464	60	新潟県	終わり初物
5465	60	新潟県	終わり初物で七十五日生きのびる
5466	60	新潟県	終わり初物で七十五日生きのびる
5467	60	新潟県	尾を振る大は打てぬ
5468	60	新潟県	オングロベイも魚にん仲
5469	60	新潟県	女の立ち膝、騒動のもと
5470	60	新潟県	女と米の飯は白いほどよい
5471	60	新潟県	女と山菜は見置きするな
5472	60	新潟県	女と塩た物はすたりが無い
5473	60	新潟県	女に白歯見せるな
5474	60	新潟県	女の腰巻、火難を避ける
5475	60	新潟県	女子持腹、はせ舟が通る
5476	60	新潟県	女の子産んだら桐一本
5477	60	新潟県	女の桶がりと猫の桶がりは嘘
5478	60	新潟県	女の十二種見の舞納め

No	作業No	都道府県	ことわざ
5479	60	新潟県	女のすたりもんはない
5480	60	新潟県	女の腹が来るので雪が降る
5481	60	新潟県	女の腹は三日三日しかない
5482	60	新潟県	女は着物髪型
5483	60	新潟県	女は産にこりず、漁師は海にこりず
5484	60	新潟県	女厄年十九のかね付き、泣きかね、別れかね
5485	60	新潟県	おんぼろさんぼろ
5486	60	新潟県	おんぼろさんぼろワカメの行列
5487	60	新潟県	おんぼろさんぼろチヨウチョン雀がよけて通る
5488	60	新潟県	貝殻で海をはかる
5489	60	新潟県	階段から落ちた怪我は大い
5490	60	新潟県	海底濡れは雨となる
5491	60	新潟県	かいもちかつき、つぎ盗人
5492	60	新潟県	蛙、口から呑まれる
5493	60	新潟県	蛙子の尻の抜ける時
5494	60	新潟県	顔に似ぬ心
5495	60	新潟県	鳩と井戸水は替えたはどい
5496	60	新潟県	鳩と馬が全身上
5497	60	新潟県	鳩と馬は半身上
5498	60	新潟県	鳩の悪いは六十年の不作
5499	60	新潟県	鳩半身上
5500	60	新潟県	鳩を叱るのもご馳走のうち
5501	60	新潟県	柿が赤くなる。医者どんが青くなる
5502	60	新潟県	柿の皮は嫁に、梨の皮は姪に
5503	60	新潟県	柿の木二本あれば金が残る
5504	60	新潟県	柿の花穂んで田植する
5505	60	新潟県	かき成す
5506	60	新潟県	かくまどんの首は見たことがない
5507	60	新潟県	かくまど蚊を呑む
5508	60	新潟県	駆けつけ三杯
5509	60	新潟県	かげかん十日
5510	60	新潟県	陰口ちと影がさす
5511	60	新潟県	影の神のイブ木をとると風が吹く
5512	60	新潟県	猿と風は隠すほどふえる
5513	60	新潟県	傘と提灯、借りたらす返せ
5514	60	新潟県	笠のしずくも宿の得
5515	60	新潟県	頭がふらねば尾がふらぬ
5516	60	新潟県	火事へ寄
5517	60	新潟県	鍛冶野郎の長評定
5518	60	新潟県	鍛冶屋の明日に、紺屋の明後日
5519	60	新潟県	鍛冶屋のこんだ市
5520	60	新潟県	鍛冶屋の七十五日
5521	60	新潟県	貸す阿呆に、なす阿呆
5522	60	新潟県	春日ややきりて雪つかい
5523	60	新潟県	片足植植
5524	60	新潟県	堅いもの掘るのはへこのさ箸ばかり
5525	60	新潟県	片口開いては理が解らぬ
5526	60	新潟県	形に似た粽を巻く
5527	60	新潟県	片黒り片降り不作のもと
5528	60	新潟県	かた斬りなこ
5529	60	新潟県	かたもつ
5530	60	新潟県	かたもつこ担ぐ
5531	60	新潟県	語り下手の開き上手
5532	60	新潟県	郭公豆まけ
5533	60	新潟県	刈った茅が音をたてると雨になる
5534	60	新潟県	買ってもできない人財
5535	60	新潟県	河童に塩をあつらえる
5536	60	新潟県	河童の木登り
5537	60	新潟県	家庭の円満はお互いの遠慮から
5538	60	新潟県	門松を許くぐる
5539	60	新潟県	金輪の川流れが頭が上がる
5540	60	新潟県	金輪の川流れ
5541	60	新潟県	金と相談
5542	60	新潟県	金には金が付く
5543	60	新潟県	金を積むより信用を積め
5544	60	新潟県	カボチャ鉢の縁
5545	60	新潟県	庫の口は八石山に向けよ
5546	60	新潟県	かまをぶす
5547	60	新潟県	かさごの善悪、下さいごの食い倒れ
5548	60	新潟県	雷の多いは上作
5549	60	新潟県	雷の高飛び、雇いの高枕
5550	60	新潟県	茅葺のワイクワイ
5551	60	新潟県	茅葺の雀
5552	60	新潟県	茅葺の手が届かない
5553	60	新潟県	辛子は気遣いにするな
5554	60	新潟県	鳥にぶつかるべとも無い
5555	60	新潟県	鳥の糞かき
5556	60	新潟県	鳥の口にケラが余った
5557	60	新潟県	鳥の目の忘れ
5558	60	新潟県	鳥の物を隠したよう
5559	60	新潟県	鳥は黒いに憎まれず口に憎まれる
5560	60	新潟県	空茶は出すな
5561	60	新潟県	空茶は米揃きよりこわい
5562	60	新潟県	からん火焚けば隣の身上がある
5563	60	新潟県	空鍋掛けるな、水の中に湯を入れるな
5564	60	新潟県	からん火焚けば隣の身上がある
5565	60	新潟県	借り着より洗濯
5566	60	新潟県	借りて借り得、貸して貸し損
5567	60	新潟県	借りきた猫
5568	60	新潟県	借りるときは顔、返すときは顔腐ら
5569	60	新潟県	借りるときは重比須顔、返すときは顔腐ら
5570	60	新潟県	軽い返事、重い返事
5571	60	新潟県	可愛い子に他人の飯を食わせろ
5572	60	新潟県	可愛いほど叱る
5573	60	新潟県	カワフに塩をあつらえる
5574	60	新潟県	川流があくと天気がよくなる
5575	60	新潟県	川流があくと天気がよくなる
5576	60	新潟県	考え付、実をとらん
5577	60	新潟県	寒風の雨は虫になる
5578	60	新潟県	寒風の雨に土用三郎
5579	60	新潟県	寒風の水で夏の水にあたらぬ
5580	60	新潟県	寒風の水はくさらない
5581	60	新潟県	寒風の水を飲むと風邪を引かない
5582	60	新潟県	開興寺の味噌なめたか
5583	60	新潟県	寒四郎
5584	60	新潟県	寒中の雪は百日目に大荒れ
5585	60	新潟県	寒中の雪、大雪のもと
5586	60	新潟県	寒中の雪は海の潮がなくなる
5587	60	新潟県	寒巻き衣は土用を越せる
5588	60	新潟県	飽くまで
5589	60	新潟県	カンニョンの夜にイカ大漁
5590	60	新潟県	寒のうちの長雨は夢にも見るな
5591	60	新潟県	寒のどめ一つ雷は事を起こす
5592	60	新潟県	胸六が戻った
5593	60	新潟県	胸六が戻った
5594	60	新潟県	がらと言えは田螺汁
5595	60	新潟県	元日にしやみするは長命の相
5596	60	新潟県	元日に薬膳を出すな
5597	60	新潟県	元日のお日様は大きい
5598	60	新潟県	雁の中にドウまじり、ひときわ目立つ意。
5599	60	新潟県	雁の千金、見てや
5600	60	新潟県	気が利いて間が抜ける
5601	60	新潟県	聞けば聞き腹がたつ
5602	60	新潟県	汽車の汽笛が良く聞えたと天気が変わる
5603	60	新潟県	煙のめつと別れ
5604	60	新潟県	キスの眼、磨いたよう
5605	60	新潟県	舌を舐めてきれいに磨らせ
5606	60	新潟県	気遣いの後押ししても馬鹿の尻押しするな
5607	60	新潟県	狐を天馬に乗せたら
5608	60	新潟県	木で鼻かんだよう
5609	60	新潟県	絹着るか振着るか
5610	60	新潟県	木の箸と竹の箸を一緒に使うな
5611	60	新潟県	希望あらざれば努力なし
5612	60	新潟県	木も、竹も
5613	60	新潟県	きやてごさ
5614	60	新潟県	胡瓜はお宮のテノウ様にあげる前は食べるな
5615	60	新潟県	去年の暦であてにならぬ

No	作業 No	都道府県	ことわざ
5616	60	新潟県	器ほどのめしこき
5617	60	新潟県	器用袋芝、村の宝
5618	60	新潟県	露雨と親のバチは、当たらんようで当たる
5619	60	新潟県	露雨と親の意見は身にふりかかる
5620	60	新潟県	着れば着寒
5621	60	新潟県	着れば着風
5622	60	新潟県	切れ物持たら敵と思え
5623	60	新潟県	きんかの空耳
5624	60	新潟県	金銭に親子無し
5625	60	新潟県	金銭は浮き物
5626	60	新潟県	薬丸が上がったり下がったり
5627	60	新潟県	金時の火事見舞い
5628	60	新潟県	金北山の種時き葉
5629	60	新潟県	義理とふんどしは欠かせない
5630	60	新潟県	義理ばより類はれ
5631	60	新潟県	食うたら喰う目を見せよ
5632	60	新潟県	草一荷、米一升
5633	60	新潟県	腐っても鯛の背
5634	60	新潟県	腐り味にも取り得がある
5635	60	新潟県	腐れ柿がすくし柿を笑う
5636	60	新潟県	串柿の抜き食い
5637	60	新潟県	櫛を贈り物にするのではない
5638	60	新潟県	九九夜、いかに待たる
5639	60	新潟県	鯉波の祭りは雨祭り、川内の祭は天気祭り
5640	60	新潟県	薬十番付、百座百層付
5641	60	新潟県	薬皮十、身ではない
5642	60	新潟県	こそ毒が羽根を広げよう
5643	60	新潟県	下さるもの夏の深香
5644	60	新潟県	口身上
5645	60	新潟県	口は腹は大違い
5646	60	新潟県	口は腹もんならあんまのビツでも
5647	60	新潟県	口のきょうでお里が知れる
5648	60	新潟県	口の付いたものは片口もいや
5649	60	新潟県	口は親まかせ、尻はせんちまかせ
5650	60	新潟県	口はすんぐり
5651	60	新潟県	口は重宝
5652	60	新潟県	口は重宝
5653	60	新潟県	口を捲いて腹立てず
5654	60	新潟県	九日餅は搦くな
5655	60	新潟県	徳藏もん
5656	60	新潟県	組、親類
5657	60	新潟県	久米の親類の尻まくり
5658	60	新潟県	蜘蛛が雨を巣をひければ雨が降る
5659	60	新潟県	暗い所へ金が貯まる
5660	60	新潟県	暗闇から牛を引つ振り出したようだ
5661	60	新潟県	車に乗る人、乗せる人、そのまた草鞋を作る人
5662	60	新潟県	くれ上手の貰い上手
5663	60	新潟県	暮れぬ前の提灯
5664	60	新潟県	暮れぬ前の提灯
5665	60	新潟県	銀台はふなの木、立っていれば芽が出る
5666	60	新潟県	傾城買いの草履はかず
5667	60	新潟県	げら腹立てて鳥喜ぶ
5668	60	新潟県	喧嘩すると銭三文損がいく
5669	60	新潟県	下戸の箱荒らし
5670	60	新潟県	下戸の建てた倉はない
5671	60	新潟県	げじげじも一生、なめくじも一生
5672	60	新潟県	げす一す、のろまの三す、馬鹿の開け放し
5673	60	新潟県	げすの楽しみは寝直し
5674	60	新潟県	げすの成り上がりは餅の皮をむいて食う
5675	60	新潟県	下駄を預ける
5676	60	新潟県	鯉になれ鯛になれなくても蛙の子は蛙
5677	60	新潟県	鯉になれ鯛になれなくても蛙の子は蛙
5678	60	新潟県	こうぐり腹で皿なめた
5679	60	新潟県	こうぐり腹で酒三升
5680	60	新潟県	庚申の日に芽んだ子は盗人になる
5681	60	新潟県	庚申にも芽刈りにも
5682	60	新潟県	川内の祭りは雨祭り、鯉波の祭は天気祭り
5683	60	新潟県	川内の昼なかのようだ
5684	60	新潟県	肥え背負いは半休み
5685	60	新潟県	肥え畑の寝せメメズ、痩せ畑の肥えメメズ
5686	60	新潟県	小男の犬大まら
5687	60	新潟県	黄金の背の中でも光る
5688	60	新潟県	志は松葉に包め
5689	60	新潟県	心二つで身は一つ
5690	60	新潟県	腰巻とナンパンは赤いほど良い
5691	60	新潟県	乞食が馬持ったようだ
5692	60	新潟県	乞食が米をこぼしたようだ
5693	60	新潟県	乞食に茶碗
5694	60	新潟県	乞食の飯袋で手間暇かまわぬ
5695	60	新潟県	乞食の餅焼き
5696	60	新潟県	乞食の宿はしても、子守の宿はするな
5697	60	新潟県	乞食袋と西風は匹になるほど大きくなる
5698	60	新潟県	小姑一人鬼千匹
5699	60	新潟県	小姑は千匹
5700	60	新潟県	こたつの前で当たり前
5701	60	新潟県	こつても我が用になる
5702	60	新潟県	言づけは荷にならぬ
5703	60	新潟県	子ども川端火の用心
5704	60	新潟県	子ども三人産んで親の恩を知る
5705	60	新潟県	子ども八形はつかうほど良い
5706	60	新潟県	子どもの喧嘩に親の阿呆
5707	60	新潟県	子ども風の子、大人は火の子
5708	60	新潟県	子どもを持って泣いても、持たずに泣いた人はいない
5709	60	新潟県	粉糠三升あれば餅に行くな
5710	60	新潟県	この道ばかりは別
5711	60	新潟県	この道ばかりにや日は照らぬ
5712	60	新潟県	この世におつかないもんは古家の漏りとみびつの舌出し
5713	60	新潟県	子は親の肩を見て育つ
5714	60	新潟県	子は親の見習いする
5715	60	新潟県	木挽きの一升飯
5716	60	新潟県	コブの花さかりはゼンマイの盛り
5717	60	新潟県	瘤のの腫れ物
5718	60	新潟県	瘤のまらの内ぼたき
5719	60	新潟県	こみん男に青葉見せるな
5720	60	新潟県	小麦倒しにみみが出る
5721	60	新潟県	米作り飯になるまで水加減
5722	60	新潟県	米の黒いのは三徳、四徳
5723	60	新潟県	子持で子に子れん
5724	60	新潟県	疝を著ても綿を巻け
5725	60	新潟県	肥やより辛子の足あと
5726	60	新潟県	これも一生、あれも一生
5727	60	新潟県	ころんだ箸も起こさぬ
5728	60	新潟県	怖いものは馬鹿と借金
5729	60	新潟県	困窮年の上がる
5730	60	新潟県	困窮年の秋上げ
5731	60	新潟県	困窮年の雑魚
5732	60	新潟県	根性よし、父なし孕む
5733	60	新潟県	根性よしの義理知らず
5734	60	新潟県	今度と化物には会ったことがない
5735	60	新潟県	こんどはくの化物
5736	60	新潟県	暮打より田打
5737	60	新潟県	五月の雷は稲に良い
5738	60	新潟県	五月のヒルノトウは嫁に食わずな
5739	60	新潟県	五月日照りは困窮のもと
5740	60	新潟県	五月豆さすな 六月ごま蒔くな
5741	60	新潟県	五月つばは嫁に食わせるな
5742	60	新潟県	後家三代後乏
5743	60	新潟県	後家の高なし
5744	60	新潟県	後家五人は縁起が良い
5745	60	新潟県	誓女と契れば審判りが上手になる
5746	60	新潟県	誓女の段物のようだ
5747	60	新潟県	誓女の道連れ
5748	60	新潟県	誓女の初子
5749	60	新潟県	誓女の百人米
5750	60	新潟県	誓女を後生で泊める
5751	60	新潟県	誓女んさの荷のようだ
5752	60	新潟県	こまのおそ蒔き、小豆の早蒔き
5753	60	新潟県	こまめ歯ざり

No	作業 No	都道府県	ことわざ
5754	60	新潟県	五月五日に田植えんな
5755	60	新潟県	こんた、いじろく
5756	60	新潟県	権兵衛の踊り
5757	60	新潟県	こんべたろべ
5758	60	新潟県	西念寺の歌義で、まだある
5759	60	新潟県	財布の底と心の底は人に見せるな
5760	60	新潟県	逆さに振っても鼻血も出ない
5761	60	新潟県	作十、す、米一石
5762	60	新潟県	桜切る阿呆に梅切らぬ馬鹿
5763	60	新潟県	桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿
5764	60	新潟県	酒で殺されるは泥鰌ばかり
5765	60	新潟県	酒と朝寝は貧乏の近道
5766	60	新潟県	蛙の腹、磨いたようだ
5767	60	新潟県	酒飲みは台所前つめる
5768	60	新潟県	酒は酒屋に、魚は納屋に
5769	60	新潟県	酒も噛んで飲め
5770	60	新潟県	サン虫は債權んで待て
5771	60	新潟県	五月鯉、嫁に食わずな
5772	60	新潟県	さつこり刺して縁とらぬ
5773	60	新潟県	さつまいものつるかえし
5774	60	新潟県	里芋は田植えの歌聞いて芽を出す
5775	60	新潟県	佐十餅白
5776	60	新潟県	砂糖餅の前を走ったよう
5777	60	新潟県	砂糖餅の前を通り
5778	60	新潟県	里腹七日待つ
5779	60	新潟県	佐渡に無いものは狐と盗人
5780	60	新潟県	佐渡の付き合いたおれ
5781	60	新潟県	佐渡は一歩一歩馬鹿、二度行く馬鹿
5782	60	新潟県	鱈の生きざくれ
5783	60	新潟県	去りあとへ行くとも死にあとへ行くな
5784	60	新潟県	猿が白背つたようだ
5785	60	新潟県	猿が柿さわつたようだ
5786	60	新潟県	半西荒れに戌家風さ
5787	60	新潟県	騒ぎ大
5788	60	新潟県	三月餅句は毒餅、九月餅句は福餅
5789	60	新潟県	三月の花餅
5790	60	新潟県	三月の木の股さけ
5791	60	新潟県	産後の立派はほめたものでない
5792	60	新潟県	三十後家は重宝
5793	60	新潟県	三十のさね船ぼし
5794	60	新潟県	三十過ぎての女の子の意見
5795	60	新潟県	三十後家は呪死
5796	60	新潟県	三途の河原の加茂女
5797	60	新潟県	三条もんは生き馬の目を抜く
5798	60	新潟県	三寸流は津の水
5799	60	新潟県	三寸流は大川だ
5800	60	新潟県	三反田の人あと
5801	60	新潟県	さんちのズマキ
5802	60	新潟県	三人、子長者
5803	60	新潟県	三人づれのひとら乞食
5804	60	新潟県	三人食いな
5805	60	新潟県	三年味増に四年大根
5806	60	新潟県	三べん目の定の目
5807	60	新潟県	三宝荒神を立てる
5808	60	新潟県	サンマ嫁に食わずな
5809	60	新潟県	薩亡に屋敷毒くな
5810	60	新潟県	在郷の大食い
5811	60	新潟県	雑魚の魚まじり
5812	60	新潟県	雑頭の小使向こう見ず
5813	60	新潟県	穴で水汲む
5814	60	新潟県	しいな半分、実半分
5815	60	新潟県	稚谷の巾でますきる
5816	60	新潟県	稚谷の巾でますきる
5817	60	新潟県	稚谷の親善さんのようで沢山の人の
5818	60	新潟県	塩と女の過ぎたのはどうにもならぬ
5819	60	新潟県	塩引余計食う
5820	60	新潟県	四角に臭うコダツ尻
5821	60	新潟県	四角の座敷を丸く掃く
5822	60	新潟県	四月とうきょうに食わずな
5823	60	新潟県	四月のアブラメ嫁に食わせるな
5824	60	新潟県	五月農には雑子着て、五月農にはぬのこを着る
5825	60	新潟県	四月の日に心ない者に使われるな、 十月の日に心ない者を使うな
5826	60	新潟県	死さ馬に嫁
5827	60	新潟県	仕事馬より工面
5828	60	新潟県	仕事は大勢、うまいもんは小ぜい
5829	60	新潟県	仕事は葉、だお者の病気
5830	60	新潟県	仕事は仕舞いが大変
5831	60	新潟県	仕事はノキリ引く間にせよ
5832	60	新潟県	仕事は半日、口弁慶
5833	60	新潟県	四十過ぎの道楽と七つりの雨は止らぬ
5834	60	新潟県	四十女と春降る雪は固そうとてけやすい
5835	60	新潟県	四十くらがりやの五十ぼつちり
5836	60	新潟県	四十九のどき子
5837	60	新潟県	四十腰の五十肩
5838	60	新潟県	四十腰の家が古い
5839	60	新潟県	四十二の産みじまい
5840	60	新潟県	四十二のきんたま落とし
5841	60	新潟県	四十二の二つ子
5842	60	新潟県	四十の手つ暗がり
5843	60	新潟県	四十の恥かき子
5844	60	新潟県	下田男と物取の門
5845	60	新潟県	しはわと物取の門
5846	60	新潟県	七が盆蓋こわすよう
5847	60	新潟県	七月照りの七七食
5848	60	新潟県	七月に茄子を植えると仏茄子
5849	60	新潟県	七月初び嫁に食わずな
5850	60	新潟県	七が鉄砲、打ち放し
5851	60	新潟県	七、八
5852	60	新潟県	七立あれば上作
5853	60	新潟県	知ったかぶりの恥かき
5854	60	新潟県	しつぱたとほつたの遣い
5855	60	新潟県	死なぬ子の三人、減らぬ金の百両
5856	60	新潟県	死なば二月
5857	60	新潟県	死なば盆前、飲まば飯前
5858	60	新潟県	死人の部屋には猫を入れるな
5859	60	新潟県	死ぬ死ぬというて死んだもんはない
5860	60	新潟県	死ぬ死ぬの長生き
5861	60	新潟県	死ぬ者目から
5862	60	新潟県	栄切ったあとには嫁に拾わせるな
5863	60	新潟県	しは草かぶつてから人のことをいえ
5864	60	新潟県	四分一
5865	60	新潟県	洗柿も申柿にすれば甘くなる
5866	60	新潟県	島が近くに見えれば雨が降る
5867	60	新潟県	始末もこまつもならぬ
5868	60	新潟県	霜月の餅つ日和
5869	60	新潟県	借金は質においたほうがいい
5870	60	新潟県	しゃべらぬほど利巧なことはない
5871	60	新潟県	しゃべりは耳かきにならぬ
5872	60	新潟県	しゅうとめと妻は踏んだほどよい
5873	60	新潟県	姉の十七、見たことない
5874	60	新潟県	姉婆ととつやぐらの足
5875	60	新潟県	姉婆ととつやぐらの足
5876	60	新潟県	姉婆ととつやぐらの足
5877	60	新潟県	姉婆ととつやぐらの足
5878	60	新潟県	姉婆ととつやぐらの足
5879	60	新潟県	姉婆ととつやぐらの足
5880	60	新潟県	正月一日の夜は女に髪結わせぬ
5881	60	新潟県	正月に女が最初に死ぬと七墓つく
5882	60	新潟県	しうたれじやれこき
5883	60	新潟県	正得盗損
5884	60	新潟県	庄屋の跡は茄子畑
5885	60	新潟県	知らず半蔵
5886	60	新潟県	知らず半蔵のが法の式、知って問うのが仁義問い
5887	60	新潟県	鬼と借金は隠せば殖える
5888	60	新潟県	鼠と言われも口と言われるな

No	作業No	都道府県	ことわざ
5889	60	新潟県	シロワの一尋飲み
5890	60	新潟県	白紙も信仰から
5891	60	新潟県	白飯に豆腐汁
5892	60	新潟県	師走の葉さらし貝
5893	60	新潟県	師走の八日吹雪
5894	60	新潟県	四手三日に種時くな
5895	60	新潟県	冥手をくはくはくほど良い
5896	60	新潟県	身上も種も立たん
5897	60	新潟県	身上が太れば体も太る
5898	60	新潟県	身上と恋はでっかいほどよい
5899	60	新潟県	身上見るより件見い
5900	60	新潟県	神先仏後
5901	60	新潟県	身代はた餅は大きいが良い
5902	60	新潟県	死んだ子は利口
5903	60	新潟県	死んだ先を見たもんない
5904	60	新潟県	死んだちや臭い
5905	60	新潟県	死んだもん因果
5906	60	新潟県	死んだんの死に損
5907	60	新潟県	真鍮らっば
5908	60	新潟県	死んでに損ないは無い
5909	60	新潟県	辛抱する木に金になる
5910	60	新潟県	新米まんにとろろ汁
5911	60	新潟県	信用は無限の資本なり
5912	60	新潟県	命貯める、息子養する、孫使う
5913	60	新潟県	地蔵様は舌の生えたうな
5914	60	新潟県	自分勝手と紋付きはすたらない
5915	60	新潟県	自慢し機、馬鹿の家
5916	60	新潟県	自慢は知恵の行き止まり
5917	60	新潟県	蛇がかんばちでも構わない
5918	60	新潟県	蛇に纏、容易なこと。
5919	60	新潟県	十月の菊、バエ
5920	60	新潟県	十九の古妻、二十五の小野郎
5921	60	新潟県	十九厄年やしねえでも孕む
5922	60	新潟県	十五夜の餅、喰わんちうは作ほんな
5923	60	新潟県	十月の小春
5924	60	新潟県	十月の五、六月
5925	60	新潟県	十月のツツカリ、ババコロシ
5926	60	新潟県	上戸毒知らず
5927	60	新潟県	上州の肴倒れ、越後の食い倒れ
5928	60	新潟県	上手なうそより下手なまこと
5929	60	新潟県	女郎買いのぬかみそ菜
5930	60	新潟県	女郎買いの草履銭こざり
5931	60	新潟県	人殺しは終る
5932	60	新潟県	西瓜と織の腰巻はよいほど良い
5933	60	新潟県	水種縁過ぎれば鍋の中のおも逃げる
5934	60	新潟県	握え風呂で牛蒡洗うよう
5935	60	新潟県	好きがたりとタスの紐
5936	60	新潟県	好きに腰にまらずいものなし
5937	60	新潟県	杉のつらねは背がない
5938	60	新潟県	すげごのあしでも喰いだい
5939	60	新潟県	スケトウの嫁入り
5940	60	新潟県	雀子に針
5941	60	新潟県	雀の酒盛りのように
5942	60	新潟県	捨て子に産土神
5943	60	新潟県	酔でも酔酔でも食われたい
5944	60	新潟県	脛一本、まら一本
5945	60	新潟県	脛に疵あれば竹藪は通れぬ
5946	60	新潟県	脛に毛の無いんに金貨すな
5947	60	新潟県	すみがかんじん
5948	60	新潟県	住むは山
5949	60	新潟県	相撲取りは負けた話はせぬ
5950	60	新潟県	住もうばおおどこの犬
5951	60	新潟県	相撲場のくずれたよう
5952	60	新潟県	守門師の雪が消えるとツツアの財布がからっぽになる
5953	60	新潟県	するようにならないで、なるようになる
5954	60	新潟県	せいふで尻こい
5955	60	新潟県	せいふのかりたては観ても惚れる
5956	60	新潟県	せかぬ者の節句ばたらき
5957	60	新潟県	閩田の風雲、妙高の笠雲
5958	60	新潟県	石仏にものを言わせる
5959	60	新潟県	世間はより障子はれ
5960	60	新潟県	せせなうとせせなうとミスが出る
5961	60	新潟県	せらうと二晩泊まれば、猫の面が三尺になる
5962	60	新潟県	節季ナツズの春ムカシ
5963	60	新潟県	節季の風邪は買うてもひけ
5964	60	新潟県	節季の金は羽が生えて飛ぶ
5965	60	新潟県	節季の菖蒲の枯れるよう、六日の菖蒲の流れるよう
5966	60	新潟県	節句働きは兼代になる
5967	60	新潟県	せつこ神頼み
5968	60	新潟県	節分の夜早く寝ると年を取る
5969	60	新潟県	せやみこきの節句ばたらき
5970	60	新潟県	世話焼きごう焼き
5971	60	新潟県	千刈り百姓四五間
5972	60	新潟県	千刈り作より一人人口はなせ
5973	60	新潟県	千刈り百姓食うや食わず
5974	60	新潟県	千手市、桃買ひ
5975	60	新潟県	雪隠大工
5976	60	新潟県	雪隠で尻めこむ
5977	60	新潟県	千の骨より子は至
5978	60	新潟県	千服吞らでも立ちタバコ、軒端の下でも下り休み
5979	60	新潟県	千の骨ぬらり
5980	60	新潟県	千三つ方から
5981	60	新潟県	千両のかたに七もり笠一かい
5982	60	新潟県	ぜいさん役なし
5983	60	新潟県	銭金は他人
5984	60	新潟県	銭金がつかつくと
5985	60	新潟県	銭と名がつかやヒゼンでもいい
5986	60	新潟県	銭とらん仕事はして口食わん仕事はするな
5987	60	新潟県	銭取りやんぬい、死にやんぬい
5988	60	新潟県	銭は有っても苦勞、無うても苦勞
5989	60	新潟県	善哉七打鐘かけず
5990	60	新潟県	センヤク山には嫁をやれ、コゴミ山には娘をやれ
5991	60	新潟県	葬式すんでの医者話
5992	60	新潟県	早朝姑のつこりは赤信号
5993	60	新潟県	総領の十五は貧乏の盛り
5994	60	新潟県	葬礼場の犬の糞
5995	60	新潟県	そうれん泣きのよう
5996	60	新潟県	葬礼場のすかんぼ
5997	60	新潟県	そうれん草鞋のよう
5998	60	新潟県	息災が金儲け
5999	60	新潟県	底無し上戸
6000	60	新潟県	せう手早
6001	60	新潟県	曾地の惣太か花田の花蔵、悪田の仁まだか春日のあんばい
6002	60	新潟県	曾地の尻り番か花田の鼻糞、吉井の夜ん糞
6003	60	新潟県	袖の下の情け
6004	60	新潟県	外が明るくなれば、家の中は暗くなる
6005	60	新潟県	外孫かわいがる気があったら、犬の子かわいがれ
6006	60	新潟県	ソバはほりかけ細に蒔け
6007	60	新潟県	ソバは日照りに蒔け
6008	60	新潟県	反り餅ごとみ鈍
6009	60	新潟県	損して得とれ
6010	60	新潟県	損は身代わり
6011	60	新潟県	死馬引きにもお庚申の塔にも
6012	60	新潟県	雑炊の塩辛いと女の気の強いは持ちあつかい
6013	60	新潟県	雑炊の焦げる臭いする所へ嫁くれるな
6014	60	新潟県	雑炊の揚げつきは嫁に、お粥の無けつきは娘にくれる
6015	60	新潟県	雑炊のこびつき嫁に食わせんな
6016	60	新潟県	太閤様でも子守はいやだ
6017	60	新潟県	大食は短命
6018	60	新潟県	大漁不漁は三年周期
6019	60	新潟県	田植え女に秋男
6020	60	新潟県	高い酒、買もち
6021	60	新潟県	高いものは火の見やぐらと源助そば
6022	60	新潟県	高く止まったお寺の鳥
6023	60	新潟県	高町からもらった猫のようだ おとなしいこと。
6024	60	新潟県	室、身につけよ
6025	60	新潟県	竹に花が咲くと枯れる
6026	60	新潟県	竹之高地のモ、権平原のハチャ、虫亀のネラ、蓮平のアカヤ

No	作業No	都道府県	ことわざ
6027	60	新潟県	竹の花は凶作
6028	60	新潟県	竹は親より子が背つ
6029	60	新潟県	蟷とつて成身食う
6030	60	新潟県	田下も畦下も同じ
6031	60	新潟県	たたかたれた者が目が寝れても、たたいた者の目は寝れぬ
6032	60	新潟県	たたいた山火事、掘れぬ
6033	60	新潟県	ただど安いもんはない
6034	60	新潟県	立ち聞きするより後生願え
6035	60	新潟県	逢者たききかす
6036	60	新潟県	逢者のしくじりや蓋かぶる
6037	60	新潟県	逢っている者は親でも使え
6038	60	新潟県	辰に裁つて巳に着い
6039	60	新潟県	たて木羽
6040	60	新潟県	縦横は握えるな
6041	60	新潟県	縦の物を横にもししない
6042	60	新潟県	田天王に田んぼに入ると目が潰れる
6043	60	新潟県	田中の医者どん、もとより悪い
6044	60	新潟県	欄元で薬種引きする
6045	60	新潟県	他人の飯にや骨がある
6046	60	新潟県	頼めば越後から米搦きに来る
6047	60	新潟県	頼めば鬼も八喰わぬ
6048	60	新潟県	田畑荒らしても子は荒らすな
6049	60	新潟県	たまごに鼻鼻
6050	60	新潟県	たまたま起さて猫踏みつづす
6051	60	新潟県	鱈場のくつあんこ
6052	60	新潟県	鱈場のタルマ烏賊
6053	60	新潟県	垂れすたき骨
6054	60	新潟県	俵十俵さるる、よくしゃべる意。
6055	60	新潟県	田を歩んでも、岡を歩んでも
6056	60	新潟県	タヌは蛇のかわりにならぬ
6057	60	新潟県	代がかわれば世が変わる
6058	60	新潟県	大工こころと盗みこころの無い人はいない
6059	60	新潟県	大黒の肥、味噌
6060	60	新潟県	大根盆前、ソバ盆後
6061	60	新潟県	大根時きは土用
6062	60	新潟県	大師講の跡隠し雪
6063	60	新潟県	大師講縁過ぎれば鍋の中のおも逃げる
6064	60	新潟県	大難が小難
6065	60	新潟県	だおもんひいときわざ
6066	60	新潟県	だこうと言えば負われる
6067	60	新潟県	だしの風は山の風
6068	60	新潟県	黙り虫壁を破る
6069	60	新潟県	団子雑炊は八人で火たけ
6070	60	新潟県	団子なすきの餅ねむり
6071	60	新潟県	段取り八つ
6072	60	新潟県	旦那さんと七助
6073	60	新潟県	だんまりの壁破り
6074	60	新潟県	小さいナンタン辛い
6075	60	新潟県	近い中にも礼儀
6076	60	新潟県	近い火で手あぶる
6077	60	新潟県	近くに嫁ぐは七つの徳をもっている
6078	60	新潟県	近くの神様より遠くの神様
6079	60	新潟県	近づく神に罰当たる
6080	60	新潟県	茶の花下向く年は大雪
6081	60	新潟県	長所伸ばせば短所が消える
6082	60	新潟県	提灯持ちは先は馬鹿になる
6083	60	新潟県	提灯持ちは前を歩けば
6084	60	新潟県	提灯持ち後に立たずし
6085	60	新潟県	帳面よごしの筆よし
6086	60	新潟県	チンがハクションした面
6087	60	新潟県	ちんこの使い
6088	60	新潟県	杖を頼っても人を頼るな
6089	60	新潟県	使っている餅は光
6090	60	新潟県	月笠かぶると雨が降る
6091	60	新潟県	月暈日暈は雨
6092	60	新潟県	月立つと米の値上がる
6093	60	新潟県	月の朔日、日の七日
6094	60	新潟県	月の十五暈、日の下り暈
6095	60	新潟県	月夜十五暈、闇夜十五日
6096	60	新潟県	月夜の大風なし
6097	60	新潟県	月夜廻りの蟹は身が少ない
6098	60	新潟県	つし猫のようだ
6099	60	新潟県	土に着いた金は堅い
6100	60	新潟県	釣った魚は鱈はやらない
6101	60	新潟県	つっじ魚屋はばわらびの出盛り
6102	60	新潟県	綱女女の赤谷男
6103	60	新潟県	椿伐る馬鹿、植える馬鹿
6104	60	新潟県	蒸が低く飛ぶと天気が悪くなる
6105	60	新潟県	ツバメも手に取りや臭い
6106	60	新潟県	ツバで拾って糞こぼす
6107	60	新潟県	瓜はうでで貯めた金
6108	60	新潟県	強いものマッカーサーとオッカーサー
6109	60	新潟県	連れが良ければ善光寺まわり
6110	60	新潟県	豊の早耳
6111	60	新潟県	亭主の好きならば餅湯漬け
6112	60	新潟県	亭主は丈夫留守がいい
6113	60	新潟県	丁寧袋
6114	60	新潟県	丁寧無調法
6115	60	新潟県	敵と思わば大切にせよ
6116	60	新潟県	てつきよが馬でうまいの嫌い
6117	60	新潟県	てっこの早泣き
6118	60	新潟県	手つり八貫、はいと一言
6119	60	新潟県	手でせぬ口尻口で物を言う
6120	60	新潟県	手にする子はなぐられない
6121	60	新潟県	手の中に入れたよう
6122	60	新潟県	手放しのあかんぬい
6123	60	新潟県	手ぶり八貫
6124	60	新潟県	手前の雪隠にばり糞こいてて
6125	60	新潟県	手間はもん
6126	60	新潟県	て苦ろが鳴くと日照りが続く
6127	60	新潟県	天一天上雨降らず、十方暮れ風吹かず
6128	60	新潟県	天竺と柿は軸ほど違う
6129	60	新潟県	猫でば鬼
6130	60	新潟県	天遣様と米の飯は付いて廻る
6131	60	新潟県	天遣様を殺さず、赤丹腹を空かさず
6132	60	新潟県	天王小豆に地蔵ソバ
6133	60	新潟県	天は高うてもこんで通れ、地は低うてもそろりと踏め
6134	60	新潟県	出さうで出ないのは、いい祭の葬礼とショウカチ小便
6135	60	新潟県	てっこのどのモッコ持ち
6136	60	新潟県	てっこのもんは産の隅からでも出る
6137	60	新潟県	出時知らずの上がり時知らず
6138	60	新潟県	出針は縁起が悪い
6139	60	新潟県	出穂水かけよ
6140	60	新潟県	出る出る三年、出て三年、かかって三年、後三年
6141	60	新潟県	十日の菊、六日のあやめ
6142	60	新潟県	冬さかすち一年取らせるな
6143	60	新潟県	冬さかすち一年取らせるな
6144	60	新潟県	冬さかすち一年取らせるな
6145	60	新潟県	冬さかすち一年取らせるな
6146	60	新潟県	冬さかすち一年取らせるな
6147	60	新潟県	冬さかすち一年取らせるな
6148	60	新潟県	冬さかすち一年取らせるな
6149	60	新潟県	冬さかすち一年取らせるな
6150	60	新潟県	冬さかすち一年取らせるな
6151	60	新潟県	豆腐に錠
6152	60	新潟県	唐箕の先にいるのと同じ
6153	60	新潟県	灯明を口で吹いて消すのではない
6154	60	新潟県	十日に一つ二十日に払う
6155	60	新潟県	十日の十す
6156	60	新潟県	遠く近いは男女の道、近く遠いは在郷の道
6157	60	新潟県	得仲間の損外れ
6158	60	新潟県	床屋のぼうぼう頭
6159	60	新潟県	所に合わして絵を掛け
6160	60	新潟県	年取り魚といっばい食った
6161	60	新潟県	年夜の晩酌の火のようだ
6162	60	新潟県	年寄り子ども
6163	60	新潟県	年寄りっ子は寒がる

No	作業No	都道府県	ことわざ
6164	60	新潟県	つゆ子は三文安い
6165	60	新潟県	年寄りや釘の頭は引つ込むほど良い
6166	60	新潟県	年寄りや紙袋は詰めねば立たぬ
6167	60	新潟県	年寄りの達者と春の雪
6168	60	新潟県	年寄りの昔話
6169	60	新潟県	年寄りの昔語り
6170	60	新潟県	年寄りの願まくり
6171	60	新潟県	栃尾屋も荷葉草
6172	60	新潟県	栃尾下駄の塩谷草鞋
6173	60	新潟県	とつぱ、うらつぱの話
6174	60	新潟県	隣の家は曾が建つと腹が立つ
6175	60	新潟県	隣のかさ餅
6176	60	新潟県	隣のへんさ焼き
6177	60	新潟県	隣のしんたに味がある
6178	60	新潟県	隣のものは雑炊でもうまい
6179	60	新潟県	飛び込み猫は鯛うな
6180	60	新潟県	真と八日に物裁つな
6181	60	新潟県	真の日に葬式するものではない
6182	60	新潟県	鳥食うてもどり食うな
6183	60	新潟県	鳥目に八ツ目
6184	60	新潟県	鳥も止まり時、嫁も行き時
6185	60	新潟県	鷹が鳴くと風が吹く
6186	60	新潟県	鷹も物を見ねば廻らん
6187	60	新潟県	毒にも薬にもならぬ
6188	60	新潟県	毒にも薬にも思ひ
6189	60	新潟県	どこの山盛る
6190	60	新潟県	どを押しせばそんな音が出る
6191	60	新潟県	泥鰌穴見つけた気になって
6192	60	新潟県	土台石をはねる
6193	60	新潟県	土台の腐るまで
6194	60	新潟県	土台の三代目
6195	60	新潟県	土用たり、縁結うて待て
6196	60	新潟県	土用七夕立は上作
6197	60	新潟県	土用次郎
6198	60	新潟県	土用茄子は植えんもの、師走カボチャは食わんも
6199	60	新潟県	土用にぬのこ
6200	60	新潟県	土の舞出たばかり
6201	60	新潟県	泥棒よけになるよな夫婦ごと
6202	60	新潟県	どんぐりがらの背比べ
6203	60	新潟県	ドンゴロベも魚の人情
6204	60	新潟県	どんぐりやと橋蓮は見ることがない
6205	60	新潟県	無いが意見の縁仕舞
6206	60	新潟県	泣いて離れは子どもを離
6207	60	新潟県	無いとき貧乏、有るとき大名
6208	60	新潟県	無いもんが食いたい
6209	60	新潟県	長坂は長い、水金短い
6210	60	新潟県	長袖が三人いると行履れ
6211	60	新潟県	長虫と長袖に構うな
6212	60	新潟県	流れ水、二寸
6213	60	新潟県	流れ水、二寸
6214	60	新潟県	泣節にも流行がある
6215	60	新潟県	泣きおもたか娘の草だ、えごえずぐも嫁取る草だ
6216	60	新潟県	泣く子に乳
6217	60	新潟県	泣く子は親のあつかい
6218	60	新潟県	泣く子は親口
6219	60	新潟県	泣く子もなべのは見て泣け
6220	60	新潟県	無くしても残るものは借金
6221	60	新潟県	投げどこへ投げたら落ちどこ見ん
6222	60	新潟県	仲人口はあてにらぬ
6223	60	新潟県	仲人口は半分
6224	60	新潟県	仲人の嘘八百
6225	60	新潟県	仲人の嘘八百
6226	60	新潟県	仲人は草鞋八足
6227	60	新潟県	梨の皮は乞食にむかせる、
6228	60	新潟県	梨の馬鹿めが十八年
6229	60	新潟県	茶仕と米の飯で不足を言うな
6230	60	新潟県	茄子は皮は厚はならぬ
6231	60	新潟県	茄子の遠肥え
6232	60	新潟県	茄子の花と親の意見は千に一つも無駄がない
6233	60	新潟県	茄子は七さく、芋は八さく
6234	60	新潟県	茄子畑っ子
6235	60	新潟県	なせ風、山から出る
6236	60	新潟県	鉦で頭刺るか、豊田屋へ行くか
6237	60	新潟県	菜、大根、半かまど
6238	60	新潟県	鳴った雷一度は落ちる
6239	60	新潟県	夏海、秋山
6240	60	新潟県	夏カンキに冬マンガク
6241	60	新潟県	夏作に納入れ、冬作に雑子
6242	60	新潟県	夏鱈、猫も食わぬ
6243	60	新潟県	夏寒きは洪水
6244	60	新潟県	夏の雨は馬の背を分ける
6245	60	新潟県	夏の風邪は出る日が知れぬ
6246	60	新潟県	夏の福は犬さ食わぬ
6247	60	新潟県	夏の作りは夜暮を著せよ、秋の作りは布を掛けよ
6248	60	新潟県	夏の馬鹿は奥へ行く
6249	60	新潟県	夏の火は嫁に焚かせん
6250	60	新潟県	夏のぼた餅、犬さ食わぬ
6251	60	新潟県	夏は水の下、糞中はたつ
6252	60	新潟県	七つとりは得取れ
6253	60	新潟県	七つとりは明日の雨
6254	60	新潟県	七つ劣りか三つ増しか
6255	60	新潟県	七つ子は投げても育つ
6256	60	新潟県	七つ子は育つが八月子は育たぬ
6257	60	新潟県	七つ子のふつた糞は犬も食わぬ
6258	60	新潟県	七つかりは通りに出らぬ
6259	60	新潟県	七つかりのへんこな茶
6260	60	新潟県	七つ晴れは明日のもつ
6261	60	新潟県	七つ前の子どもは神様
6262	60	新潟県	七つ八つは憎まれざかり
6263	60	新潟県	七つ八つは憎まれざかり
6264	60	新潟県	七つ八つは憎まれざかり
6265	60	新潟県	七日びに人より先に船おろすな
6266	60	新潟県	七日盆には七遍泳うて七遍泳げ
6267	60	新潟県	七日病み子や産め
6268	60	新潟県	名の無い鬼は青から出る
6269	60	新潟県	忘れ者の節句働き
6270	60	新潟県	なやの百くら飯
6271	60	新潟県	成らん者の成り上がり
6272	60	新潟県	熟れも餅
6273	60	新潟県	苗代押しは一人婿が逃げる
6274	60	新潟県	苗代時の婿泣かせ
6275	60	新潟県	苗代時には一人婿が逃げる
6276	60	新潟県	苗代半作
6277	60	新潟県	南天の葉多ければ雪多し
6278	60	新潟県	何でもない年は青からでよばる
6279	60	新潟県	南薬山の雨は隣のぼた餅より早い
6280	60	新潟県	なんばん食いに金貸すな
6281	60	新潟県	二階へ上げて梯子を引く
6282	60	新潟県	二階から足下ける
6283	60	新潟県	逃がした魚は大さき
6284	60	新潟県	握り餅
6285	60	新潟県	握りギンタマにホドコ手
6286	60	新潟県	握り子ほど物与えよ
6287	60	新潟県	憎い嫁から可愛い孫
6288	60	新潟県	にくにくの腹からいといとができる
6289	60	新潟県	憎まれど、頭堅い
6290	60	新潟県	西谷餅なしの塩谷餅掛け
6291	60	新潟県	西は浄土の風
6292	60	新潟県	西筑之、東大尽
6293	60	新潟県	西海女と早川男
6294	60	新潟県	二十九日は苦の餅、大年餅は揚かん
6295	60	新潟県	二十九日の朝飯前までふとる
6296	60	新潟県	二十五がすむと男は入り日
6297	60	新潟県	二十後家は立っても三十後家は立たぬ
6298	60	新潟県	煮すぎたうどん
6299	60	新潟県	煮た豆でない
6300	60	新潟県	二代子に別れたよりつらい
6301	60	新潟県	煮ても焼いても食わぬええのは姑婆さんと栗のいが

No	作業No	都道府県	ことわざ
6302	60	新潟県	二度事二度
6303	60	新潟県	二度地干て二度ほめよ
6304	60	新潟県	二度と効かぬ東福寺の目薬
6305	60	新潟県	二人前は働けない
6306	60	新潟県	二人の息つかれぬ
6307	60	新潟県	二百十日のはしり穂
6308	60	新潟県	二百十日の風祭り
6309	60	新潟県	荷物と味噌は軽いほど良い
6310	60	新潟県	女房と味噌は古いほど良い
6311	60	新潟県	女房やほど亭主もてませず
6312	60	新潟県	女房を質に入れても味噌つくれ
6313	60	新潟県	女房は縁元の仇
6314	60	新潟県	にわか雨と女の胸まくり
6315	60	新潟県	湯はだし、産湯は水だ
6316	60	新潟県	二月の石かやし
6317	60	新潟県	人参の好きな者は助平
6318	60	新潟県	人参は祭り過ぎて時け、牛蒡は雪融け水で時け
6319	60	新潟県	糠火で八反、腹貫で九反
6320	60	新潟県	糠味噌の味が変わる
6321	60	新潟県	盗人にしつけ
6322	60	新潟県	盗人に鍵を貸す
6323	60	新潟県	盗人の戸締まり
6324	60	新潟県	盗人のこわぐち
6325	60	新潟県	盗人の昼寝
6326	60	新潟県	盗人の寝てあっても子持ちの宿はない
6327	60	新潟県	ぬつり牛の餌まき
6328	60	新潟県	濡れた紙袋で口が開かん
6329	60	新潟県	葱は人影でも嫌う 葱の栽培は日蔭が良くないこと。
6330	60	新潟県	猫道より魚片付け
6331	60	新潟県	猫がむむ
6332	60	新潟県	猫が寝る
6333	60	新潟県	猫にマタビ泣く子に乳
6334	60	新潟県	猫にマタビ泣く子にかんぞう、おじにひや飯当り前
6335	60	新潟県	猫の紙袋で後下がり
6336	60	新潟県	猫の座がわり
6337	60	新潟県	猫の手も杓子の手も借りたい
6338	60	新潟県	猫の鼻にシシ
6339	60	新潟県	猫の面倒見えぬ者は人の面倒も見えぬ
6340	60	新潟県	猫、馬鹿、坊主
6341	60	新潟県	猫もらうなら親猫見せよ
6342	60	新潟県	鼠穴に水注ぐよう
6343	60	新潟県	鼠の口を塞いだらだよう
6344	60	新潟県	鼠の口を塞いだらだよう
6345	60	新潟県	鼠の居ない家には住むな
6346	60	新潟県	寝た牛は寝ておらぬ
6347	60	新潟県	寝た牛は寝ておらぬ
6348	60	新潟県	寝溜めと食い溜めはできない
6349	60	新潟県	寝た日は一度は覚める
6350	60	新潟県	寝てかたわになったものは石の地藏さん
6351	60	新潟県	寝て怪我した者はない
6352	60	新潟県	寝てこそ金も儲けたれ
6353	60	新潟県	寝床の下の新聞紙まで出した
6354	60	新潟県	寝不足あっても寝増しはない
6355	60	新潟県	ねふらま敵に潰させ
6356	60	新潟県	ねむってかく恥、立ってかく
6357	60	新潟県	寝るが法楽
6358	60	新潟県	寝る子は丈夫
6359	60	新潟県	寝る子は肥る
6360	60	新潟県	寝るほど楽はないのに起きて働く馬鹿もある
6361	60	新潟県	寝る目と食い口はさきがない
6362	60	新潟県	年始は盆まで
6363	60	新潟県	農どのアブラメは牛の尾にも食いつく
6364	60	新潟県	農は人並み
6365	60	新潟県	蛇山の空雲は大雪
6366	60	新潟県	蛇山の雲雪は小雪
6367	60	新潟県	ノッリ病人
6368	60	新潟県	ノッリ病人
6369	60	新潟県	ノッリ病人
6370	60	新潟県	野中の一本杉
6371	60	新潟県	野は人なま
6372	60	新潟県	野は人なま
6373	60	新潟県	野は知らずの下り土産
6374	60	新潟県	飲くれで建てた倉はない
6375	60	新潟県	飲まん酒にや酔わん
6376	60	新潟県	飲み気より食い気
6377	60	新潟県	飲みたいやんめい、食いたいやんめい
6378	60	新潟県	蚤の金玉
6379	60	新潟県	蚤の小便、蚊の涙
6380	60	新潟県	蚤の毒
6381	60	新潟県	蚤のめつと
6382	60	新潟県	飲め、食い山王
6383	60	新潟県	のめし飯の七瀬走り
6384	60	新潟県	のめし飯の節句はたらき
6385	60	新潟県	のめし飯の節句はたらき
6386	60	新潟県	野田間何もう、団子は米の粉
6387	60	新潟県	呑気な父さん
6388	60	新潟県	灰神楽、縁起がいい
6389	60	新潟県	吐いた唾が呑めるかい
6390	60	新潟県	ハイハイのいうこときかす
6391	60	新潟県	禿の横山稲妻光り、ここで光れば江戸まで光る、
6392	60	新潟県	はげんこうに生餅は大番だ
6393	60	新潟県	ハサミと女子は使いがら
6394	60	新潟県	箸一本で食べると片親になる
6395	60	新潟県	箸の上げ下げに世話をやく
6396	60	新潟県	走り馬に鞭
6397	60	新潟県	走り馬に鞭
6398	60	新潟県	恥かき道具
6399	60	新潟県	はじめトロトロ、なかパツパツ、グツグツめに火をひき、
6400	60	新潟県	親が死んでもふたとるな
6401	60	新潟県	運の葉に上がった糞蛙
6402	60	新潟県	畑の水練
6403	60	新潟県	ハタハタ荒れ
6404	60	新潟県	ハタハタは三年の古傷を呼び起こす
6405	60	新潟県	働く人形、首切らる
6406	60	新潟県	裸で尻まくりはできん
6407	60	新潟県	裸、物落とさす
6408	60	新潟県	八月風のソバあたり
6409	60	新潟県	八月の別れ蚊
6410	60	新潟県	八十八夜の別れ霜
6411	60	新潟県	八十八のとぼうざり
6412	60	新潟県	八十八のよね餅
6413	60	新潟県	八十八夜の晩の風
6414	60	新潟県	八十八夜は風で持つ
6415	60	新潟県	八年輪、三年増
6416	60	新潟県	八海頭巾は晴れたことはない
6417	60	新潟県	八海鉢巻は降ったことはない
6418	60	新潟県	八海夕立の志照り
6419	60	新潟県	八海夕立の志照り
6420	60	新潟県	八海夕立の志照り
6421	60	新潟県	八海夕立の志照り
6422	60	新潟県	八海夕立の志照り
6423	60	新潟県	八海夕立の志照り
6424	60	新潟県	八海夕立の志照り
6425	60	新潟県	八海夕立の志照り
6426	60	新潟県	八海夕立の志照り
6427	60	新潟県	八海夕立の志照り
6428	60	新潟県	八海夕立の志照り
6429	60	新潟県	八海夕立の志照り
6430	60	新潟県	八海夕立の志照り
6431	60	新潟県	八海夕立の志照り
6432	60	新潟県	八海夕立の志照り
6433	60	新潟県	八海夕立の志照り
6434	60	新潟県	八海夕立の志照り
6435	60	新潟県	八海夕立の志照り
6436	60	新潟県	八海夕立の志照り

No	作業No	都道府県	ことわざ
6437	60	新潟県	初物たら東向いて笑え
6438	60	新潟県	初物を食うと七十五日長生きする
6439	60	新潟県	鳩が憎うて豆まかん
6440	60	新潟県	鼻かんで年取るだけ
6441	60	新潟県	話し上手の仕事下手
6442	60	新潟県	話し上手の聞き上手
6443	60	新潟県	話のたわりはない
6444	60	新潟県	話は庚申の晩
6445	60	新潟県	話は庚申さんの晩に
6446	60	新潟県	話は尻へ来て終わる
6447	60	新潟県	話半分腹八分
6448	60	新潟県	話半分
6449	60	新潟県	話半分、見て三つ一
6450	60	新潟県	話や納屋町、火事は四谷へ
6451	60	新潟県	鼻汁出す子は肥る
6452	60	新潟県	花の下より鼻の下 花より団子と同じ。
6453	60	新潟県	浜が遠い
6454	60	新潟県	浜の松風音ばかり
6455	60	新潟県	薩、まの目
6456	60	新潟県	早食い早業 一芸のうち
6457	60	新潟県	早好きの早飽き
6458	60	新潟県	はや飽きの早飽き
6459	60	新潟県	早飯早業出世のもと
6460	60	新潟県	早飯も芸の内
6461	60	新潟県	旅行の物はすりたり物
6462	60	新潟県	腹立てるより倉建て
6463	60	新潟県	腹の皮突っ張りや目の皮ゆるむ
6464	60	新潟県	腹八分目、医者要らず
6465	60	新潟県	腹も身のうち
6466	60	新潟県	針ほどの穴から棒ほどの風
6467	60	新潟県	春餅は戻っても戻
6468	60	新潟県	春の雨は沖から、秋の雨は山から
6469	60	新潟県	春の土用に天気が良いと秋の土用も良い
6470	60	新潟県	春のながせはあいぬ風
6471	60	新潟県	春のながせは仏の風
6472	60	新潟県	春の日と親類の金持ち
6473	60	新潟県	春の日はまます母は、くれそうでくれない
6474	60	新潟県	春の日と欲しんぼうはくられるよめで、れん
6475	60	新潟県	春の日は夕飯食って三里時け
6476	60	新潟県	春の日は墨が降り、夏の日が白粉が降る
6477	60	新潟県	春の雪と女の腕まくり
6478	60	新潟県	春は海、秋は山
6479	60	新潟県	春は海、秋は山 馬鹿は松之山から来る
6480	60	新潟県	春日照り賊死のもと、秋上げ半作
6481	60	新潟県	春南秋北
6482	60	新潟県	春やあ、秋西
6483	60	新潟県	半夏生は地に鎮立てるな
6484	60	新潟県	半夏生は池や海の魚も浮く
6485	60	新潟県	半夏生はジョウ一匹いても浮き上がる
6486	60	新潟県	半夏生半作
6487	60	新潟県	半夏生に補えものするな
6488	60	新潟県	半夏生には田に入らず
6489	60	新潟県	ハンパ夏中、冬至冬中
6490	60	新潟県	半田五左衛門、新説の赤十郎
6491	60	新潟県	馬鹿は松之山から来る
6492	60	新潟県	馬鹿は鉄は使えよう
6493	60	新潟県	馬鹿と闇の夜が一番怖い
6494	60	新潟県	馬鹿と夕立は妻の方から来る
6495	60	新潟県	馬鹿な子ほど可愛い
6496	60	新潟県	馬鹿にかまう大馬鹿
6497	60	新潟県	馬鹿は理屈い
6498	60	新潟県	馬鹿は理屈い
6499	60	新潟県	馬鹿の大足、こげの小足
6500	60	新潟県	馬鹿の考え休むに似たり
6501	60	新潟県	馬鹿の三杯汁
6502	60	新潟県	馬鹿の杯、テューロの五杯
6503	60	新潟県	馬鹿の長衣
6504	60	新潟県	馬鹿の話と荒壁塗
6505	60	新潟県	馬鹿の馬鹿ぶとり
6506	60	新潟県	馬鹿の馬鹿喰い
6507	60	新潟県	馬鹿の馬鹿気
6508	60	新潟県	馬鹿の馬鹿突
6509	60	新潟県	馬鹿の3500の利口も、利口のまねする馬鹿もん
6510	60	新潟県	馬鹿、馬鹿、博打うち
6511	60	新潟県	馬鹿も休み休み言
6512	60	新潟県	婆育ちは三文安い
6513	60	新潟県	婆育ちの三文足らず
6514	60	新潟県	パンは縁に取らせ
6515	60	新潟県	パンクラのつかみ取り
6516	60	新潟県	日蔭の豆も時が来ればはざる
6517	60	新潟県	光るほど晴らん
6518	60	新潟県	東雷音ばかり
6519	60	新潟県	東雷と女の腕まくり
6520	60	新潟県	東雷は死人は帰ったためしない
6521	60	新潟県	東虹百日の日照り
6522	60	新潟県	東虹は晴れ、西虹は雨
6523	60	新潟県	東夕立、雨待たず
6524	60	新潟県	火が弱くなる
6525	60	新潟県	彼岸ソイラ
6526	60	新潟県	彼岸すきても七荒れ
6527	60	新潟県	彼岸すきても七はだえ
6528	60	新潟県	彼岸すきでての妻の肥え、三十過ぎてての親の意見
6529	60	新潟県	彼岸すきでての妻の肥え、土用過ぎての福の肥え
6530	60	新潟県	彼岸太郎
6531	60	新潟県	彼岸太郎、土用次郎、八專三郎、寒四郎
6532	60	新潟県	彼岸のむせくり、むせアケビ
6533	60	新潟県	彼岸の海苔雪
6534	60	新潟県	日暮れの山入り
6535	60	新潟県	膝かぶの茶屋に腰掛ける
6536	60	新潟県	左孕みは男の子
6537	60	新潟県	ヒッパク神家においてババが頭とかけた
6538	60	新潟県	日照り藤
6539	60	新潟県	日照りかぼちゃ
6540	60	新潟県	日照りかぼちゃ、降り夕顔
6541	60	新潟県	日照りに困窮なし
6542	60	新潟県	日照りに不作なし
6543	60	新潟県	日照り綿
6544	60	新潟県	人言いが人言
6545	60	新潟県	一口浄瑠璃と己が家知らぬ者なし
6546	60	新潟県	一口ものに類を焼く
6547	60	新潟県	ひとこと言えふふたこと返す
6548	60	新潟県	ひとことと小供はいいやすい
6549	60	新潟県	一つかりは金のわらんじで探せ
6550	60	新潟県	一つ畷、二つ増まれ、三つ見せめられ、四つ風邪ひき
6551	60	新潟県	一つ畷、国やかましい
6552	60	新潟県	一つ畷は作のよい兆
6553	60	新潟県	一つ粟が落ちたよう
6554	60	新潟県	一つ綿の鱈汁
6555	60	新潟県	一つつは可愛い盛り、三つ四つはいたずら盛り、七つ八つは憎まれ盛り
6556	60	新潟県	一つ返事
6557	60	新潟県	一つ増しは金の草鞋で探せ
6558	60	新潟県	一つ増しと七つ違いは金の草鞋で探せ
6559	60	新潟県	一つのものも大も食わぬ
6560	60	新潟県	人と小供はゆいやす
6561	60	新潟県	人取り難が人に捕られる
6562	60	新潟県	人の馬のころんだよな
6563	60	新潟県	人の口ふさいでも腹はふさげず
6564	60	新潟県	人の喧嘩は買っても入れ
6565	60	新潟県	人の事いわば座敷二度見てもいえ
6566	60	新潟県	人の善戯で鯛口たく
6567	60	新潟県	人の身上と着物の裏見人はいない
6568	60	新潟県	人の身上と着物の裏は見んがよい
6569	60	新潟県	人の切ないのは三年でも我慢する
6570	60	新潟県	人の提灯で明かり見る
6571	60	新潟県	人の手花は美しい
6572	60	新潟県	人のてんば、我てんば
6573	60	新潟県	

No	作業No	都道府県	ことわざ
6574	60	新潟県	人の情けは世の情け
6575	60	新潟県	人のへこので夜這い
6576	60	新潟県	人の飯は身の薬
6577	60	新潟県	人の舌で辞儀をする
6578	60	新潟県	人は衣裳
6579	60	新潟県	人は死んでも手の跡残る
6580	60	新潟県	人は人中、田は田中
6581	60	新潟県	人は病の器
6582	60	新潟県	人真似小真似、滝谷の狐
6583	60	新潟県	人自良のおからめ
6584	60	新潟県	一人だちの千人転ばし
6585	60	新潟県	ひとりっちは持たんに劣る
6586	60	新潟県	一人口は食わなくても二人口は食われる
6587	60	新潟県	一人っ子開白の位
6588	60	新潟県	一人もんに長者なし
6589	60	新潟県	人を鬼たら泥棒と思え、火を見たら火事と思え
6590	60	新潟県	ひなた狂言
6591	60	新潟県	火にあたるより陽にあたれ
6592	60	新潟県	丙午は幸主八人食い殺す
6593	60	新潟県	百姓は山と生きる
6594	60	新潟県	百姓の不作話と商人の損話
6595	60	新潟県	百姓の去年作
6596	60	新潟県	百姓の秋大名
6597	60	新潟県	百姓は義理かき、事かき、恥をかき、やっつとそれで粉つたき
6598	60	新潟県	やっつとそれで粉つたき
6599	60	新潟県	百年の大年
6600	60	新潟県	百年の大年
6601	60	新潟県	百年の大年
6602	60	新潟県	百年の大年
6603	60	新潟県	百年の大年
6604	60	新潟県	百年の大年
6605	60	新潟県	百年の大年
6606	60	新潟県	百年の大年
6607	60	新潟県	百年の大年
6608	60	新潟県	百年の大年
6609	60	新潟県	百年の大年
6610	60	新潟県	百年の大年
6611	60	新潟県	百年の大年
6612	60	新潟県	百年の大年
6613	60	新潟県	百年の大年
6614	60	新潟県	百年の大年
6615	60	新潟県	百年の大年
6616	60	新潟県	百年の大年
6617	60	新潟県	百年の大年
6618	60	新潟県	百年の大年
6619	60	新潟県	百年の大年
6620	60	新潟県	百年の大年
6621	60	新潟県	百年の大年
6622	60	新潟県	百年の大年
6623	60	新潟県	百年の大年
6624	60	新潟県	百年の大年
6625	60	新潟県	百年の大年
6626	60	新潟県	百年の大年
6627	60	新潟県	百年の大年
6628	60	新潟県	百年の大年
6629	60	新潟県	百年の大年
6630	60	新潟県	百年の大年
6631	60	新潟県	百年の大年
6632	60	新潟県	百年の大年
6633	60	新潟県	百年の大年
6634	60	新潟県	百年の大年
6635	60	新潟県	百年の大年
6636	60	新潟県	百年の大年
6637	60	新潟県	百年の大年
6638	60	新潟県	百年の大年
6639	60	新潟県	百年の大年
6640	60	新潟県	百年の大年
6641	60	新潟県	百年の大年
6642	60	新潟県	百年の大年
6643	60	新潟県	百年の大年
6644	60	新潟県	百年の大年
6645	60	新潟県	百年の大年
6646	60	新潟県	百年の大年
6647	60	新潟県	百年の大年
6648	60	新潟県	百年の大年
6649	60	新潟県	百年の大年
6650	60	新潟県	百年の大年
6651	60	新潟県	百年の大年
6652	60	新潟県	百年の大年
6653	60	新潟県	百年の大年
6654	60	新潟県	百年の大年
6655	60	新潟県	百年の大年
6656	60	新潟県	百年の大年
6657	60	新潟県	百年の大年
6658	60	新潟県	百年の大年
6659	60	新潟県	百年の大年
6660	60	新潟県	百年の大年
6661	60	新潟県	百年の大年
6662	60	新潟県	百年の大年
6663	60	新潟県	百年の大年
6664	60	新潟県	百年の大年
6665	60	新潟県	百年の大年
6666	60	新潟県	百年の大年
6667	60	新潟県	百年の大年
6668	60	新潟県	百年の大年
6669	60	新潟県	百年の大年
6670	60	新潟県	百年の大年
6671	60	新潟県	百年の大年
6672	60	新潟県	百年の大年
6673	60	新潟県	百年の大年
6674	60	新潟県	百年の大年
6675	60	新潟県	百年の大年
6676	60	新潟県	百年の大年
6677	60	新潟県	百年の大年
6678	60	新潟県	百年の大年
6679	60	新潟県	百年の大年
6680	60	新潟県	百年の大年
6681	60	新潟県	百年の大年
6682	60	新潟県	百年の大年
6683	60	新潟県	百年の大年
6684	60	新潟県	百年の大年
6685	60	新潟県	百年の大年
6686	60	新潟県	百年の大年
6687	60	新潟県	百年の大年
6688	60	新潟県	百年の大年
6689	60	新潟県	百年の大年
6690	60	新潟県	百年の大年
6691	60	新潟県	百年の大年
6692	60	新潟県	百年の大年
6693	60	新潟県	百年の大年
6694	60	新潟県	百年の大年
6695	60	新潟県	百年の大年
6696	60	新潟県	百年の大年
6697	60	新潟県	百年の大年
6698	60	新潟県	百年の大年
6699	60	新潟県	百年の大年
6700	60	新潟県	百年の大年
6701	60	新潟県	百年の大年
6702	60	新潟県	百年の大年
6703	60	新潟県	百年の大年
6704	60	新潟県	百年の大年
6705	60	新潟県	百年の大年
6706	60	新潟県	百年の大年
6707	60	新潟県	百年の大年
6708	60	新潟県	百年の大年
6709	60	新潟県	百年の大年
6710	60	新潟県	百年の大年

No	作業No	都道府県	ことわざ
6711	60	新潟県	盆の六日は地獄の釜も休む
6712	60	新潟県	盆の牡丹餅は犬も食わぬ
6713	60	新潟県	盆はいと腹のようだ
6714	60	新潟県	前で褒めるはけなすに劣る
6715	60	新潟県	前歯の欠けた子に構うな
6716	60	新潟県	時かすが芽を出す
6717	60	新潟県	時かすが芽を出さなカボチャの苗は植えるものでない
6718	60	新潟県	時かぬカボチャは食うな
6719	60	新潟県	孫は来てよし、行ってよし
6720	60	新潟県	孫は日に入っても痛くない
6721	60	新潟県	まさかの時は尻こみ
6722	60	新潟県	町の物情しんで斗の物失う
6723	60	新潟県	間違えと気遣いはどこにもある
6724	60	新潟県	町の物情しんで斗の物失う
6725	60	新潟県	町場の雪隠裏と、しれ猫の糞丸後へ出る
6726	60	新潟県	待ち十五夜に雨が降る
6727	60	新潟県	松の切り株一代かざり
6728	60	新潟県	松りた盆だ
6729	60	新潟県	ままがかの朝笑い
6730	60	新潟県	豆息災 豆は健康のもと
6731	60	新潟県	豆と十七はあるうち手を出す
6732	60	新潟県	豆の打ち、嫁にさせる
6733	60	新潟県	丸い卵も切りようで四角、ものも言ひようで角がたつ
6734	60	新潟県	まわる道路にたまる道路
6735	60	新潟県	専心申渡せば知事か
6736	60	新潟県	専心申渡せば知事か
6737	60	新潟県	三足七銀
6738	60	新潟県	右孕みは女子
6739	60	新潟県	三島の百合を取ると時化になる
6740	60	新潟県	水産物は降るまで
6741	60	新潟県	水に入られるものではない
6742	60	新潟県	水は半身上
6743	60	新潟県	水腹もいっつき
6744	60	新潟県	水見半作
6745	60	新潟県	見たと感めたは大違い
6746	60	新潟県	三倍強い
6747	60	新潟県	三日月は袖でも隠す
6748	60	新潟県	三つの子のこつちよう百まで
6749	60	新潟県	身でも皮でもねえ
6750	60	新潟県	身と仏は見れば尊い
6751	60	新潟県	港祭りであが無い
6752	60	新潟県	南風でもたんとき吹きや寒い
6753	60	新潟県	口にかかる雨は干にもかかる
6754	60	新潟県	裏空でんて持ち
6755	60	新潟県	ミズの京まわり
6756	60	新潟県	見目より髪したら
6757	60	新潟県	宮下くつのが島炬燵、亀貝仙石緒の小昔根柢
6758	60	新潟県	宮下くつのが島炬燵、亀貝仙石緒の小昔根柢
6759	60	新潟県	宮下くつのが島炬燵、亀貝仙石緒の小昔根柢
6760	60	新潟県	見るは法差、買うは道楽
6761	60	新潟県	見るもんを食
6762	60	新潟県	見れば目の毒
6763	60	新潟県	昔とった件つか
6764	60	新潟県	昔の娘は産んだ石は、憎いながらも後を見る
6765	60	新潟県	昔の娘は産んだ石は、憎いながらも後を見る
6766	60	新潟県	昔の南京焼で固い
6767	60	新潟県	昔のなごしより今の金貸し
6768	60	新潟県	ムカデのしたく
6769	60	新潟県	麦の穂子、菜のぬこ
6770	60	新潟県	麦めしと他身は食うときだけ
6771	60	新潟県	むくく尻
6772	60	新潟県	むくく尻
6773	60	新潟県	むくく尻は三年磨いても黒い
6774	60	新潟県	婿三代経けば身代残す
6775	60	新潟県	婿取り子は三文安い
6776	60	新潟県	婿取り子は三文安い
6777	60	新潟県	婿は座敷からもえ、嫁は二ヤからもえ
6778	60	新潟県	婿は座敷から嫁は台所から
6779	60	新潟県	虫ごしは俵吹編んで待つて
6780	60	新潟県	落の心経、馬の耳に風
6781	60	新潟県	落のベネタで昔ばかり
6782	60	新潟県	娘三人持てば食がつぶれる
6783	60	新潟県	娘三人持てば食がつぶれる
6784	60	新潟県	娘三人持つと身代が無くなる
6785	60	新潟県	娘十七、アザミの花もいと盛り
6786	60	新潟県	娘十七、アザミの花もいと盛り
6787	60	新潟県	娘と春の雪は固いようてどけやすい
6788	60	新潟県	娘と春の雪は固いようてどけやすい
6789	60	新潟県	娘婿の可愛いのと向こう腰の痛いの是我慢がならない
6790	60	新潟県	娘婿の可愛いのと向こう腰の痛いの是我慢がならない
6791	60	新潟県	胸かへが延びれば、尻かへがつまる
6792	60	新潟県	村松男と次第浜女
6793	60	新潟県	名月嫁
6794	60	新潟県	名月嫁
6795	60	新潟県	名月嫁
6796	60	新潟県	目から火が出るよう
6797	60	新潟県	めくららの垣のぞき
6798	60	新潟県	飯粒で鯛釣る
6799	60	新潟県	飯と云ったら火事より急げ
6800	60	新潟県	飯のみの鯛釣る
6801	60	新潟県	飯を食うと腹のと半になる
6802	60	新潟県	めくら目ばかり
6803	60	新潟県	目に見や憎くない、身上のためにもない
6804	60	新潟県	目の正月
6805	60	新潟県	目ほそ、鼻高く、桜色
6806	60	新潟県	目細くても口細くない
6807	60	新潟県	目もどき、口もどき
6808	60	新潟県	目もどき、口もどき
6809	60	新潟県	儲ける分別より、使わん分別
6810	60	新潟県	もうろう沢山いやいや沢山
6811	60	新潟県	もうらもちが石に当たったよう
6812	60	新潟県	もしも心にや
6813	60	新潟県	持たせる根性、持つ根性
6814	60	新潟県	持たぬご苦労、百の増し
6815	60	新潟県	もち米倒しのつぎ盗人
6816	60	新潟県	もち米ぬすつと、布かんじん
6817	60	新潟県	餅の中から屋根石
6818	60	新潟県	餅の中の種
6819	60	新潟県	餅は舌に焼かせろ、魚は殿様に焼かせろ
6820	60	新潟県	餅三日月
6821	60	新潟県	もつけない
6822	60	新潟県	持ったが因果
6823	60	新潟県	持ったが因果
6824	60	新潟県	元木にまざるツラ木なし
6825	60	新潟県	もとに増した積はない
6826	60	新潟県	もの言はずのもの言ひ
6827	60	新潟県	藻の裏に船をつなぐ
6828	60	新潟県	ものは人並み、団子も人並み
6829	60	新潟県	もの見ぬ先の胸勘定
6830	60	新潟県	腹引くほどで中おっぱ
6831	60	新潟県	もたらぬら告げてもいい、出すすても嫌だ
6832	60	新潟県	貰うものは亡者でも、出すのは舌でもいや
6833	60	新潟県	門徒物識らず、法華仏にならぬ
6834	60	新潟県	もんどして水を汲む
6835	60	新潟県	もんだひごとと変わりもん
6836	60	新潟県	もんだひごとと変わりもん
6837	60	新潟県	焼いた餅は焼かざらん
6838	60	新潟県	焼きた餅は嫁に食わずな
6839	60	新潟県	焼きた餅は焼かざらん
6840	60	新潟県	焼けた餅は嫁に食わずな
6841	60	新潟県	焼けた餅は嫁に食わずな
6842	60	新潟県	焼けた餅は嫁に食わずな
6843	60	新潟県	焼けた餅は嫁に食わずな
6844	60	新潟県	焼けた餅は嫁に食わずな
6845	60	新潟県	焼けた餅は嫁に食わずな
6846	60	新潟県	焼けた餅は嫁に食わずな
6847	60	新潟県	焼けた餅は嫁に食わずな
6848	60	新潟県	焼けた餅は嫁に食わずな

No	作業No	都道府県	ことわざ
6849	60	新潟県	宿、味噌、木根、鳩手間損
6850	60	新潟県	宿、味噌、木根、鳩使われ損
6851	60	新潟県	宿、味噌、木根、鳩使われ損
6852	60	新潟県	層根ひきの糞丸でつるし柿
6853	60	新潟県	弥彦山の雪が無くなると父の財布も空になる
6854	60	新潟県	敷医者紙に迷う
6855	60	新潟県	敷に黄金
6856	60	新潟県	破れかぶり耳のかかる
6857	60	新潟県	破れ顔で耳のかかる
6858	60	新潟県	破れ顔で耳のかかる
6859	60	新潟県	弥平、山公事また負けた
6860	60	新潟県	病は気から酔は酔から
6861	60	新潟県	山鬼、皮の変わりて冬早し
6862	60	新潟県	山が正気に見えると雨
6863	60	新潟県	東風商人はうちに入れるな
6864	60	新潟県	やのせの後はくんだり風
6865	60	新潟県	山の入り日は馬鹿が見る
6866	60	新潟県	山の神の日に山に入るを目を射抜かれる
6867	60	新潟県	山のすく裂縫にもなるが、人のすくなし用には立たぬ
6868	60	新潟県	山のすく裂縫にもなるが、人のすくなし用には立たぬ
6869	60	新潟県	山の見落とすは付きもの
6870	60	新潟県	病み上手の死に下手
6871	60	新潟県	病み上手の死に上手
6872	60	新潟県	病め度、死ぬ坊主
6873	60	新潟県	八幡堂のりりよう
6874	60	新潟県	柔らかい綿には塵が付く
6875	60	新潟県	夕虹は百日の照り
6876	60	新潟県	夕焼けには鎌とどげ
6877	60	新潟県	夕焼けには鎌とどげ
6878	60	新潟県	雪は晴れた朝、朝焼けは雨
6879	60	新潟県	雪は晴れた朝、朝焼けは雨
6880	60	新潟県	雪少なければ干害あり
6881	60	新潟県	雪と欲は積るほど道を忘れる
6882	60	新潟県	雪の上の糞
6883	60	新潟県	雪の喧嘩も消えるまで
6884	60	新潟県	雪の喧嘩も消えるまで
6885	60	新潟県	雪の降った次の日は裸者の洗濯
6886	60	新潟県	雪はネハンまで
6887	60	新潟県	雪道と顔汁はあとほどよい
6888	60	新潟県	湯の辞儀は水になる
6889	60	新潟県	湯の辞儀は水になる
6890	60	新潟県	湯の辞儀は水になる
6891	60	新潟県	夜明けの雨は笠履いで待て
6892	60	新潟県	良い考えはあとから出る
6893	60	新潟県	酔い覚めの水戸戸知らず
6894	60	新潟県	良い仲の小さいか
6895	60	新潟県	背にいた種
6896	60	新潟県	背の紅百日の日照
6897	60	新潟県	背の夜話、朝寝のもと
6898	60	新潟県	夜さりのもんに背くんでない
6899	60	新潟県	用心に怪我なし
6900	60	新潟県	用心に怪我なし
6901	60	新潟県	用心に怪我なし
6902	60	新潟県	余寒別れの吹雪
6903	60	新潟県	欲する鷹は爪を削る
6904	60	新潟県	欲て目を失う 欲に目がくらむ意。
6905	60	新潟県	欲得より損がつらい
6906	60	新潟県	横腹に産るは猫、馬鹿、坊主
6907	60	新潟県	吉井の米の飯に伊勢物
6908	60	新潟県	よだれを出す子犬
6909	60	新潟県	夜つづき嫌うて夜裏に間に合う
6910	60	新潟県	よっぱれ嫌うて夜裏に間に合う
6911	60	新潟県	四ツ郷男の異野女
6912	60	新潟県	四つ暗れに傘を預ける馬鹿もある
6913	60	新潟県	夜火を切ると鏡の死に目に見える
6914	60	新潟県	夜火を切ると鏡の死に目に見える
6915	60	新潟県	米山が出てくると餅
6916	60	新潟県	米山の笠雲、弥彦の胸雲
6917	60	新潟県	米山の狸型に野立ち
6918	60	新潟県	世の中はいつも八月十五夜、俺が二十のかか
6919	60	新潟県	十八、死なぬ子の三人、滅らぬ金の百両
6920	60	新潟県	世の中はいつも八月十五夜、俺が二十のかか
6921	60	新潟県	夜びかりの朝寝坊
6922	60	新潟県	夜道に日は暮れぬ
6923	60	新潟県	嫁と雪隠は遠いほどよい
6924	60	新潟県	嫁に行ったら晩でどうにでもなる
6925	60	新潟県	嫁の辞儀はおぼになる、湯の辞儀は水になる
6926	60	新潟県	嫁の三日はめ、奉公人の後ほめ
6927	60	新潟県	嫁は姑に似る
6928	60	新潟県	嫁は姑の使いがら
6929	60	新潟県	嫁は台所の隅からとれ
6930	60	新潟県	嫁は二ヤから貰え、婿は座敷から貰え
6931	60	新潟県	嫁は二ヤから貰え、婿は座敷から貰え
6932	60	新潟県	嫁を貰えば親を見て貰え
6933	60	新潟県	寄り合い欠かすな、もの言うな
6934	60	新潟県	夜、口笛を吹けば蛇が来る
6935	60	新潟県	夜、口笛を吹けば蛇が来る
6936	60	新潟県	夜、瓜切りはするな
6937	60	新潟県	夜、瓜を切ると命が縮まる
6938	60	新潟県	夜の種家、雨招く
6939	60	新潟県	朝の種家は暮らすな
6940	60	新潟県	夜の者に離れるな
6941	60	新潟県	夜のものにはずれん
6942	60	新潟県	読んで来ない者は七客
6943	60	新潟県	来年のことを言うて風が笑う
6944	60	新潟県	薄皮の皮剥き、剥いても剥いても皮ばかり
6945	60	新潟県	理屈と口はどこうにも付く
6946	60	新潟県	理屈と言葉はどこうにも付く
6947	60	新潟県	理屈はほつたにも付く
6948	60	新潟県	利口な子より馬鹿な子ほど可愛い
6949	60	新潟県	利口な子より馬鹿な子ほど可愛い
6950	60	新潟県	利口が利につく
6951	60	新潟県	利口が利につく
6952	60	新潟県	流儀悪いの鎌違
6953	60	新潟県	両足の下りたよう
6954	60	新潟県	漁師根性目の先はかり
6955	60	新潟県	漁師の親と鯉は会うときに笠をぬげ
6956	60	新潟県	漁師の先走り
6957	60	新潟県	漁師の先走り
6958	60	新潟県	糞する猫は音を出さず
6959	60	新潟県	両方立てれば身が立ぬ
6960	60	新潟県	両方立てれば身が立ぬ
6961	60	新潟県	怪気の積損
6962	60	新潟県	臨終際より勘定際が大事
6963	60	新潟県	留守居の櫛洗
6964	60	新潟県	留守守の素振振る舞い
6965	60	新潟県	礼も通されば無礼になる
6966	60	新潟県	礼も通されば無礼になる
6967	60	新潟県	老人の早寝
6968	60	新潟県	老人は心の通う知恵袋
6969	60	新潟県	六十一の木の股年
6970	60	新潟県	六蔵もん
6971	60	新潟県	若いときの苦労は買うてでもせい
6972	60	新潟県	若いときの苦労は買うてでもせい
6973	60	新潟県	若衆の長番物
6974	60	新潟県	若衆の強口は出るもど
6975	60	新潟県	我が子には目がない
6976	60	新潟県	我が子には目がない
6977	60	新潟県	我が身は人に問え
6978	60	新潟県	我が身は人に問え
6979	60	新潟県	ワサビは気短か者にすらせ
6980	60	新潟県	草鞋づくりで本職にや構うな
6981	60	新潟県	割にも子にも合わない
6982	60	新潟県	悪い鷹には餌を飼え

No	作業No	都道府県	ことわざ
7314	66	岩手県	次男 男りもの
7315	66	岩手県	死人の 一口食い
7316	66	岩手県	自慢機馬 馬鹿のうち
7317	66	岩手県	しゃべり過ぎ、塩の入れ過ぎは、取り返しがつかない
7318	66	岩手県	しゅうとが嫁に 粟を誇く
7319	66	岩手県	しよいふ行ったら 神さ尻を向けんな
7320	66	岩手県	しよいふと病は 病はよい
7321	66	岩手県	じょうじ腕の 一人おばにも
7322	66	岩手県	じょうじ腕の 下でも無う
7323	66	岩手県	じょうじ腕の 押し下り強い
7324	66	岩手県	じょうじ腕の 知らないかまどは 立ちない
7325	66	岩手県	知り顔の ほおかぶり
7326	66	岩手県	尻だれでも 手だんこな
7327	66	岩手県	親の泣き寄り 他人の食い寄り
7328	66	岩手県	親類を欲しがら 金持になれ
7329	66	岩手県	好きなと思えば 曲り木もまっすぐ
7330	66	岩手県	好きなと思えば 泣いても連れる
7331	66	岩手県	雀が群れておろければ 大雪が降る
7332	66	岩手県	雀の舞 丘上り
7333	66	岩手県	すらげた米にも あらがある
7334	66	岩手県	切腹の前にも 一服
7335	66	岩手県	昔なおばの所さ行くより 秋の山さ行く方がよい
7336	66	岩手県	銭と人は ありもの使い
7337	66	岩手県	千成は 思いがくひれる
7338	66	岩手県	千成の目を通して 稲穂を拾う
7339	66	岩手県	千円の日照りに飽きないが 一日の大雨降りに飽きる
7340	66	岩手県	損して 得とれ
7341	66	岩手県	大海の水をのんで鯛は鯛 泥水呑んでも鯛は鯛
7342	66	岩手県	大工の家に は 戸がない
7343	66	岩手県	大根のしっぽど かつ頭 人間と生まれた以上
7344	66	岩手県	大根の三日なし
7345	66	岩手県	岳の怒が やつて来た
7346	66	岩手県	立つてる者は 親でも使え
7347	66	岩手県	立つ鳥を見て 矢を研く
7348	66	岩手県	立つ鳥を見て 矢をはく
7349	66	岩手県	たとえとてうふは 投げんどごがない
7350	66	岩手県	他人の飯には 肴がある
7351	66	岩手県	他人の飯には とげがある
7352	66	岩手県	食べた所と金を借りた所さは 長居するな
7353	66	岩手県	食べ物と町用人は ひとつどこさ行く
7354	66	岩手県	留めれば タンペンも汚ない
7355	66	岩手県	便りの鳥さば ちもが寄る
7356	66	岩手県	便りを頼まれたら 石の投げだのは届き次第
7357	66	岩手県	旦那が長くさがれば 翌年粟の豊作
7358	66	岩手県	旦那泣かせの 水夫よるこぼせ
7359	66	岩手県	近い火で 手をあぶる
7360	66	岩手県	近よる神に 祭りあり
7361	66	岩手県	月日変れば 気も変わる
7362	66	岩手県	土まじりの無いや 疲れ易い
7363	66	岩手県	つとこる寝は 四十も泣きたくなる
7364	66	岩手県	つばめが 下を飛ばす雨
7365	66	岩手県	爪で拾って 糞でこぼす
7366	66	岩手県	運れば似る 焼けばひつつる
7367	66	岩手県	鉄山探さ 山よりそらばんの珠が怖い
7368	66	岩手県	手問どりと西風は 目が限り
7369	66	岩手県	でもこの種物 所嫌わず
7370	66	岩手県	天とは 人を殺さず
7371	66	岩手県	トウフと嫁は トリがけ 静かに押せをせ
7372	66	岩手県	トウフにかすがは 刺に釘
7373	66	岩手県	年寄りが金釘は ひっちゃう方がよい
7374	66	岩手県	年寄りは手をあぶるに 背中をあぶる
7375	66	岩手県	年寄りの手あぶりは 背中をあぶる
7376	66	岩手県	隣のしだみは ききないでうんまい
7377	66	岩手県	隣の福しいば 主もつけ
7378	66	岩手県	友を待つには 目の香を
7379	66	岩手県	土用どすに 寒くヒラ
7380	66	岩手県	土用の前の 寒の後
7381	66	岩手県	取る工夫より 使わぬ工夫
7382	66	岩手県	泥棒の尻を 金で追う
7383	66	岩手県	とわりが良ければ 世中良い
7384	66	岩手県	長いのには 巻かれる
7385	66	岩手県	投げたんに 使われる
7386	66	岩手県	濟す時の えんま願
7387	66	岩手県	実り木には 小葉から
7388	66	岩手県	実り木には 大名も寄る
7389	66	岩手県	成らぬ堪忍 するが堪忍
7390	66	岩手県	鳴る腹は 下る
7391	66	岩手県	なれば 腐らない
7392	66	岩手県	なんでもじよつこの かつすぐれ
7393	66	岩手県	苦いコロも 側があれば食う
7394	66	岩手県	似やい似やいの 釜のふた
7395	66	岩手県	濡れ物は 損はない
7396	66	岩手県	猫がつかを洗えば 天気が良くなる
7397	66	岩手県	猫がつかを洗えば 天気変わる
7398	66	岩手県	猫が騒がなくなれば 火事になる
7399	66	岩手県	鼠の音がしなくなれば 火事になる
7400	66	岩手県	鼠の音がしなくなれば 火事になる
7401	66	岩手県	鼠とらずの 櫛さかし
7402	66	岩手県	根でこそ金が儲かる
7403	66	岩手県	寝ない者で食ない者は 使うな
7404	66	岩手県	寝ない者に 起きない者
7405	66	岩手県	上りがあれば 下りもある
7406	66	岩手県	のろ川の人とり
7407	66	岩手県	馬鹿でも徳額 じいが孫
7408	66	岩手県	馬鹿でもチョンでも 親は親
7409	66	岩手県	馬鹿なほど かわい
7410	66	岩手県	馬鹿の三ほど ノロの一す
7411	66	岩手県	馬鹿も利口も 紙一枚
7412	66	岩手県	馬鹿の水盛り
7413	66	岩手県	廢物は 家の中から履いて出るな
7414	66	岩手県	箸と櫛は 夫ながらよい
7415	66	岩手県	裸腹も帯
7416	66	岩手県	鳩は三粒 カラスは半歩下にいる
7417	66	岩手県	鼻を曲げても 得をとれ
7418	66	岩手県	話には聞かない
7419	66	岩手県	バタバタ箆之に ノロ果報
7420	66	岩手県	歯にはさまった物と 貸した物はいつかは取れる
7421	66	岩手県	魚が噂れば 魚が取れる
7422	66	岩手県	早瀬は 腰つくなる
7423	66	岩手県	孕みながひしゃくで水を飲めば 難産をする
7424	66	岩手県	針と大木は 遠くから光る
7425	66	岩手県	張りの下の じこぼぼう
7426	66	岩手県	日が暮れたも 嫁のそざい
7427	66	岩手県	膝かぎを 嫁にしても憎い
7428	66	岩手県	日暮れの 山入り
7429	66	岩手県	人をやすむな やすみ柴で目を突く
7430	66	岩手県	人がバラを引くとき われは繻を引け
7431	66	岩手県	人種は 盗まれぬ
7432	66	岩手県	人には添って見ろ 馬には乗って見ろ
7433	66	岩手県	人には添って知れ 馬には乗って知れ
7434	66	岩手県	人の家切屋の入口は 家相が悪い
7435	66	岩手県	人の痛さは 三年こたえる
7436	66	岩手県	人が良いのも 梨のうまいのには かまどが無い
7437	66	岩手県	仏様に梨をあげれば 馬鹿が出る
7438	66	岩手県	人は人中 田は田中
7439	66	岩手県	人噂せば 水増す
7440	66	岩手県	一人娘は 国をふたげる
7441	66	岩手県	一人のふくれ面が 家中を暗くする
7442	66	岩手県	昼には眼があり 夜には耳がある
7443	66	岩手県	貧乏人の 高口
7444	66	岩手県	貧乏人の 裸洗い
7445	66	岩手県	夫婦げんかは おがだが過ぎる
7446	66	岩手県	夫婦げんかは 寝てなおる
7447	66	岩手県	二人かもどは立つが 一人かもどは立たない
7448	66	岩手県	降ったの返しは 照っての返し
7449	66	岩手県	冬のぬくみと 年寄りの強いのは ほんとうでない
7450	66	岩手県	尻ど火事は 騒く方がら
7451	66	岩手県	へらが突われれば 猫も犬ぬ 料理の得手

No	作業No	都道府県	ことわざ
7452	66	岩手県	はいちよ うの ほどり蒔き
7453	66	岩手県	はいちよ うの 着物には 坂にある
7454	66	岩手県	盆の六日に洗濯すれば 仏様が流れる
7455	66	岩手県	孫をめるがより まじりをめがれ
7456	66	岩手県	万の倉より 子は宝
7457	66	岩手県	水は 器になじむ
7458	66	岩手県	味噌を盗めば 手が三年臭い
7459	66	岩手県	味噌は揚って食べ 薪は割って燃せ
7460	66	岩手県	昔風もんと吹けば 寒い
7461	66	岩手県	昔風もつまずく石は 憎いながらも後を見る
7462	66	岩手県	昔の刀 売れない
7463	66	岩手県	習と引き出しは 抜け次第
7464	66	岩手県	習は長者から 嫁は木の尻から
7465	66	岩手県	めん鳥がときを告げれば 不思議な事が起こる
7466	66	岩手県	亡者の 気まかせ
7467	66	岩手県	元木にました 末木はない
7468	66	岩手県	ものやすの ひと言業
7469	66	岩手県	焼いて食うより 煮て食え
7470	66	岩手県	焼けばついに 火がつきやすい
7471	66	岩手県	やせの馬鹿力
7472	66	岩手県	やせの いっちょ回り
7473	66	岩手県	山さより 寝姿
7474	66	岩手県	夕方の虹は 四日の日照り
7475	66	岩手県	良いこめてい 灰俵を背負う
7476	66	岩手県	縁を貰えば 母を見る
7477	66	岩手県	縁を貰えば 母を見て貰え
7478	66	岩手県	縁を貰えば 親を貰え
7479	66	岩手県	縁と漬菜は 取りがけが良い
7480	66	岩手県	雷様が鳴ったら 桑の木を差せ
7481	66	岩手県	若竹は 笛になんない
7482	66	岩手県	若者がまどは 石の上の住まい
7483	66	岩手県	渡る世間に 鬼はない
7484	66	岩手県	むすの伸び水 年寄りの冷水
7485	66	岩手県	大霧に 風がない
7486	66	岩手県	大峰山にガスがかかれば 雨が降る
7487	66	岩手県	沖にシロヤグラが立つも 雪が降る
7488	66	岩手県	風が吹けば 霜が降らない
7489	66	岩手県	龍の松が鳴れば 雪が降る
7490	66	岩手県	長崎島の高いとこに トビが止まれば時化が来る
7491	66	岩手県	七ツ森にガスがかかれば 雨が降る
7492	66	岩手県	松崎の穴が鳴れば 時化が来る
7493	66	岩手県	二崎の鼻に霞がかかれば 雨が降る
7494	66	岩手県	とんぼが集めば 時化が来る
7495	66	岩手県	昔代川が北に流れば 鮭が獲れる
7496	66	岩手県	大蟹 刺籠がない
7497	66	岩手県	砂かつかが来れば カレイが釣れる
7498	66	岩手県	マイイがてつべんに 鵜が止まれば 時化が来る
7499	66	岩手県	白壁が灰色になれば 雨が降る
7500	67	福島県	あ言はずこ言う
7501	67	福島県	会津の印札
7502	67	福島県	会津勢知甘しいようで渋い
7503	67	福島県	開いた口が塞がらない
7504	67	福島県	開いた口に牡丹餅
7505	67	福島県	逢うは別れの始め
7506	67	福島県	青梁に雪
7507	67	福島県	青山に雪を見れば、その年雪薄し
7508	67	福島県	赤く雪をひねる
7509	67	福島県	赤子は泣き泣き育つ
7510	67	福島県	あかぎれに錢屋の裏 (錢屋は博勞町にある)
7511	67	福島県	垢も身のうち
7512	67	福島県	秋柴は嫁に焚かせろ
7513	67	福島県	秋加子は嫁に食わせるな
7514	67	福島県	強ければ 善にも強い
7515	67	福島県	朝雨に養い出す
7516	67	福島県	朝やが店に来ると、一日中客が多い
7517	67	福島県	朝起き千両
7518	67	福島県	朝起きは三文の得
7519	67	福島県	朝寝坊酒では身上がつづれる
7520	67	福島県	朝寝坊むむ
7521	67	福島県	朝茶はその日の種をのげる
7522	67	福島県	朝茶を飲めば縁起がよい
7523	67	福島県	朝銭出すな、夕紅糞揚げ
7524	67	福島県	朝紅糞糞や、夕紅糞揚げ
7525	67	福島県	朝茶は辞退するな
7526	67	福島県	朝寝坊
7527	67	福島県	朝寝坊
7528	67	福島県	朝寝坊
7529	67	福島県	朝寝坊
7530	67	福島県	朝寝坊
7531	67	福島県	朝寝坊
7532	67	福島県	朝寝坊
7533	67	福島県	朝寝坊
7534	67	福島県	朝寝坊
7535	67	福島県	朝寝坊
7536	67	福島県	朝寝坊
7537	67	福島県	朝寝坊
7538	67	福島県	朝寝坊
7539	67	福島県	朝寝坊
7540	67	福島県	朝寝坊
7541	67	福島県	朝寝坊
7542	67	福島県	朝寝坊
7543	67	福島県	朝寝坊
7544	67	福島県	朝寝坊
7545	67	福島県	朝寝坊
7546	67	福島県	朝寝坊
7547	67	福島県	朝寝坊
7548	67	福島県	朝寝坊
7549	67	福島県	朝寝坊
7550	67	福島県	朝寝坊
7551	67	福島県	朝寝坊
7552	67	福島県	朝寝坊
7553	67	福島県	朝寝坊
7554	67	福島県	朝寝坊
7555	67	福島県	朝寝坊
7556	67	福島県	朝寝坊
7557	67	福島県	朝寝坊
7558	67	福島県	朝寝坊
7559	67	福島県	朝寝坊
7560	67	福島県	朝寝坊
7561	67	福島県	朝寝坊
7562	67	福島県	朝寝坊
7563	67	福島県	朝寝坊
7564	67	福島県	朝寝坊
7565	67	福島県	朝寝坊
7566	67	福島県	朝寝坊
7567	67	福島県	朝寝坊
7568	67	福島県	朝寝坊
7569	67	福島県	朝寝坊
7570	67	福島県	朝寝坊
7571	67	福島県	朝寝坊
7572	67	福島県	朝寝坊
7573	67	福島県	朝寝坊
7574	67	福島県	朝寝坊
7575	67	福島県	朝寝坊
7576	67	福島県	朝寝坊
7577	67	福島県	朝寝坊
7578	67	福島県	朝寝坊
7579	67	福島県	朝寝坊
7580	67	福島県	朝寝坊
7581	67	福島県	朝寝坊
7582	67	福島県	朝寝坊
7583	67	福島県	朝寝坊
7584	67	福島県	朝寝坊
7585	67	福島県	朝寝坊
7586	67	福島県	朝寝坊
7587	67	福島県	朝寝坊
7588	67	福島県	朝寝坊

No	作業 No	都道府県	ことわざ
7589	67	福島県	一寸の虫にも五分の魂
7590	67	福島県	一杯茶は失礼になる
7591	67	福島県	一杯茶は葬式の時だけ
7592	67	福島県	いつ迄もあると思うな親と金
7593	67	福島県	いとしい子には旅させよ
7594	67	福島県	いぬい犬にたつみ舟舟
7595	67	福島県	犬は三日飼えば三年思を忘れない
7596	67	福島県	犬の糞も一盛り
7597	67	福島県	犬の高がかり
7598	67	福島県	犬も扱げば棒にあたる
7599	67	福島県	命あつての物種
7600	67	福島県	命長ければ恥多し
7601	67	福島県	命の流産
7602	67	福島県	井の中の蛙
7603	67	福島県	福箱は手伝わなくても損はない
7604	67	福島県	医は仁術
7605	67	福島県	今鳴いた鳥がちよつと笑つた
7606	67	福島県	いやいや、いやいやは女の癖
7607	67	福島県	色気より食い気
7608	67	福島県	顔の頭も信心から
7609	67	福島県	言わぬが花
7610	67	福島県	言わねば腹がふくれる
7611	67	福島県	上には上がある
7612	67	福島県	魚心あれば水心
7613	67	福島県	鶯鳴かせたこともある
7614	67	福島県	後髪が引かれる
7615	67	福島県	氏より育ち
7616	67	福島県	牛の形み
7617	67	福島県	牛を馬に乗り替える
7618	67	福島県	牛に引かれて善光寺
7619	67	福島県	嘘から出た実
7620	67	福島県	嘘は泥棒のはじまり
7621	67	福島県	嘘八百
7622	67	福島県	嘘も隠しもない
7623	67	福島県	嘘も方便
7624	67	福島県	嘘と身餅ついたことがない
7625	67	福島県	打たれても親の杖
7626	67	福島県	うだつが上らぬ
7627	67	福島県	内股着葉のようだ
7628	67	福島県	内孫より外孫
7629	67	福島県	内孫より外孫
7630	67	福島県	独立の犬木
7631	67	福島県	うなぎの寝床
7632	67	福島県	うぬぼれとせんきんのない者はない
7633	67	福島県	鶴の目、鷹の目
7634	67	福島県	売り言葉に買い言葉
7635	67	福島県	瓜二つ
7636	67	福島県	瓜の蔓に茄子はならぬ
7637	67	福島県	瓜にあり、瓜に瓜なし
7638	67	福島県	馬糞を踏むと背が高くなる
7639	67	福島県	馬の骨 馬屋がら
7640	67	福島県	馬の耳に念仏
7641	67	福島県	馬に馬蹄、人に人癖
7642	67	福島県	馬には乗って見ろ、人には添って見ろ
7643	67	福島県	馬は牛より、牛は牛より
7644	67	福島県	海に千年、河に千年。海に千年山に千年
7645	67	福島県	海のものとも河のものともつかぬ
7646	67	福島県	生みの親より育ての親
7647	67	福島県	梅干はその日の産のがれ
7648	67	福島県	梅に露
7649	67	福島県	噂をすれば影がさす
7650	67	福島県	運は寝て待て
7651	67	福島県	うなぎに梅漬は食い交ぜるな
7652	67	福島県	江戸の藪は長崎で討う
7653	67	福島県	椽の下の力持ち
7654	67	福島県	縁は真なものの味なもの
7655	67	福島県	老いば子に從
7656	67	福島県	大風吹けば桶屋がもうかる
7657	67	福島県	大きな大根辛くない
7658	67	福島県	大苗に豊年なし
7659	67	福島県	大雪の年は豊作
7660	67	福島県	負うなりに教えて浅瀬を渡る
7661	67	福島県	奥歯に物がかまる
7662	67	福島県	おごる長者に二代なし
7663	67	福島県	お里も知れる
7664	67	福島県	押しに押しされぬ
7665	67	福島県	運かりし由良之助
7666	67	福島県	傍目八目
7667	67	福島県	お茶を濁す
7668	67	福島県	お茶を濁す
7669	67	福島県	お月様がかきをかぶると雨になる
7670	67	福島県	男四十は分別盛り
7671	67	福島県	男やもめに親がわく
7672	67	福島県	帯に短し襷に長し
7673	67	福島県	勝れる者も謙をも顯む
7674	67	福島県	同じ穴のむじな
7675	67	福島県	同じ釜の飯を食う
7676	67	福島県	鬼が出るか蛇が出るか
7677	67	福島県	鬼が笑う
7678	67	福島県	鬼に金棒
7679	67	福島県	鬼にもなれば、仏にもなる
7680	67	福島県	鬼の首を取つたよう
7681	67	福島県	鬼の寝る間
7682	67	福島県	お前まで、わしや九十九まで
7683	67	福島県	お神酒あがぬ神はない
7684	67	福島県	思い切つたが吉日
7685	67	福島県	親孝行した時には親がない
7686	67	福島県	親子の中でも金は他人
7687	67	福島県	親が死んでも食休み
7688	67	福島県	親馬鹿、子馬鹿
7689	67	福島県	親に先立つは不孝
7690	67	福島県	親の腹と茄子尾の花は千に一の無駄もなし
7691	67	福島県	親の見と冷酒はあと程きく
7692	67	福島県	親の心、子知らず
7693	67	福島県	親の罰は子に当たる
7694	67	福島県	親の光は七光り
7695	67	福島県	親の欲目
7696	67	福島県	親はかくとも子は育つ
7697	67	福島県	親も親なら、子も子
7698	67	福島県	お山の大将俺一人
7699	67	福島県	終わりはつもの
7700	67	福島県	終わりをよければすべし
7701	67	福島県	恩を仇で返す
7702	67	福島県	二人書れば春しい
7703	67	福島県	女やもめに花が咲く
7704	67	福島県	鯛い犬に手を噛まれ
7705	67	福島県	蛙つぶすと雨が降る
7706	67	福島県	蛙の子は蛙
7707	67	福島県	蛙の小便
7708	67	福島県	蛙の面くら
7709	67	福島県	顔で笑つて心で泣く
7710	67	福島県	嬢の弱いのは六十年の不作
7711	67	福島県	柿の木と家内の角は折ったほどよい
7712	67	福島県	疵付け三杯
7713	67	福島県	釜で水を汲む
7714	67	福島県	竈の後の火の用心
7715	67	福島県	火事の後の火の用心
7716	67	福島県	稼ぐに追いつく貧乏なし
7717	67	福島県	風邪は万病のもと
7718	67	福島県	刀は侍の魂、鏡は女の魂
7719	67	福島県	肩の荷がおりる
7720	67	福島県	語れば驚かす
7721	67	福島県	郭公鳥の鳴くころに豆をまけ
7722	67	福島県	勝つて●の緒を締めよ
7723	67	福島県	勝つて敗けるも時の運
7724	67	福島県	勝つては官軍、負ければ賊軍
7725	67	福島県	河童の川流れ
7726	67	福島県	叶わぬ時の神頼み

No	作業 No	都道府県	ことわざ
7727	67	福島県	金は天下のまわりもの
7728	67	福島県	金時と痰つばは溜るほど汚い
7729	67	福島県	金のなる木はない
7730	67	福島県	金の切れ目が縁の切れ目
7731	67	福島県	壁に耳あり障子に目あり
7732	67	福島県	果報は寝て待て
7733	67	福島県	魚の甲より年の却
7734	67	福島県	痒い所に手が届く
7735	67	福島県	鳥が鳴くと不吉がある
7736	67	福島県	鳥の爪
7737	67	福島県	借る時のえびす顔、返す時の閻魔顔
7738	67	福島県	枯木も山の賑わい
7739	67	福島県	可愛い子には旅させよ
7740	67	福島県	瓦千年手入れ万年
7741	67	福島県	寒明さより二百十日目に降る雪さ根雪となる
7742	67	福島県	寒入りの一日は寒いのがよい
7743	67	福島県	寒入りににはゴマ味噌を食べ
7744	67	福島県	噛んで含める
7745	67	福島県	堪忍袋の緒が切れる
7746	67	福島県	寒の日は一升餅を嫁にくれるな
7747	67	福島県	看板に偽なし
7748	67	福島県	寒風の雨は悪作
7749	67	福島県	可愛さ余つて憎さ百倍
7750	67	福島県	川向こうの火事
7751	67	福島県	聞いて極楽、見て地獄
7752	67	福島県	聞くに落ちない語るに落ちる
7753	67	福島県	聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥
7754	67	福島県	睡りも鳴かずはうたれまい
7755	67	福島県	切つても切れぬ仲
7756	67	福島県	きつね馬に乗せたよう
7757	67	福島県	木で鼻を拭う
7758	67	福島県	木仏金仏弘
7759	67	福島県	兄弟は他人の始まり
7760	67	福島県	金銭は親子の仲でも他人
7761	67	福島県	金銭は親子の仲でも他人
7762	67	福島県	苦あれば薬あり
7763	67	福島県	食い溜めと寝溜めはできない
7764	67	福島県	首たて
7765	67	福島県	草を分けて探す
7766	67	福島県	草木も眠る丑三時
7767	67	福島県	臭い物には蓋
7768	67	福島県	腐つても鯉
7769	67	福島県	薬九層倍
7770	67	福島県	薬も味噌も一緒
7771	67	福島県	薬も味噌も一緒
7772	67	福島県	薬も味噌も一緒
7773	67	福島県	薬も味噌も一緒
7774	67	福島県	薬も味噌も一緒
7775	67	福島県	薬も味噌も一緒
7776	67	福島県	薬も味噌も一緒
7777	67	福島県	薬も味噌も一緒
7778	67	福島県	薬も味噌も一緒
7779	67	福島県	薬も味噌も一緒
7780	67	福島県	薬も味噌も一緒
7781	67	福島県	薬も味噌も一緒
7782	67	福島県	薬も味噌も一緒
7783	67	福島県	薬も味噌も一緒
7784	67	福島県	薬も味噌も一緒
7785	67	福島県	薬も味噌も一緒
7786	67	福島県	薬も味噌も一緒
7787	67	福島県	薬も味噌も一緒
7788	67	福島県	薬も味噌も一緒
7789	67	福島県	薬も味噌も一緒
7790	67	福島県	薬も味噌も一緒
7791	67	福島県	薬も味噌も一緒
7792	67	福島県	薬も味噌も一緒
7793	67	福島県	薬も味噌も一緒
7794	67	福島県	薬も味噌も一緒
7795	67	福島県	薬も味噌も一緒
7796	67	福島県	薬も味噌も一緒
7797	67	福島県	薬も味噌も一緒
7798	67	福島県	薬も味噌も一緒
7799	67	福島県	薬も味噌も一緒
7800	67	福島県	薬も味噌も一緒
7801	67	福島県	薬も味噌も一緒
7802	67	福島県	薬も味噌も一緒
7803	67	福島県	薬も味噌も一緒
7804	67	福島県	薬も味噌も一緒
7805	67	福島県	薬も味噌も一緒
7806	67	福島県	薬も味噌も一緒
7807	67	福島県	薬も味噌も一緒
7808	67	福島県	薬も味噌も一緒
7809	67	福島県	薬も味噌も一緒
7810	67	福島県	薬も味噌も一緒
7811	67	福島県	薬も味噌も一緒
7812	67	福島県	薬も味噌も一緒
7813	67	福島県	薬も味噌も一緒
7814	67	福島県	薬も味噌も一緒
7815	67	福島県	薬も味噌も一緒
7816	67	福島県	薬も味噌も一緒
7817	67	福島県	薬も味噌も一緒
7818	67	福島県	薬も味噌も一緒
7819	67	福島県	薬も味噌も一緒
7820	67	福島県	薬も味噌も一緒
7821	67	福島県	薬も味噌も一緒
7822	67	福島県	薬も味噌も一緒
7823	67	福島県	薬も味噌も一緒
7824	67	福島県	薬も味噌も一緒
7825	67	福島県	薬も味噌も一緒
7826	67	福島県	薬も味噌も一緒
7827	67	福島県	薬も味噌も一緒
7828	67	福島県	薬も味噌も一緒
7829	67	福島県	薬も味噌も一緒
7830	67	福島県	薬も味噌も一緒
7831	67	福島県	薬も味噌も一緒
7832	67	福島県	薬も味噌も一緒
7833	67	福島県	薬も味噌も一緒
7834	67	福島県	薬も味噌も一緒
7835	67	福島県	薬も味噌も一緒
7836	67	福島県	薬も味噌も一緒
7837	67	福島県	薬も味噌も一緒
7838	67	福島県	薬も味噌も一緒
7839	67	福島県	薬も味噌も一緒
7840	67	福島県	薬も味噌も一緒
7841	67	福島県	薬も味噌も一緒
7842	67	福島県	薬も味噌も一緒
7843	67	福島県	薬も味噌も一緒
7844	67	福島県	薬も味噌も一緒
7845	67	福島県	薬も味噌も一緒
7846	67	福島県	薬も味噌も一緒
7847	67	福島県	薬も味噌も一緒
7848	67	福島県	薬も味噌も一緒
7849	67	福島県	薬も味噌も一緒
7850	67	福島県	薬も味噌も一緒
7851	67	福島県	薬も味噌も一緒
7852	67	福島県	薬も味噌も一緒
7853	67	福島県	薬も味噌も一緒
7854	67	福島県	薬も味噌も一緒
7855	67	福島県	薬も味噌も一緒
7856	67	福島県	薬も味噌も一緒
7857	67	福島県	薬も味噌も一緒
7858	67	福島県	薬も味噌も一緒
7859	67	福島県	薬も味噌も一緒
7860	67	福島県	薬も味噌も一緒
7861	67	福島県	薬も味噌も一緒
7862	67	福島県	薬も味噌も一緒

No	作業No	都道府県	ことわざ
7863	67	福島県	千里も一歩から
7864	67	福島県	千里も一里
7865	67	福島県	千両に羅笠一かい
7866	67	福島県	損し得取れ
7867	67	福島県	総領の甚六
7868	67	福島県	そば食べて腹あぶる
7869	67	福島県	袖すり心うらも他生の縁
7870	67	福島県	蕎麦食べすぎて湯に入ると倒れる
7871	67	福島県	底なし上戸
7872	67	福島県	大金をとるなら小銭をとれ
7873	67	福島県	大工気と盗人気がない者はない
7874	67	福島県	大根を正宗で切る
7875	67	福島県	大草の節の小草
7876	67	福島県	田植えの時の中に苗を忘れるとまくら苗になる
7877	67	福島県	高みの見物
7878	67	福島県	宝の持とされ
7879	67	福島県	竹に花が咲くと、凶作になる
7880	67	福島県	曇と女房は新しい程よい
7881	67	福島県	たどり高いものはない
7882	67	福島県	立板に木
7883	67	福島県	欄からぼたもち
7884	67	福島県	他人の空似
7885	67	福島県	他人の權で相撲をとる
7886	67	福島県	頼まれれば越後から米掲きにもくる
7887	67	福島県	たびたひ移す木は育たない
7888	67	福島県	旅の恥はかき捨て
7889	67	福島県	旅は道連れ世は情
7890	67	福島県	立てば尺やくすわれればたん歩く姿はゆりの花
7891	67	福島県	食てすぐ寝ると牛になる
7892	67	福島県	卵の殻を踏げば痔疾を患う
7893	67	福島県	酔り吐くは寝る
7894	67	福島県	短気は損気
7895	67	福島県	近くと神様より遠くの神様
7896	67	福島県	地獄で仏
7897	67	福島県	地獄の沙汰も金次第
7898	67	福島県	血で血を洗う
7899	67	福島県	血も流さない
7900	67	福島県	提燈に釣鐘
7901	67	福島県	茶柱が立つとよいことがある
7902	67	福島県	塵も積まれれば山となる
7903	67	福島県	沈黙は金
7904	67	福島県	月夜に露の花盛り合った時は実がならない
7905	67	福島県	角を直して牛を殺す
7906	67	福島県	つばめの巣くう家には福がくる
7907	67	福島県	爪で拾って糞こぼす
7908	67	福島県	爪を燃せば気狂となる
7909	67	福島県	爪に火をともす
7910	67	福島県	爪の根を削じて飲め
7911	67	福島県	釣り落した魚は大きい
7912	67	福島県	鷹の早耳
7913	67	福島県	杖とも柱とも頼む
7914	67	福島県	亭主のすきは客に振舞う
7915	67	福島県	亭主八杯
7916	67	福島県	手づくりの言葉は迷信ではない
7917	67	福島県	でなにかなし、そっばにりこうなし
7918	67	福島県	手も足も出ない
7919	67	福島県	出る釘は打たれる
7920	67	福島県	天に向かて唾する
7921	67	福島県	遠くは男女の仲
7922	67	福島県	遠くは男女の仲
7923	67	福島県	遠くは男女の仲
7924	67	福島県	遠くは男女の仲
7925	67	福島県	遠くは男女の仲
7926	67	福島県	遠くは男女の仲
7927	67	福島県	灯台下暗し
7928	67	福島県	豆腐にかすがい
7929	67	福島県	豆腐の尻頭をぶっつける
7930	67	福島県	東北の食い倒れ関西の着倒れ
7931	67	福島県	時は金なり
7932	67	福島県	毒にも薬にもならぬ
7933	67	福島県	所変われば品変わる
7934	67	福島県	年寄りの文(一頁) 安い
7935	67	福島県	年寄りの冷水
7936	67	福島県	土用入れ寒かたびら
7937	67	福島県	取らぬ狸の皮算用
7938	67	福島県	鳥食うても「どり」食うな
7939	67	福島県	団栗の背比べ
7940	67	福島県	ない油はふれない
7941	67	福島県	泣いて寝るすも一生、笑って暮らすも一生
7942	67	福島県	長いものには巻かれよ
7943	67	福島県	長居におそれあり
7944	67	福島県	長道は無用
7945	67	福島県	立き顔に蜂
7946	67	福島県	立く顔に蜂
7947	67	福島県	鳴く雛よりも鳴かぬ雛が身をこがす
7948	67	福島県	夏どじょうは嫁にくれんな
7949	67	福島県	夏の火は嫁に焚かせろ
7950	67	福島県	夏餅は嫁にくわせろ
7951	67	福島県	納豆ばちのようた
7952	67	福島県	七転び八起き
7953	67	福島県	納豆餅は火傷する
7954	67	福島県	習うより慣れよ
7955	67	福島県	苗代のくろに小豆を植えるな
7956	67	福島県	にわとりが首とときをつくれれば不吉である
7957	67	福島県	女房を置は新しい程よい
7958	67	福島県	二度を遣う者一発も得ず
7959	67	福島県	二度あることは二度ある
7960	67	福島県	似たもの夫婦
7961	67	福島県	憎まれっ子世にはばからぬ
7962	67	福島県	二十後家は立つが三十後家は立たぬ
7963	67	福島県	二十五の朝食前まで
7964	67	福島県	足車ははくくな
7965	67	福島県	妊娠に餅をやるな
7966	67	福島県	糠に釘豆、腐にかすがひ
7967	67	福島県	濡れ手に粟
7968	67	福島県	盗人の逆恨み
7969	67	福島県	盗人のひるね
7970	67	福島県	尋耳に水
7971	67	福島県	念には念を入れ
7972	67	福島県	猫の手も借りたい
7973	67	福島県	猫に小判
7974	67	福島県	猫にまたたび泣く子にお乳
7975	67	福島県	能ある鷹は爪をかくす
7976	67	福島県	軒を貸して母屋をとられる
7977	67	福島県	残り物は福授かる
7978	67	福島県	のどから手が出る
7979	67	福島県	咽喉もと過ぎれば熱さを忘れる
7980	67	福島県	上り坂あれば下り坂あり
7981	67	福島県	飲まぬ酒に酔っぱらう
7982	67	福島県	存心と誠と歌うに誠
7983	67	福島県	福団ちやん子は三文安い
7984	67	福島県	福が落ちてからべろ連者
7985	67	福島県	馬鹿と鉄は使いよう
7986	67	福島県	馬鹿に苦なし
7987	67	福島県	馬鹿につける薬はない
7988	67	福島県	馬鹿の力食い
7989	67	福島県	馬鹿のむぞがり
7990	67	福島県	化けの皮を現わす
7991	67	福島県	はじめに二度なし
7992	67	福島県	はじめよければ終わりよし
7993	67	福島県	畑に地じばり青田にびるも
7994	67	福島県	畑にほまぐり
7995	67	福島県	八細工の七貧乏
7996	67	福島県	話し上手は聞き上手
7997	67	福島県	話しは庚申の晩
7998	67	福島県	鼻の下が長い
7999	67	福島県	鼻の下が長い
8000	67	福島県	鼻の中にできもできと隣の赤ちゃんが生まれる花より団子

No	作業No	都道府県	ことわざ
8001	67	福島県	跳ねる馬は百まで跳ねる
8002	67	福島県	早起きは三文の徳、長寝は三角の損
8003	67	福島県	張り子の虎
8004	67	福島県	斜ひから棒の風
8005	67	福島県	斜ほどの事を棒ほどに言う
8006	67	福島県	坂下のばか三里
8007	67	福島県	警棒もり
8008	67	福島県	扇風の引き転ばし
8009	67	福島県	病入に草むくは畑に草をはやす
8010	67	福島県	びつこの駆け足
8011	67	福島県	びつこの河漢
8012	67	福島県	人を見て法を説け
8013	67	福島県	人には添ってみよ馬には乗ってみよ
8014	67	福島県	人の一寸我が一尺
8015	67	福島県	人の噂も七十五日
8016	67	福島県	人の座敷には二度叩いて座れ
8017	67	福島県	人の尻馬に乗る
8018	67	福島県	人のふんどしで相撲をとる
8019	67	福島県	人は善悪の友による
8020	67	福島県	人の振り見て我振り直せ
8021	67	福島県	人は一代名は未代
8022	67	福島県	人の口には戸を立てられぬ
8023	67	福島県	一言言えば一言返
8024	67	福島県	火のない所に煙は立たない
8025	67	福島県	一族あげ
8026	67	福島県	松原音ばかり
8027	67	福島県	冷やし水で手を焼く
8028	67	福島県	病入に草むくは死の義兆
8029	67	福島県	病入の者の子沢山
8030	67	福島県	貧乏暇なし
8031	67	福島県	百姓の青田ほめ
8032	67	福島県	夫婦けんかは大で食わぬ
8033	67	福島県	藤の花咲いたら豆をまけ
8034	67	福島県	豚に食珠
8035	67	福島県	一人口は過ごせるが、一人口は過ごせぬ
8036	67	福島県	古物半値
8037	67	福島県	平氣の平左衛門
8038	67	福島県	へそで茶をわかず
8039	67	福島県	下手の長談義
8040	67	福島県	下手の長文句
8041	67	福島県	下手の種好き
8042	67	福島県	下手も習え上手となる
8043	67	福島県	蛇の夢を見れば金が入る
8044	67	福島県	帯を跨げば離産する
8045	67	福島県	坊主たませば七代衆る
8046	67	福島県	坊主掛けりや要袋まで惜い
8047	67	福島県	坊主の丸もうけ
8048	67	福島県	棒ほど願って針ほどかなう
8049	67	福島県	仏の顔も三度
8050	67	福島県	骨折損のくたびれもうけ
8051	67	福島県	寒気災の夜寒
8052	67	福島県	惚れしてまえばあたまえくぼ
8053	67	福島県	盆と正月 緒に来る
8054	67	福島県	時かぬ種は生えぬ
8055	67	福島県	負けるが勝ち
8056	67	福島県	馬子にも衣裳
8057	67	福島県	間違いと気狂いは世にありごと
8058	67	福島県	待つうちが花
8059	67	福島県	継母の朝笑い
8060	67	福島県	豆で達者い
8061	67	福島県	真綿一首をしめる
8062	67	福島県	まんまつぶこぼすとめくらになる
8063	67	福島県	身から出た錆
8064	67	福島県	味方年敵千人
8065	67	福島県	身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ
8066	67	福島県	三日坊主
8067	67	福島県	三つ子の魂百まで
8068	67	福島県	耳をふさいで鈴を盗む
8069	67	福島県	耳鳴りするときは知人が死ぬ
8070	67	福島県	蜘蛛に八使はかみ織る
8071	67	福島県	見るは法楽聞くは道楽
8072	67	福島県	見るも聞くもない
8073	67	福島県	妻は十七刈れ
8074	67	福島県	婿は産敷から嫁は台所から
8075	67	福島県	婿は産敷から貰い、嫁はにわから貰い
8076	67	福島県	婿は産敷から貰い、嫁はにわから貰い
8077	67	福島県	胸が広い征れば尻が詰まる
8078	67	福島県	胸に手を組んで寝ると悪い夢を見る
8079	67	福島県	昔は審今は今
8080	67	福島県	名所に名物なし
8081	67	福島県	めくららの垣のぞき
8082	67	福島県	めくららの垣のぞき
8083	67	福島県	めくらら蛇におそれず
8084	67	福島県	飯粒と理つくほどににでもつく
8085	67	福島県	目の正月
8086	67	福島県	めんどりがときをつくる家はほろびる
8087	67	福島県	持たが因果
8088	67	福島県	元大に勝る妻木なし
8089	67	福島県	元のさやにおさまる
8090	67	福島県	ものはためし
8091	67	福島県	物は申してみる
8092	67	福島県	餅食って寝ない馬鹿はない
8093	67	福島県	桃栗二年柿八年、柚子のばか野郎十八年
8094	67	福島県	門前の小僧習わぬ経を読む
8095	67	福島県	安物買いの銭失い
8096	67	福島県	焼きばつくり火がついた
8097	67	福島県	焼けての火の用心
8098	67	福島県	やけのやんばち
8099	67	福島県	柳舞の舞台から落っちやつもりで
8100	67	福島県	柳の下にいつて泥鰌はおらぬ
8101	67	福島県	藪から棒
8102	67	福島県	藪は口より入る
8103	67	福島県	山に迷ったら峯伝えに歩け
8104	67	福島県	やみの夜にも高い物を買え
8105	67	福島県	夕紅にみの脱げ
8106	67	福島県	夕紅に鎌をどげ
8107	67	福島県	湯をわかつて水にする
8108	67	福島県	行きがけの駄賃
8109	67	福島県	油断大敵
8110	67	福島県	湯瓶も時
8111	67	福島県	良い相撲は後から出る
8112	67	福島県	貧富取るとも者代かくな
8113	67	福島県	用心に怪我なし
8114	67	福島県	欲と相談
8115	67	福島県	欲には目がない
8116	67	福島県	世の中は九分で十分
8117	67	福島県	嫁は娘のなりしがら
8118	67	福島県	嫁は娘のなりしがら
8119	67	福島県	寄らば大樹の陰
8120	67	福島県	夜口笛を吹くと泥棒がくる
8121	67	福島県	夜口笛をふくとへびがくる
8122	67	福島県	夜爪を切ると鶴の死に目に見える
8123	67	福島県	夜爪を切ると早死にする
8124	67	福島県	夜の刺中に入る
8125	67	福島県	夜の豆は七里戻っても食へ
8126	67	福島県	弱い馬道急ぐ
8127	67	福島県	弱り目に祭り目
8128	67	福島県	来年の事を言うとは鬼が笑う
8129	67	福島県	来ればは告り
8130	67	福島県	来ればは告り
8131	67	福島県	理屈と言葉はどこきでもくつつく
8132	67	福島県	両手に花
8133	67	福島県	良薬は口に苦し
8134	67	福島県	類は類を呼ぶ
8135	67	福島県	留守居の戸探し
8136	67	福島県	六の手習い
8137	67	福島県	論より証拠

No	作業No	都道府県	ことわざ
8138	67	福島県	我が田に水を引く
8139	67	福島県	我が身をたぬって人の痛さを知れ
8140	67	福島県	わざわいは口から
8141	67	福島県	割った茶碗を縫いでみる
8142	67	福島県	朝啄木鳥の鳴く時は雨である
8143	67	福島県	あさけのでっぱり、晚げの夕焼け
8144	67	福島県	朝虹が近つと吹っかけとなる
8145	67	福島県	朝虹は雨天のしるし、夕虹は明日晴れのしるしなり
8146	67	福島県	朝窓は雨のしるし
8147	67	福島県	雨が夜晴れば、晴天続かず近いうちにまた雨という
8148	67	福島県	雨の多い年は田畑ともに作が悪い
8149	67	福島県	飯巻山に初めて雪降り、それより四十八日目に若松の地に雪降る
8150	67	福島県	幾日も天気が凝くと地震がくる
8151	67	福島県	私たちの出る日は雨がふる
8152	67	福島県	うろこ雲が出ると、次の日は雨か風になる
8153	67	福島県	越後の馬鹿雪
8154	67	福島県	大雪は豊作の兆
8155	67	福島県	大雪降りつもる時は、翌年に早魃になる
8156	67	福島県	甲子の日照りは五十日続く、もし雨ならばその反対
8157	67	福島県	早魃の年は田作はほぼ大吉、畑作はやや不作
8158	67	福島県	寒明きより三十日目に降る雪は根雪となる
8159	67	福島県	釜底に火がつくと明日は晴れ
8160	67	福島県	霧の深い朝は晴となる
8161	67	福島県	子供が大勢でさわぐときは天気が変わるという
8162	67	福島県	二寒四風
8163	67	福島県	霜の多い朝は晴
8164	67	福島県	煤がぼつたと落ちると雨が近い
8165	67	福島県	青山に雪を見れば、その年雪薄し
8166	67	福島県	赤飯にお汁をかけると、嫁に行くとき雨となる
8167	67	福島県	節分の豆を十二箇あぶり、黒こげになると雨、その反対のときは晴
8168	67	福島県	太陽が雲をかすと雨になる
8169	67	福島県	太陽が白晝をかぶれば百日の旱なり
8170	67	福島県	近山に三度雪降りて後に若松に雪が降る
8171	67	福島県	つばめが低く飛べば明日は雨
8172	67	福島県	遠くで気笛が聞けつと雨になる
8173	67	福島県	とびが鳴けば風がでる
8174	67	福島県	土用丑の日から秋風が吹く
8175	67	福島県	土用次郎に寒太郎
8176	67	福島県	とんびが飛んで明日の風
8177	67	福島県	なまあつたかい風が吹くと磐梯山が噴火する
8178	67	福島県	なつめの木の葉が出ると霧が降りない
8179	67	福島県	鐘巻の燃えるのは風のしるし
8180	67	福島県	夏に大早魃の年は秋に霧の降ることが少ない
8181	67	福島県	鶏が夕方遅くまで餌を拾ってなかなかに鳥屋に入らぬ時は、明日は雨になる
8182	67	福島県	鶴高所に登りて鳴けば、その日の天気よし
8183	67	福島県	猫が耳まで足をあげて顔をこすると天気よし
8184	67	福島県	猫が顔を洗うと晴れになる
8185	67	福島県	猫が耳より下で顔をこすると雨が降る
8186	67	福島県	のみやしらみを火にくべて音を立てれば、明日は晴
8187	67	福島県	八九月のころ、水蟻多く出るのは洪水の前兆
8188	67	福島県	春の初雷にてその年の豊凶がわかる
8189	67	福島県	春雲の消え痕がそのまま乾わく年は諸作がよく、乾燥不良の年は諸作がよくない
8190	67	福島県	磐梯山が寝っこみすると雨
8191	67	福島県	磐梯山が近く見えると雨になる
8192	67	福島県	磐梯の雲に二度雪が降ると里にも雪が降る
8193	67	福島県	磐梯山に雲がかかってくると雨がふる
8194	67	福島県	初霜に雨天伴う時は霜ごとに雨降る
8195	67	福島県	羽蟻が飛ぶと天気が変わる
8196	67	福島県	半夏半作
8197	67	福島県	磐梯山の雲があがると晴天になる
8198	67	福島県	日が曇をかぶると雨が降るといふ
8199	67	福島県	松原かみなり音ばかり
8200	67	福島県	ふくろうが鳴けば明日は晴れる
8201	67	福島県	山から里に熊がくると、いつもより早く雪が降る
8202	67	福島県	夕方子供が騒ぐ時は、明日は雨となる
8203	67	福島県	夕鳩裏のけ、朝鳩裏着る
8204	67	福島県	夕日隠れば明日は曇りとなる
8205	67	福島県	夕焼すると明日は晴れ
8206	67	福島県	ゆき虫出つと雪が消える
8207	67	福島県	夜空の雲が蛇腹型になると、雨が降るといふ 以上

おわりに ー 恩師の背中 ー

山田 千香子

「親の背中」という言葉がある。「子どもは親の背中を見て育つ」ということわざである。このことわざは、子どもは親の言葉からだけでなく、毎日の生活の中で、子どもは意識することなく、親からさまざまなことを吸収していくことを指し、どちらかという、子どもは親の言う通りではなく、親のする通りに育つことを意味している内容でもある。私にとっての穴田先生の存在は恩師の背中であり、まさに研究における指針という意味を成している。

恩師である穴田先生との出会いは、修士課程受験の前であった。文化人類学の祖父江孝男先生と行政学の中邨章先生のお二人から、穴田先生をご紹介頂き、受験のお許しを得るために研究室に伺ったのが初めてお会いした時である。社会人受験がまだ少なかった当時、快くお返事を頂くことが出来、受験を経て穴田先生の修士課程の院生となることが出来た。1990年のことである。それ以来多くの教えを頂いた。恩師の背中を見てきたという思いが強い。それから32年。先生は早くに旅立たれてしまった。残念な思いでいっぱいである。

博士課程はお茶の水女子大学へ進学したが、先生の主宰する「日本社会・文化研究会」に創設当初からメンバーとして入れて頂いた。そこでの定期的な研究会や定期出版は思考を深める良い機会であり、それと同時に研究業績も積むことが出来た。博士学位を取得後、初めて専任の仕事を得て着任したのが長崎県立大学である。着任にあたって頂いた先生からの「はなむけ」の言葉は今でも大事にしている。「大学人の仕事には3つの柱がある。一つ目は自分自身の研究を深めること。二つ目は教育である。三つ目は学内（組織）業務に勤しむことである。（※現在は四つ目の柱として地域貢献を加えている）。以上について、三つのバランスを取りながら優先順位を決めてこなしていくことが大事である」と。さらに「研究はそこ（長崎）でしかできないテーマがあるはずだから、新たに見つけ取り組むこと」。その言葉から何が出来るか考え抜いた。その結果、現在まで継続している「しま（五島列島）の調査と研究」がある。教育については「しまの研究」から、しまをフィールドワークとしたゼミ教育に力を注ぎ、自分なりの教育の独自性を編み出していった。長崎での17年間の教育成果は卒業生が社会でそれぞれ立派に体現してくれている姿に見ることができると自

負している。現在でもこの三つの視点から客観的に自己を投影させ、自分自身の在り方と位置確認をしている。穴田先生のこの教えは大きな力となっている。

なお、順番が後先になってしまったが、博士論文のテーマの際にヒントとフィールドとなる地域を紹介してくださったのも、穴田先生であった。私自身の研究テーマは日系人を事例とした文化変容研究である。当初アメリカへの日本人移民研究からスタートしたが、より研究方法の精緻さを求めるために、集団での移民送出地や移住先でも同様に集団でまとまっている等の特色を持つことを求めて、多くの移民の送り出し地域を当たった。最終的に穴田先生のご紹介で和歌山県の移民母村に辿り着いたのである。そこから、カナダへの日本人移民調査研究が始まり、現在に至っている。長崎に赴任してからも、年に数回研究会でお目にかかり、他の先生方からも多くの示唆を頂けたのは良い刺激となっていた。

最後に、長崎県立大学を定年退職した後の職場として現在所属している聖徳大学の仕事につないでくださったのも穴田先生であった。退職を迎える年の夏にことネットの長野調査に参加させていただいた。その時、退職後のことを相談した際に、穴田先生のネットワークに私の情報を流してくださり、そこから秋には履歴書や業績書の提出に至っている。

これまでを振り返り、改めて人生のターニングポイントで、大変お世話になってきたことを確認している。穴田先生は誰に対しても真摯に向き合い、いろいろな知識や情報を惜しみなく提供して下さる恩師であった。もちろん、厳しい姿勢も示される時もあったが、それは当然と納得のゆくものであった。

フランスの小説家・詩人のルイ・アラゴンの「ストラスブール大学の歌」という詩の中に、

「教えるとは、希望を語ること。

学ぶとは、誠実を胸にきざむこと」

という一節がある。

穴田先生の姿も同様であったと感じている。研究への「姿勢」、教育への「姿勢」は、恩師の背中より知らず知らずのうちに学んできたように思う。

改めて、穴田義孝先生の御霊に合掌。

編集後記

中尾 暢見

ことネットの皆さまは普段、大学教員なり企業組織人として本業がありご多忙な方が殆どです。穴田理事長の訃報は突然でしたが、追悼文集の原稿依頼も急なことでした。当初は原稿締切を2023年1月末としており、その時点で多くの方がご寄稿済でした。他方で本業等にご多忙な方々がおられ、原稿をお待ちすることにしました。早くに公開するよりも穴田先生とご縁を深めてこられた方全員が揃うことを優先しました。そうこうしているうちに4月の新年度に入り自分自身の多忙さゆえに編集活動がストップしてしまい1周忌に間に合わなくなってしまいまして、楽しみに待って下さっている方々にはご心配をおかけして恐縮至極でございます。

もう1つの予定外な出来事は、穴田ゼミの若い世代の方々とコンタクトが取れなかったことです。**若い世代の穴田ゼミ卒業生の方々**とは、穴田先生との会合の折に何度もお目にかかる機会がございました。それにもかかわらず私は彼（女）らの氏名と連絡先を聞いていなかった（初対面の方に個人情報をお伺いするのは躊躇われた）ために訃報連絡も今回の追悼文集の件でも、連絡を取りたいと考えましたが叶いませんでした。自分の能天気さを恨めしく感じました。会って話していたにもかかわらず連絡を差し上げることができなかった卒業生の皆さま、申し訳ございませんでした。ことネットHP経由で連絡を下さい、そして追悼文集原稿をご寄稿下さい。第2版、第3版として更新致します。

この追悼文集では、以下に挙げる5点が基軸となっています。

- (1) ことわざ講座
- (2) ことわざ教科書
- (3) ことわざコラム
- (4) ことわざリスト
- (5) ことネットの運営

(1) ことわざ講座

リバティアカデミー講座の活動紹介では、**明治大学のリバティアカデミー講座事務局様**とも連絡をとり掲載許可を頂きました。講師の先生方には、貴重な講義資料を御提供頂きました。大田朋子先生、立柳聡先生、中畑充弘先生、藤村美織先生、山田千香子先生、ありがとうございました。

川島洋先生には、リバティアカデミー講座もご担当頂いているのですが、依頼する内容

が多すぎるために、ことわざ市民講座の原稿をご提供頂きました。大変な分量にもかかわらず1つ1つ精緻な作業を重ねたうえでご提供下さったことに深謝申し上げます。

この御提供行為は普通ではあり得ないことでして先生方との特別な信頼関係と追悼文集趣旨への賛同を得て、ご厚意で成り立っているものなので無断転用禁止ですが穴田先生がことネットの活動を通して遂行しようとしていた社会貢献活動の内容を記録として残し、そして皆さまにも知って頂ける貴重な機会になったと存じます。先生方へ感謝、感謝です。

(2) ことわざ教科書

穴田先生が是非ともやるのだと常々仰っていたのが、ことわざ教科書の刊行でした。穴田先生は会合で「中学生が読んで分かる書き方をしないとダメなんだ。大学の授業も同じだよ。専門内容を専門用語を使わないで大学1年生に理解できるようにきちんと解説できるのは、熟達した専門家しかできないからね。そのレベルまでなりなさい。ことわざ教科書も子どもからお年寄りまで、誰が読んでも楽しめる内容でないと意味がないんだよ。出来たらベストセラーだね(笑)」と自信たっぷりに満面の笑顔で仰っていました。社会科学系の学問領域では、研究成果が表に出るまでには莫大な下準備作業を重ねているのが常です。普通の人々は大学の夏休みや春休み、年末年始の長期休暇期間には旅行なり休息なりを予定される方が多いですが、我らチームでは「さあ、研究を始めるぞ。夏休みは**県へ調査へ行くぞ」とか「**の作業をする」などと言った研究の予定を立てる方ばかりです。ことネット会合もだいたいはこの3つの休暇期間に合わせて設定をして動くサイクルでした。長い時間をかけて1つ1つ研究作業を進めている最中でした。

創作ことわざ授業にしても最も忠実に実行されてきたのは川島洋先生です。穴田先生の意図を最も身近にいて深く理解しておられるのも川島先生です。穴田先生のやり残した箇所を描けるのは川島先生しかおりませんので、私は慎重に頼み込みました。今迄どれほど長い年月をかけて準備を重ねてきたことなのか、しかもまだ途中経過段階で穴田先生ですら出せていないものを「出して」ということが、どれほど無謀な申し出をしているのかも承知のうえでのお願いでした。川島先生は考えて「ちょっと時間が要るけど、頭の中にはあるよね」というお返事で快諾して下さいました。それが第4章です。穴田先生の息づかいが伝わるような感動の共著となっていますね。

川島先生には、穴田先生のご体調が優れずに予定していた講座講師担当ができなくなり、代講を立てる際にもいつも快く引き受けて下さり、円満円滑に進めることができました。穴田先生と同じことわざ社会心理学で講義ができるのも川島先生だけです。数々のフィールドワークにおいても川島先生の機動力があってこそのことネット活動実績でした。簡単にやっているように見えて実は高度ゆえ誰にも模倣しようにもできないような方がおられたからこそその鉄壁のガバナンスを実現できていたと言えましょう。

(3) ことわざコラム

穴田先生が次または近い将来に絶対にやると仰っていたのがことわざコラムでした。刊行本の中でことネット会員および卒業生の方々にコラムをご執筆頂く計画でした。計画では既に長野調査の成果本が刊行されている頃でしたが、コロナ禍で現地での聞き取り調査が延期された状態が続いておりました。最近、現地での聞き取り調査を再開させていますが、その成果の図書を刊行する計画でおりました。

卒業生の方々は「私は研究者でもないし一般人だからそんな原稿を書くなど・・・」と異口同音にご謙遜されるのですが、穴田先生は日常生活の中で人生の中での印象に残る出来事を文字として記していくとその中にことわざが入っていて、創作ことわざにつながるから、コラムを書いて頂くことに意味があるという考え方でした。

2017年刊行の『ことわざを楽しく学ぼう、社会・文化・人生』の中では、15本のコラムを掲載することができます。穴田先生がお一人ずつ連絡をとり、コラム原稿をお願いさせて頂いた実績がございます。

今回は、ことわざの冠を外して、ただただ穴田先生への追悼コラムということでお願いをさせて頂きましたがことわざが随所にみられます。編集では後から内容または穴田先生との関係性から順番を入れ替えようと考えておりましたが、コラム原稿の御提出順の掲載と致しました。その方が、いつもの雰囲気があると判断したからです。

大田朋子様、増田克己様、衣山英俊様、山下信也様、藤里郁夫様、高田誠一様、塩谷尚正様、竹本純一郎様、遠井雄史様、藤村美織様、川島洋様、中畑充弘様、立柳聡様、柴田耕一郎様、近藤美保様、ありがとうございました。今回は私を窓口として連絡をさせて頂きました。穴田先生とのご縁も昔からよく存じておりますが、個人情報流れすぎるといけないので詳細は記しませんが、ご厚誼に厚く御礼申し上げます。

三福寺のご住職夫妻様と穴田先生との長い交流については、第7章にございます。櫻井様からは、玉稿に加えて穴田ゼミ合宿と長野調査メンバーがお世話になった時のお料理の御献立表もご提供頂きました。手書きのものを私が入力し直そうかとも考えたのですが、そのままスキャンして掲載することにしました。通常の公刊図書ならば入力するに決まっていますが、私は手書きメモからの方が配慮や溢れる愛情を読み取れると考えて手書きのまま掲載することにしました。

穴田先生は長野調査が始まる前から「中尾さんにね、ご住職ご夫妻を紹介したいんだよ。今度、川島さんと一緒に3人で長野へ行こう」と何度も繰り返しお誘いを頂いておりましたが、私の家庭事情により一度も叶いませんでした。そのご住職の櫻井様と妻の幸子様と今回の原稿依頼の件で交流することが叶いました。交流から分かったことは、穴田先生とご夫妻との長く深く築いてこられた絶対的な信頼関係でした。

穴田ゼミ合宿の時は近隣のお寺、檀家さんたちから大量の差し入れがあったそうです。そこまで地域で大歓迎を受けるほどの信頼関係を築いてきたからこそ、今回の立柳聡理事が主導されております長野調査でも地域住民の方々が調査に協力して下さるわけです。その調整をして下さってきたのが櫻井ご夫妻様です。櫻井ご夫妻は食に精通されておられます。長野の食文化とことわざ調査を藤村美織理事が現在も継続中で、今後も生まれる新たな研究成果が楽しみです。ご支援賜った櫻井勲山様、幸子様、地域の方々へ厚く御礼申し上げます。

(4) ことわざリスト

穴田先生が私へことわざ資料を託した意味は、1つには膨大な資料を統計分析が可能になるようテキスト化して、データ分析をするための基礎資料を整えるためです。2つにはその次の段階として、そのデータを使ってことわざデータを計量分析して再現性を保つことによって社会科学としてことわざ研究は実現可能なのだ、ことわざ研究は社会科学として学問として成立するのだということを示す目的でした。

ことわざと科学なんて水と油、絶対にできないよ、あり得ないと、穴田先生も私も何度も言われてきました。誰もできると思っていないこと、無理と言われるジャンルをガンガンと突き進み開拓していく穴田先生の開拓者精神が私は大好きで尊敬してきました。

小菅村調査の実績が示す通り、既に「ことわざと科学」という視点は、今では当たり前のごとく使われる視点になっていることを嬉しく存じますが、小菅村調査とは別枠で同時並行で進めている穴田先生が発掘した資料のテキスト分析による実証研究はこれからです。ここはたぶん専門社会調査士である私が適任そうですから埋蔵死蔵させることなく活用して参ります。

皆さまにおかれましても穴田先生が残して下さった財産としてどうぞご活用下さい。

(5) ことネットの運営

ことネットの役割分担については、内部者は皆さんがご存知の通りです。セキュリティ対策の観点から会計、ホームページ、Facebook等の担当者名の公表は控えますが、その方々のご尽力なくして運営することは叶いませんでした。ありがとうございました。

①ことネットのお写真

本稿の随所にみられる表紙を含めたお写真は、柴田耕一郎様からご提供頂いたものです。柴田様は撮影のプロの御方で、穴田理事長の最終講義やパーティにおいては専門機材を導入して撮影をして下さいました。私は穴田先生と調査で一緒させて頂くことが多くあり、ことネットのホームページや刊行本でも使用する可能性のある写真を意識的に撮影して参

りました。しかし私の写真は周知の通り天然モザイク状態ゆえ可能な限り他者様へ撮影依頼をしたりご提供をお願いして参りました。柴田様のお写真はプロ技とはいえ、素人目に観てもいつも「美しい」。構図、画質だけでなく、穴田先生がみせる厳しさの中にあるお優しいお人柄までを精確に映し出しています。穴田先生も頂戴したお写真を目を細めてご覧になっておられました。表紙と1頁のお写真は穴田先生ご自身が「これがいい」と仰っていたものです。写真をご提供下さりこころより感謝申し上げます。

肖像権につきましては、穴田先生ご夫妻のお写真掲載の許可をご家族様より頂戴しております。ありがとうございます。

②カラーを多用した編集方針

図書刊行の場合、写真が多くなると印刷コストが嵩むため敬遠されますが、今回は出版社を通さないと決めていたので自由なスタイルで構成できました。カラーイラストも沢山入れられたので見やすくなっています。

皆さまには事前に思い出のお写真も入れて下さいとお願いさせて頂いたので、懐かしいお写真を共有させて頂く機会にも恵まれました。阿吽の呼吸で集まり集合体としての雰囲気は何ともいえぬ温かさを醸し出していして嬉しい限りです。ご厚意に感謝しております。

③文集作成にかかる経費はゼロ

本文集は公開に至るまでの過程で経費は一切かかっておりません。これだけの知力、労力が躍動しているにもかかわらず、ことネットの活動はすべてが自発的な行動によるものです。原稿執筆料も出ませんので大変恐縮ではございますが、ことネットでは、いつも個々の余力部分だけで活動しているため、今迄の調査にかかる経費もすべて自腹です。

余力だけで300頁を超える文集が出来てしまうのは、原稿を書く側も編集する側にとっても凄いことだと考えております。皆さまの温かいお気持ちのおかげです。重ねて御礼申し上げます。

資金繰りについては、ご心配される方々がおられますので触れておきますと、ことネットの設立当初より、穴田先生には内緒でと私にだけそっと「運営の資金繰りで困ったら、私に相談して下さい。資金提供をしますから」と実は何人もの方からお声かけを頂いておりました。涙が出そうなほど穴田先生への深い御気持ちと信頼関係が伝わりました。穴田先生には内緒でということでしたから本当に一言もお伝えしませんでした。でも裏からそっと支援してあげましょうという社会人卒業生の方々の懐の深さ、穴田先生との信頼関係の厚さ、社会でキラキラと輝くようにご活躍で自信のある御姿と行動力に触れて、おかげさまで心配事もなく安心して活動に専念することができたのも、そういう穴田ゼミ生の方々がメンバーであったからです。ここでも阿吽の呼吸でした。幸い、ヘルプカードは1

回も使っておりませんのでご安心下さい。それでも人的支援は沢山賜りました。

④ことネットの解散手続き

ことネットは換言すれば穴田軍、穴田組、穴田一派とも言えましょう。穴田先生なくして組織を存続させるという選択肢はございません。外部より別理事長を立てて組織存続をというお話もございましたが、誰一人として賛同する声を聞きませんでした。穴田先生以外のどなたが指揮をとれるのでしょうか。穴田先生が構築してきたこの信頼関係のネットワークを別人が引き継げるものではございません。NPO 法人なので組織としては解散するという手続きを取りますが、皆さまは個別に穴田先生の御霊と交流を継続させて前進されることでしょうか。前進し続けた結果は、穴田先生と同じく自分自身も旅立つことになるので、そうしたらその時に穴田先生と再び顔をみてお話できる機会が訪れますので「やり残したまま来ちゃダメだよ」と言われないように前進すること、生きて行くことが大切です。残りの人生、楽しみでしかありません。皆さま、スタンスは「攻め」のままですよ。穴田先生は「守り」に入ったり学ぶ姿勢を止めたり他人の禰で相撲を取るようなマネをしたらもうおしまいだと仰っていました。解散しても「攻め」スタンスで参りましょう。

NPO 法人の解散手続きにあたっては、穴田ゼミ出身で税理士の中でもプロ中のプロである**北山雅也理事（解散手続き段階の理事長）**に頼りっきりです。北山様はご多忙な中、ボランティアで手続きに奔走して下さいました。北山様は穴田ゼミ出身の**司法書士鈴木様**と連携をとりながら手続きを進めて下さっております。北山様のおかげですべてを綺麗にスムーズに収めることが叶いました。本当にどうもありがとうございます。

ことネットの所在地は、最初は明治大学の穴田研究室からスタートしましたが、退職に伴い明治大学の**井田正道先生**の研究室へと移行させて頂きましたこと重ねて御礼申し上げます。解散手続きにあたり、最終的には司法書士鈴木様の事務所へ移し、理事長は北山雅也様が引き受けてクローズする手続きをして下さっております。

この穴田先生の追悼文集が最後のことネット事業となります。ありがとうございました。皆さまの温かいお気持ちで結集した追悼文集を皆で穴田先生へ贈れる幸せで一杯です。

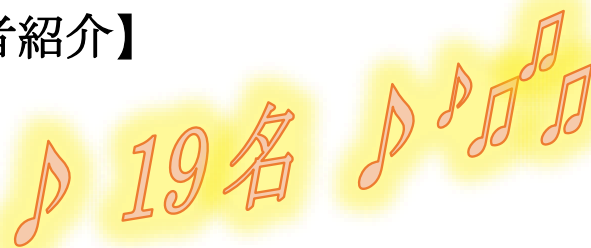
長野調査は**三福寺の櫻井ご夫妻様**のご支援を賜りながら、現在も継続されております。NPO としての組織はここでクローズさせますが、穴田先生の遺志を引継ぎ夢を叶えて参ります。個別の交流はもちろん継続されますし、穴田先生関係の連絡は今後も中尾より連絡をさせて頂きます。末永くよろしくお願ひ申し上げます。

皆さま同士の交流が末永く続くことを願っております。

共に支えて下さった皆さまに穴田先生のメッセンジャーとして感謝申し上げます。

以上

【執筆者紹介】



・氏名（ふりがな）

- ①現職
- ②生年、出身地（都道府県）
- ③最終学歴
- ④穴田理事長との関係（ゼミ出身等）
- ⑤その他

1. 大田 朋子（おおた ともこ）

- ①（学）国際総合学園 看護師養成校、栄養士養成学科等講師
郷土史・方言研究講師等
- ②非公開（笑）
- ③事業創造大学院大学 経営管理修士課程 MBA 修了

2. 川島 洋（かわしま ひろし）

- ①大月短期大学兼任講師、ESP 学園 音楽専門学校 ESP エンタテインメント
講師
- ②1970 年生まれ、東京都出身
- ③明治大学大学院 政治経済学研究科 政治学専攻修了
- ⑤ギタリスト

3. 近藤 美保（こんどう みほ）

- ①会社員
- ②1964 年生まれ、山梨県出身
- ③明治大学 政治経済学部卒
- ④穴田ゼミ 1987 年卒

4. 櫻井 勲山（さくらい くんざん）

- ①三福寺住職
- ②1950 年生まれ、東京都出身
- ③大正大学卒

5. 櫻井 幸子（さくらい ゆきこ）

- ①三福寺
- ②1949 年生まれ、長野県出身

6. 塩谷 尚正（しおたに たかまさ）

- ①梅花女子大学 准教授
- ②1978 年生まれ、大阪府出身
- ③関西大学大学院 社会学研究科 博士課程後期課程
- ④穴田ゼミ 2002 年卒

7. 柴田 耕一郎（しばた こういちろう）

- ①会社員 / 中小企業診断士
- ②1976 年生、佐賀県出身
- ③法政大学大学院 イノベーション・マネジメント研究科
MBA 特別プログラム
- ④穴田ゼミ 2000 年卒業

8. 衣山 英俊（きぬやま ひでとし）

- ①会社員
- ②1962 年生まれ、東京都出身
- ③明治大学 政経学部卒
- ④穴田ゼミ 1986 年卒（4 期生）

9. 高田 誠一（たかだ せいいち）

- ①ウォルトディズニーアトラクションズ株式会社勤務
- ②1962 年生まれ、京都府出身
- ③明治大学 政経二部卒
- ④穴田ゼミ 1988 卒

10. 竹本 純一郎（たけもと じゅんいちろう）

- ①国際紙パルプ商事
- ②1977 年生まれ、岡山県出身
- ③明治大学 政治経済学部
- ④穴田ゼミ 2002 年卒

11. 立柳 聡（たちやなぎ さとし）

- ①福島県立医科大学 准教授
- ②1959 年生まれ、東京都出身
- ③東洋大学大学院 社会学研究科 社会学専攻 博士後期課程修了
博士（社会学）
- ④穴田先生が明治大学の大学院で指導された最初の院生の一人。
その後も何冊となく一緒に本を編み、社会調査にもまた。
それらを踏まえた多くの思い出を共有させていただいています。

12. 遠井 雄史（とおい ゆうし）

- ①FIRE
- ②1964 年生まれ、東京都文京区出身
- ③明治大学 政治経済学部 経済学科 1989 年卒
- ④穴田ゼミ 第 4 期副ゼミ長 1989 年 3 月卒

13. 中尾 暢見（なかお のぶみ）

- ①日本大学 非常勤講師
- ②1969 年生まれ、東京都出身
- ③日本大学大学院 文学研究科 社会学専攻 博士後期課程満期退学、
明治大学大学院 政治経済学研究科 論文博士（政治学）
- ④穴田理事長が博士論文の指導教授

14. 中畑充弘（なかはた みつひろ）

- ①明治大学 兼任講師
- ②1971 年生まれ、東京都出身
- ③明治大学大学院 政治経済学研究科 博士後期課程修了
博士（政治学）
- ④修士課程在籍時に穴田先生の「社会学研究Ⅱ」を受講

15. 増田 克己（ますだ かつみ）

- ①会社員
- ②1965 年生まれ、東京都出身
- ③明治大学 政治経済部 経済学科卒
- ④穴田ゼミ 1988 年卒

16. 藤里 郁夫（ふじさと いくお）

- ①会社員
- ②1964 年生まれ、山口県出身
- ③明治大学 政治経済学部 政治学科卒
- ④穴田ゼミ 1988 年卒（4 期生）

17. 藤村 美織（ふじむら みおり）

- ①ドイツ語翻訳
- ②1958 年生まれ、東京都出身
- ③学習院大学 文学部 ドイツ文学科

18. 山下 信也（やました しんや）

- ①無職（元学校法人職員）
- ②1958 年生まれ、北海道出身
- ③明治大学大学院 経営学研究科 博士前期課程修了
- ④学部と大学院の選択授業にて、ご指導いただきました

19. 山田 千香子（やまだ ちかこ）

- ①聖徳大学心理・福祉学部 教授
学長補佐、社会福祉学科長
- ②茨城県出身
- ③お茶の水女子大学大学院 博士後期課程（人間文化研究科）修了
学術博士（文化人類学）
- ④明治大学大学院 政治経済学研究科 博士前期課程修了（穴田先生指導教授）



発行日：2023年9月10日 第1版

♪9月10日は「9こ・10と・の日」、言の日、事の日です。

2023年9月12日 第2版

発 行：NPO 法人郷土のことわざネットワーク・ことネット

編 集：中尾暢見

NPO ことネット

事務局：明治大学政治経済学部井田正道研究室

理事長：穴田義孝〔2022年7月20日ご逝去〕

監 事：山田千香子

理 事：大田朋子、川島洋、北山雅也、塩谷尚正、新郷由起、立柳聡、

遠井雄史、中尾暢見、中畑充弘、藤村美織（10名）

備 考：上記は解散手続きに入る前までの構成である。

